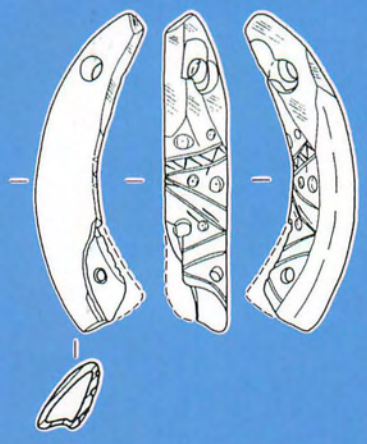
熊本県文化財調査報告第166集

# 黒橋貝塚

－浜戸川中小河川改良事業に伴う埋蔵文化財の調査－



1998．3

熊本県教育委員会

# 黒橋貝塚（くろばし）

ー熊本県下益城郡城南町下宮地字外田所在の遺跡ー

1998．3

熊本県教育委員会

# 序　　文

熊本県教育委員会では、浜戸川中小河川改良工事に伴い、平成元年から平成３年まで、熊本県下益城郡城南町大字下宮地字外田に所在する黒橋貝塚の発掘調査を実施しました。

この黒橋貝塚は、九州を代表する縄文時代中・後期の貝塚で、その重要性から隣接する阿高貝塚と共に、昭和55年に「阿高・黒橋貝塚」として国の史跡に指定されております。

今回の発掘調査の対象地は、浜戸川に中洲として残っていた史跡指定地以外の部分で、小面積の発掘調査にもかかわらず膨大な量の遺物が出土したため、その整理作業には多くの期間を必要としました。

発掘調査から報告書作成に至るまで、熊本県土木部河川課や地元の方々には多大なご協力とご理解を頂き、また専門調査員の先生方には種々のご指導を頂き、ここに本書を刊行することができました。心から感謝を申し上げます。

出土した資料は、縄文時代の生活を彷彿とさせるばかりでなく、日本各地や広く大陸との交流を物語るものも含まれております。本書が学術的研究のみならず、広く皆様に活用され、文化財愛護思想の普及に役立つことを願ってやみません。

平成10年３月31日

熊本県教育長　　松　尾　隆　樹

# 例　　言

1．この報告書は、昭和63年度から平成３年度まで熊本県教育委員会が熊本県土木部河川課の委託を受けて実施した浜戸川中小河川改良事業に伴う埋蔵文化財「黒橋貝塚」の発掘調査の記録である。

2．黒橋貝塚のうち調査したのは、熊本県下益城郡城南町下宮地字外田に所在する浜戸川河川敷の部分である。

3．現地調査は、野田拓治・勝又俊一・宮川聡・中川裕二・六田育子・福原博信が担当し、特殊な遺物については、専門調査員の先生方（調査組織及び執筆者の部分参照）に調査・ご指導を頂いた。

4．遺物の整理作業は、平成３年度から同９年度まで熊本県文化財収蔵庫でおこない、主に野田拓治（遺物全般）・髙木正文（土器・骨角貝製品）・村崎孝宏（石器）が担当した。また特殊な遺物の整理については、現地調査と同様に専門調査員の先生方に依頼した。

5．骨角貝製品のうち千葉市立加曽利貝塚博物館の企画展「炎のくにの貝塚」に貸出した分については、同館の村田六郎太氏のご好意により、早稲田大学非常勤講師樋泉岳二氏に材質・部位を同定して頂いた。また、熊本大学文学部助教授木下尚子氏に骨角貝製品の一部の実測についてご協力頂き、その解説原稿を頂いたのでこの報告書に収録し、髙木の解説もそれに準じた。

6．この報告書の遺構の方位は、磁北である。

7．この報告書の執筆者は、以下のとおりである。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 第Ⅰ章 | 第１節 | 限　　昭志 | 第２節 | 髙木　正文 | |
| 第Ⅱ章 | 第１節 | 松本　健郎 | 第２節 | 野田　拓治 | |
| 第Ⅲ章 | 第１節 | 髙木　正文 | 付編 | 金田　一精 | |
| | 第２節 | 村崎　孝宏 | 第３節 | 髙木　正文（一部は木下　尚子） | |
| 第Ⅳ章 | 第１節 | 菊池　泰二（九州ルーテル学院大学人文学部教授） | | | |
| | 第２節 | 西中川　駿（鹿児島大学農学部教授） | | | |
| | 第３節 | 木村　幾多郎（大分市歴史博物館長） | | | |
| | 第４節 | 渡辺　　誠（名古屋大学文学部教授） | | | |
| 第Ⅴ章 | 総括 | 村崎　孝宏 | | | |

8．この報告書の編集は、熊本県教育委員会がおこない、髙木正文と村崎孝宏が担当した。

9．この報告書に収録した黒橋貝塚の遺物の保管は、熊本県文化財収蔵庫でおこなっている。

# 本 文 目 次

序文・例言

**第Ⅰ章　経緯と調査組織**

第１節　調査に到る経緯 …… 1
第２節　調査組織 …… 2

**第Ⅱ章　遺　跡**

第１節　遺跡の歴史的環境 …… 5
旧石器時代 …… 5
縄文時代 …… 5
弥生時代 …… 5
古墳時代 …… 7
歴史時代 …… 8
第２節　調査と遺構 …… 9
１．発掘調査の概要 …… 9
２．層　位 …… 9
３．遺構と遺物 …… 13

**第Ⅲ章　遺　物**

第１節　土器・土製品 …… 55
１．層位と土器 …… 55
２．縄文土器 …… 57
３．土製品 …… 136
（１）土　版 …… 136
（２）土器片錘 …… 136
（３）有孔土器片 …… 136
（４）円形土器片 …… 136
４．まとめ …… 140
付編．底部に鯨の椎骨の圧痕が残る阿高式系土器 …… 146
第２節　石器・石製品 …… 150
１．石　器 …… 150
石　鏃 …… 150
尖頭器 …… 156
石　鋸 …… 156
石　錐 …… 156
石　匙 …… 159
抉入石器 …… 159
削　器 …… 159
石　錐 …… 159
石　錘 …… 166

浮　子 …… 166
磨製石斧 …… 166
打製石斧 …… 175
磨石・敲石 …… 175
石皿・台石 …… 183
礫　器 …… 183
楔形石器 …… 183
二次加工ある石器 …… 183
釣針型石器 …… 190
使用痕ある剥片 …… 190
石　核 …… 190
有孔石製品 …… 190
擦切石器 …… 196
異形石器 …… 196
２．まとめ …… 202
（１）石材について …… 203
（２）石鏃について …… 203
（３）石匙について …… 204
（４）礫器について …… 204
（５）磨製石斧について …… 205
第３節　骨角貝製品 …… 206
１．骨角貝製品の種類と分類 …… 206
２．骨角貝製品の解説 …… 206
（１）貝製品 …… 206
貝輪 …… 206
貝製玉 …… 209
貝製垂飾 …… 209
貝面 …… 209
（２）魚骨製品 …… 209
椎骨製耳飾 …… 209
サメ歯製垂飾 …… 212
鰓骨製垂飾 …… 212
魚骨製刺突具 …… 214
魚骨製簪 …… 214
刺突痕のある鰓骨 …… 214
（３）猪牙製品 …… 214
猪牙製垂飾 …… 214
猪牙製ヘラ …… 223
加工のある猪歯 …… 223
（４）鹿角製品 …… 223

鹿角製簪 …… 223
鹿角製垂飾 …… 225
鹿角製釣針 …… 225
鹿角製工具 …… 228
鹿角素材 …… 228
（５）獣骨製品 …… 232
骨製簪 …… 232
骨製垂飾 …… 232
管状骨製品 …… 235
骨製刺突具 …… 235
骨製ヘラ …… 239
骨製工具 …… 242
その他の骨製品 …… 246
解体痕のある骨 …… 246
３．まとめ …… 251
（１）骨角貝製装身具 …… 251
①面 …… 251
②髪飾 …… 251
③耳飾 …… 253
④首飾 …… 253
⑤腕輪 …… 253
⑥腰飾 …… 253
（２）骨角製利器 …… 255
①漁具 …… 255
②加工（製作）具 …… 255

**第Ⅳ章　黒橋貝塚の自然科学分析**

第１節　黒橋貝塚出土の貝類遺骸 …… 257
第２節　黒橋貝塚出土の哺乳類遺体 …… 263
１．はじめに …… 263
２．出土動物と出土量 …… 263
３．出土遺体の概要 …… 267
１）哺乳類 …… 267
２）鳥類 …… 270
３）爬虫類 …… 270
４）両生類 …… 270
５）魚類 …… 270
４．考察 …… 271
５．まとめ …… 271

第３節　黒橋貝塚出土の魚類遺体 …… 277
第４節　黒橋貝塚出土の植物遺体 …… 287
１．植物遺体のリスト …… 287
２．出土状態と時期 ……
３．ドングリ類の検討 …… 287
４．ドングリ類以外の検討 …… 289
５．本遺跡の特徴 …… 290

**第Ⅴ章　総括** …… 291

# 挿 図 目 次


第１図　黒橋貝塚位置図 …… 4
第２図　黒橋貝塚周辺主要遺跡分布図 … 6
第３図　阿高・黒橋貝塚の貝層分布図 … 10
第４図　調査区全体図…… 11
第５図　層位図（１）…… 12
第６図　層位図（２）…… 14
第７図　Ⅳ～Ⅴ層遺物出土状態図(１) … 15
第８図　Ⅳ～Ⅴ層遺物出土状態図(２) … 16
第９図　Ⅳ～Ⅴ層遺物出土状態図(３) … 17
第10図　Ⅳ～Ⅴ層遺物出土状態図(４) … 18
第11図　Ⅳ～Ⅴ層遺物出土状態図(５) … 19
第12図　Ⅳ～Ⅴ層遺物出土状態図(６) … 20
第13図　Ⅳ～Ⅴ層遺物出土状態図(７) … 21
第14図　Ⅳ～Ⅴ層遺物出土状態図(８) … 22
第15図　Ⅳ～Ⅴ層遺物出土状態図(９) … 23
第16図　Ⅳ～Ⅴ層遺物出土状態図(10) … 24
第17図　土壙実測図（１）…… 25
第18図　土壙実測図（２）…… 26
第19図　土壙実測図（３）…… 27
第20図　土壙実測図（４）…… 28
第21図　土壙実測図（５）…… 29
第22図　土壙実測図（６）…… 30
第23図　土壙実測図（７）…… 31
第24図　土壙実測図（８）…… 32
第25図　土壙実測図（９）…… 33
第26図　土壙実測図（10）…… 34
第27図　土壙実測図（11）…… 35
第28図　土壙実測図（12）…… 36
第29図　土壙実測図（13）…… 37
第30図　土壙実測図（14）…… 38
第31図　土壙実測図（15）…… 39
第32図　土壙実測図（16）…… 40
第33図　土壙実測図（17）…… 41
第34図　土壙実測図（18）…… 42
第35図　土壙実測図（19）…… 43
第36図　土壙実測図（20）……
第37図　土壙実測図（21）…… 45
第38図　土壙実測図（22）…… 46
第39図　土壙実測図（23）…… 47
第40図　土壙実測図（24）…… 48
第41図　土壙実測図（25）…… 49
第42図　土壙実測図（26）…… 50
第43図　土壙実測図（27）…… 51
第44図　層位と出土縄文土器図…… 56
第45図　土器実測・拓影図（１）…… 58
第46図　土器実測・拓影図（２）…… 59
第47図　土器実測・拓影図（３）…… 60
第48図　土器実測・拓影図（４）…… 61
第49図　土器実測・拓影図（５）…… 62
第50図　土器実測・拓影図（６）…… 63
第51図　土器実測・拓影図（７）…… 64
第52図　土器実測・拓影図（８）…… 65
第53図　土器実測・拓影図（９）…… 66
第54図　土器実測・拓影図（10）…… 67
第55図　土器実測・拓影図（11）…… 68
第56図　土器実測・拓影図（12）…… 69
第57図　土器実測・拓影図（13）…… 70
第58図　土器実測・拓影図（14）…… 71
第59図　土器実測・拓影図（15）…… 72
第60図　土器実測・拓影図（16）…… 73
第61図　土器実測・拓影図（17）…… 74
第62図　土器実測・拓影図（18）…… 75
第63図　土器実測・拓影図（19）…… 76
第64図　土器実測・拓影図（20）…… 77
第65図　土器実測・拓影図（21）…… 78
第66図　土器実測・拓影図（22）…… 79
第67図　土器実測・拓影図（23）…… 80
第68図　土器実測・拓影図（24）…… 81
第69図　土器実測・拓影図（25）…… 82
第70図　土器実測・拓影図（26）…… 83
第71図　土器実測・拓影図（27）…… 84
第72図　土器実測・拓影図（28）…… 85
第73図　土器実測・拓影図（29）…… 86
…… 87
第75図　土器実測・拓影図（31）…… 88
第76図　土器実測・拓影図（32）…… 89

第77図　土器実測・拓影図（33）…… 90
第78図　土器実測・拓影図（34）……
第79図　土器実測・拓影図（35）…… 92
第80図　土器実測・拓影図（36）…… 93
第81図　土器実測・拓影図（37）…… 94
第82図　土器実測・拓影図（38）…… 95
第83図　土器実測・拓影図（39）…… 96
第84図　土器実測・拓影図（40）……
第85図　土器実測・拓影図（41）…… 98
第86図　土器実測・拓影図（42）…… 99
第87図　土器実測・拓影図（43）……
第88図　土器実測・拓影図（44）…… 101
第89図　土器実測・拓影図（45）…… 102
第90図　土器実測・拓影図（46）
第91図　土器実測・拓影図（47）……
第92図　土器実測・拓影図（48）……
第93図　土器実測・拓影図（49）……
第94図　土器実測・拓影図（50）……
第95図　土器実測・拓影図（51）……
第96図　土器実測・拓影図（52）……
第97図　土器実測・拓影図（53）……
第98図　土器実測・拓影図（54）…… 111
第99図　土器実測・拓影図（55）…… 112
第100図　土器実測・拓影図（56）…… 113
第101図　土器実測・拓影図（57）…… 114
第102図　土器実測・拓影図（58）…… 115
第103図　土器実測・拓影図（59）…… 116
第104図　土器実測・拓影図（60）…… 117
第105図　土器実測・拓影図（61）…… 118
第106図　土器実測・拓影図（62）…… 119
第107図　土器実測・拓影図（63）……
第108図　土器実測・拓影図（64）…… 121
第109図　土器実測・拓影図（65）…… 122
第110図　土器実測・拓影図（66）…… 123
第111図　土製品実測・拓影図（１）…… 137
第112図　土製品実測・拓影図（２）…… 138
第113図　黒橋貝塚出土土器
　　変遷図（案）…… 141
第114図　鯨椎骨圧痕土器
　　出土遺跡分布図……
第115図　石器実測図（１）……
第117図　石器実測図（３）……
第118図　石器実測図（４）……
第119図　石器実測図（５）……
第120図　石器実測図（６）
第121図　石器実測図（７）……
第123図　石器実測図（９）……
第124図　石器実測図（10）……
第126図　石器実測図（12）……
第127図　石器実測図（13）……
第136図　石器実測図（22）……
第137図　石器実測図（23）……
第138図　石器実測図（24）……
第139図　石器実測図（25）……
第140図　石器実測図（26）……
第141図　石器実測図（27）……
第142図　石器実測図（28）……
第143図　石器実測図（29）……
第144図　石器実測図（30）…… 185
第146図　石器実測図（32）
第147図　石器実測図（33）……
第148図　石器実測図（34）……
第149図　石器実測図（35）……
第150図　石器実測図（36）……
第151図　石器実測図（37）……
第152図　石器実測図（38）……
第153図　石器実測図（39）……

第155図　層別・石材別の出土割合 …… 203
第156図　石鏃の石材別頻度 …… 204
第157図　石鏃の欠損部位 …… 204
第158図　石鏃の長幅比 …… 205
第159図　骨角貝製品実測図（１） …… 207
第160図　骨角貝製品実測図（２） …… 208
第161図　骨角貝製品実測図（３） ‥
第162図　骨角貝製品実測図（４） …… 211
第163図　骨角貝製品実測図（５） …… 213
第164図　骨角貝製品実測図（６） …… 215
第165図　骨角貝製品実測図（７） …… 216
第166図　骨角貝製品実測図（８） …… 218
第167図　骨角貝製品実測図（９） …… 219
第168図　骨角貝製品実測図（10） …… 221
第169図　骨角貝製品実測図（11） …… 222
第170図　骨角貝製品実測図（12） …… 224
第171図　骨角貝製品実測図（13） …… 226
第172図　骨角貝製品実測図（14） …… 227
第173図　骨角貝製品実測図（15） …… 229
第174図　骨角貝製品実測図（16） …… 230
第175図　骨角貝製品実測図（17） …… 231
第176図　骨角貝製品実測図（18） …… 233
第177図　骨角貝製品実測図（19） …… 234
第178図　骨角貝製品実測図（20） …… 236
第179図　骨角貝製品実測図（21） …… 238
第180図　骨角貝製品実測図（22） …… 240
第181図　骨角貝製品実測図（23） …… 241
第182図　骨角貝製品実測図（24） …… 243
第183図　骨角貝製品実測図（25） …… 244
第184図　骨角貝製品実測図（26） …… 245
第185図　骨角貝製装身具と
　　装着位置図……
第186図　骨角製利器とその対象物……254
図版Ⅰ　貝類遺骸写真 ……260
図版Ⅱ　貝類遺骸写真 ……261
図版Ⅰ　哺乳類遺体写真……
図版Ⅱ　哺乳類遺体写真……
写真Ⅰ　植物遺体 ……289
第187図　季節別生業活動 …… 292

# 表　目　次


第１表　黒橋貝塚周辺主要遺跡地名表… 7
第２表　土壙一覧表（１）…… 52
第３表　土壙一覧表（２）…… 53
第４表　土器観察表（１）…… 124
第５表　土器観察表（２）…… 125
第６表　土器観察表（３）…… 126
第７表　土器観察表（４）…… 127
第８表　土器観察表（５）…… 128
第９表　土器観察表（６）…… 129
第10表　土器観察表（７）…… 130
第11表　土器観察表（８）…… 131
第12表　土器観察表（９）…… 132
第13表　土器観察表（10）…… 133
第14表　土器観察表（11）…… 134
第15表　土器観察表（12）…… 135
第16表　土製品観察表（１）…… 139
第17表　鯨椎骨圧痕土器
　　出土遺跡地名表 …… 149
第18表　石器観察表（１）…… 197
第19表　石器観察表（２）…… 198
第20表　石器観察表（３）…… 199
第21表　石器観察表（４）…… 200
第22表　石器観察表（５）…… 201
第23表　層位別石器組成表…… 202
第24表　骨角貝製品観察表（１）…… 247
第25表　骨角貝製品観察表（２）…… 248
第26表　骨角貝製品観察表（３）…… 249
第27表　骨角貝製品観察表（４）…… 250
第28表　骨角貝製品の
　　層位別出土点数一覧…… 251
第29表　黒橋貝塚出土の
　　貝類種名リスト …… 258
第30表　黒橋貝塚出土の
　　貝類遺骸の量的組成…… 259
第31表　黒橋貝塚出土哺乳類の動物別
　　および区画別出土骨量 …… 264
第32表　黒橋貝塚出土の哺乳類の
　　骨格別出土骨片数…… 266
第33表　黒橋貝塚出土のイノシシの
　　層序別出土骨片数…… 268
第34表　黒橋貝塚出土のシカの
　　層序別出土骨片数…… 269
第35表　クロダイ前上顎骨長
　　pml度数分布表…… 279
第36表　魚類遺体出土地点別
　　一覧表（１）…… 280
第37表　魚類遺体出土地点別
　　一覧表（２）…… 281
第38表　魚類遺体出土地点別
　　一覧表（３）…… 282
第39表　魚類遺体出土地点別
　　一覧表（４）…… 283
第40表　魚類遺体出土地点別
　　一覧表（５）…… 284
第41表　魚類遺体出土地点別
　　一覧表（６）…… 285
第42表　魚類遺体出土地点別
　　一覧表（７）…… 286
第43表　植物遺体数量表 …… 288
第44表　ドングリ類数量表…… 288
第45表　ドングリ類の分類…… 289

# 写真図版目次


図版１（カラー）
　１．遺跡全景
　２．遺跡全景
図版２（カラー）
　１．調査風景
　２．貝層堆積状況
図版３（カラー）
　１．Ｇ－８区Ⅲ層土器出土状況
　２．Ｇ－８区Ⅳｂ層猪の下顎骨出土状況
図版４（カラー）
　１．Ｄ－10区Ⅳｂ層土器出土状況
　２．Ｆ－５区Ⅳｂ層遺物出土状況
図版５（カラー）
　１．Ｄ－10区１号土壙猪の下顎骨出土状況
　２．Ｇ－９区２号土壙遺物出土状況
図版６（カラー）
　１．Ｇ－11区土壙遺物出土状況
　２．Ｈ－９区１号土壙遺物出土状況
図版７（カラー）
　縄文土器
図版８（カラー）
　１．猪牙製垂飾
　２．鹿角製簪
図版９
　１．南東から見た調査区
　２．調査風景
図版10
　１．Ｃ－８区Ⅳｂ層猪の下顎骨集積出土状況
　２．Ｃ－９区１号土壙発掘状況
図版11
　１．Ｄ－８区Ⅳｂ層土器出土状況
　２．Ｄ－９区Ⅳｂ層猪の頭骨出土状況
図版12
　１．Ｄ－９区２号土壙猪の頭骨出土状況
　２．Ｄ－10区１号土壙鹿の下顎骨出土状況
図版13
　１．Ｅ－10区２号土壙発掘状況
　２．Ｆ－６区Ⅳｂ層土器出土状況
図版14
　１．Ｅ－10区Ⅳｂ層土器出土状況
　２．Ｆ－10区Ⅳｂ層土器出土状況
図版15
　１．Ｆ－12区１号土壙礫出土状況
　２．Ｆ－12区２号土壙完掘状況
図版16
　１．Ｇ－８区Ⅲ層土器出土状況
　２．Ｇ－９区１号土壙発掘状況
図版17
　１．Ｇ－10区１号土壙発掘状況
　２．Ｇ－11区１号土壙発掘状況
図版18
　１．Ｇ－11区１号土壙土器出土状況
　２．Ｇ－11区１号土壙底猪の頭骨出土状況
図版19
　縄文土器（１）
図版20
　縄文土器（２）
図版21
　縄文土器（３）
図版22
　縄文土器（４）
図版23
　縄文土器（５）
図版24
　縄文土器（６）
図版25
　縄文土器（７）
図版26
　縄文土器（８）
図版27
　縄文土器（９）

図版28
石鏃
図版29
石鏃
図版30
石鏃
図版31
石鏃・石鋸・石錐・尖頭状石器
図版32
石匙
図版33
石匙・抉入石器
図版34
抉入石器・スクレイパー
図版35
スクレイパー
図版36
スクレイパー・石錐
図版37
石錘
図版38
軽石製浮子
図版39
磨製石斧
図版40
磨製石斧
図版41
磨製石斧
図版42
磨製石斧・打製石斧
図版43
磨石・敲石
図版44
磨石・敲石・双頭形石器・石皿・台石
図版45
磨石・敲石
図版46
楔形石器・二次加工ある石器
図版47
二次加工ある石器・釣針形石器・使用痕ある石器
図版48
使用痕ある石器
図版49
石核
図版50
石核・有孔石製品・擦切石器・異形石器
図版51
貝輪
図版52
貝面・椎骨製耳飾・サメ歯製垂飾・鯉骨製垂飾
図版53
鯉骨製垂飾・猪牙製垂飾
図版54
猪牙製垂飾・猪牙製ヘラ・鹿角製簪
図版55
鹿角製簪・鹿角製垂飾・鹿角製工具・骨製簪
図版56
骨製簪・骨製垂飾・骨製刺突具・骨製ヘラ

# 第Ⅰ章　経緯と調査組織

## 第1節　調査に到る経緯

## 第2節　調　査　の　組　織

# 第Ⅰ章　経緯と調査組織

## 第１節　調査に到る経緯

黒橋貝塚の発見は、昭和47年７月６日、熊本地方を襲った集中豪雨によるものであった。とくに下益城郡城南町は、緑川の支流浜戸川の堤防が決壊したため、町の中心部の多くが水害に見舞われるという事態に陥った。

決壊した部分から流入した濁流が水田面を掘り起こし、水田下の貝層を洗い出したのであった。すぐ近くに住んでおられた徳本明氏（当時城南町教育委員会庶務課長）からの報告で貝塚と分かった。

翌年の48年３月、熊本県教育委員会の依頼を受けて熊本大学（国分直一教授）が貝塚の範囲確認調査を実施し、河川敷内にも貝層が広がることが分かった。

ところが、昭和49年７月、熊本県土木部による河川改修工事が始められたため、県文化課では工事中止の申し入れを行い、工事部分の発掘調査を実施した。

以上の点については、熊本県文化財調査報告第20集「黒橋」に掲載されている。

これらの調査から、浜戸川の対岸にある「阿高貝塚」とは、もともと連続した貝塚であるということが把握できた。そこで、昭和55年8月20日付けで、「阿高・黒橋貝塚」として、河川敷を除いた部分について、国指定史跡となった。

河川敷内の貝層部分は、いわゆる中洲として残ったが、浜戸川の河川改修が進行するなかで、地元城南町では昭和47年の大水害を二度と繰り返したくないという気運が高まっていた。この間地元城南町長上田長雄氏からは県文化課の調査体制の整備に関して再三要望が出されていた。文化課としては、中洲の保存についても検討していたが、人命・災害と文化財保護の両立はむずかしいとの立場に立たざるをえない状況にあった。上田町長からの働き掛けによって、熊本県土木部では中洲を全面的に除去して、流路を確保する改修計画を取ることになった。

昭和58年9月13日、土木部河川課と文化課（限昭志、島津義昭）が現地で河川改修計画の立会を行った。中洲であるため、川舟が必要であった。ついで9月16日手作業による試掘を実施、中洲全域に貝殻が分布していることを再認識した。

河川課では、全域の調査が必要かどうか、なお合意までは至っていなかったが、改修計画が本格的に進めることになった。昭和60年には改修計画が立てられ、翌61年に中洲への通路を造成したうえで、重機による試掘調査を実施した。貝層の保存状態はきわめて良好で、しかも河水面下に5mの厚さをもつことが確認できた。

昭和63年５月３日、熊本県下は豪雨に見舞われた。県指定の建造物「御船川眼鏡橋」（昭和58年10月18日指定）が流失した。信じがたい出来事であった。このことが浜戸川改修への動きを強めることになった。

調査の安全性を高めるためには、矢板による方法しかなかった。この方法はすでに建設省松橋バイパス建設に伴う調査で、「曽畑貝塚」発掘に活用していた。しかし、今回は河川敷の中での発掘であり、予測できない事態も考慮する必要があった。平成元年2月矢板工事を実施し、調査に着手した。

本格的な調査は平成元年度になり、矢板をさらに強化、5月10日から調査に着手した。

（限　昭志）

## 第２節　調査組織

**調査主体**　熊本県教育委員会

**総　　括**　江崎　正（昭和63～平成２年度文化課長）　大塚正信（平成３～５年度文化課長）
桑山裕好（平成６～８年度文化課長）　豊田貞二（平成９年度文化課長）
限　昭志（昭和63～平成４年度教育審議員・課長補佐．原稿執筆）
林田敏嗣（昭和63年度課長補佐）　中川義孝（平成元・２年度課長補佐）
松崎厚生（平成３～５年度課長補佐）　平野芳久（平成５年度教育審議員・課長補佐）
白井哲哉（平成６・７年度教育審議員・課長補佐）
丸山秀人（平成６～９年度教育審議員・課長補佐）
淵上重喜（平成８年度教育審議員・課長補佐）　石原昭宏（平成９年度課長補佐）
桑原憲彰（昭和63～平成２年度文化財調査第二係長）
松本健郎（平成３～８年度主幹・文化財調査第二係長．原稿執筆）
島津義昭（平成９年度主幹・文化財調査第二係長）

**事務担当**　松崎厚生（昭和63年度主幹・経理係長）　上村忠道（平成元・２年度経理係長）
木下英治（平成３～６年度主幹・経理係長）　藤本和夫（平成７年度主幹・総務係長）
江尻靖子（平成８・９年度総務係長）　上村裕司（昭和63～平成元年度主事）
泉野順子（昭和63～平成元年度主事）　大廣美枝子（平成２・３年度主任主事）
川上勝美（平成２・３年度主任主事）　高濱保子（平成４～７年度参事）
相馬治久（平成４・５年度参事）　中村幸宏（平成４～６年度参事）
高宮優美（平成６～８年度参事）　緒方宣成（平成６年度主任主事）
東　　修（平成７～９年度主事）　岸本誠司（平成８・９年度主事）
川口久夫（平成９年度主事）

**専門調査**　坪井清足（大阪文化財センター理事長．指導・助言）
三島　格（肥後考古学会長．指導・助言）
賀川光夫（別府大学文学部教授，現在名誉教授．指導・助言）
橘　昌信（別付大学文学部教授．指導・助言）
白木原和美（熊本大学文学部教授．指導・助言）
甲元眞之（熊本大学文学部助教授，現在教授．指導・助言）
菊池泰二（九州大学天草臨海研究所長，現在九州ルーテル学院大学教授．貝類遺骸調査）
渡辺　誠（名古屋大学文学部教授．植物遺体調査）
西中川　駿（鹿児島大学農学部教授．哺乳類遺体調査）
木村幾多郎（大分市歴史資料館長．魚類遺体調査）
松下孝幸（長崎大学医学部助教授，現在土井ヶ浜遺跡・人類学ミュウジアム館長．人骨調査）

**発掘担当**（昭和63～平成３年度）
野田拓治（参事．調査主任）　勝又俊一（文化財保護主事）
宮川　聡（嘱託）　中川裕二（嘱託）
六田育子（嘱託）　福原博信（嘱託）
金田一精（補助員．原稿執筆）　水上綾子（補助員．熊本大学学生）

**発掘作業**　荒井やす代　荒瀬初子　井上ヨシ子　岩永松子　大石としえ　大沢スエカ　緒方クミ子
勝田信子　久我由美子　倉岡ケイ子　倉岡のりえ　桑原千鶴子　小松原梅子　生源寺マツエ
沢田真理子　篠原節子　鈴木幸子　鈴木笙子　塚野洋子　津崎幸子　堤　妙子
東矢房子　中島キヨ子　中島久枝　成松秋子　成松ケイ子　成松洋子　浜田シゲメ
藤井節子　桝永真紀子　宮崎エミ子　宮部恵美子　村崎妙子　森田ハルエ　森田冨美子
森田芳枝　矢島敦子　笠ツイ子　後藤貴美子

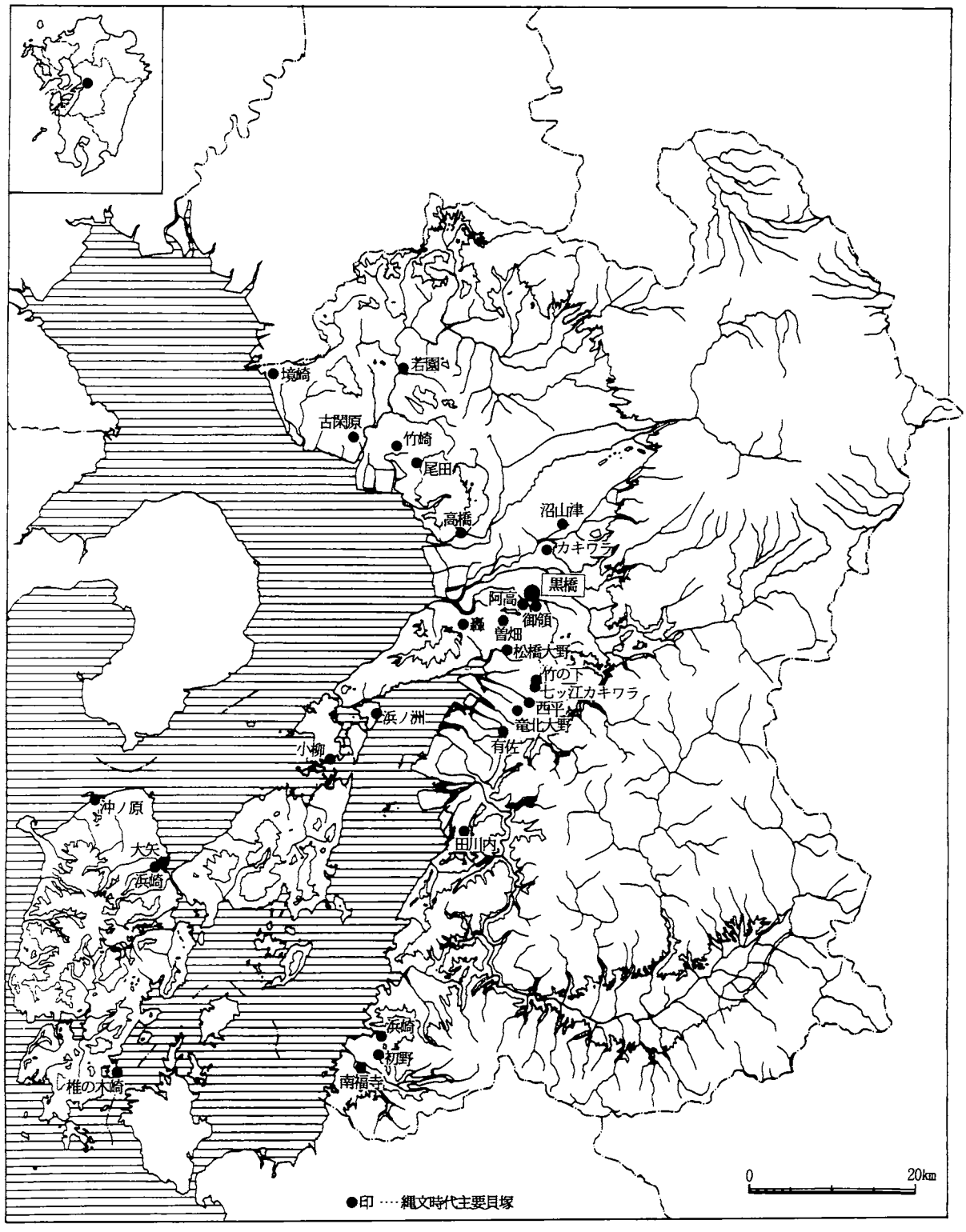
**調査協力**　美少年酒造株式会社　城南町役場建設課　城南町教育委員会
城南町歴史民俗資料館　熊本県松橋土木事務所　熊本県土木部河川課
徳本　明（城南町文化財保護委員）
堀　勝己　豊崎晃一　清田純一（城南町歴史民俗資料館）

**整理担当**（平成４～６年度）
野田拓治（熊本県立装飾古墳館参事．遺物分類，原稿執筆等）

**整理担当**（平成７～９年度）
高木正文（参事．土器・骨角貝製品実測・製図，原稿執筆等）
村崎孝宏（文化財保護主事．石器実測・製図，原稿執筆等）
江本　直（参事．骨角貝製品実測）
村田百合子（補助員．土器・石器実測・製図，遺構製図他）
児玉晶子（補助員．土器・骨角貝製品製図，遺構製図他）
木下春千代（嘱託．土器実測）　後村幸代（補助員．土器実測）
佐野朝子（補助員．骨角貝製品実測）　日置正香（嘱託．遺構製図）
三宅由華（嘱託．土器・骨角貝製品製図，遺構製図）
知名石揚子（補助員．土器・骨角貝製品製図，遺構製図）
今村龍太郎（補助員．遺物写真撮影）

**整理作業**　緒方クミ子　勝田信子　久我由美子　鈴木笙子　塚野洋子　村崎妙子　生源寺マツエ
森田ハルエ　森田冨美子　森田芳枝　矢島敦子（貝層遺物選別作業）
池辺雅子　今福英子　上田律子　上村孝子　宇野玲子　浦田和恵　江島園子
大塚トシ子　尾方マサミ　河崎節子　興梠富貴子　境美恵子　塩田喜美子　重永照代
白井美恵子　津留富美枝　徳永みどり　橋本由美子　早野弘子　淵上慶子　益田久子
宮本幸子　村山紀子　山内洋子　山切律子　山下千栄子　吉田律子　吉本清子
吉永恵美　米倉五月（遺物水洗・注記・復元・拓本）

**整理協力**　樋泉岳二（早稲田大学非常勤講師．骨角貝製品の材質・部位の同定）
村田六郎太（千葉市立加曽利貝塚博物館学芸係長．骨角貝製品の整理助言）
木下尚子（熊本大学文学部助教授．骨角貝製品の整理指導，原稿執筆）
石川まどか　緒方智子　鍛冶真理子　亀井菜津子　新里亮人　高城欣典　富永明子　中川毅人
馬場達也　古野京子　峯崎麻帆　村上浩明　山口大介（熊本大学学生．骨角貝製品実測）
有限会社埋蔵文化財サポートシステム（土器・骨角貝製品実測）
村上義幸（熊本県土木部河川課．事務担当）


境崎
若園
古閑原
竹崎
尾田
高橋
沼山津
カキワラ
黒橋
阿高
御領
轟
曽畑
松橋大野
竹の下
七ッ江カキワラ
西平
竜北大野
浜ノ洲
有佐
小柳
沖ノ原
大矢
浜崎
田川内
浜崎
初野
南福寺
椎の木崎
0
20km
●印 ……縄文時代主要貝塚

**第１図　黒橋貝塚位置図**

# 第Ⅱ章　遺　　跡

## 第1節　遺跡の歴史的環境

## 第2節　調　査　と　遺　跡

# 第Ⅱ章　遺　　跡

## 第１節　遺跡の歴史的環境

下益城郡城南町は、地理区分でみれば熊本平野の南部にあたる。

城南町の遺跡は、町の北側を流れる緑川と緑川の一支流である浜戸川に挟まれた舞の原台地の縁辺部、浜戸川左岸の塚原台地、雁回（木原）山の北・東麓、沖積低地の微高地を中心として数多く分布する。

この地域の遺跡については、医者であり初代町長を務めた故小林久雄氏が精力的に調査研究し、その成果は氏の著作やその意志を継承して松本雅明・三島　格・花岡興輝・徳本　明氏らによって完成された『城南町史』(1965)に収録されている。小林氏やその協力者による調査は、各時代、各種の遺跡に及んでいるが、中でも縄文時代に関する成果は顕著で、「沈目式」（早期)、「阿高式」（中期)、「御領式」（後期）など、九州の縄文を論ずるに欠かせないものとなっている。

昭和50年前後には、九州縦貫自動車道建設に伴う発掘調査が数カ所で行われ、大規模な調査によって遺跡の解明が進んだ。なかでも、塚原古墳群は、官民一体の保存運動が行われ、高速道路の計画をトンネル工法へ変更し、遺跡の大半が保存されることとなった。

昭和60年代以降は、公共事業・民間事業に伴う発掘調査が町教育委員会によって実施されている。

**〔旧石器時代〕**

この時代の遺跡はほとんど知られていない。上の原遺跡で三稜尖頭器・台形石器・ナイフ形石器など６点が出土している他、藤山でナイフ形石器が１点採集されているにすぎない。

**〔縄文時代〕**

早期の「沈目式」の標式遺跡である沈目遺跡は、舞の原台地の南縁部に位置する。遺跡のすぐ東を九州縦貫自動車道が南北に通過している。この縦貫道建設に伴う調査及びその西側に隣接する宅地造成に伴う調査では、縄文時代の遺物は少なく、古墳時代の集落が中心であった。早期の押型文、塞の神式は、沈目立山遺跡、塚原古墳群、上の原遺跡、御領貝塚等でも出土している。沈目立山では炉穴が、上の原では集石が伴っている。

前期の土器は、阿高貝塚で曽畑式が、塚原・沈目で轟式が出土するなど、いくつかの遺跡で少量が出土しているが、まとまった遺跡はない。

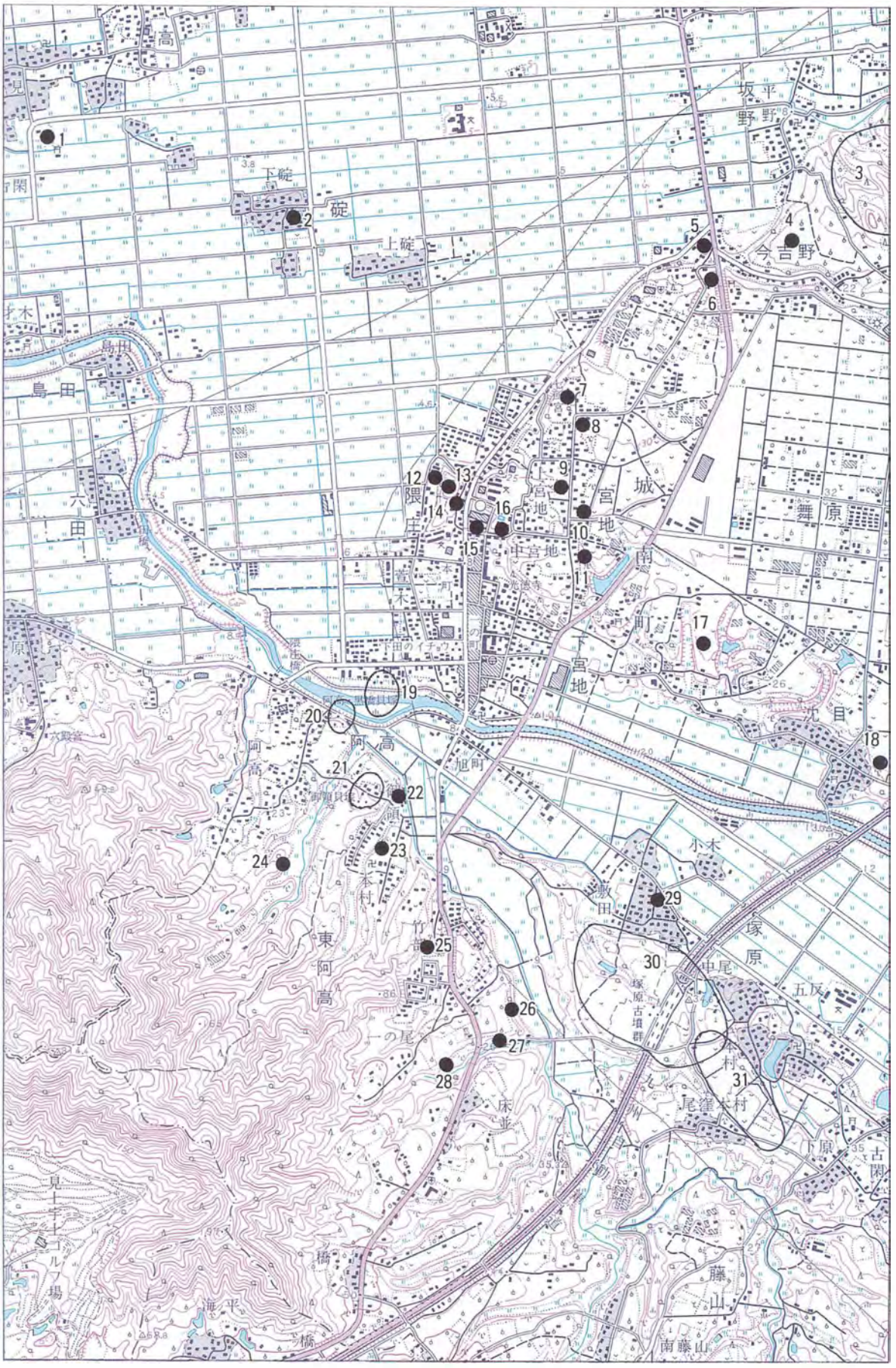
雁回山の北東麓には大規模な貝塚が点在する。中期の「阿高式」の標式遺跡である阿高貝塚は、丘陵の北斜面から浜戸川にかけて貝層が広がる。その北東には黒橋貝塚があり、位置や年代からみて両者はあるいは一連の貝塚である可能性が指摘されている。阿高貝塚の東側の丘陵には後期の御領貝塚があり、「御領式」の標式遺跡である。神社の境内を中心として広範囲にヤマトシジミを中心とする貝類が露出しており、壮観である。これらの三貝塚は、いずれも国の史跡に指定されている。

浜戸川流域周辺には、他にも縄文貝塚が多く、黒橋貝塚の上流部左岸には晩期の敷田貝塚、雁回山北麓の富合町には中・後・晩期の土器を出すソビエ石貝塚がある。さらに、少し離れるが、雁回山西麓の宇土市には前期の曽畑貝塚、後期の古保里貝塚、さらに西方に前期の轟貝塚がある。

後晩期になると遺跡数が増加し、上記の黒橋貝塚、敷田貝塚、ソビエ石貝塚の他、塚原古墳群、上の原遺跡などの塚原台地、舞の原台地の各遺跡で当期の遺物が出土する。

**〔弥生時代〕**

前期のまとまった遺跡が、浜戸川を間に沈目立山遺跡と上の原遺跡にある。両遺跡は、いずれも縄文時代




第２図　黒橋貝塚周辺主要遺跡分布図　　１：25,000

から歴史時代におよぶ複合遺跡であるが、弥生時代前期・中期前半の遺構・遺物がまとまって調査されている。沈目立山遺跡ではカメ棺、上の原遺跡では住居跡とカメ棺が調査されている。

中・後期の遺跡は、右岸の舞の原台地の南・西縁部に多く分布する。左岸の塚原台地には顕著な遺跡は知られていない。

後期前半の囲貝塚や弥生期の中尾貝塚は、町役場を間に東西に位置する。城南町の中心部の東側に位置する宮地地区の宮本・一丁畑・新御堂・溝口一帯には、弥生遺跡が濃密に分布する。とくに新御堂遺跡は、国の重要文化財に指定されている舟形注口土器の他、巴形銅器、貨泉・半両銭など、注目すべき遺物が出土している。また、平成元年の町教育委員会の発掘調査により、巨大な環壕の一部も確認されており、この地域の拠点集落と考えられる。

須玖式や黒髪式のカメ棺が溝口・西福寺・今・西原などでみられ、支石墓が富合町・西蔵で発見されている。

弥生時代の終わり頃から古墳時代にかけての土器は、碇・永・赤見・高などの低地にもみられるが、赤見前田遺跡のごく一部が調査されたにすぎず、遺跡の実態は不明なものが多い。

**〔古墳時代〕**

城南町の古墳は、舞の原台地の北西部の吉野山一帯、舞の原台地の西・南縁部と塚原一帯に集中する。

吉野山古墳群は、20基ほどの円墳と４群の横穴墓群があったが、消滅したものも多い。

**第１表　黒橋貝塚周辺主要遺跡地名表**（遺跡番号は第２図の番号に対応）

| 番号 | 遺跡名 | 所在地 | 時代 | 種別 | 指定 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 赤見前田遺跡 | 城南町赤見字前田 | 弥生～中世 | 包蔵地 | | 弥生後期土器、中世陶磁器、石造物 |
| 2 | 碇遺跡 | 〃　碇字山城 | 弥生 | 包蔵地 | 町 | 弥生後期土器 |
| 3 | 吉野山古墳群 | 〃　坂野字山畑他 | 古墳 | 古墳 | 町 | 16基以上の古墳群、坂本古墳は装飾古墳 |
| 4 | 西天神原遺跡 | 〃　今字吉野 | 縄文～古代 | 包蔵地 | 町 | 縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、益城軍団推定地 |
| 5 | 今村貝塚 | 〃　今字吉野 | 縄文 | 貝塚 | 町 | 縄文晩期土器 |
| 6 | 東原遺跡 | 〃　今字吉野 | 弥生･古墳 | 包蔵地 | | 弥生中期甕棺、土師器、須恵器 |
| 7 | 益城国府推定地 | 〃　宮地字宮本 | 古代 | 国衙 | | 木下良説、土師器、須恵器 |
| 8 | 宮本遺跡 | 〃　宮地字宮本 | 弥生 | 包蔵地 | | 弥生土器 |
| 9 | 一丁畑遺跡 | 〃　宮地字一丁畑 | 弥生 | 包蔵地 | 町 | 弥生中期土器、石庖丁、石斧 |
| 10 | 新御堂遺跡 | 〃　宮地字新御堂 | 縄文・弥生 | 集落跡 | 町 | 縄文晩期土器、弥生中期土器、弥生後期環壕集落、青銅器 |
| 11 | 溝口遺跡 | 〃　宮地字溝口 | 弥生 | 包蔵地 | 町 | 弥生中期土器、石庖丁 |
| 12 | 城の鼻横穴群 | 〃　隈庄字古城 | 古墳 | 古墳 | | 20数基あり |
| 13 | 隈庄城跡 | 〃　隈庄字古城 | 中世 | 城跡 | 町 | 瓦 |
| 14 | 囲貝塚 | 〃　隈庄字古城 | 弥生 | 貝塚 | 町 | 弥生後期土器、石庖丁 |
| 15 | 祇園寺遺跡 | 〃　宮地字祇園寺 | 中世 | 寺社 | 町 | 隈牟田荘の初期荘寺、須恵器、石造物 |
| 16 | 中尾貝塚 | 〃　宮地字溝口 | 弥生 | 貝塚 | 町 | 弥生中期土器、磨製石剣、石庖丁 |
| 17 | 迎原遺跡 | 〃　沈目字迎原 | 弥生 | 包蔵地 | | 弥生土器、石庖丁 |
| 18 | 沈目遺跡 | 〃　沈目字奥野 | 縄文・古墳 | 集落跡 | | 縄文早期土器、古墳時代住居跡、沈目式土器の標式遺跡 |
| 19 | 黒橋貝塚 | 〃　下宮地字外田 | 縄文 | 貝塚 | 国 | 縄文中・後期遺物多量 |
| 20 | 阿高貝塚 | 〃　阿高字東原 | 縄文 | 貝塚 | 国 | 縄文中・後期遺物、阿高式土器の標式遺跡 |
| 21 | 御領貝塚 | 〃　東阿高字八ツ尾 | 縄文 | 貝塚 | 国 | 縄文後期遺物、御領式土器の標式遺跡 |
| 22 | 御領横穴墓群 | 〃　東阿高字八ツ尾 | 古墳 | 古墳 | 町 | 須恵器、亀甲、人骨 |
| 23 | ｱﾝﾄﾞﾝ坂横穴墓群 | 〃　東阿高字千々屋寺 | 古墳 | 古墳 | 町 | 亀甲 |
| 24 | 阿弥陀尾横穴墓群 | 〃　阿高字影熊 | 古墳 | 古墳 | 町 | 須恵器、亀甲、人骨 |
| 25 | 飛の尾横穴墓群 | 〃　東阿高字南飛の尾 | 古墳 | 古墳 | 町 | 須恵器 |
| 26 | 一位田横穴墓群 | 〃　東阿高字一位田 | 古墳 | 古墳 | 町 | 須恵器 |
| 27 | 牛頸横穴墓群 | 〃　東阿高字一位田 | 古墳 | 古墳 | 町 | 須恵器 |
| 28 | 一尾横穴墓群 | 〃　東阿高字一尾 | 古墳 | 古墳 | 町 | 須恵器 |
| 29 | 敷田貝塚 | 〃　塚原字敷田 | 縄文 | 貝塚 | | 縄文早・晩期土器 |
| 30 | 塚原古墳群 | 〃　塚原字丸尾他 | 古墳 | 古墳 | 国 | 方形周溝墓、円墳、前方後円墳 |
| 31 | 上の原遺跡 | 〃　塚原字上ノ原 | 縄文～古墳 | 集落跡 | | 弥生中期住居跡・甕棺、古墳時代住居跡 |

吉野山古墳は、舟形石棺を主体部とし、この地域では古式の古墳である。坂本古墳は、この地域では数少ない装飾文をもつ横穴式石室であったが、両古墳とも消滅している。その他の古墳は、箱式石棺や横穴式石室を主体部とする。

舞の原台地の西・南縁部は、密集度は低いが、２基の前方後円墳、４基の円墳、２群70数基の横穴墓群がある。前方後円墳の甚九郎山古墳・狐塚古墳は、いづれも40ｍ以下で、時期も後期に属するものである。浜戸川を間に、甚九郎山・狐塚と対峙する位置に塚原古墳群がある。昭和40年代には、前方後円墳２基と円墳９基が確認されていたが、九州縦貫自動車道予定地の発掘調査によって、約３haの予定地から方形周溝墓、円墳、前方後円墳など、計101基が発見され、『古今肥後見聞雑記』の「同郡塚原村ニ九十九塚有、村号是によると云り」という記事が立証された。その後、周辺部の確認調査が行われ、本来の古墳数は400～500基にも達するものと推定される。この中には、前方後円墳が２～３基含まれるが、大半は方形周溝墓と円墳である。

集落跡は、舞の原台地の沈目遺跡、沈目奥野遺跡、塚原台地の上の原遺跡等がある。特に上の原遺跡は、塚原古墳群に隣接し、塚原古墳群の東端が確認されるとともに、前期・中期の住居跡が300基以上調査されており、古墳群と集落の関係を考える好資料である。

〔歴史時代〕

肥後最古の寺院跡である陣内廃寺は、黒橋貝塚の上流、浜戸川右岸に位置する。法起寺式伽藍の一部が調査されているが、ほとんどは水田の下に埋没している。その背後には、陣内廃寺に瓦を供給した陣内窯跡がある。また、瓦窯跡としては、雁回山北麓の富合町・平原窯跡がある。

肥後の国府については異説があり、その所在地等については確定していない。松本雅明氏は、益城→託麻→飽田の変遷を考え、益城国府を舞の原台地東方の近道付近に比定している。一方、木下良氏は、託麻→益城→飽田の変遷を提示し、益城国府の所在地についても、舞の原台地西端の宮地地区に比定している。

その他、沈目立山遺跡、東原遺跡、上の原遺跡等で歴史時代の遺構・遺物が調査されている他、塚原・東阿高などで古代の蔵骨器が発見されている。

（松本健郎）

# 第２節　調査と遺構

## １．発掘調査の概要

浜戸川の河川改良事業に伴って昭和61年に河川敷内の試掘調査を実施したところ、貝層の保存状態が極めて良好であることが確かめられたため、その部分について発掘調査を行うことになった。

調査地は浜戸川の中でも水量の多いところで、少しまとまった雨が降ると水中に没してしまうため、調査の安全性を高め円滑に進めるため、まず調査区全体を鋼鉄製の矢板で囲む工事から実施した。矢板の設置工事は平成元年１月に開始し、さらに川からの水の流入を防止するため、その外側に築堤工事も実施した。発掘調査は３月から開始した。平成元年度に入ると、さらに矢板を強化し、本格的な調査に着手した。

貝塚の上には、全体に渡って角礫と砂質土とが互層となった土層がみられた。これは現浜戸川によって運ばれてきた土砂で、約１ｍ程堆積しており、まずこの貝層を覆った土砂を取り除くことから始めた。

対象となる矢板で仕切った範囲は、東西40ｍ、南北30ｍの1,200㎡で、このうち貝層の保存状態が良い部分は浜戸川の中央部に取り残された部分約360㎡であった。他の部分は現浜戸川の流路で貝層のほとんどは流失していた。

調査の手順として、表面の土砂を取り除いた後、発掘調査区全体に貝層の傾斜方向などを考慮して、４ｍ四方を単位としたグリッドを設定した。また各グリッドの一方にはＬ字形に層位観察のためのベルトを残して層位を確認しながら調査を進めた。このため調査は、四方を壁に囲まれたグリッド内の掘り下げが中心となった。

この４ｍ四方のグリッドを掘り下げるという単調ながら神経を使う作業が来る日も来る日も続いた。その間にも少しずつ川の水や地下水がしみ出て来るため、常に水中ポンプを使って排水作業も続けなければならなかった。また雨期には危険なため調査を休まざるをえなかったが、その間、増水により調査区が水没するという事態も生じた。

出土した遺物は、層位ごとに取り上げ、包含層の遺物については出土状態の実測や写真撮影を行いながら取り上げた。また現場で発見しにくい獣骨や魚骨などの動物遺体や細かな遺物を発掘調査終了後に水洗して検出するため、掘り上げた土はすべて層ごとに分類して、土のう袋に納めた。この土のう袋に納めた数は実に約24,000袋に達した。

調査の各段階において、専門調査員の指導助言を仰ぎながら調査をすすめた。人骨や獣骨あるいは植物の種子など特別な遺物の出土に際しても専門調査員の指導と助力を得た。

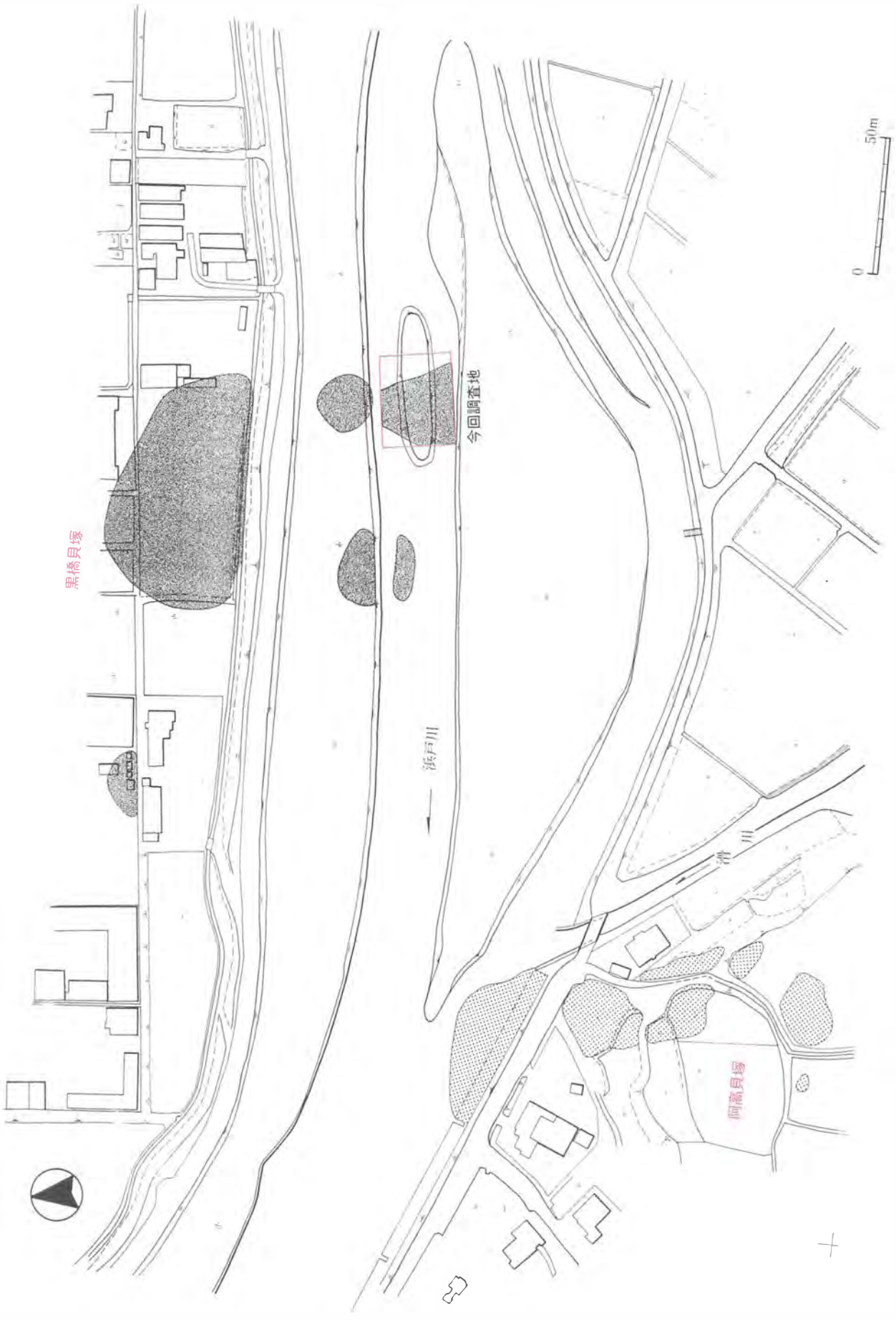
その他、貝層断面を標本として残すため、接着剤を使って剥ぎ取り作業も実施した。

こうして平成３年５月まで、およそ３年間を費やした発掘調査は、作業員の忍耐と笑顔に支えられて終了することができた。

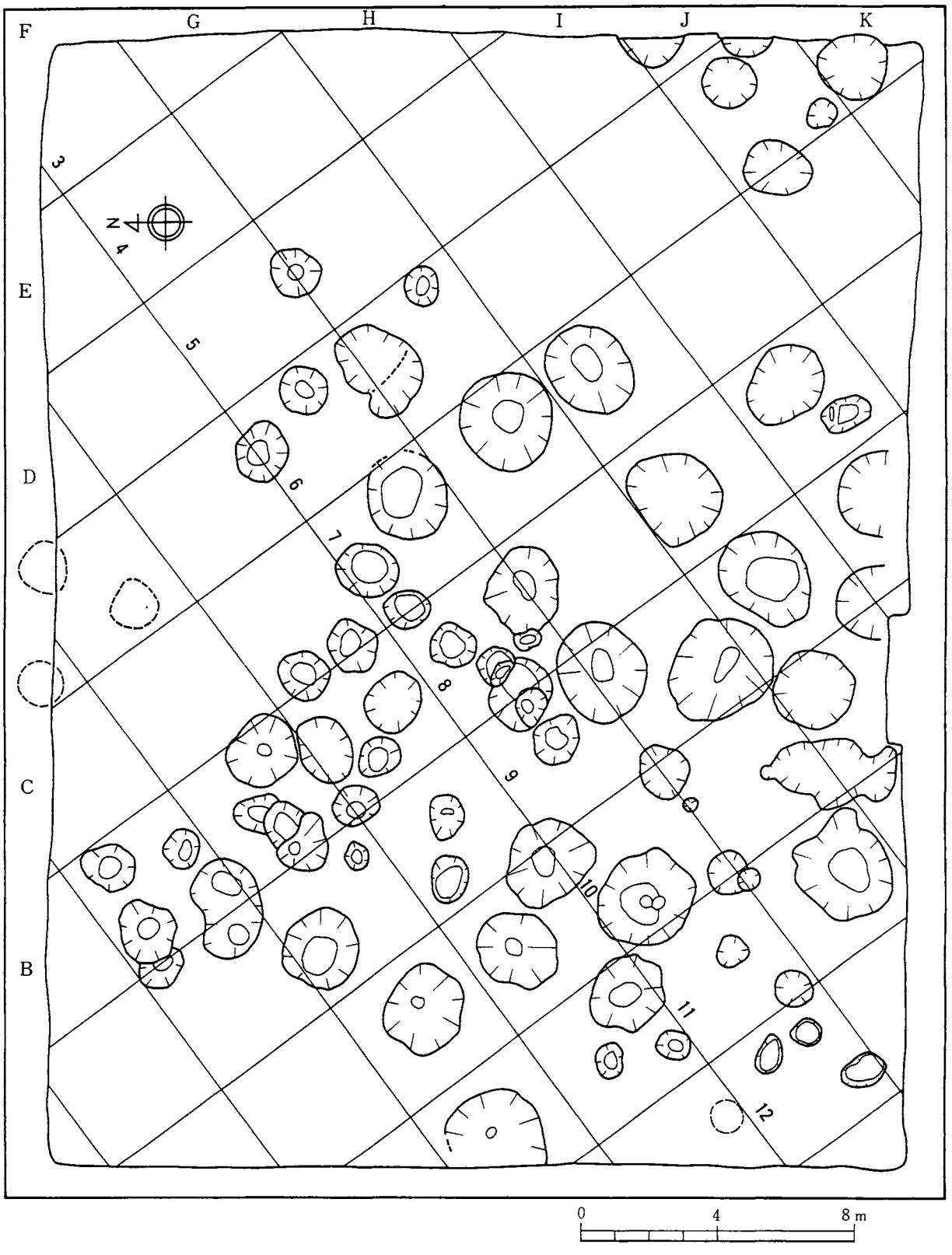
## ２．層　　位

黒橋貝塚の基本層位は下記のように把握することができた。

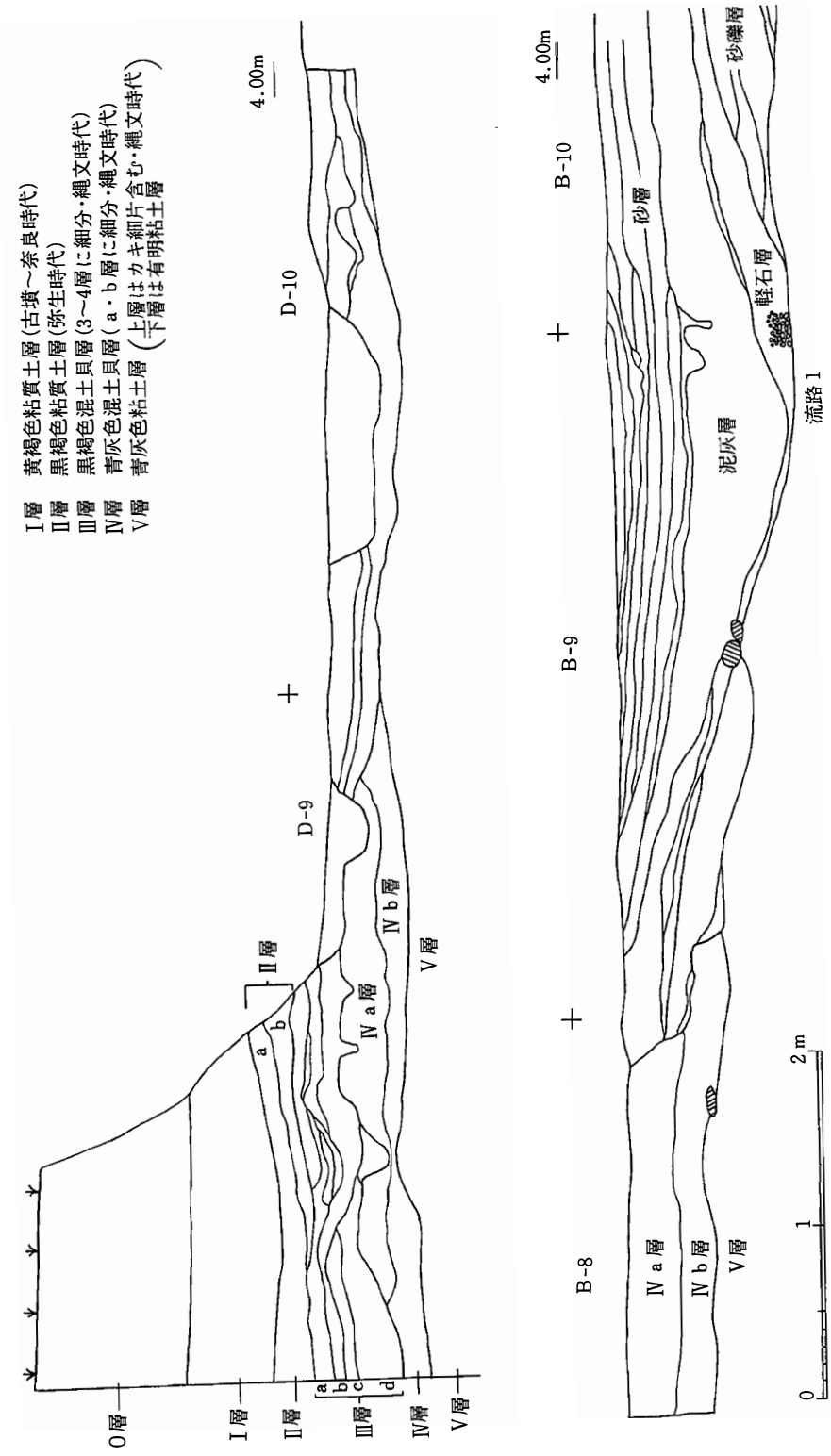
| | | | |
|---|---|---|---|
| ０層 | 河川堆積土層 | | |
| Ⅰ層 | 黄褐色土層 | 土師器・須恵器 | （古墳～奈良時代） |
| Ⅱ層 | 黒褐色粘質土層 | 黒髪式土器 | （弥生時代中期） |
| Ⅲ層（ａ～ｄ） | 黒褐色混土貝層 | 南福寺式土器・出水式土器 | （縄文時代後期） |
| Ⅳ層（ａ・ｂ） | 純貝層（青灰色粘質土を含む） | 阿高式土器・南福寺式土器 | （縄文時代中期～後期） |
| Ⅴ層 | 青灰色粘質土層 | 並木式土器・阿高式土器 | （縄文時代中期） |




第３図　阿高・黒橋貝塚の貝層分布図




**第４図　調査区全体図**


Ⅰ層　黄褐色粘質土層(古墳～奈良時代)
Ⅱ層　黒褐色粘質土層(弥生時代)
Ⅲ層　黒褐色混土貝層(3～4層に細分・縄文時代)
Ⅳ層　青灰色混土貝層(a・b層に細分・縄文時代)
Ⅴ層　青灰色粘土層(上層はカキ細片含む・縄文時代 下層は有明粘土層)
4.00m
D-10
D-9
B-10
B-9
B-8
Ⅱ層
Ⅳa層
Ⅳb層
Ⅴ層
砂層
泥灰層
軽石層
砂礫層
流路1
0層
Ⅰ層
Ⅲ層
2m
1
0

**第５図　層位図（１）**

０層は、現在の浜戸川が運んだ堆積物の土層で、厚さ約１ｍ堆積していた。

Ⅰ層は、明確な遺構は検出できなかったが、古墳時代から奈良時代にかけての土師器・須恵器を包含する土層である。

Ⅱ層は、泥炭質の粘質土で、部分的には破砕された貝を含み、また縄文土器の細片のほか獣骨・魚骨などを大量に含んでいる。しかし量的には少ないが弥生式土器を含んでいて、弥生時代の再堆積土とみてよい。

Ⅲ層は、ａ～ｄ細分したが、いずれも混土貝層で、出水式系土器が多く出土しており、磨消縄文系の土器もみられる。出土遺物からみて、ａ～ｄ各層は年代的に大きな隔たりは認められない。

Ⅳ層は、マガキの純貝層で、厚いところでは0.5～0.6ｍほど堆積しているが、部分的にハイガイやヤマトシジミの薄い堆積が認められる。Ⅳａ層はやや鉄分を多く含んだ青灰色粘質土が混じるマガキの純貝層である。Ⅳｂ層も青灰色粘質土を含むマガキの純貝層である。出土土器は、Ⅳａ層では南福寺式土器と阿高式土器を含み、Ⅳｂ層では阿高式土器のみを出土する。またⅣｂ層の最下部とＶ層との間に、多量の阿高式土器とともに、シカ・イノシシなどの獣骨がまとまった状態で出土している。

Ｖ層は、所謂「有明粘土層」で、青灰色を呈している。上層では部分的に破砕されたカキをわずかに含んでいる。阿高式土器の他に並木式土器が出土するが、下層に移行するにしたがって出土遺物が減少する。しかしこの間の層序を識別することは困難である。

## ３．遺構と遺物

Ⅲ層下部にあたる深さから埋葬人骨が計18体出土した。保存状態がよい８体はすべて伸展葬で、Ⅲ層より上の層から掘られた土壙墓に埋葬されていたものと判断された。副葬品はなかった。出土状態から縄文時代後期以降（弥生時代か）のものと考えられる。

また調査区全域で大小73基の土壙を確認している。いずれもＶ層上面で検出したものである。

これらのうち、およそ50基は直径1.0～2.5m、深さ0.5～1.8mの円形プランで、断面形がすり鉢状を呈するものであった。

このすり鉢状土壙の１例であるＧ－11区の１号土壙は、長径2.84m、短径2.66m、深さ1.10ｍを測り、部にⅢ～Ⅳ層から続く各層がレンズ状の堆積をし、土壙底部との間に厚さ0.1～0.2mの青灰色粘質土が認められた。この青灰色粘質層下部全面に、魚骨層が検出された。魚種はマイワシなどが主体である。さらに魚骨層と土壙底部との間の青灰色粘質土中からは、イノシシ頭骨がほぼ完全な状態で出土した。

また土壙の断面形が袋状ないし方形を呈する土壙の一例であるⅠ－９区の１号土壙は、長径2.60m、短径2.50m、深さ1.44ｍを測り、土壙の底部に堆積していた青灰色粘質中には、ドングリが５㎝前後の厚さで堆積し、魚骨などは見られなかった。

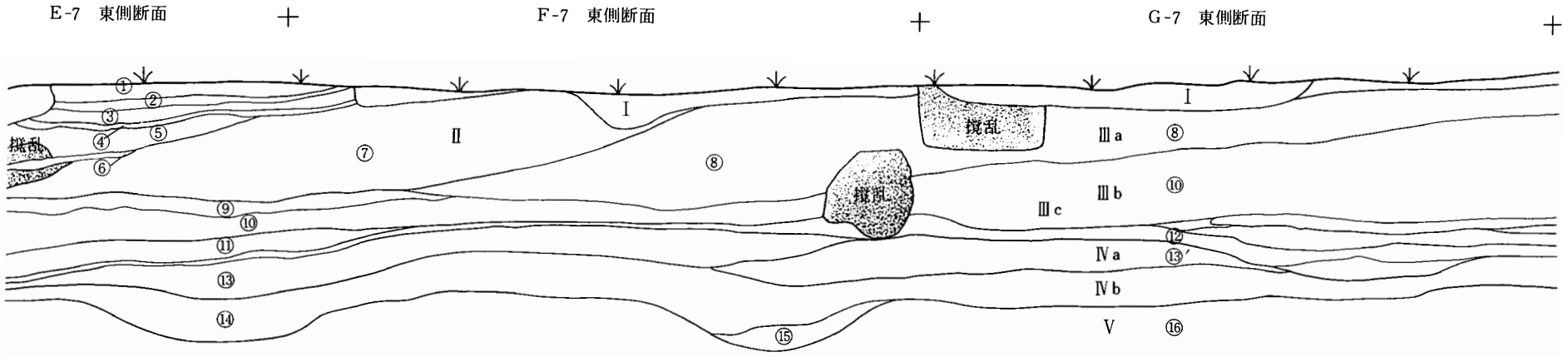
同様の例であるＤ－６区の２号土壙では、篭状の編み物とともに、ドングリ類が出土している。

このように土壙の断面形がすり鉢状になるものと、袋状ないし方形を呈するものでは、出土遺物などに違いがみられる。後者はいわゆる「ドングリピット」であるが、前者については「ドングリピット」とするにはやや疑問が残るものの、遺跡全体に重複することなく両者が混在していることから、おそらく類似の機能をもった土壙であった可能性が大きい。

出土遺物のなかで、特に多く出土しているものは、獣骨・魚骨類である。獣骨では、イノシシ、ニホンジカを中心として、イヌ、タヌキ、ノウサギ、アナグマ、サル、ムササビ、さらにクジラ、イルカなどの種類が認められる。鯨骨は椎板と椎骨が出土しており、多くは阿高式土器の製作台として使用されたものと考えられる。魚骨では、タイ類、ボラ、スズキ、サメ類などが出土している。

またⅣｂ層下部からＶ層にかけて多くの糞石が出土している。これは将来の分析に委ねたい。

（野田拓治）




Ⅰ層　撹乱層

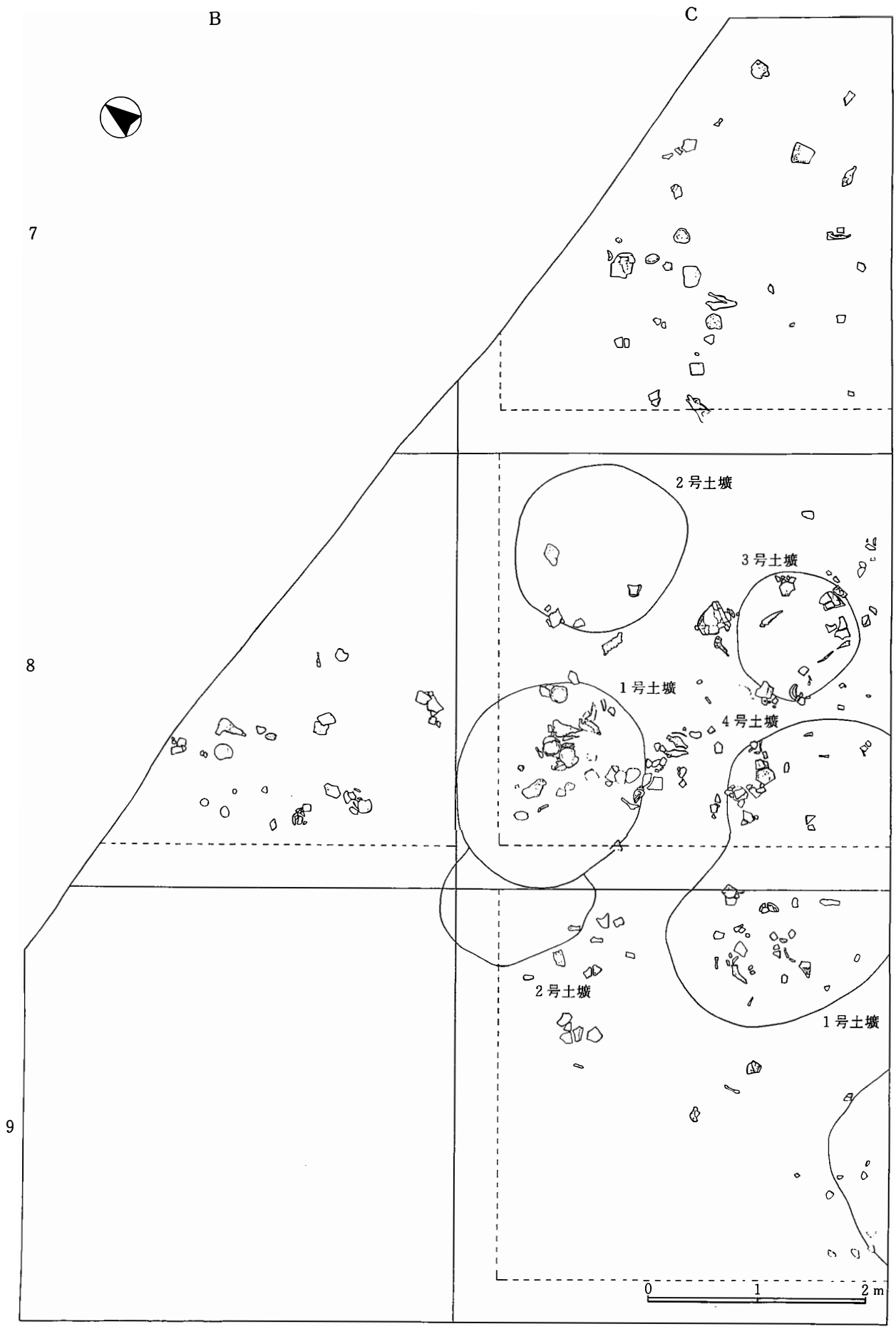
Ⅱ層　① 黄褐色混土貝層(シジミ主体。カキ少量含む)
② シジミ破砕貝層
③ 黄褐色混土貝層(シジミ純貝層、小型のハマグリ少々含む)
④ シジミ破砕貝層
⑤ 黄褐色混土貝層（カキ主体。シジミ少量含む）
⑥ 破砕貝層(黄褐色)（カキ・シジミ）
⑦ 黄褐色混土貝層(カキ主体。カキ純貝層に近い)

Ⅲ層　a　⑧ 暗褐色混土貝層(カキの純貝層に近い。ハマグリ・シジミ・ハイガイ少量含む)
⑨ 赤褐色混土貝層(帯状に炭化物を含む)
b　⑩ 暗青灰色混土貝層(カキ主体。ハマグリ・ハイガイ・シジミを含む)
⑪ 黄褐色混土貝層(カキ主体。シジミ・ハマグリ少量含む)
c　⑫ 砂砕貝層
⑬ 青灰色粘質混土貝層

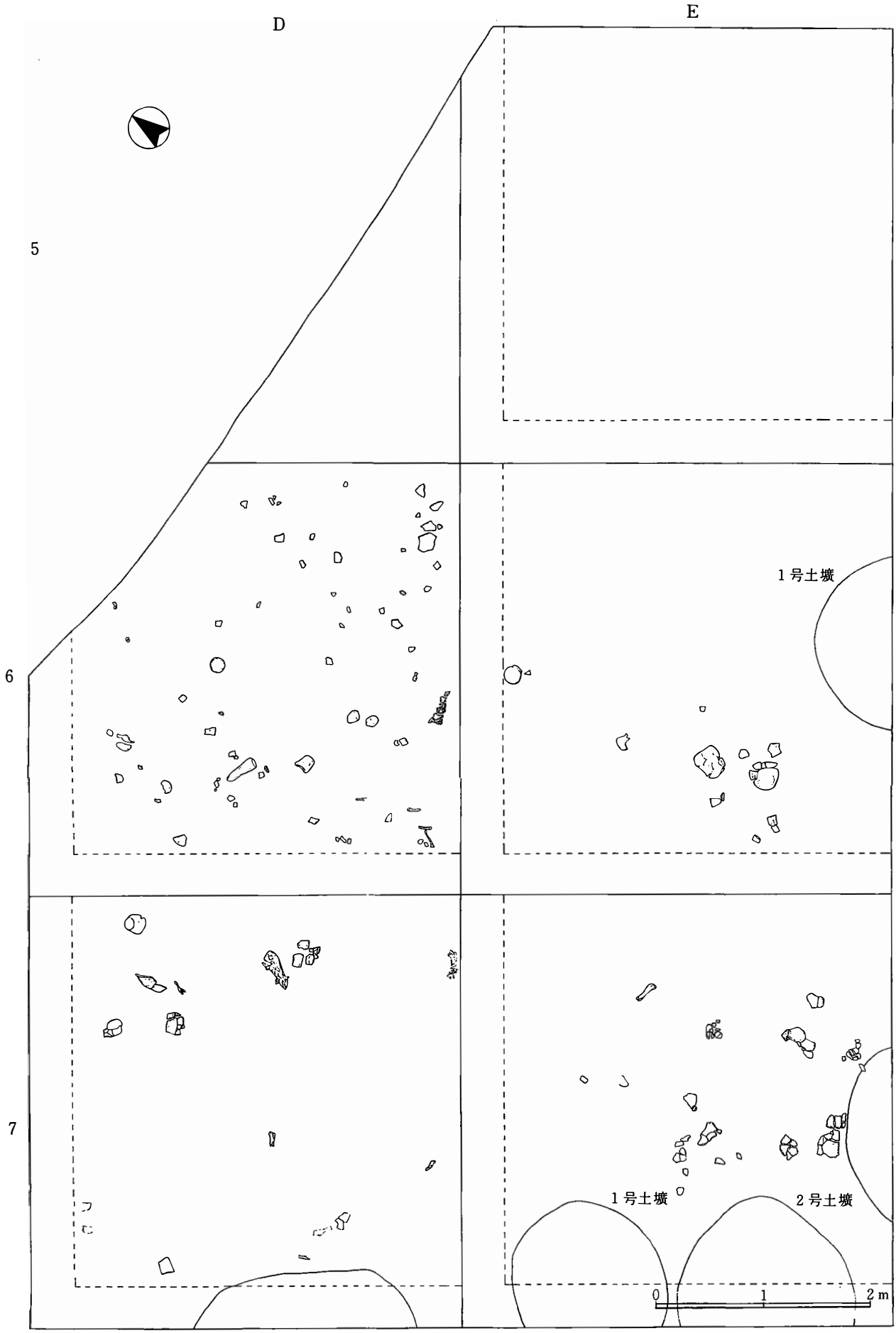
Ⅳ層　a　⑬′黄褐色混土貝層
b　⑭ 青灰色粘土層
⑮ 青灰色混土貝層

Ⅴ層　⑯ 青灰色粘土層

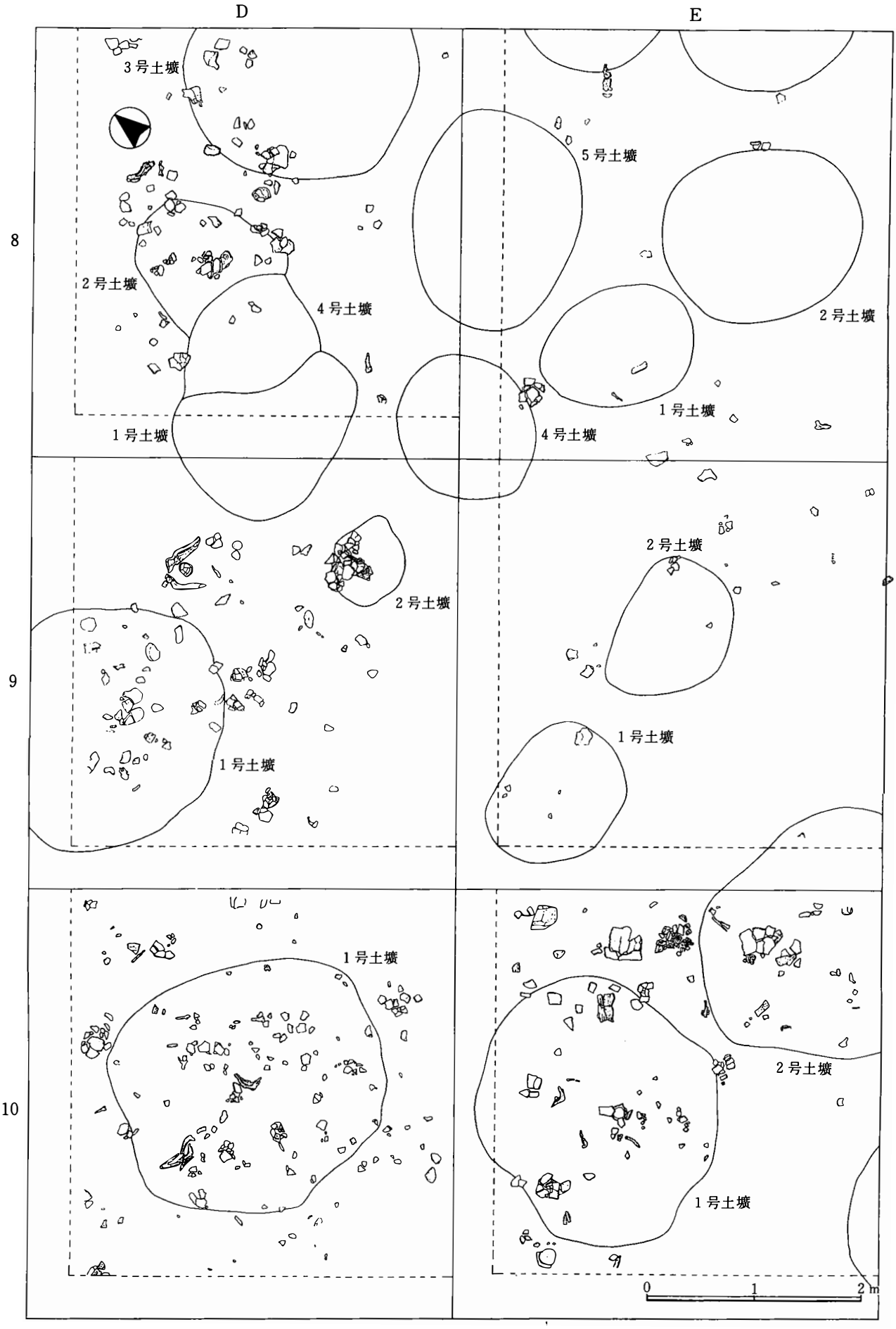
**第６図　層位図（２）**



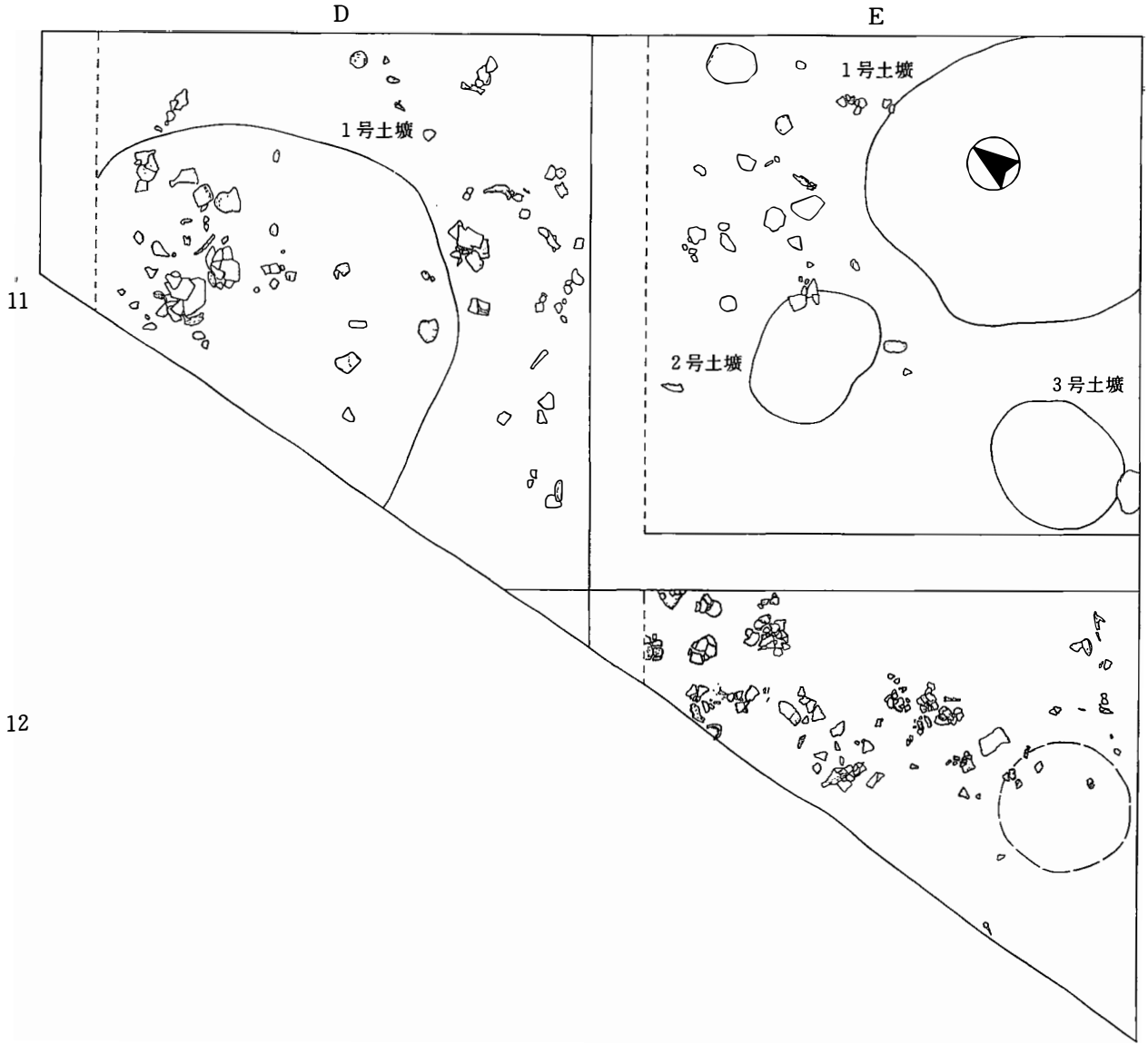

**第７図　Ⅳ～Ⅴ層遺物出土状態図（１）**



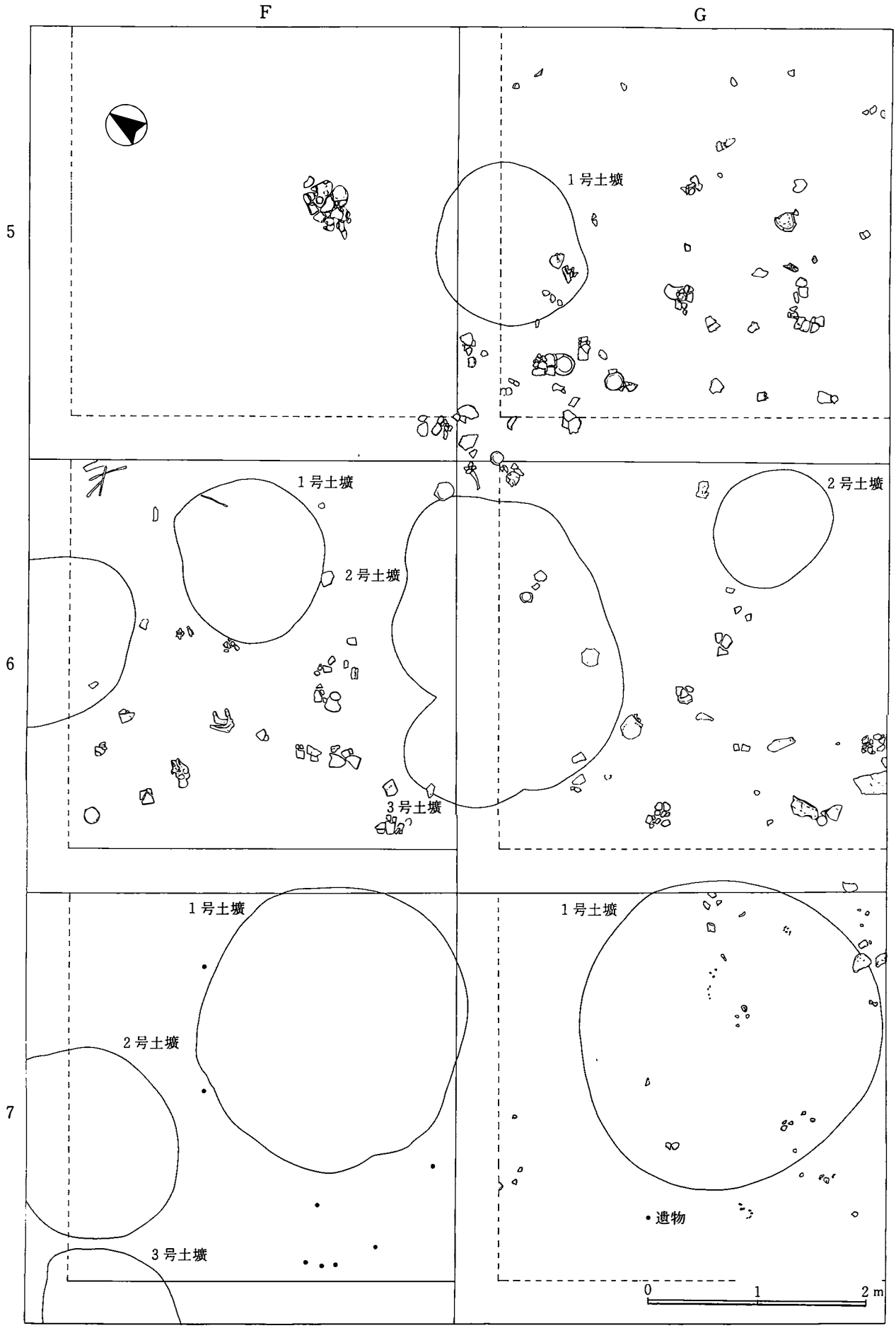

第８図　Ⅳ～Ⅴ層遺物出土状態図（２）



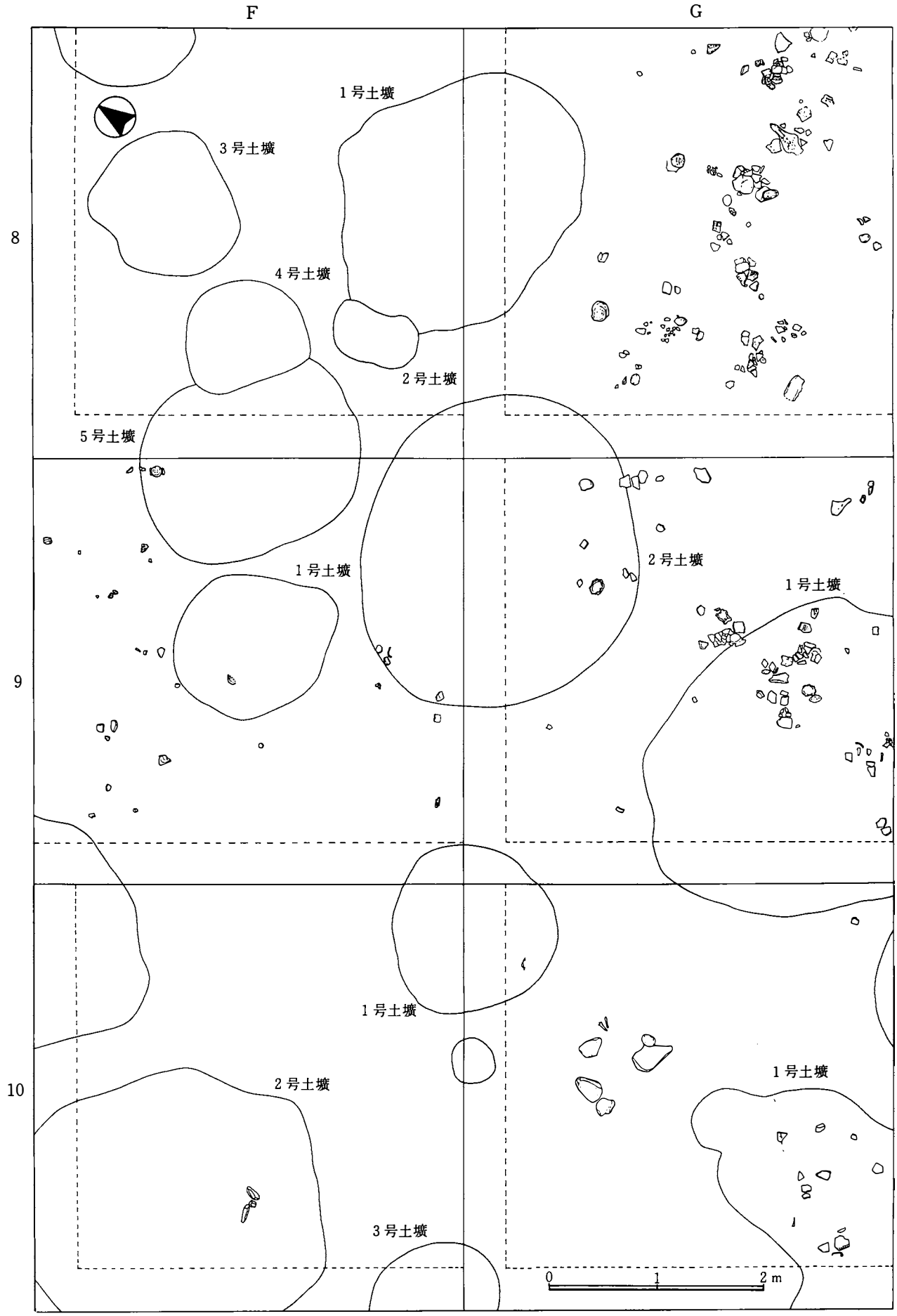

第９図　Ⅳ～Ⅴ層遺物出土状態図（３）



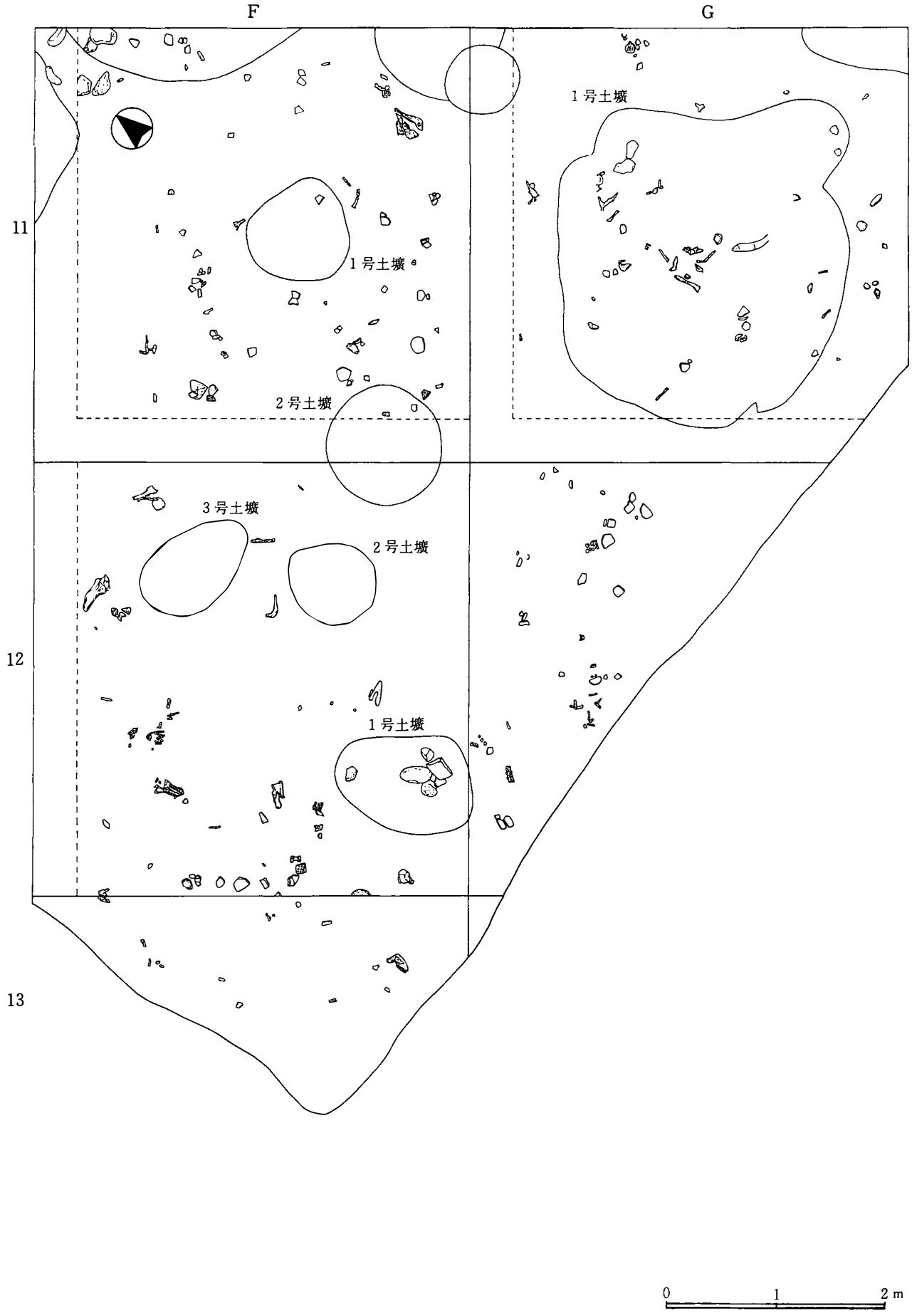

第10図　Ⅳ～Ⅴ層遺物出土状態図（４）



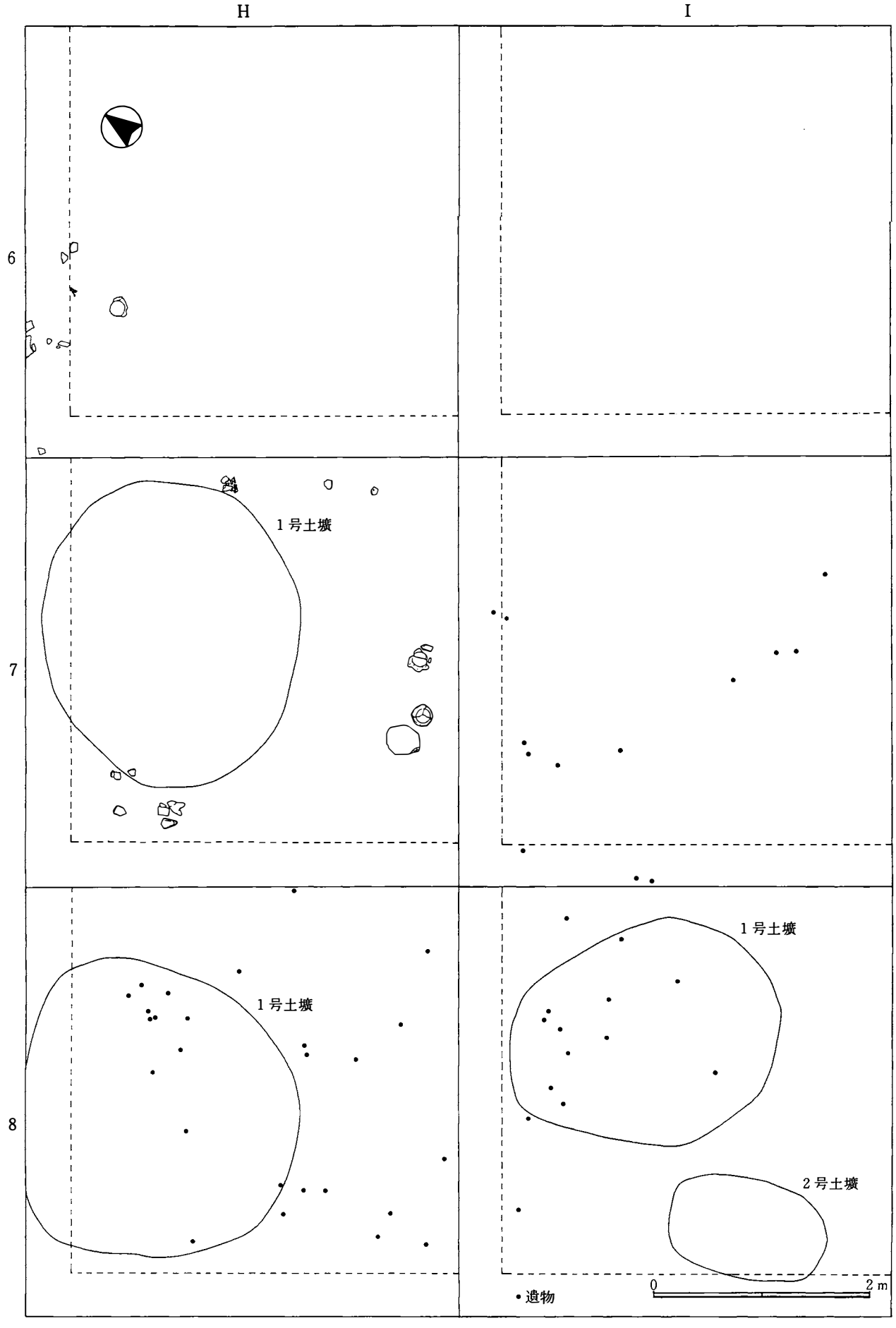

**第11図　Ⅳ～Ⅴ層遺物出土状態図（５）**



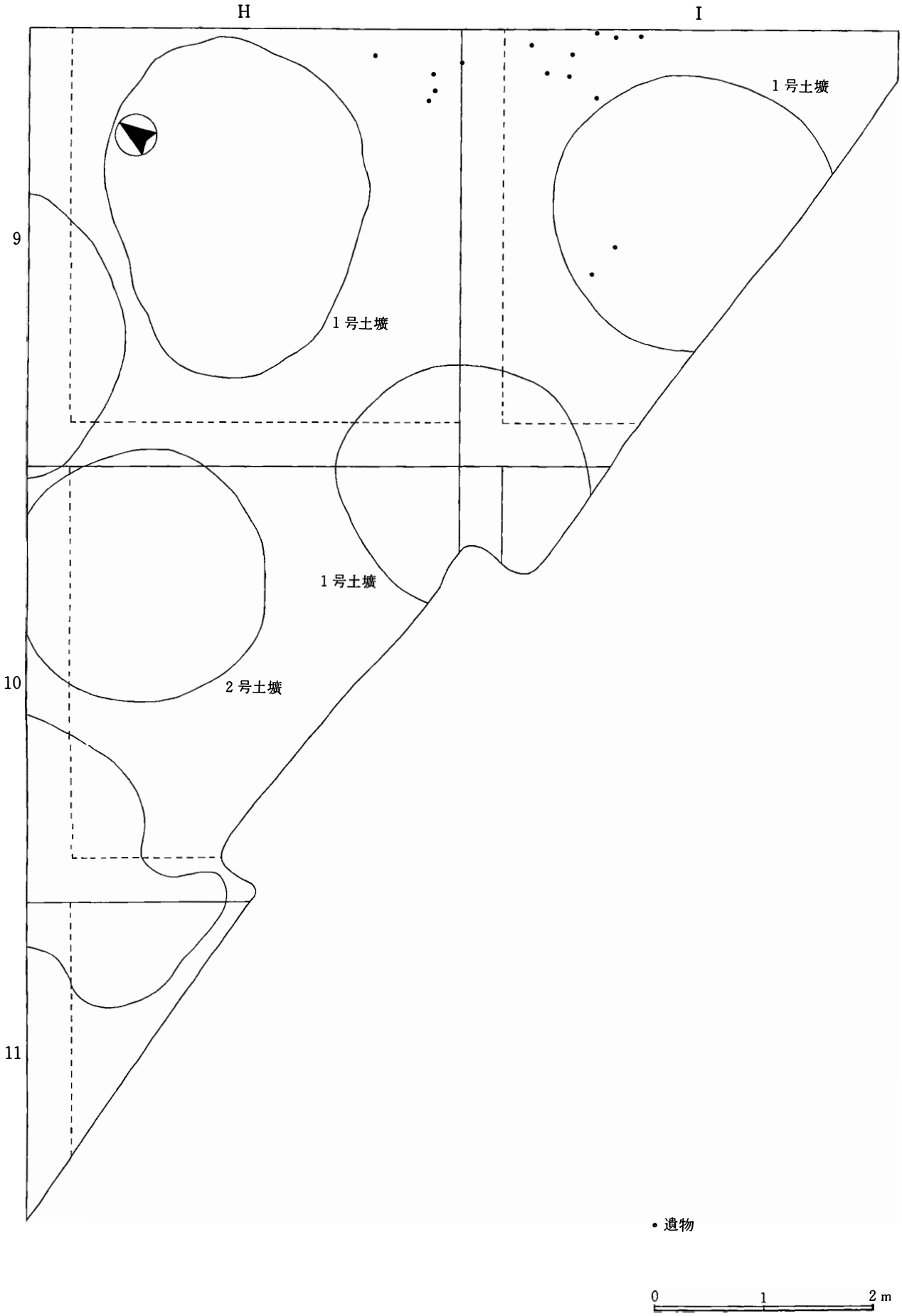

**第12図　Ⅳ～Ⅴ層遺物出土状態図（6）**



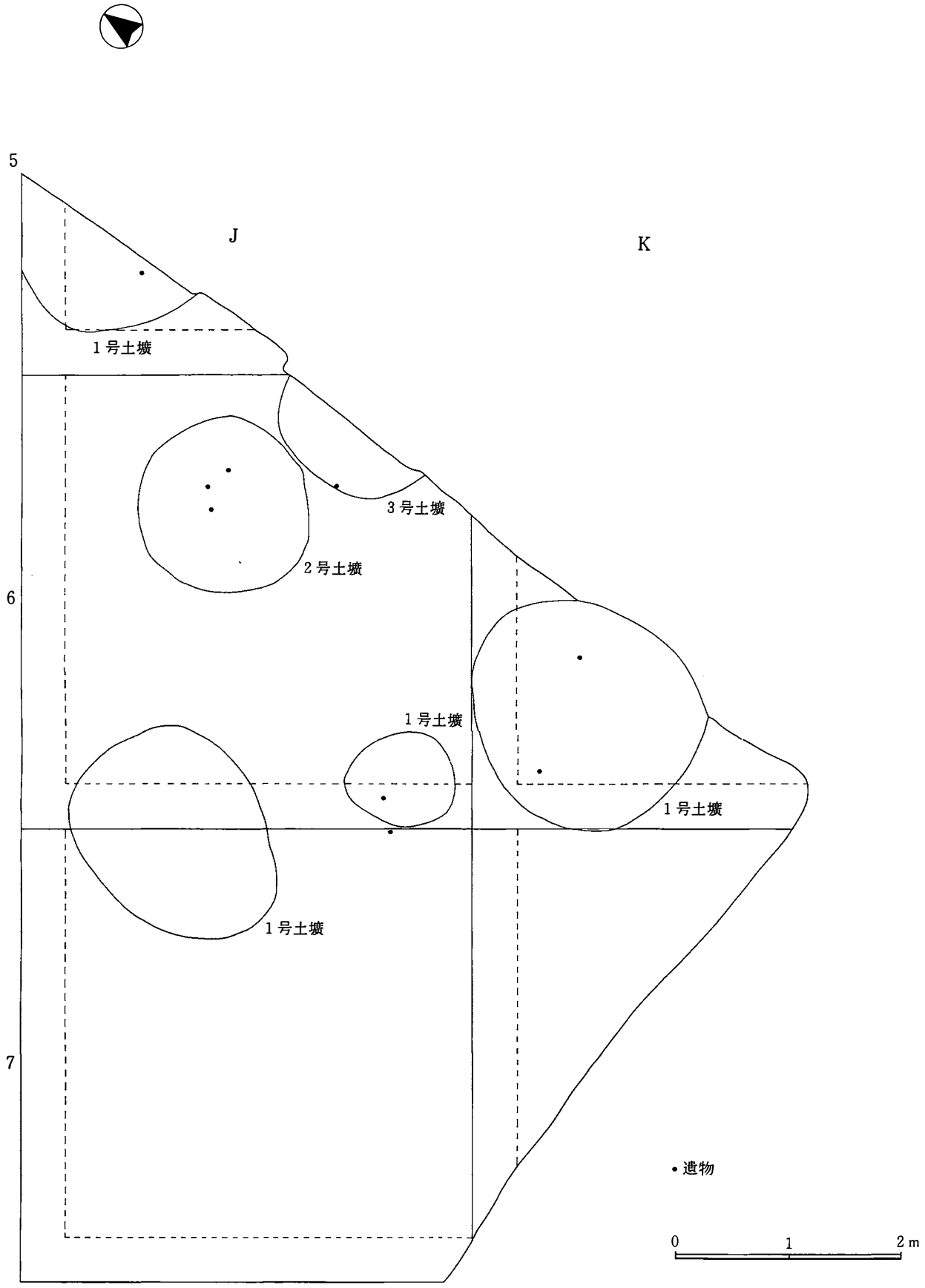

第13図　Ⅳ～Ⅴ層遺物出土状態図（７）



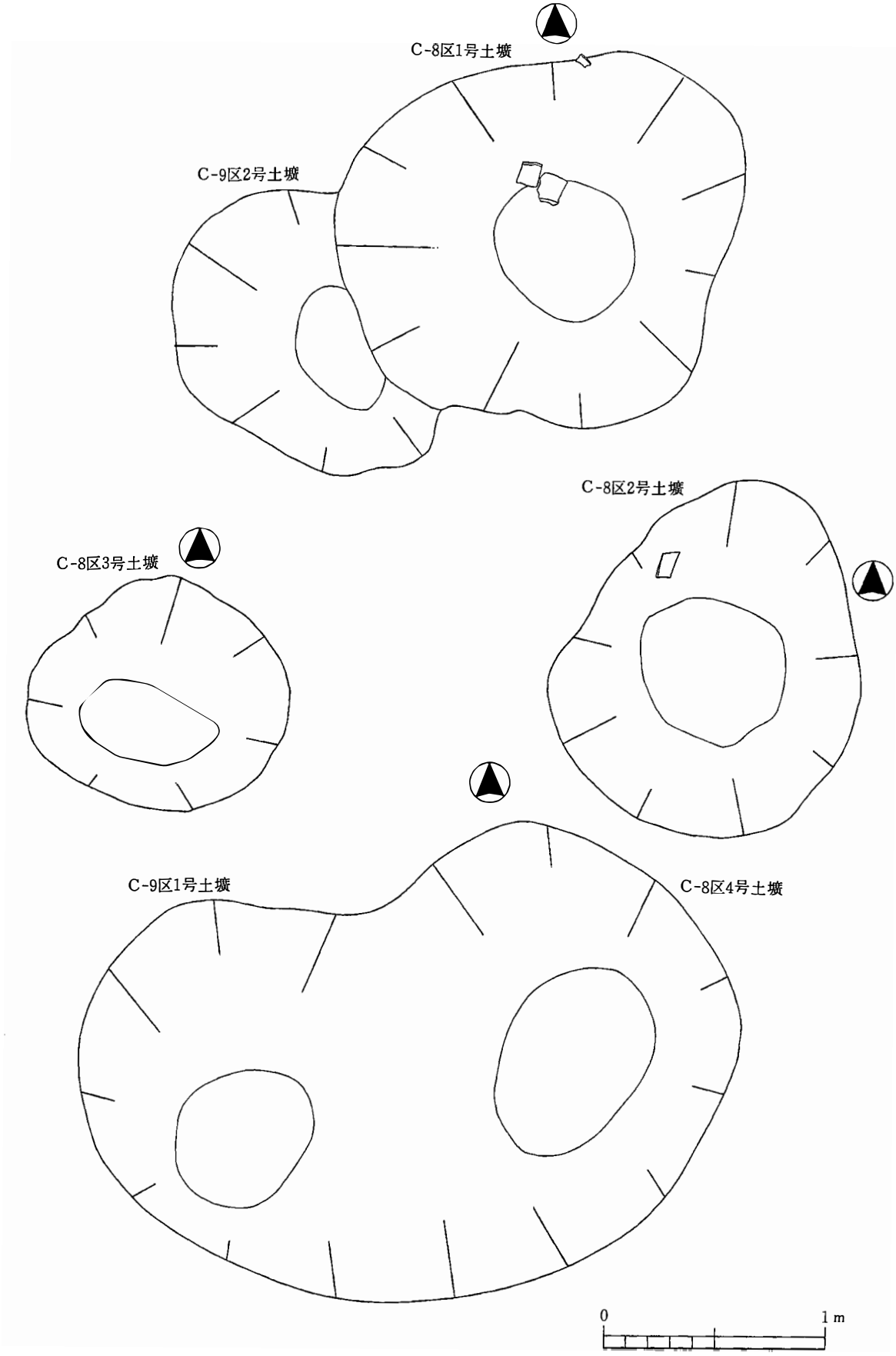

第14図　Ⅳ～Ⅴ層遺物出土状態図（８）



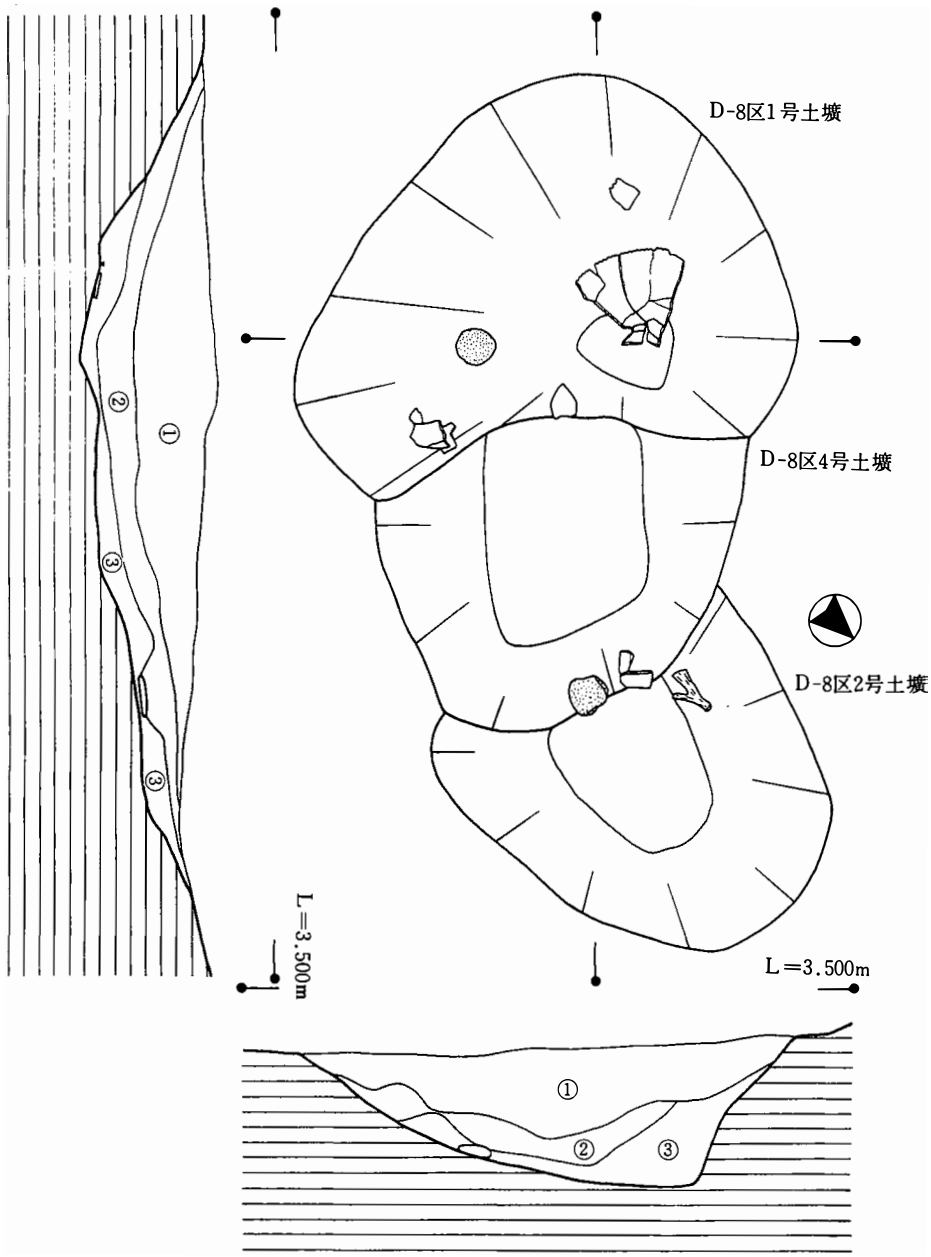

**第15図　Ⅳ～Ⅴ層遺物出土状態図（９）**



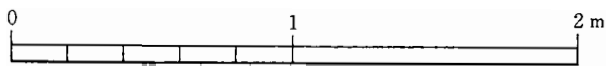

第16図　Ⅳ～Ⅴ層遺物出土状態図（10）



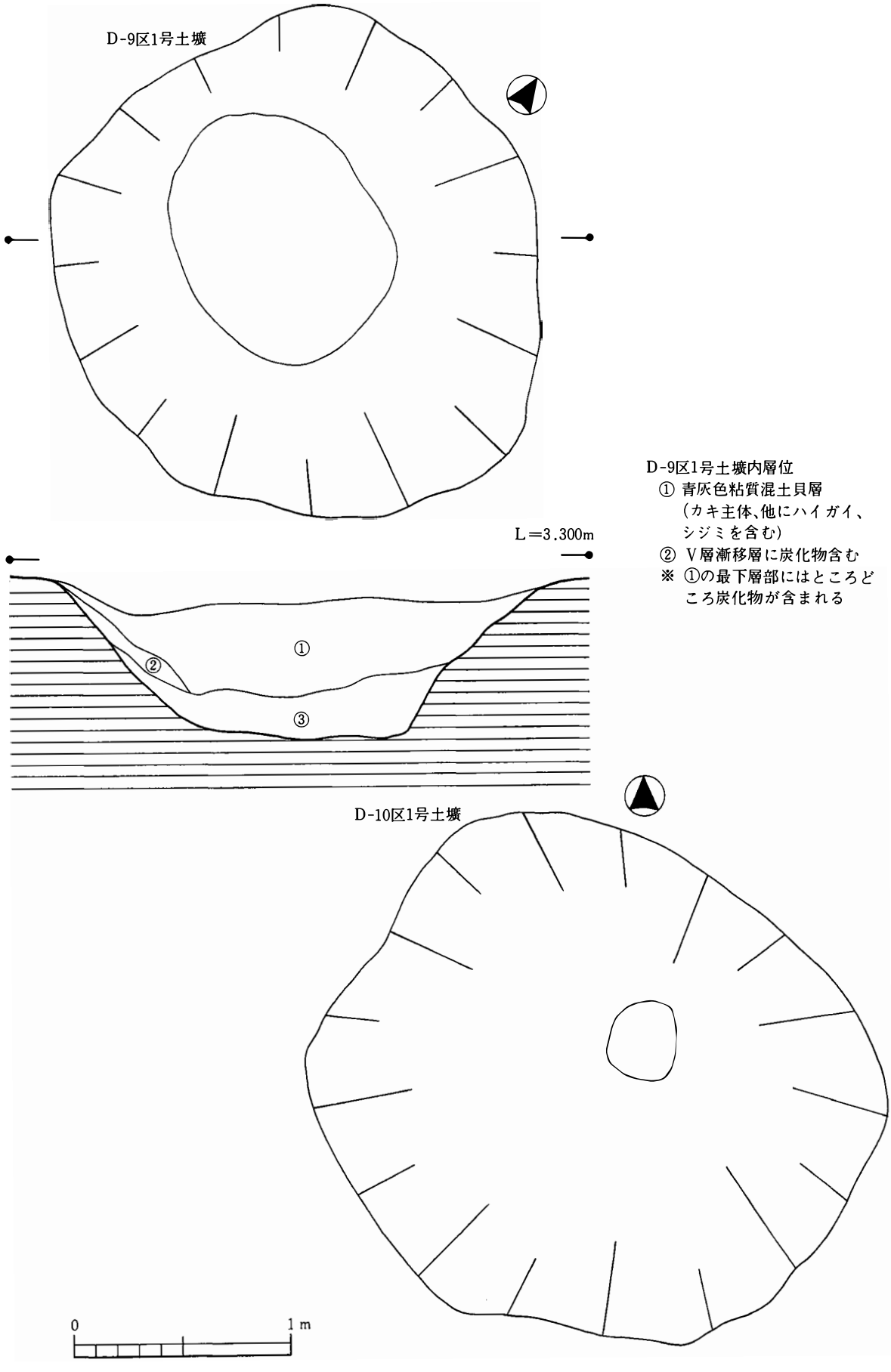

**第17図　土壙実測図（１）**



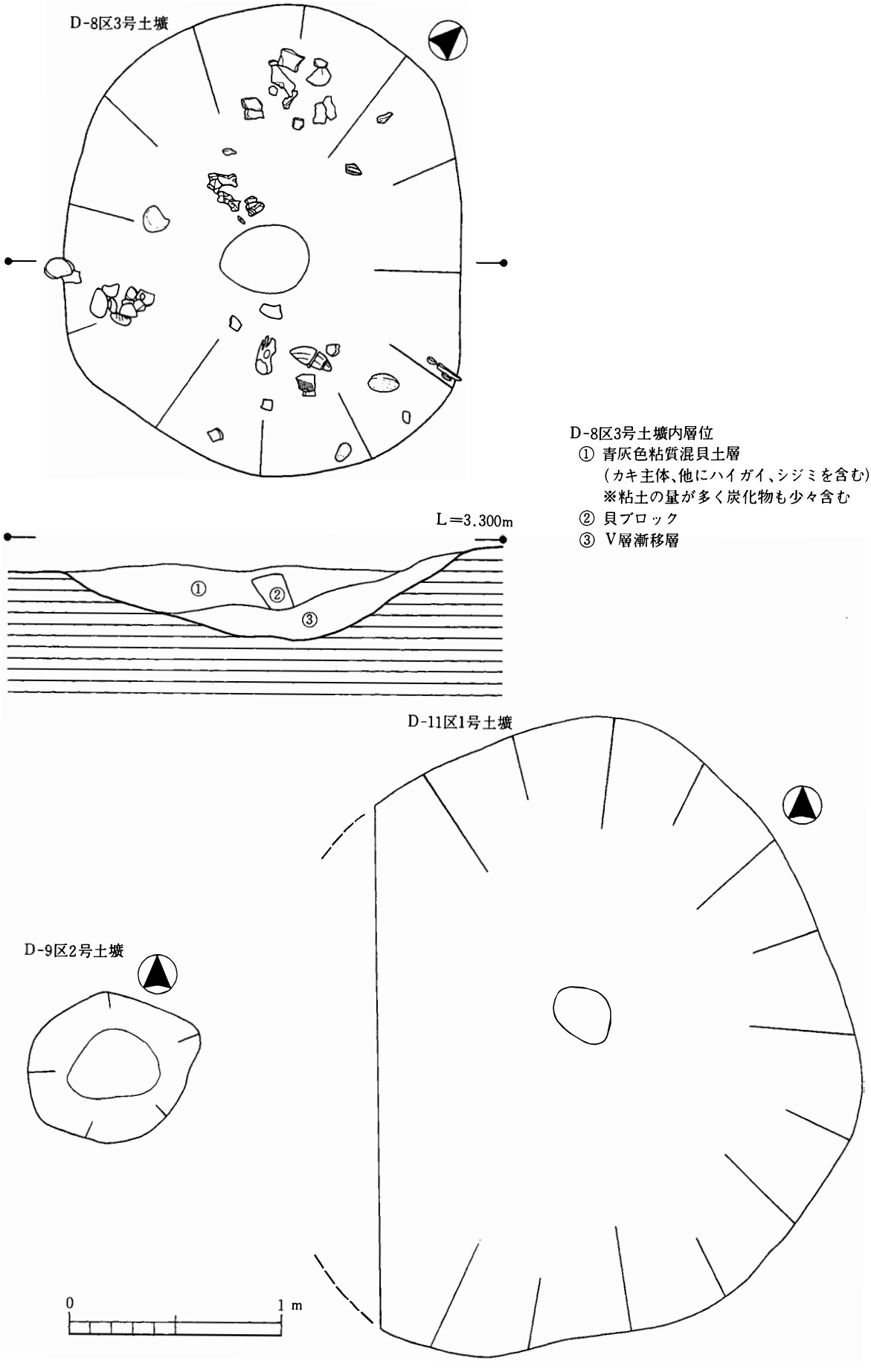

D-8区1号2号4号土壙内層位
① 青灰色粘質混土貝層
（カキ主体、ハイガイ、ハマグリを含む）
② Ⅴ層漸移層（多く貝を含む）
③ Ⅴ層漸移層



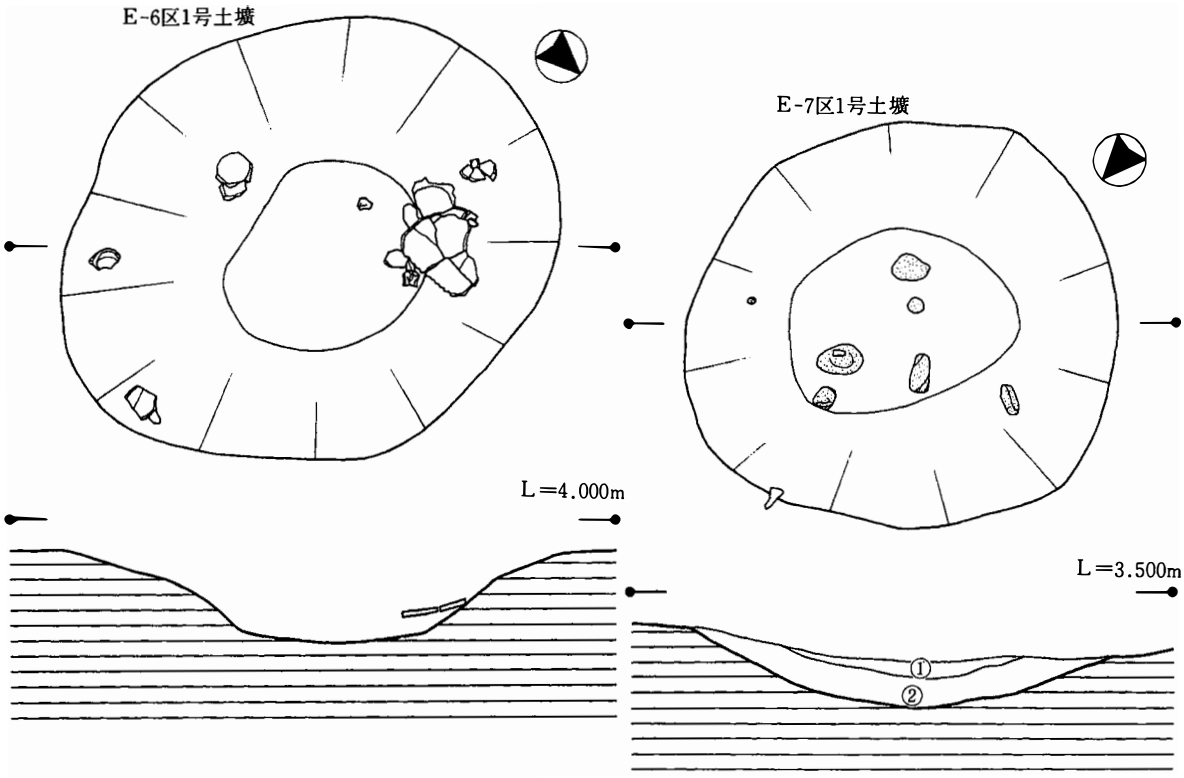

**第18図　土壙実測図（２）**


D-9区1号土壙
L＝3.300m
①
②
③
D-9区1号土壙内層位
① 青灰色粘質混土貝層
（カキ主体、他にハイガイ、
シジミを含む）
② Ⅴ層漸移層に炭化物含む
※ ①の最下層部にはところど
ころ炭化物が含まれる
D-10区1号土壙
0
1 m

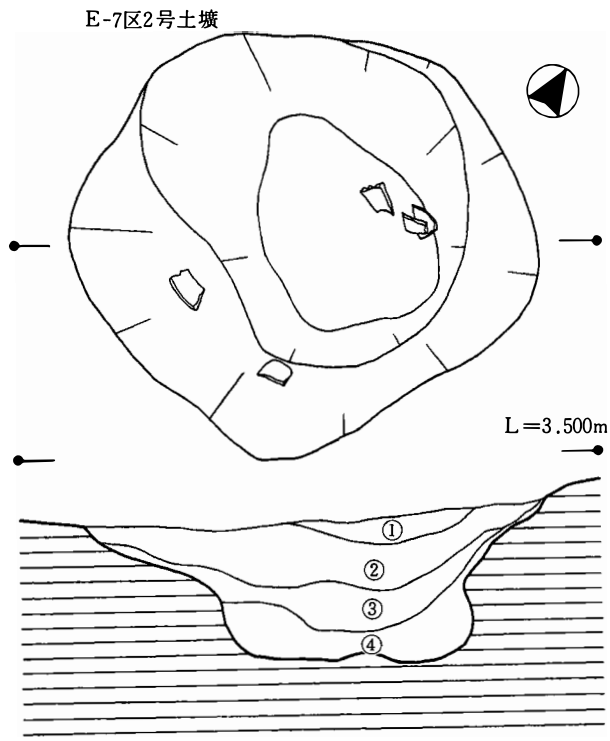
**第19図　土壙実測図（３）**


D-8区3号土壙
L＝3.300m
①
②
③
D-8区3号土壙内層位
① 青灰色粘質混貝土層
（カキ主体、他にハイガイ、シジミを含む）
※粘土の量が多く炭化物も少々含む
② 貝ブロック
③ Ⅴ層漸移層
D-11区1号土壙
D-9区2号土壙
0
1 m

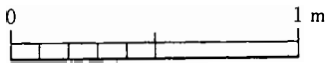
**第20図　土壙実測図（４）**



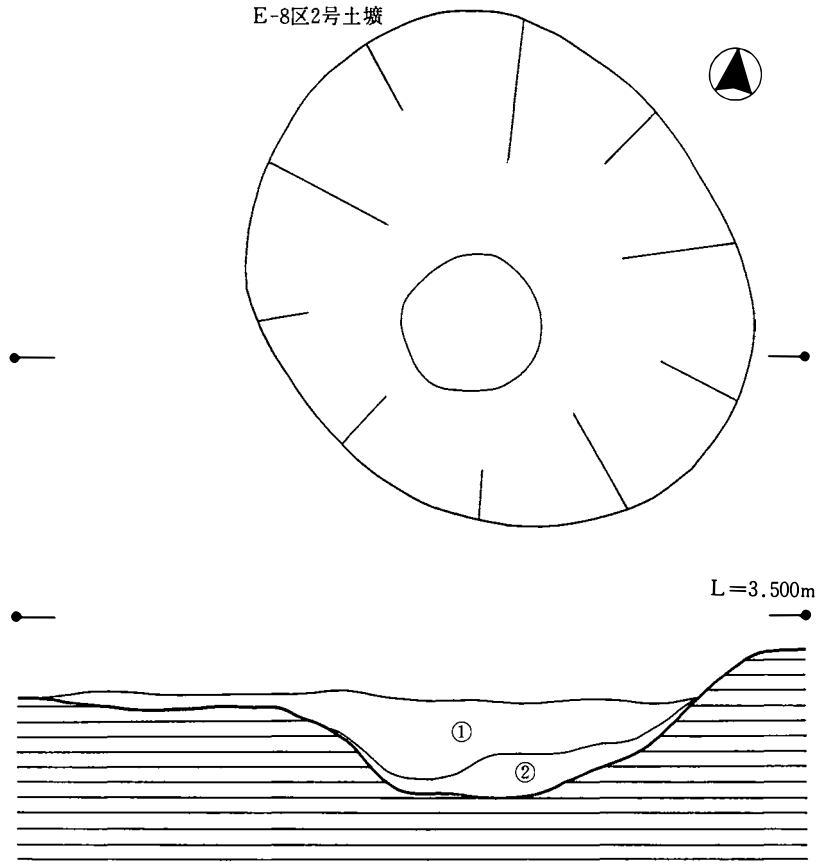

E-7区1号土壙内層位
① 青灰色粘質混土貝層
（カキ主体、ハマグリ、ハイガイを含む）
② Ⅴ層漸移層



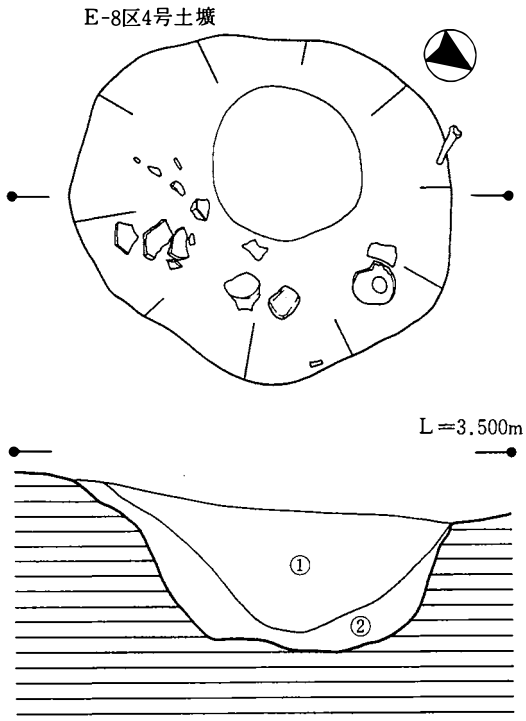

E-7区2号土壙内層位
① 青灰色粘質混土貝層
（カキ主体、ハマグリ、ハイガイ、シジミを含む）
② 破砕貝層
③ Ⅴ層漸移層（貝を多く含む）
④ Ⅴ層漸移層



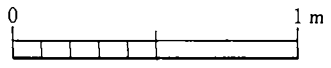

**第21図　土壙実測図（５）**



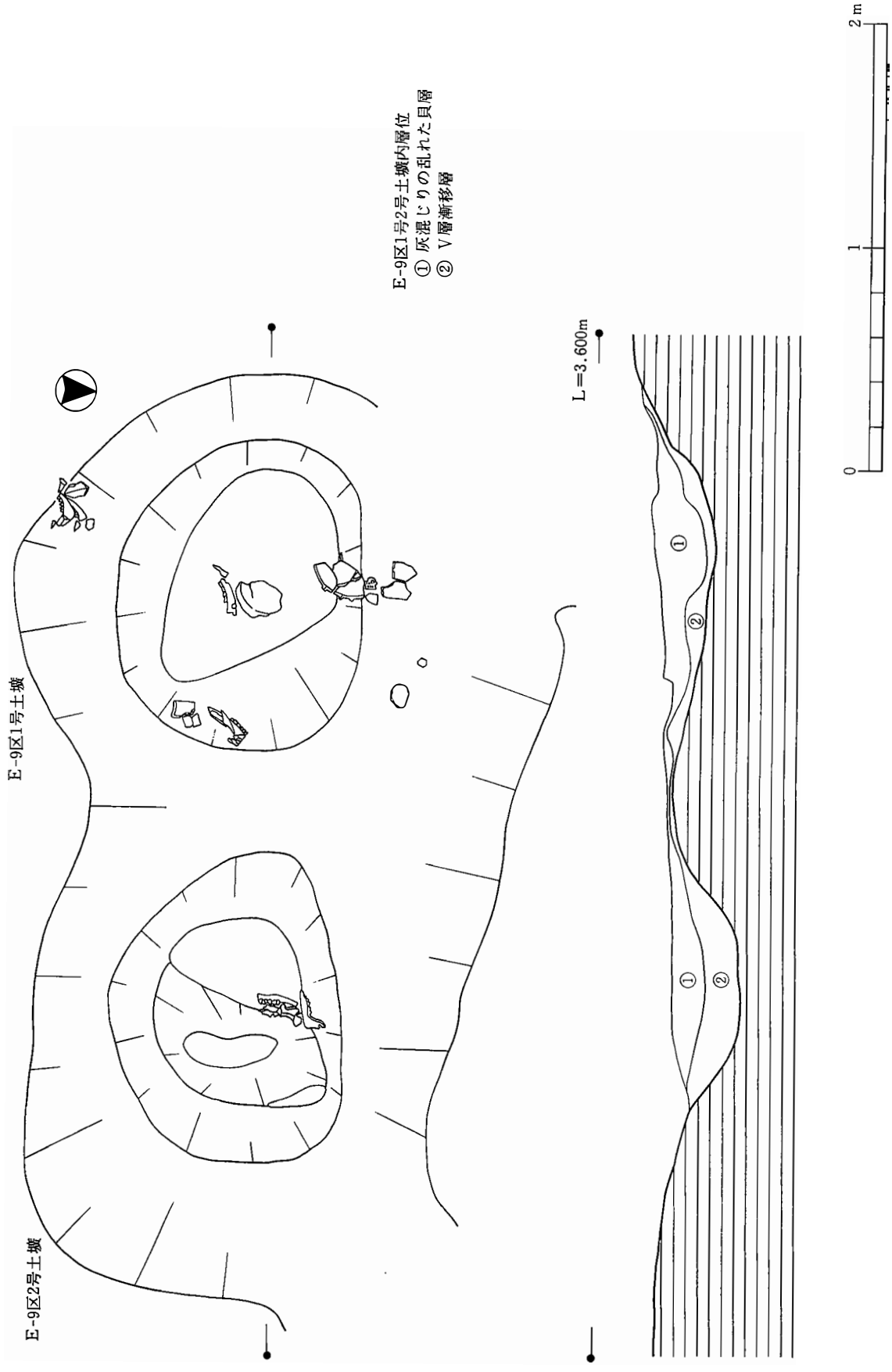

E-8区2号土壙内層位
① 青灰色粘質混土貝層
（カキ主体、ハイガイ、シジミ、ハマグリを含む）
② Ⅴ層漸移層



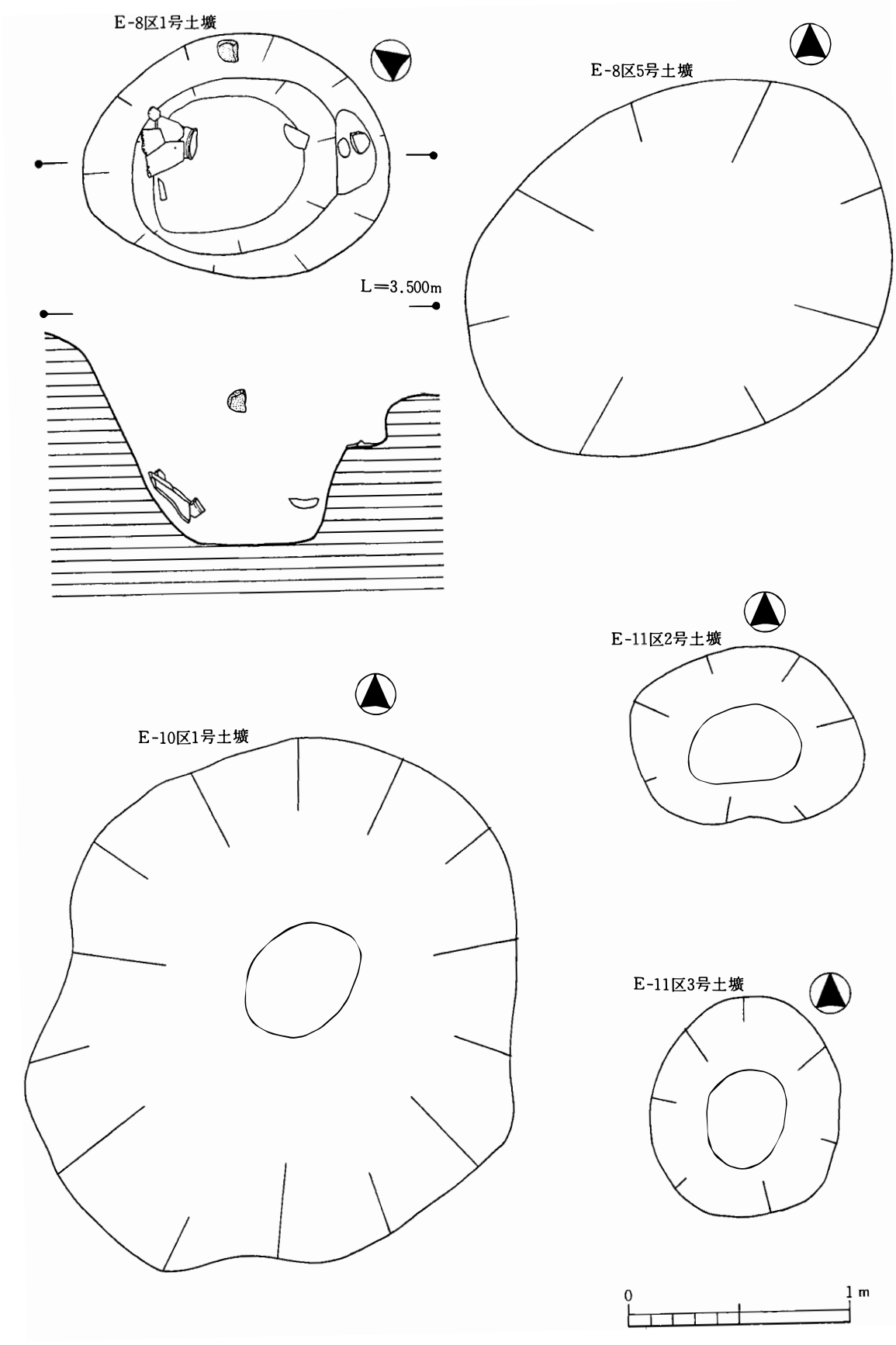

E-8区4号土壙内層位
① 青灰色粘質混土貝層
（カキ主体、ハマグリ、ハイガイを含む）
② Ⅴ層漸移層



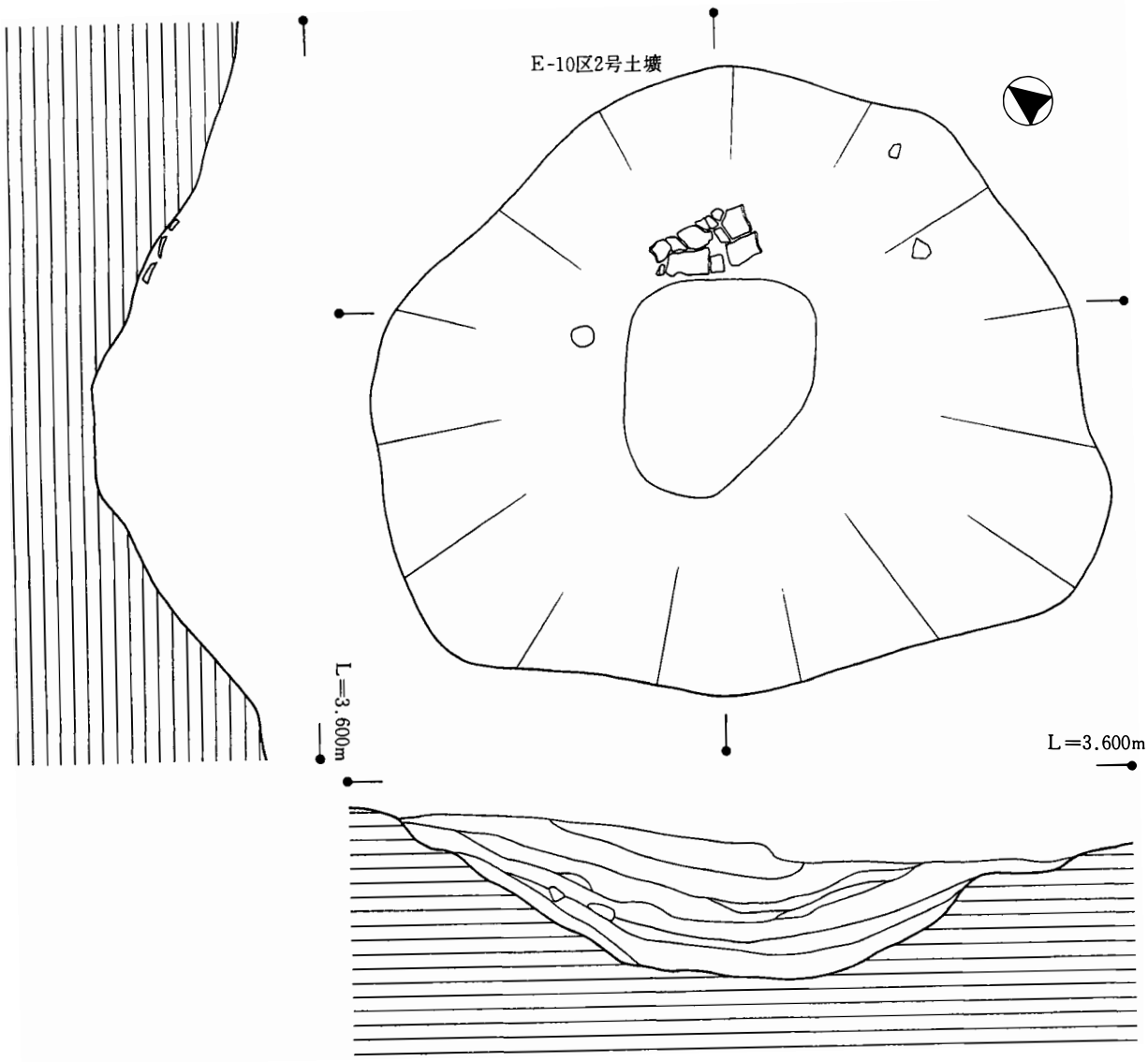

**第22図　土壙実測図（6）**


E-9区1号2号土壙内層位
① 灰混じりの乱れた貝層
② Ⅴ層漸移層
E-9区1号土壙
E-9区2号土壙
L=3.600m
2m
1
0

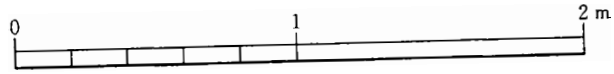
**第23図　土壙実測図（７）**



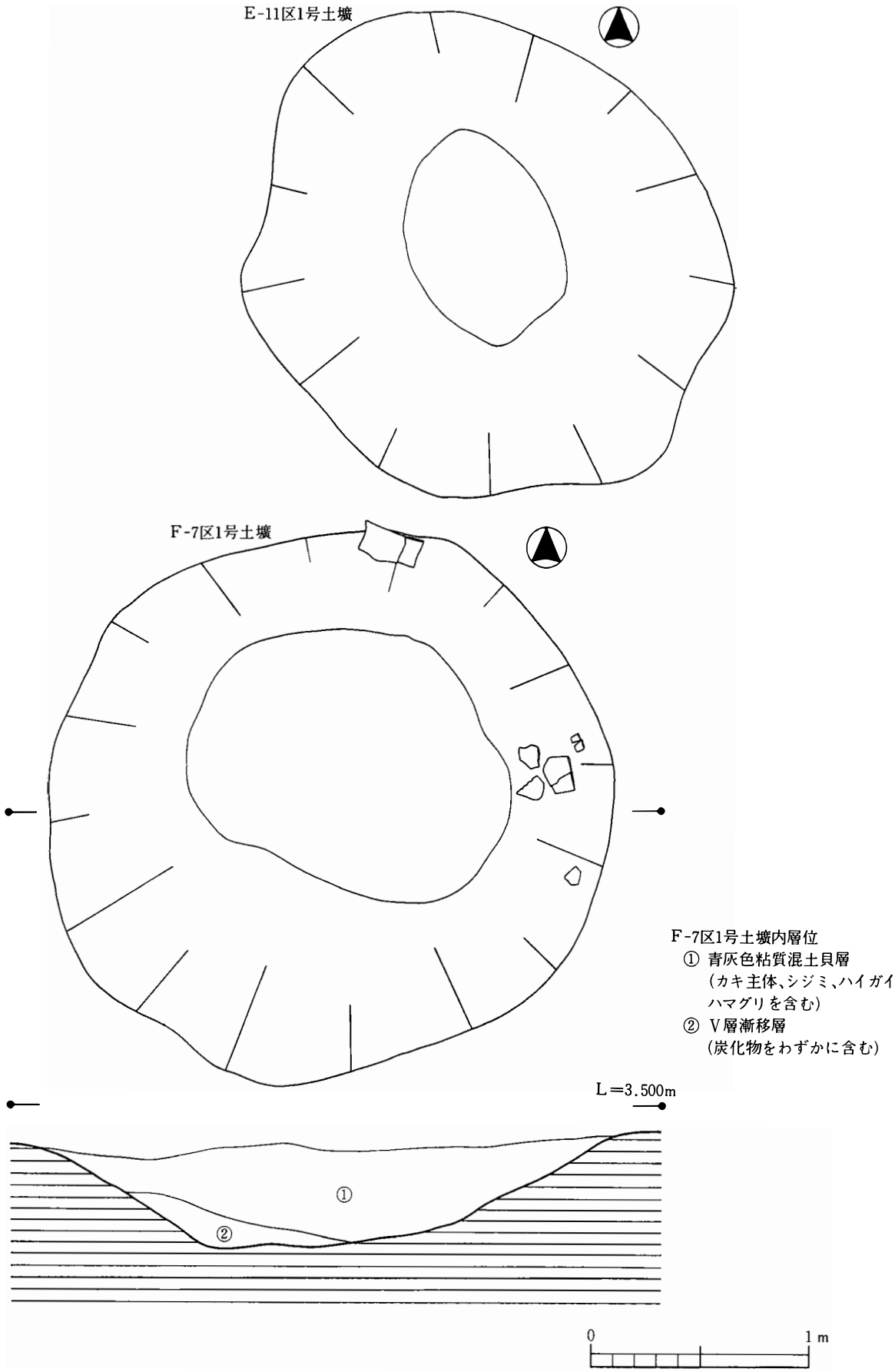

**第24図　土壙実測図（８）**



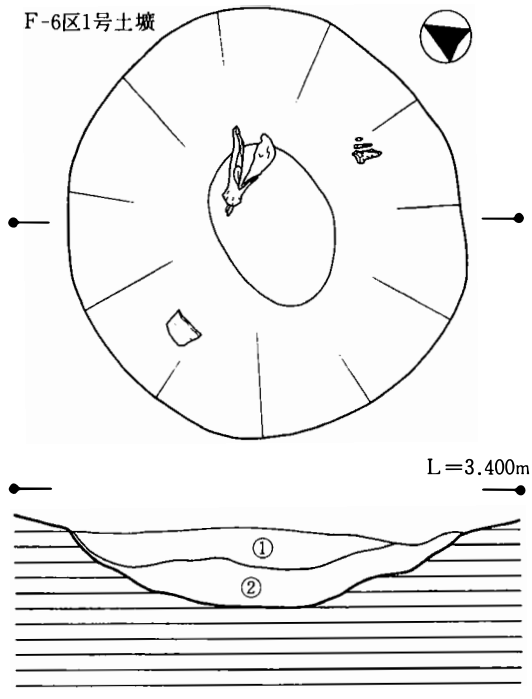

E-10区2号土壙内層位
※層位記録もれ



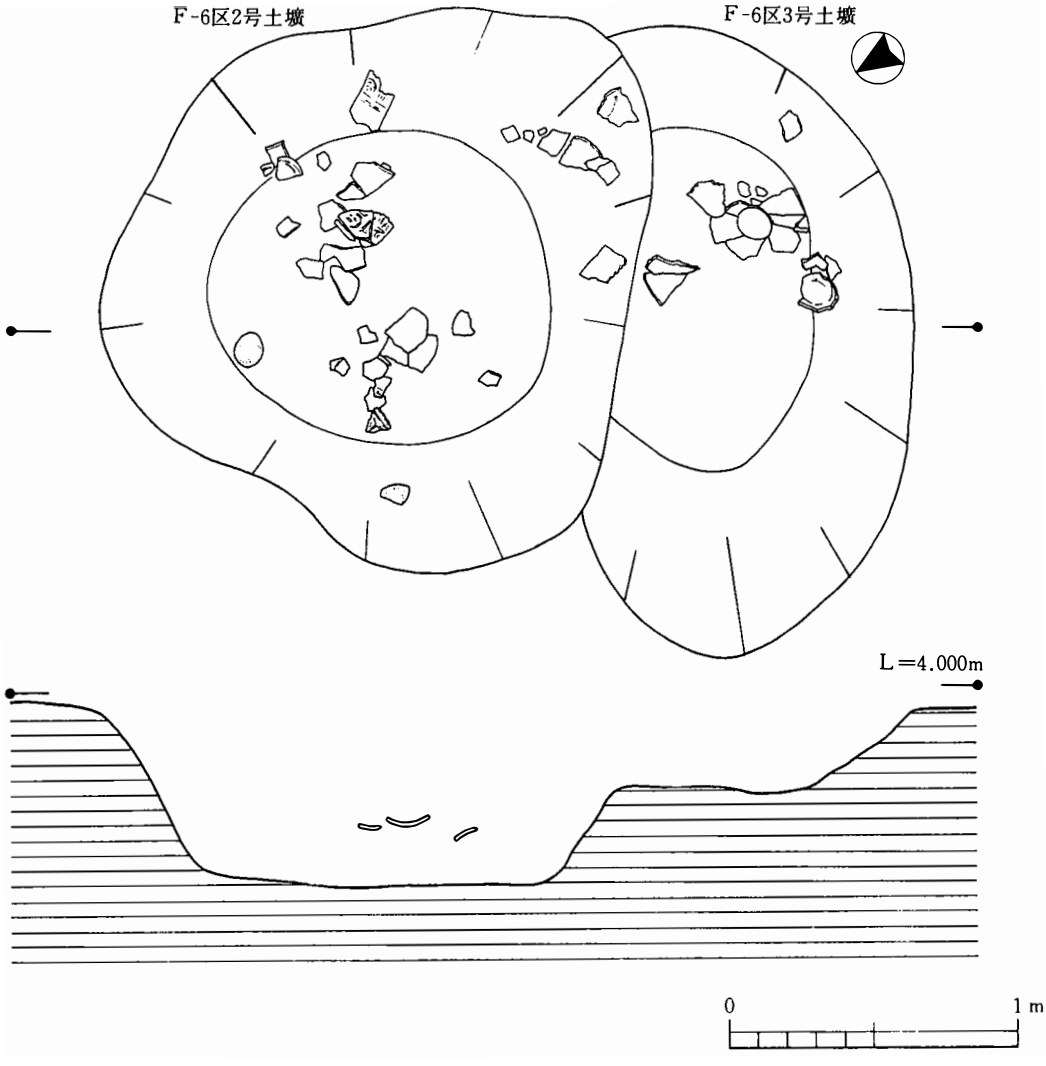

**第25図　土壙実測図（９）**



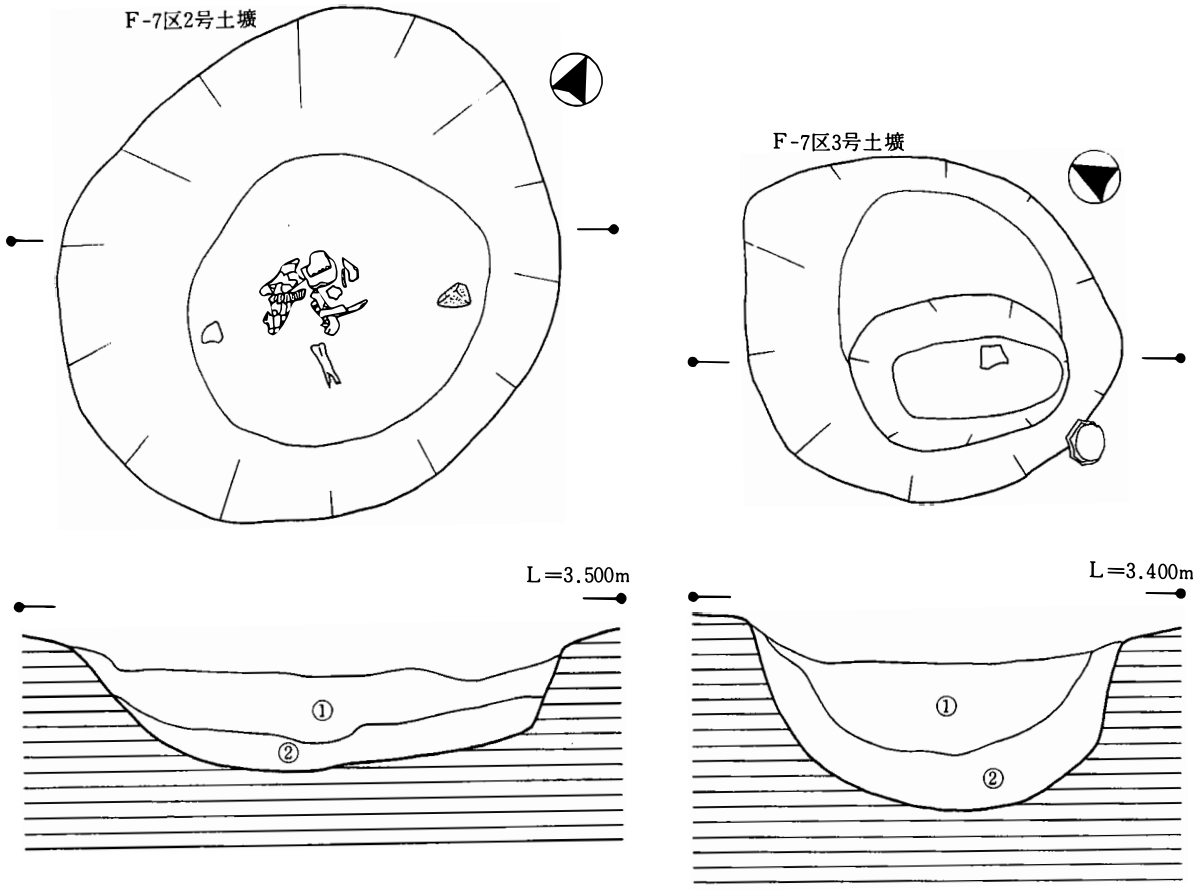

**第26図　土壙実測図（10）**




F-6区1号土壙内層位
① 暗灰色粘質混土貝層
（カキ主体、シジミ、全体的に破片が細かい）
② Ⅴ層漸移層

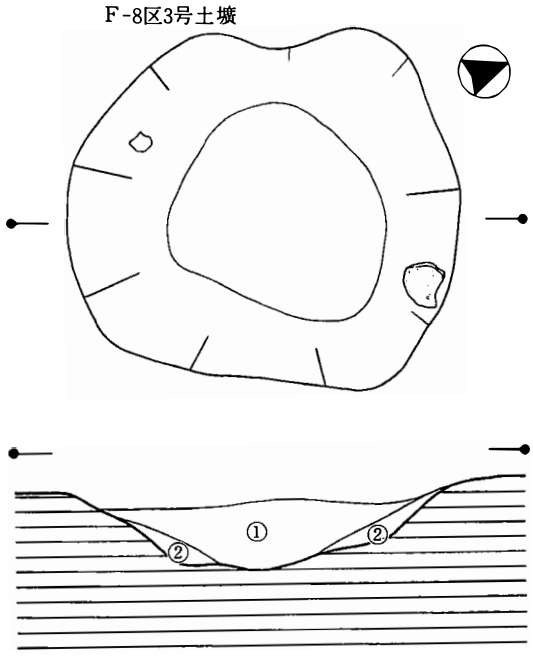



**第27図　土壙実測図（11）**



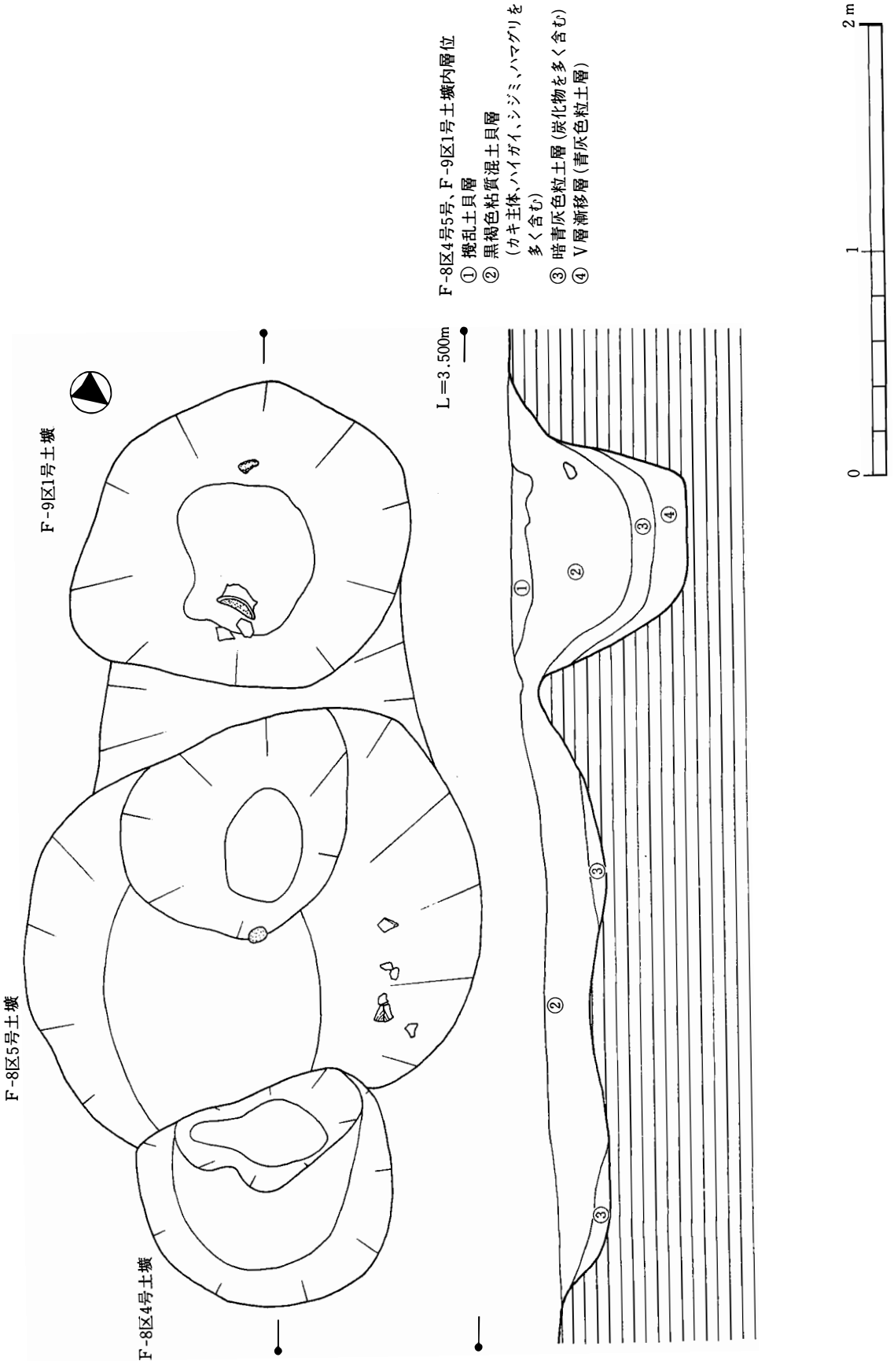

F-7区2号土壙内層位
① 青灰色粘質混土貝層(カキ主体、シジミ、ハイガイをわずかに含む)
② V層漸移層

F-7区3号土壙内層位
① 青灰色粘質混土貝層(カキ主体、シジミをわずかに含む)
② V層漸移層

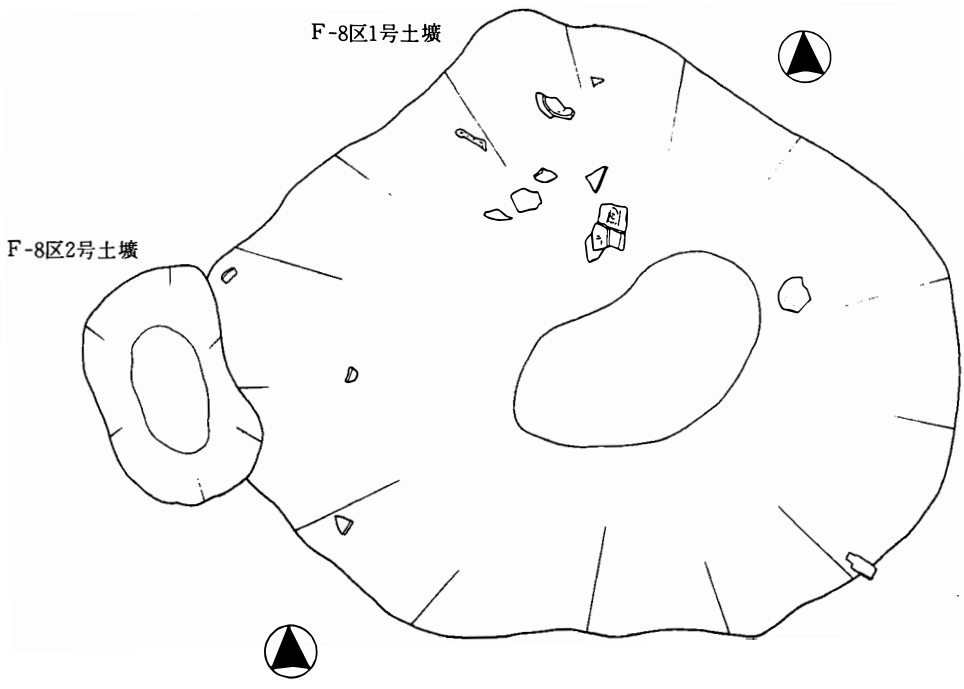


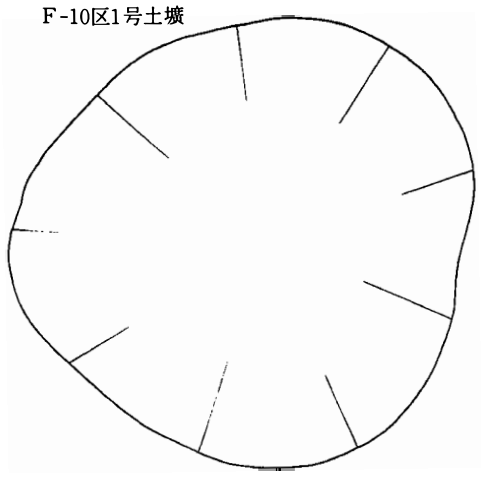

F-8区3号土壙内層位
① 青灰色粘質混土貝層(カキ主体、ハイガイ、シジミ、ハマグリを含む)
② V層漸移層

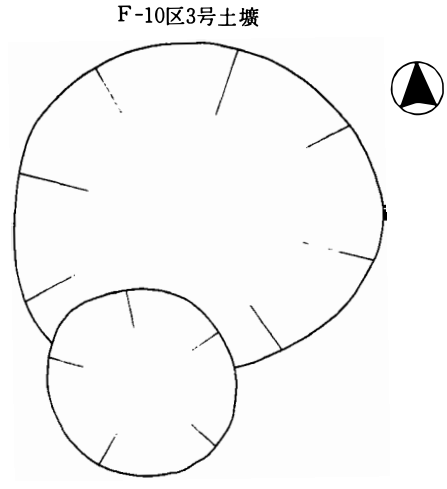
**第28図　土壙実測図（12）**

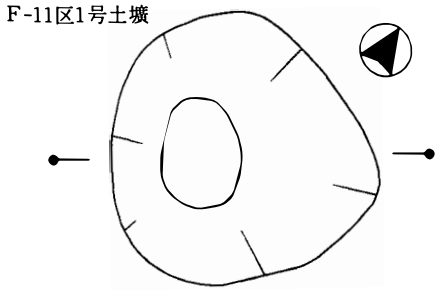


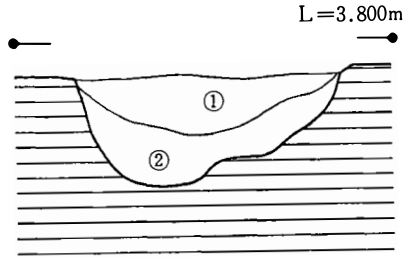

**第29図　土壙実測図（13）**



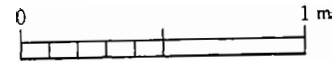



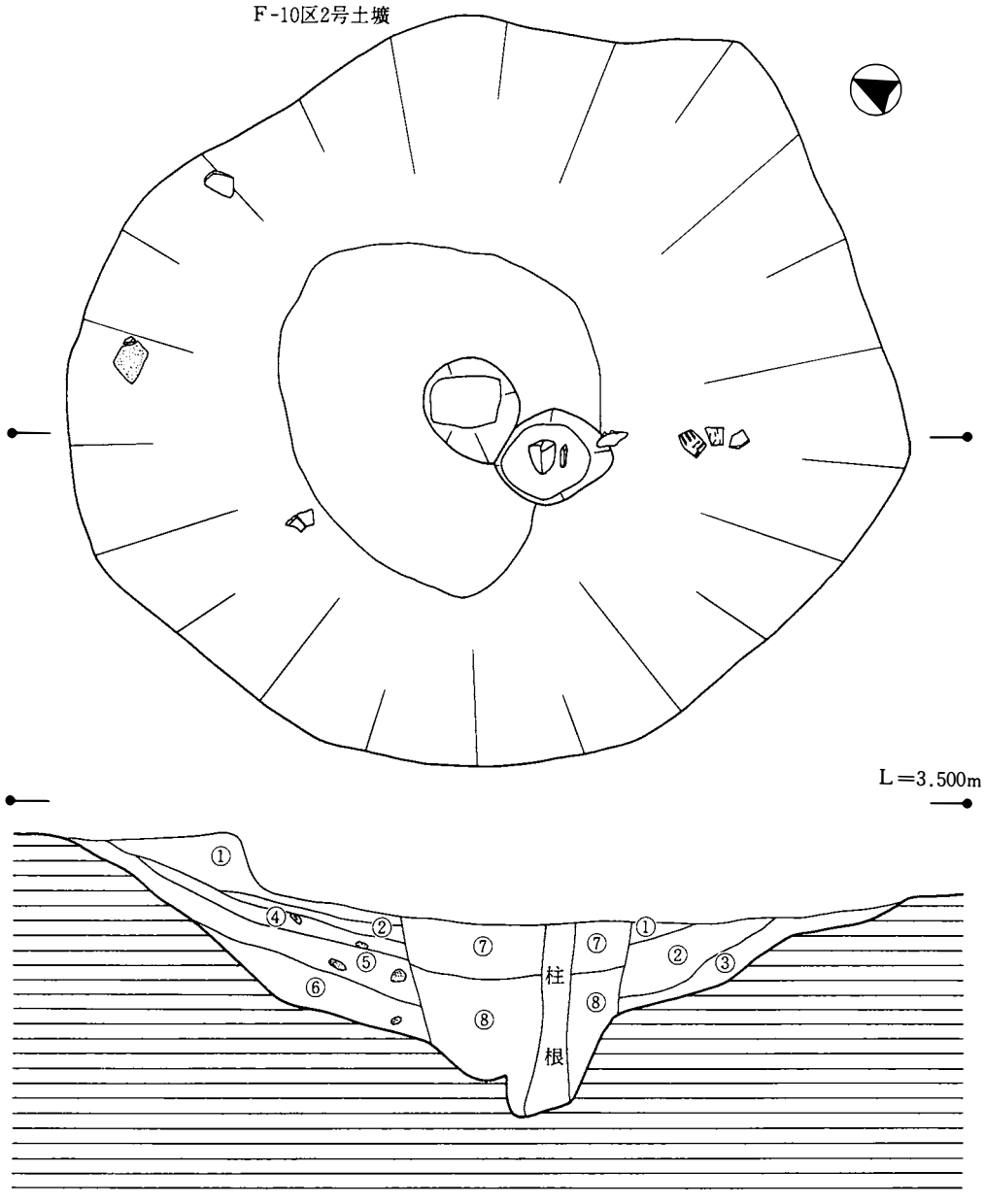




F-11区1号土壙内層位
② 青灰色混貝土層
（粘性が強く、炭化物を多く含む。貝はカキの砂砕層）
② 暗褐色土層
（青緑色粘土ブロックを含み、炭化物も多く含む土質ソフト）

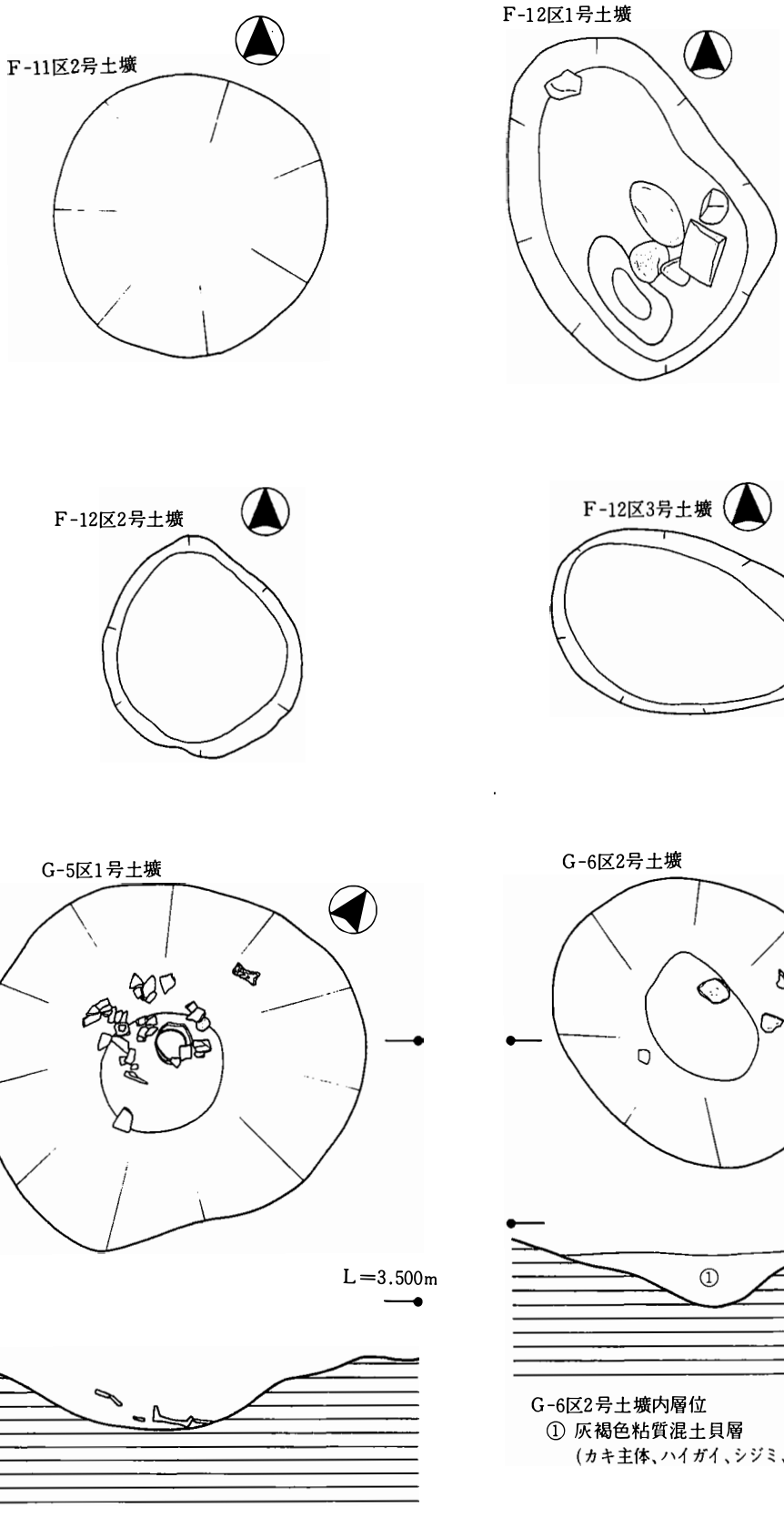



**第30図　土壙実測図（14）**

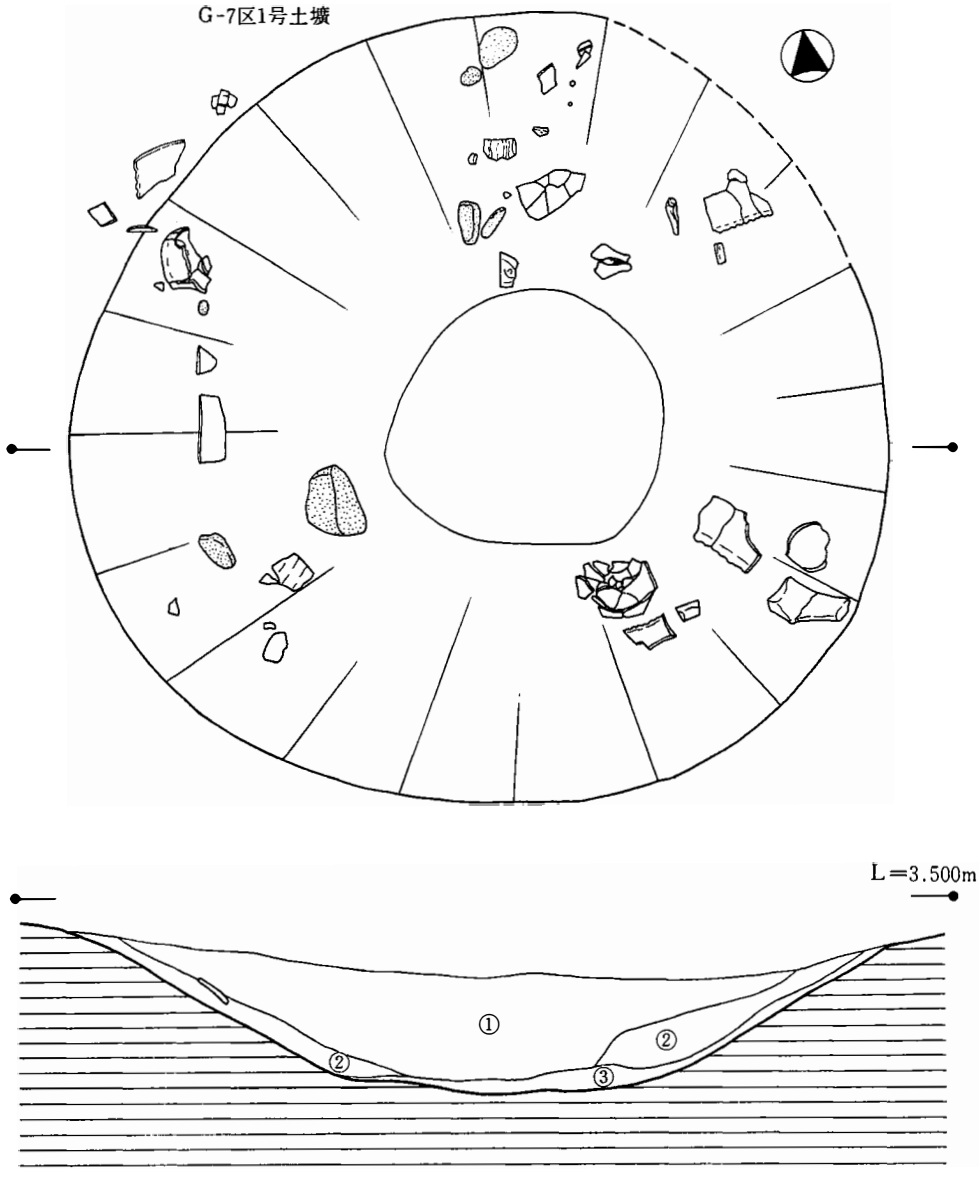



F-10区2号土壙内層位
① 撹乱貝層
② 青灰色粘質混貝土層(カキ主体、シジミを含む。小破片が多い)
③ 暗青灰色粘土層(炭化物を多く含む)
④ 青灰色粘質土層
⑤ 青灰色粘質土層(炭化物を含む。黄褐色に変質)
⑥ Ⅴ層漸移層
柱穴掘り方埋土
⑦ 青灰色粘質土層(炭化物を含み、一部黄褐色に変質)
⑧ 青灰色粘土の変色土層

**第31図　土壙実測図（15）**

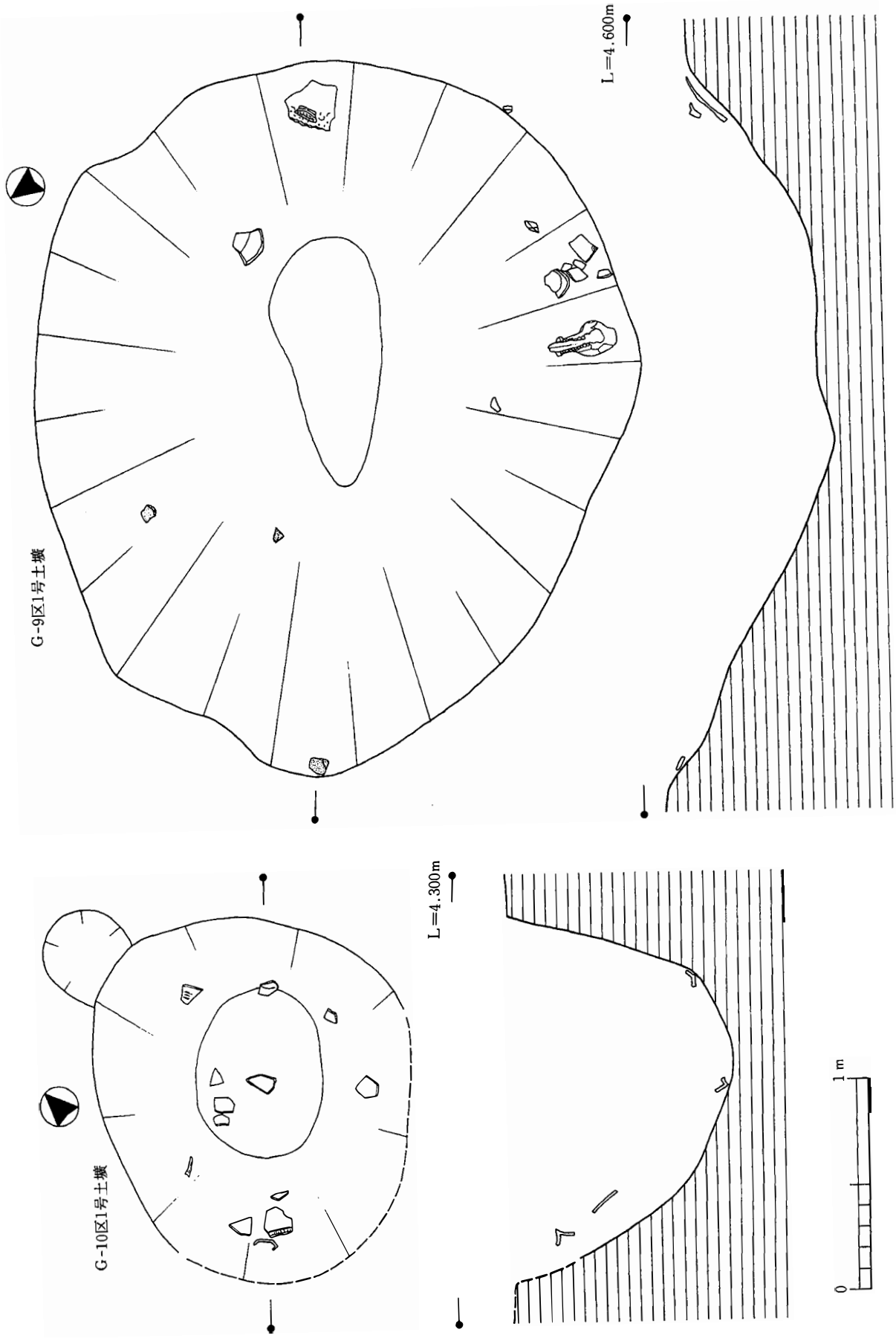



**第32図　土壙実測図（16）**



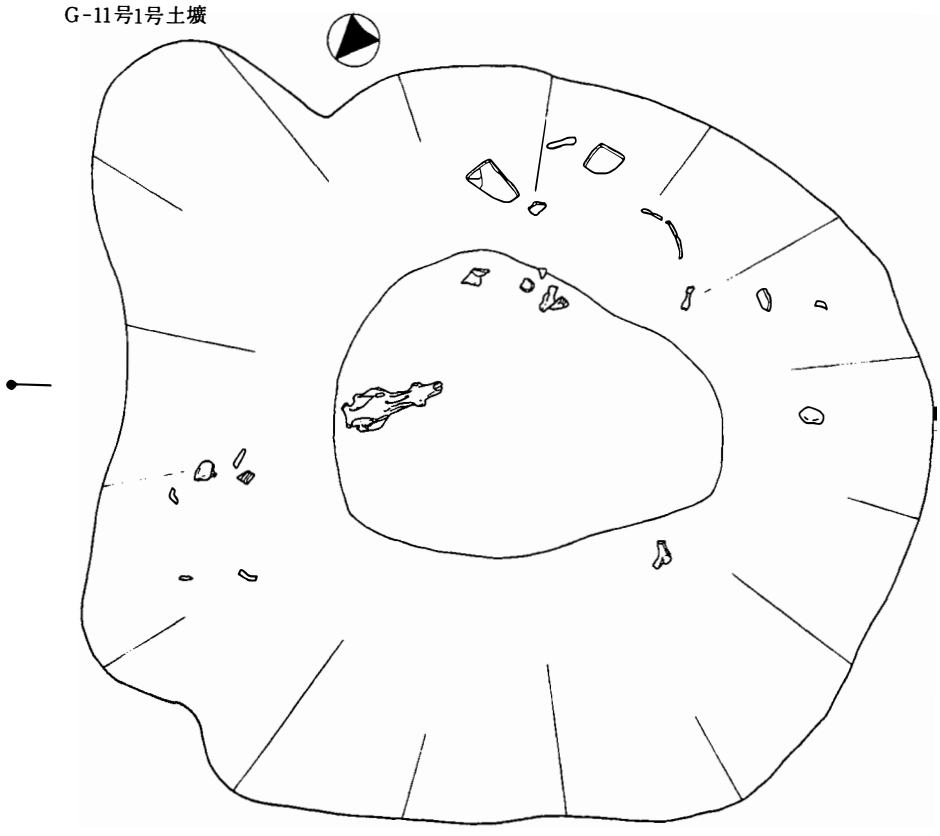

G-7区1号土壙内層位
① 灰褐色粘質混土貝層（カキ主体、シジミのブロックを含む。ハイガイ、ハマグリを含む）
② Ⅴ層漸移層（貝を含む。①に比べ破片が細かい）
③ Ⅴ層漸移層（炭化物を含む）

**第33図　土壙実測図（17）**

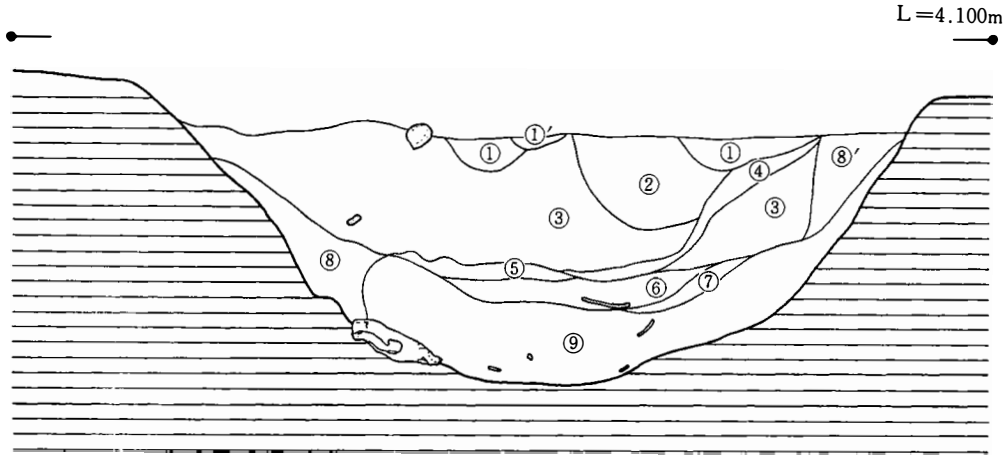



第34図　土壙実測図（18）

G-11号1号土壙

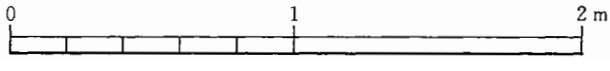


L＝4.100m

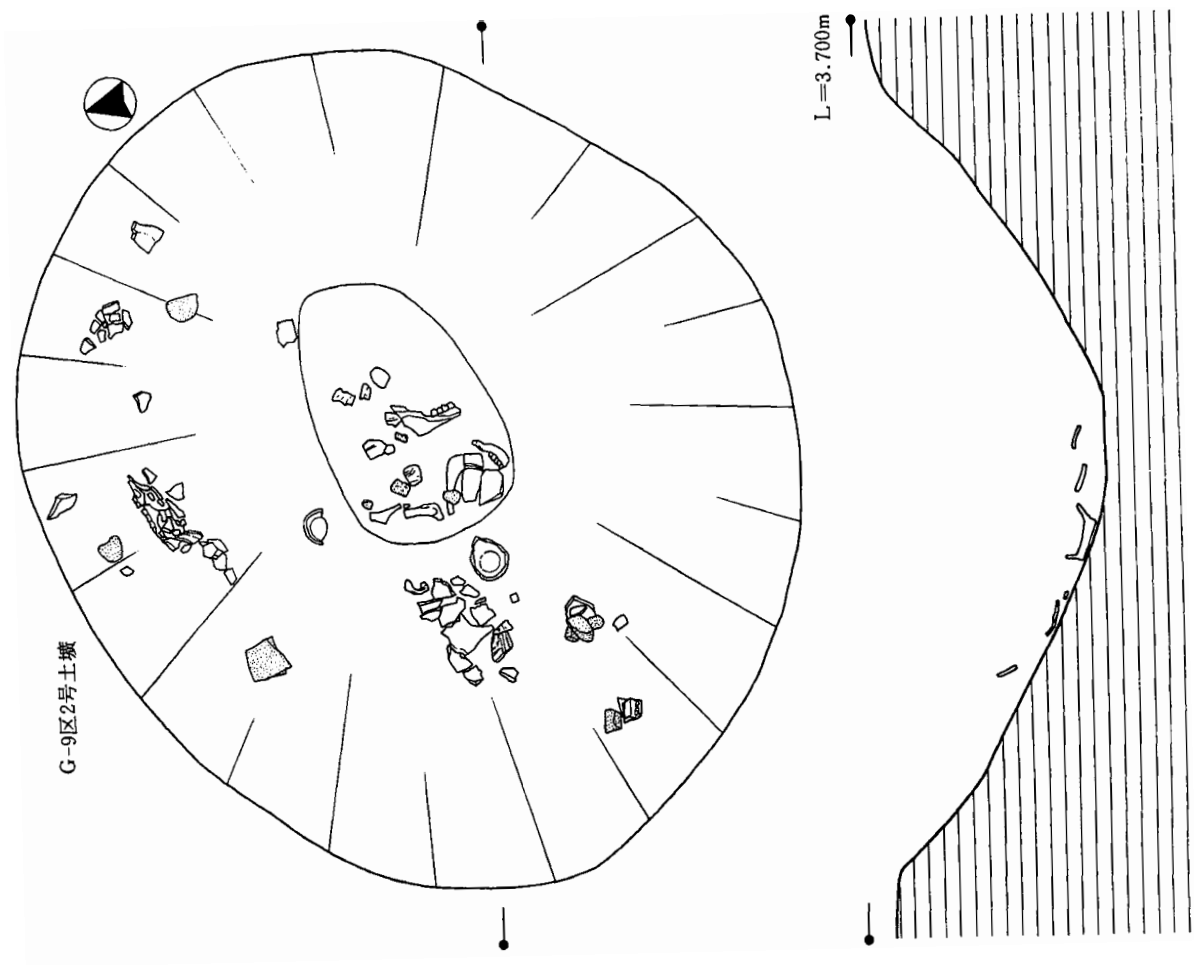


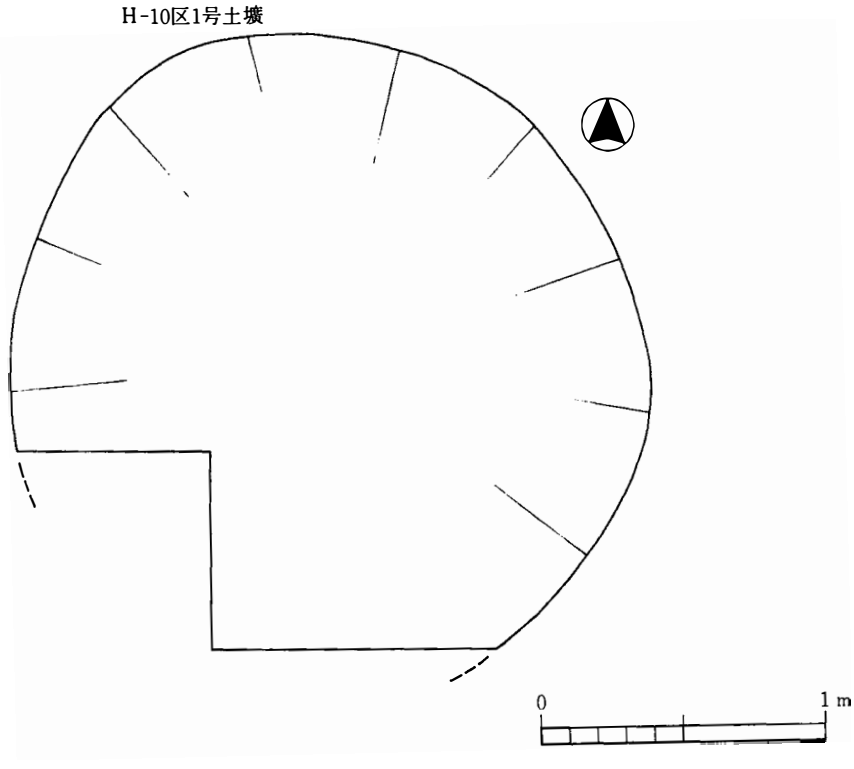

G-11区1号土壙内層位

① 暗褐色粘質土層(点々と炭化物含む。①′も同様)
② 破砕混貝土層(カキの小破片を多く含む)
③ ②に類似するが、青緑色粘土ブロックを多く含む
④ 粉末貝層
⑤ 焼土層
⑥ 暗青灰色粘質土層(炭化物粒含む)
⑦ 黄褐色土層(焼土を含む)
⑧ 暗黒色土層(粒子が細かくソフト)
⑧′⑧に類似するがややチョコレート色に近い。
⑨ 青灰色粘土層(ハードで粘性強い)

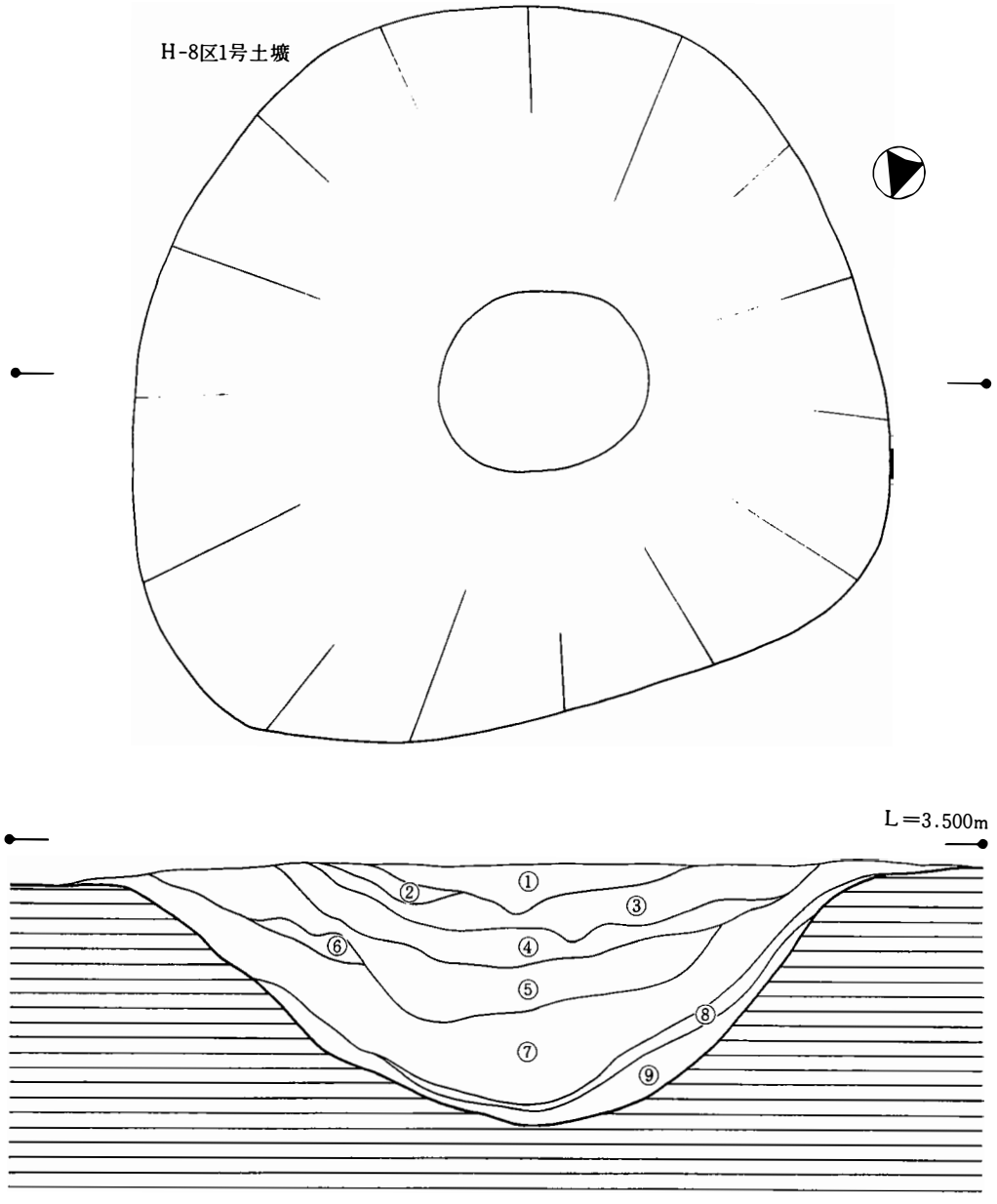



**第35図　土壙実測図（19）**



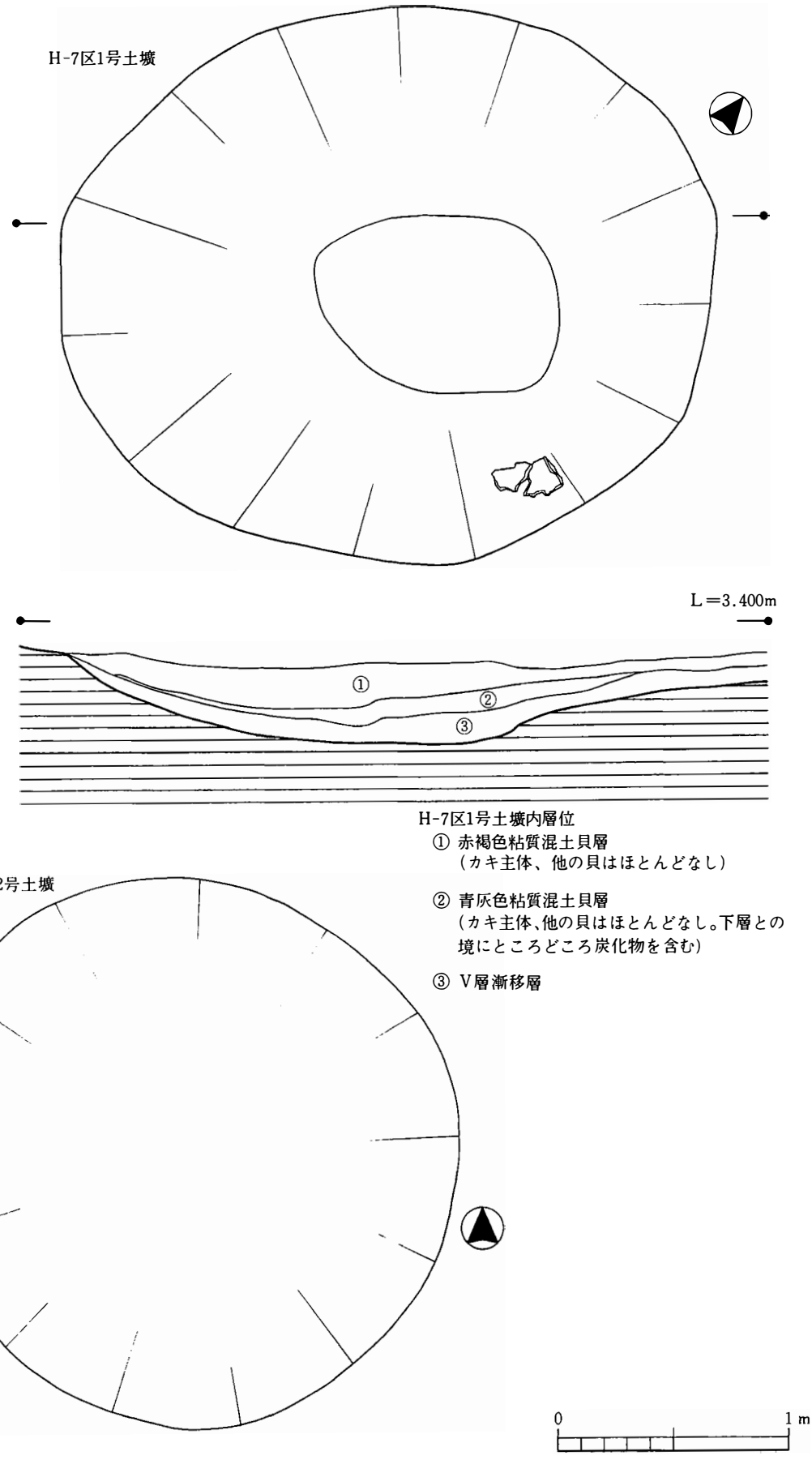




**第36図　土壙実測図（20）**

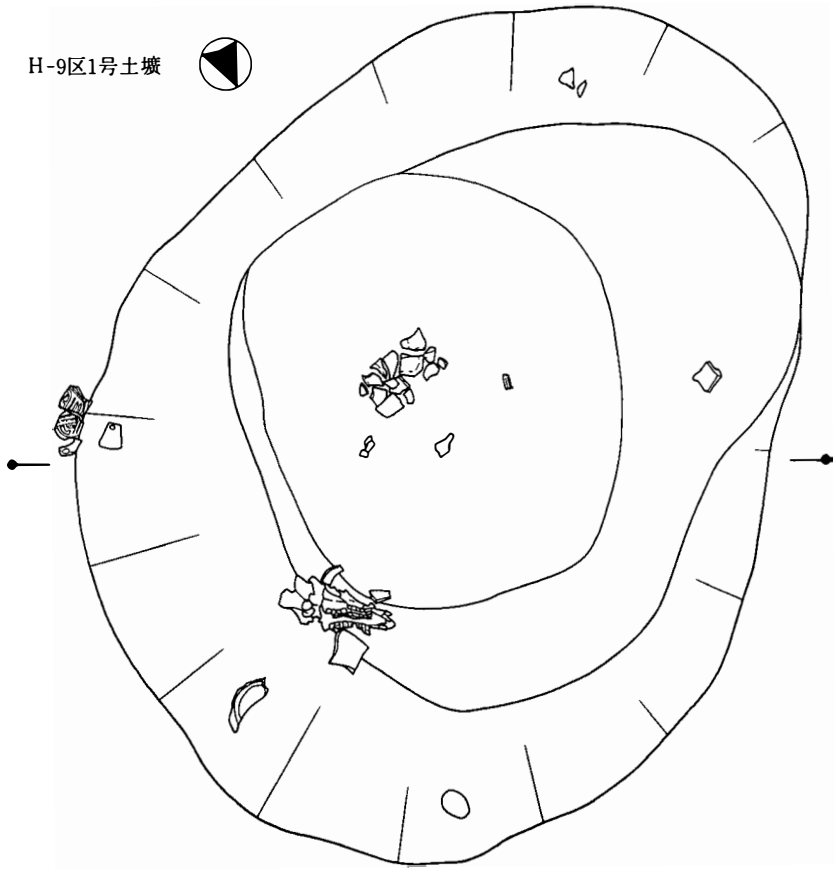



H-8区1号土壙内層位
① 黒褐色粘質混土貝層（破砕貝層、炭化物･焼土を混入。土器細片含む）
② 暗青灰色粘質混土貝層（シジミ破砕貝層）
③ 暗青灰色粘質土層（炭化物を含む）
④ 暗褐色混土貝層（シジミ、ハマグリ、ハイガイの破砕されたものを多く含む）
⑤ 暗青灰色混土貝層（シジミ主体、カキ、ハイガイ含む）
⑥ 暗青灰色粘土ブロック層（炭化物含む）
⑦ 青灰色粘質混土貝層（カキ主体、ハマグリ、ハイガイ含む。純貝層に近い）
⑧ 赤褐色破砕貝層（カキ主体、シジミ、ハイガイを含む）
⑨ Ⅴ層（青灰色粘土）漸移層

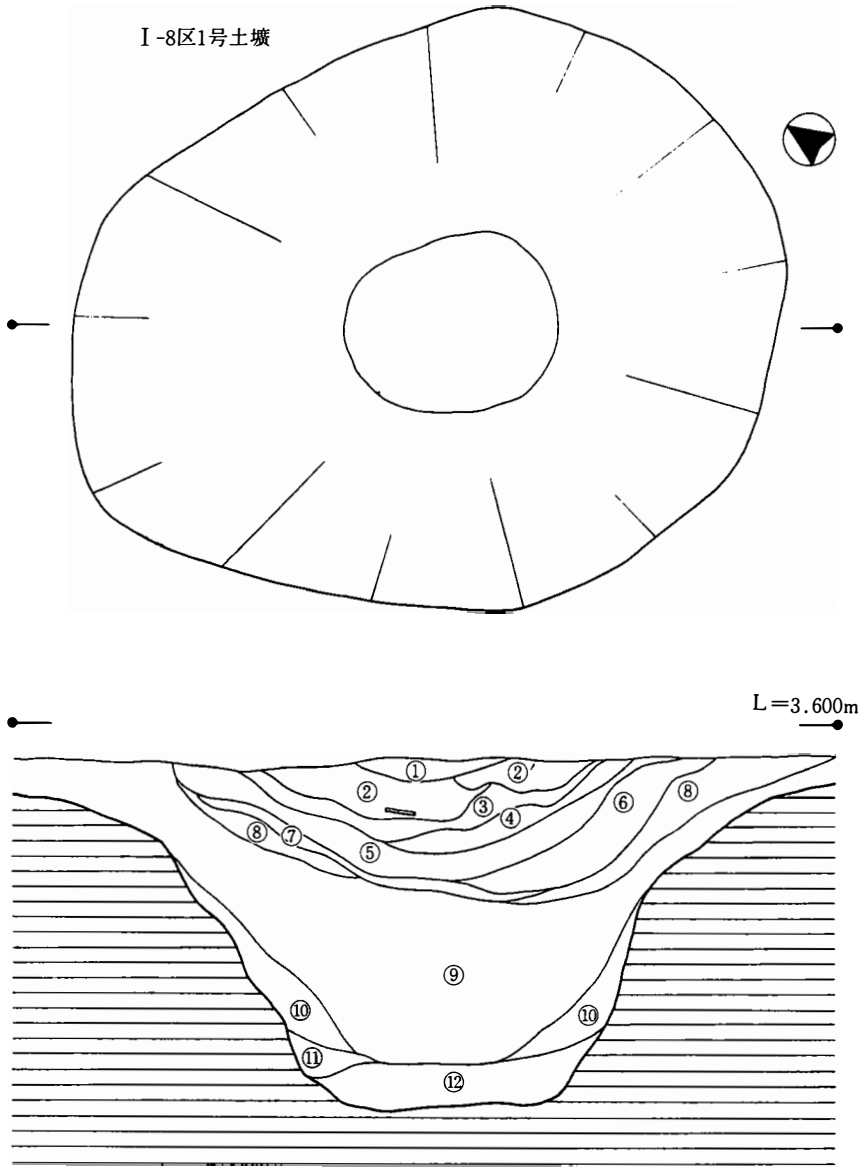
**第37図　土壙実測図（21）**




**第38図　土壙実測図（22）**




**第39図　土壙実測図（23）**

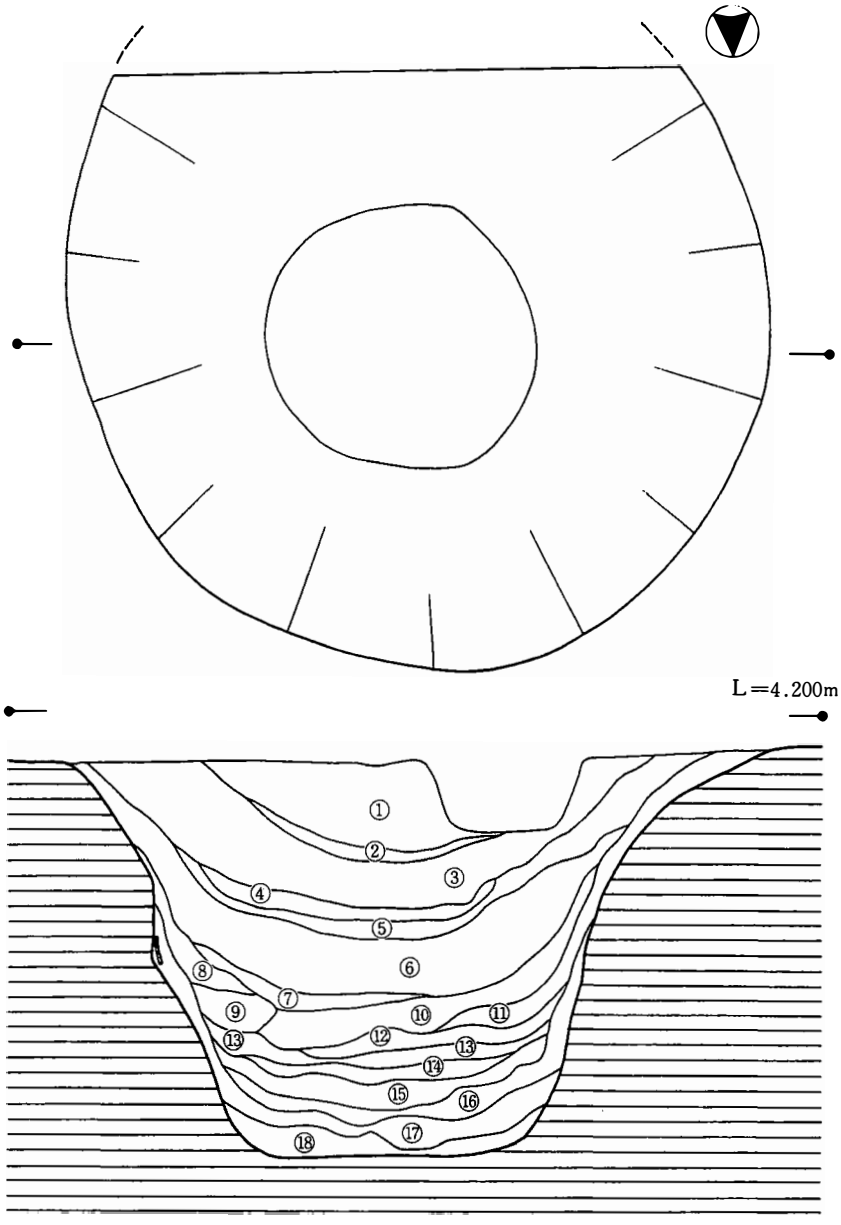



Ⅰ-8区1号土壙内層位

① 黒褐色粘質土層
② 黒褐色粘質混貝土層(シジミ主体の貝類細片を含む)
②′黒褐色粘質混貝土層(②に類似)
③ 黒褐色粘質混貝土層(②、②′に類似)
④ 青灰色粘質混貝土層
⑤ 暗青灰色粘質混土貝層(シジミ、カキ主体、細片多し)
⑥ 暗青灰色粘質混土貝層(⑤に類似)
⑦ 黒褐色混土破砕貝層(シジミ、カキ主体)
⑧ 暗青灰色粘質混土貝層
⑨ 灰白色貝層(カキの純貝層)
⑩ 青灰色粘質土層
⑪ 炭化物ブロック層(土壙のほぼ全体に認められる)
⑫ 漸移層(青灰色、土壙底中央部にカキブロックが認められる)

**第40図　土壙実測図（24）**

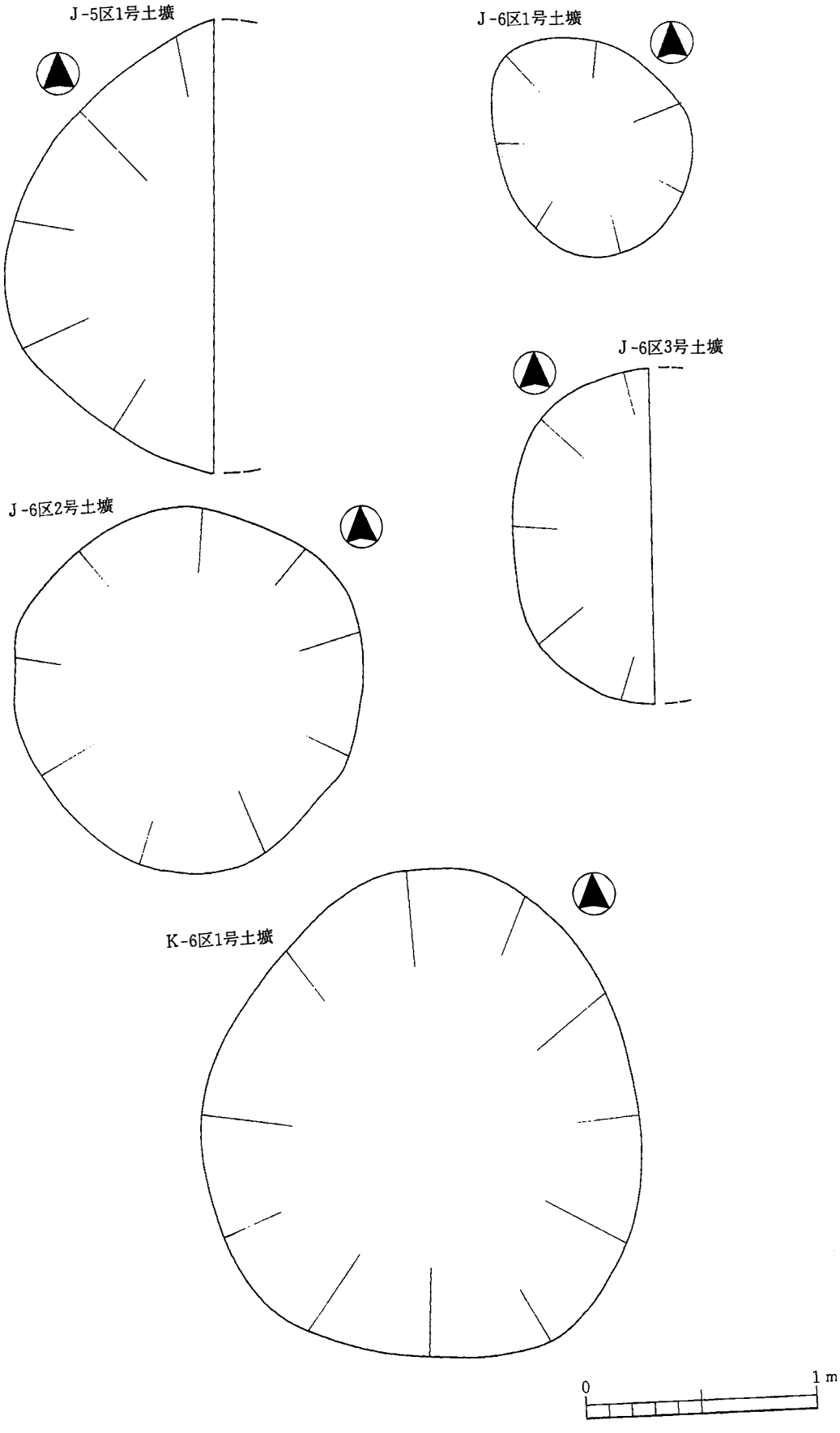
Ⅰ-9区1号土壙



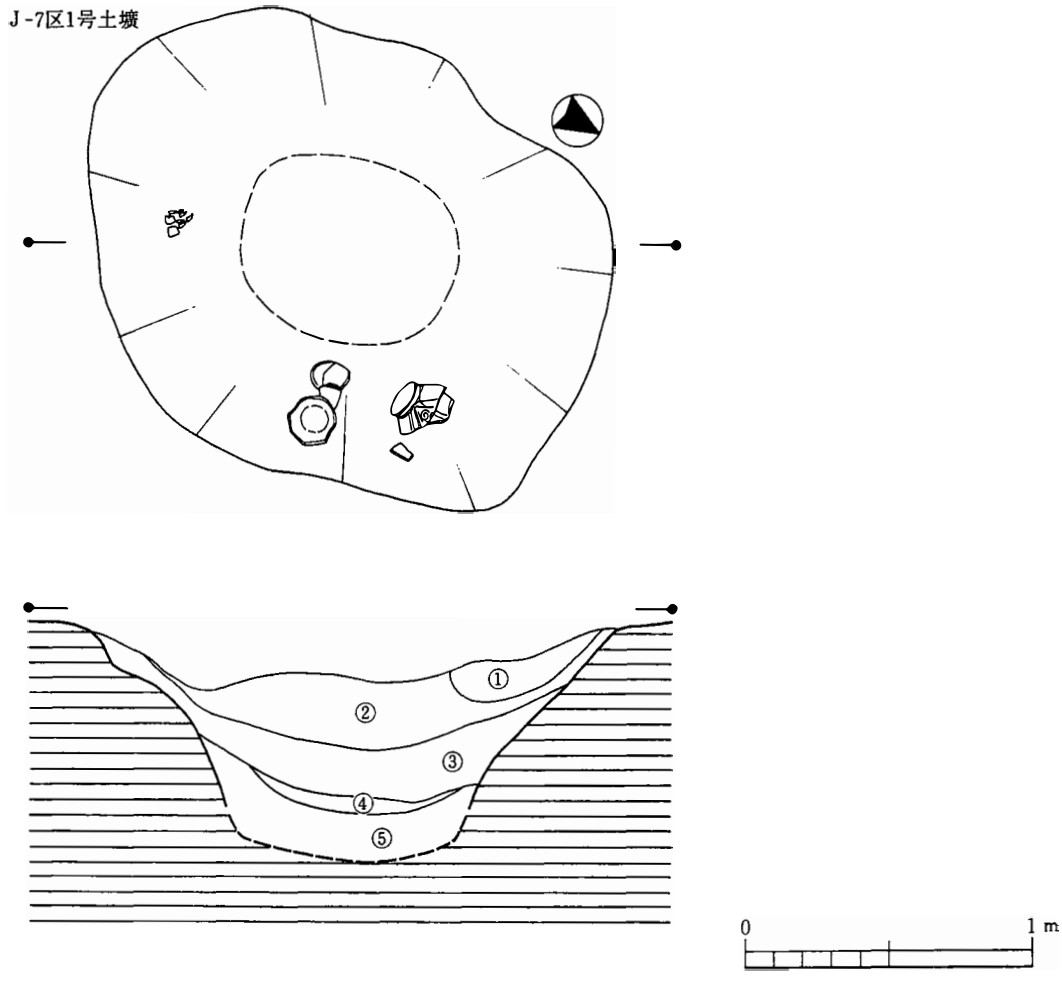

Ⅰ-9区1号土壙内層位

① 黒褐色混土貝層(シジミ、ハイガイ、カキ、Ⅲ層並行)
② 灰層
③ 暗褐色粘質混土貝層(シジミ主体、カキ少量含む)
④ 灰層
⑤ 黒褐色混土貝層(炭化物を多く含む)
⑥ 青灰色粘質混土具層(カキ主体、上層部にシジミが含まれる)
⑦ 青灰色破砕貝層(カキ主体)
⑧ 暗灰色土層(焼土、カキ細片、炭化物を含む)
⑨ 灰層(焼けたハイガイ、シジミなどを含む)
⑩ 暗灰色灰層(焼けたシジミ、ハイガイなど破砕されたものを含む)
⑪ 暗灰色土層(⑧に類似)
⑫ 灰層(乳白色パウダー状の灰層)
⑬ 暗灰色灰層(⑩に類似)
⑭ 下面にカキの破砕層が帯状に堆積
⑮ 暗灰色粘質混土貝層 、
⑯ 青灰色粘質土層
⑰ 暗青灰色粘質土層
⑱ 暗褐色粘質土層(ドングリを多く含む)

**第41図　土壙実測図（25）**




第42図　土壙実測図（26）




J-7区1号土壙内層位
① 撹乱貝層
　(1層上面は鉄分を多く含む砂礫層)
② 青灰色粘質混土貝層
　(カキ主体、ハマグリ、シジミ、ハイガイを少量含む)
③ 青灰色粘質土層
④ 茶褐色土層(魚骨、植物遺体、木片を含む)
⑤ Ⅴ層漸移層

**第43図　土壙実測図（27）**

## 第２表　土壙一覧表（１）

| 番号 | 検出区 | 土壙番号 | 長軸（cm） | 短軸（cm） | 深さ（cm） | 出土遺物・備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | C－6 | 1 | | | | ドングリピット、ドングリ類195、チャンチンモドキ３ |
| 2 | C－8 | 1 | 198 | 158 | | |
| 3 | C－8 | 2 | 164 | 126 | | |
| 4 | C－8 | 3 | 120 | 106 | | |
| 5 | C－8 | 4 | 200 | 140 | | |
| 6 | C－9 | 1 | 168 | 125 | | 鹿角製垂飾１ |
| 7 | C－9 | 2 | 144 | 112 | | |
| 8 | D－6 | 1 | | | | ドングリピット、ドングリ類75 |
| 9 | D－6 | 2 | | | | ドングリピット、籠状編物、ドングリ類76、チャンチンモドキ３、ヒョウタン仲間１ |
| 10 | D－8 | 1 | 176 | 150 | 46 | 阿高式土器、椎骨製耳飾１、骨製ヘラ１ |
| 11 | D－8 | 2 | 130 | 112 | 14 | 阿高式土器 |
| 12 | D－8 | 3 | 218 | 188 | 36 | 獣骨、阿高式土器 |
| 13 | D－8 | 4 | 128 | 108＋α | 36 | |
| 14 | D－9 | 1 | 236 | 218 | 64 | 阿高式土器 |
| 15 | D－9 | 2 | 84 | 70 | | 猪の頭骨 |
| 16 | D－10 | 1 | 246 | 230 | | 猪の頭骨集積、鹿の下顎骨 |
| 17 | D－11 | 1 | 312 | 264 | | 阿高式土器、骨製ヘラ１ |
| 18 | E－6 | 1 | 182 | 130 | 32 | 阿高式土器 |
| 19 | E－7 | 1 | 152 | 142 | 28 | 拳大の礫数個 |
| 20 | E－7 | 2 | 166 | 148 | 62 | |
| 21 | E－8 | 1 | 138 | 110 | 96 | 阿高式土器 |
| 22 | E－8 | 2 | 188 | 160 | 50 | 骨製刺突具１ |
| 欠番 | E－8 | 3 | | | | |
| 23 | E－8 | 4 | 136 | 120 | 62 | 阿高式土器 |
| 24 | E－8 | 5 | 204 | 156 | | |
| 25 | E－9 | 1 | 206 | 190 | 38 | 鹿の下顎骨、阿高式土器、鹿角製工具１ |
| 26 | E－9 | 2 | 190 | 140 | 39 | 鹿の下顎骨、阿高式土器 |
| 27 | E－10 | 1 | 254 | 230 | | 阿高式土器 |
| 28 | E－10 | 2 | 280 | 232 | 62 | 阿高式土器、骨製刺突具１、骨製ヘラ１ |
| 29 | E－11 | 1 | 240 | 204 | | 骨製ヘラ１ |
| 30 | E－11 | 2 | 108 | 76 | | |
| 31 | E－11 | 3 | 100 | 84 | | |
| 32 | E－12 | 1 | | | | 骨製ヘラ１ |
| 33 | F－6 | 1 | 148 | 138 | 32 | 猪の下顎骨 |
| 34 | F－6 | 2 | 210 | 202 | 68 | 阿高式土器、椎骨製耳飾１ |
| 35 | F－6 | 3 | 222 | 126 | 28 | 阿高式土器 |
| 36 | F－7 | 1 | 260 | 252 | 54 | 阿高式土器、椎骨製耳飾１、骨製刺突具１ |
| 37 | F－7 | 2 | 192 | 164 | 50 | 鹿（または猪）の下顎骨、鯤骨製垂飾1、骨製簪1、解体痕のある骨1 |
| 38 | F－7 | 3 | 140 | 118 | 72 | |

## 第３表　土壙一覧表　（２）

| 番号 | 検出区 | 土壙番号 | 長軸（cm） | 短軸（cm） | 深さ（cm） | 出土遺物・備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 39 | F－8 | 1 | 266 | 222 | | 阿高式土器 |
| 40 | F－8 | 2 | 84 | 48 | | |
| 41 | F－8 | 3 | 138 | 114 | 28 | 鹿角製簪１ |
| 42 | F－8 | 4 | 118 | 114 | 14 | |
| 43 | F－8 | 5 | 206 | 184 | 16 | |
| 44 | F－9 | 1 | 162 | 136 | 68 | 阿高式土器 |
| 45 | F－10 | 1 | 168 | 146 | | 阿高式土器 |
| 46 | F－10 | 2 | 304 | 270 | 100 | 阿高式土器、猪牙製垂飾２、骨製ヘラ１ |
| 47 | F－10 | 3 | 130 | 114 | | |
| 48 | F－11 | 1 | 96 | 92 | 44 | |
| 49 | F－11 | 2 | 110 | 106 | | |
| 50 | F－12 | 1 | 132 | 90 | | 人頭大礫数個、猪牙製垂飾２ |
| 51 | F－12 | 2 | 86 | 76 | | |
| 52 | F－12 | 3 | 112 | 70 | | |
| 53 | G－5 | 1 | 150 | 132 | 32 | 阿高式土器 |
| 欠番 | G－6 | 1 | | | | |
| 54 | G－6 | 2 | 116 | 100 | 28 | |
| 55 | G－7 | 1 | 290 | 276 | 56 | 阿高式土器、鹿角製垂飾１ |
| 56 | G－9 | 1 | 358 | 288 | 82 | 猪の頭骨、阿高式土器、猪牙製垂飾１、骨製ヘラ１ |
| 57 | G－9 | 2 | 306 | 258 | 76 | 鹿の頭骨 |
| 58 | G－10 | 1 | 176 | 150 | 106 | ドングリピット、ドングリ類5、阿高式土器、猪牙製垂飾1、骨製刺突具1 |
| 59 | G－11 | 1 | 284 | 266 | 110 | 猪の頭骨、魚骨層、並木式土器、阿高式土器、猪牙製垂飾3、鹿角製簪1、骨製簪1、管状骨製品1、骨製刺突具1、解体痕のある骨1 |
| 60 | H－7 | 1 | 284 | 240 | | 阿高式土器 |
| 61 | H－8 | 1 | 294 | 276 | 94 | 阿高式土器、鹿角製簪１ |
| 62 | H－9 | 1 | 314 | 242 | 76 | 猪の頭骨、阿高式土器、中津式土器、骨製ヘラ２ |
| 63 | H－10 | 1 | 236 | 220 | | |
| 64 | H－10 | 2 | 240 | 234 | | 阿高式土器、骨製ヘラ１ |
| 65 | I－8 | 1 | 258 | 210 | 116 | 阿高式土器 |
| 66 | I－8 | 2 | 146 | 96 | | |
| 67 | I－9 | 1 | 260 | 250 | | ドングリピット、ドングリ類1416、チャンチンモドキ３、ヒシ10<br>阿高式土器、猪牙製垂飾１、骨製簪２、鹿角製工具１ |
| 68 | J－5 | 2 | 196 | 90＋α | | 阿高式土器 |
| 69 | J－6 | 1 | 98 | 82 | | 阿高式土器 |
| 70 | J－6 | 2 | | | | |
| 71 | J－6 | 3 | 146 | 60＋α | | 阿高式土器 |
| 72 | J－7 | 1 | 204 | 156 | 84 | ドングリピット、ドングリ類81、チャンチンモドキ２、阿高式土器 |
| 73 | K－6 | 1 | 212 | 190 | | |

# 第Ⅲ章　遺　　物

## 第1節　土　器　・　土　製　品

## 第2節　石　器　・　石　製　品

## 第3節　骨　角　貝　製　品

# 第Ⅲ章　遺　　物

遺物は人工遺物と自然遺物に大別される。

人工遺物には、土器・土製品、石器・石製品、骨角貝製品が含まれる。このうち土器は、縄文土器、弥生土器、古墳時代から奈良時代にかけての土師器・須恵器などがある。また石器には、縄文時代の石器の他、弥生時代の石器もある。しかし、ここでは色々な制約により縄文時代の遺物に限って紹介する。

自然遺物には、埋葬人骨、哺乳類・鳥類・爬虫類・両生類・魚類・貝類の遺体、植物の遺体、糞石などがある。このうち埋葬人骨は、18体検出されたが、この貝塚の主体である縄文時代中期から後期前葉の時期のものではないと判断し、またその他の事情から本稿では省略した。また糞石も多量に出土しているが、整理分析ができていないので、収録ができなかった。その他の自然遺物については、専門調査員の先生方に分析を依頼し、その結果を本書の第Ⅳ章に収録した。

## 第１節　土器・土製品

### １．層位と土器（第44図）

層位については、第Ⅰ章第２節でも述べたが、ここでは実際各層位から出土した土器を提示し、その関係を確認したい。堆積年代の古い下の層から見ていく。

Ⅴ層は、有明粘土層と呼ばれる青灰色粘質土層で、下層は無遺物層であるが、上層には部分的に破砕されたカキをわずかに含んだ層があり、並木式土器と阿高式土器（いづれも縄文時代中期）を出土する。

図499と561は、並木式土器で、499は押引文のみを施文するが、561はその両側に凹線文も加えて、施文している。

284は、竹管による列点文と凹線文、更に列点文を施した突帯文をもつ特異な土器であるが、並木式土器と共通する要素もあり、その変化形態と考えられる。

58、588、564、60は、阿高式土器である。凹線文を特徴とし、直線や曲線を全体に施すものと胴部上半に施すものがあり、60のように口縁部を押圧によって波状にして、胴部は無文のままのものもみられる。

Ⅳ層は、マガキを主とする純貝層で青灰色粘質土が混じっており、下層は阿高式土器のみを出土するが、上層では阿高式土器に南福寺式土器（縄文時代後期前葉）が少し混在して出土する。

図の130、37、462、291、290は、阿高式土器で、直線と曲線の凹線文を全体、胴部上半、口縁部などに施している。

20と65は、渦巻を主とした文様を胴部に施すが、凹線の施文方法が削りに変化しており、阿高式土器から南福寺式土器への移行期の土器と考えられる。

23は、無文の浅鉢であるが、口縁部に装飾があり、阿高式または南福寺式の時期の土器と考えられる。

Ⅲ層は、黒褐色の混土貝層で、南福寺式土器と出水式土器（縄文時代後期前葉）を出土する。

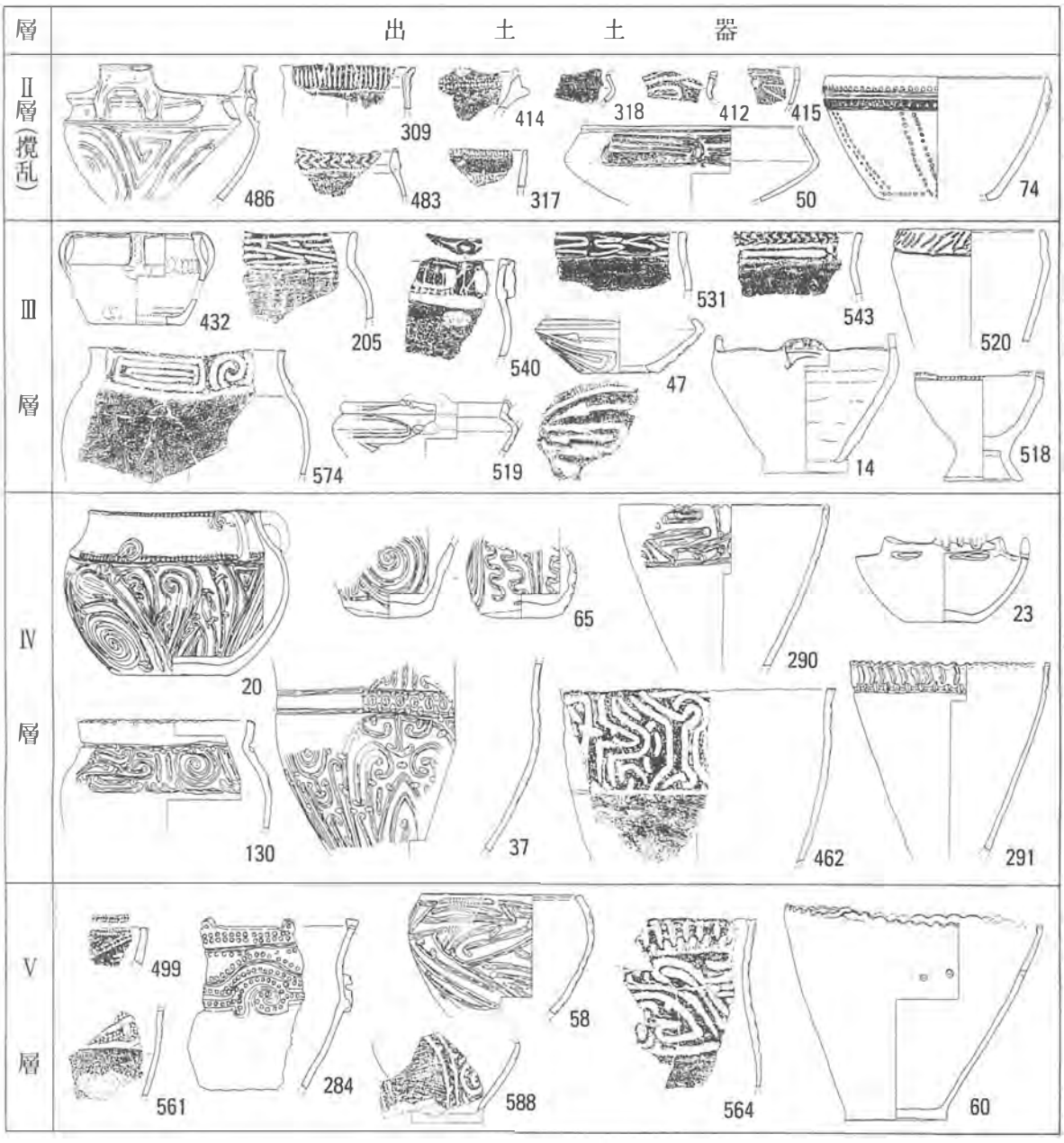
図574は口縁部下方に突帯を巡らし、口縁部に凹線によって渦巻文と方形渦巻文を施したもので、阿高式土器の新しい時期の土器か南福寺式土器と考えられる。

519と47は、胴部に削りによる凹線を施した浅鉢で、典型的な南福寺式土器である。

432は、無文であるが、橋状把手をもつ研磨された浅鉢で、出水式土器に伴うものと考えられる。

205、540、531、543、520は、細い凹線文を口縁部に集約させた深鉢で、南福寺式～出水式土器である。

14と518は、胴部が無文で、波状を成す口縁部に細めの凹線や刻み目を施したもので、出水式土器と考えら




**第44図　層位と出土縄文土器図**

れる。

なお、この層からは中津式土器の破片とみられる磨消縄文土器の小破片１点も出土している。また、Ⅳ層の阿高式土器も混入していた。

Ⅱ層は、黒褐色で泥炭質の粘質土層で、縄文土器に混じって弥生土器も出土することから、弥生時代の再堆積土と考えられる。出土する縄文土器は、Ⅱ～Ⅴ層に包含されていたとみられる並木式、阿高式、南福寺式、出水式の各土器を出土するが、より新しい時期の縄文土器が多く、下層で出土していない型式の土器もみられる。

図486は、胴部に削りによる凹線で渦巻文や三角形渦巻文を施し、口縁部に橋状把手と窓の開いた突起をもつ土器で、南福寺式土器である。これは本来Ⅲ層に包含されていたものと考えられる。

309と483は、口縁部にやや細い凹線で短直線文あるいはＳ字文を施した出水式土器であるが、Ⅲ層の土器に比べて口縁部が肥厚するなど新しい要素が加わっている。

414は、断面が三角形に肥厚した波状口縁をもち、刺突列点文を施した土器で、鹿児島県を中心に分布す

る市来式土器と考えられ、搬入品とみられる。

317は、御手洗Ａ式土器で、口縁部の上下２列に刺突列点文がみられ、出水式土器の刻み目突帯文が変化したものと考えられる。

318、412、415、74は、磨消縄文土器で、また50は疑似縄文を施した土器であり、これらには中津式に相当するものや、鐘崎式土器の祖形のような土器がみられる。

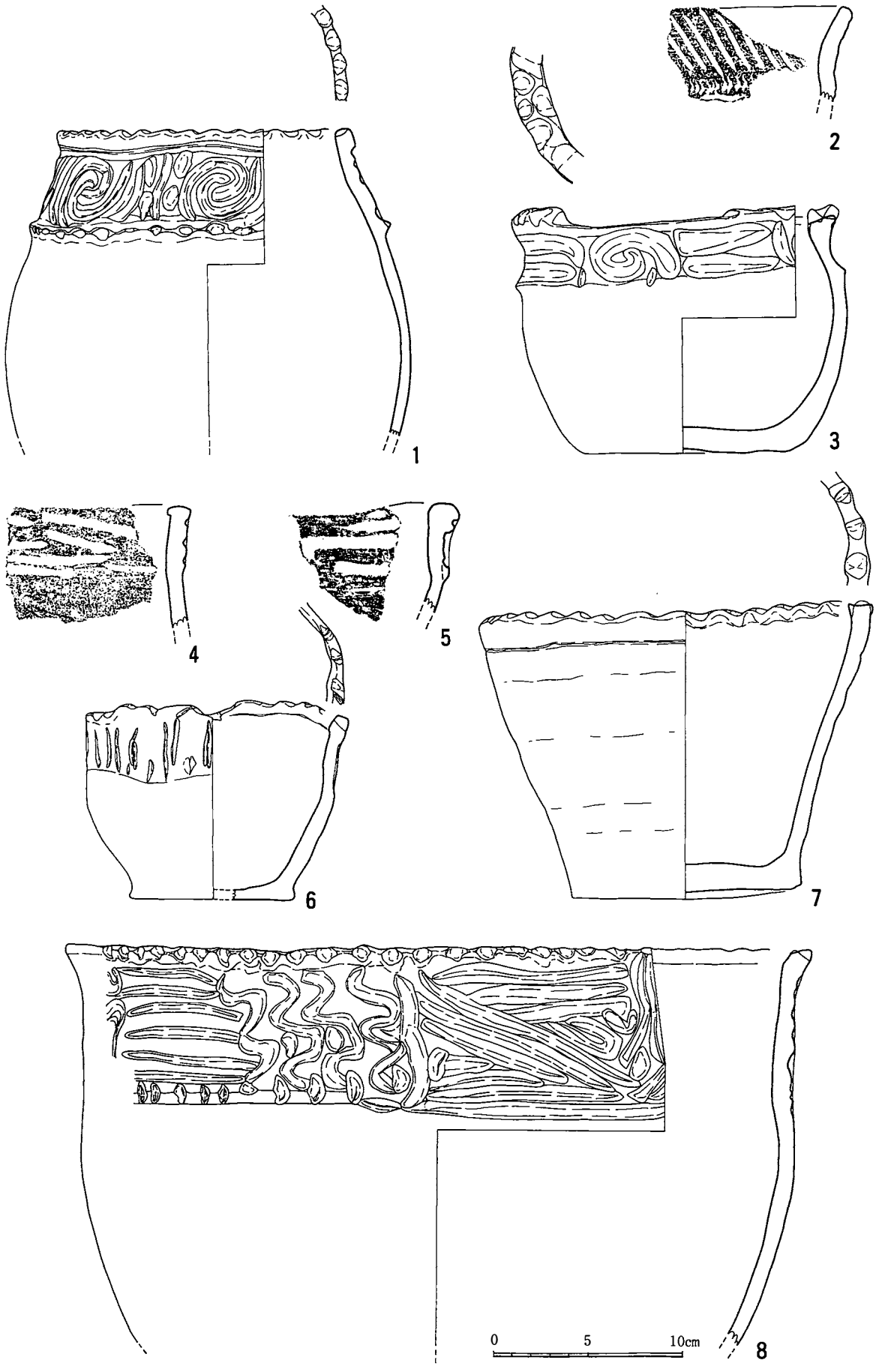
このようにⅡ層は、再堆積ながら、Ⅲ層の土器よりも新しい様相を示す土器が出土しており、土器の変遷を考える上で重視しなければならない。

Ⅰ層は、古墳時代から奈良時代にかけての土層であり、０層は、現河川の堆積土層であるので、ここでは出土土器についての記述は省略する。

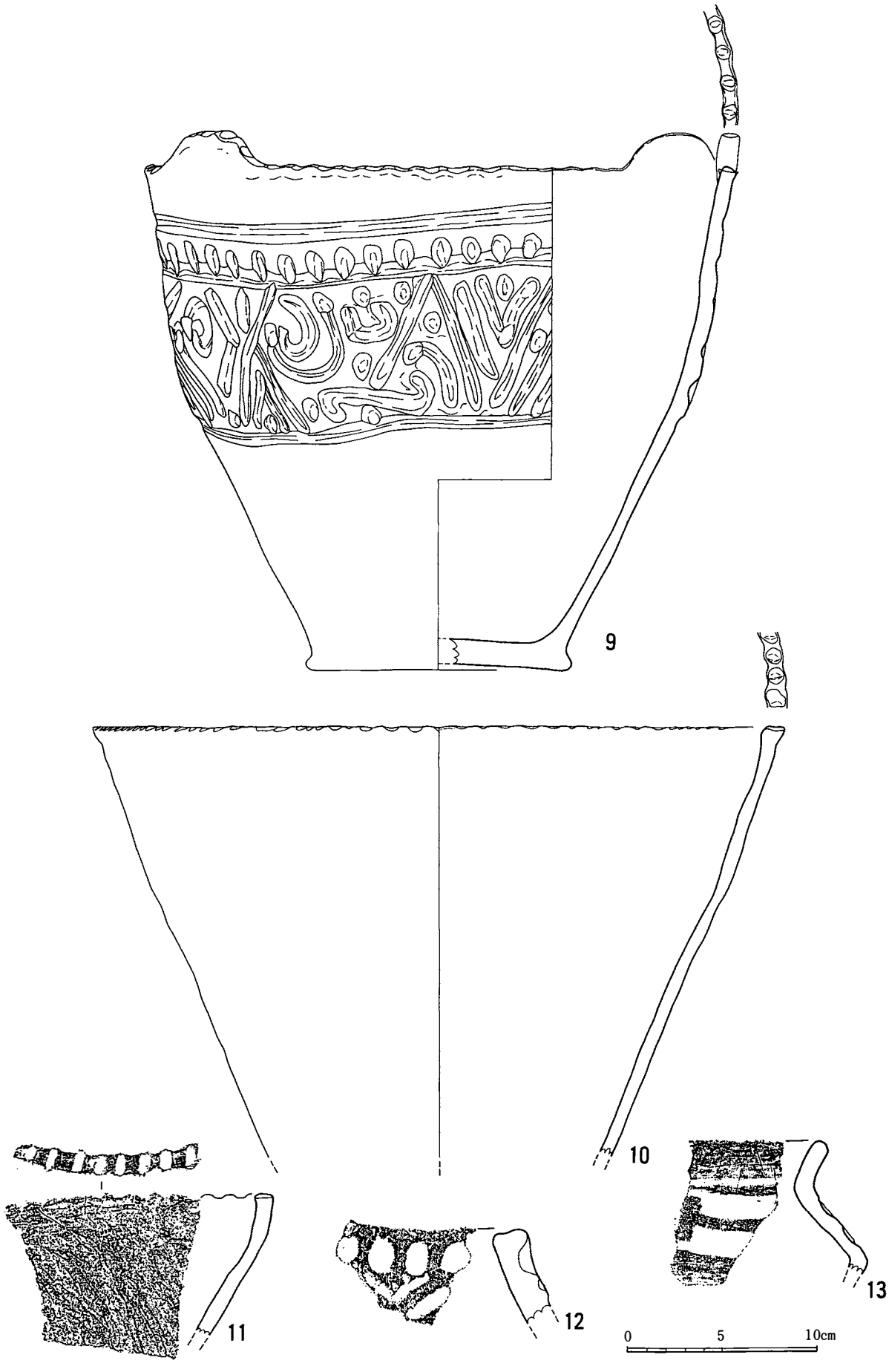
## ２．縄文土器

黒橋貝塚からは、膨大な数の縄文土器が出土した。それらの主要なものについて本書に収録すべく資料化の作業を続けたが、時間的・予算的な制約があり、資料化できなかった秀品も多い、それらについては今後の整理・研究に委ねたい。

資料化できた土器は、第45図から第110図に示した計588点である。その個々の土器の解説については数が多いため省略し、観察結果の概要を第４表から第15表の一覧表に示したので参照して頂きたい。

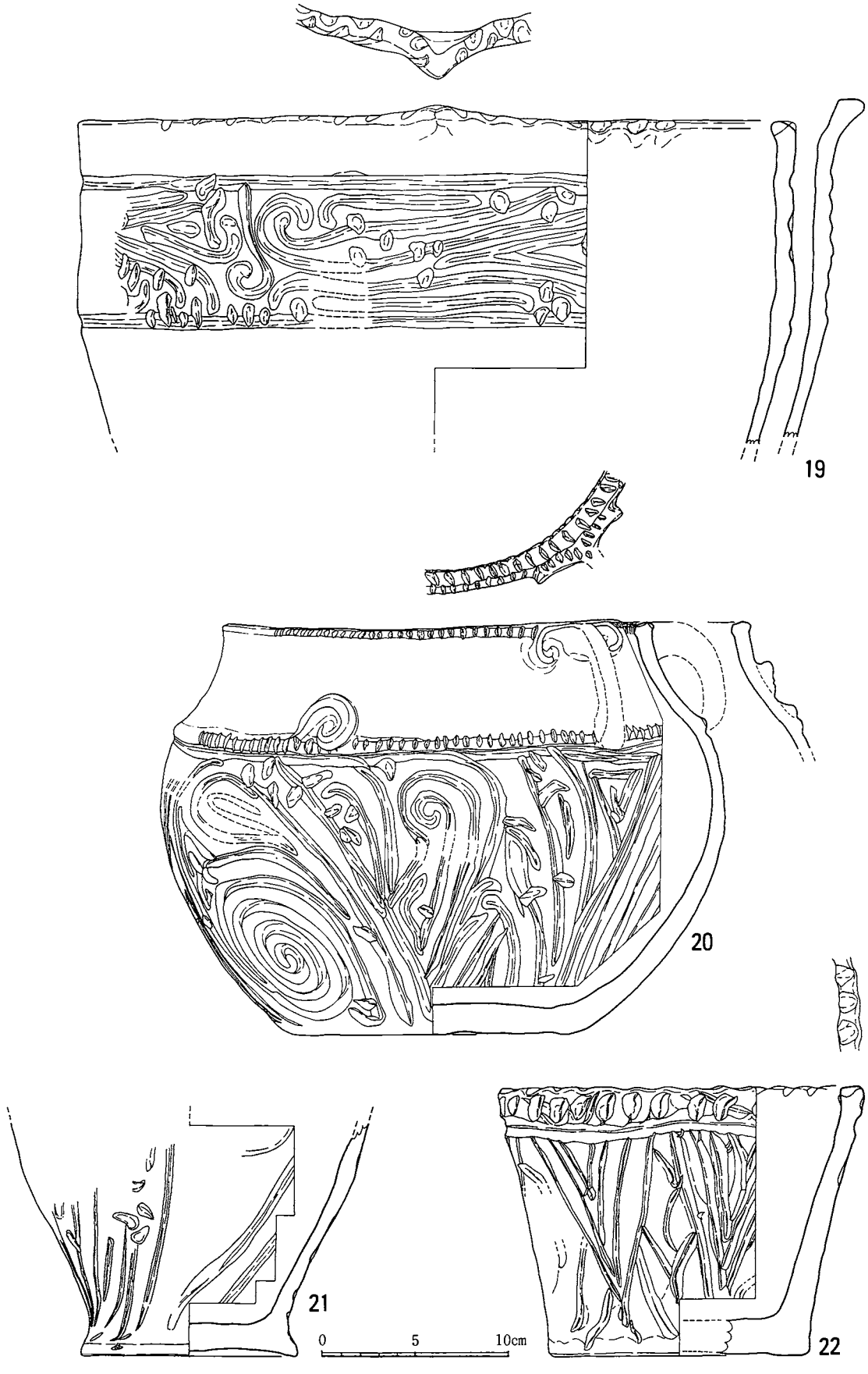



**第45図　土器実測・拓影図(1)**［1.B−8区Ⅳb層、2.C−7区攪乱、3.C−8区Ⅳb層、4.D−8区Ⅲ層
5.D−3区Ⅲb層、6.D−6区2号土壙、7・8.D−7区Ⅳb層］

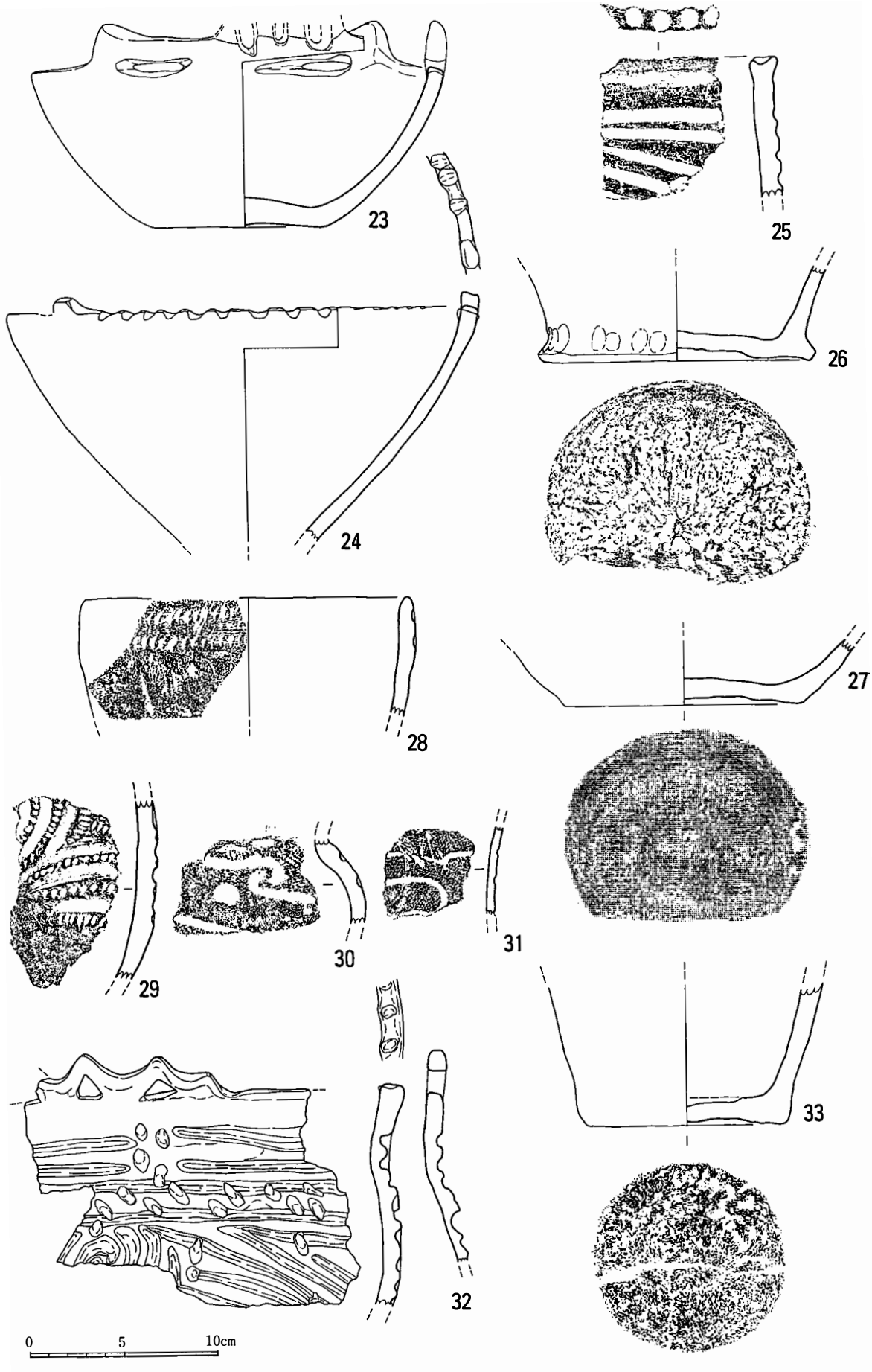



第46図　土器実測・拓影図（２）［9.D−8区1･2号土壙、10.D−8区2号土壙
11･12.D−8区Ⅲb層、13.D−8区Ⅲa層］

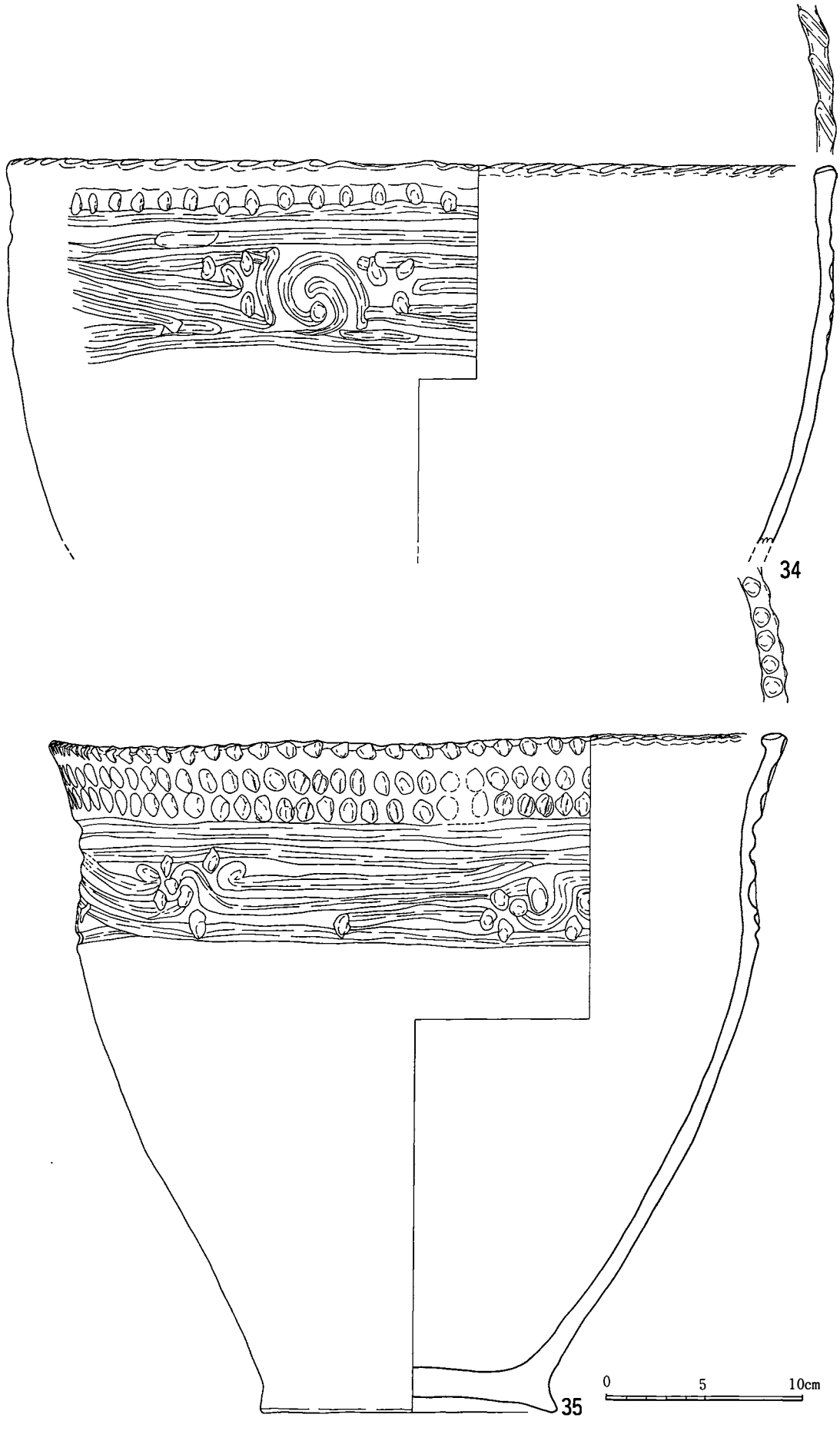
第47図　土器実測・拓影図(3)［14.D−8区Ⅲc層、15･16.D−8区Ⅳb層
17.D−8区Ⅳ･Ⅴ層、18.D−9区1号土壙］



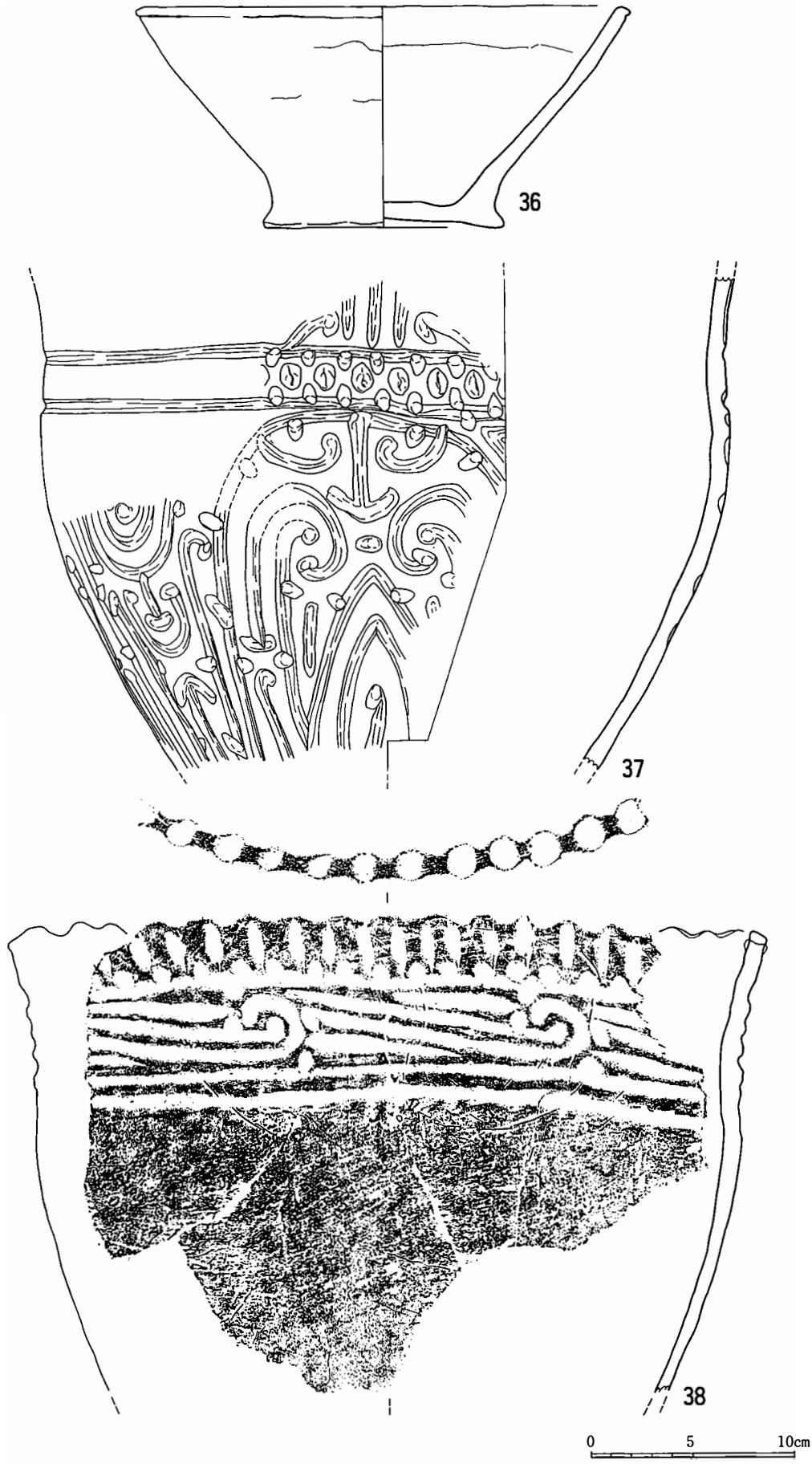

**第48図　土器実測・拓影図(4)**［19.D−9区1号土壙、20·21.D−9区Ⅳb層<br>22.D−10区Ⅲ層］



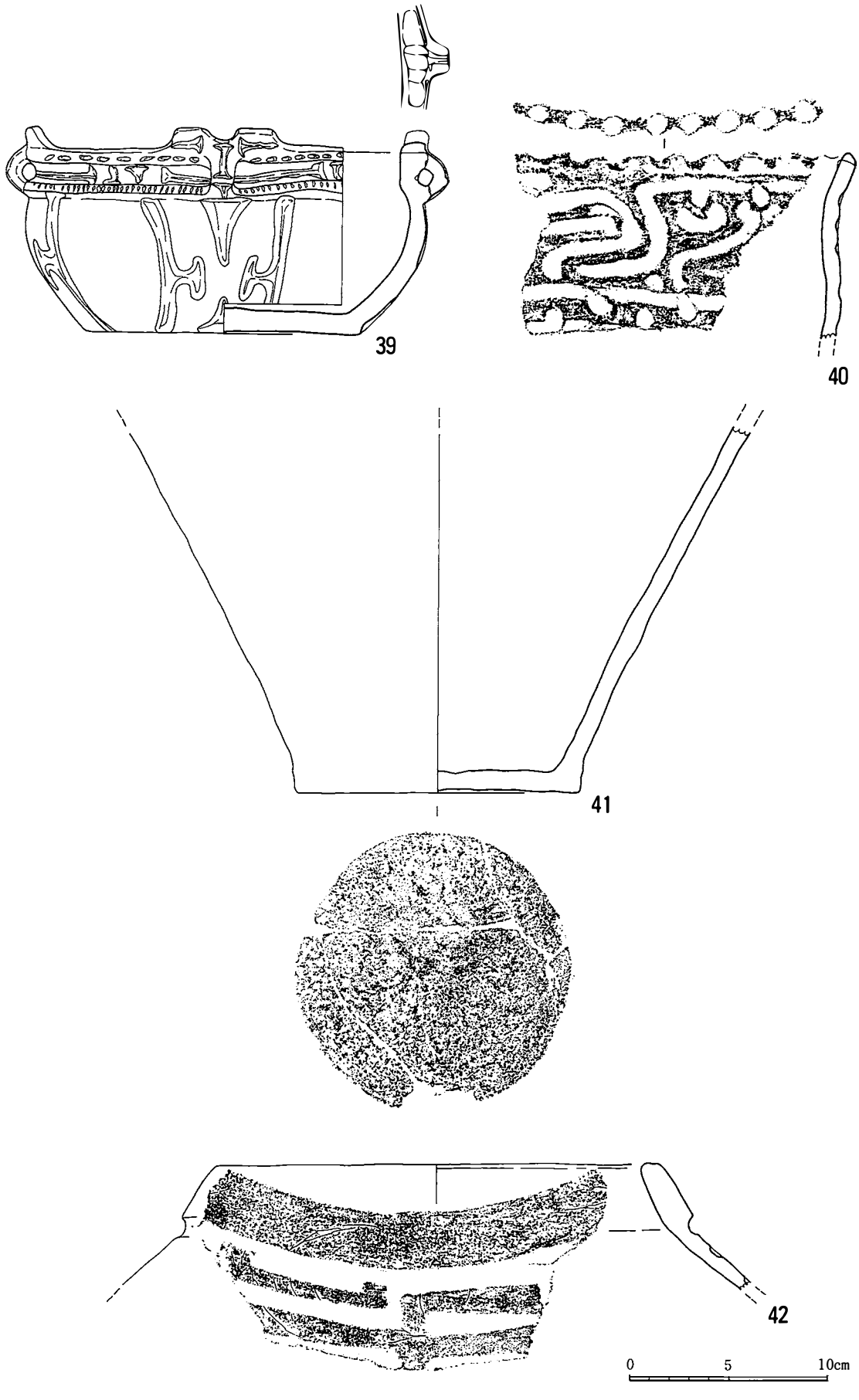

**第49図　土器実測・拓影図(5)**［23·24.D−10区Ⅳb層、25〜27.D−11区1号土壙、28·30·31.D−11区Ⅰ層
29.D−11区攪乱、32.D−11区Ⅲ層、33.D−11区Ⅳb層］



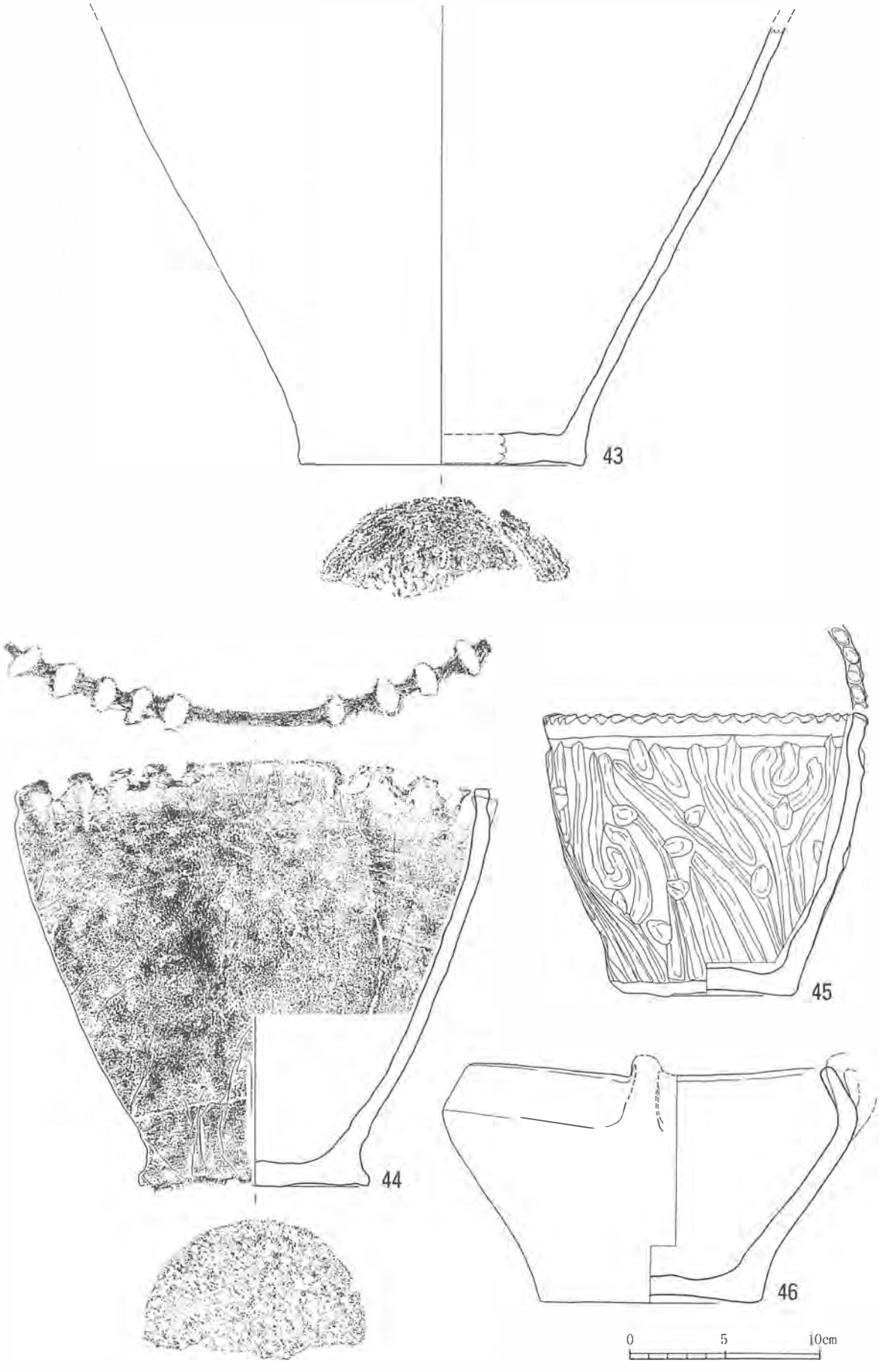

**第50図　土器実測・拓影図（６）**［34･35.D－11区Ⅳb層］



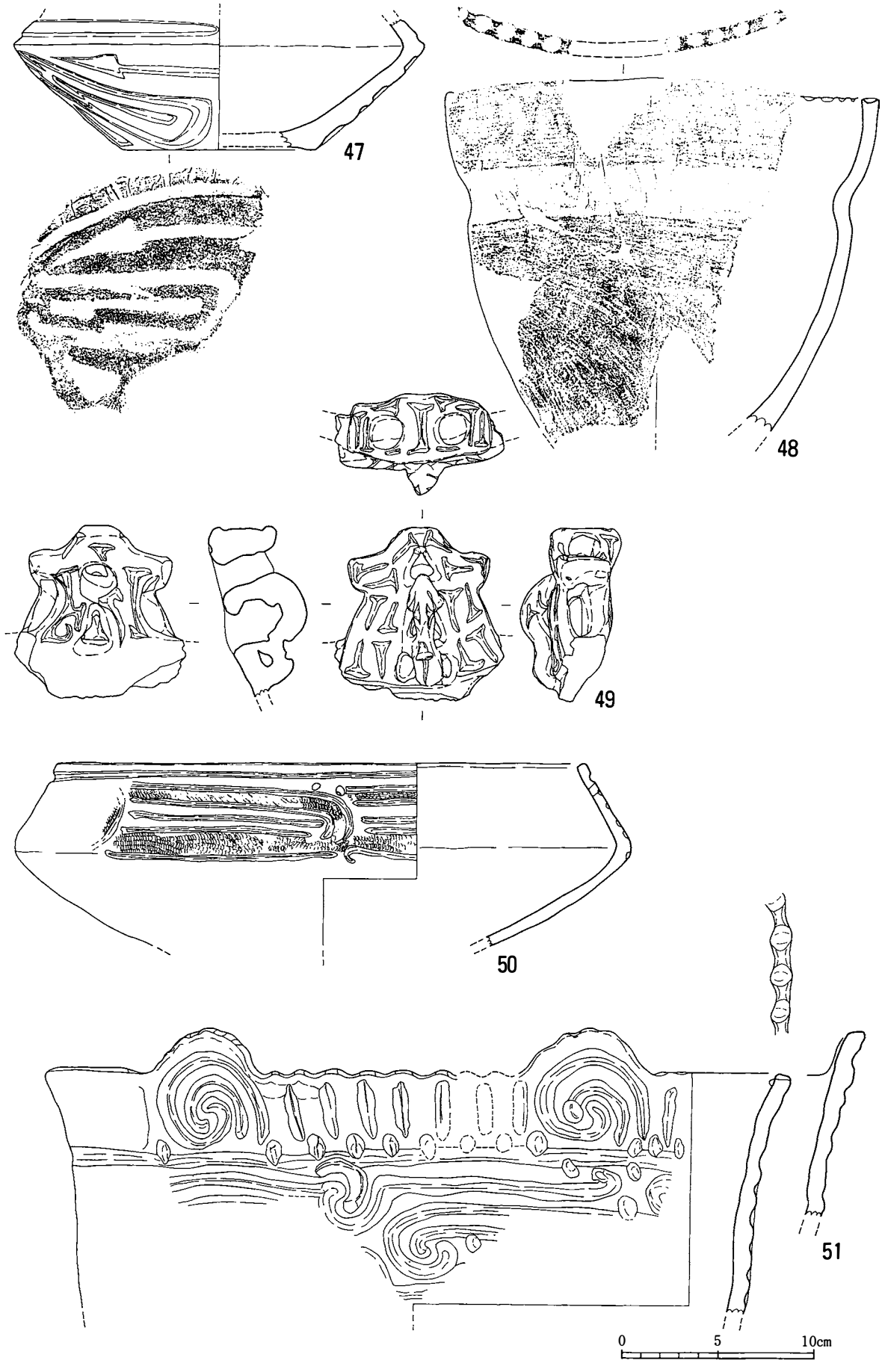

**第51図　土器実測・拓影図（７）**［36･37.D－11区Ⅳb層、38.E－6区１号土壙］



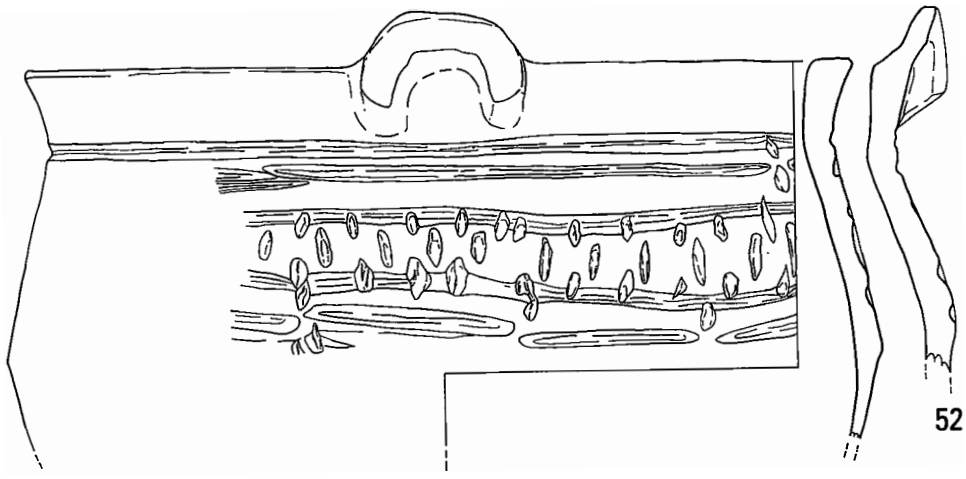

**第52図　土器実測・拓影図（８）**［39.E－6区、40.E－6区Ⅳ層<br>41.E－6区Ⅴ層、42.E－7区］

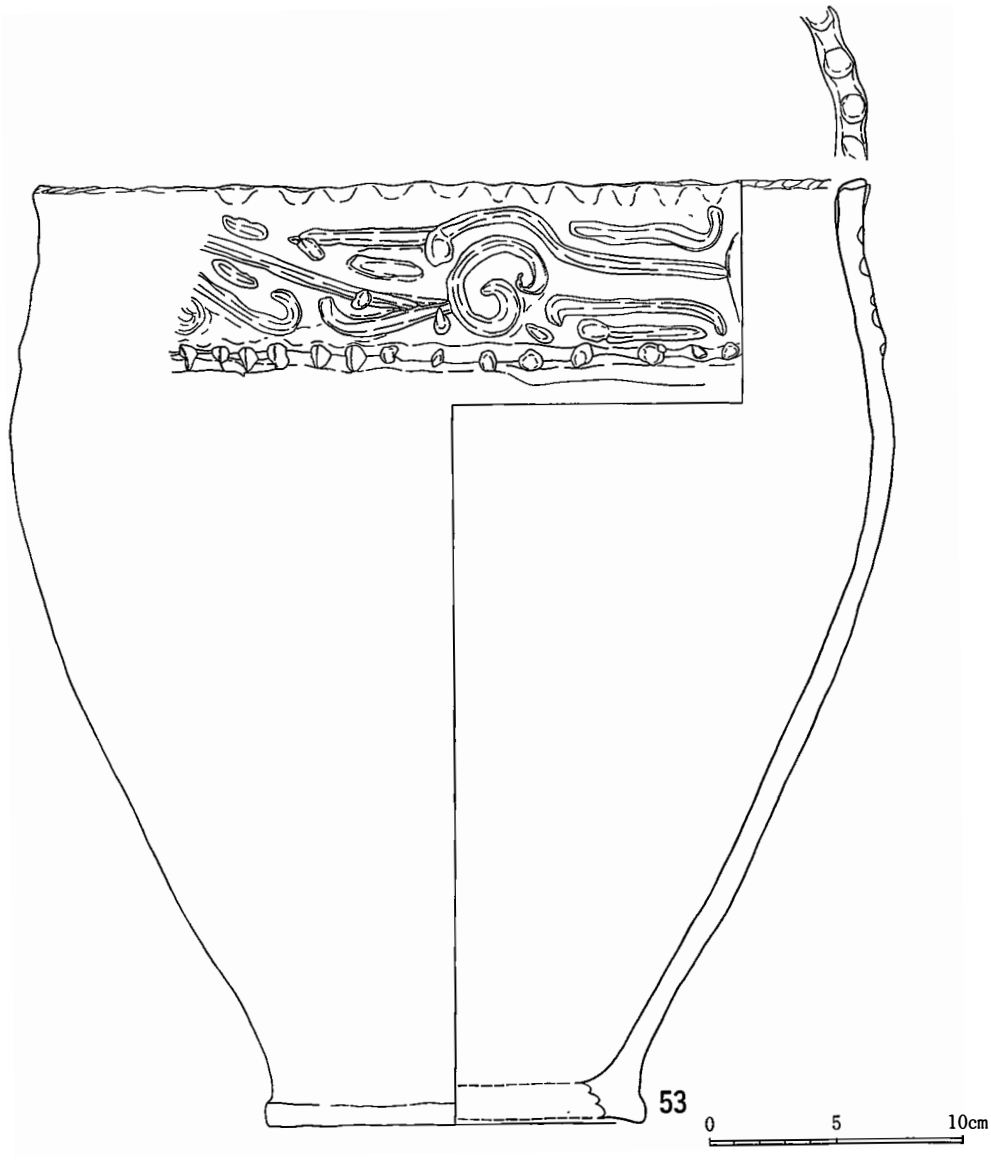



第53図　土器実測・拓影図（９）［43.E－7区Ⅳ層、44.E－8区１号土壙
45.E－8区４号土壙、46.E－8区Ⅲb層］

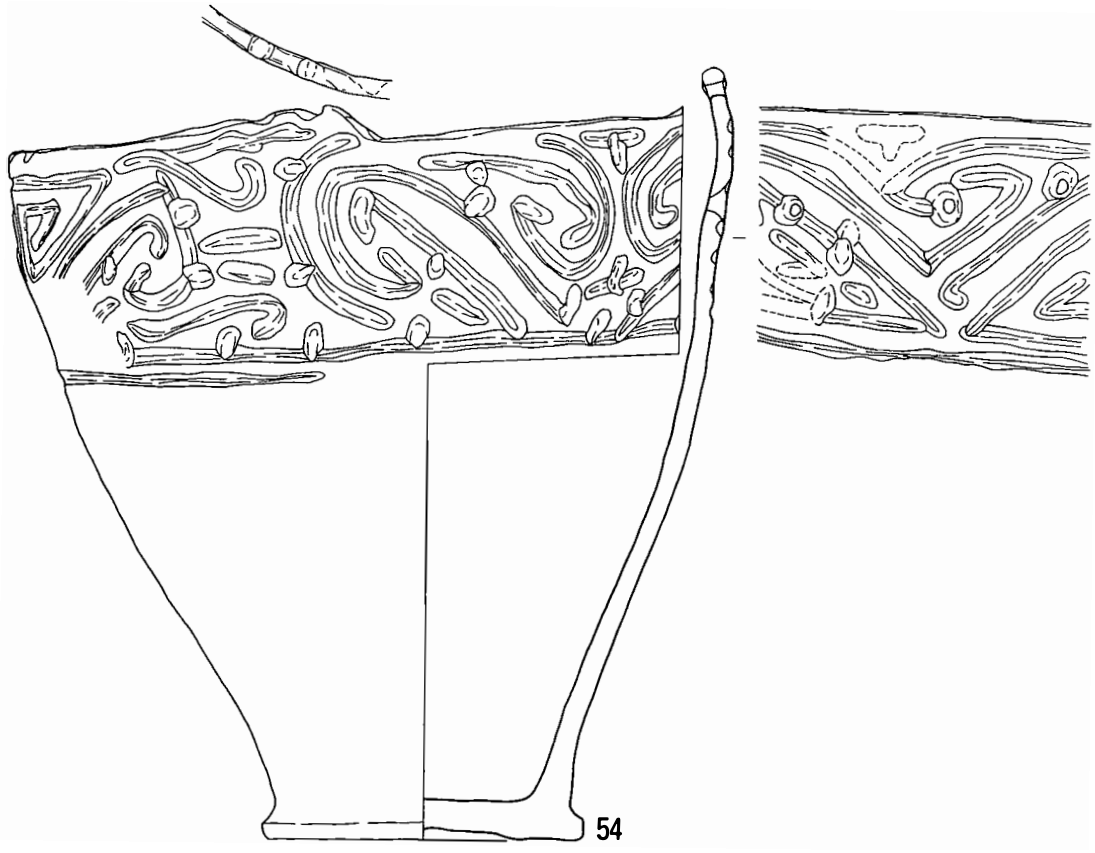


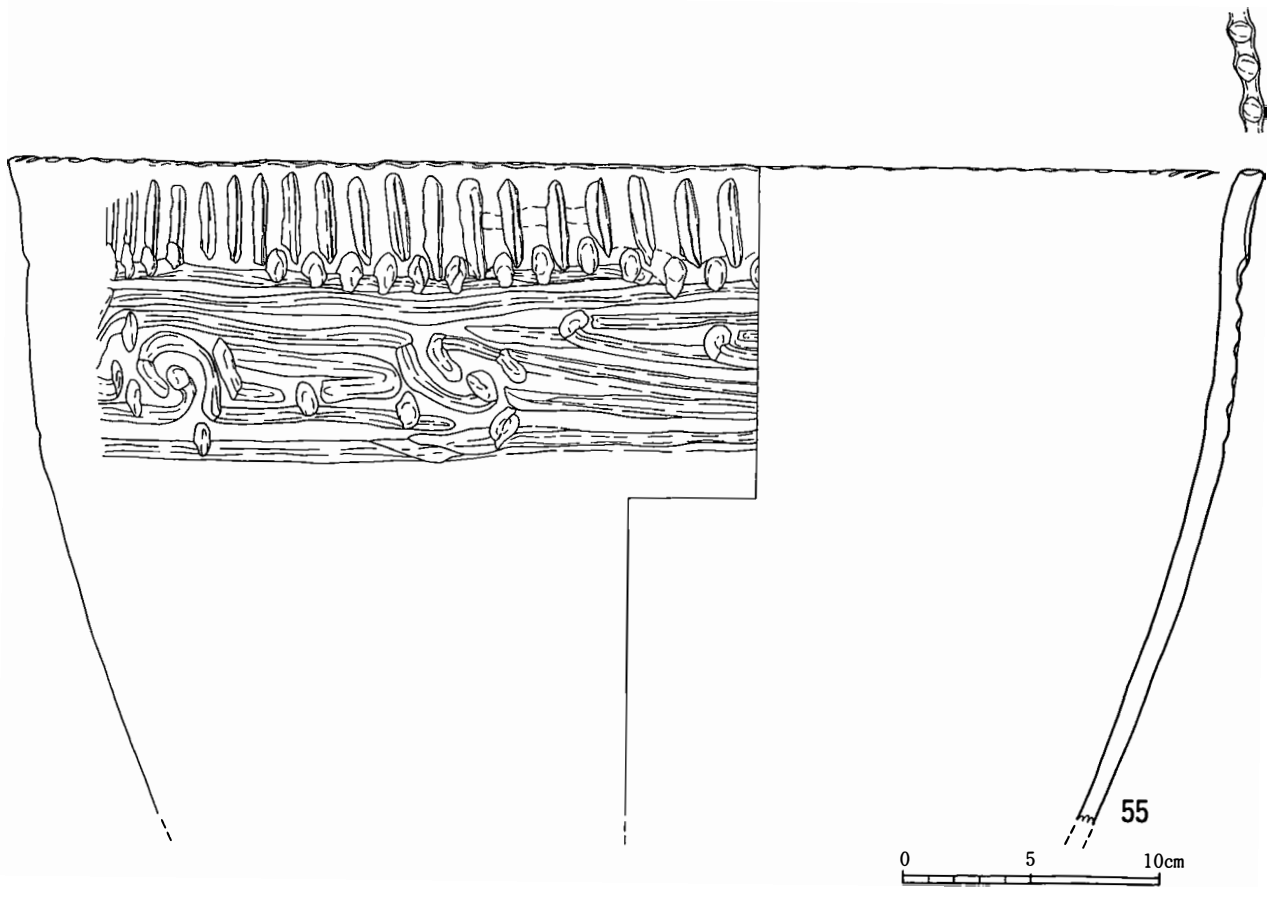

第54図　土器実測・拓影図(10)［47.E−8区Ⅲb層、48.E−9区２号土壙
49･50.E−9区Ⅱ層、51.E−9区Ⅲ層］



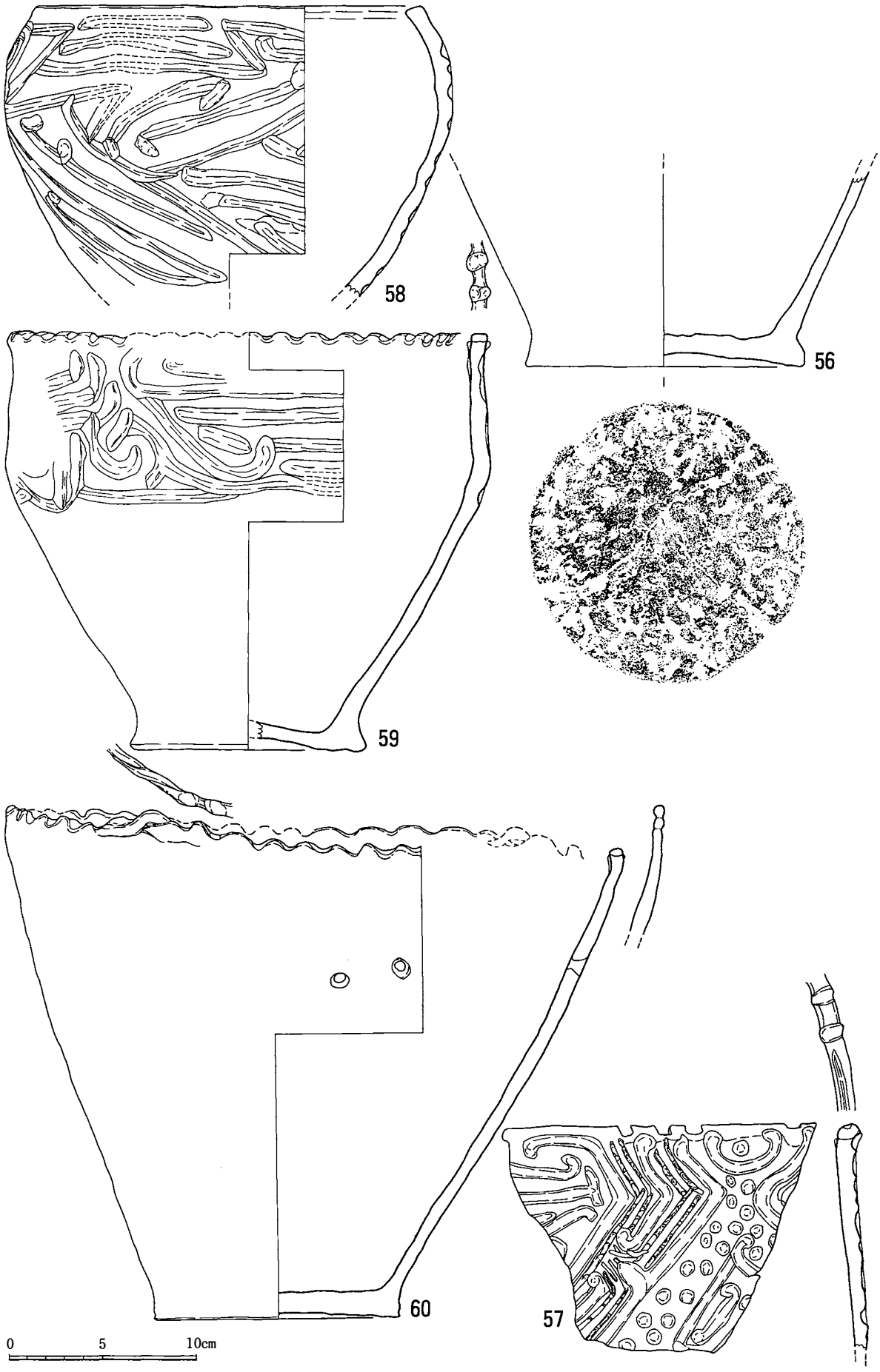




**第55図　土器実測・拓影図(11)**［52.E−10区１号土壙、53.E−10区２号土壙］

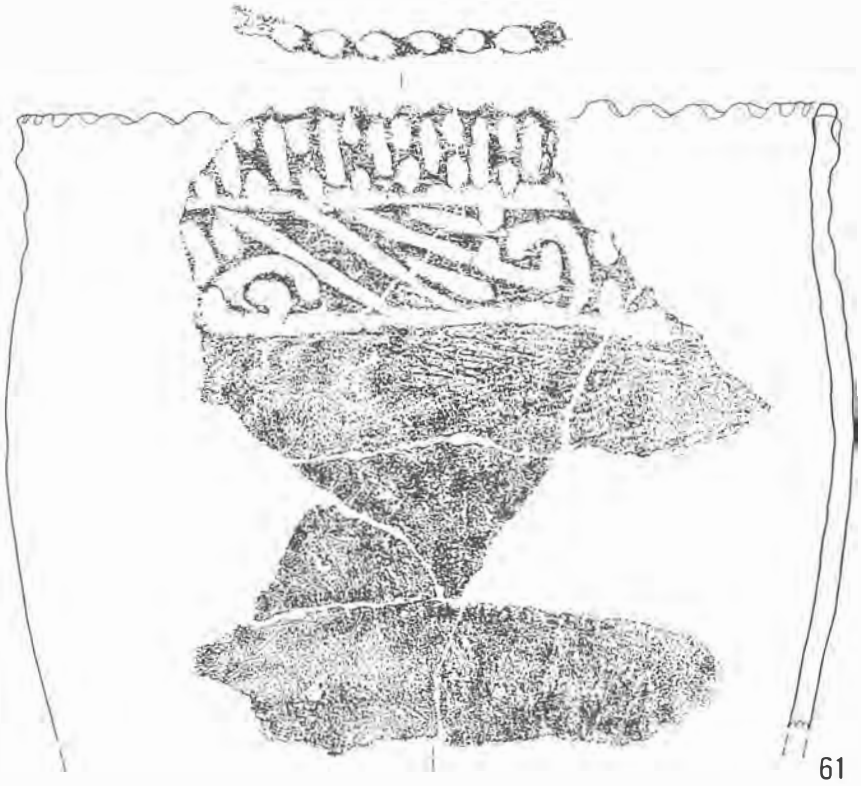


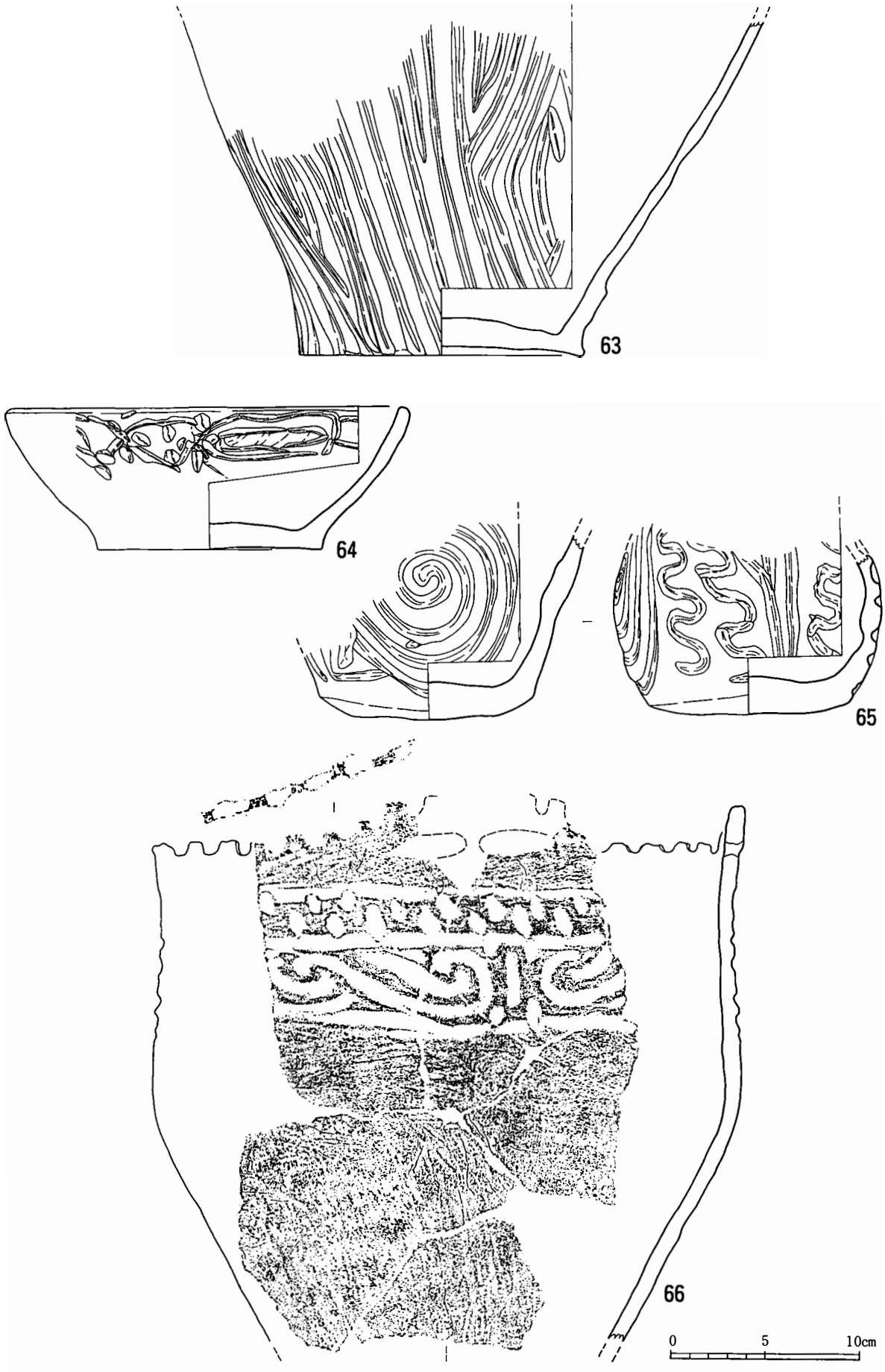

**第56図　土器実測・拓影図(12)**［54.E－10区1･2号土壙、55.E－10区Ⅳb層］



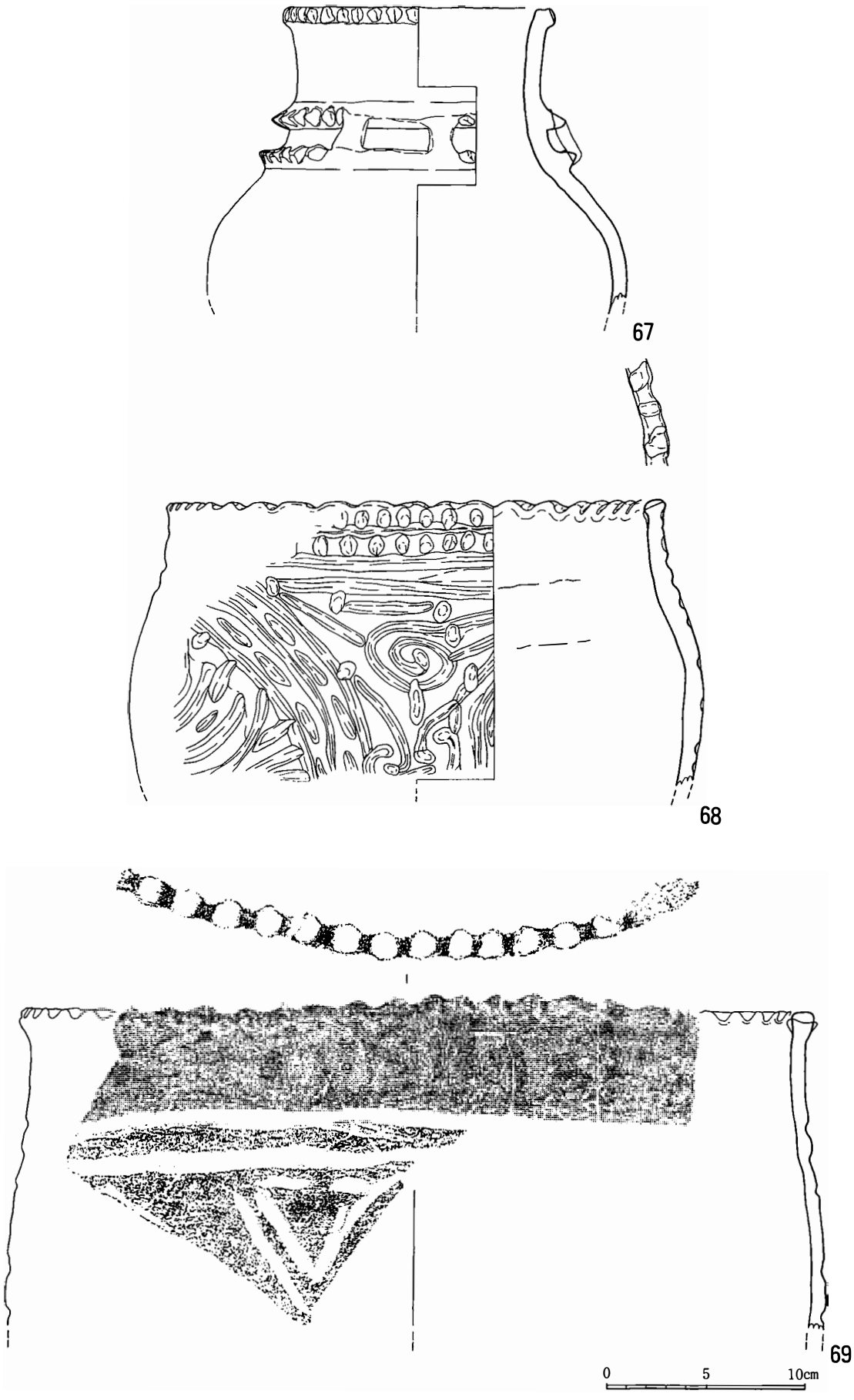

**第57図　土器実測・拓影図(13)**［56.E－11区Ⅳb層、57.E－12区Ⅱ～Ⅲa層、58.E－12区Ⅴ層
59.E－12区Ⅳb層、60.F－5区Ⅴ層］



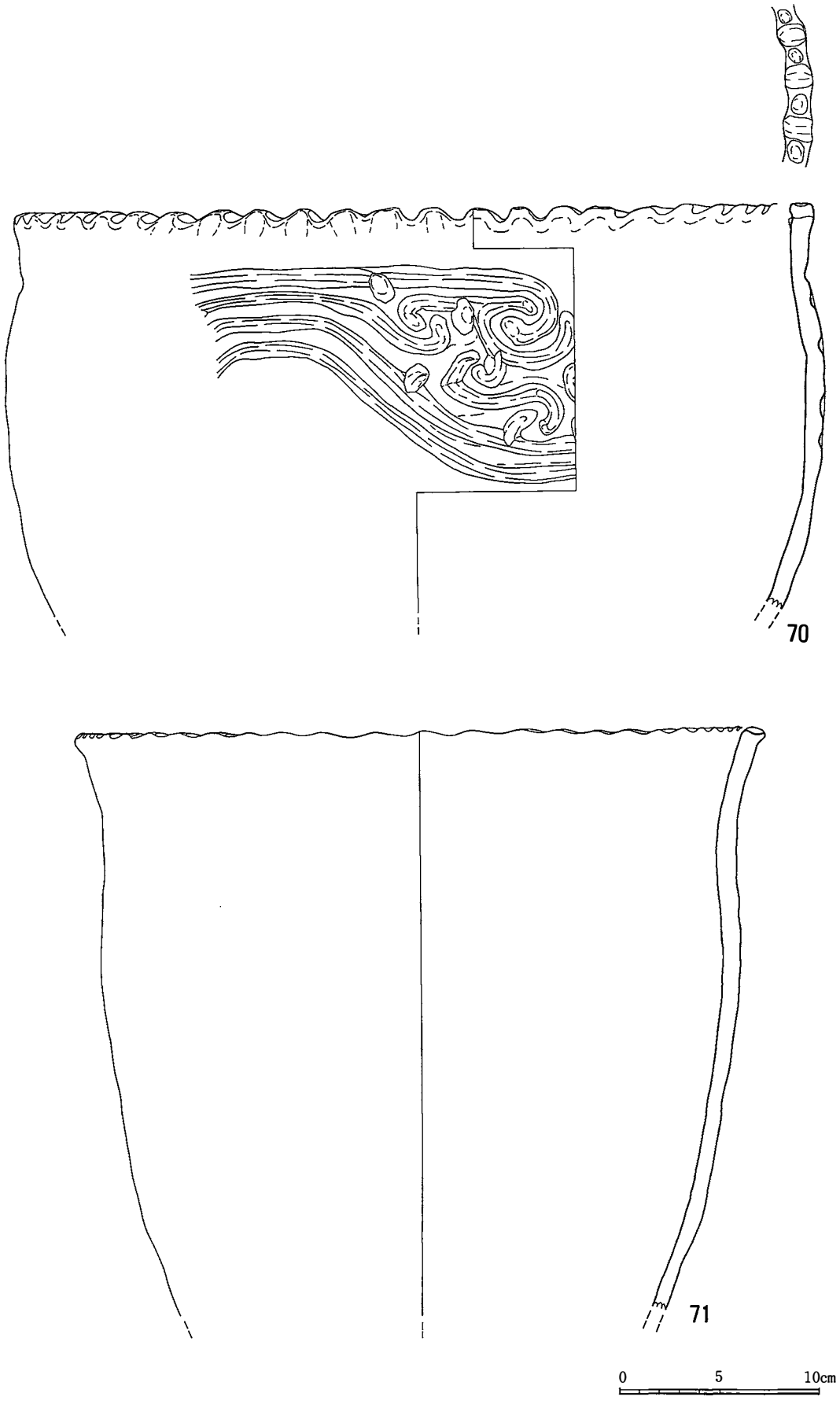

第58図　土器実測・拓影図(14)［61 F－6区、62 F－6区２号土壙］



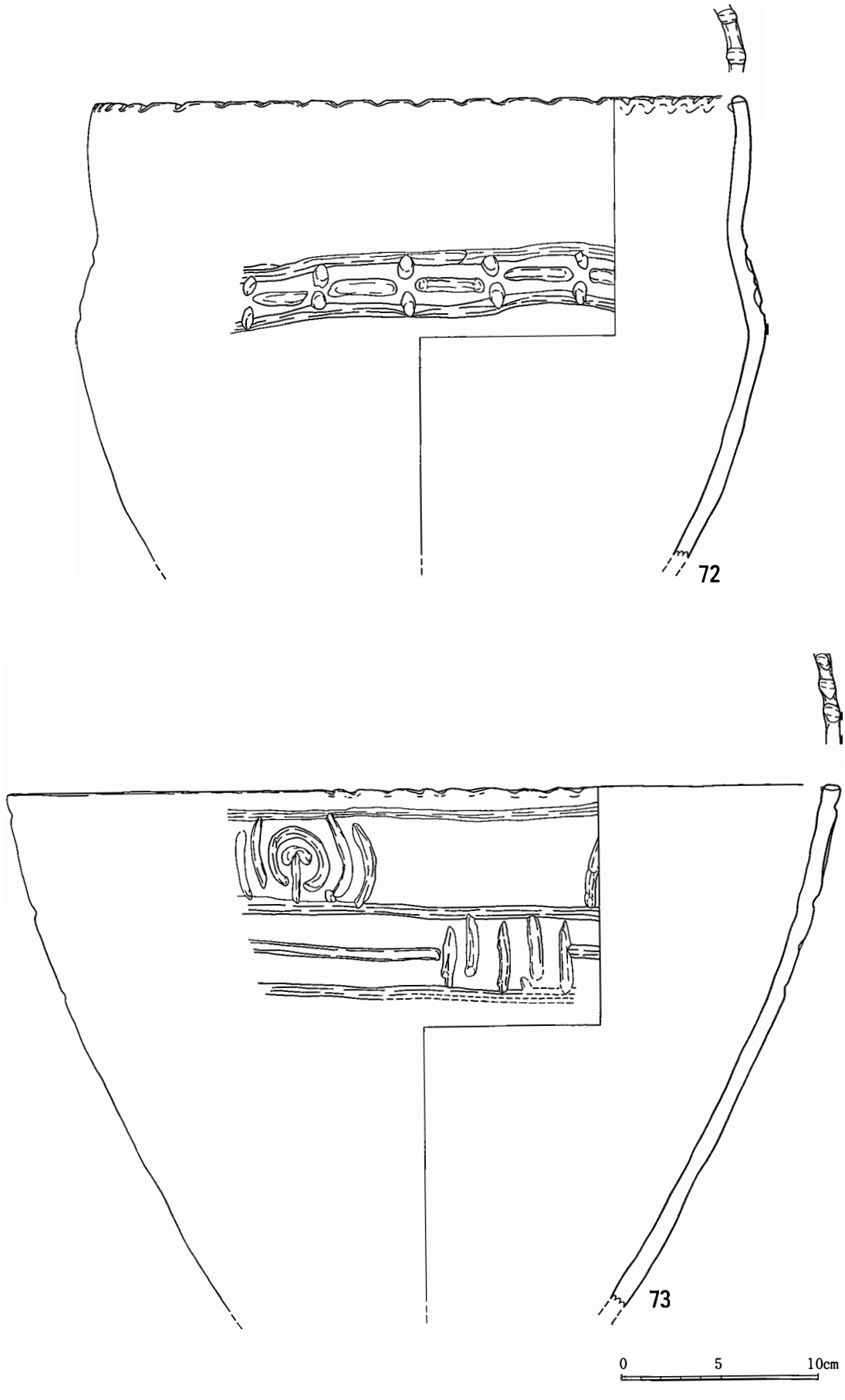

第59図　土器実測・拓影図(15)［63.F−6区２号土壙、64.F−6区
65.F−6区Ⅳ層、66.F−6区Ⅳ層］



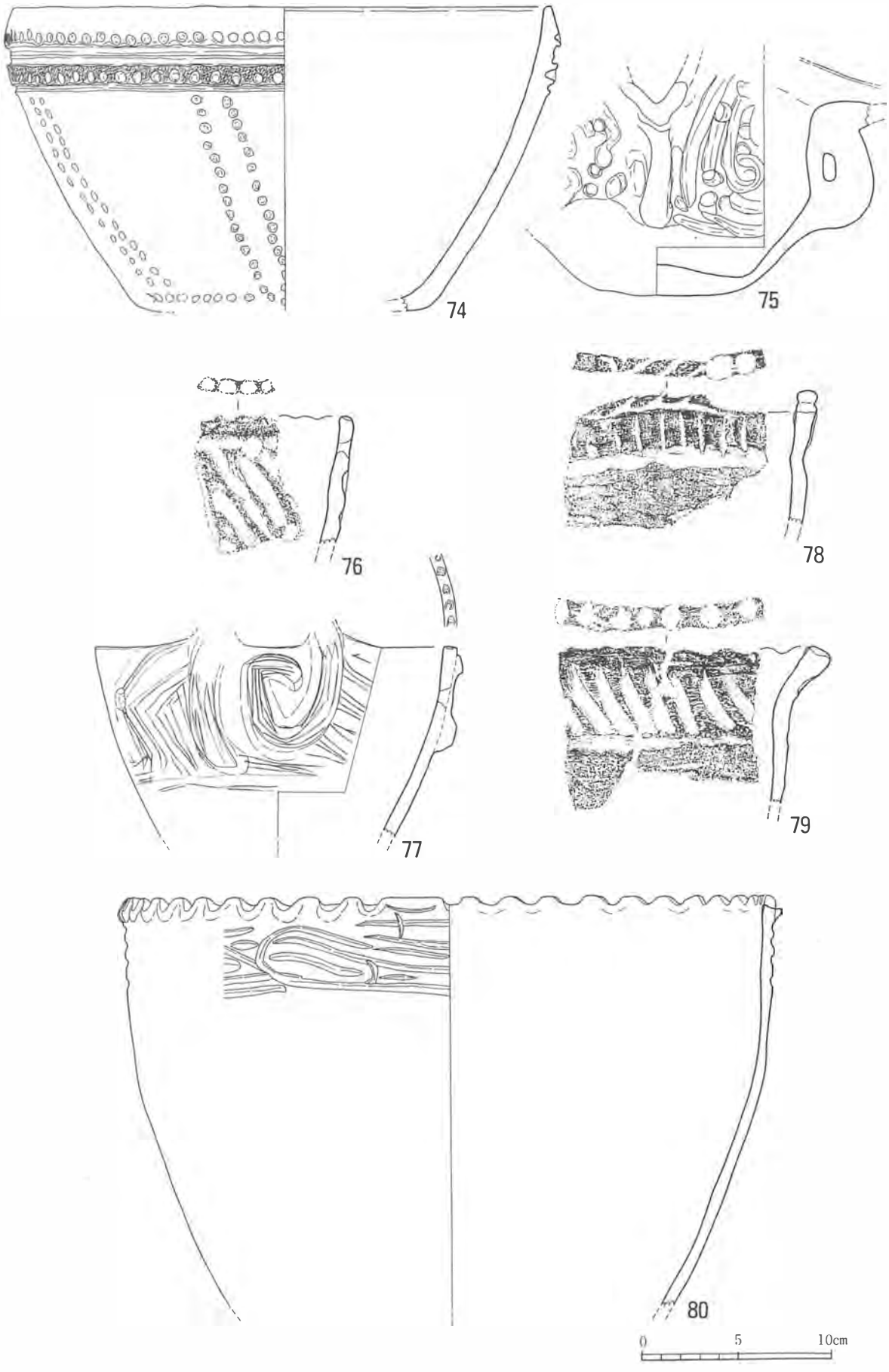

第60図　土器実測・拓影図(16)［67.F−7区、68･69.F−7区１号土壙］



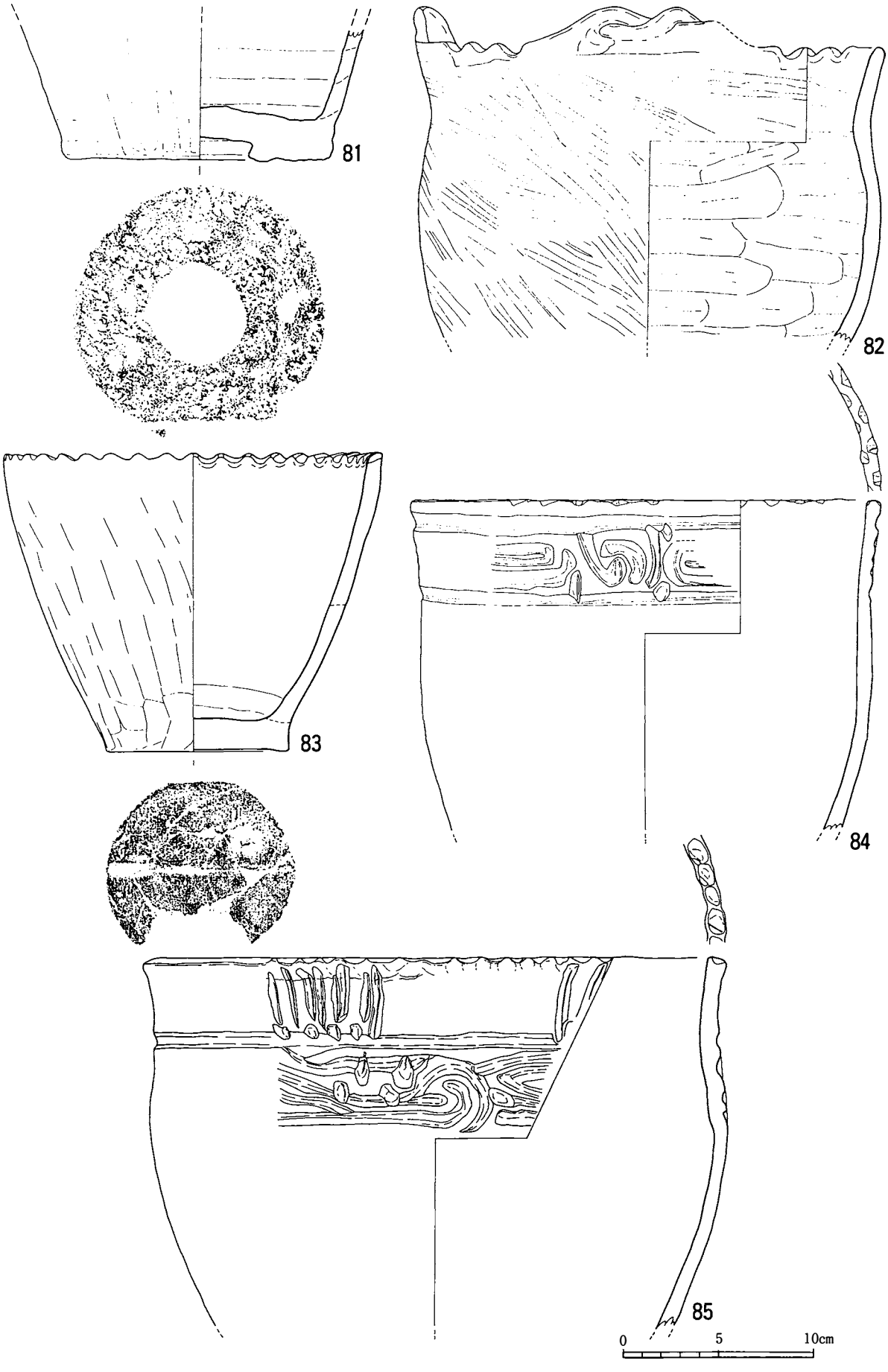

**第61図　土器実測・拓影図(17)**［70.F−7区Ⅳb層、71.F−8区１号土壙］



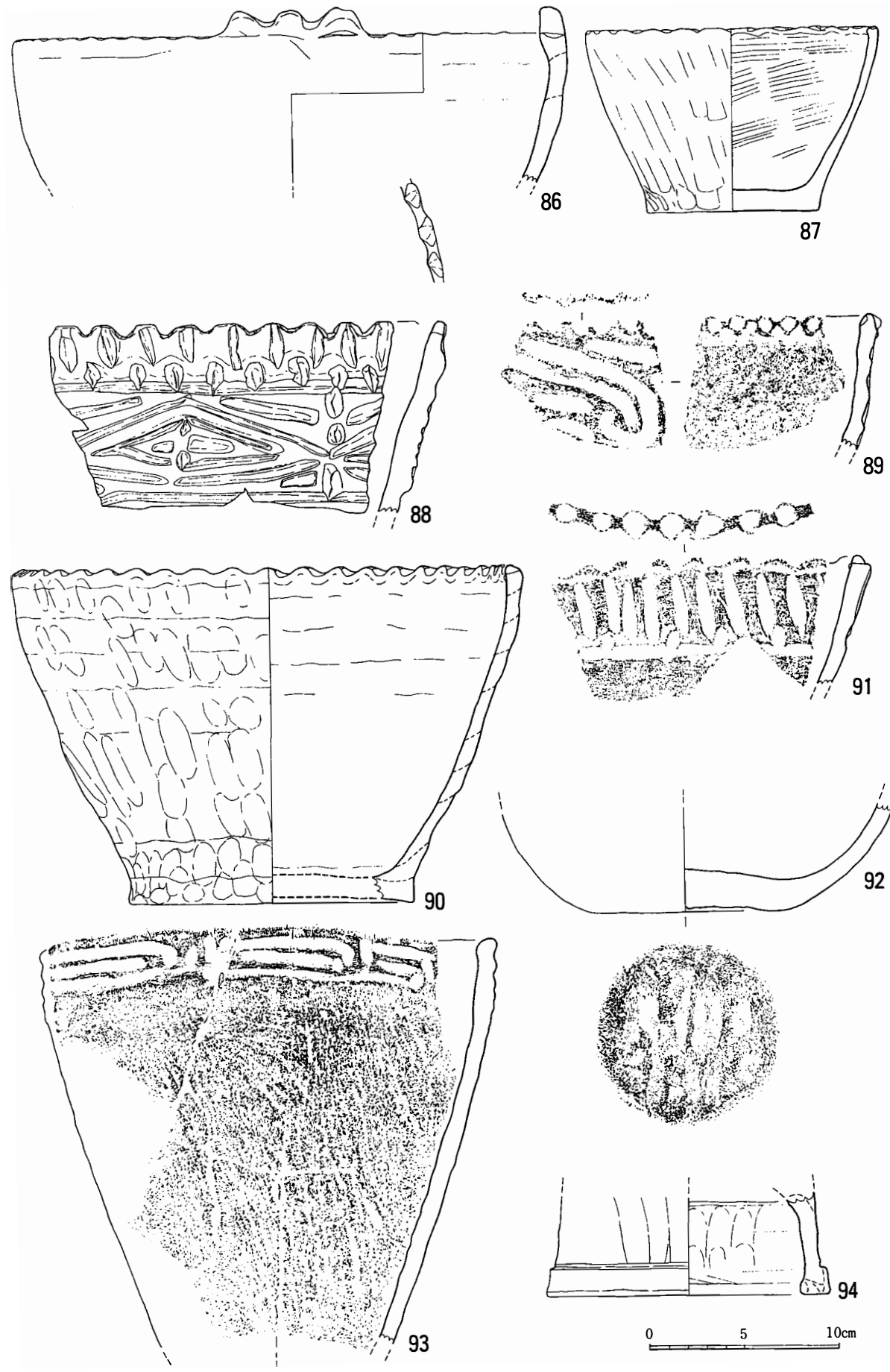

第62図　土器実測・拓影図(18)［72･73.F－8区１号土壙］



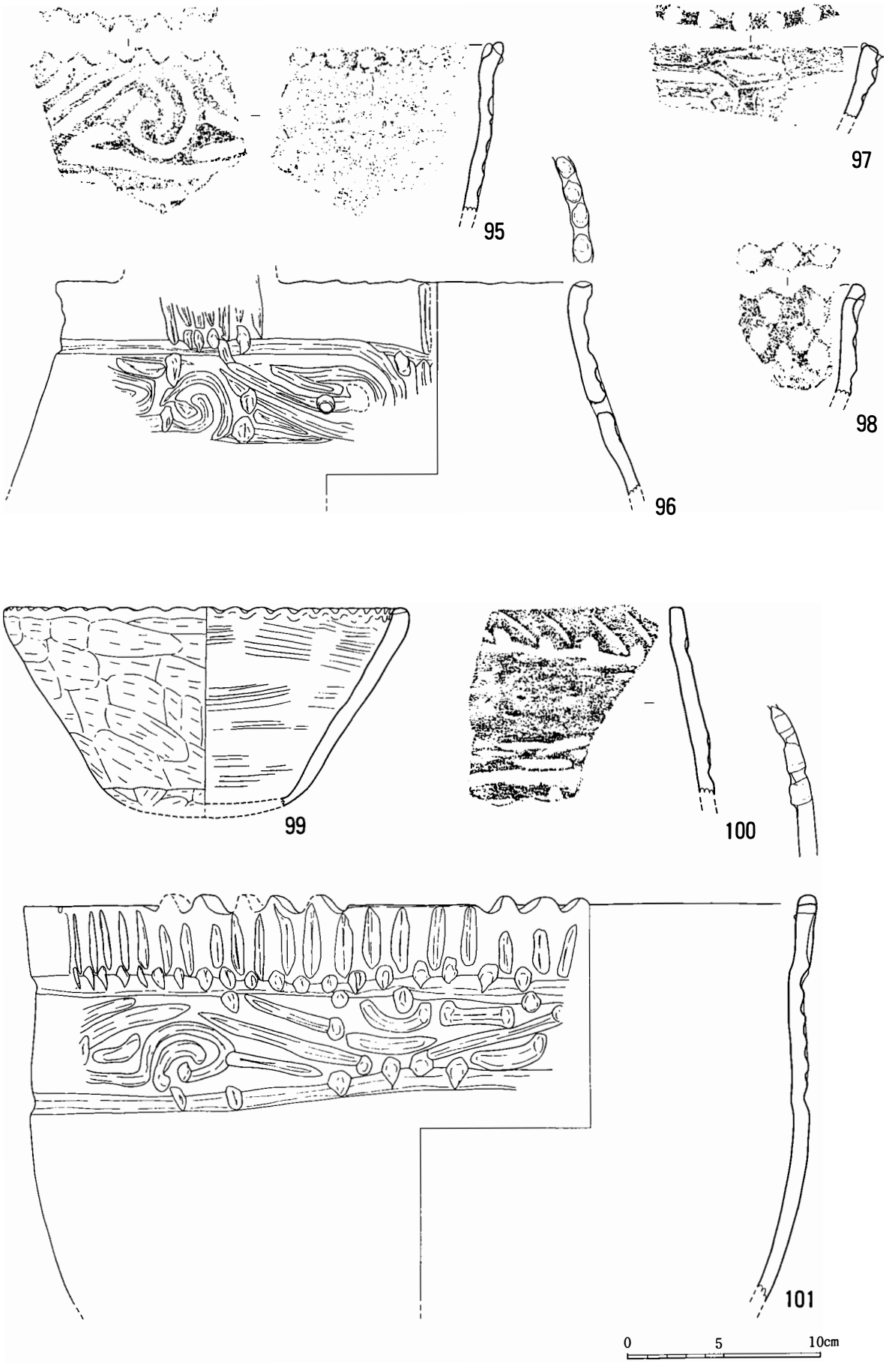

第63図　土器実測・拓影図(19)　[74·75.F−9区Ⅱ層、76.F−10区２号土壙、77.F−11区Ⅲ層
78·79.G−4区流路３、80.G−5区１号土壙]



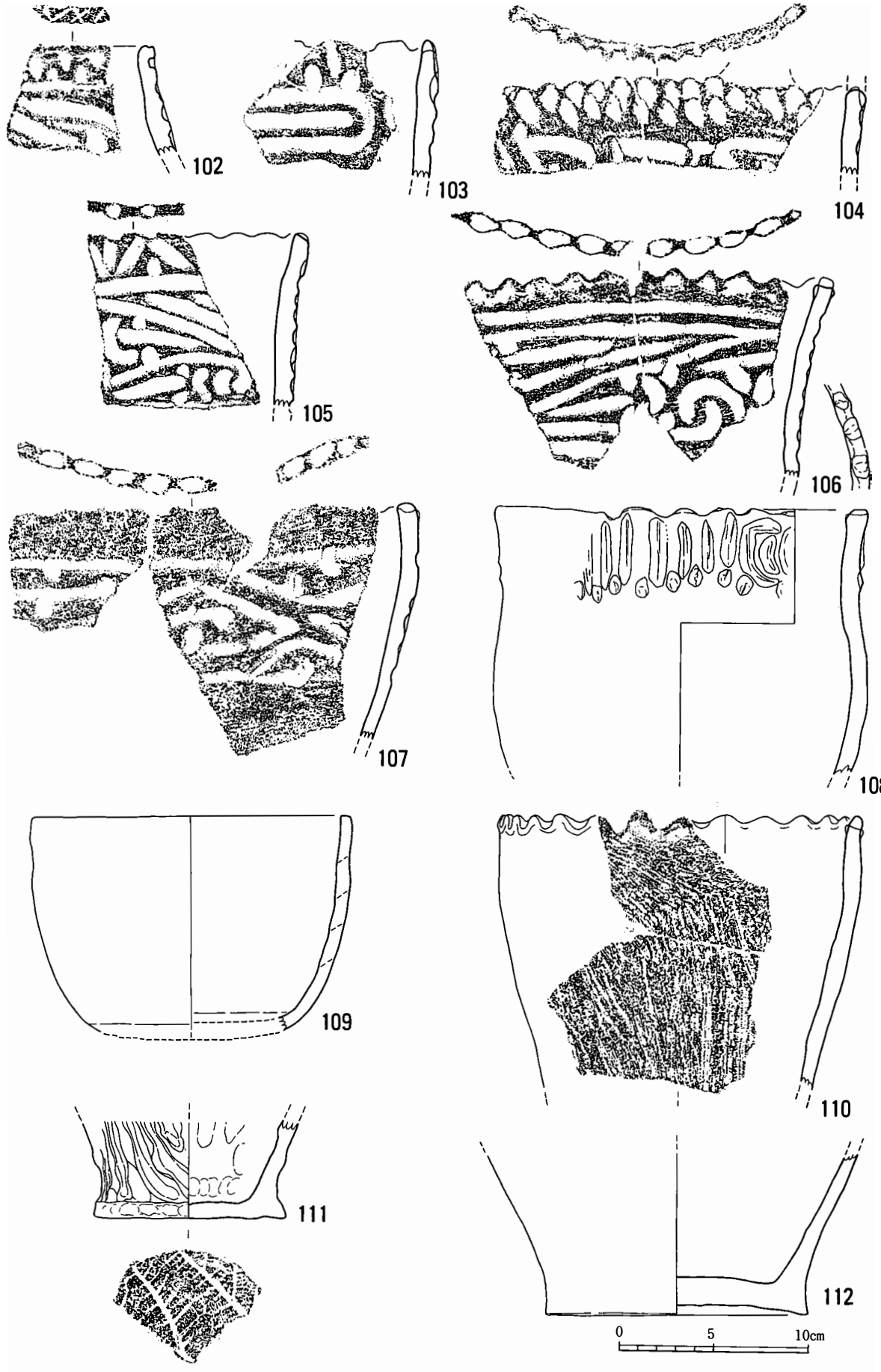

第64図　土器実測・拓影図(20)［81～85.G－5区１号土壙］



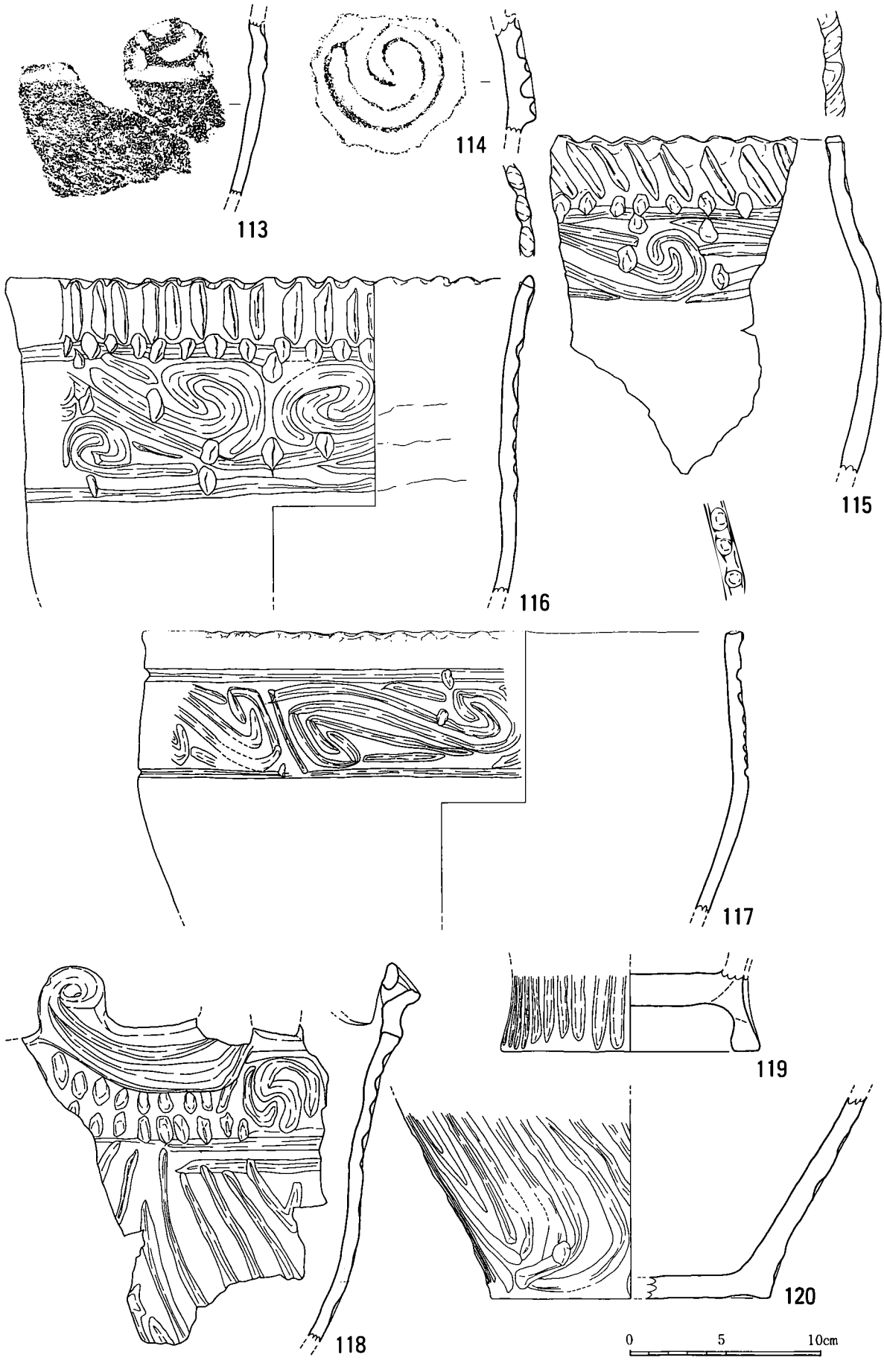

**第65図　土器実測・拓影図(21)**［86.G－5区、87･89･90.G－5区Ⅳ層、88.G－5区１号土壙
91.G－5区Ⅴ層、92.G－5区Ⅳb層、93.G－5区Ⅳ層、94.G－5区］



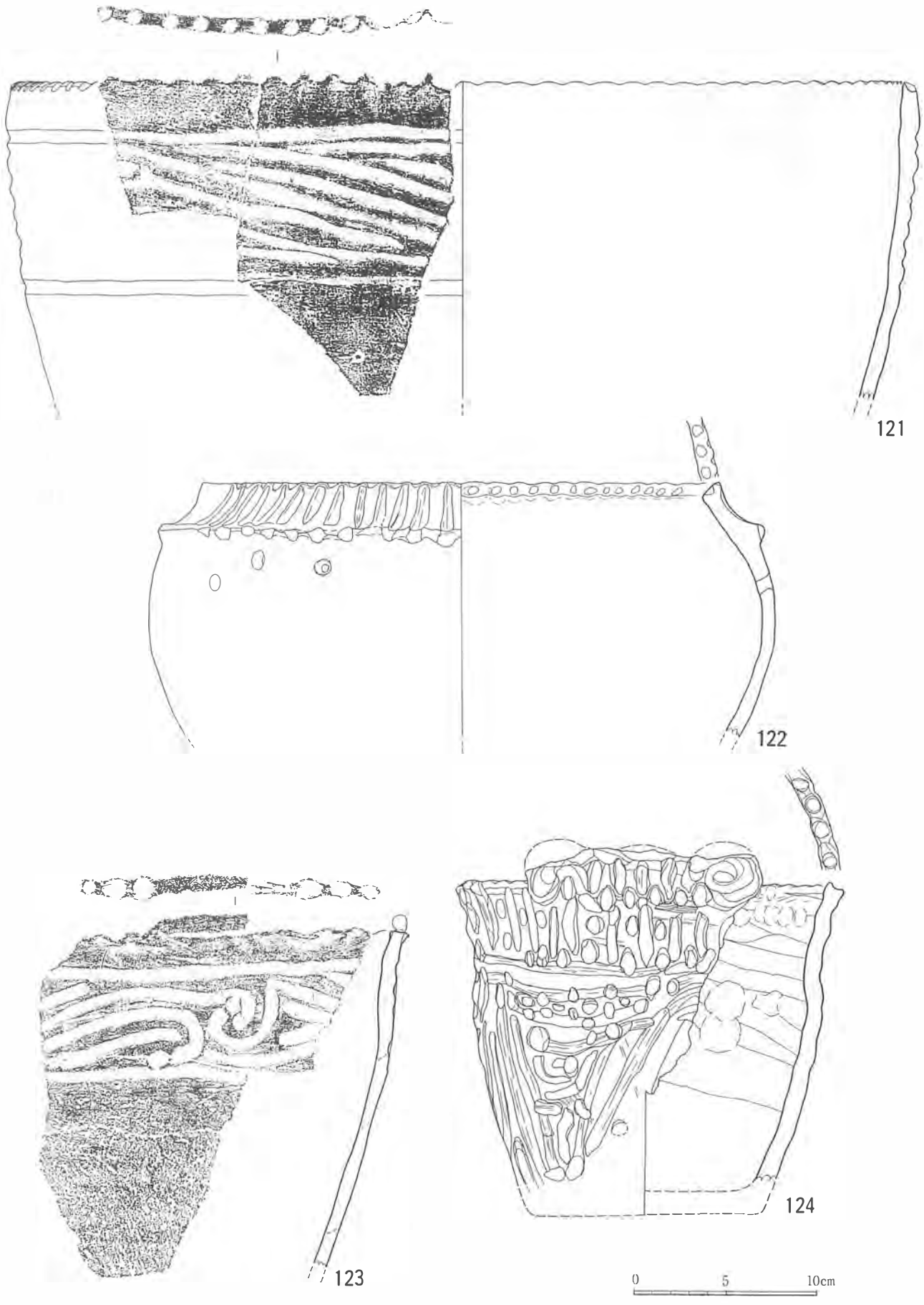

第66図　土器実測・拓影図(22)　［95･96.G－5区Ⅳ層、97～99.G－5区Ⅴ層
100･101.F－6区2･3号土壙］



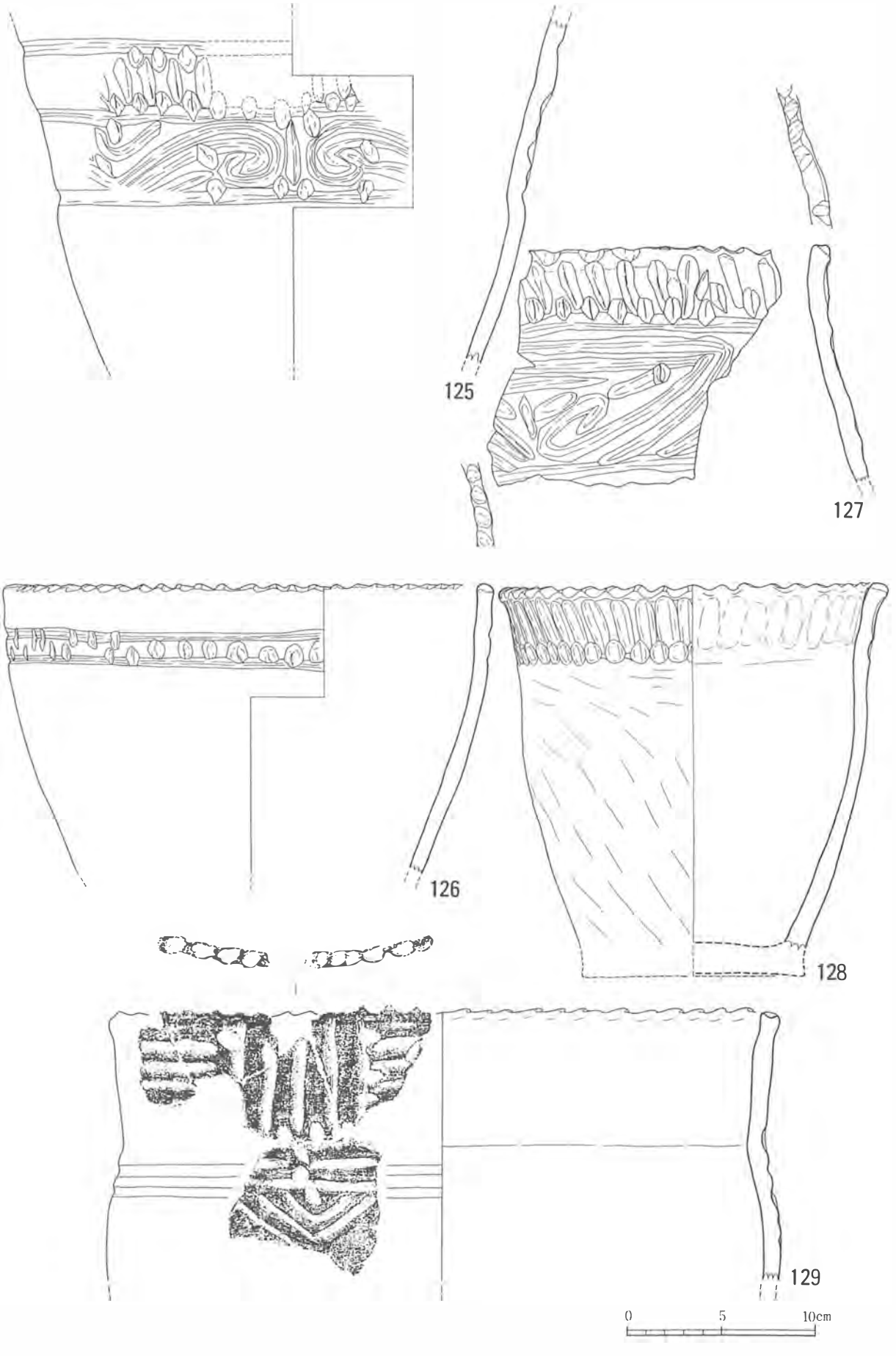

**第67図　土器実測・拓影図(23)**［102·111·112.F－6区2·3号土壙
103～107·109·110.G－6区Ⅳa層108.G－6区］



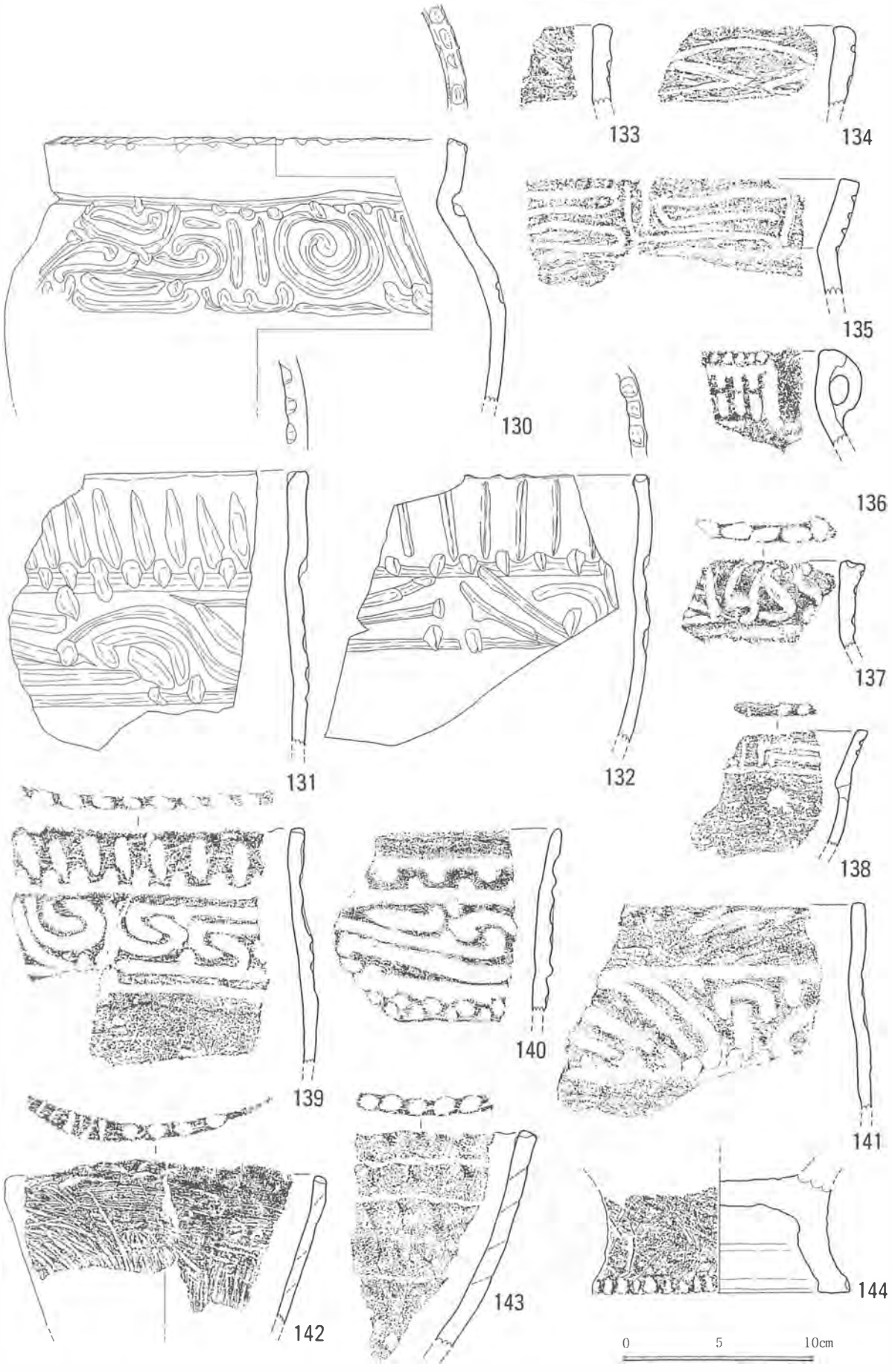

第68図　土器実測・拓影図(24)［113·114·119·120.G－6区Ⅳa層
115～118.G－6区］



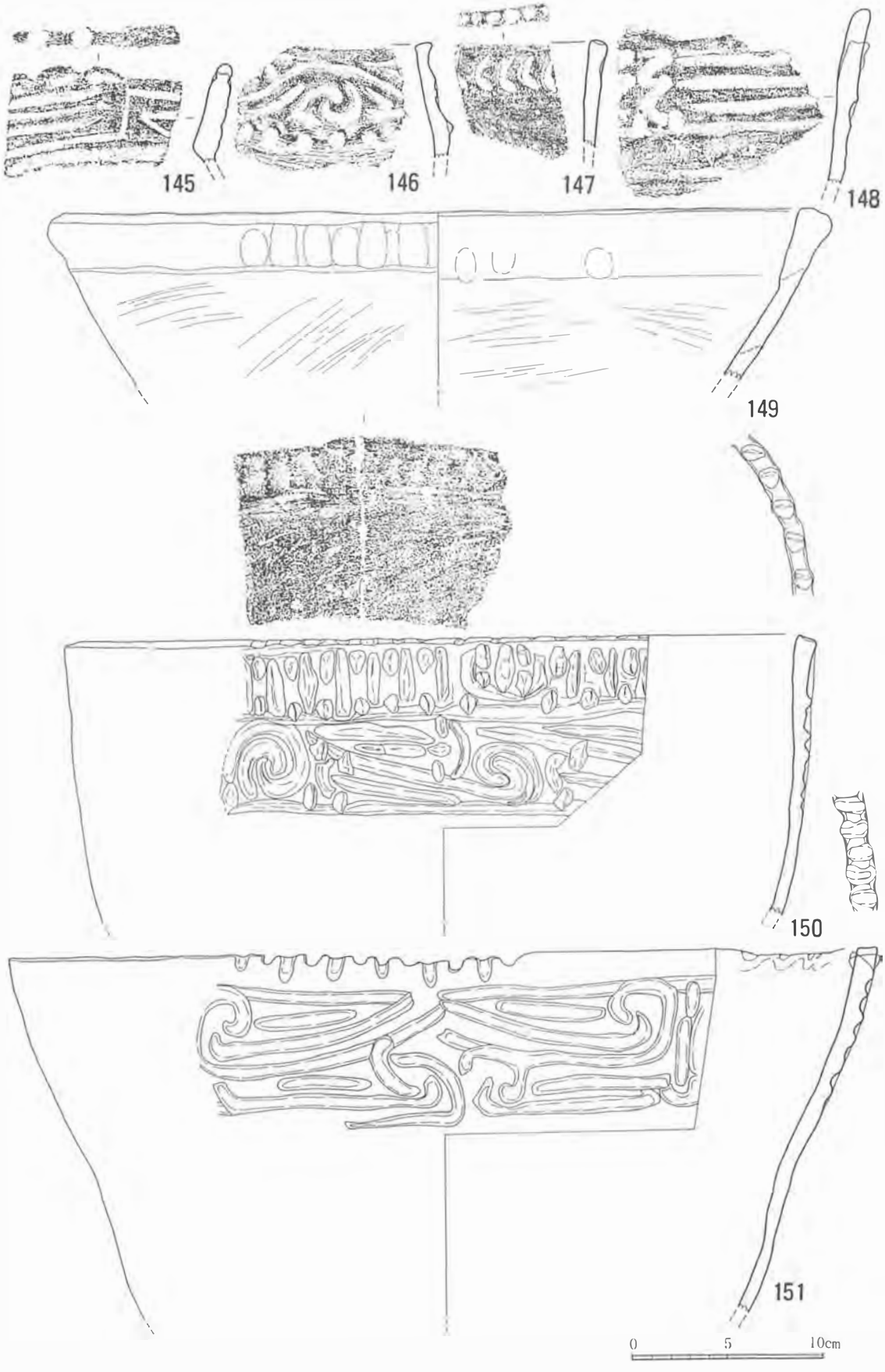

第69図　土器実測・拓影図(25)［121.G－6区Ⅳb層、122.G－6区Ⅳ層
123.G－6区Ⅳa層、124.G－6区Ⅳ～Ⅴ層］



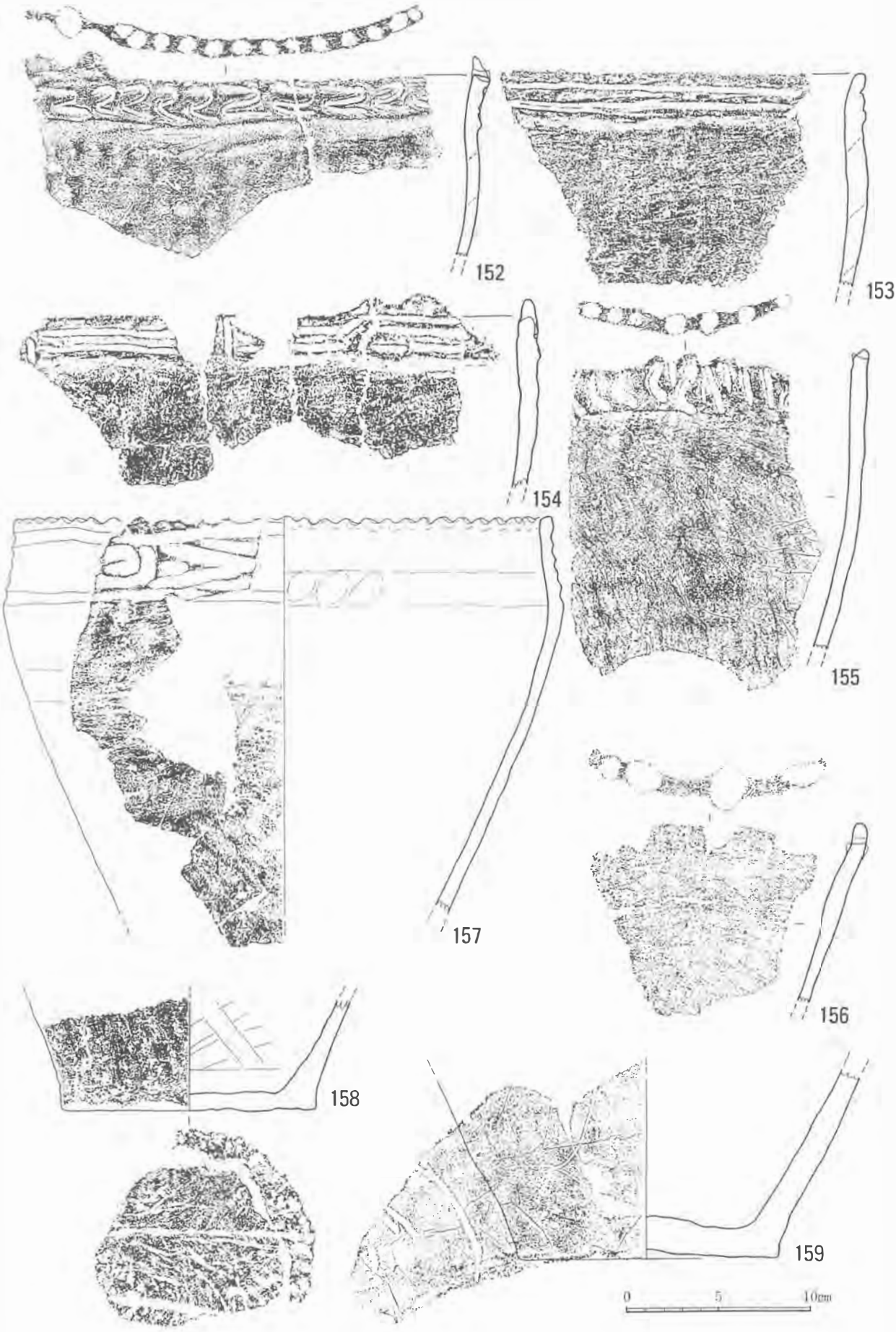

第70図　土器実測・拓影図(26)　[125·128·129.G−6区、126.G−6区Ⅳb層 127.G−6区Ⅳa～Ⅴ層]



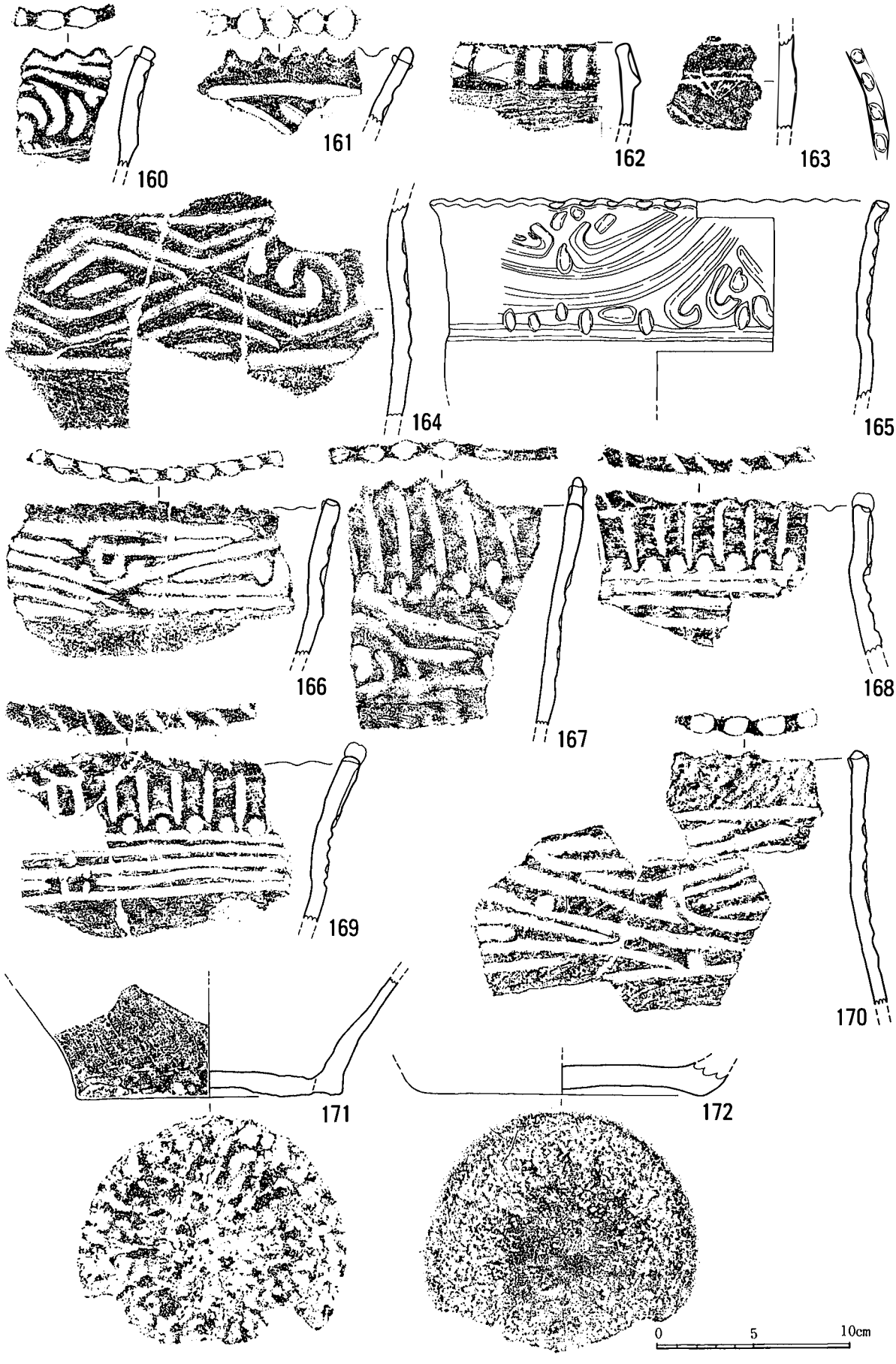

第71図　土器実測・拓影図(27)［130.G−6区Ⅳb層、131･132･139～141.G−7区1号土壙
133～138･142～144.G−7区］



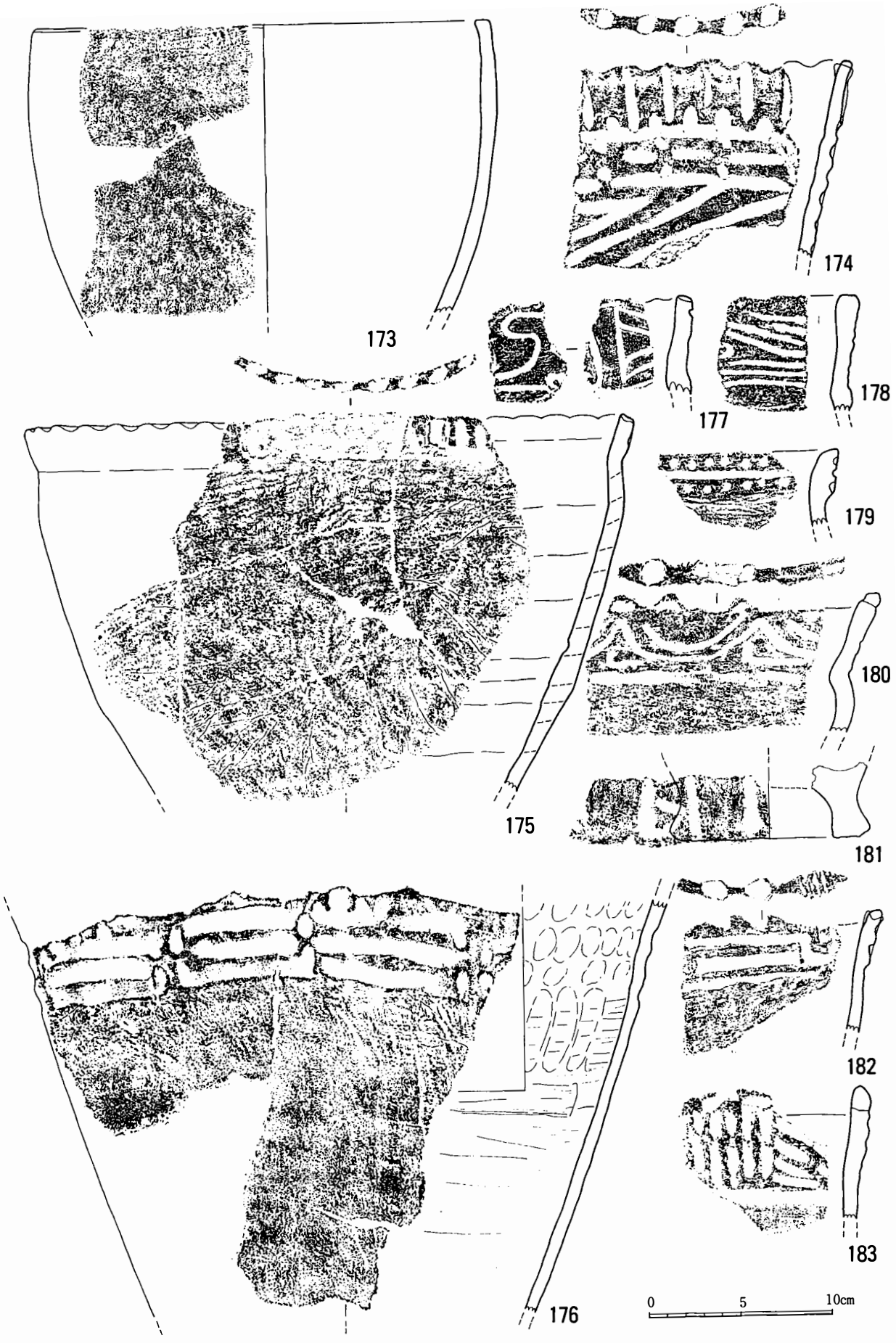

第72図　土器実測・拓影図(28)　［145～149.G－7区
150･151.G－7区１号土壙］



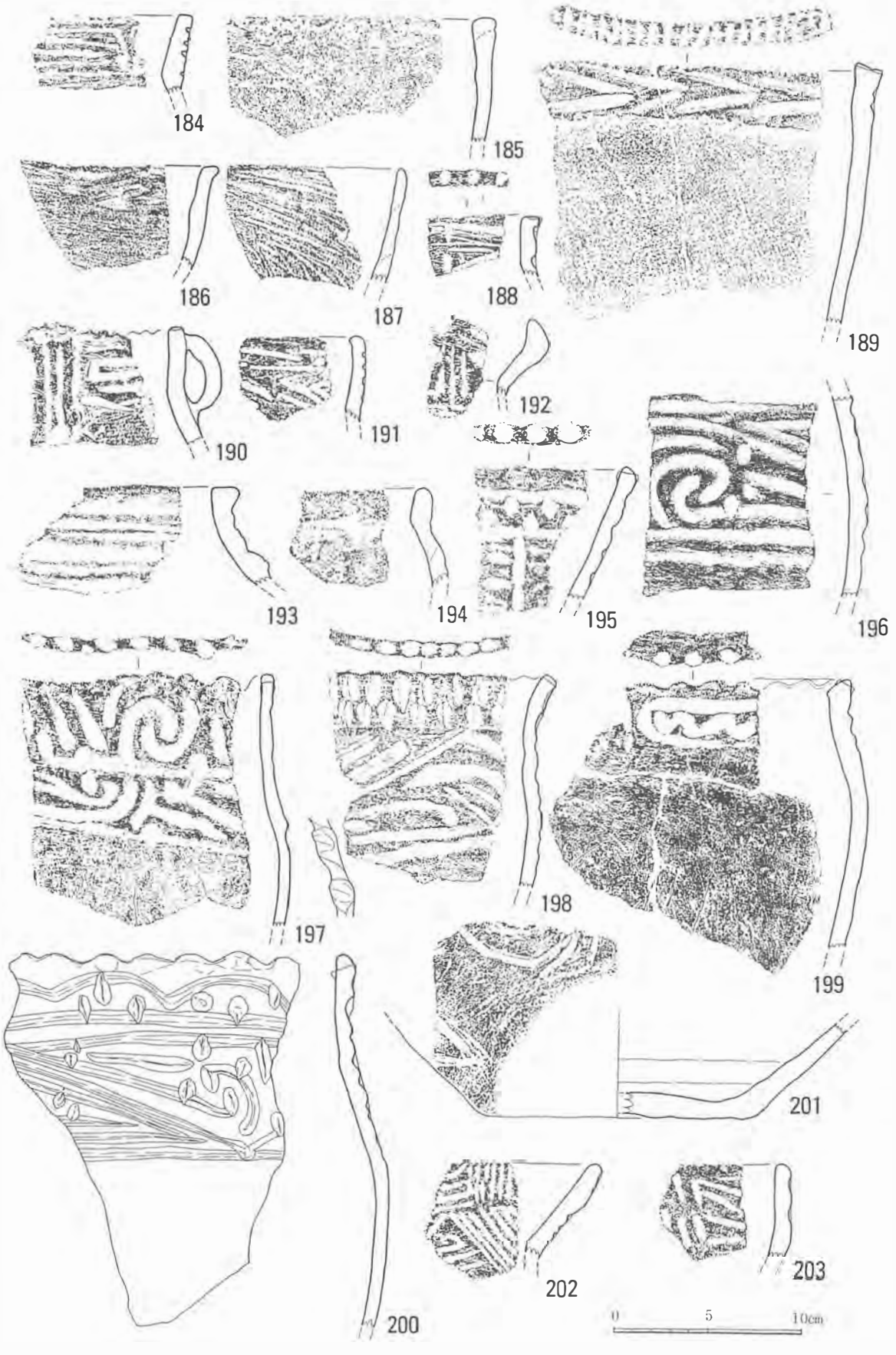

**第73図　土器実測・拓影図(29)** ［152～159 G－7区］




**第74図　土器実測・拓影図(30)**［160～166･168～170.G－7区、167･171.G－7区Ⅳ層
172.G－7区１号土壙］

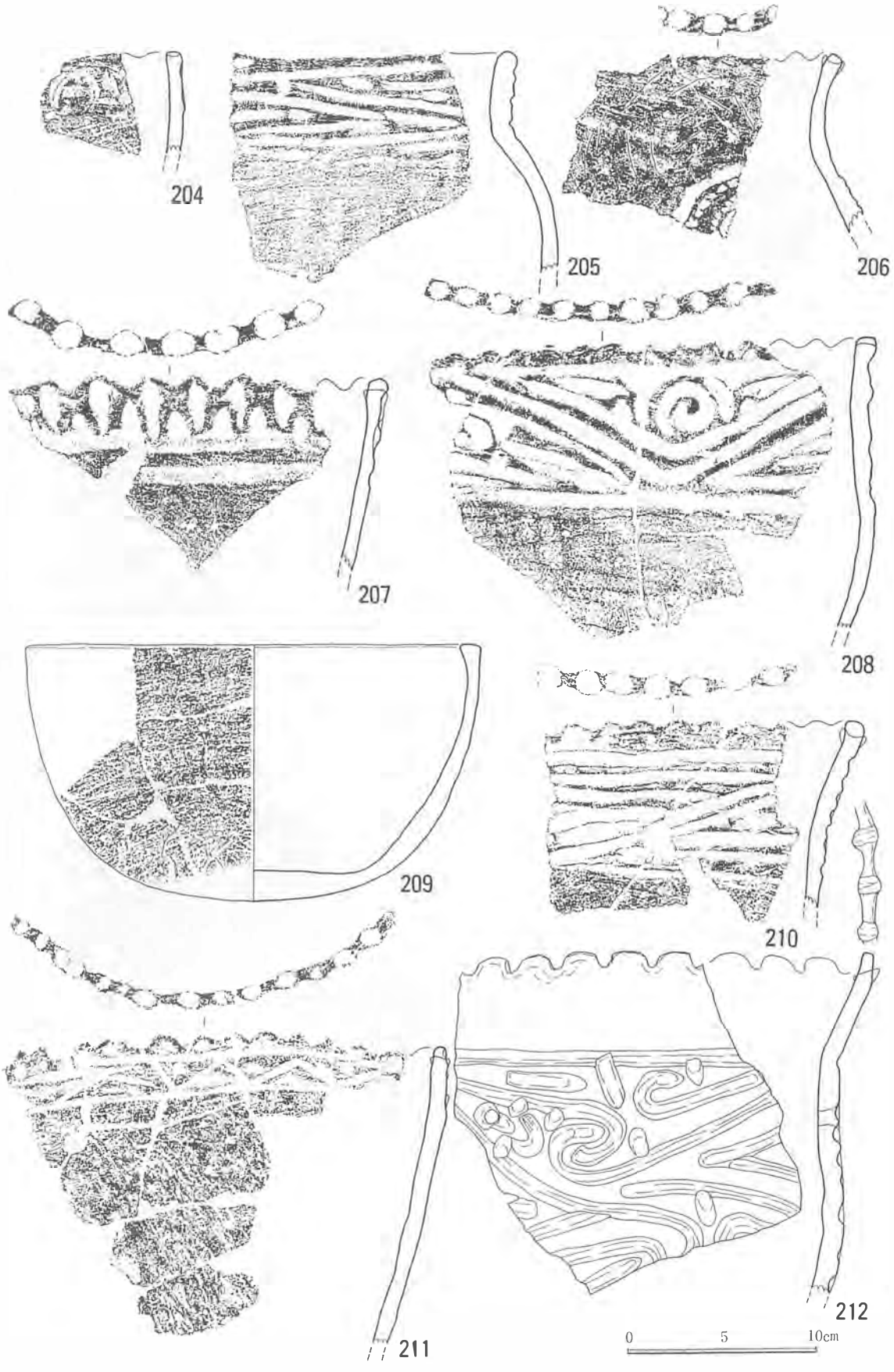



第75図　土器実測・拓影図(31)［173･175.G－7区、174.G－7区Ⅳ層
176.G－7区１号土壙、177～183.G－7区攪乱］

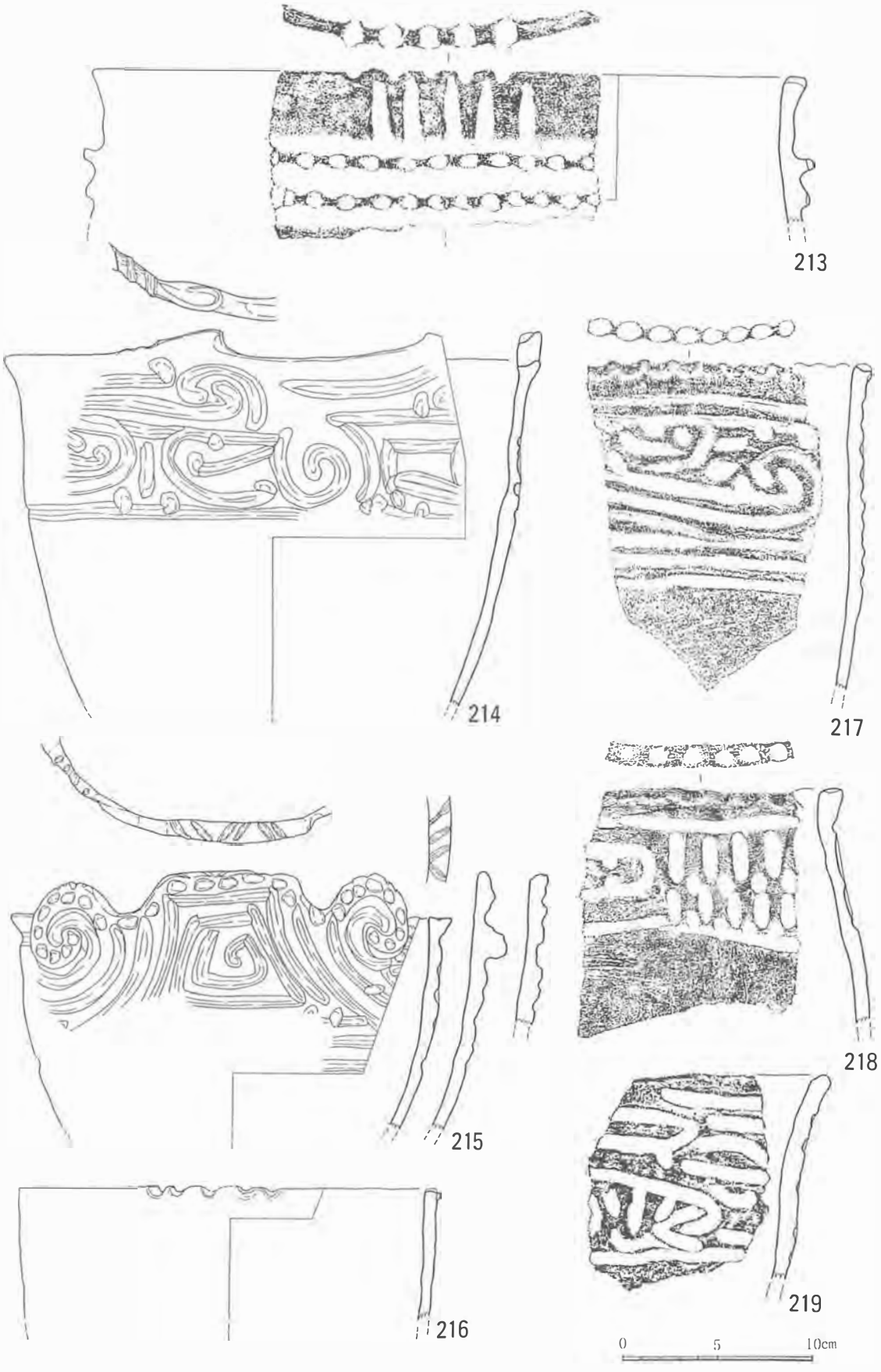



第76図　土器実測・拓影図(32)

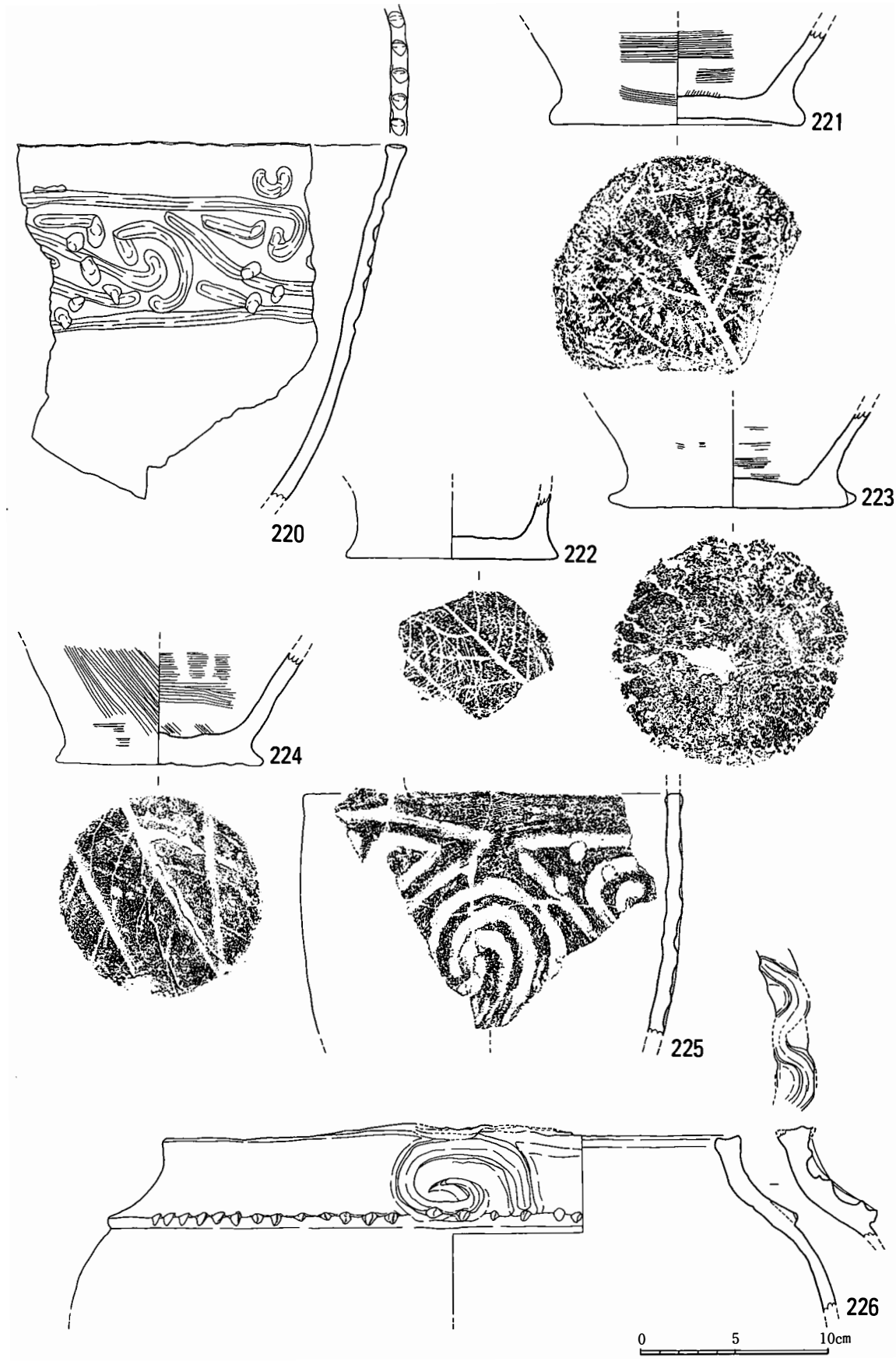
184·189.G－7区攪乱、185·187·188·194.G－7区Ⅱ層、186·190～193·199.G－7区Ⅲ層、195.G－7区Ⅳ層、196·198.G－7区Ⅴ層、197.G－7区Ⅳb層、200.G－7区、201.G－7区Ⅳa層、202.G－8区Ⅲ層、203.G－8区Ⅱ層



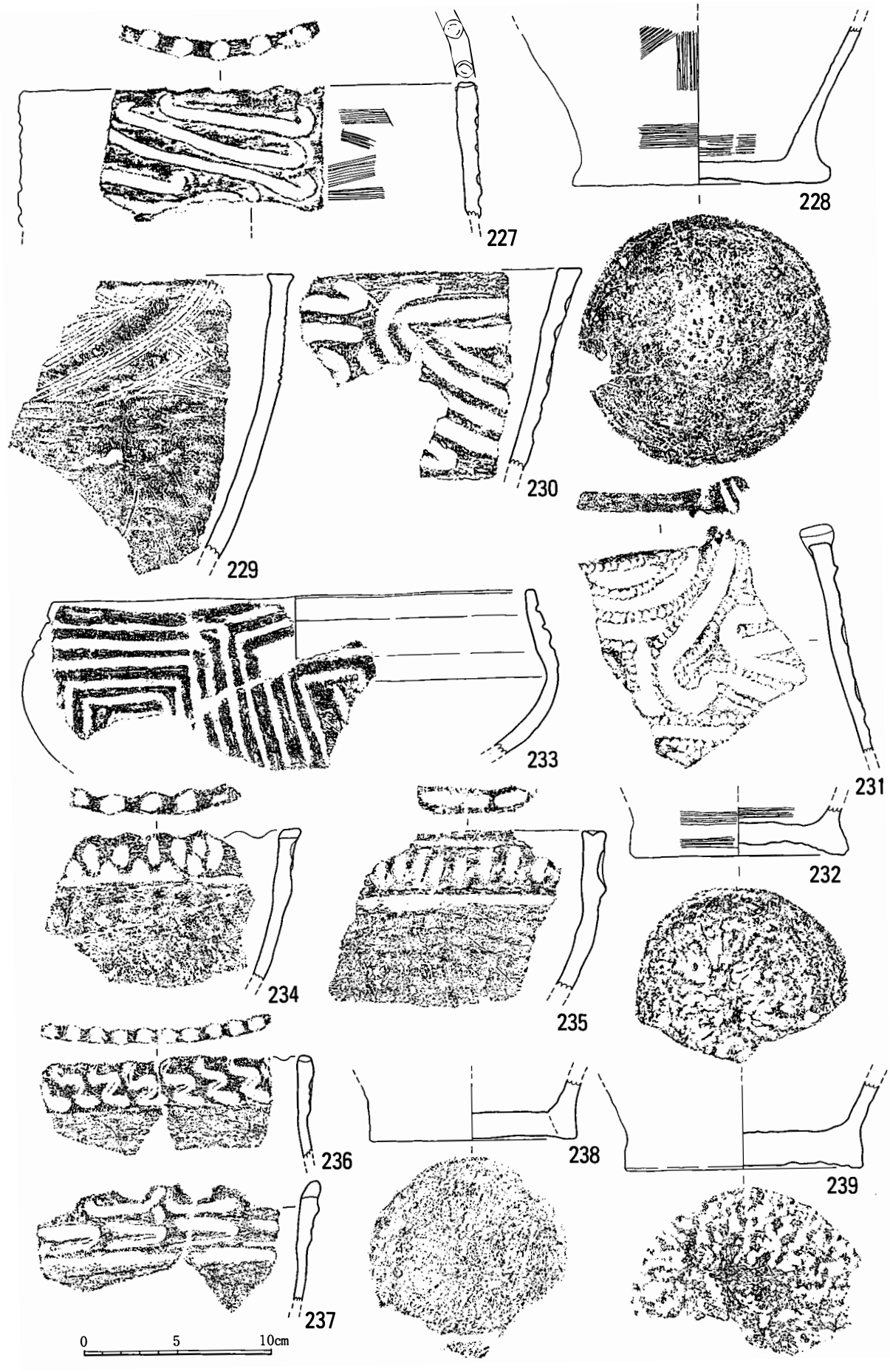

第77図　土器実測・拓影図(33)［204.G－8区Ⅱ層、205.G－8区Ⅲa層、206･207.G－8区Ⅳ層
208～211.G－8区Ⅲb層、212.G－8区Ⅳb層］



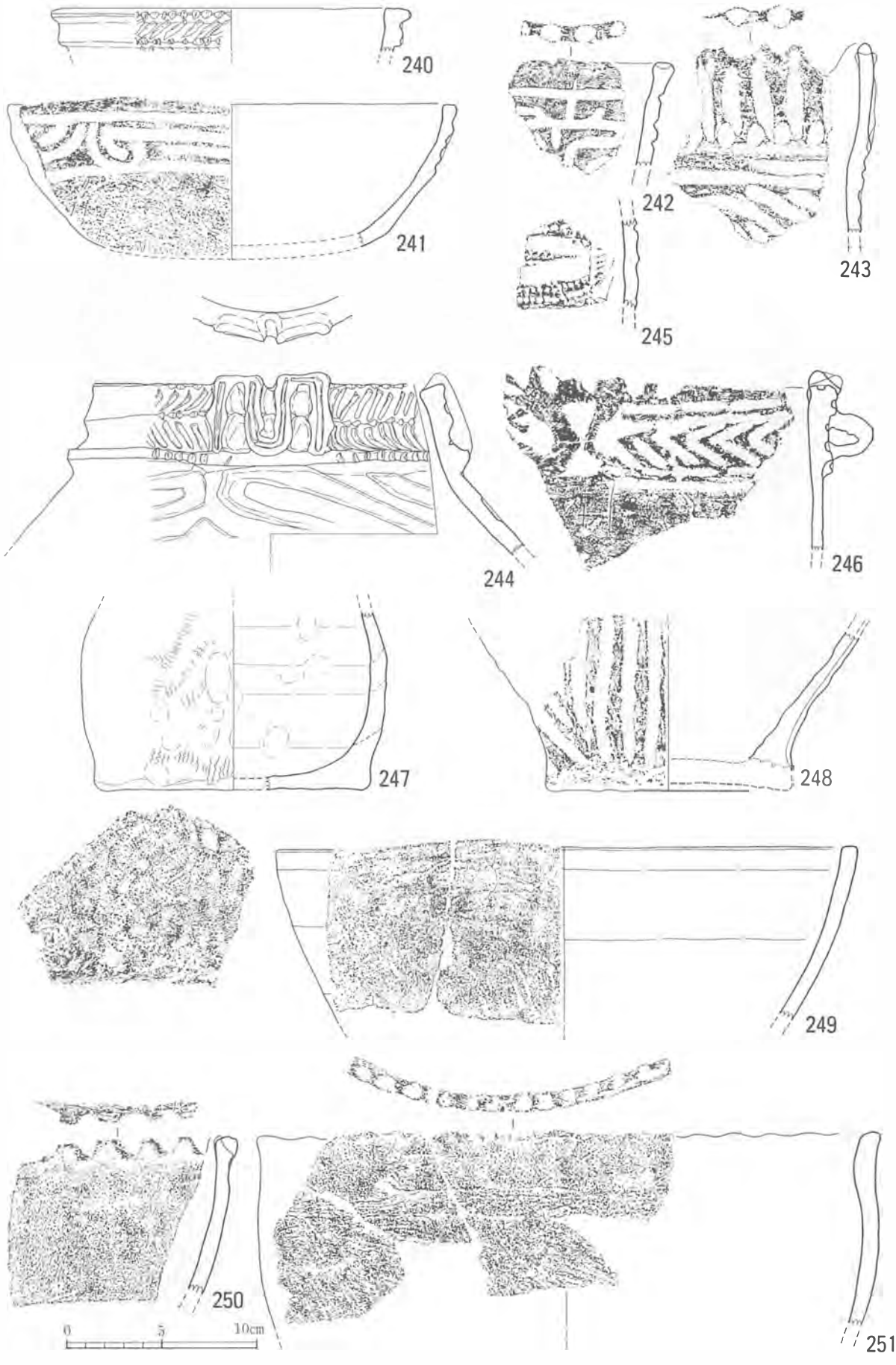

第78図　土器実測・拓影図(34)［213.G－8区Ⅳb層、214.G－8区Ⅲ･Ⅳ層
215.G－8区Ⅲb･Ⅳb層、216～219.G－9区１号土壙］



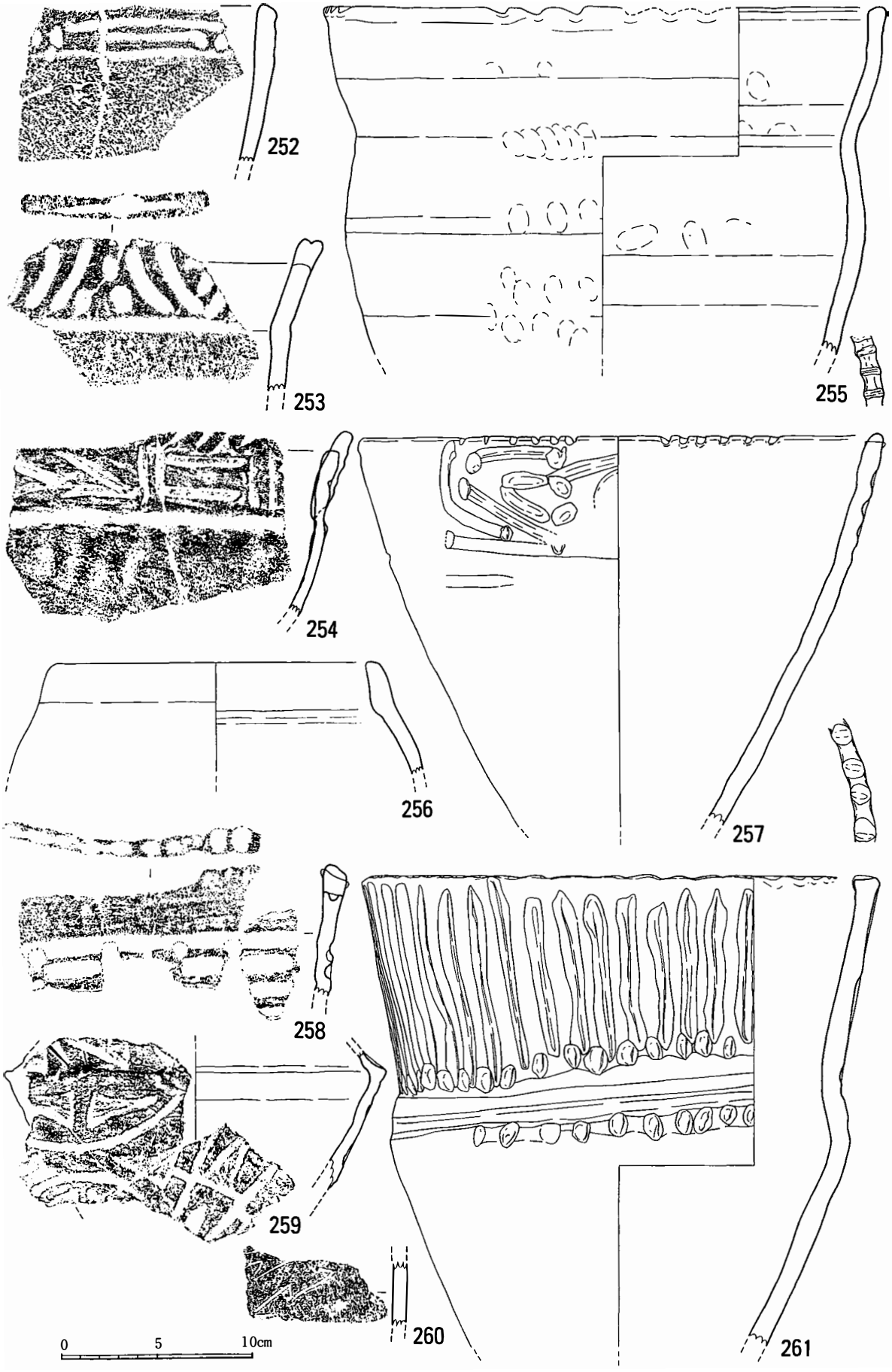

第79図　土器実測・拓影図(35)［220～224.G－9区１号土壙
225.G－9区Ⅳb層、226.G－9区Ⅲa層］



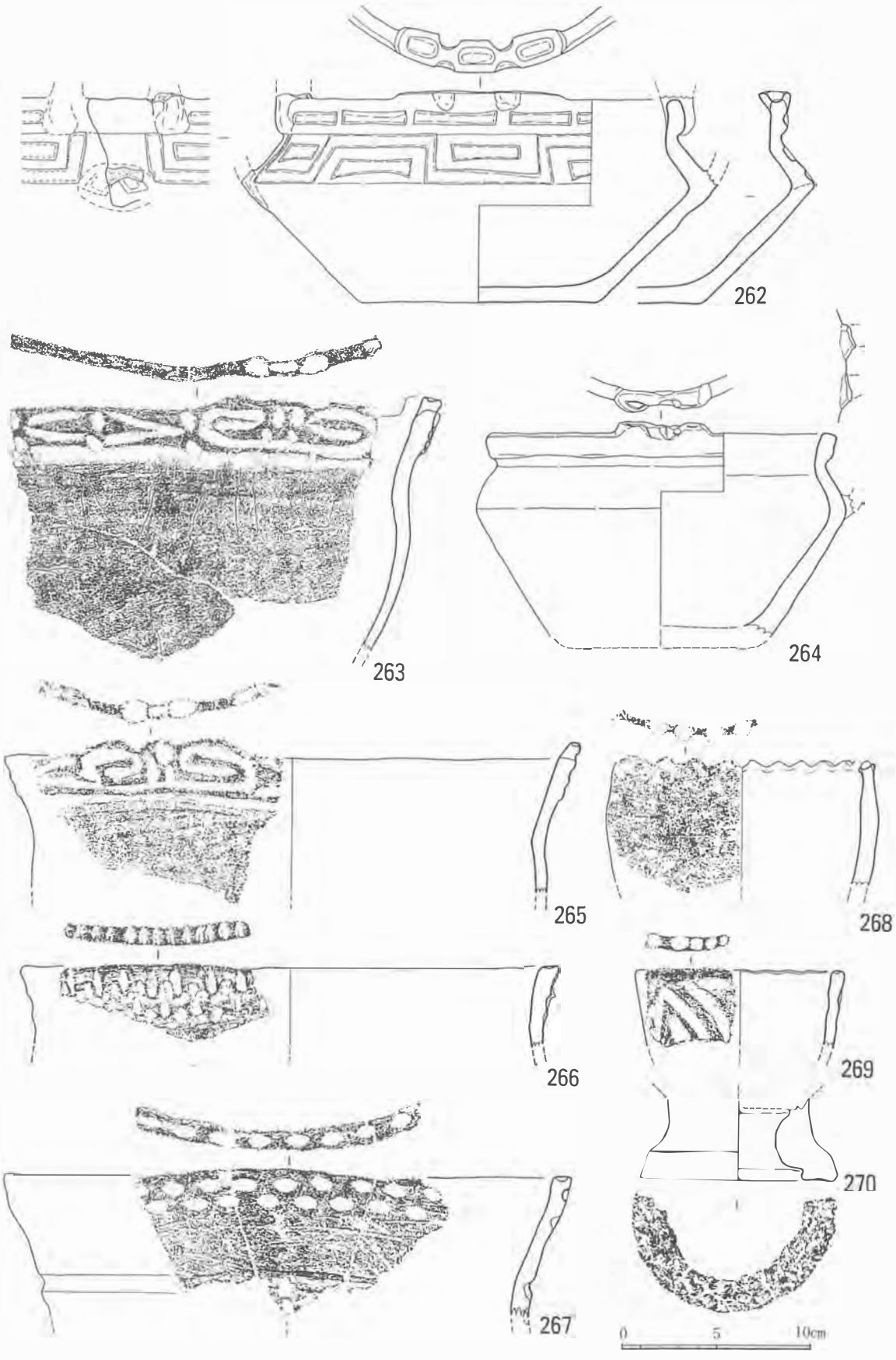

**第80図　土器実測・拓影図(36)**　227.F－10区１号土壙、228.G－10区１号土壙、229～232.G－11区１号土壙
233.H－3区Ⅱ層、234～238.H－6区、239.H－6区Ⅳ層



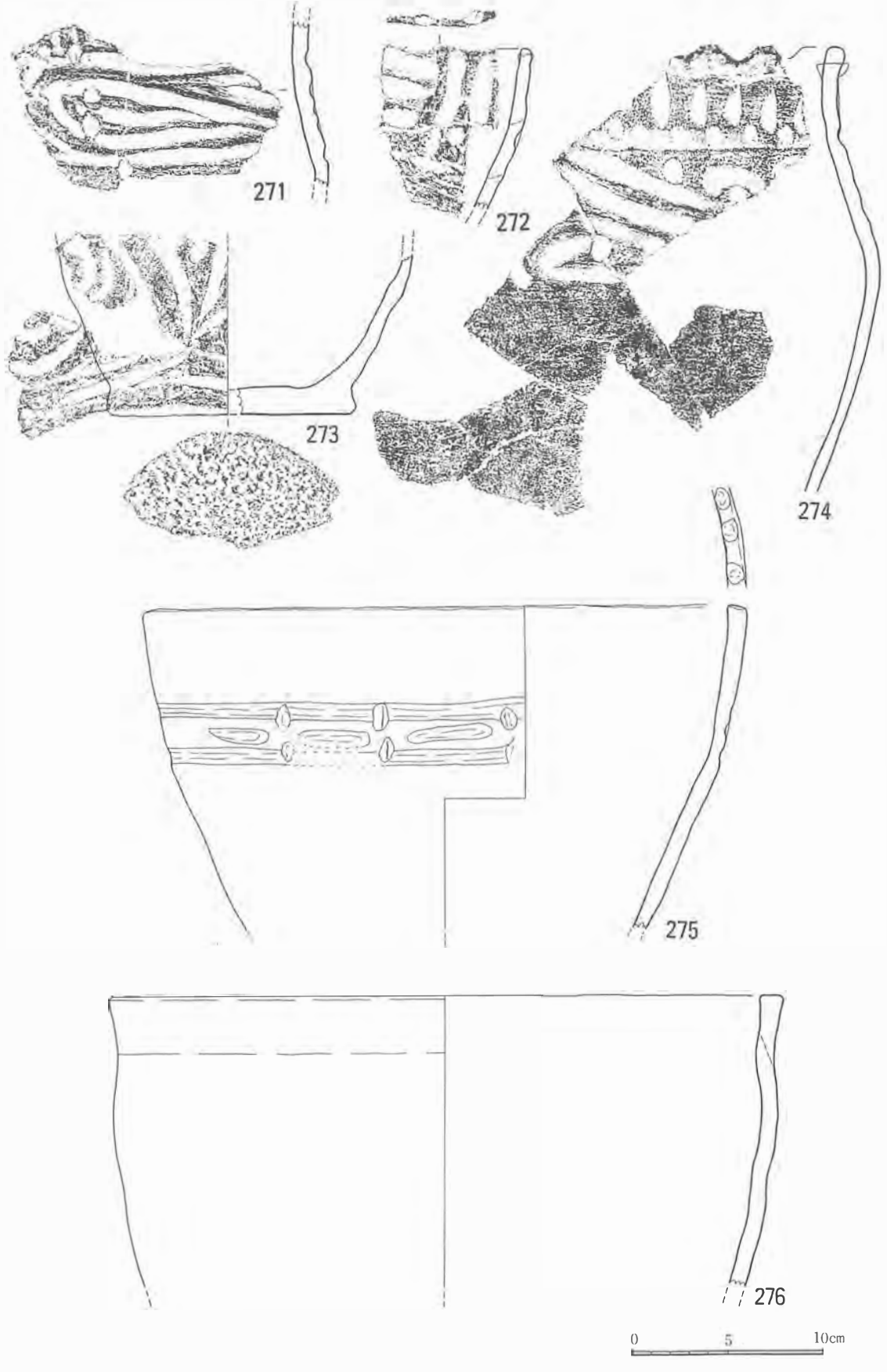

第81図　土器実測・拓影図(37)［240·242～248.H－6区
241.H－6区Ⅳ層、249～251.H－7区］



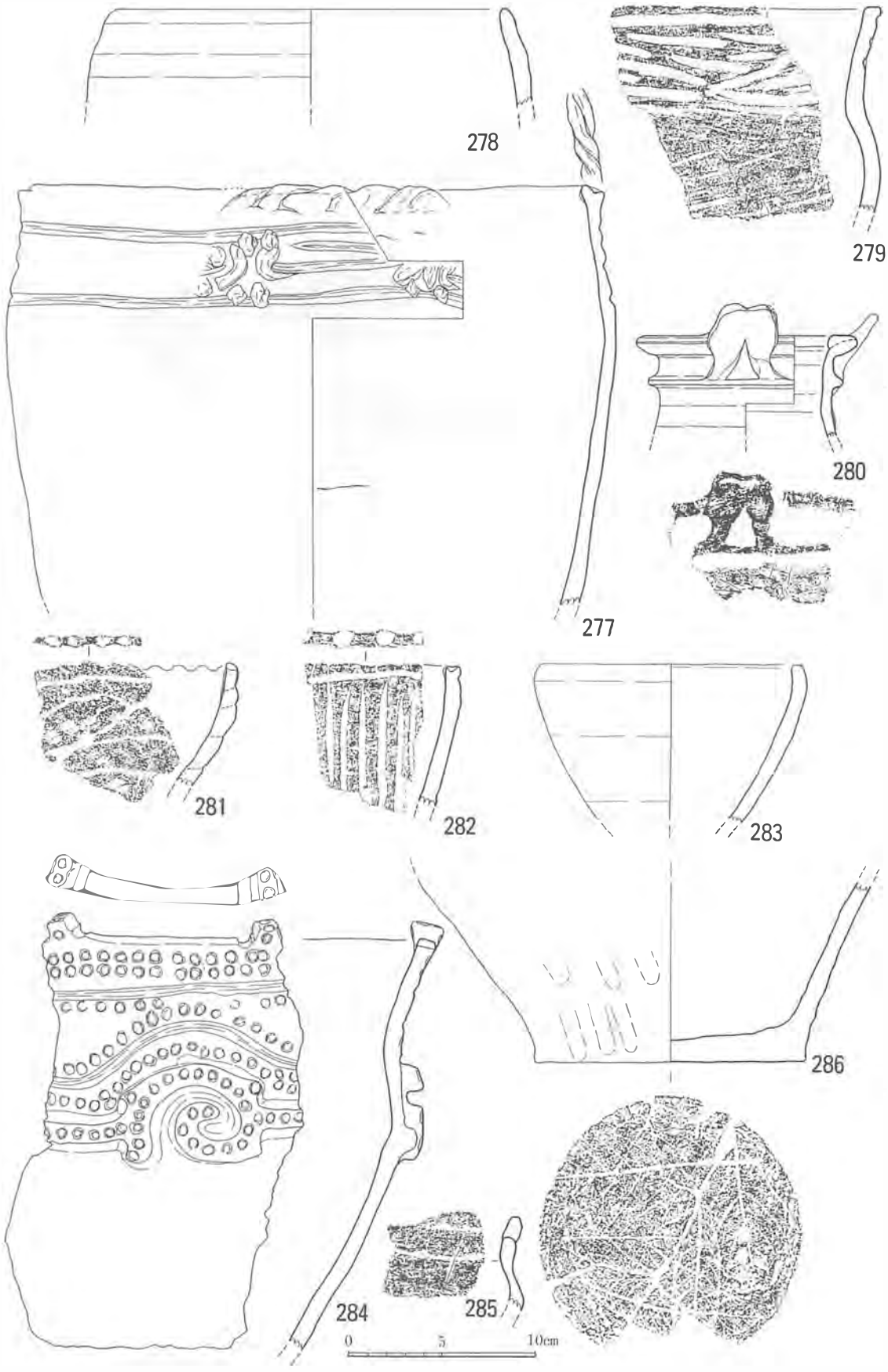

第82図　土器実測・拓影図(38)［252～254·256·258～260.H－7区
255·257·261.H－7区1号土壙］



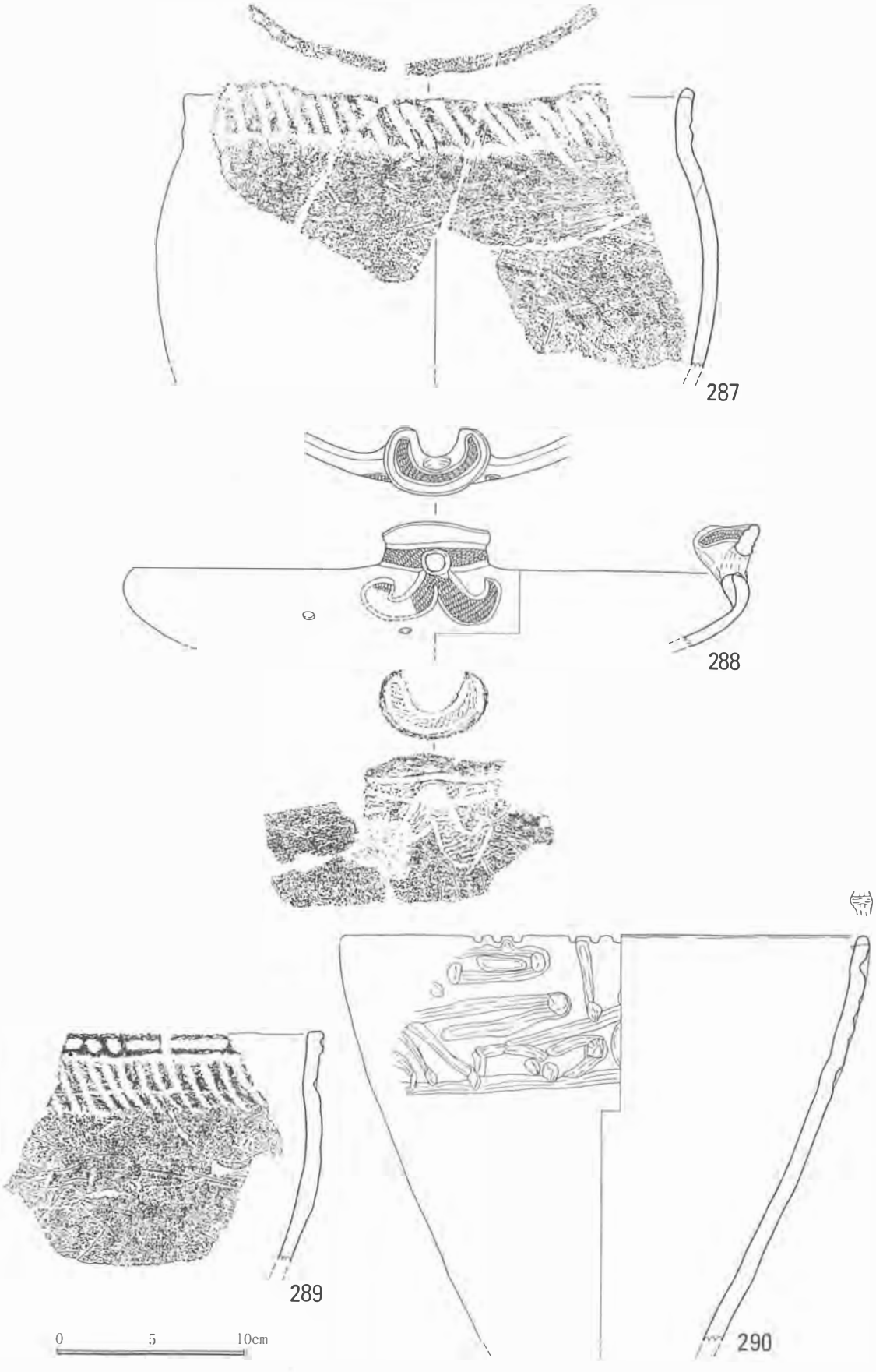

第83図　土器実測・拓影図(39)［262.H−7区攪乱、263·265·266·268～270.H−7区
264.H−7区Ⅳa層、267.H−7区Ⅳb層］



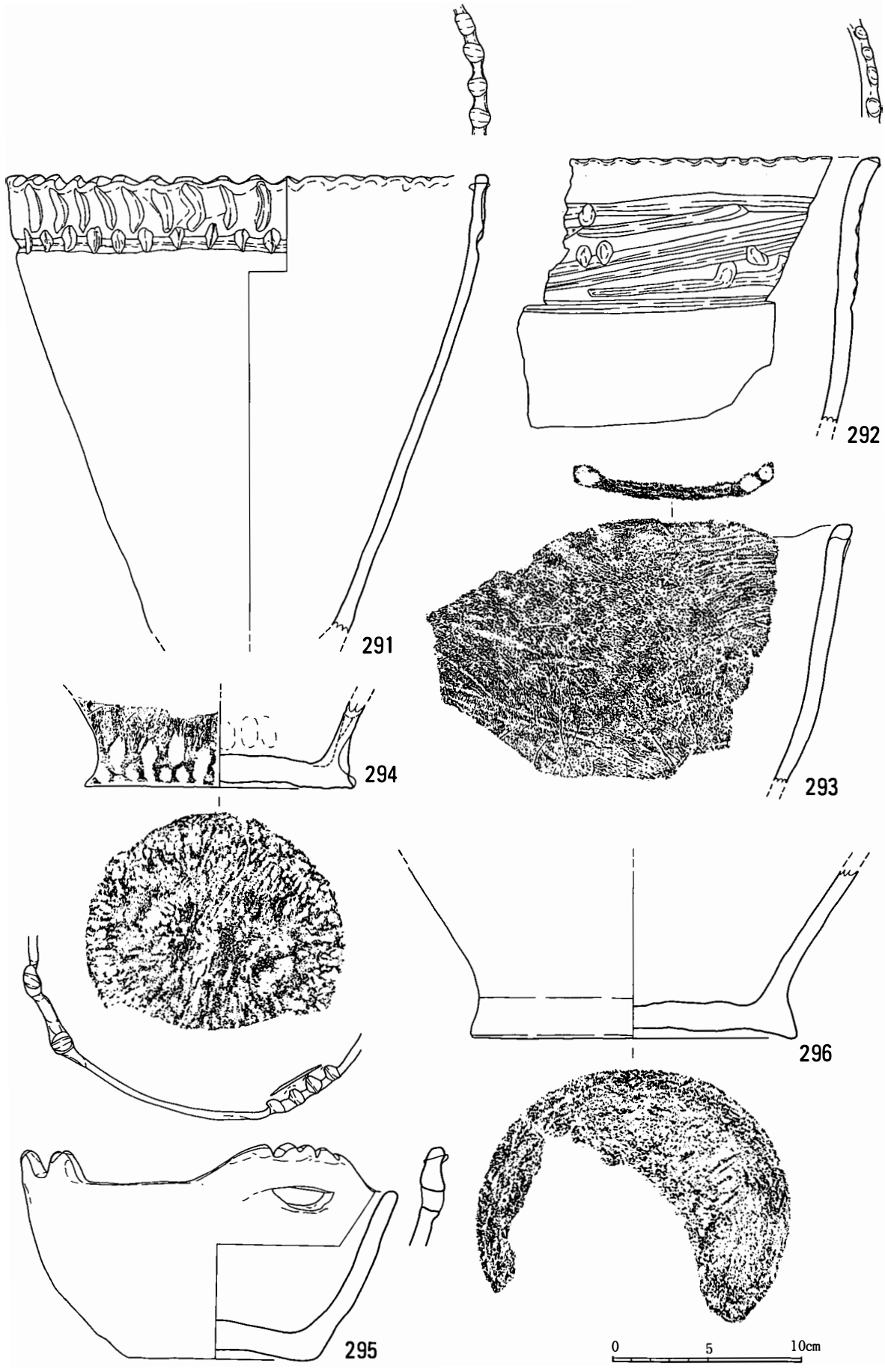

**第84図　土器実測・拓影図(40)**［271～275.H－7区　276.H－7区Ⅳ層］



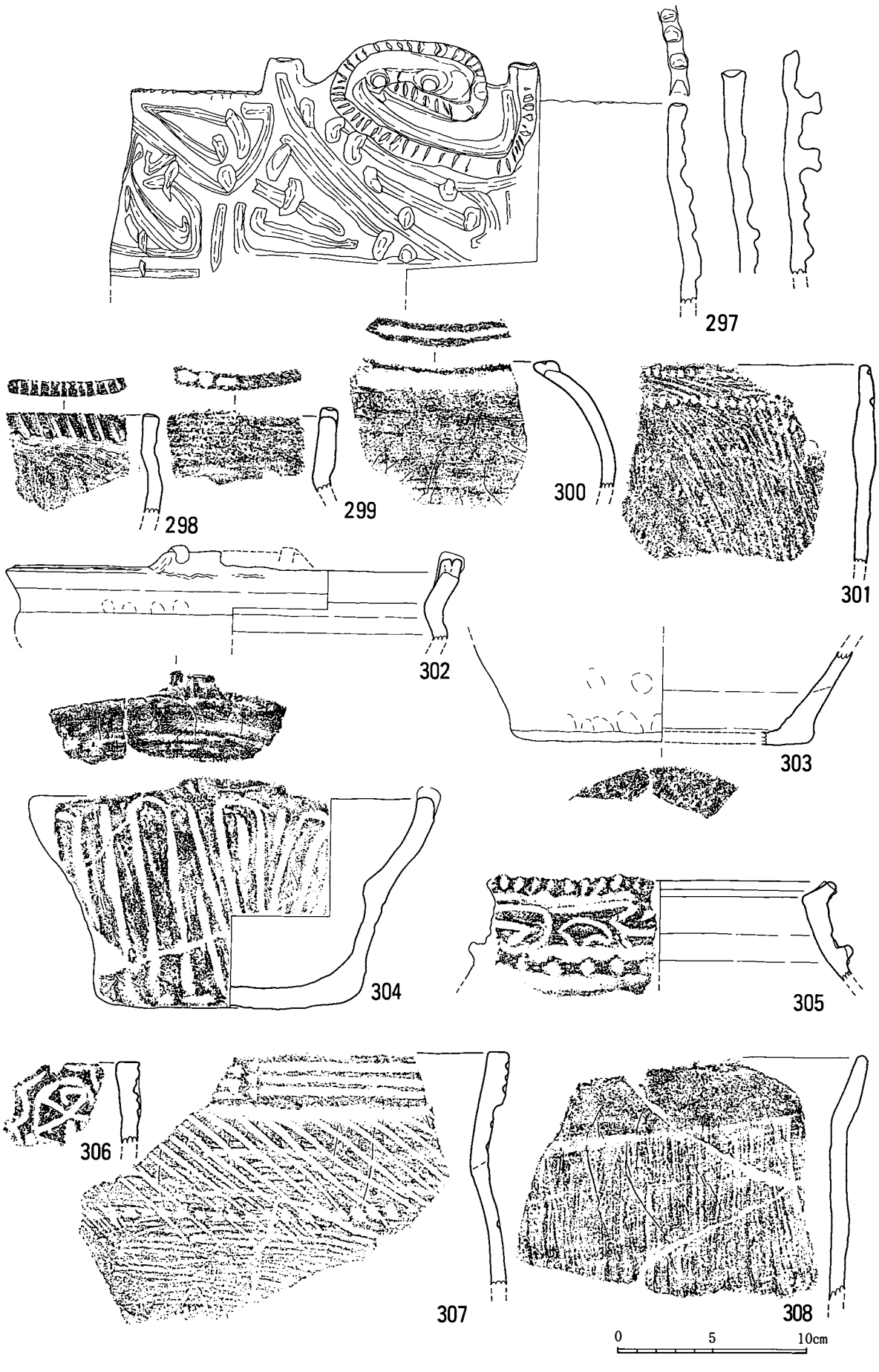

第85図　土器実測・拓影図(41)　277・279・280.H－7区、278・285.H－7区攪乱、281.H－7区Ⅲ層
282.H－7区Ⅳa層、283・286.H－7区Ⅴ層、284.H－7区Ⅳb層



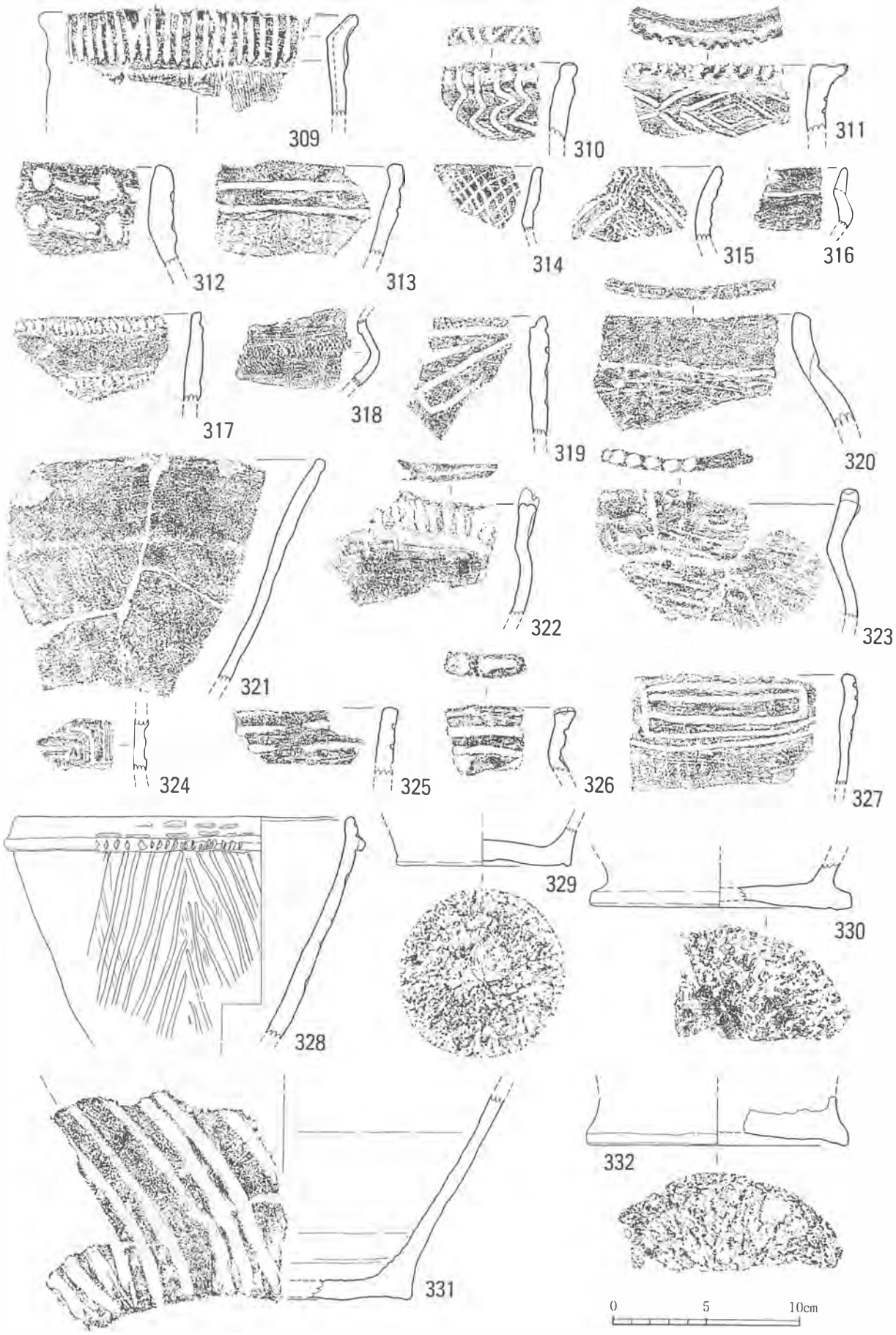

第86図　土器実測・拓影図(42)［287～289.H－7区攪乱 290.H－7区Ⅳb層］



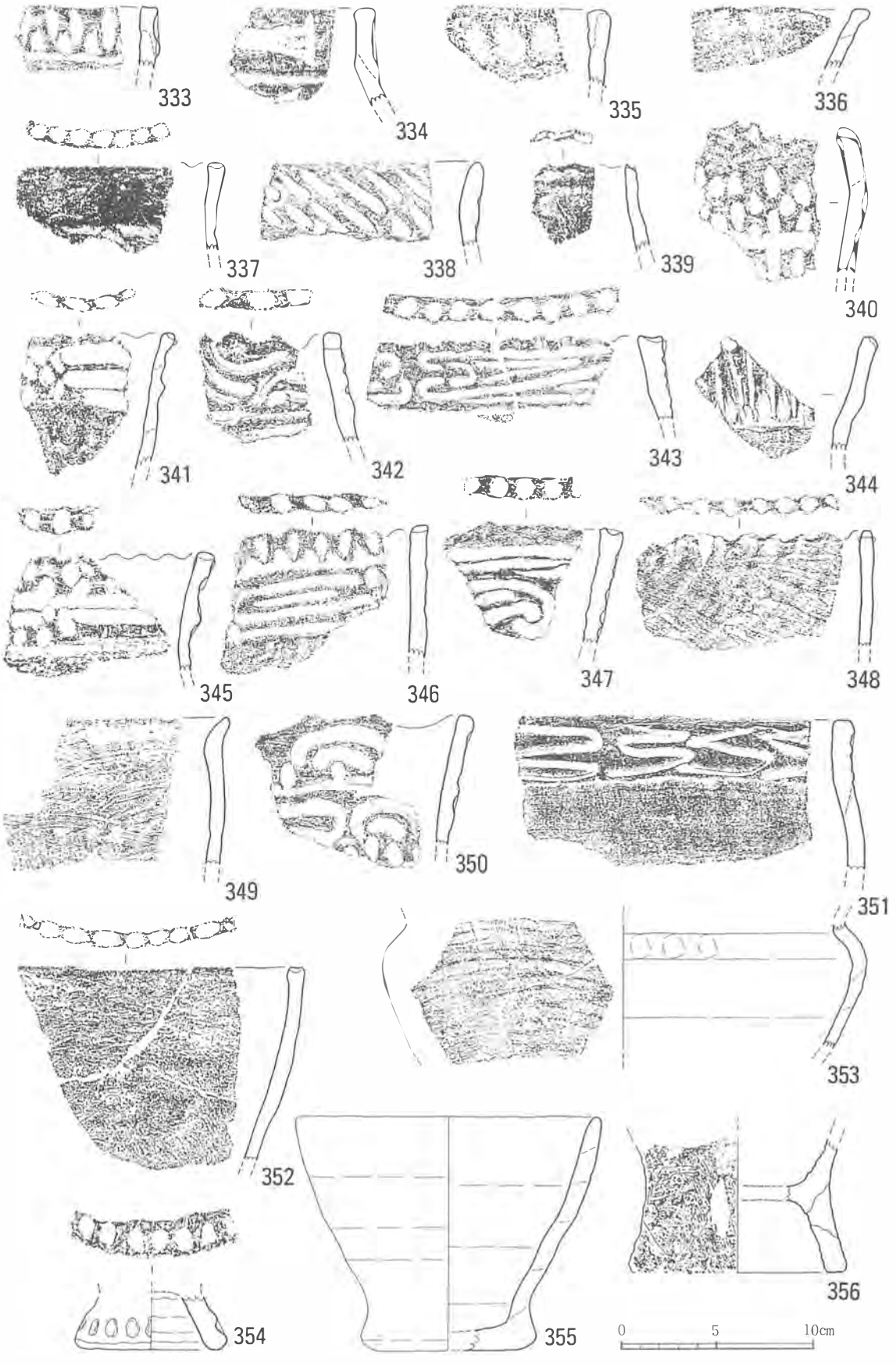

第87図　土器実測・拓影図(43)　[291.H−7区Ⅳb層 / 292〜296.H−8区1号土壙]



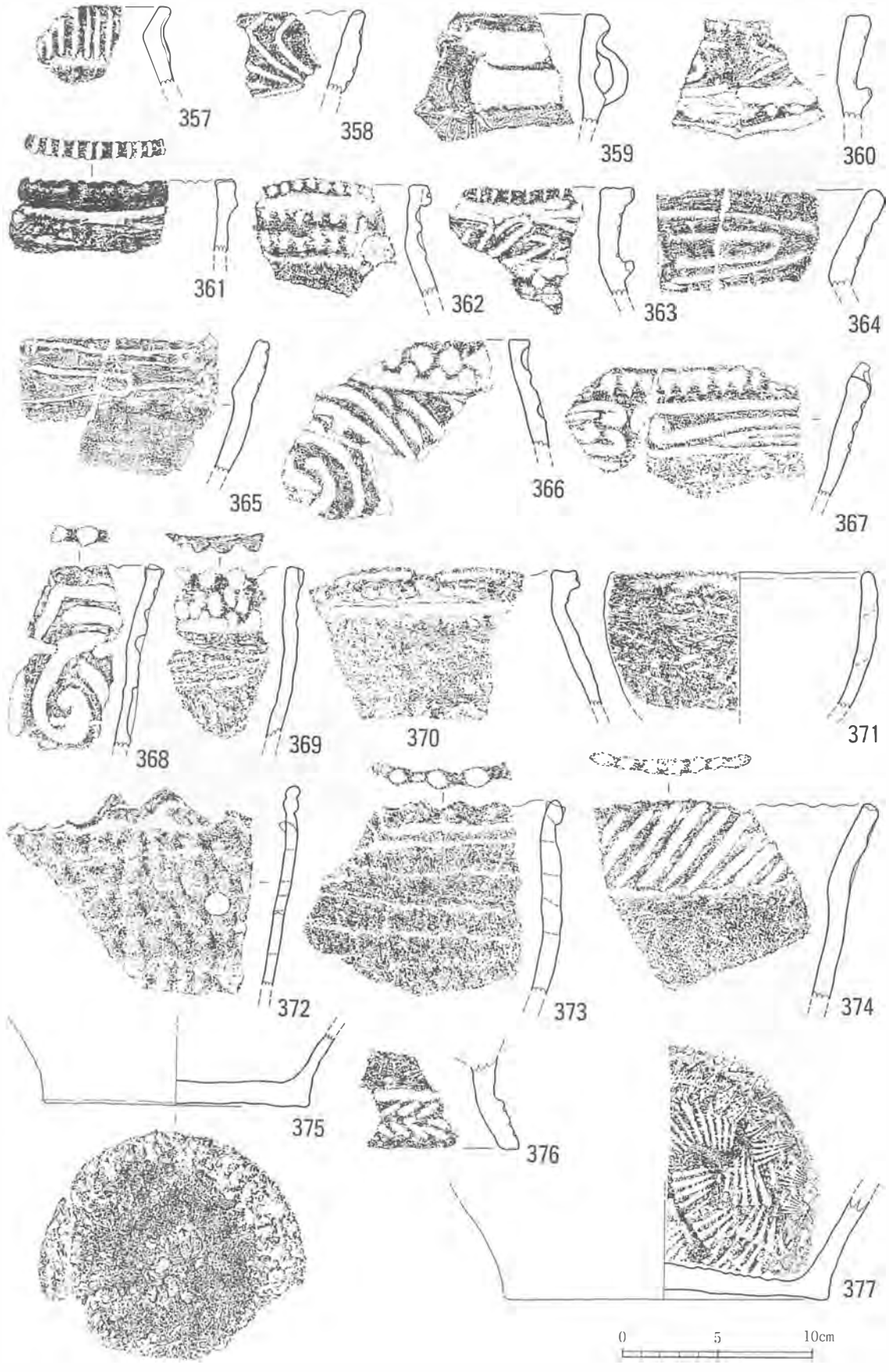

**第88図　土器実測・拓影図(44)**［297･301･304.H－8区１号土壙、298～300.H－8区、302･303.H－8区Ⅲ層
305.H－8区攪乱、306･308.H－8区Ⅱ層、307.H－8区Ⅰ層］



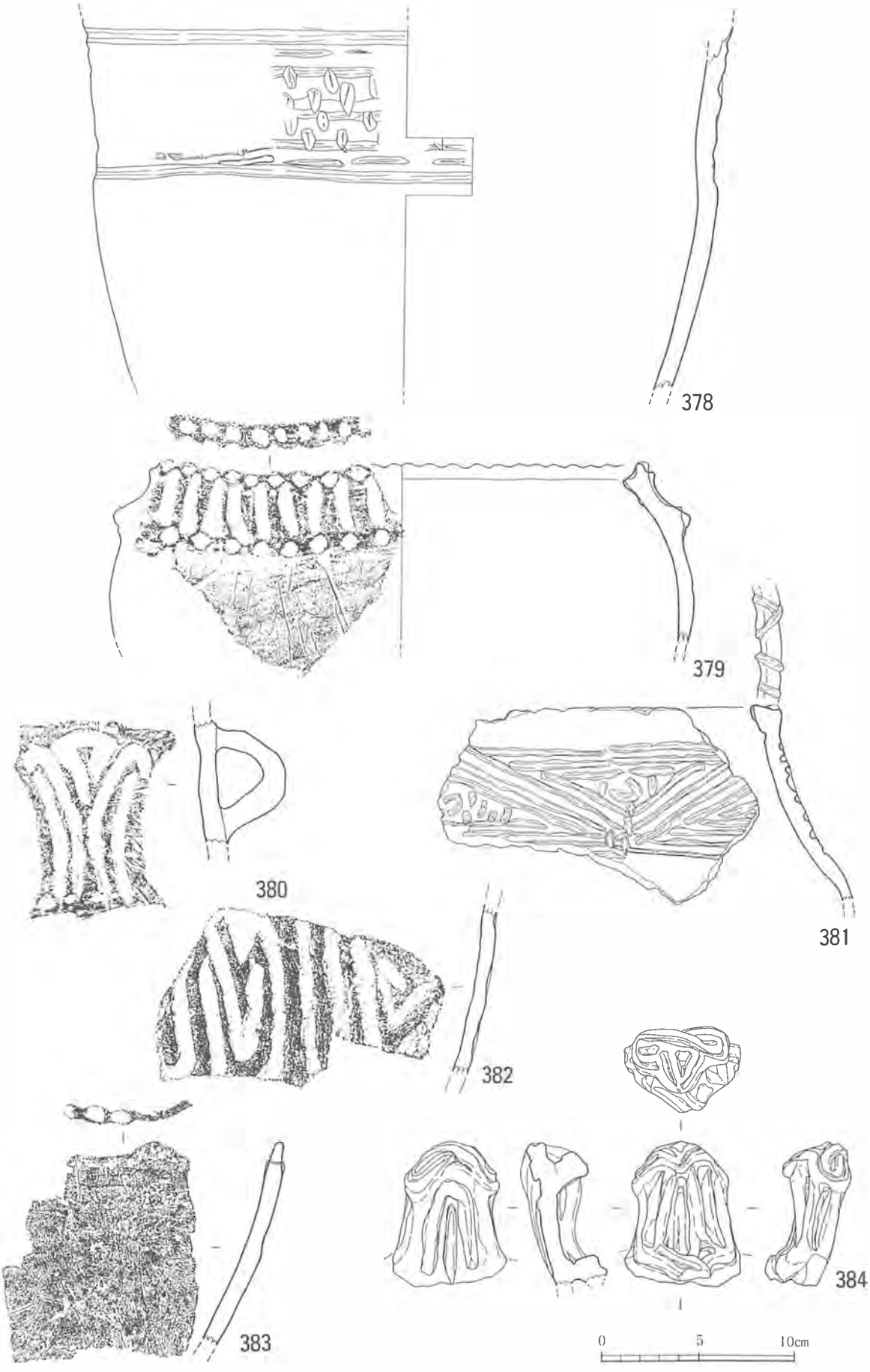

第89図　土器実測・拓影図(45)［309～328.H－8区Ⅱ層　329～332.H－8区Ⅲ層］



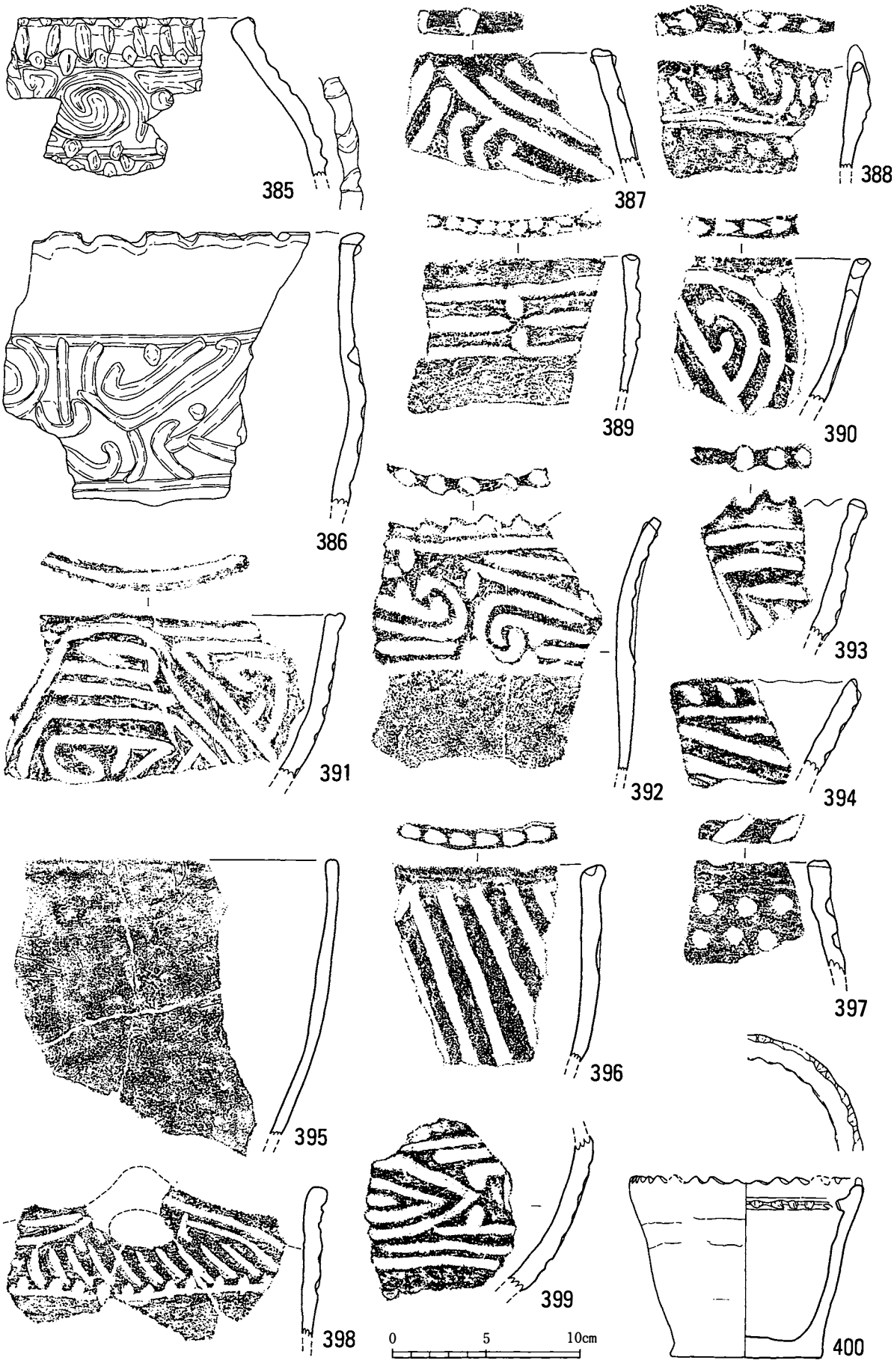

第90図　土器実測・拓影図　6）［333～337・339～351・353・354・356.H－8区Ⅲb層
338.H－8区Ⅲa層、352.H－8区Ⅳb層、355.H－8区Ⅲ層］



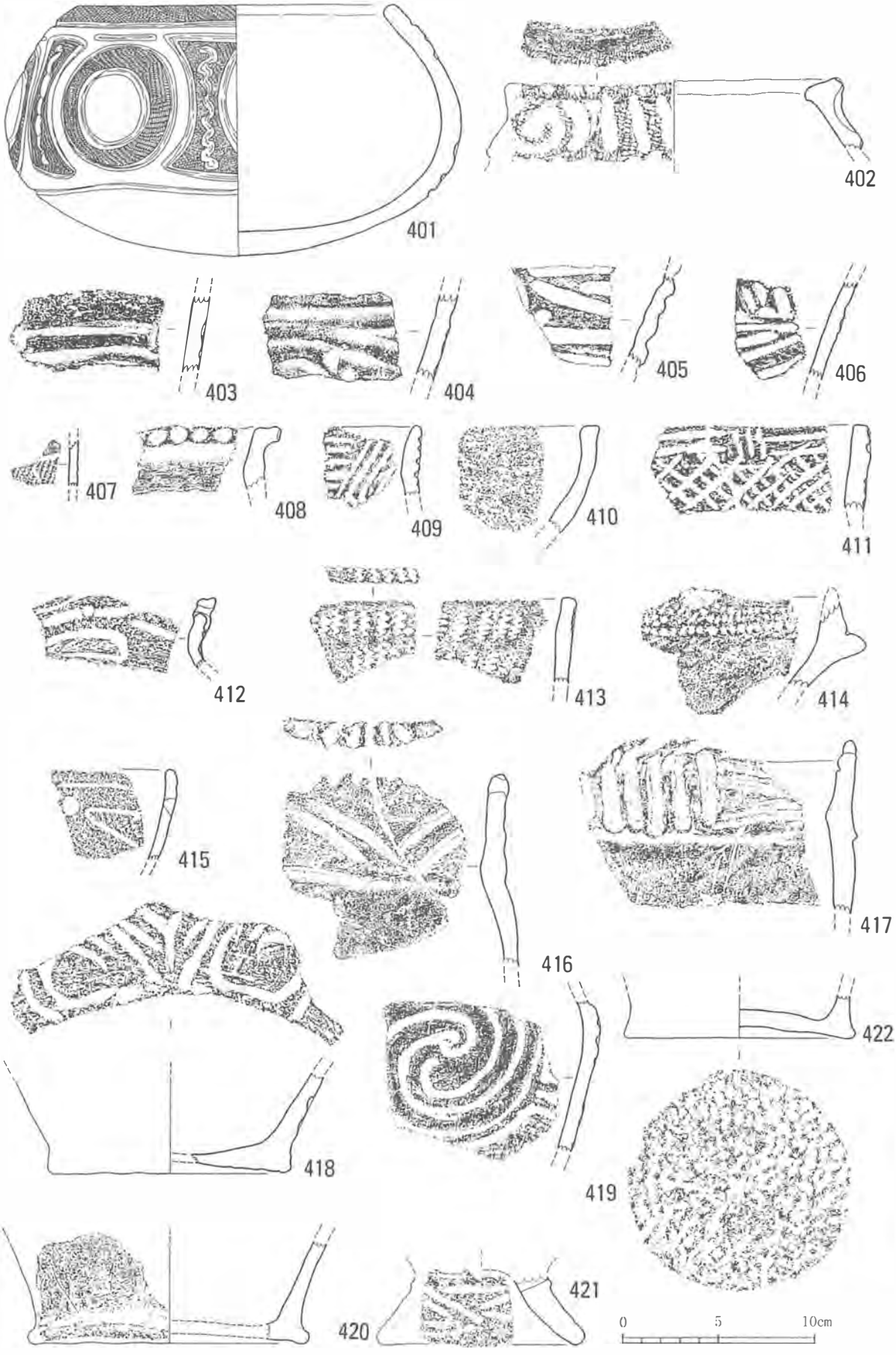

第91図　土器実測・拓影図(47)　[357·358·360～364·367·370·371·374·376.H－8区Ⅲa層 / 359·365·366·368·369·372·373·375·377.H－8区Ⅲ層]



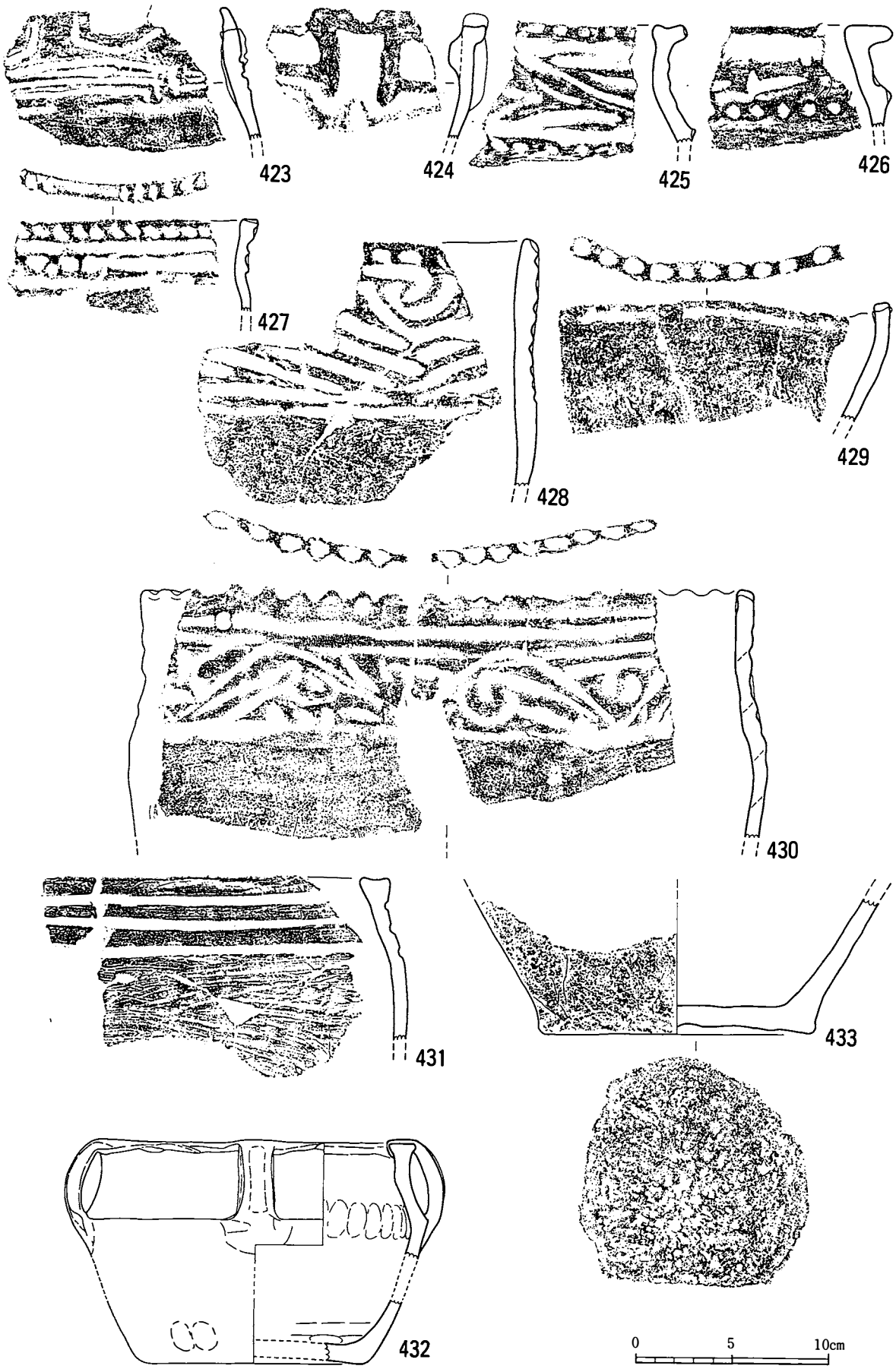

第92図　土器実測・拓影図(48)［378·379·381·382.H−8区Ⅲ層、383.H−8区Ⅳ層、384.H−8区Ⅲa層］



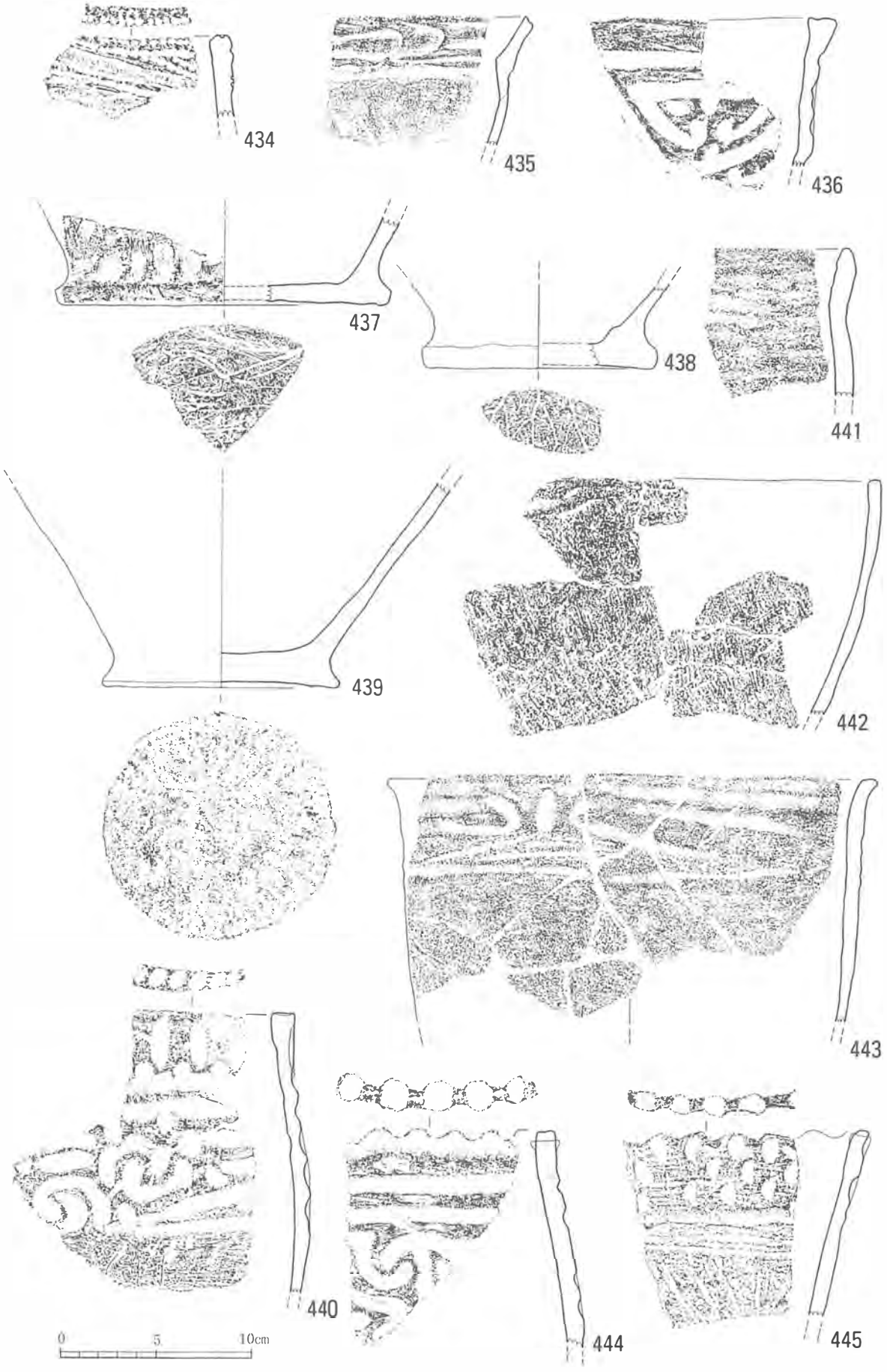

第93図　土器実測・拓影図(49)　[385.H−8区Ⅲ層、386.H−8区Ⅳ層 / 387〜400.H−9区1号土壙]



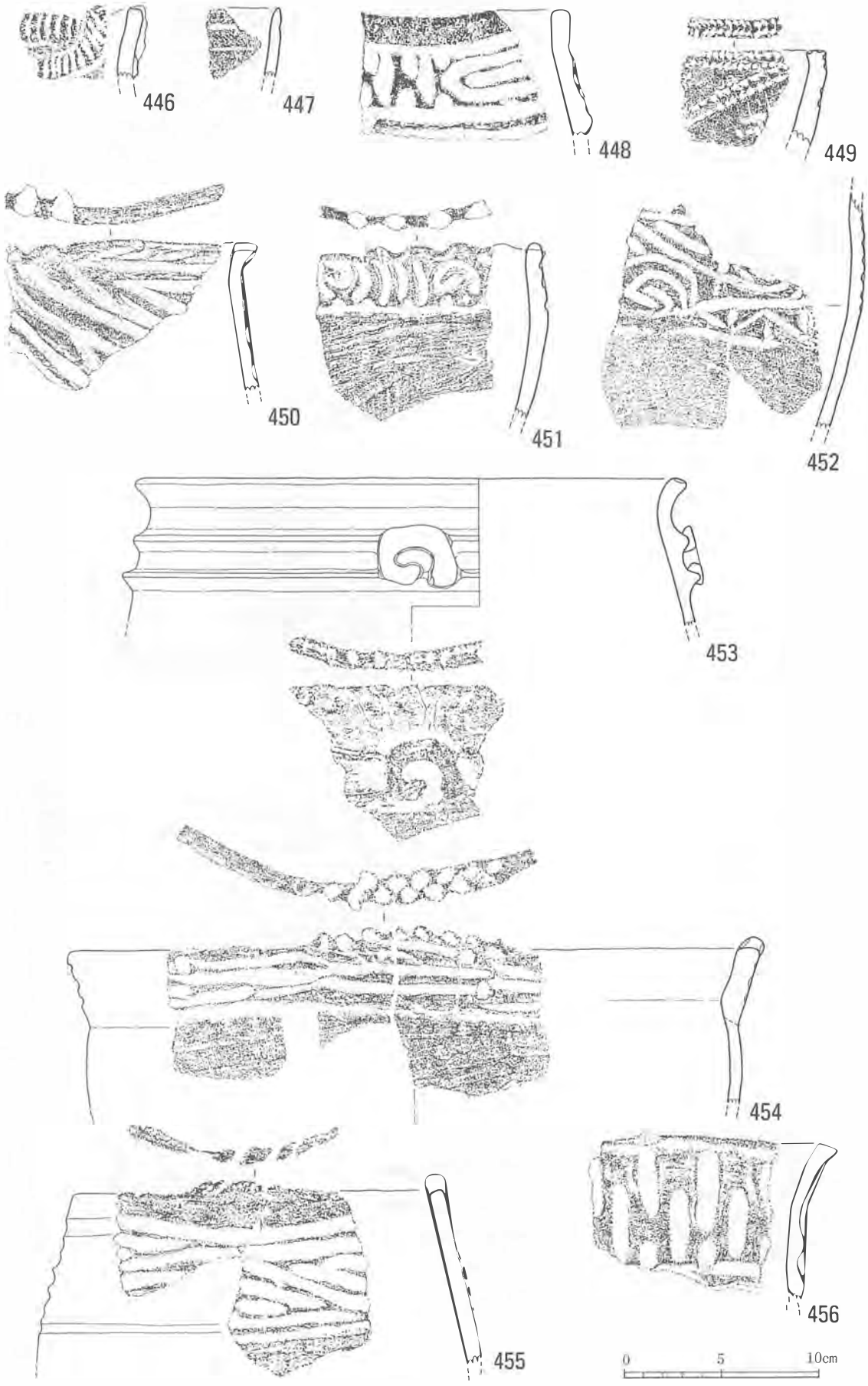

第94図　土器実測・拓影図(50)［401～406.H－9区１号土壙、407～421.H－9区Ⅱ層
422.H－9区Ⅲa層］



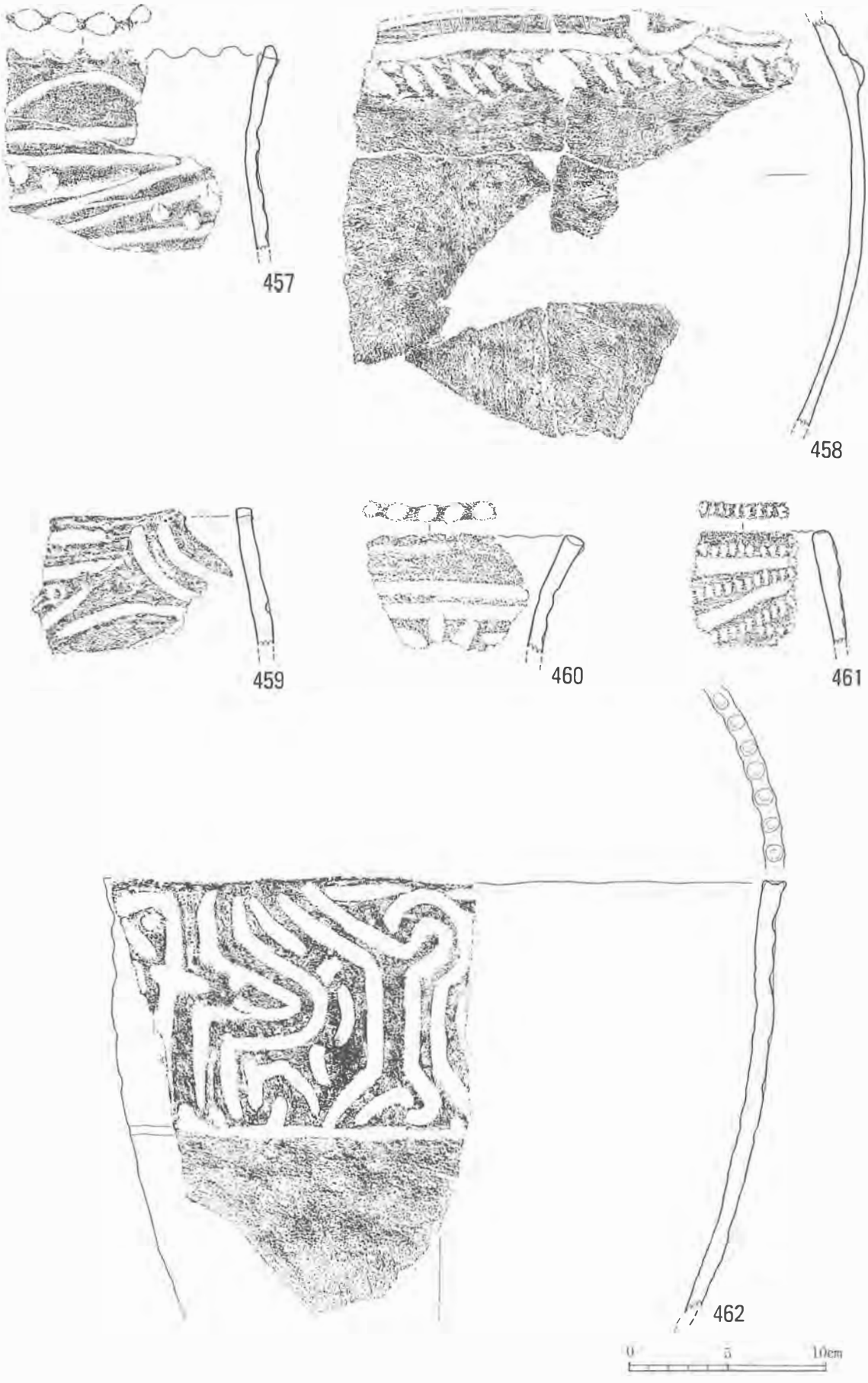

第95図　土器実測・拓影図(51)［423～426·430·432·433.H－9区Ⅲa層
427～429·431.H－9区Ⅲ層］



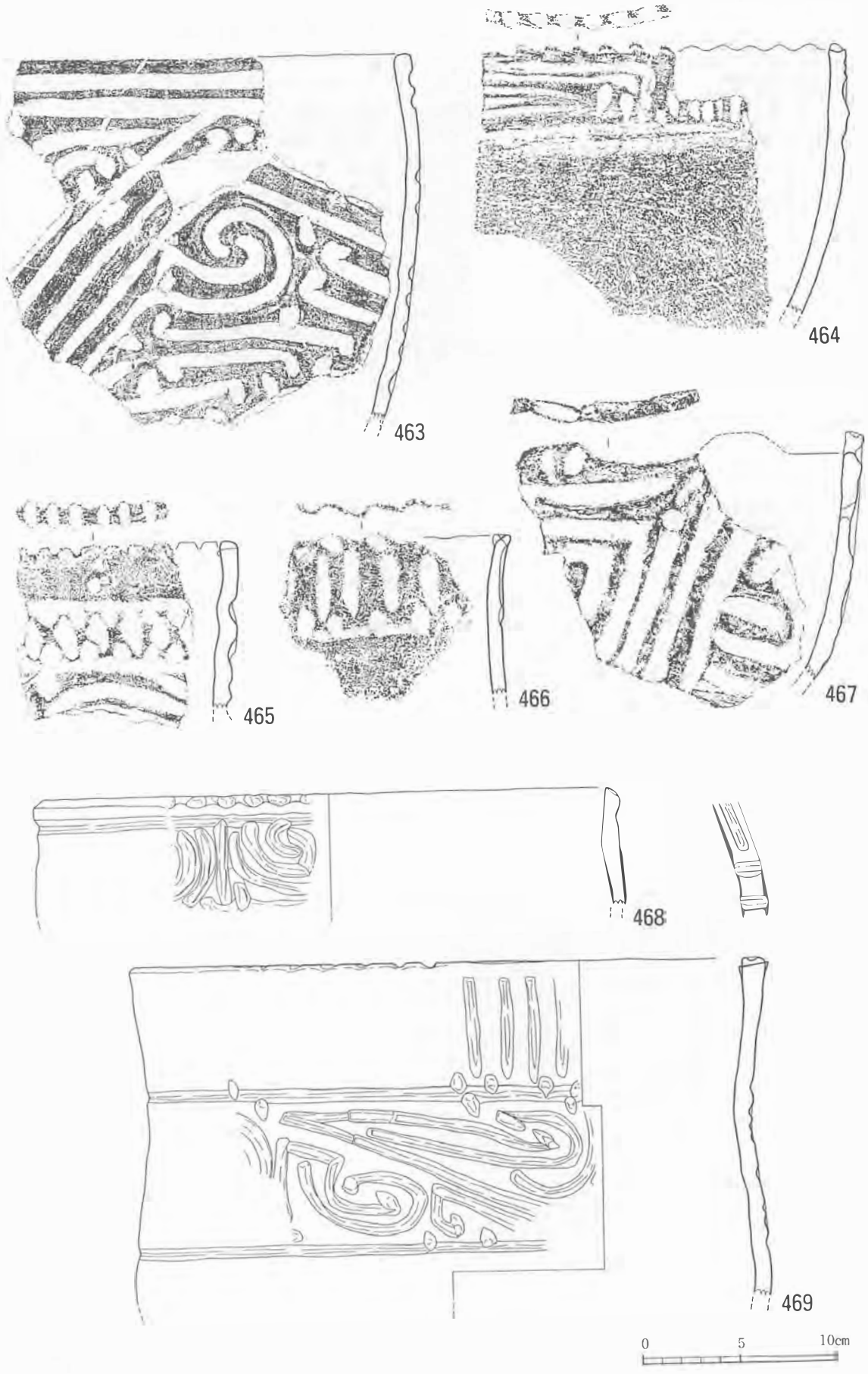

**第96図　土器実測・拓影図(52)**［434.H－9区2号土壙、435・438・436・440.H－10区2号土壙、437.H－10区1号土壙、441・442.H－10区Ⅱ層、443・444.H－10区Ⅲa層、445.H－10区Ⅴ層］



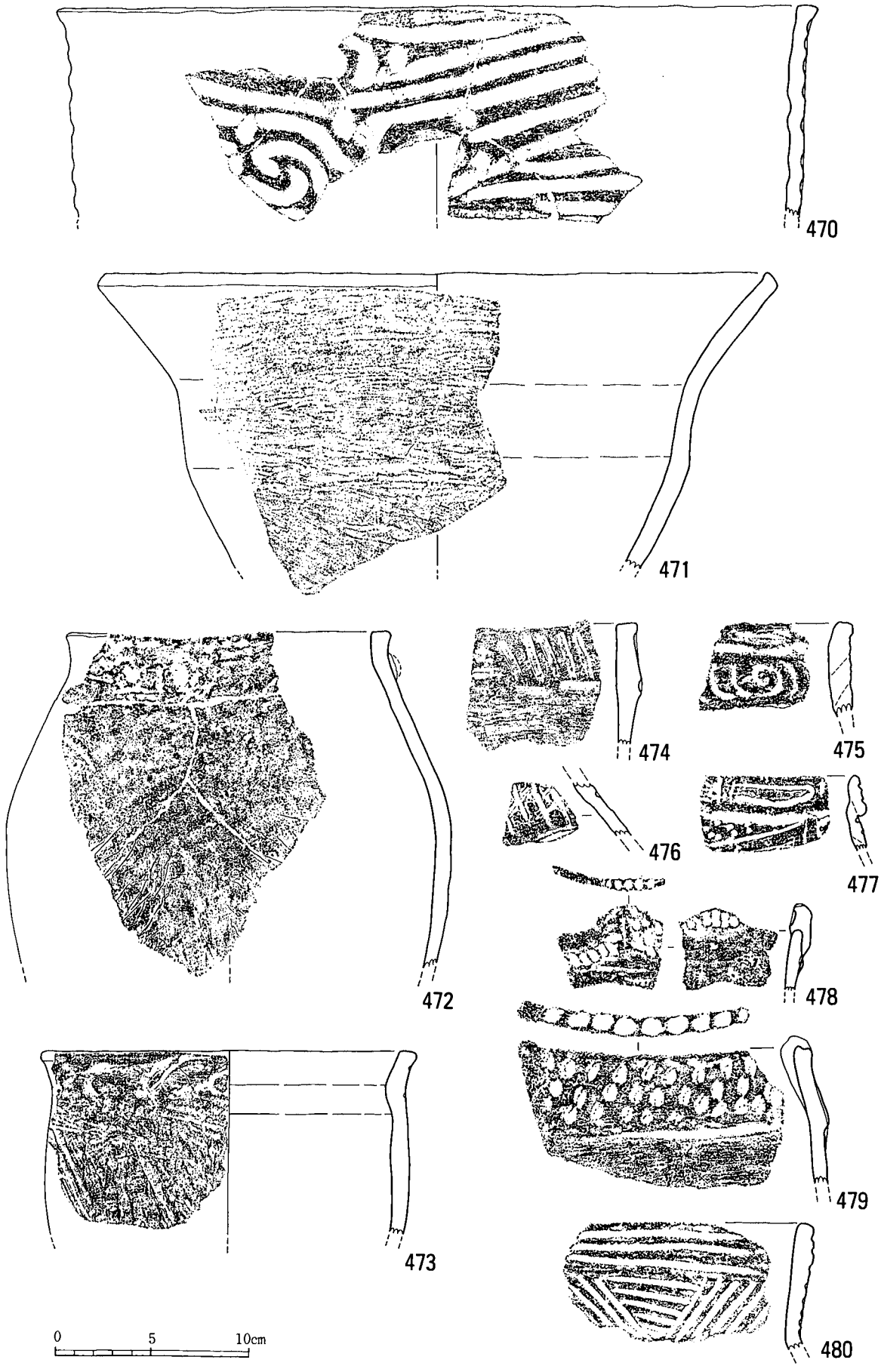

**第97図　土器実測・拓影図(53)**［446·447.H−11区Ⅱ層、448.I−4区Ⅲ層、449.I−6区Ⅴ層、450.I−6区Ⅳ層
451.I−6区流路２、452·453.I−7区Ⅳ層、454.I−7区攪乱、455·456.I−7区Ⅲ層］



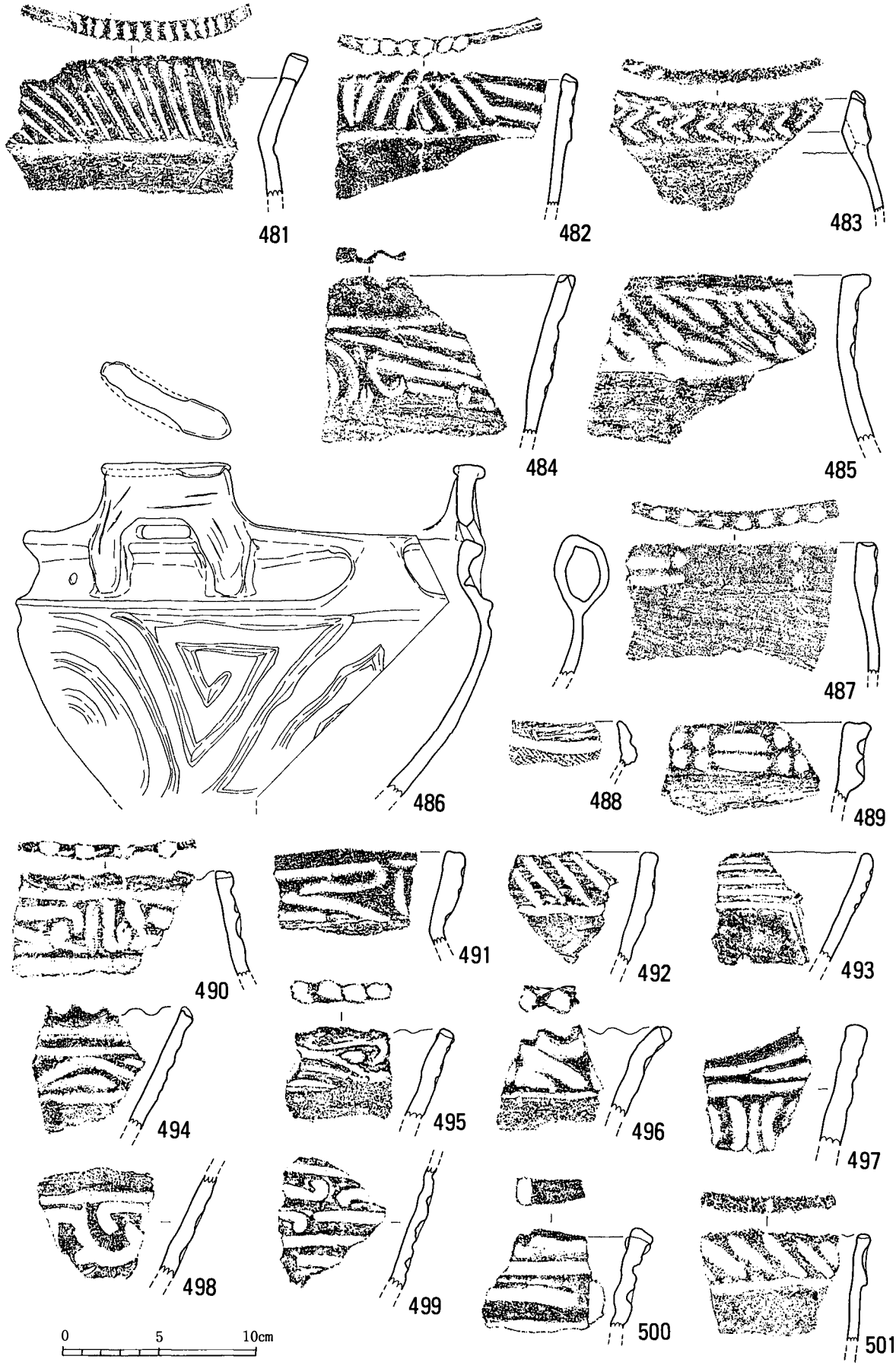

**第98図　土器実測・拓影図(54)**［457･458.Ⅰ−7区Ⅲ層、459〜461.Ⅰ−7区Ⅳ層
462.Ⅰ−7区Ⅳb層］



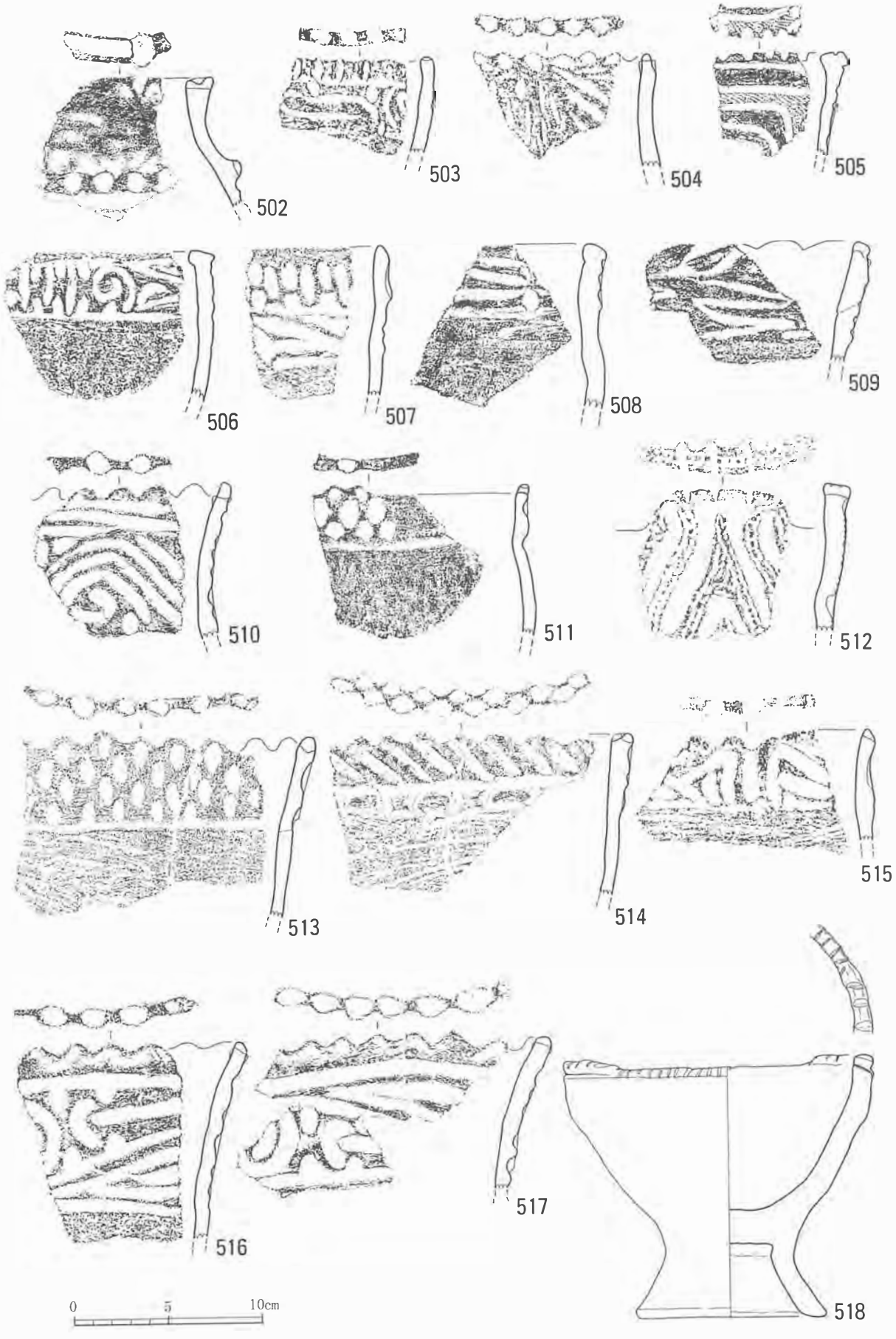

第99図　土器実測・拓影図(55)［463.I−7区Ⅳ層
464〜469.I−8区１号土壙］



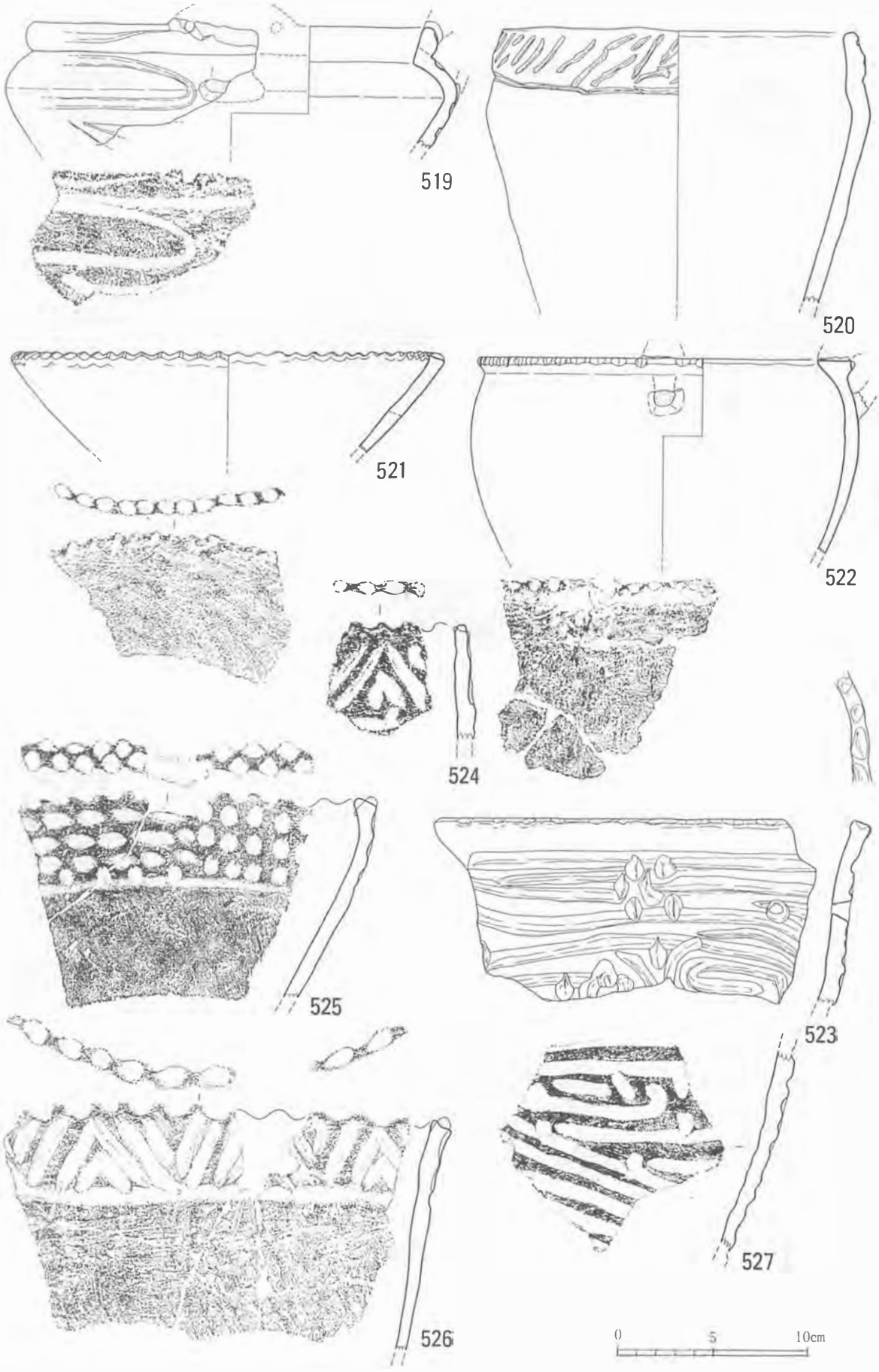

**第100図　土器実測・拓影図(56)**［470～472.I－8区1号土壙、473･475～480.I－8区Ⅱ層
474.I－8区撹乱］



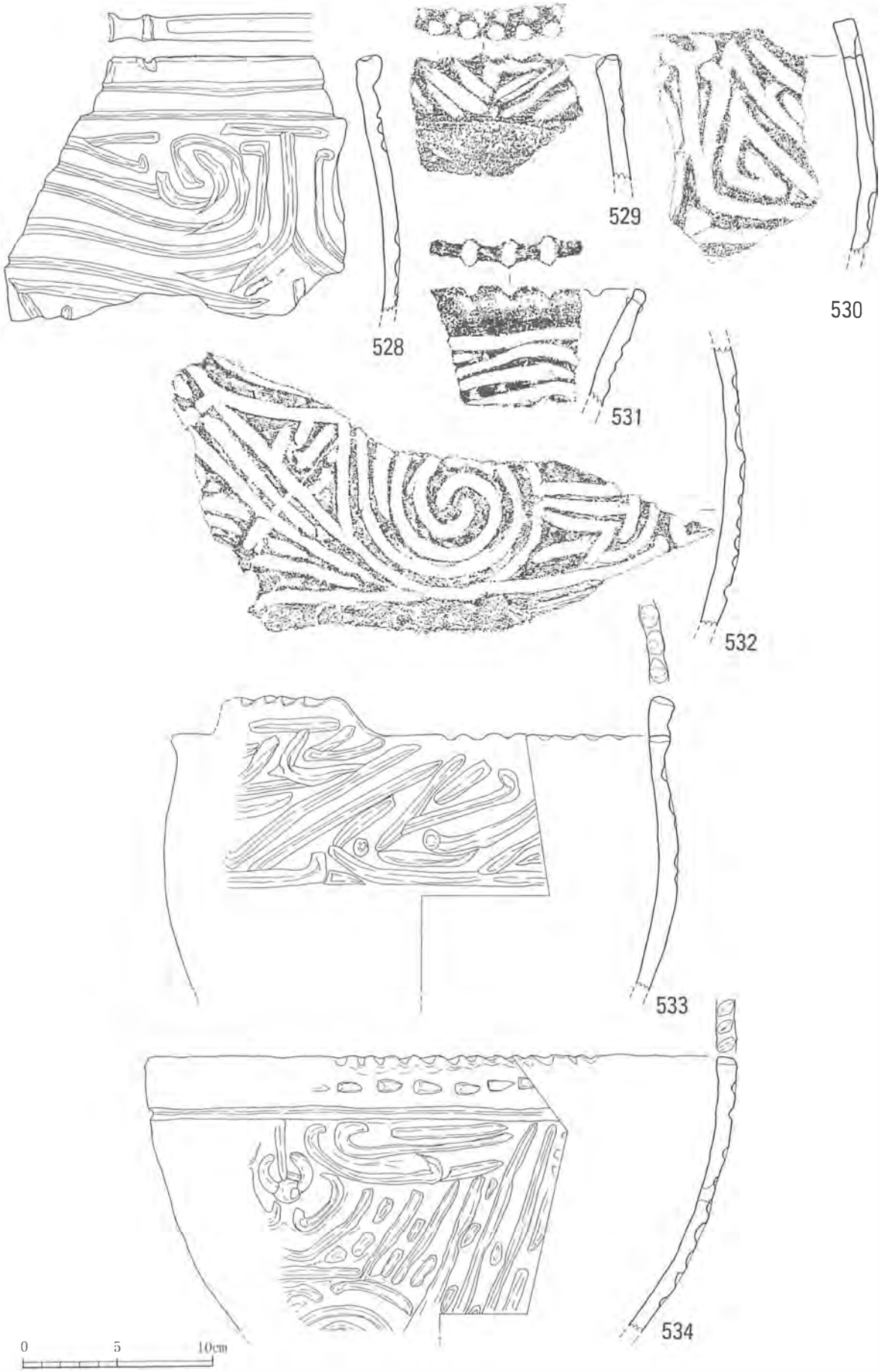

第101図　土器実測・拓影図(57)［481～486.Ⅰ-8区Ⅱ層、487.Ⅰ-8区Ⅱ～Ⅲa層
488～501.Ⅰ-8区Ⅲ層］



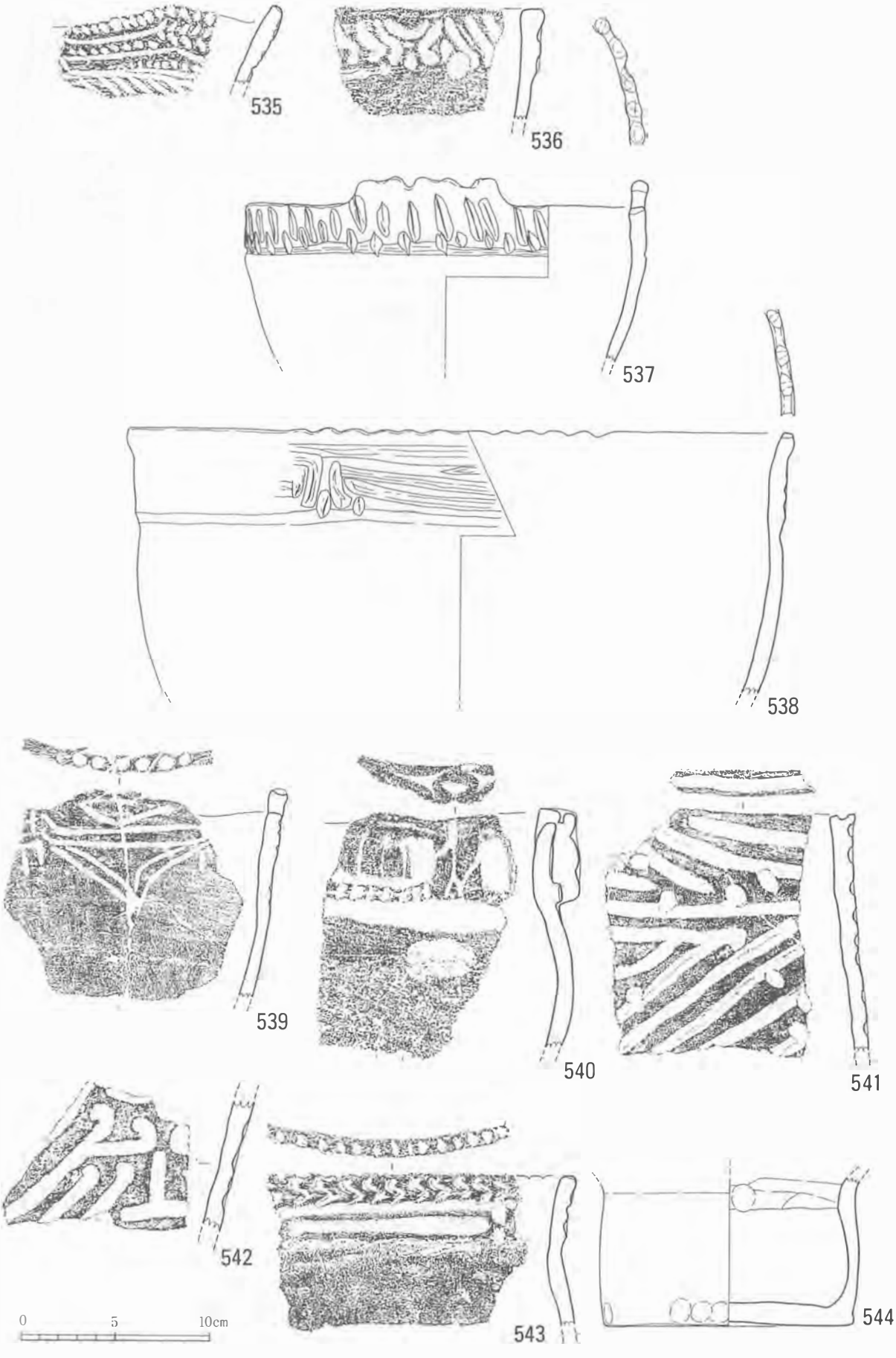

第102図　土器実測・拓影図(58)［502～518.I－8区Ⅲ層］



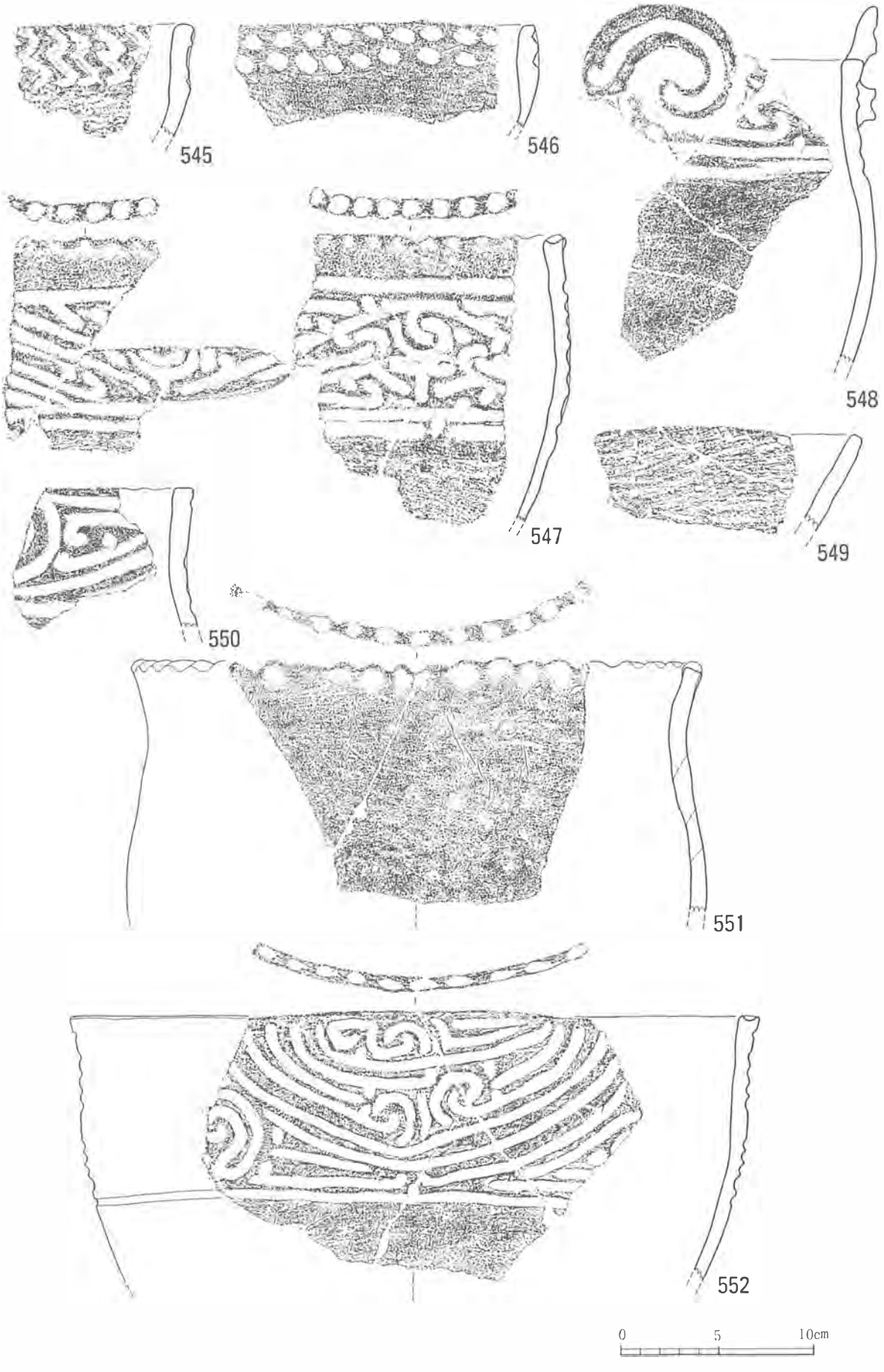

第103図　土器実測・拓影図(59)［519～523.I－8区Ⅲ層、524･525.I－8区
526.I－9区Ⅱ～Ⅲa層、527.I－9区1号土壙］



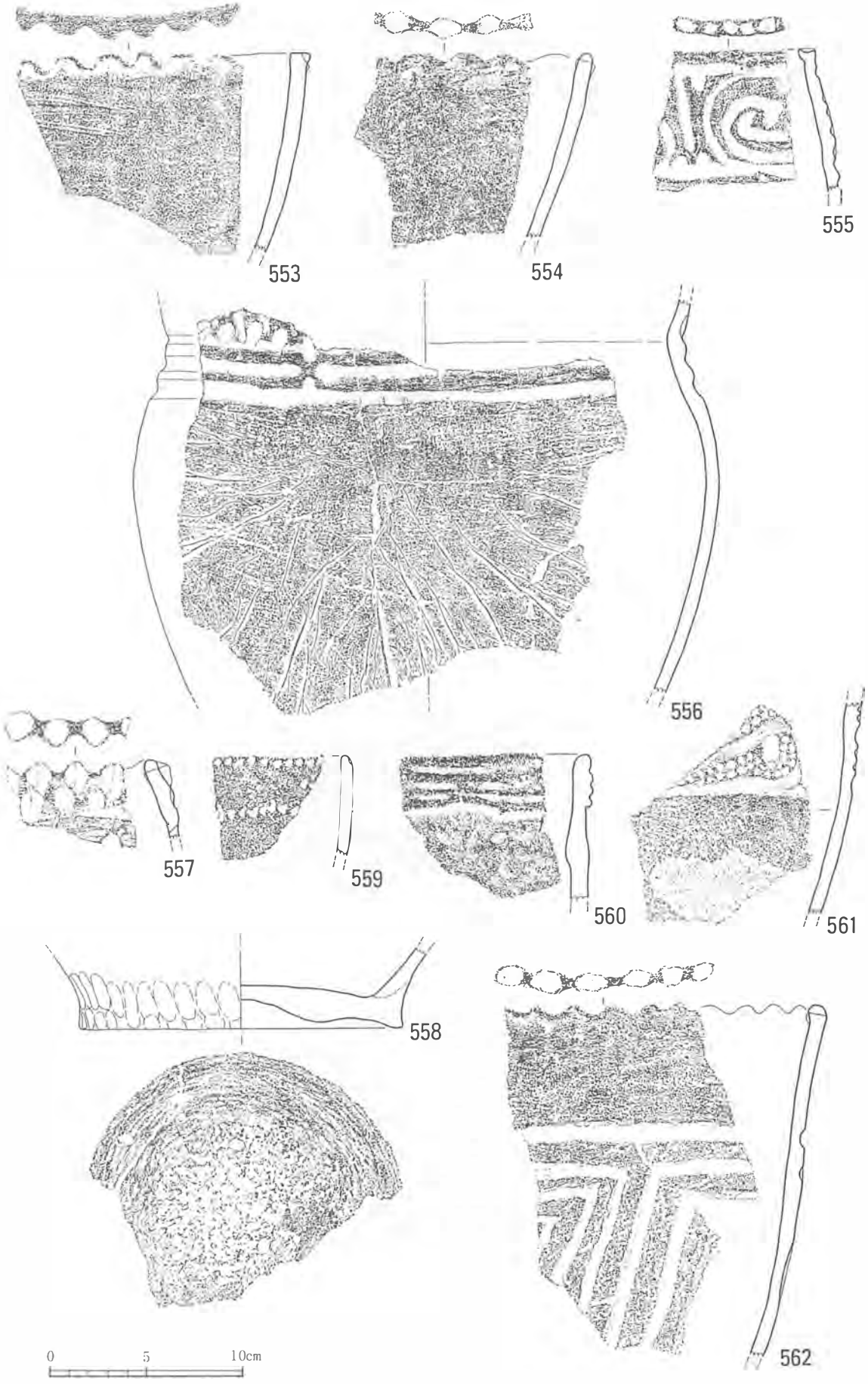

第104図　土器実測・拓影図(60)［528·530～534.I－9区1号土壙　529.I－9区Ⅱ層］



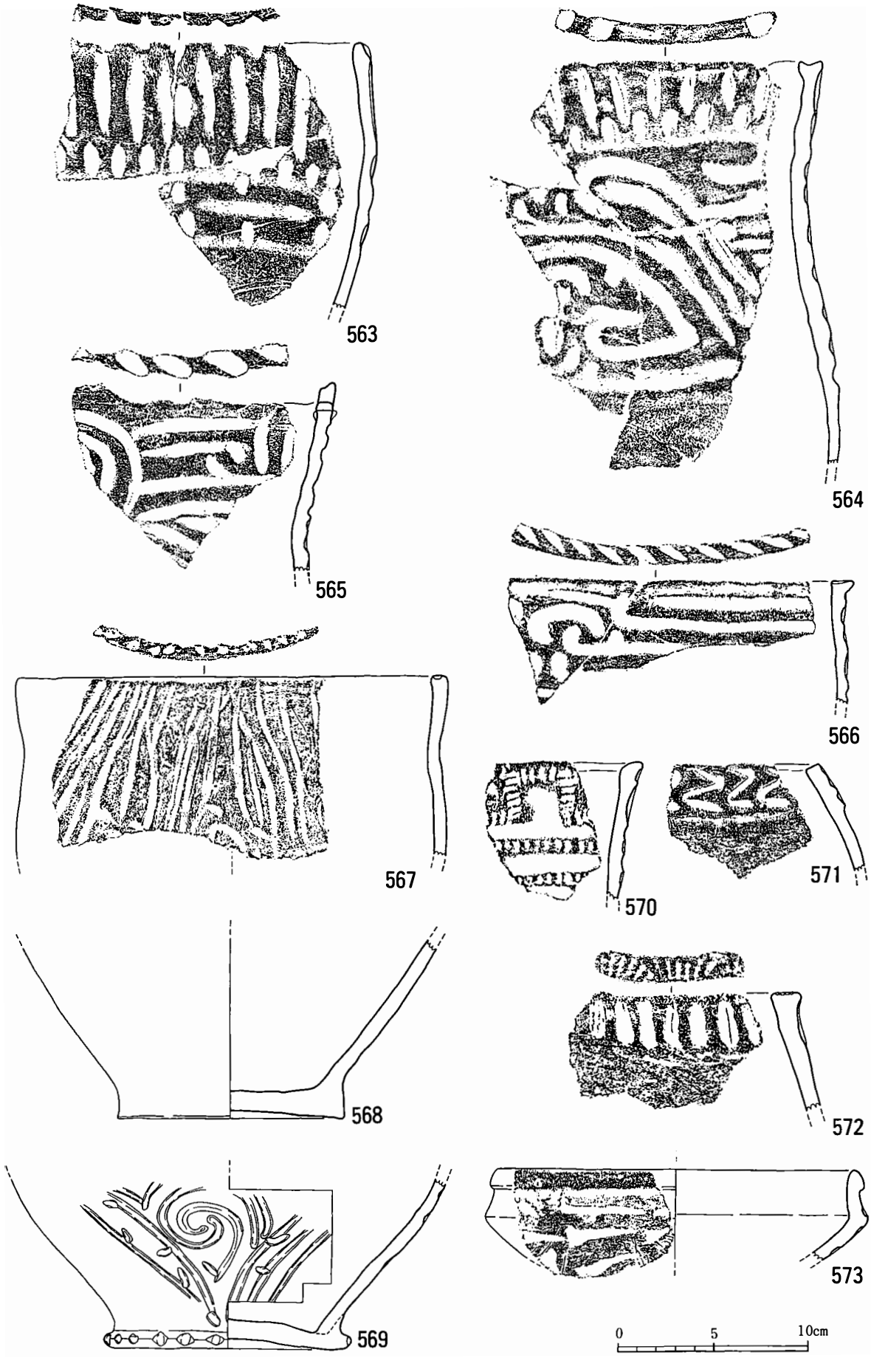

第105図　土器実測・拓影図(61)［535.I−9区攪乱、536·539.I−9区Ⅱ〜Ⅲa層
537·538·540〜544.I−9区Ⅲ層］



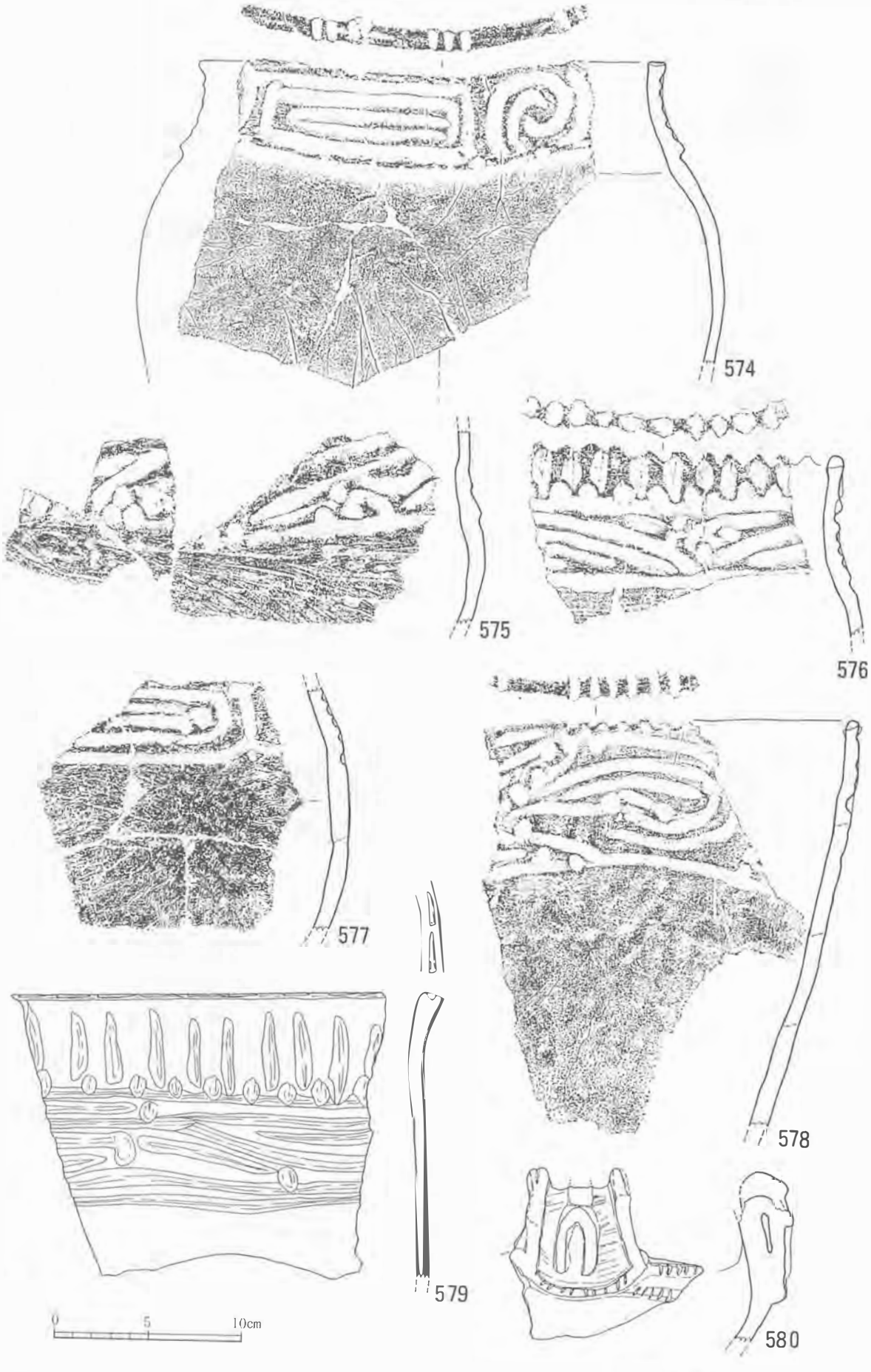

第106図　土器実測・拓影図(62)［545·547.I−9区Ⅲ層、546.I−9区Ⅳ層、548·549.J−6区1号土壙
550.J−6区2号土壙、551·552.J−6区1号土壙］



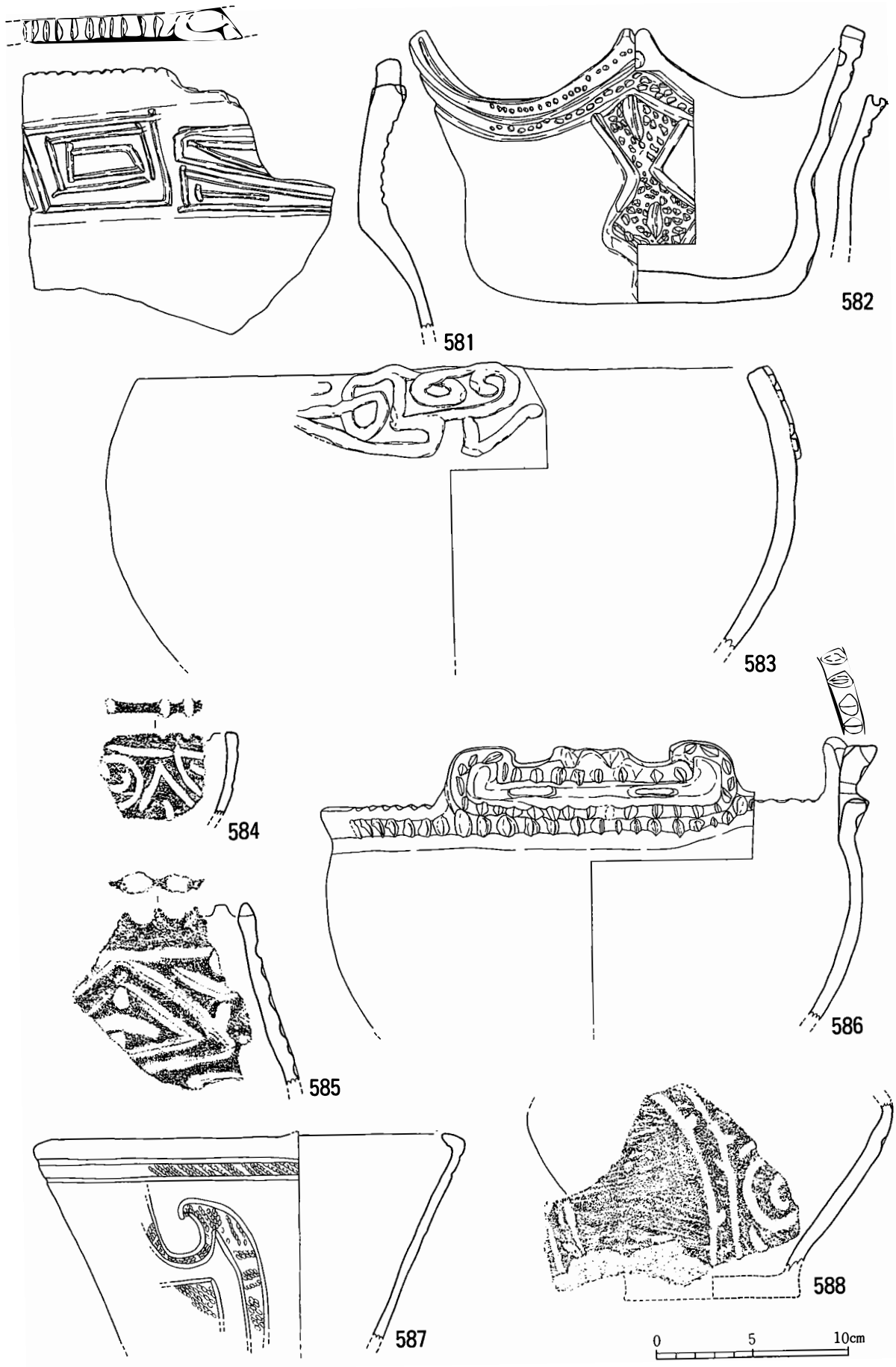

第107図　土器実測・拓影図(63)［553～558.J－6区３号土壙、559･560.J－6区流路３
561･562.J－6区Ⅴ層］




**第108図　土器実測・拓影図(64)**［563･564.J－6区Ⅴ層、565･567～569.J－7区１号土壙、566.J－7区Ⅳ層
570･571.J－7区撹乱、572.J－8区撹乱、573.J－8区Ⅱ層］




第109図　土器実測・拓影図(65)［574･576･577.J－8区Ⅲ層、575.J－8区Ⅲa層
578.K－6区1号土壙、579･580.出土地点不明］




第110図　土器実測・拓影図(66)［出土地点不明］

# 第４表　土器観察表（１）

| 図版番号 | 遺物番号 | 出土区 | 層位・遺構 | 器種 | 口径(cm) | 現存高(cm) | 色調 外面 | 色調 内面 | 胎土混入物 | 焼成 | 調整 外面 | 調整 内面 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 45 | 1 | B－8 | Ⅳb | 深鉢 | 14.8 | 16.0 | 褐灰色 | 褐灰色 | 砂粒・角閃石・滑石 | 普通 | ナデ | 指頭圧痕・工具痕・ナデ | |
| 45 | 2 | C－7 | 攪乱 | 鉢 | | 5.0 | にぶい褐色 | にぶい褐色 | 長石・石英・角閃石 | 普通 | ナデ | ナデ | ススト付着 |
| 45 | 3 | C－8 | Ⅳb | 鉢 | 16.9 | 12.9 | にぶい橙色 | にぶい橙色 | 砂粒・滑石・角閃石 | 普通 | ナデ・ケズリ | ケズリ | 底径10.6cm　底面に餘脊椎骨痕 |
| 45 | 4 | D－8 | Ⅲ | 鉢 | | 5.9 | 灰褐色・にぶい褐色 | 灰褐色 | 長石・雲母・角閃石 | 普通 | ナデ・ケズリ後ナデ | ナデ | 内面一部にスス付着 |
| 45 | 5 | D－3 | Ⅲb | 鉢 | | 5.7 | にぶい赤褐色 | 暗褐色 | 角閃石・長石・滑石・砂粒 | やや良 | ナデ | ナデ | |
| 45 | 6 | D－6 | ２号土壙 | 鉢 | 13.8 | 10.4 | にぶい褐色 | にぶい褐色 | 砂粒・赤褐色砂粒・角閃石・滑石 | 普通 | 工具痕・ナデ | ナデ | 底径8.6cm |
| 45 | 7 | D－7 | Ⅳb | 鉢 | 20.6 | 15.5 | にぶい橙色 | にぶい橙色 | 砂粒・雲母・角閃石 | 普通 | 工具痕・ケズリ後ナデ | ケズリ後ナデ | |
| 45 | 8 | D－7 | Ⅳb | 深鉢 | 39.2 | 20.8 | 灰褐色 | にぶい橙色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ナデ・ケズリ | 指頭圧痕・工具痕・ナデ | |
| 46 | 9 | D－8 | 1･2号土壙 | 深鉢 | 31.3 | 28.2 | にぶい橙色 | にぶい褐色～褐灰色 | 砂粒・角閃石・滑石 | 普通 | ケズリ後ナデ | 工具痕・ナデ | 底径14.1cm |
| 46 | 10 | D－8 | ２号土壙 | 深鉢 | 36.8 | 22.7 | にぶい黄褐色 | にぶい黄褐色 | 砂粒・滑石 | 普通 | ケズリ後ナデ | ヘラ条線調整後ナデ | |
| 46 | 11 | D－8 | Ⅲb | 小型深鉢 | | 7.4 | 暗褐色 | 橙色・褐灰色 | 砂粒・角閃石・長石 | 普通 | ケズリ後ミガキ | ナデ | |
| 46 | 12 | D－8 | Ⅲb | 浅鉢 | | 4.0 | にぶい赤褐色 | にぶい赤褐色 | 長石・雲母・砂粒 | やや不良 | | ナデ | 外面に赤色顔料 |
| 46 | 13 | D－8 | Ⅲa | 浅鉢 | | 7.0 | にぶい橙色 | にぶい橙色 | 角閃石・長石・雲母・砂粒 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 47 | 14 | D－8 | Ⅲc | 鉢 | 23.0 | 16.1 | にぶい赤褐色 | にぶい黄褐色 | 砂粒 | 普通 | 一部に工具痕・ナデ | 工具痕・ナデ | |
| 47 | 15 | D－8 | Ⅳb | 深鉢 | | 24.0 | 明赤褐色 | にぶい橙色 | 砂粒・赤褐色砂粒 | 普通 | ナデ・ケズリ後ナデ・指頭圧痕 | ヨコナデ | |
| 47 | 16 | D－8 | Ⅳb | 深鉢 | | 19.2 | 橙色～にぶい赤褐色 | にぶい褐色～褐色 | 砂粒・赤褐色粒・滑石粒・角閃石 | 普通 | ナデ | 工具痕・ナデ | |
| 47 | 17 | D－8 | Ⅳ･Ⅴ | 鉢 | 19.3 | 15.4 | にぶい赤褐色 | にぶい赤褐色 | 砂粒・赤褐色粒・角閃石 | 普通 | ナデ | 工具痕・ナデ | |
| 47 | 18 | D－9 | １号土壙 | 深鉢 | 26.0 | 13.0 | 灰褐色～にぶい赤褐色 | 灰褐色 | 砂粒・赤褐色粒・滑石粒・角閃石 | 普通 | 工具痕・ナデ | ヘラ条線調整後ナデ | |
| 48 | 19 | D－9 | １号土壙 | 深鉢 | 37.9 | 17.6 | にぶい褐色 | にぶい黄橙色 | 砂粒・滑石・雲母粒 | 普通 | ナデ・ケズリ後ナデ | 指頭圧痕・工具痕・ナデ | |
| 48 | 20 | D－9 | Ⅳb | 鉢 | 22.8 | 21.9 | にぶい橙色 | にぶい橙色 | 砂粒・赤褐色粒・滑石 | 普通 | ヘラ条痕調整後ナデ | 工具痕・ナデ | 底径13.6cm　把手は３箇所にあったと考えられる |
| 48 | 21 | D－9 | Ⅳb | 深鉢 | | 12.4 | 赤褐色～橙色 | にぶい赤褐色～灰褐色 | 砂粒・滑石粒・角閃石・赤褐色粒 | 普通 | ヘラ条線調整後ナデ | 指頭圧痕・ヘラ条線調整後ナデ | 底径11.4cm |
| 48 | 22 | D－10 | Ⅲ | 鉢 | 19.2 | 14.2 | にぶい赤褐色 | にぶい褐色 | 砂粒・滑石・雲母・角閃石 | 普通 | ナデ | 指頭圧痕・ナデ | 底径13.5cm |
| 49 | 23 | D－10 | Ⅳb | 浅鉢 | 21.8 | 10.7 | 黒褐色 | 黒褐色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ケズリ後ナデ | ナデ | 底径9.0cm |
| 49 | 24 | D－10 | Ⅳb | 鉢 | 25.0 | 12.2 | 明褐色 | にぶい黄褐色 | 砂粒・滑石・角閃石 | 普通 | ケズリ後ナデ | 工具痕・ナデ | |
| 49 | 25 | D－11 | １号土壙 | 深鉢 | | | | | 砂粒・滑石 | 普通 | ナデ | ケズリ・ナデ | |
| 49 | 26 | D－11 | １号土壙 | 深鉢 | | 4.9 | 橙色 | にぶい橙色～褐灰色 | 砂粒・雲母・角閃石・滑石 | 普通 | ケズリ後ナデ・指頭圧痕 | ナデ | 底径14.6cm　底面に餘脊椎骨痕 |
| 49 | 27 | D－11 | １号土壙 | 深鉢 | | 3.4 | 明赤褐色 | にぶい黄橙色 | 砂粒・雲母・角閃石 | 普通 | ナデ・指頭圧痕 | ナデ | 底径12.6cm　底面に餘脊椎骨痕 |
| 49 | 28 | D－11 | Ⅰ | 深鉢 | 17.8 | 6.3 | 黄灰色 | 黄灰色 | 砂粒・角閃石・石英 | 普通 | ナデ・ケズリ | ナデ | |
| 49 | 29 | D－11 | 攪乱 | 深鉢 | | 9.4 | 橙色 | 橙色 | 砂粒・角閃石・滑石 | 普通 | ナデ・ケズリ | ヘラ状工具によるナデ | |
| 49 | 30 | D－11 | Ⅰ | 深鉢 | | 4.5 | にぶい黄橙色 | にぶい黄橙色 | 砂粒・長石 | やや不良 | | ナデ・ヘラ状工具によるナデ | 磨消縄文土器・焼成後の穿孔がある |
| 49 | 31 | D－11 | Ⅰ | 深鉢 | | 4.5 | 灰黄色 | 灰黄色 | 砂粒・長石 | やや不良 | | ナデ | 磨消縄文土器 |
| 49 | 32 | D－11 | Ⅲ | 深鉢 | | 13.5 | 黒褐色～にぶい褐色 | にぶい橙色 | 砂粒・滑石粒・雲母・赤褐色粒・角閃石 | 普通 | ナデ | 指頭圧痕・ヘラ条線調整 | |
| 49 | 33 | D－11 | Ⅳb | 鉢 | | 7.4 | 明赤褐色 | 灰赤色 | 滑石・長石 | 普通 | ヘラケズリ後ナデ | 指調整後ナデ | 底径10.6cm　底面に餘脊椎骨痕 |
| 50 | 34 | D－11 | Ⅳb | 深鉢 | 42.5 | 19.3 | にぶい赤褐色 | にぶい橙色 | 砂粒・滑石・赤褐色粒 | 普通 | 細い条痕・ナデ | 指頭圧痕・工具痕・ナデ | |
| 50 | 35 | D－11 | Ⅳb | 深鉢 | 28.0 | 34.5 | にぶい橙色 | にぶい橙色 | 砂粒・赤褐色粒・角閃石 | 普通 | ヘラ条痕調整後ナデ・ナデ | ヘラ条痕調整後ナデ・ナデ | 底径15.4cm |
| 51 | 36 | D－11 | Ⅳb | 浅鉢 | 24.5 | 10.7 | にぶい橙色～黒褐色 | にぶい橙色～黒褐色 | 砂粒・角閃石・滑石 | 普通 | 一部に指頭圧痕・ナデ | 一部に指頭圧痕・ナデ | 底径12.0cm |
| 51 | 37 | D－11 | Ⅳb | 深鉢 | | 24.0 | 橙色～赤灰色 | 橙色～赤灰色 | 砂粒・滑石 | 普通 | ナデ | 指頭圧痕・ヘラ条痕調整後ナデ | |
| 51 | 38 | E－6 | １号土壙 | 深鉢 | 37.4 | 22.2 | にぶい赤褐色 | 灰褐色 | 砂粒 | 普通 | ナデ・ケズリ | ナデ | |
| 52 | 39 | E－6 | 不明 | 浅鉢 | 20.4 | 10.3 | 黒褐色～にぶい赤褐色 | 橙色～にぶい橙色 | 砂粒・赤褐色粒・角閃石 | 普通 | ミガキ | ナデ | 底径13.9cm |
| 52 | 40 | E－6 | Ⅳ | 深鉢 | | 9.1 | にぶい赤褐色～明赤褐色 | 褐色 | 砂粒 | 普通 | ナデ | 条線調整 | |
| 52 | 41 | E－6 | Ⅴ | 深鉢 | | 18.2 | 明赤褐色 | にぶい橙色 | 砂粒・貝殻小片 | 普通 | ナデ後ヘラミガキ・ナデ・指頭圧痕 | ハケ目・ナデ・指頭圧痕 | 底径14.6cm　底面に餘脊椎骨痕 |
| 52 | 42 | E－7 | 不明 | 浅鉢 | 23.0 | 4.1 | 赤褐色 | 明赤褐色 | 砂粒・長石・石英 | 普通 | ミガキ | ミガキ・ナデ | 外面・内面の一部に赤色顔料 |
| 53 | 43 | E－7 | Ⅳ | 深鉢 | | 22.8 | 明赤褐色 | にぶい赤褐色 | 砂粒・角閃石・貝殻小片 | 普通 | 粗いナデ | ナデ・指頭圧痕 | 底径15.4cm　底面に餘脊椎骨痕　内面にスス付着 |
| 53 | 44 | E－8 | １号土壙 | 深鉢 | 25.1 | 20.6 | にぶい褐色 | にぶい褐色 | 砂粒・角閃石・滑石 | 普通 | 指調整後ナデ・指頭圧痕 | 指調整後ナデ・指頭圧痕 | 内面に一部スス付着　底面に餘脊椎骨痕 |
| 53 | 45 | E－8 | ４号土壙 | 深鉢 | 17.5 | 14.7 | 明赤褐色 | 暗赤灰色～明赤褐色 | 砂粒・角閃石・滑石粒 | 普通 | ナデ | 指頭圧痕・ナデ | 底径9.4～9.8cm |
| 53 | 46 | E－8 | Ⅲb | 鉢 | 19.2 | 12.9 | 赤褐色 | にぶい褐色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ケズリ後部分的にナデ | ナデ | 底径11.6cm |
| 54 | 47 | E－8 | Ⅲb | 浅鉢 | | 6.8 | 明赤褐色～灰褐色 | にぶい赤褐色 | 砂粒・角閃石・長石 | 普通 | ミガキ | ミガキ | 底径10.0cm　胴部最大径21.6cm　外面全体・内面上部に赤色顔料 |
| 54 | 48 | E－9 | ２号土壙 | 鉢 | 23.0 | 17.4 | 明赤褐色 | 赤褐色 | 砂粒・角閃石・長石・滑石 | 普通 | 粗いナデ・ヨコナデ | ハケ目 | |
| 54 | 49 | E－9 | Ⅱ | 突起 | | 9.6 | にぶい橙色 | にぶい赤褐色 | 砂粒・滑石・角閃石 | 普通 | ナデ | ナデ | |

# 第5表　土器観察表(2)

| 図版番号 | 遺物番号 | 出土区 | 層位・遺構 | 器種 | 口径(cm) | 現存高(cm) | 色調 外面 | 色調 内面 | 胎土混入物 | 焼成 | 調整 外面 | 調整 内面 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 54 | 50 | E－9 | Ⅱ | 浅鉢 | 28.0 | 9.5 | にぶい黄橙色～黒褐色 | にぶい黄橙色～黒褐色 | 砂粒 | 普通 | ミガキ | ミガキ | 胴径32.6cm |
| 54 | 51 | E－9 | Ⅲ | 深鉢 | 39.4 | 14.7 | にぶい赤褐色 | にぶい赤褐色 | 砂粒・滑石・蛙母粒 | 普通 | ナデ | 指頭圧痕・ナデ | |
| 55 | 52 | E－10 | 1号土壙 | 深鉢 | 32.8 | 16.8 | にぶい褐色 | にぶい黄橙色 | 砂粒・滑石・角閃石 | 普通 | ナデ | 工具痕・指頭圧痕・ケズリ・ナデ | |
| 55 | 53 | E－10 | 2号土壙 | 深鉢 | 32.8 | 36.6 | にぶい橙色～褐灰色 | にぶい橙色～褐灰色 | 砂粒・滑石粒・蛙母 | 普通 | ケズリ後ナデ | 指頭圧痕・ヘラ条線調整後ナデ | 底径15.1cm |
| 56 | 54 | E－10 | 1･2号土壙 | 深鉢 | 28.4 | 30.2 | にぶい橙色 | 暗赤褐色 | 砂粒・赤褐色粒・滑石 | 普通 | 条痕・ナデ | ケズリ後ナデ | 底径12.8cm |
| 56 | 55 | E－10 | Ⅳb | 深鉢 | 49.4 | 25.5 | にぶい赤褐色 | にぶい橙色 | 砂粒・蛙母粒 | 普通 | 細い条痕・ナデ | 指頭圧痕・ナデ | |
| 57 | 56 | E－11 | Ⅳb | 深鉢 | | 10.2 | にぶい赤褐色 | 橙色 | 砂粒・長石・滑石 | 普通 | ケズリ後ナデ・工具痕 | ナデ・工具痕・指頭圧痕 | 底径14.8cm |
| 57 | 57 | E－12 | Ⅱ～Ⅲa | 深鉢 | | 11.8 | にぶい黄橙色 | にぶい黄橙色 | 砂粒・滑石・角閃石 | 普通 | ナデ | 指頭圧痕・ヘラ条線調整後ナデ | |
| 57 | 58 | E－12 | Ⅴ | | 20.5 | 15.0 | にぶい赤褐色 | 褐灰色 | 砂粒・滑石粒 | 普通 | ナデ | 指頭圧痕・工具痕・ナデ | 胴径21.8cm |
| 57 | 59 | E－12 | Ⅳb | 深鉢 | 26.5 | 22.0 | にぶい橙色 | にぶい黄橙色 | 砂粒・滑石粒・赤褐色粒・蛙母・角閃石 | 普通 | 細い条痕・ナデ | 指頭圧痕・ナデ | 底径12.6cm |
| 57 | 60 | F－5 | Ⅴ | 深鉢 | 32.8 | 27.1 | にぶい橙色～褐灰色 | にぶい橙色～褐灰色 | 砂粒・蛙母・角閃石 | 普通 | 工具痕・ヘラ条線調整後ナデ | ヘラ条線調整後ナデ | 底径13.1cm |
| 58 | 61 | F－6 | 不明 | 深鉢 | 32.6 | 24.4 | 赤褐色 | にぶい赤褐色 | 砂粒・滑石・蛙母 | 普通 | ナデ | ヨコナデ | |
| 58 | 62 | F－6 | 2号土壙 | 深鉢 | 36.0 | 22.4 | 灰褐色 | 明赤褐色 | 砂粒・滑石・赤褐色砂粒・滑石粒 | 普通 | ナデ | ヘラ条線調整 | |
| 59 | 63 | F－6 | 2号土壙 | 深鉢 | | 17.5 | 明赤褐色 | 赤灰色～にぶい橙色 | 砂粒・滑石 | 普通 | ナデ | 工具痕・ナデ | 底面15.2cm　底面に鯨脊椎骨痕 |
| 59 | 64 | F－6 | 不明 | 浅鉢 | 21.5 | 7.4 | 明赤褐色～灰褐色 | にぶい褐色 | 砂粒・滑石・角閃石 | 普通 | 指頭圧痕・ナデ | 指頭圧痕・ナデ | 底径12.0cm |
| 59 | 65 | F－6 | Ⅳ | 鉢 | | 10.3 | にぶい赤褐色 | にぶい赤褐色 | 砂粒・赤褐色粒・角閃石・滑石粒 | 普通 | ナデ | 指頭圧痕・ナデ | 底径11.4～10.7cm　器形が歪 |
| 59 | 66 | F－6 | Ⅳ | 深鉢 | 31.6 | 28.0 | 暗赤褐色～黒褐色 | 暗赤褐色～黒褐色 | 砂粒・角閃石・滑石 | 普通 | ナデ・ケズリ後ナデ | ハケ目後ナデ | |
| 60 | 67 | F－7 | 不明 | 壺 | 14.0 | 15.5 | 褐灰色 | にぶい黄橙色 | 砂粒・滑石 | 普通 | 一部に工具痕・ナデ・ケズリ | 指頭圧痕・工具痕・ナデ | |
| 60 | 68 | F－7 | 1号土壙 | 深鉢 | 25.6 | 14.4 | 灰白色 | 灰白色 | 砂粒・滑石粒・蛙母・角閃石 | 普通 | ナデ | 指頭圧痕・ナデ | |
| 60 | 69 | F－7 | 1号土壙 | 深鉢 | 40.6 | 16.0 | にぶい赤褐色 | 灰褐色 | 砂粒・角閃石・黒蛙母 | 普通 | ナデ・ケズリ・指頭圧痕 | ナデ | 内面・外面にスス付着 |
| 61 | 70 | F－7 | Ⅳb | 深鉢 | 40.0 | 20.0 | 灰褐色 | 黄灰色 | 砂粒・滑石・蛙母粒・角閃石粒 | 普通 | ナデ | 指頭圧痕・条痕・ナデ | |
| 61 | 71 | F－8 | 1号土壙 | 深鉢 | 34.8 | 28.4 | にぶい褐色 | にぶい赤褐色 | 砂粒・滑石・角閃石・長石・蛙母 | 普通 | ナデ・指頭圧痕 | ハケ目後ナデ | |
| 62 | 72 | F－8 | 1号土壙 | 深鉢 | 33.2 | 23.1 | 明赤褐色 | 褐色 | 砂粒・滑石粒 | 普通 | 一部に細い条痕・指頭圧痕・ナデ・ケズリ | ヘラ条線調整 | |
| 62 | 73 | F－8 | 1号土壙 | 深鉢 | 42.6 | 26.3 | 褐灰色 | 灰褐色 | 砂粒・滑石粒・角閃石粒 | 普通 | 工具痕・ナデ | ヘラ条線調整・ナデ | |
| 63 | 74 | F－9 | Ⅱ | 鉢 | 28.1 | 15.7 | にぶい赤褐色～黒褐色 | にぶい赤褐色～黒褐色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ヘラ条痕調整後ミガキ | ナデ後ミガキ | 底径15.2cm |
| 63 | 75 | F－9 | Ⅱ | 鉢 | | 12.0 | にぶい黄褐色 | にぶい黄褐色 | 砂粒・滑石 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 63 | 76 | F－10 | 2号土壙 | 鉢 | | 6.5 | 暗褐色～赤褐色 | 黒褐色 | 砂粒・角閃石・長石 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 63 | 77 | F－11 | Ⅲ | 深鉢 | 19.0 | 10.6 | 明褐色 | にぶい褐色 | 砂粒・角閃石・赤褐色砂粒 | 普通 | ヘラ条線調整後ナデ | ヘラ条線調整後ナデ | |
| 63 | 78 | G－4 | 流路3 | 浅鉢 | | 6.8 | 暗褐色～黒褐色 | にぶい赤褐色 | 角閃石・長石・黒蝿石 | 普通 | ナデ・ケズリ | 指調整後ヨコナデ・指頭圧痕 | |
| 63 | 79 | G－4 | 流路3 | 深鉢 | | 8.1 | 褐灰色 | 褐灰色 | 角閃石・長石 | 普通 | ナデ・ケズリ後ナデ | ヨコナデ | |
| 63 | 80 | G－5 | 1号土壙 | 深鉢 | 34.8 | 21.2 | にぶい橙色～灰褐色 | にぶい橙色～褐灰色 | 砂粒・滑石 | 普通 | ナデ | ヨコナデ | |
| 64 | 81 | G－5 | 1号土壙 | 深鉢 | | 7.0 | にぶい赤褐色 | にぶい赤褐色～暗灰黄色 | 金蛙母・石英・角閃石・長石・砂粒 | 普通 | ヘラケズリ後ナデ・指頭圧痕 | ナデ・指調整痕 | 底径14.3cm　最大径18.2cm　底面に鯨脊椎骨痕 |
| 64 | 82 | G－5 | 1号土壙 | 深鉢 | 24.6 | 17.4 | にぶい赤褐色～黒褐色 | にぶい橙色～褐灰色 | 砂粒 | 普通 | ハケ目 | 指ナデ・ヘラケズリ | 外面スス付着 |
| 64 | 83 | G－5 | 1号土壙 | 鉢 | 20.0 | 15.5 | にぶい橙色～褐灰色 | 灰褐色 | 砂粒 | 普通 | ヘラケズリ後ナデ・指頭圧痕 | ヘラケズリ・ヨコナデ | 底径9.6～10.1cm　底面に木の葉痕 |
| 64 | 84 | G－5 | 1号土壙 | 深鉢 | 24.8 | 17.4 | 灰褐色～にぶい橙色 | にぶい褐色 | 砂粒・角閃石・滑石粒 | 普通 | ナデ | ヘラ条痕調整 | |
| 64 | 85 | G－5 | 1号土壙 | 深鉢 | 31.0 | 19.5 | 褐灰色～にぶい赤褐色 | にぶい赤褐色 | 砂粒・赤褐色砂粒 | 普通 | ヘラ条痕調整後ナデ | 指頭圧痕・ヘラ条痕調整・ナデ | |
| 65 | 86 | G－5 | 不明 | 鉢 | 29.2 | 9.1 | にぶい赤褐色 | にぶい橙色 | 砂粒 | 普通 | ケズリ | ミガキ | |
| 65 | 87 | G－5 | Ⅳ | 鉢 | 15.4 | 9.5 | 橙色～褐灰色 | にぶい赤褐色～黒褐色 | 砂粒 | 普通 | ヘラケズリ | ハケ目 | 底径9.2cm　底面に鯨脊椎骨痕 |
| 65 | 88 | G－5 | 1号土壙 | 深鉢 | | 9.5 | 灰褐色 | 明褐色 | 砂粒・角閃石・蛙母 | 普通 | ナデ | 指頭圧痕・ヘラ条痕調整後ナデ | |
| 65 | 89 | G－5 | Ⅳ | 深鉢 | | 7.0 | 黒褐色 | にぶい赤褐色～灰黄褐色 | 滑石 | 普通 | | | |
| 65 | 90 | G－5 | Ⅳ | 鉢 | 27.0 | 17.5 | にぶい赤褐色 | にぶい赤褐色 | 砂粒 | 普通 | ナデ | | 底径15.0cm |
| 65 | 91 | G－5 | Ⅴ | 深鉢 | | 6.5 | 暗褐色 | にぶい褐色 | 砂粒・角閃石・滑石 | 普通 | ナデ・ケズリ後ナデ | ナデ | |
| 65 | 92 | G－5 | Ⅳb | 鉢 | | 5.4 | 赤褐色～黒褐色 | にぶい黄褐色～黒褐色 | 滑石・角閃石・蛙母 | 普通 | ケズリ後ナデ・指頭圧痕 | ナデ | 底径9.7cm　最大径10.7cm　底面にアジロ痕 |
| 65 | 93 | G－5 | Ⅳ | 深鉢 | 24.0 | 21.0 | にぶい褐色 | にぶい橙色 | 砂粒・長石・角閃石 | 普通 | ナデ・ケズリ | ナデ | |
| 65 | 94 | G－5 | 不明 | | | 5.3 | にぶい黄褐色 | 赤褐色～灰褐色 | 金蛙母・長石・砂粒 | 普通 | ヘラケズリ後ナデ・ナデ | ナデ・指頭圧痕 | 脚径15.1cm |
| 66 | 95 | G－5 | Ⅳ | 深鉢 | | 8.6 | 黒褐色 | にぶい赤褐色～灰黄褐色 | 滑石 | 普通 | | | |
| 66 | 96 | G－5 | Ⅳ | 深鉢 | 28.3 | 11.1 | 暗赤褐色 | にぶい赤褐色 | 砂粒・滑石 | 普通 | ナデ | 指頭圧痕・工具痕・ナデ | |
| 66 | 97 | G－5 | Ⅴ | 浅鉢 | | 4.0 | 暗赤褐色～黒褐色 | 暗赤褐色 | 滑石 | やや良 | ナデ | ナデ | |
| 66 | 98 | G－5 | Ⅴ | 深鉢 | | 5.8 | 暗赤褐色～黒褐色 | にぶい赤褐色 | 滑石 | やや良 | | | |

## 第６表　土器観察表（３）

| 図版番号 | 遺物番号 | 出土区 | 層位・遺構 | 器種 | 口径(cm) | 現存高(cm) | 色調 外面 | 色調 内面 | 胎土混入物 | 焼成 | 調整 外面 | 調整 内面 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 66 | 99 | G－5 | Ⅴ | 鉢 | 21.4 | 10.3 | にぶい赤褐色 | にぶい赤褐色～暗赤灰色 | 砂粒 | 普通 | ヘラケズリ | ハケ目 | |
| 66 | 100 | F－6 | 2･3号土壙 | 深鉢 | | 10.0 | 明赤褐色 | 灰褐色・にぶい褐色 | 砂粒・赤褐色砂粒・角閃石・滑石 | 普通 | ナデ | ケズリ | |
| 66 | 101 | F－6 | 2･3号土壙 | 深鉢 | 41.6 | 21.2 | 黄褐色 | 灰黄褐色 | 砂粒・滑石 | 普通 | ケズリ後ナデ | 指頭圧痕・ヘラ条線調整後ナデ | |
| 67 | 102 | F－6 | 2･3号土壙 | 深鉢 | | 5.3 | 褐色 | 赤褐色～にぶい褐色 | 長石・石英・角閃石・雲母・砂粒 | やや不良 | ナデ | ナデ | |
| 67 | 103 | G－6 | Ⅳa | 深鉢 | | 7.1 | 灰赤色 | にぶい赤褐色 | 砂粒 | やや不良 | ナデ | ナデ | |
| 67 | 104 | G－6 | Ⅳa | 深鉢 | | 4.6 | 赤灰色 | 赤灰色 | 砂粒・長石・滑石 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 67 | 105 | G－6 | Ⅳa | 深鉢 | | 9.0 | にぶい赤褐色 | にぶい橙色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ナデ | ヨコナデ | |
| 67 | 106 | G－6 | Ⅳa | 深鉢 | | 10.3 | にぶい赤褐色 | にぶい橙色 | 砂粒・角閃石・赤褐色砂粒 | 普通 | ナデ | ヨコナデ | |
| 67 | 107 | G－6 | Ⅳa | 深鉢 | | 12.2 | 褐灰色 | 橙色 | 砂粒・角閃石・貝殻小片 | 普通 | ケズリ・ナデ | ケズリ・ナデ | |
| 67 | 108 | G－6 | 不明 | 深鉢 | 19.8 | 13.8 | にぶい褐色 | 褐灰色 | 砂粒・滑石 | 普通 | 工具痕・ナデ | 指頭圧痕・工具痕・ナデ | |
| 67 | 109 | G－6 | Ⅳa | 浅鉢 | 17.0 | 11.2 | 橙色 | 橙色 | 砂粒 | 普通 | ヘラナデ | ヘラナデ・ヘラケズリ後ナデ | |
| 67 | 110 | G－6 | Ⅳa | 深鉢 | 19.2 | 14.2 | にぶい赤褐色 | にぶい赤褐色～暗赤灰色 | 砂粒・雲母・角閃石 | 普通 | 条痕調整 | ケズリ | |
| 67 | 111 | F－6 | 2･3号土壙 | 深鉢 | | 5.0 | にぶい赤褐色 | 赤褐色 | 滑石・角閃石・石英・砂粒 | 普通 | ナデ | ナデ | 底径10.0cm　最大径11.3cm　底面に木の葉痕 |
| 67 | 112 | F－6 | 2･3号土壙 | 深鉢 | | 8.6 | 明赤褐色 | にぶい褐色 | 砂粒・滑石粒・角閃石・赤褐色粒 | 普通 | 工具痕・ナデ | 工具痕・ナデ | 底径13.8cm |
| 68 | 113 | G－6 | Ⅳa | 深鉢 | | 9.2 | にぶい赤褐色 | 暗赤灰色 | 砂粒・滑石 | 普通 | 条痕 | ハケ状条痕 | |
| 68 | 114 | G－6 | Ⅳa | 深鉢 | | 6.0 | 明赤褐色～灰赤色 | にぶい赤褐色 | 砂粒・滑石 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 68 | 115 | G－6 | 不明 | 深鉢 | | 17.7 | 暗赤褐色 | 赤褐色 | 砂粒・滑石・角閃石・赤褐色砂粒 | 普通 | ナデ | 指頭圧痕・ナデ | |
| 68 | 116 | G－6 | 不明 | 深鉢 | 28.1 | 16.6 | 黒褐色 | 灰褐色 | 砂粒・滑石・雲母・角閃石 | 普通 | ナデ | 指頭圧痕・工具痕・ナデ | |
| 68 | 117 | G－6 | 不明 | 深鉢 | 31.8 | 14.8 | 暗褐色 | 灰褐色 | 砂粒・滑石・角閃石 | 普通 | 工具痕・ナデ・ケズリ | 指頭圧痕・工具痕・ヘラ条線調整後ナデ | |
| 68 | 118 | G－6 | 不明 | 深鉢 | | 19.9 | 褐色 | にぶい褐色 | 砂粒・角閃石・滑石・滑石粒 | 普通 | ナデ | 指頭圧痕・条痕・ナデ | |
| 68 | 119 | G－6 | Ⅳa | 深鉢 | | 3.2 | にぶい赤褐色 | にぶい赤褐色 | 砂粒 | 普通 | ケズリ | ケズリ・指ナデ | 底径13.6cm |
| 68 | 120 | G－6 | Ⅳa | 深鉢 | | 10.6 | にぶい赤褐色 | にぶい橙色～黒褐色 | 砂粒・角閃石・滑石粒 | 普通 | ナデ | ナデ | 底径14.6cm |
| 69 | 121 | G－6 | Ⅳb | 深鉢 | 49.8 | 17.2 | 明赤褐色 | 明赤褐色 | 赤褐色砂粒 | 普通 | ヨコナデ | ナデ | |
| 69 | 122 | G－6 | Ⅳ | 深鉢 | 18.6 | 14.0 | 明赤褐色～灰黄褐色 | 明褐色 | 砂粒・雲母・角閃石 | 普通 | ナデ | ヘラ条線調整後ナデ | |
| 69 | 123 | G－6 | Ⅳa | 深鉢 | | 19.0 | 明赤褐色 | にぶい褐色 | 砂粒・長石・滑石 | 普通 | ナデ・ナデ後ケズリ | ナデ | |
| 69 | 124 | G－6 | Ⅳ～Ⅴ | 深鉢 | 20.9 | 18.6 | 橙色 | 褐色 | 砂粒・滑石・角閃石・赤褐色砂粒 | 普通 | ナデ | 工具痕・指頭圧痕・ナデ | |
| 70 | 125 | G－6 | 不明 | 深鉢 | | 18.4 | にぶい赤褐色 | 明赤褐色～黒褐色 | 滑石・角閃石 | 普通 | | | |
| 70 | 126 | G－6 | Ⅳb | 深鉢 | 26.4 | 15.4 | にぶい赤褐色 | 暗褐色 | 砂粒・滑石・角閃石 | 普通 | ケズリ後ナデ | ヘラ条線調整後ナデ | |
| 70 | 127 | G－6 | Ⅳa～Ⅴ | 深鉢 | | 12.6 | 明褐色 | にぶい褐色 | 砂粒・滑石・角閃石・雲母 | 普通 | ナデ | 指頭圧痕・ナデ | |
| 70 | 128 | G－6 | 不明 | 深鉢 | 20.8 | 19.2 | にぶい赤褐色～褐灰色 | 黒色 | 砂粒 | 普通 | ヘラケズリ | ナデ・指圧痕 | 復元器高20.6cm |
| 70 | 129 | G－6 | 不明 | 深鉢 | 36.0 | 14.2 | にぶい赤褐色～褐灰色 | にぶい赤褐色 | 砂粒・滑石 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 71 | 130 | G－6 | Ⅳb | 深鉢 | 22.4 | 13.8 | 褐灰色 | にぶい黄橙色 | 砂粒・滑石 | 普通 | ナデ | 指頭圧痕・ナデ | 凹線は深い |
| 71 | 131 | G－7 | 1号土壙 | 深鉢 | | 14.4 | 黒褐色 | 褐色 | 砂粒・滑石・角閃石 | 普通 | ナデ | 指頭圧痕・ナデ | |
| 71 | 132 | G－7 | 1号土壙 | 深鉢 | | 14.1 | にぶい黄褐色 | にぶい黄橙色 | 砂粒・滑石・角閃石 | 普通 | ナデ | 指頭圧痕・ヘラ条線調整後ナデ | |
| 71 | 133 | G－7 | 不明 | 鉢 | | 4.0 | にぶい赤褐色 | 明赤褐色 | 金雲母・長石・砂粒 | 普通 | | | |
| 71 | 134 | G－7 | 不明 | 浅鉢 | | 4.1 | にぶい褐色 | にぶい褐色 | 長石・石英・金雲母・砂粒 | やや良 | | | |
| 71 | 135 | G－7 | 不明 | 深鉢 | | 6.0 | にぶい褐色 | にぶい橙色 | 長石・石英 | 普通 | ナデ・ケズリ | ヨコナデ | |
| 71 | 136 | G－7 | 不明 | 浅鉢 | | 4.6 | 赤褐色～にぶい黄橙色 | 赤褐色 | 長石・雲母・黒雲石・砂粒 | 普通 | ナデ | ヨコナデ | |
| 71 | 137 | G－7 | 不明 | 深鉢 | | 4.4 | にぶい黄橙色 | にぶい黄橙色 | 角閃石・長石・砂粒 | 普通 | ヨコナデ | ナデ | |
| 71 | 138 | G－7 | 不明 | 深鉢 | | 6.0 | 暗赤褐色 | 赤褐色 | 砂粒・黒雲石・金雲母・石英 | 普通 | ナデ・ケズリ後ミガキ | ナデ | |
| 71 | 139 | G－7 | 1号土壙 | 深鉢 | | 11.6 | にぶい褐色 | 褐色・灰褐色 | 砂粒・滑石・赤褐色砂粒 | 普通 | ナデ・ケズリ | ナデ | |
| 71 | 140 | G－7 | 1号土壙 | 深鉢 | | 9.5 | 褐色・赤褐色 | 赤褐色・褐灰色 | 砂粒・長石・石英・滑石 | 普通 | ナデ | ケズリ | |
| 71 | 141 | G－7 | 1号土壙 | 深鉢 | | 10.7 | 橙色 | にぶい褐色 | 砂粒・角閃石・滑石 | 普通 | ケズリ後ナデ | ケズリ後ナデ・指頭圧痕 | |
| 71 | 142 | G－7 | 不明 | 小型深鉢 | 17.0 | 8.0 | 明赤褐色 | にぶい褐色 | 砂粒 | 普通 | 条線調整 | ナデ | |
| 71 | 143 | G－7 | 不明 | 深鉢 | | 11.4 | 暗褐色 | にぶい赤褐色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | 指調整・指頭圧痕 | ヨコナデ | |
| 71 | 144 | G－7 | 不明 | | | 5.4 | にぶい橙色 | にぶい褐色 | 長石・黒雲石・砂粒 | 普通 | ケズリ | 指調整後ヨコナデ・指圧痕 | 脚底面に鯨脊椎骨痕 |
| 72 | 145 | G－7 | 不明 | 深鉢 | | 5.0 | 褐灰色 | にぶい橙色 | 長石・石英・角閃石 | 普通 | ナデ | ヨコナデ | |
| 72 | 146 | G－7 | 不明 | 深鉢 | | 6.0 | 褐色 | 褐色 | 砂粒 | 普通 | ナデ・条線調整 | ナデ | |
| 72 | 147 | G－7 | 不明 | 深鉢 | | 5.7 | 赤褐色 | 赤褐色 | 長石・金雲母 | 普通 | ミガキ・ケズリ後ミガキ | ナデ | |

# 第７表　土器観察表（４）

| 図版番号 | 遺物番号 | 出土区 | 層位・遺構 | 器種 | 口径(cm) | 現存高(cm) | 色調 外面 | 色調 内面 | 胎土混入物 | 焼成 | 調整 外面 | 調整 内面 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 72 | 148 | G－7 | 不明 | 深鉢 | | 9.0 | 赤褐色 | 赤褐色 | 角閃石・長石・金雲母 | 普通 | ナデ・ケズリ | ヨコナデ | |
| 72 | 149 | G－7 | 不明 | 浅鉢 | | 9.0 | にぶい褐色～明褐色 | 橙色～灰褐色 | 長石・角閃石・黒雲石 | 普通 | 指調整・指調整後ケズリ・指頭圧痕 | ナデ・ナデ後ケズリ・指頭圧痕 | |
| 72 | 150 | G－7 | １号土壙 | 深鉢 | 39.3 | 14.8 | にぶい橙色 | 明褐灰色 | 砂粒・角閃石・滑石粒 | 普通 | ケズリ・ナデ | 工具痕・指頭圧痕・ナデ | |
| 72 | 151 | G－7 | １号土壙 | 深鉢 | 46.0 | 19.1 | 灰黄褐色 | にぶい黄橙色 | 砂粒・滑石・赤褐色砂粒・角閃石・雲母 | 普通 | ナデ・ケズリ後ナデ | ケズリ後ナデ・ナデ | |
| 73 | 152 | G－7 | 不明 | 深鉢 | | 10.7 | にぶい赤褐色 | 明赤褐色～暗赤褐色 | 砂粒・長石・黒雲石 | 普通 | 指調整後ナデ・指頭圧痕 | ナデ | |
| 73 | 153 | G－7 | 不明 | 深鉢 | | 11.4 | 灰褐色 | 褐色 | 砂粒・長石・石英 | 普通 | ケズリ後ナデ・ナデ・指頭圧痕 | ナデ・工具圧痕 | |
| 73 | 154 | G－7 | 不明 | 深鉢 | | 10.5 | 灰褐色・黒褐色 | 橙色・にぶい橙色 | 砂粒 | 普通 | ナデ・ケズリ後ナデ | ナデ | |
| 73 | 155 | G－7 | 不明 | 深鉢 | | 16.2 | 褐色 | にぶい褐色 | 長石・石英・金雲母 | 普通 | ナデ・ケズリ後ミガキ | ナデ | |
| 73 | 156 | G－7 | 不明 | 深鉢 | | 9.8 | 明赤褐色 | にぶい赤褐色 | 砂粒・角閃石・黒雲石・赤褐色砂粒 | 普通 | ケズリ後ナデ | ナデ・2～3本細い棒状工具の線 | |
| 73 | 157 | G－7 | 不明 | 深鉢 | 29.3 | 22.0 | 赤褐色～暗赤褐色 | にぶい赤褐色 | 滑石・金雲母・角閃石・砂粒 | 普通 | ケズリ後ナデ・指圧痕 | 条線調整・指圧痕 | |
| 73 | 158 | G－7 | 不明 | 深鉢 | | 5.8 | にぶい赤褐色 | 赤褐色 | 長石・石英・角閃石 | やや良 | ヘラケズリ | 指調整・ナデ・指頭圧痕 | 底面に餘脊椎骨痕・木の葉痕 |
| 73 | 159 | G－7 | 不明 | 深鉢 | | 9.8 | 橙色 | にぶい褐色・暗褐色 | 砂粒・長石・石英 | 普通 | ケズリ後ナデ | ケズリ後ナデ・指頭圧痕 | 底径14.4cm　底面に餘脊椎骨痕・底部内面にスス付着 |
| 74 | 160 | G－7 | 不明 | 深鉢 | | 6.2 | 明赤褐色 | 明赤褐色 | 角閃石 | 普通 | ナデ・ケズリ | ヨコナデ | |
| 74 | 161 | G－7 | 不明 | 深鉢 | | 4.2 | 褐色～黒褐色 | にぶい黄褐色 | 長石・黒雲石・雲母・砂粒 | 普通 | ナデ | ナデ | 外面にスス付着 |
| 74 | 162 | G－7 | 不明 | 浅鉢 | | 4.4 | 赤褐色 | にぶい赤褐色 | 角閃石・金雲母・砂粒・長石 | やや良 | ナデ | 指調整 | 内面に焦げ付着 |
| 74 | 163 | G－7 | 不明 | 鉢 | | 4.6 | にぶい褐色 | にぶい黄褐色 | 長石 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 74 | 164 | G－7 | 不明 | 深鉢 | | 11.1 | にぶい褐色～にぶい赤褐色 | にぶい褐色～褐色 | 砂粒・貝殻小片 | 普通 | ナデ・ケズリ | ナデ | |
| 74 | 165 | G－7 | 不明 | 深鉢 | 24.0 | 10.5 | 橙色～にぶい赤褐色 | 橙色～にぶい赤褐色 | 砂粒・角閃石・滑石粒 | 普通 | 一部に工具痕・ナデ | 指頭圧痕・ヘラ条線調整後ナデ | |
| 74 | 166 | G－7 | 不明 | 深鉢 | | 7.9 | 褐色 | 暗褐色 | 角閃石・赤褐色砂粒 | 普通 | ナデ・ケズリ後ナデ | ナデ・指圧痕 | |
| 74 | 167 | G－7 | Ⅳ | 深鉢 | | 12.8 | 褐色 | 褐色 | 石英・角閃石・赤褐色砂粒・滑石 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 74 | 168 | G－7 | 不明 | 深鉢 | | 8.0 | 灰褐色 | 明赤褐色 | 砂粒・黒雲石・滑石 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 74 | 169 | G－7 | 不明 | 深鉢 | | 9.3 | 褐色～黒褐色 | 褐色 | 金雲母・角閃石・長石・砂粒 | 普通 | ナデ | ヨコナデ | |
| 74 | 170 | G－7 | 不明 | 深鉢 | | 13.0 | 暗褐色～にぶい橙色 | 暗褐色～にぶい褐色 | 砂粒・滑石 | 普通 | ナデ・ケズリ後ナデ | ナデ・指頭圧痕 | |
| 74 | 171 | G－7 | Ⅳ | 深鉢 | | 5.7 | 暗褐色・褐色 | にぶい黄橙色・にぶい黄褐色 | 砂粒・角閃石・赤褐色砂粒 | 普通 | ケズリ後ナデ・指頭圧痕・工具痕 | ナデ・工具痕 | 底径14.0cm　底面に餘脊椎骨痕 |
| 74 | 172 | G－7 | １号土壙 | | | 1.2 | にぶい褐色 | にぶい褐色～灰黄色 | 角閃石・黒雲石・長石・金雲母 | 普通 | ナデ | | 底面に餘脊椎骨痕 |
| 75 | 173 | G－7 | 不明 | 鉢 | 24.6 | 15.5 | にぶい褐色～褐色 | にぶい褐色 | 砂粒・角閃石・赤褐色砂粒 | 普通 | ヘラケズリ後ナデ | ヘラケズリ後ナデ | |
| 75 | 174 | G－7 | Ⅳ | 深鉢 | | 10.7 | 暗褐色 | 褐色 | 砂粒・角閃石・滑石 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 75 | 175 | G－7 | 不明 | 深鉢 | | 9.0 | にぶい赤褐色 | にぶい赤褐色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ケズリ後ミガキ・指頭圧痕 | 条線調整 | 内面の一部にスス付着 |
| 75 | 176 | G－7 | １号土壙 | 深鉢 | | 22.3 | 褐色～灰褐色 | 暗褐色～黒褐色 | 砂粒・角閃石・長石・赤褐色砂粒 | 普通 | ケズリ後ナデ | 指調整後ナデ・指圧痕 | 最大径34.0cm |
| 75 | 177 | G－7 | 攪乱 | 浅鉢 | | 5.3 | にぶい黄橙色～暗赤褐色 | 黒褐色 | 角閃石・石英・砂粒 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 75 | 178 | G－7 | 攪乱 | 深鉢 | | 6.3 | にぶい黄褐色 | にぶい黄褐色 | 角閃石・砂粒 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 75 | 179 | G－7 | 攪乱 | 浅鉢 | | 3.9 | にぶい褐色 | にぶい褐色 | 角閃石、石英・砂粒 | 普通 | ナデ・工具痕 | ナデ | |
| 75 | 180 | G－7 | 攪乱 | 浅鉢 | | 7.5 | にぶい褐色 | にぶい橙色 | 砂粒・角閃石 | | ナデ・ケズリ | ナデ | |
| 75 | 181 | G－7 | 攪乱 | | | 3.8 | にぶい褐色 | 明赤褐色～にぶい褐色 | 石英・長石・角閃石・砂粒 | 普通 | ヨコナデ・ナデ | ナデ | |
| 75 | 182 | G－7 | 攪乱 | 深鉢 | | 6.6 | 明褐色・褐色 | 明褐色 | 砂粒・角閃石・滑石 | 普通 | ケズリ・ナデ | ナデ | |
| 75 | 183 | G－7 | 攪乱 | 鉢 | | 7.1 | にぶい褐色 | 橙色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ヨコナデ | ヨコナデ | |
| 76 | 184 | G－7 | 攪乱 | 浅鉢 | | 4.0 | にぶい黄褐色 | にぶい褐色 | 角閃石・長石・石英 | 普通 | ナデ | ヨコナデ | |
| 76 | 185 | G－7 | Ⅱ | 鉢 | | 6.5 | にぶい黄橙色～褐灰色 | にぶい橙色 | 砂粒・角閃石 | やや良 | ケズリ後ナデ | ナデ | |
| 76 | 186 | G－7 | Ⅲ | 浅鉢 | | 5.6 | 褐色 | にぶい褐色 | 石英・角閃石・雲母・砂粒 | 普通 | 指調整後ハケナデ・指頭圧痕 | 指調整後ハケナデ | 内・外面にスス付着 |
| 76 | 187 | G－7 | Ⅱ | 浅鉢 | | 6.2 | 暗赤褐色～褐灰色 | 暗褐色～黒褐色 | 長石・黒雲石・角閃石 | 普通 | 条線調整 | ナデ | |
| 76 | 188 | G－7 | Ⅱ | 浅鉢 | | 3.2 | 極暗褐色 | にぶい赤褐色 | 金雲母・角閃石・黒雲石・砂粒 | やや良 | ナデ | ヨコナデ | |
| 76 | 189 | G－7 | 攪乱 | 深鉢 | | 14.0 | にぶい橙色 | にぶい橙色 | 砂粒・角閃石・赤褐色砂粒 | 普通 | ナデ・ケズリ | ナデ | |
| 76 | 190 | G－7 | Ⅲ | 深鉢 | | 5.9 | にぶい黄橙色～にぶい黄褐色 | 褐色～灰白色 | 角閃石・長石・砂粒 | 普通 | ナデ | ヨコナデ | |
| 76 | 191 | G－7 | Ⅲ | 浅鉢 | | 4.2 | 灰黄褐色 | にぶい黄褐色 | 長石・角閃石・砂粒・金雲母 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 76 | 192 | G－7 | Ⅲ | 鉢 | | 4.2 | 褐灰色 | にぶい黄褐色～褐灰色 | 石英・砂粒 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 76 | 193 | G－7 | Ⅲ | 浅鉢 | | 5.2 | 赤褐色 | 赤褐色 | 金雲母・長石・角閃石・砂粒 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 76 | 194 | G－7 | Ⅱ | 浅鉢 | | 4.8 | にぶい褐色 | にぶい褐色～褐色 | 角閃石・黒雲石・長石・砂粒 | 普通 | 指調整後ナデ・指頭圧痕・工具痕 | ナデ | |
| 76 | 195 | G－7 | Ⅳ | 深鉢 | | 7.1 | 黒褐色 | にぶい赤褐色 | 長石・角閃石・滑石 | やや良 | ナデ | ケズリ | |
| 76 | 196 | G－7 | Ⅴ | 深鉢 | | 10.7 | にぶい橙色 | にぶい橙色 | 砂粒・角閃石・雲母・滑石 | 普通 | ナデ | ナデ | |

## 第８表　土器観察表(５)

| 図版番号 | 遺物番号 | 出土区 | 層位・遺構 | 器種 | 口径(cm) | 現存高(cm) | 色調 外面 | 色調 内面 | 胎土混入物 | 焼成 | 調整 外面 | 調整 内面 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 76 | 197 | G－7 | Ⅳb | 深鉢 | | 13.3 | 暗赤褐色 | 赤褐色 | 砂粒 | 普通 | ナデ | ヨコナデ | |
| 76 | 198 | G－7 | Ⅴ | 深鉢 | | 11.0 | 灰赤色 | にぶい赤褐色 | 砂粒 | 普通 | ナデ | 条痕調整後ナデ | |
| 76 | 199 | G－7 | Ⅲ | 深鉢 | | 14.2 | 褐色～にぶい褐色 | 褐色～にぶい褐色 | 砂粒・角閃石・黒燿石 | 普通 | ケズリ後ナデ | ナデ | |
| 76 | 200 | G－7 | 不明 | 深鉢 | | 19.9 | 赤褐色 | 赤褐色～灰褐色 | 砂粒・滑石・蛙母 | 普通 | ナデ | 指頭圧痕・工具痕・ナデ | |
| 76 | 201 | G－7 | Ⅳa | 浅鉢 | | 4.8 | にぶい赤褐色 | 灰黄褐色～赤褐色 | 長石・角閃石・金蛙母・黒燿石・砂粒 | 普通 | ケズリ後ナデ | 指調整・ナデ・指頭圧痕 | 底面に鎌脊椎骨痕　内面にスス・焦げ付着 |
| 76 | 202 | G－8 | Ⅲ | 深鉢 | | 5.2 | 褐色 | にぶい褐色 | 長石・石英・角閃石・蛙母・砂粒 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 76 | 203 | G－8 | Ⅱ | 鉢 | | 5.1 | 暗褐色 | にぶい褐色 | 角閃石・砂粒 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 77 | 204 | G－8 | Ⅱ | 鉢 | | 5.2 | 暗褐色～黒褐色 | 黒褐色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ナデ・ナデ後ケズリ | ナデ | |
| 77 | 205 | G－8 | Ⅲa | 鉢 | | 11.2 | 褐灰色～にぶい橙色 | にぶい橙色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ナデ・ケズリ後ナデ | ナデ・指圧痕 | |
| 77 | 206 | G－8 | Ⅳ | 鉢 | | 8.5 | 褐色 | 黒褐色 | 貝殻小片 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 77 | 207 | G－8 | Ⅳ | 深鉢 | | 10.1 | 暗褐色 | にぶい褐色～灰褐色 | 砂粒・角閃石・滑石 | 普通 | ナデ・指頭圧痕 | ナデ | |
| 77 | 208 | G－8 | Ⅲb | 深鉢 | | 15.0 | にぶい褐色～暗褐色 | 褐色 | 貝殻小片 | 普通 | ナデ・ケズリ後ナデ | ナデ | |
| 77 | 209 | G－8 | Ⅲb | 鉢 | | 27.2 | 明赤褐色～にぶい赤褐色 | にぶい赤褐色 | 砂粒・角閃石・滑石 | 普通 | 条線調整 | 条線調整 | 内・外面にスス付着 |
| 77 | 210 | G－8 | Ⅲb | 深鉢 | | 12.8 | 赤褐色～にぶい赤褐色 | 赤褐色～灰褐色 | 砂粒・角閃石・長石・滑石 | 普通 | ナデ・ケズリ後ナデ | ナデ | 外面に一部スス付着 |
| 77 | 211 | G－8 | Ⅲb | 深鉢 | | 15.4 | にぶい赤褐色～暗褐色 | 赤褐色～暗赤褐色 | 蛙母・滑石 | やや良 | ケズリ後ナデ | ナデ | |
| 77 | 212 | G－8 | Ⅳb | 深鉢 | | 17.9 | 橙色 | 橙色 | 砂粒・滑石 | 普通 | ナデ | 指頭圧痕・ナデ | |
| 78 | 213 | G－8 | Ⅳb | 深鉢 | 43.6 | 7.6 | にぶい褐色 | にぶい褐色・灰褐色 | 砂粒・角閃石・滑石 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 78 | 214 | G－8 | Ⅲ・Ⅳ | 深鉢 | 28.3 | 19.6 | 橙色 | 橙色 | 砂粒・滑石・角閃石 | 普通 | ナデ・ケズリ後ナデ | 指頭圧痕・ヘラ条線調整後ナデ・ナデ | |
| 78 | 215 | G－8 | Ⅲb・Ⅳb | 深鉢 | 23.4 | 13.4 | にぶい赤褐色 | 灰褐色 | 砂粒・滑石・角閃石 | 普通 | ナデ | ヘラ条痕調整後ナデ | |
| 78 | 216 | G－9 | 1号土壌 | 深鉢 | 22.0 | 6.9 | 灰褐色 | 黒褐色 | 角閃石・砂粒 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 78 | 217 | G－9 | 1号土壌 | 深鉢 | | 17.0 | にぶい橙色 | にぶい褐色 | 砂粒・長石・赤褐色砂粒 | 普通 | ナデ・ケズリ後ナデ | ナデ | |
| 78 | 218 | G－9 | 1号土壌 | 深鉢 | | 11.9 | にぶい褐色～灰褐色 | にぶい褐色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ナデ・ナデ後一部条線調整 | ケズリ後ナデ | |
| 78 | 219 | G－9 | 1号土壌 | 深鉢 | | 10.7 | にぶい褐色～褐灰色 | 褐色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 79 | 220 | G－9 | 1号土壌 | 深鉢 | | 18.7 | 黒褐色～にぶい赤褐色 | 黒褐色～にぶい赤褐色 | 砂粒・滑石・角閃石 | 普通 | ナデ | 指頭圧痕・ヘラ条痕調整後ナデ | |
| 79 | 221 | G－9 | 1号土壌 | 深鉢 | | 4.9 | 橙色～明赤褐色 | 明赤褐色 | 角閃石・砂粒・滑石 | 普通 | ケズリ後ナデ・指頭圧痕 | ナデ | 底径13.8cm　底面に木の葉痕・鎌脊椎骨痕 |
| 79 | 222 | G－9 | 1号土壌 | 深鉢 | | 3.5 | 橙色 | にぶい橙色 | 角閃石・滑石・砂粒 | 普通 | ケズリ後ナデ・指頭圧痕 | ナデ | 底径13.0cm　底面に木の葉痕 |
| 79 | 223 | G－9 | 1号土壌 | 深鉢 | | 5.1 | にぶい橙色 | にぶい橙色～黄灰色 | 角閃石・滑石 | 普通 | ナデ | ナデ | 底径13.0cm　底面に鎌脊椎骨痕 |
| 79 | 224 | G－9 | 1号土壌 | 深鉢 | | 6.0 | 橙色 | にぶい橙色～黒褐色 | 砂粒・滑石 | 普通 | ナデ・ケズリ・指頭圧痕 | ナデ・指頭圧痕 | 底面に木の葉痕 |
| 79 | 225 | G－9 | Ⅳb | 深鉢 | 20.2 | 12.1 | にぶい赤褐色 | 褐灰色 | 砂粒・蛙母・角閃石 | 普通 | 条痕調整後ナデ・指頭圧痕 | ナデ | |
| 79 | 226 | G－9 | Ⅲa | 深鉢 | 30.8 | 10.2 | にぶい黄褐色 | 明褐色 | 砂粒・蛙母・角閃石 | 普通 | ナデ | 工具痕・ナデ | |
| 80 | 227 | F－10 | 1号土壌 | 深鉢 | | 7.1 | にぶい赤褐色～黒褐色 | 橙色 | 滑石・砂粒・角閃石 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 80 | 228 | G－10 | 1号土壌 | 深鉢 | | 8.2 | にぶい褐色 | にぶい橙色 | 砂粒・角閃石・滑石 | 普通 | ケズリ後ナデ | ナデ | 底径13.6cm　底面に鎌脊椎骨痕 |
| 80 | 229 | G－11 | 1号土壌 | 深鉢 | | 15.0 | 褐灰色 | 褐灰色～灰褐色 | 砂粒・角閃石・蛙母・滑石 | 普通 | ケズリ後ナデ | ケズリ後ナデ | |
| 80 | 230 | G－11 | 1号土壌 | 深鉢 | | 10.6 | 褐灰色 | 灰褐色～褐灰色 | 滑石 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 80 | 231 | G－11 | 1号土壌 | 深鉢 | | 12.0 | 暗褐色 | にぶい褐色 | 砂粒・角閃石・赤褐色砂粒・滑石 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 80 | 232 | G－11 | 1号土壌 | 深鉢 | | 2.5 | 橙色 | 橙色 | 滑石・角閃石・砂粒 | 普通 | ケズリ後ナデ・指頭圧痕 | ナデ | 底径11.0cm　底面に鎌脊椎骨痕 |
| 80 | 233 | H－3 | Ⅱ | 浅鉢 | | 8.7 | | | 角閃石・長石・石英・砂粒 | 普通 | ナデ | ナデ | 内面に焦げ付着 |
| 80 | 234 | H－6 | 不明 | 深鉢 | | 8.0 | 明褐色 | にぶい褐色 | 長石・石英 | 普通 | ナデ・ケズリ | ナデ | |
| 80 | 235 | H－6 | 不明 | 深鉢 | | 8.4 | 暗褐色 | 褐色・黒褐色 | 砂粒・長石・角閃石 | 普通 | ヨコナデ・ケズリ | ナデ | |
| 80 | 236 | H－6 | 不明 | 深鉢 | | 5.0 | 橙色～にぶい赤褐色 | にぶい赤褐色 | 砂粒・長石・石英 | 普通 | ナデ・ケズリ後ヨコナデ | ヨコナデ | |
| 80 | 237 | H－6 | 不明 | 深鉢 | | 6.3 | 褐色 | 褐色・褐灰色 | 砂粒・長石 | 普通 | ナデ | ヨコナデ | |
| 80 | 238 | H－6 | 不明 | 深鉢 | | 3.0 | 橙色 | 明赤褐色 | 金蛙母・滑石 | やや良 | ケズリ後ナデ | ナデ・工具痕 | 底径11.2cm　底面に鎌脊椎骨痕 |
| 80 | 239 | H－6 | Ⅳ | 深鉢 | | 4.3 | 灰褐色・褐色 | 暗褐色 | 長石・赤褐色砂粒・滑石 | 普通 | ケズリ・指頭圧痕 | ヨコナデ | 底径12.4cm　底面に鎌脊椎骨痕 |
| 81 | 240 | H－6 | 不明 | 深鉢 | 18.9 | 2.3 | 灰褐色 | 灰褐色 | 砂粒・滑石 | 普通 | ナデ | 工具痕・ナデ | |
| 81 | 241 | H－6 | Ⅳ | 浅鉢 | | 7.3 | 褐色・明褐色 | にぶい黄褐色・灰黄色 | 砂粒・滑石・長石 | 普通 | ナデ・ケズリ後ナデ・指頭圧痕 | 指調整後ナデ・指頭圧痕 | |
| 81 | 242 | H－6 | 不明 | 深鉢 | | 5.2 | にぶい褐色 | にぶい褐色 | 角閃石・滑石 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 81 | 243 | H－6 | 不明 | 深鉢 | | 9.9 | 暗褐色 | 黒褐色・にぶい褐色 | 砂粒・角閃石・赤褐色砂粒 | 普通 | ナデ・指頭圧痕 | ナデ | |
| 81 | 244 | H－6 | 不明 | 深鉢 | 18.6 | 9.5 | 明赤褐色～にぶい黄褐色 | にぶい褐色 | 砂粒・滑石 | 普通 | ナデ | 工具痕・ナデ | |
| 81 | 245 | H－6 | 流路３ | 鉢 | | 4.7 | 褐色 | にぶい赤褐色 | 滑石 | 普通 | ナデ | ナデ | |

# 第９表　土器観察表(６)

| 図版番号 | 遺物番号 | 出土区 | 層位・遺構 | 器種 | 口径(cm) | 現存高(cm) | 色調 | | 胎土混入物 | 焼成 | 調整 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 外面 | 内面 | | | 外面 | 内面 | |
| 81 | 246 | H－6 | 不明 | 深鉢 | | 9.3 | 赤褐色 | 赤褐色 | 長石・金雲母・砂粒 | 普通 | ナデ・工具痕 | ナデ | |
| 81 | 247 | H－6 | 不明 | 浅鉢 | | 9.3 | にぶい黄褐色 | 黒褐色 | 角閃石・長石・砂粒 | やや不良 | 貝殻痕・指頭圧痕 | 指調整・指頭圧痕 | 最大径16.0cm　内面に焦げ |
| 81 | 248 | H－6 | 不明 | 深鉢 | | 6.8 | 赤褐色 | 赤褐色 | 滑石 | 普通 | ナデ | 指調整後ナデ・指頭圧痕 | |
| 81 | 249 | H－7 | 不明 | 浅鉢 | 30.7 | 9.0 | にぶい赤褐色～暗褐色 | にぶい赤褐色～灰黄色 | 角閃石・金雲母・砂粒 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 81 | 250 | H－7 | 不明 | 浅鉢 | | 8.2 | にぶい褐色～にぶい橙色 | にぶい橙色 | 砂粒・金雲母 | 普通 | ナデ | ナデ | 外面上部にスス付着 |
| 81 | 251 | H－7 | 不明 | 深鉢 | | 33.2 | 暗褐色 | 褐色 | 砂粒・角閃石・赤褐色砂粒 | 普通 | ケズリ後ナデ | ナデ | |
| 82 | 252 | H－7 | 不明 | 深鉢 | | 8.0 | にぶい赤褐色 | 灰褐色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ナデ・ケズリ | ヨコナデ | |
| 82 | 253 | H－7 | 不明 | 深鉢 | | 7.6 | にぶい褐色 | にぶい褐色 | 砂粒・角閃石・石英．長石 | 普通 | ナデ・ケズリ後ナデ | ケズリ後ナデ | |
| 82 | 254 | H－7 | 不明 | 浅鉢 | | 9.6 | にぶい褐色～暗褐色 | 灰黄褐色 | 長石・角閃石・黒耀石 | 普通 | ナデ・指調整後ナデ・指頭圧痕 | ナデ・指頭圧痕 | |
| 82 | 255 | H－7 | １号土壙 | 深鉢 | | 18.0 | 褐色 | にぶい黄褐色 | 角閃石・雲母・滑石・砂粒 | 普通 | ナデ・指頭圧痕 | ナデ・指頭圧痕 | 口縁部の飾りは４箇所 |
| 82 | 256 | H－7 | 不明 | 鉢 | 17.0 | 5.5 | | | 砂粒・角閃石 | 普通 | ケズリ後ナデ | ナデ・指頭圧痕 | |
| 82 | 257 | H－7 | １号土壙 | 深鉢 | 27.5 | 20.3 | 褐色 | にぶい褐色 | 滑石・雲母・角閃石 | 普通 | ケズリ後ナデ | 指頭圧痕・ナデ | |
| 82 | 258 | H－7 | 不明 | 浅鉢 | | 6.7 | 暗褐色 | 赤褐色～暗灰黄色 | 角閃石・雲母・砂粒 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 82 | 259 | H－7 | 不明 | 浅鉢 | | 7.6 | 赤褐色～にぶい褐色 | にぶい褐色 | 長石・金雲母・砂粒 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 82 | 260 | H－7 | 不明 | | | 3.2 | 赤褐色～灰黄褐色 | 赤褐色 | 金雲母・小石・砂粒 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 82 | 261 | H－7 | １号土壙 | 深鉢 | 27.0 | 24.5 | にぶい黄橙色 | 褐灰色 | 砂粒・滑石 | 普通 | ナデ | 一部条痕・ナデ | |
| 83 | 262 | H－7 | 攪乱 | 浅鉢 | 22.0 | 10.9 | 明赤褐色 | 赤褐色～にぶい橙色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ミガキ | ミガキ・ナデ | 底径12.8cm　外面全体(底面を除く)と内面上部に赤色顔料 |
| 83 | 263 | H－7 | 不明 | 深鉢 | | 13.2 | 灰褐色 | 橙色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ナデ・ヘラケズリ後ナデ | ヨコナデ | |
| 83 | 264 | H－7 | Ⅳａ | 深鉢 | 17.6 | 11.4 | 明赤褐色 | にぶい赤褐色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ケズリ後粗いミガキ | ナデ | |
| 83 | 265 | H－7 | 不明 | 深鉢 | 30.8 | 7.8 | 灰黄褐色 | にぶい黄橙色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ケズリ後ナデ | ナデ・指頭圧痕 | |
| 83 | 266 | H－7 | 不明 | 深鉢 | 18.6 | 4.0 | 暗褐色 | 明赤褐色 | 砂粒・角閃石・滑石 | 普通 | ナデ・ケズリ後ナデ | ナデ | |
| 83 | 267 | H－7 | Ⅳｂ | 浅鉢 | | 7.3 | 赤褐色 | 赤褐色～灰黄褐色 | 滑石 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 83 | 268 | H－7 | 不明 | 鉢 | 13.8 | 6.5 | にぶい褐色 | 明赤褐色 | 砂粒・角閃石・雲母 | 普通 | ケズリ後ナデ | ナデ | |
| 83 | 269 | H－7 | 不明 | 鉢 | 8.6 | 4.0 | | | 砂粒・角閃石 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 83 | 270 | H－7 | 不明 | | | 4.3 | にぶい黄褐色 | にぶい黄褐色～にぶい赤褐色 | 石英・砂粒 | 普通 | ナデ・指頭圧痕 | | 脚・底にキザミ痕 |
| 84 | 271 | H－7 | 不明 | 深鉢 | | 8.5 | 褐色～黒褐色 | 褐色 | 石英・角閃石・砂粒 | 普通 | ナデ | ナデ | 内面に焦げ・外面にスス付着 |
| 84 | 272 | H－7 | 不明 | 浅鉢 | | 8.3 | 黒褐色～灰褐色 | 灰黄褐色 | 雲母・黒耀石・砂粒 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 84 | 273 | H－7 | 不明 | 深鉢 | | 8.3 | | | 砂粒・滑石・長石 | 普通 | ナデ・指頭圧痕 | ナデ・工具痕 | 底径13.0cm　底面に餘脊椎骨痕・内面にスス付着 |
| 84 | 274 | H－7 | 不明 | 深鉢 | | 24.0 | にぶい赤褐色～灰褐色 | にぶい褐色～灰黄褐色 | 角閃石・雲母・砂粒 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 84 | 275 | H－7 | 不明 | 深鉢 | 32.0 | 16.8 | にぶい褐色 | 橙色 | 砂粒・滑石・赤褐色砂粒・角閃石 | 普通 | ナデ | ナデ・ケズリ | |
| 84 | 276 | H－7 | Ⅳａ | 深鉢 | 35.6 | 15.2 | 明褐色～褐灰色 | 明褐色～灰褐色 | 砂粒・長石 | 普通 | 指調整後ナデ・指頭圧痕 | ナデ・指頭圧痕 | |
| 85 | 277 | H－7 | 不明 | 深鉢 | 30.9 | 21.8 | にぶい褐色～褐色 | 明褐色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ケズリ後ナデ | 工具痕・指頭圧痕・ナデ | |
| 85 | 278 | H－7 | 攪乱 | 鉢 | 20.6 | 4.8 | | | 砂粒・角閃石 | 普通 | ヘラケズリ後ヘラミガキ | ヘラミガキ・ヘラケズリ後ナデ | |
| 85 | 279 | H－7 | 不明 | 深鉢 | | 10.6 | 褐灰色・にぶい褐色 | 赤褐色 | 砂粒・長石・角閃石 | 普通 | ナデ・ケズリ後ナデ | ヨコナデ・指頭圧痕 | |
| 85 | 280 | H－7 | 不明 | 小型小鉢 | | 6.7 | 黒褐色 | 黒褐色 | 雲母・長石・石英・角閃石・砂粒 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 85 | 281 | H－7 | Ⅲ | 浅鉢 | | 6.5 | にぶい褐色 | にぶい褐色 | 黒耀石・角閃石・長石・砂粒 | 普通 | 指調整・指頭圧痕 | ナデ | |
| 85 | 282 | H－7 | Ⅳａ | 深鉢 | | | 黒色 | にぶい褐色 | 長石・角閃石・砂粒 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 85 | 283 | H－7 | Ⅴ | 鉢 | 13.6 | 8.1 | 褐色 | 黒褐色 | 砂粒・滑石 | 普通 | ヘラケズリ後ナデ | ナデ | |
| 85 | 284 | H－7 | Ⅳｂ | 深鉢 | | 22.6 | 灰褐色 | 灰白色 | 砂粒・滑石・雲母・角閃石 | 普通 | ナデ・ケズリ | 指頭圧痕・ナデケズリ | |
| 85 | 285 | H－7 | 攪乱 | 浅鉢 | | 4.9 | にぶい橙色 | にぶい橙色 | 角閃石・長石・砂粒 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 85 | 286 | H－7 | Ⅴ | 深鉢 | | 9.4 | にぶい黄橙色・黒色 | 明赤褐色・赤黒色 | 角閃石・砂粒・滑石 | 普通 | ケズリ後ナデ・指頭圧痕 | ナデ | 底径14.2cm　底面に木の葉痕 |
| 86 | 287 | H－7 | 攪乱 | 深鉢 | 13.5 | 14.0 | にぶい黄褐色 | 褐灰色 | 砂粒・角閃石・長石 | 普通 | ナデ・ケズリ後ナデ | ヨコナデ | |
| 86 | 288 | H－7 | 攪乱 | 高坏 | 32.0 | 6.4 | にぶい黄橙色～灰黄褐色 | にぶい黄橙色～灰黄褐色 | 砂粒・長石・石英 | やや不良 | ミガキ | ミガキ | 磨消縄文土器 |
| 86 | 289 | H－7 | 攪乱 | 深鉢 | | 12.0 | 明赤褐色・灰褐色 | 赤褐色・褐灰色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ケズリ後ナデ・ナデ | ヨコナデ・指頭圧痕 | |
| 86 | 290 | H－7 | Ⅳｂ | 深鉢 | 28.3 | 21.2 | にぶい褐色 | にぶい褐色～黒褐色 | 砂粒・滑石・雲母 | 普通 | ナデ | 指頭圧痕・ナデ | |
| 87 | 291 | H－7 | Ⅳｂ | 深鉢 | 25.4 | 23.9 | 灰褐色 | 褐灰色 | 砂粒・滑石 | 普通 | ナデ | 一部に指頭圧痕・ナデ | |
| 87 | 292 | H－8 | １号土壙 | 深鉢 | | 13.9 | 黒褐色 | 暗褐色 | 砂粒・滑石・角閃石 | 普通 | ケズリ後ナデ | 工具痕・ナデ | |
| 87 | 293 | H－8 | １号土壙 | 深鉢 | | 13.5 | にぶい赤褐色 | 赤褐色 | 砂粒・長石・滑石・赤褐色砂粒 | 普通 | 条線調整 | ヨコナデ | |
| 87 | 294 | H－8 | １号土壙 | | | 4.4 | にぶい黄橙色 | 灰黄色～にぶい橙色 | 雲母・砂粒 | 普通 | ヘラケズリ | 指頭圧痕 | 底面に餘脊椎骨痕 |

## 第10表　土器観察表(７)

| 図版番号 | 遺物番号 | 出土区 | 層位・遺構 | 器種 | 口径(cm) | 現存高(cm) | 色調 外面 | 色調 内面 | 胎土混入物 | 焼成 | 調整 外面 | 調整 内面 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 87 | 295 | H－8 | 1号土壙 | 浅鉢 | 19.8 | 11.3 | 橙色 | 橙色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ナデ | 指頭圧痕・ナデ | 底面に綱代痕 |
| 87 | 296 | H－8 | 1号土壙 | 深鉢 | | 8.7 | 明赤褐色 | にぶい赤褐色 | 砂粒・赤褐色砂粒・滑石・角閃石 | 普通 | ナデ | ナデ | 底径17.0cm　底面に餘脊椎骨痕 |
| 88 | 297 | H－8 | 1号土壙 | 深鉢 | 29.5 | 13.4 | にぶい赤褐色 | 褐灰色 | 砂粒・角閃石・滑石 | 普通 | ナデ | 工具痕・指頭圧痕・ナデ | |
| 88 | 298 | H－8 | 不明 | 浅鉢 | | 5.2 | 灰黄褐色 | にぶい褐色 | 角閃石・黒雲石・長石 | 普通 | ヨコナデ・ケズリ | ヨコナデ | |
| 88 | 299 | H－8 | 不明 | 鉢 | | 4.1 | 灰黄褐色 | 暗灰黄色 | 角閃石・長石・石英・砂粒 | やや不良 | ナデ | ナデ | |
| 88 | 300 | H－8 | 不明 | 浅鉢 | | 6.5 | にぶい黄褐色～黒褐色 | にぶい黄橙色 | 角閃石・長石・石英・砂粒・雲母 | 普通 | ナデ | ナデ | 外面にスス付着 |
| 88 | 301 | H－8 | 1号土壙 | 浅鉢 | | 10.5 | 褐色～暗褐色 | 明赤褐色～灰褐色 | 長石・角閃石・黒雲石・砂粒 | やや不良 | ハケナデ | ナデ | 外面にスス付着　内面に焦げ付着 |
| 88 | 302 | H－8 | Ⅲ | 浅鉢 | | 4.6 | にぶい赤褐色 | 明赤褐色～褐色 | 長石・角閃石・雲母・砂粒 | 普通 | ヨコナデ・指頭圧痕 | ヨコナデ | 外面に赤色顔料 |
| 88 | 303 | H－8 | Ⅲ | 深鉢 | | 5.0 | にぶい赤褐色 | 暗褐色 | 長石・金雲母・石英・砂粒 | 普通 | ケズリ後ナデ・指頭圧痕 | ナデ | 底面に餘脊椎骨痕 |
| 88 | 304 | H－8 | 1号土壙 | 浅鉢 | 21.8 | 11.7 | にぶい橙色 | にぶい赤褐色 | 砂粒・長石・石英・滑石 | 普通 | ナデ | ナデ | 底面に餘脊椎骨痕 |
| 88 | 305 | H－8 | 攪乱 | 鉢 | | 5.0 | にぶい黄褐色 | にぶい黄褐色～灰黄褐色 | 石英・長石・角閃石・雲母・砂粒 | 普通 | ナデ | ナデ | 内面に焦げ付着 |
| 88 | 306 | H－8 | Ⅱ | | | 4.1 | 褐灰色～黒褐色 | 黒色 | 雲母・長石・砂粒 | やや不良 | ナデ | ナデ | 内面に焦げ付着 |
| 88 | 307 | H－8 | Ⅰ | 深鉢 | | 12.1 | 明褐色 | 灰褐色 | 砂粒・長石 | 普通 | ナデ・条線調整 | ヘラ条線調整後ナデ・指頭圧痕 | |
| 88 | 308 | H－8 | Ⅱ | 深鉢 | | 12.3 | にぶい褐色～黒褐色 | 灰褐色～灰黄褐色 | 黒雲石・石英・角閃石・砂粒・金雲母 | 普通 | ケズリ | ナデ | |
| 89 | 309 | H－8 | Ⅱ | 浅鉢 | | 5.4 | 明赤褐色～にぶい赤褐色 | 明赤褐色～灰褐色 | 長石・角閃石・砂粒 | 普通 | 工具痕・ハケ目 | ヨコナデ | 内面に焦げ付着 |
| 89 | 310 | H－8 | Ⅱ | 鉢 | | 4.2 | 明赤褐色 | にぶい橙色 | 角閃石・雲母・長石・砂粒 | 普通 | ナデ | ナデ・工具痕 | |
| 89 | 311 | H－8 | Ⅱ | 鉢 | | 3.4 | 灰黄褐色 | 灰黄褐色 | 角閃石・長石・石英・砂粒 | 普通 | ヨコナデ | ヨコナデ | 全体にスス・焦げ付着 |
| 89 | 312 | H－8 | Ⅱ | 深鉢 | | 4.9 | 黒褐色 | にぶい黄褐色 | 角閃石・金雲母・長石・砂粒 | 普通 | ナデ・ケズリ | ヨコナデ | |
| 89 | 313 | H－8 | Ⅱ | 鉢 | | 4.9 | 暗褐色 | 灰黄褐色 | 長石・黒雲石・金雲母 | 普通 | ナデ・ケズリ | ヨコナデ | |
| 89 | 314 | H－8 | Ⅱ | 浅鉢 | | 3.3 | 灰黄褐色 | にぶい黄褐色 | 長石・黒雲石・砂粒 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 89 | 315 | H－8 | Ⅱ | 浅鉢 | | 3.8 | 暗褐色 | 灰黄褐色 | 黒雲石・石英・角閃石・長石 | やや良 | ナデ | ナデ | 外面にスス付着 |
| 89 | 316 | H－8 | Ⅱ | 小型浅鉢 | | 3.3 | 暗褐色 | 褐色 | 角閃石・砂粒 | 普通 | ナデ・一部ミガキ | ヨコナデ | |
| 89 | 317 | H－8 | Ⅱ | 鉢 | | 4.7 | 黒色 | 黒色 | 角閃石・黒雲石・砂粒・長石 | やや不良 | ナデ | ヨコナデ | 内面に焦げ・外面にスス付着 |
| 89 | 318 | H－8 | Ⅱ | 浅鉢 | | 3.6 | 赤褐色～にぶい褐色 | 明赤褐色 | 長石・石粒 | 普通 | ミガキ | ナデ | |
| 89 | 319 | H－8 | Ⅱ | | | 6.4 | 明赤褐色 | 赤褐色 | 黒雲石・角閃石・長石・金雲母 | 普通 | ナデ | ヘラケズリ | |
| 89 | 320 | H－8 | Ⅱ | 浅鉢 | | 5.9 | にぶい褐色～黒褐色 | にぶい赤褐色 | 角閃石・長石・金雲母・砂粒 | 普通 | ナデ | ナデ | 外面にスス付着 |
| 89 | 321 | H－8 | Ⅱ | 浅鉢 | | 11.8 | にぶい褐色 | にぶい褐色 | 角閃石・黒雲石・石英・長石 | 普通 | ナデ | ナデ | 内面に焦げ付着 |
| 89 | 322 | H－8 | Ⅱ | 浅鉢 | | 6.8 | にぶい橙色～黄灰色 | 橙色～黄灰色 | 角閃石・長石・砂粒 | 普通 | ナデ | ヨコナデ | |
| 89 | 323 | H－8 | Ⅱ | 浅鉢 | | 6.9 | にぶい橙色 | にぶい橙色 | 長石・砂粒 | やや不良 | | | |
| 89 | 324 | H－8 | Ⅱ | 鉢 | | 2.7 | にぶい赤褐色 | にぶい褐色 | 角閃石・金雲母・砂粒 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 89 | 325 | H－8 | Ⅱ | 鉢 | | 3.1 | にぶい褐色 | にぶい褐色 | 雲母・角閃石・砂粒 | 普通 | ヨコナデ | ヨコナデ | |
| 89 | 326 | H－8 | Ⅱ | 鉢 | | 3.4 | 明赤褐色 | 明赤褐色 | 角閃石・長石・黒雲石・砂粒 | 普通 | ナデ | ナデ | 外面に赤色顔料 |
| 89 | 327 | H－8 | Ⅱ | 深鉢 | | 5.8 | 暗褐色 | 暗褐色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ナデ | ナデ・指頭圧痕 | |
| 89 | 328 | H－8 | Ⅱ | 深鉢 | 18.2 | 12.0 | にぶい橙色 | 褐灰色 | 砂粒・雲母・角閃石 | 普通 | ナデ | 工具痕 | |
| 89 | 329 | H－8 | Ⅲ | 深鉢 | | 1.9 | にぶい褐色 | にぶい褐色 | 長石・角閃石・滑石 | 普通 | ナデ | ナデ・工具痕 | 底径9.6cm　底面に餘脊椎骨痕 |
| 89 | 330 | H－8 | Ⅲ | 深鉢 | | 2.4 | にぶい褐色 | 黒褐色・にぶい褐色 | 砂粒・角閃石・滑石 | 普通 | ヨコナデ | ヨコナデ・ナデ | 底部内面にスス付着 |
| 89 | 331 | H－8 | Ⅲ | 深鉢 | | 10.8 | 褐色 | にぶい褐色～灰黄褐色 | 滑石・雲母・角閃石・長石・砂粒 | 普通 | ナデ | ナデ・工具痕 | 底径14.2cm　最大径24.4cm　底面に餘脊椎骨痕 |
| 89 | 332 | H－8 | Ⅲ | 深鉢 | | 2.5 | にぶい褐色 | にぶい褐色 | 砂粒・滑石 | 普通 | ヨコナデ・指頭圧痕 | ナデ | 底径14.0cm |
| 90 | 333 | H－8 | Ⅲb | 深鉢 | | 3.2 | 灰褐色～黒褐色 | にぶい褐色 | 角閃石・長石・砂粒 | 普通 | ヨコナデ・ケズリ後ナデ | ナデ | |
| 90 | 334 | H－8 | Ⅲb | 深鉢 | | 4.7 | 赤色 | 赤色 | 長石・雲母・黒雲石・角閃石・砂粒 | 普通 | ヨコナデ | ヨコナデ | 内外面に赤色顔料 |
| 90 | 335 | H－8 | Ⅲb | 深鉢 | | 4.0 | 赤黒色 | にぶい赤褐色 | 長石・砂粒・金雲母 | やや不良 | 指調整後ナデ・指頭圧痕 | 指調整後ナデ・指頭圧痕 | |
| 90 | 336 | H－8 | Ⅲb | 鉢 | | 3.0 | 赤褐色 | にぶい黄褐色 | 角閃石・金雲母・砂粒 | 普通 | ナデ後ケズリ | ヨコナデ | |
| 90 | 337 | H－8 | Ⅲb | 鉢 | | 4.6 | にぶい橙色～灰褐色 | にぶい黄橙色～褐灰色 | 長石・角閃石・砂粒 | やや不良 | ナデ | ヨコナデ | |
| 90 | 338 | H－8 | Ⅲa | 鉢 | | 4.1 | にぶい橙色 | にぶい橙色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ナデ | ヨコナデ | 内面にスス付着 |
| 90 | 339 | H－8 | Ⅲb | 浅鉢 | | 4.0 | 黒褐色～明赤褐色 | 黒色 | 角閃石・長石・砂粒 | 普通 | ナデ・ナデ後ケズリ | ナデ後条線調整 | |
| 90 | 340 | H－8 | Ⅲb | 鉢 | | 7.9 | 黒褐色～にぶい褐色 | にぶい赤褐色 | 角閃石・滑石・砂粒 | 普通 | ナデ | ヨコナデ | 内面にスス付着 |
| 90 | 341 | H－8 | Ⅲb | 深鉢 | | 6.8 | にぶい黄橙色 | 灰黄褐色 | 角閃石・長石 | 普通 | ナデ・指頭圧痕 | ヨコナデ | |
| 90 | 342 | H－8 | Ⅲb | 鉢 | | 5.7 | 明赤褐色 | 明赤褐色～にぶい黄橙色 | 金雲母・砂粒 | 普通 | ナデ・ナデ後ケズリ | ナデ | |
| 90 | 343 | H－8 | Ⅲb | 深鉢 | | 4.4 | にぶい褐色 | 明赤褐色 | 砂粒・長石・石英・雲母 | 普通 | ナデ | ケズリ後ヨコナデ | |

## 第11表　土器観察表(８)

| 図版番号 | 遺物番号 | 出土区 | 層位・遺構 | 器種 | 口径(cm) | 現存高(cm) | 色調 | | 胎土混入物 | 焼成 | 調整 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 外面 | 内面 | | | 外面 | 内面 | |
| 90 | 344 | H－8 | Ⅲb | 深鉢 | | 5.9 | 橙色～明赤褐色 | にぶい橙色 | 角閃石・長石・砂粒 | 普通 | ナデ・ナデ後ケズリ | ヨコナデ | |
| 90 | 345 | H－8 | Ⅲb | 深鉢 | | 9.2 | 橙色 | 橙色 | 角閃石 | 普通 | ナデ・ケズリ | ナデ | |
| 90 | 346 | H－8 | Ⅲb | 深鉢 | | 6.9 | 褐色 | 褐色 | 砂粒・長石 | 普通 | ケズリ・ナデ | ナデ | |
| 90 | 347 | H－8 | Ⅲb | 深鉢 | | 6.1 | 橙色・黒色 | 橙色・褐灰色 | 砂粒 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 90 | 348 | H－8 | Ⅲb | 深鉢 | | 6.0 | 暗赤褐色 | 暗赤褐色 | 砂粒・黒耀石 | 普通 | ケズリ後ナデ | ナデ | |
| 90 | 349 | H－8 | Ⅲb | 鉢 | | 7.7 | 明赤褐色 | にぶい褐色 | 砂粒 | 普通 | 条線調整 | 条線調整 | 内・外面にスス付着 |
| 90 | 350 | H－8 | Ⅲb | 深鉢 | | 6.7 | 暗褐色 | 赤褐色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ナデ | ヨコナデ | 外面にスス付着 |
| 90 | 351 | H－8 | Ⅲb | 深鉢 | | 7.9 | にぶい赤褐色 | 明赤褐色・灰褐色 | 砂粒・長石 | 普通 | ナデ・ケズリ後ナデ | ヨコナデ | |
| 90 | 352 | H－8 | Ⅳb | 深鉢 | | 10.0 | 暗褐色 | にぶい橙色 | 砂粒・長石・角閃石・滑石 | 普通 | 条線調整 | ヨコナデ | |
| 90 | 353 | H－8 | Ⅲb | 浅鉢 | | 6.7 | にぶい褐色 | にぶい褐色 | 角閃石・雲母・砂粒 | やや不良 | ヘラケズリ | ナデ | |
| 90 | 354 | H－8 | Ⅲb | 高台 | | 2.8 | 褐色 | にぶい褐色 | 長石・黒耀石・角閃石・砂粒 | 普通 | | | 脚径8.0cm |
| 90 | 355 | H－8 | Ⅲ | 鉢 | | 11.4 | にぶい赤褐色 | にぶい赤褐色 | 砂粒・角閃石・長石 | やや不良 | ケズリ後ナデ・指頭圧痕 | ナデ | |
| 90 | 356 | H－8 | Ⅲb | | | 6.4 | にぶい褐色 | 赤褐色～にぶい赤褐色 | 長石・石英・角閃石・砂粒・黒耀石 | 普通 | ケズリ後ナデ | ナデ・指頭圧痕 | |
| 91 | 357 | H－8 | Ⅲa | 鉢 | | 2.6 | 赤黒色 | 赤黒色 | 角閃石・長石・砂粒 | 普通 | ナデ | ヨコナデ | |
| 91 | 358 | H－8 | Ⅲa | 深鉢 | | 4.4 | にぶい橙色～にぶい褐色 | 明褐色 | 金雲母・角閃石 | 普通 | ヨコナデ | ナデ | |
| 91 | 359 | H－8 | Ⅲ | 浅鉢 | | 5.7 | にぶい褐色～灰黄褐色 | にぶい橙色 | 長石・石英・角閃石・砂粒 | やや良 | ナデ | ナデ | |
| 91 | 360 | H－8 | Ⅲa | 浅鉢 | | 5.4 | 灰黄褐色 | 灰黄褐色 | 角閃石・長石・砂粒 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 91 | 361 | H－8 | Ⅲa | 浅鉢 | | 3.8 | にぶい黄橙色 | にぶい黄橙色 | 金雲母・角閃石・砂粒 | 普通 | ナデ・ナデ後ヘラケズリ | ヨコナデ | |
| 91 | 362 | H－8 | Ⅲa | 鉢 | | 5.5 | にぶい赤褐色 | にぶい赤褐色 | 角閃石・雲母・砂粒 | 普通 | ナデ | ヨコナデ | |
| 91 | 363 | H－8 | Ⅲa | 深鉢 | | 5.5 | にぶい黄橙色 | にぶい黄橙色 | 砂粒・長石 | 普通 | ナデ | ヨコナデ | |
| 91 | 364 | H－8 | Ⅲa | 深鉢 | | 5.0 | にぶい褐色～灰褐色 | 橙色～にぶい褐色 | 砂粒・角閃石・滑石 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 91 | 365 | H－8 | Ⅲ | 浅鉢 | | 6.9 | 暗赤褐色・赤褐色 | 暗赤褐色・赤褐色 | 砂粒・赤褐色砂粒 | 普通 | ナデ・ミガキ | ヨコナデ | |
| 91 | 366 | H－8 | Ⅲ | 鉢 | | 5.6 | 褐色 | 暗褐色 | 砂粒・角閃石・滑石・石英 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 91 | 367 | H－8 | Ⅲa | 鉢 | | 7.0 | にぶい褐色 | にぶい赤褐色～にぶい橙色 | 長石・石英・金雲母 | 普通 | ナデ・ケズリ後ナデ | ナデ・指頭圧痕 | |
| 91 | 368 | H－8 | Ⅲ | 鉢 | | 5.5 | 橙色・暗褐色 | 灰褐色 | 砂粒・角閃石・滑石 | やや良 | ナデ | | |
| 91 | 369 | H－8 | Ⅲ | 鉢 | | 7.6 | 暗褐色・褐色 | 褐色・灰褐色 | 砂粒・長石・角閃石 | やや良 | ナデ・ケズリ | ナデ | |
| 91 | 370 | H－8 | Ⅲa | 鉢 | | 7.0 | 明赤褐色～にぶい赤褐色 | 明赤褐色 | 砂粒・長石・石英 | やや良 | ナデ | ナデ | |
| 91 | 371 | H－8 | Ⅲa | 鉢 | 6.8 | 7.0 | にぶい赤褐色 | にぶい赤褐色・黒褐色 | 滑石・金雲母・赤褐色砂粒 | やや良 | ケズリ後ナデ | ナデ | |
| 91 | 372 | H－8 | Ⅲ | 深鉢 | | 10.3 | 褐色 | 褐色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | 指調整 | ヨコナデ | |
| 91 | 373 | H－8 | Ⅲ | 鉢 | | 10.0 | にぶい褐色 | にぶい褐色 | 砂粒・角閃石・黒耀石 | 普通 | 指調整 | ナデ | |
| 91 | 374 | H－8 | Ⅲa | 鉢 | | 10.0 | 明赤褐色 | 褐灰色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ナデ・ケズリ後ナデ | ナデ | |
| 91 | 375 | H－8 | Ⅲ | 深鉢 | | 3.8 | 褐色 | 褐色 | 砂粒・長石・石英 | 普通 | ケズリ・指頭圧痕 | ナデ | 底径14.0cm　底面に餘脊椎骨痕 |
| 91 | 376 | H－8 | Ⅲa | | | 4.8 | 赤褐色～にぶい黄褐色 | 赤褐色～にぶい黄褐色 | 金雲母・長石・石英・砂粒 | 普通 | ナデ | ヨコナデ | |
| 91 | 377 | H－8 | Ⅲ | | | 5.2 | 褐色～にぶい黄褐色 | にぶい褐色 | 石英・雲母・砂粒 | 普通 | ヘラケズリ後ナデ | 底部内面にハイ貝圧痕・ナデ | 底面に餘脊椎骨痕 |
| 92 | 378 | H－8 | Ⅲ | 深鉢 | | 19.0 | 赤褐色 | 明赤褐色 | 砂粒・滑石・角閃石 | 普通 | ケズリ | ナデ | |
| 92 | 379 | H－8 | Ⅲ | 浅鉢 | | 9.3 | 明赤褐色～灰黄褐色 | にぶい褐色～黄褐色 | 石英・角閃石・長石・雲母 | 普通 | ケズリ後ナデ・ナデ | ナデ・指頭圧痕 | 外面に赤色顔料・スス付着 |
| 92 | 380 | H－8 | Ⅲb | 鉢 | | 6.5 | 明赤褐色～灰黄褐色 | 明赤褐色～暗褐色 | 長石・砂粒 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 92 | 381 | H－8 | Ⅲ | 深鉢 | | 11.3 | 赤褐色 | 赤褐色 | 砂粒・滑石 | 普通 | ナデ・ケズリ | ナデ | |
| 92 | 382 | H－8 | Ⅲ | 深鉢 | | 8.4 | にぶい褐色 | にぶい褐色 | 長石・角閃石・砂粒 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 92 | 383 | H－8 | Ⅳ | 小型深鉢 | | 10.7 | にぶい赤褐色 | にぶい赤褐色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ケズリ後ナデ | ナデ | |
| 92 | 384 | H－8 | Ⅲa | 突起 | | 7.6 | にぶい赤褐色～赤褐色 | にぶい赤褐色～赤褐色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ミガキ | ミガキ | 全体的に赤色顔料 |
| 93 | 385 | H－8 | Ⅲ | 深鉢 | | 8.3 | にぶい橙色～にぶい赤褐色 | にぶい橙色 | 砂粒・角閃石・滑石 | 普通 | ナデ | 工具痕・指頭圧痕 | |
| 93 | 386 | H－8 | Ⅳ | 深鉢 | | 14.3 | にぶい赤褐色 | 明赤褐色 | 砂粒・角閃石・雲母 | 普通 | ケズリ後ナデ | 指頭圧痕・ナデ | |
| 93 | 387 | H－9 | 1号土壙 | 深鉢 | | 6.0 | 褐灰色 | 灰白色 | 砂粒・角閃石・滑石 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 93 | 388 | H－9 | 1号土壙 | 鉢 | | 8.1 | にぶい褐色 | 橙色 | 砂粒・角閃石・黒耀石・滑石 | 普通 | ナデ・ケズリ | ナデ | |
| 93 | 389 | H－9 | 1号土壙 | 深鉢 | | 7.2 | 暗褐色 | 褐色 | 砂粒・滑石 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 93 | 390 | H－9 | 1号土壙 | 深鉢 | | 7.6 | 暗褐色・褐色 | 灰褐色 | 砂粒 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 93 | 391 | H－9 | 1号土壙 | 深鉢 | | 8.4 | にぶい橙色 | 灰黄褐色 | 砂粒・滑石 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 93 | 392 | H－9 | 1号土壙 | 深鉢 | | 13.1 | にぶい橙色 | 灰褐色 | 砂粒・滑石 | 普通 | ナデ | ヨコナデ | |

## 第12表　土器観察表(９)

| 図版番号 | 遺物番号 | 出土区 | 層位・遺構 | 器種 | 口径(cm) | 現存高(cm) | 色調 外面 | 色調 内面 | 胎土混入物 | 焼成 | 調整 外面 | 調整 内面 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 93 | 393 | H－9 | 1号土壙 | 深鉢 | | 7.5 | 明赤褐色 | にぶい赤褐色 | 角閃石・砂粒・滑石 | 普通 | ナデ | ケズリ後ナデ | |
| 93 | 394 | H－9 | 1号土壙 | 深鉢 | | 4.9 | 黒褐色 | にぶい褐色～褐灰色 | 滑石・砂粒・角閃石 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 93 | 395 | H－9 | 1号土壙 | 深鉢 | | 14.3 | にぶい赤褐色 | 灰褐色 | 砂粒・滑石 | 普通 | ナデ・指頭圧痕 | ナデ | |
| 93 | 396 | H－9 | 1号土壙 | 鉢 | | 10.2 | 暗褐色 | 褐色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 93 | 397 | H－9 | 1号土壙 | 深鉢 | | 5.8 | 黒褐色 | 褐色 | 長石・砂粒 | やや良 | ヨコナデ | ナデ | |
| 93 | 398 | H－9 | 1号土壙 | 深鉢 | | 8.0 | 褐色～灰黄褐色 | にぶい褐色 | 長石・角閃石・砂粒 | 普通 | ケズリ後ナデ | ナデ | |
| 93 | 399 | H－9 | 1号土壙 | 深鉢 | | 8.3 | 橙色 | 橙色 | 角閃石 | 普通 | ナデ・ケズリ後ナデ | ナデ | |
| 93 | 400 | H－9 | 1号土壙 | 鉢 | 12.3 | 9.6 | 灰褐色 | にぶい橙色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ケズリ | ナデ | 底径8.0cm |
| 94 | 401 | H－9 | 1号土壙 | 鉢 | 16.8 | 13.1 | にぶい橙色 | にぶい黄橙色 | 砂粒 | 普通 | ミガキ | ミガキ | |
| 94 | 402 | H－9 | 1号土壙 | 浅鉢 | 17.6 | 3.6 | 赤褐色～黒褐色 | 赤褐色 | 角閃石・砂粒 | 普通 | | ナデ | |
| 94 | 403 | H－9 | 1号土壙 | 深鉢 | | 4.0 | 褐灰色 | にぶい赤褐色 | 砂粒 | 普通 | ナデ・ケズリ | ナデ | |
| 94 | 404 | H－9 | 1号土壙 | 深鉢 | | 4.6 | 褐色～にぶい褐色 | 橙色 | 角閃石 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 94 | 405 | H－9 | 1号土壙 | 深鉢 | | 4.7 | にぶい黄橙色 | 赤橙色 | 滑石・角閃石 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 94 | 406 | H－9 | 1号土壙 | 深鉢 | | 5.1 | 明赤褐色～灰褐色 | にぶい黄橙色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 94 | 407 | H－9 | Ⅱ | | | 2.3 | 黒色～灰黄褐色 | 黒褐色 | | 普通 | | | |
| 94 | 408 | H－9 | Ⅱ | 鉢 | | 2.7 | 灰黄褐色 | 灰白色 | 砂粒・長石・角閃石 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 94 | 409 | H－9 | Ⅱ | | | 3.6 | にぶい赤褐色 | にぶい褐色 | 砂粒・長石 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 94 | 410 | H－9 | Ⅱ | | | 5.6 | 灰白色 | 灰黄褐色 | 砂粒・角閃石 | やや良 | | ナデ | |
| 94 | 411 | H－9 | Ⅱ | 浅鉢 | | 4.6 | にぶい黄橙色 | にぶい黄橙色 | 角閃石・砂粒 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 94 | 412 | H－9 | Ⅱ | 浅鉢 | | 4.8 | にぶい橙色 | にぶい橙色 | 角閃石・長石・石英 | やや不良 | ナデ | ナデ | 穿孔あり |
| 94 | 413 | H－9 | Ⅱ | 鉢 | | 4.4 | 褐灰色 | 褐灰色 | 長石・角閃石・滑石 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 94 | 414 | H－9 | Ⅱ | 鉢 | | 4.5 | にぶい黄橙色～にぶい橙色 | にぶい赤褐色 | 石英・黒雲石・砂粒 | やや不良 | | | 外面にスス付着 |
| 94 | 415 | H－9 | Ⅱ | 浅鉢 | | 4.7 | にぶい黄橙色 | 灰黄褐色 | 長石・砂粒 | やや良 | ナデ | ナデ | 穿孔あり |
| 94 | 416 | H－9 | Ⅱ | 深鉢 | | 10.0 | 褐色 | 灰黄褐色 | 小石・砂粒 | やや良 | ナデ | ナデ | |
| 94 | 417 | H－9 | Ⅱ | 深鉢 | | 9.0 | にぶい赤褐色 | にぶい赤褐色 | 砂粒 | 普通 | ナデ | ヨコナデ・指頭圧痕 | |
| 94 | 418 | H－9 | Ⅱ | 深鉢 | | 5.0 | 褐色～黒褐色 | にぶい褐色 | 角閃石・長石・砂粒 | やや不良 | ナデ | ナデ | 底径12.8cm　外底面に餘脊椎骨痕・スス付着　内底面に焦げ付着 |
| 94 | 419 | H－9 | Ⅱ | | | 7.9 | 灰黄褐色 | 黒褐色 | 砂粒・角閃石・赤褐色砂粒 | 普通 | ミガキ | ミガキ | |
| 94 | 420 | H－9 | Ⅱ | 深鉢 | | 5.4 | 褐色 | 褐色～黒色 | 長石・角閃石・滑石 | 普通 | ヘラケズリ後ナデ | ナデ | 底径14.8cm　内面に焦げ付着　底面に餘脊椎骨痕 |
| 94 | 421 | H－9 | Ⅱ | | | 4.0 | 明赤褐色 | 明赤褐色 | 長石・石英 | やや不良 | | | 表面がもろい |
| 94 | 422 | H－9 | Ⅲa | 深鉢 | | 2.3 | にぶい橙色 | にぶい橙色 | 砂粒・角閃石 | やや良 | ナデ・指頭圧痕 | ナデ・指頭圧痕 | 底径12.0cm　底面に餘脊椎骨痕 |
| 95 | 423 | H－9 | Ⅲa | 浅鉢 | | 6.7 | にぶい褐色 | にぶい赤褐色～明赤褐色 | 角閃石・雲母・黒曜石・砂粒 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 95 | 424 | H－9 | Ⅲa | 浅鉢 | | 6.5 | にぶい橙色 | 灰赤色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ナデ | ナデ・指頭圧痕 | |
| 95 | 425 | H－9 | Ⅲa | 鉢 | | 5.9 | 橙色 | 灰赤色 | 砂粒・角閃石・滑石 | 普通 | ナデ | ヨコナデ | |
| 95 | 426 | H－9 | Ⅲa | 鉢 | | 5.1 | にぶい橙色 | 灰白色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 95 | 427 | H－9 | Ⅲ | 深鉢 | | 4.8 | 灰褐色 | にぶい褐色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ナデ | ヨコナデ・指頭圧痕 | |
| 95 | 428 | H－9 | Ⅲ | 深鉢 | | 12.7 | 褐色・灰褐色 | 黒褐色・にぶい褐色 | 砂粒・滑石 | 普通 | ナデ・ケズリ後ナデ | ナデ | |
| 95 | 429 | H－9 | Ⅲ | 深鉢 | | 6.2 | 暗褐色 | 灰褐色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ケズリ | ナデ・指頭圧痕 | |
| 95 | 430 | H－9 | Ⅲa | 深鉢 | 32.0 | 12.7 | 橙色～にぶい赤褐色 | にぶい赤褐色 | 砂粒・角閃石・石英・赤褐色砂粒 | 普通 | ナデ・ケズリ後ナデ・指頭圧痕 | ナデ | |
| 95 | 431 | H－9 | Ⅲ | 鉢 | | 8.2 | 黒褐色・暗褐色 | 褐色・暗褐色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | 条線調整後ナデ・条線調整 | ヨコナデ・ナデ | 内・外面の一部にスス付着 |
| 95 | 432 | H－9 | Ⅲa | 浅鉢 | 16.6 | 11.5 | 褐色～黒褐色 | 暗赤褐色 | 砂粒・滑石 | 普通 | ミガキ | ナデ・指頭圧痕 | 底径10.2cm |
| 95 | 433 | H－9 | Ⅲa | 深鉢 | | 6.8 | 褐色～灰褐色 | 褐色～暗褐色 | 砂粒 | 普通 | ケズリ後ナデ | ナデ | 底径14.2cm　底面に餘脊椎骨痕 |
| 96 | 434 | H－10 | 2号土壙 | 浅鉢 | | 4.2 | にぶい橙色～灰褐色 | にぶい橙色～灰黄褐色 | 角閃石・雲母・石英・砂粒・滑石 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 96 | 435 | H－10 | 2号土壙 | 浅鉢 | | 6.7 | にぶい黄褐色 | にぶい黄橙色～灰黄褐色 | 角閃石・長石・石英 | 普通 | ケズリ・ナデ | ヨコナデ・指頭圧痕 | 外面にスス付着 |
| 96 | 436 | H－10 | 2号土壙 | 深鉢 | | 7.7 | 赤褐色 | 赤褐色 | 長石・石英・角閃石・雲母 | 普通 | ナデ | ナデ | 内面に焦げ付着 |
| 96 | 437 | H－10 | 1号土壙 | | | 4.4 | にぶい褐色～にぶい橙色 | にぶい褐色～にぶい橙色 | 角閃石・砂粒 | 普通 | 指調整後ナデ・指頭圧痕 | ナデ | 底面に木の葉痕 |
| 96 | 438 | H－10 | 2号土壙 | | | 4.3 | 明赤褐色 | 明赤褐色～黒褐色 | 角閃石・滑石・石英・砂粒 | 普通 | ナデ | ナデ | 底面に木の葉痕 |
| 96 | 439 | H－10 | 2号土壙 | 深鉢 | | 10.4 | 褐色・にぶい橙色 | 黒色・褐灰色 | 砂粒・滑石 | 普通 | ヘラケズリ後ナデ・指頭圧痕 | 条線調整後ナデ・指頭圧痕 | 底径12.4cm　底面に餘脊椎骨痕　内面にスス付着 |
| 96 | 440 | H－10 | 2号土壙 | 深鉢 | | 14.5 | 黒褐色・褐色 | にぶい褐色 | 砂粒・角閃石・石英・滑石 | 普通 | ナデ・ケズリ | ナデ | |
| 96 | 441 | H－10 | Ⅱ | 鉢 | | 7.7 | 灰白色 | 褐灰色 | 砂粒・角閃石・小石 | 普通 | | | |

## 第13表　土器観察表(10)

| 図版番号 | 遺物番号 | 出土区 | 層位・遺構 | 器種 | 口径(cm) | 現存高(cm) | 色調 外面 | 色調 内面 | 胎土混入物 | 焼成 | 調整 外面 | 調整 内面 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 96 | 442 | H－10 | Ⅱ | 鉢 | | 12.2 | 灰褐色～にぶい橙色 | 褐灰色 | 砂粒・赤褐色砂粒・角閃石 | 普通 | ケズリ後ナデ | ナデ | |
| 96 | 443 | H－10 | Ⅲa | 深鉢 | 25.8 | 12.7 | 暗褐色・赤褐色 | 黒褐色 | 砂粒・角閃石・滑石 | 普通 | ナデ・ケズリ後ナデ | ナデ | |
| 96 | 444 | H－10 | Ⅲa | 鉢 | | 11.3 | 褐灰色 | にぶい黄褐色 | 滑石・角閃石 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 96 | 445 | H－10 | Ⅴ | 深鉢 | | 9.7 | 赤褐色・褐色 | 暗褐色 | 滑石 | 普通 | ナデ・ケズリ | ナデ | |
| 97 | 446 | H－11 | Ⅱ | 鉢 | | 3.8 | にぶい褐色～黒褐色 | にぶい黄橙色 | 角閃石・石英・砂粒 | 普通 | ナデ | ナデ | 内面に黒斑 |
| 97 | 447 | H－11 | Ⅱ | 鉢 | | 3.5 | にぶい黄橙色 | 灰黄褐色～黒色 | 角閃石・石英・砂粒 | 普通 | | ナデ | 口縁部に赤色顔料 |
| 97 | 448 | Ⅰ－4 | Ⅲ | 深鉢 | | 6.4 | にぶい褐色 | にぶい褐色 | 砂粒・角閃石・滑石 | 普通 | ナデ・指頭圧痕 | ナデ | |
| 97 | 449 | Ⅰ－6 | Ⅴ | 鉢 | | 4.9 | 灰白色 | 灰色 | 滑石 | 普通 | ナデ | ヨコナデ | |
| 97 | 450 | Ⅰ－6 | Ⅳ | 深鉢 | | 7.4 | にぶい赤褐色 | にぶい赤褐色 | 砂粒・滑石・長石・赤褐色砂粒 | 普通 | ナデ | ヨコナデ | |
| 97 | 451 | Ⅰ－6 | 流路2 | 深鉢 | | 8.9 | にぶい赤褐色 | にぶい赤褐色 | 砂粒 | 普通 | ナデ・ハケ目 | ハケ目後ヨコナデ | |
| 97 | 452 | Ⅰ－7 | Ⅳ | 深鉢 | | 11.0 | 橙色 | にぶい褐色～黒色 | 砂粒 | | ナデ・ハケ目 | ヨコナデ | 内面に焦げ・外面にスス付着 |
| 97 | 453 | Ⅰ－7 | Ⅳ | 深鉢 | | 7.9 | にぶい黄褐色～黒褐色 | にぶい橙色 | 砂粒 | 普通 | ヨコナデ・ナデ | ヨコナデ・ハケ状の条痕 | |
| 97 | 454 | Ⅰ－7 | 攪乱 | 深鉢 | | 8.5 | 橙色 | にぶい橙色 | 砂粒 | 普通 | ナデ・ヘラケズリ | ヨコナデ | |
| 97 | 455 | Ⅰ－7 | Ⅲ | 深鉢 | 19.0 | 9.5 | 灰褐色～にぶい褐色 | 灰褐色 | 砂粒・角閃石・滑石 | 普通 | ナデ・粗いハケ目 | ハケナデ後ヨコナデ | |
| 97 | 456 | Ⅰ－7 | Ⅲ | 深鉢 | | 7.9 | にぶい黄褐色 | にぶい橙色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ナデ | ハケ目後ナデ | |
| 98 | 457 | Ⅰ－7 | Ⅲ | 深鉢 | | 10.3 | 赤褐色 | にぶい赤褐色～褐灰色 | 砂粒・金雲母・角閃石 | 普通 | ナデ | ヨコナデ | 内面に焦げ・外面にスス付着 |
| 98 | 458 | Ⅰ－7 | Ⅲ | 深鉢 | | 20.5 | 橙色～褐色 | にぶい橙色 | 砂粒・雲母・長石 | 普通 | ヨコナデ | ヨコナデ | |
| 98 | 459 | Ⅰ－7 | Ⅳ | 深鉢 | | 7.1 | にぶい赤褐色 | にぶい赤褐色～黒褐色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ナデ | ヨコナデ | |
| 98 | 460 | Ⅰ－7 | Ⅳ | 深鉢 | | 6.0 | 赤褐色 | 暗赤褐色 | 砂粒・滑石 | 普通 | ヨコナデ | ヨコナデ | |
| 98 | 461 | Ⅰ－7 | Ⅳ | 深鉢 | | 5.5 | にぶい赤褐色 | にぶい赤褐色 | 滑石 | 普通 | ナデ | ヨコナデ・ケズリ後ヨコナデ | |
| 98 | 462 | Ⅰ－7 | Ⅳb | 深鉢 | 35.2 | 21.0 | 橙色～灰褐色 | 橙色～黒色 | 角閃石・長石・石英・金雲母 | 普通 | ナデ・ケズリ後ナデ | ナデ・指頭圧痕 | |
| 99 | 463 | Ⅰ－7 | Ⅳ | 深鉢 | | 18.5 | にぶい赤褐色～黒褐色 | にぶい赤褐色 | 滑石 | 普通 | ナデ | ヨコナデ | |
| 99 | 464 | Ⅰ－8 | 1号土壙 | 深鉢 | | 13.9 | にぶい橙色～褐灰色 | 灰褐色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ナデ・ヘラケズリ | ハケ目 | |
| 99 | 465 | Ⅰ－8 | 1号土壙 | 深鉢 | | 8.5 | にぶい橙色 | にぶい橙色 | 砂粒・滑石 | 普通 | ナデ | ヨコナデ | |
| 99 | 466 | Ⅰ－8 | 1号土壙 | 深鉢 | | 8.1 | 暗灰黄色 | にぶい橙色 | 砂粒・長石・貝殻小片 | 不良 | ヨコナデ | ハケ目後ヨコナデ | |
| 99 | 467 | Ⅰ－8 | 1号土壙 | 深鉢 | | 12.7 | にぶい黄橙色・褐灰色 | 明赤褐色・褐灰色 | 砂粒 | 普通 | ナデ・指頭圧痕 | 条線調整 | |
| 99 | 468 | Ⅰ－8 | 1号土壙 | 深鉢 | 30.8 | 6.0 | 灰褐色 | にぶい褐色 | 砂粒・角閃石・雲母・滑石粒 | 普通 | ナデ | 指頭圧痕・ナデ | |
| 99 | 469 | Ⅰ－8 | 1号土壙 | 深鉢 | 33.2 | 17.5 | にぶい黄褐色 | にぶい黄橙色 | 砂粒・滑石・角閃石 | 普通 | ナデ | 指頭圧痕・ナデ | |
| 100 | 470 | Ⅰ－8 | 1号土壙 | 深鉢 | 39.6 | 10.8 | にぶい橙色～灰褐色 | にぶい橙色 | 砂粒・角閃石・滑石・赤褐色砂粒 | 普通 | ナデ | ヨコナデ | |
| 100 | 471 | Ⅰ－8 | 1号土壙 | 深鉢 | 35.4 | 15.3 | にぶい赤褐色 | 褐灰色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ヘラミガキ | ヘラミガキ | |
| 100 | 472 | Ⅰ－8 | 1号土壙 | 鉢 | 16.8 | 17.1 | にぶい褐色 | にぶい黄褐色～灰黄褐色 | 角閃石・赤褐色砂粒・貝殻小片 | 普通 | 指調整後ナデ・指頭圧痕 | ナデ・指頭圧痕 | |
| 100 | 473 | Ⅰ－8 | Ⅱ | 深鉢 | 19.7 | 9.4 | 暗赤褐色～赤黒色 | にぶい赤褐色 | 砂粒・黒雲石 | 普通 | ミガキ・ヨコナデ | ヨコナデ | |
| 100 | 474 | Ⅰ－8 | 攪乱 | 深鉢 | | 6.3 | にぶい褐色 | にぶい赤褐色～黒褐色 | 砂粒 | 普通 | ナデ・ミガキ | ヨコナデ | |
| 100 | 475 | Ⅰ－8 | Ⅱ | 深鉢 | | 4.5 | 褐色 | 赤褐色 | 長石・雲母・黒雲石・砂粒 | 普通 | ナデ | ヨコナデ | |
| 100 | 476 | Ⅰ－8 | Ⅱ | 鉢 | | 2.8 | にぶい赤褐色 | にぶい黄褐色 | 長石・角閃石・砂粒 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 100 | 477 | Ⅰ－8 | Ⅱ | 浅鉢 | | 3.8 | 明赤褐色 | 明赤褐色 | 金雲母・滑石 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 100 | 478 | Ⅰ－8 | Ⅱ | 深鉢 | | 4.5 | 橙色 | 褐灰色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ナデ | ヨコナデ | |
| 100 | 479 | Ⅰ－8 | Ⅱ | 浅鉢 | | 7.6 | にぶい黄褐色～灰黄褐色 | 灰黄褐色 | 角閃石・長石・砂粒 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 100 | 480 | Ⅰ－8 | Ⅱ | 深鉢 | | 6.3 | 橙色 | 橙色 | 砂粒・長石・石英 | 普通 | ナデ | ヨコナデ | |
| 101 | 481 | Ⅰ－8 | Ⅱ | 深鉢 | | 7.2 | 橙色～褐灰色 | 橙色～暗灰黄色 | 砂粒 | 普通 | ヨコナデ・ケズリ | ヨコナデ | |
| 101 | 482 | Ⅰ－8 | Ⅱ | 深鉢 | | 6.7 | 褐灰色 | にぶい橙色 | 砂粒・雲母 | 普通 | ナデ・ヨコナデ | ヨコナデ | |
| 101 | 483 | Ⅰ－8 | Ⅱ | 鉢 | | 6.1 | にぶい褐色 | 灰褐色 | 砂粒・石英・長石 | 不良 | ヨコナデ・ヘラケズリ | ヨコナデ・ヘラケズリ | |
| 101 | 484 | Ⅰ－8 | Ⅱ | 深鉢 | | 8.1 | にぶい橙色 | にぶい橙色～褐灰色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ナデ・ケズリ | ヨコナデ | |
| 101 | 485 | Ⅰ－8 | Ⅱ | 深鉢 | | 8.3 | 灰褐色～黒褐色 | 灰黄褐色～褐灰色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ヨコナデ・ケズリ | ハケ目後ヨコナデ | スス付着 |
| 101 | 486 | Ⅰ－8 | Ⅱ | 鉢 | 23.9 | 17.2 | にぶい赤褐色 | にぶい黄橙色 | 砂粒・滑石・雲母・角閃石 | 普通 | ケズリ後ナデ | ケズリ・ナデ | 外面全体に赤色顔料 |
| 101 | 487 | Ⅰ－8 | Ⅱ～Ⅲa | 深鉢 | | 6.7 | 褐灰色 | 灰黄褐色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ヨコナデ・ケズリ | ヨコナデ | |
| 101 | 488 | Ⅰ－8 | Ⅲ | 深鉢 | | 2.3 | にぶい黄橙色～黒色 | にぶい黄橙色～黒褐色 | 角閃石 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 101 | 489 | Ⅰ－8 | Ⅲ | 鉢 | | 4.2 | 黒色・褐色 | 褐灰色 | 長石・石英 | 普通 | ナデ | ナデ | 外面の一部にスス付着 |
| 101 | 490 | Ⅰ－8 | Ⅲ | 深鉢 | | 5.2 | 赤橙色 | 橙色 | 砂粒・滑石・角閃石 | 普通 | ナデ | ヨコナデ | |

## 第14表　土器観察表(11)

| 図版番号 | 遺物番号 | 出土区 | 層位・遺構 | 器種 | 口径(cm) | 現存高(cm) | 色調 | | 胎土混入物 | 焼成 | 調整 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 外面 | 内面 | | | 外面 | 内面 | |
| 101 | 491 | Ⅰ－8 | Ⅲ | 深鉢 | | 4.7 | 褐色・にぶい橙色 | 灰白色・暗灰色 | 滑石・砂粒 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 101 | 492 | Ⅰ－8 | Ⅲ | 深鉢 | | 5.9 | 赤褐色 | にぶい橙色 | 角閃石 | 普通 | ナデ・ケズリ | ヨコナデ・指頭圧痕 | |
| 101 | 493 | Ⅰ－8 | Ⅲ | 深鉢 | | 5.5 | にぶい赤褐色 | にぶい赤褐色・灰褐色 | 角閃石 | 普通 | ミガキ | ミガキ | |
| 101 | 494 | Ⅰ－8 | Ⅲ | 深鉢 | | 6.3 | 明褐色・褐灰色 | にぶい黄橙色・灰黄褐色 | 角閃石・滑石 | 普通 | ナデ・ケズリ後ナデ | ヨコナデ | |
| 101 | 495 | Ⅰ－8 | Ⅲ | 深鉢 | | 5.6 | 背黒色～橙色 | にぶい黄橙色～橙色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ナデ・ケズリ | ナデ | |
| 101 | 496 | Ⅰ－8 | Ⅲ | 深鉢 | | 6.1 | にぶい橙色 | 橙色 | 角閃石・砂粒 | 普通 | ナデ・ケズリ | ナデ | |
| 101 | 497 | Ⅰ－8 | Ⅲ | 深鉢 | | 6.2 | 橙色 | 赤色 | 滑石・角閃石・砂粒 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 101 | 498 | Ⅰ－8 | Ⅲ | 深鉢 | | 5.4 | 橙色～赤褐色 | 橙色 | 滑石・砂粒・角閃石 | 普通 | ナデ・ケズリ | ナデ | |
| 101 | 499 | Ⅰ－8 | Ⅲ | 深鉢 | | 6.4 | 黒色 | 黒褐色・明赤褐色 | 滑石 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 101 | 500 | Ⅰ－8 | Ⅲ | 深鉢 | | 5.1 | にぶい橙色～黒色 | にぶい赤褐色 | 砂粒・滑石・角閃石 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 101 | 501 | Ⅰ－8 | Ⅲ | 深鉢 | | 5.4 | 黒褐色 | 暗褐色 | 砂粒 | やや良 | ナデ | ナデ | |
| 102 | 502 | Ⅰ－8 | Ⅲ | 深鉢 | | 6.5 | にぶい褐色 | にぶい褐色 | 砂粒・滑石・角閃石 | 普通 | ヨコナデ | ヨコナデ | |
| 102 | 503 | Ⅰ－8 | Ⅲ | 鉢 | | 5.0 | 暗褐色・褐色 | 暗褐色 | 砂粒・角閃石・滑石 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 102 | 504 | Ⅰ－8 | Ⅲ | 鉢 | | 4.9 | 橙色 | 暗褐色 | 角閃石・滑石 | 普通 | ナデ | ヨコナデ | |
| 102 | 505 | Ⅰ－8 | Ⅲ | 鉢 | | 5.5 | 橙色・暗褐色 | 灰褐色 | 砂粒 | 普通 | ミガキ | ミガキ | |
| 102 | 506 | Ⅰ－8 | Ⅲ | 浅鉢 | | 8.0 | にぶい赤褐色 | にぶい赤褐色～灰黄褐色 | 石英・角閃石・砂粒 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 102 | 507 | Ⅰ－8 | Ⅲ | 深鉢 | | 7.9 | 黒褐色 | 褐灰色 | 砂粒・黒耀石・滑石 | 普通 | ナデ・ケズリ後ナデ | ナデ | |
| 102 | 508 | Ⅰ－8 | Ⅲ | 深鉢 | | 8.8 | 橙色 | にぶい赤褐色・黒色 | 砂粒 | 普通 | ケズリ後ナデ | ナデ | |
| 102 | 509 | Ⅰ－8 | Ⅲ | 深鉢 | | 6.5 | 黒褐色 | 橙色 | 角閃石 | 普通 | ナデ・ケズリ | ナデ | |
| 102 | 510 | Ⅰ－8 | Ⅲ | 深鉢 | | 7.8 | にぶい赤褐色 | にぶい橙色 | 砂粒・長石・石英・金雲母 | 普通 | ヨコナデ | ヨコナデ | 外面にスス付着 |
| 102 | 511 | Ⅰ－8 | Ⅲ | 浅鉢 | | 8.1 | 黒褐色 | にぶい橙色 | 砂粒・黒耀石・滑石 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 102 | 512 | Ⅰ－8 | Ⅲ | 深鉢 | | 7.7 | にぶい橙色～褐灰色 | 褐灰色 | 滑石 | 普通 | ヨコナデ | | |
| 102 | 513 | Ⅰ－8 | Ⅲ | 深鉢 | | 9.5 | にぶい赤褐色～灰赤色 | にぶい赤褐色～赤灰色 | 砂粒・滑石 | 普通 | ナデ・条痕の上をヨコナデ | ハケによるヨコナデ | |
| 102 | 514 | Ⅰ－8 | Ⅲ | 深鉢 | | 8.5 | 褐灰色 | 褐灰色 | 砂粒 | 普通 | ヨコナデ・貝殻条痕 | ハケ目後ヨコナデ | 外面にスス付着 |
| 102 | 515 | Ⅰ－8 | Ⅲ | 鉢 | | 5.8 | 黒褐色 | 灰褐色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ナデ・ケズリ | ナデ | |
| 102 | 516 | Ⅰ－8 | Ⅲ | 深鉢 | | 10.3 | にぶい橙色 | 灰褐色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ナデ・ケズリ | ヨコナデ | |
| 102 | 517 | Ⅰ－8 | Ⅲ | 深鉢 | | 7.8 | にぶい赤褐色 | 褐灰色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ナデ | ヨコナデ | |
| 102 | 518 | Ⅰ－8 | Ⅲ | 台付鉢 | 17.3 | 13.8 | 赤褐色 | にぶい赤褐色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ケズリ後ナデ | 工具痕・ナデ | 底径10.1cm |
| 103 | 519 | Ⅰ－8 | Ⅲ | 高坏 | 21.5 | 6.5 | にぶい褐色～褐灰色 | にぶい橙色 | 砂粒・角閃石 | やや不良 | ミガキ | ヨコナデ・ケズリ | 磨消縄文土器 |
| 103 | 520 | Ⅰ－8 | Ⅲ | 深鉢 | 18.5 | 14.1 | にぶい褐色 | にぶい橙色 | 砂粒・雲母・滑石・角閃石 | 普通 | ケズリ後ナデ | 指頭圧痕・工具痕・ナデ | |
| 103 | 521 | Ⅰ－8 | Ⅲ | 浅鉢 | 22.6 | 5.2 | にぶい橙色 | にぶい橙色 | 砂粒・雲母 | 普通 | ヘラケズリ後ナデ | ミガキ | |
| 103 | 522 | Ⅰ－8 | Ⅲ | 鉢 | 19.8 | 10.1 | にぶい赤褐色～灰褐色 | にぶい赤褐色～黒褐色 | 砂粒・滑石 | 普通 | ミガキ | ヘラケズリ | 橋状把手が欠損・内面に焦げ・外面にスス付着 |
| 103 | 523 | Ⅰ－8 | Ⅲ | 深鉢 | | 9.6 | 褐色 | 明褐色 | 砂粒・滑石・角閃石・赤褐色砂粒 | 普通 | ナデ | 指頭圧痕・ナデ | |
| 103 | 524 | Ⅰ－8 | 不明 | 深鉢 | | 5.9 | 褐色 | 褐色～黒褐色 | 角閃石・長石・砂粒 | 普通 | ナデ | ナデ・指頭圧痕 | |
| 103 | 525 | Ⅰ－8 | 不明 | 深鉢 | | 10.2 | 灰褐色 | にぶい赤褐色 | 砂粒・角閃石・赤褐色砂粒 | 普通 | ナデ | ヨコナデ | |
| 103 | 526 | Ⅰ－9 | Ⅱ～Ⅲａ | 深鉢 | | 12.2 | 明赤褐色～黒褐色 | 赤褐色～にぶい赤褐色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ナデ・ヘラケズリ | ヨコナデ | |
| 103 | 527 | Ⅰ－9 | 1号土壙 | 深鉢 | | 10.3 | 橙色 | 橙色・黒色 | 角閃石 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 104 | 528 | Ⅰ－9 | 1号土壙 | 深鉢 | | 13.3 | にぶい黄橙色 | にぶい黄橙色 | 砂粒・滑石 | 普通 | ナデ | 指頭圧痕・ナデ | |
| 104 | 529 | Ⅰ－9 | Ⅱ | 深鉢 | | 6.5 | にぶい褐色 | 橙色～灰褐色 | 砂粒・長石・石英 | 普通 | ナデ・ケズリ後ナデ | ヨコナデ | |
| 104 | 530 | Ⅰ－9 | 1号土壙 | 深鉢 | | 11.7 | にぶい褐色～褐灰色 | にぶい褐色～褐灰色 | 砂粒・角閃石・雲母 | 普通 | ナデ・ケズリ | ヨコナデ | |
| 104 | 531 | Ⅰ－9 | 1号土壙 | 深鉢 | | 6.0 | 赤色・黒褐色 | 橙色 | 滑石 | 普通 | ナデ | ナデ・指頭圧痕 | |
| 104 | 532 | Ⅰ－9 | 1号土壙 | 深鉢 | | 14.4 | 橙色～褐灰色 | 橙色～にぶい褐色 | 砂粒・滑石 | 普通 | ナデ・ケズリ | ハケ目 | |
| 104 | 533 | Ⅰ－9 | 1号土壙 | 深鉢 | 26.4 | 15.3 | 明赤褐色 | 明赤褐色 | 砂粒・滑石 | 普通 | ケズリ後ナデ | ケズリ後ナデ | |
| 104 | 534 | Ⅰ－9 | 1号土壙 | 深鉢 | 31.1 | 14.5 | 灰褐色～にぶい橙色 | 明褐灰色～にぶい橙色 | 砂粒・滑石 | 普通 | ナデ | 細い条線の工具痕・指頭圧痕 | |
| 105 | 535 | Ⅰ－9 | 攪乱 | 深鉢 | | 4.2 | にぶい橙色 | にぶい橙色 | 砂粒・長石 | 普通 | ナデ | ヨコナデ | |
| 105 | 536 | Ⅰ－9 | Ⅱ～Ⅲａ | 深鉢 | | 5.8 | にぶい赤褐色～黒色 | にぶい赤褐色～黒色 | 砂粒 | 普通 | ナデ・ケズリ | ミガキ | 補修孔あり |
| 105 | 537 | Ⅰ－9 | Ⅲ | 深鉢 | 21.3 | 9.5 | にぶい黄褐色 | 灰黄褐色 | 砂粒・滑石・角閃石 | 普通 | ケズリ後粗いナデ | ナデ | |
| 105 | 538 | Ⅰ－9 | Ⅲ | 深鉢 | 35.4 | 13.7 | 明褐色 | 明赤褐色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ケズリ後ナデ | 工具痕・ナデ | |
| 105 | 539 | Ⅰ－9 | Ⅱ～Ⅲａ | 深鉢 | | 10.8 | にぶい褐色 | にぶい橙色 | 砂粒 | 普通 | ヨコナデ | ヨコナデ | |

## 第15表　土器観察表(12)

| 図版番号 | 遺物番号 | 出土区 | 層位・遺構 | 器種 | 口径(cm) | 現存高(cm) | 色調 | | 胎土混入物 | 焼成 | 調整 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 外面 | 内面 | | | 外面 | 内面 | |
| 105 | 540 | Ⅰ－9 | Ⅲ | 深鉢 | | 12.5 | にぶい橙色 | にぶい赤褐色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ナデ・ミガキ・ヘラケズリ | ミガキ | |
| 105 | 541 | Ⅰ－9 | Ⅲ | 深鉢 | | 12.4 | にぶい赤褐色～灰褐色 | にぶい橙色 | 砂粒・貝殻小片・赤褐色砂粒・角閃石 | 普通 | ナデ | ヨコナデ | |
| 105 | 542 | Ⅰ－9 | Ⅲ | 深鉢 | | 6.9 | 橙色～黒褐色 | 橙色～暗灰色 | 滑石・角閃石 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 105 | 543 | Ⅰ－9 | Ⅲ | 深鉢 | | 8.0 | にぶい赤褐色・明赤褐色 | にぶい褐色 | 砂粒・角閃石・滑石 | 普通 | ケズリ後ナデ | ケズリ後ヨコナデ | |
| 105 | 544 | Ⅰ－9 | Ⅲ | 浅鉢 | | 7.8 | 明赤褐色～灰褐色 | にぶい赤褐色 | 砂粒・角閃石・滑石・赤褐色砂粒 | やや不良 | ヨコナデ | ヨコナデ・ケズリ・指頭圧痕 | |
| 106 | 545 | Ⅰ－9 | Ⅲ | 浅鉢 | | 5.9 | 明赤褐色 | 橙色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ナデ・条痕 | ヨコナデ | |
| 106 | 546 | Ⅰ－9 | Ⅳ | 深鉢 | | 5.3 | にぶい褐色～灰褐色 | 灰褐色～褐灰色 | 砂粒・金雲母・長石 | 普通 | ミガキ | ヨコナデ・ややミガキ | |
| 106 | 547 | Ⅰ－9 | Ⅲ | 深鉢 | | 14.7 | にぶい橙色 | 褐灰色 | 砂粒・滑石 | やや不良 | ヨコナデ・ナデ・ケズリ | ヨコナデ | 内面に焦げ付着 |
| 106 | 548 | J－6 | 1号土壙 | 深鉢 | | 18.4 | 黒褐色 | にぶい赤褐色 | 砂粒・滑石 | 普通 | ヨコナデ | ヨコナデ | |
| 106 | 549 | J－6 | 1号土壙 | 浅鉢 | | 5.0 | にぶい赤褐色 | にぶい褐色 | 砂粒 | 普通 | 条痕調整 | ナデ | |
| 106 | 550 | J－6 | 2号土壙 | 深鉢 | | 7.2 | 灰褐色 | にぶい橙色 | 砂粒・角閃石・滑石・赤褐色砂粒 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 106 | 551 | J－6 | 1号土壙 | 深鉢 | 30.0 | 12.9 | にぶい橙色 | にぶい橙色 | 砂粒・滑石 | 普通 | ヨコナデ | ヨコナデ | |
| 106 | 552 | J－6 | 1号土壙 | 深鉢 | | 13.9 | 灰褐色 | 明赤褐色 | 砂粒・雲母・滑石・赤褐色砂粒 | 普通 | ナデ | ナデ・指頭圧痕 | |
| 107 | 553 | J－6 | 3号土壙 | 鉢 | | 10.1 | にぶい橙色～褐灰色 | 灰褐色 | 砂粒 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 107 | 554 | J－6 | 3号土壙 | 鉢 | | 9.3 | にぶい褐色 | にぶい褐色～褐灰色 | 砂粒 | 普通 | ナデ | ヨコナデ | |
| 107 | 555 | J－6 | 3号土壙 | 深鉢 | | 7.1 | にぶい赤褐色 | 灰黄褐色～褐灰色 | 砂粒 | 普通 | ナデ | ナデ・指頭圧痕 | |
| 107 | 556 | J－6 | 3号土壙 | 深鉢 | | 20.2 | にぶい橙色～褐灰色 | にぶい黄褐色～褐灰色 | 砂粒・雲母・角閃石・長石 | 普通 | ナデ・ケズリ | 条線調整・指頭圧痕 | 胴部最大径30.6cm |
| 107 | 557 | J－6 | 3号土壙 | 深鉢 | | 4.0 | 褐灰色 | にぶい褐色 | 滑石 | 普通 | ナデ・ケズリ | ケズリ後ナデ | 焼成後の穿孔 |
| 107 | 558 | J－6 | 3号土壙 | 深鉢 | | 3.3 | にぶい黄橙色 | | 砂粒・滑石 | 普通 | ナデ・指頭圧痕 | ナデ・指頭圧痕・工具痕 | 底面に鎌脊椎骨痕 |
| 107 | 559 | J－6 | 流路3 | 深鉢 | | 5.2 | 灰黄褐色 | 灰黄褐色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 107 | 560 | J－6 | 流路3 | 深鉢 | | 7.4 | 褐灰色 | 灰褐色 | 砂粒・角閃石・長石 | やや不良 | ナデ・ケズリ後ナデ | ナデ | |
| 107 | 561 | J－6 | Ⅴ | 深鉢 | | 11.0 | にぶい褐色 | 黒褐色 | 砂粒・雲母・角閃石 | やや不良 | ナデ・ケズリ | ナデ | |
| 107 | 562 | J－6 | Ⅴ | 深鉢 | | 18.0 | 灰黄褐色 | 灰黄褐色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | 粗いヨコナデ | ナデ・ケズリ後ナデ | |
| 108 | 563 | J－6 | Ⅴ | 深鉢 | | 13.9 | 褐灰色 | 褐灰色 | 砂粒 | 普通 | ナデ・ケズリ後ナデ | ナデ | |
| 108 | 564 | J－6 | Ⅴ | 深鉢 | | 21.0 | にぶい橙色～灰褐色 | にぶい褐色 | 砂粒・角閃石・赤褐色砂粒 | 普通 | ナデ・ケズリ | ナデ・ケズリ | |
| 108 | 565 | J－7 | 1号土壙 | 深鉢 | | 9.9 | 灰黄褐色～黒褐色 | 灰黄褐色～黒褐色 | 光沢のある石屑 | 普通 | ナデ | ヨコナデ | |
| 108 | 566 | J－7 | Ⅳ | 深鉢 | | 6.5 | にぶい黄橙色 | にぶい黄橙色 | 砂粒・赤褐色砂粒 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 108 | 567 | J－7 | 1号土壙 | 深鉢 | | 9.4 | 明赤褐色 | にぶい赤褐色～黒褐色 | 砂粒・滑石 | 普通 | ナデ | ヨコナデ | |
| 108 | 568 | J－7 | 1号土壙 | 深鉢 | | 9.5 | 明赤褐色 | にぶい褐色～褐色 | 砂粒・滑石・角閃石・赤褐色砂粒 | 普通 | 工具痕・ナデ | 工具痕・ナデ | 底径12.1cm |
| 108 | 569 | J－7 | 1号土壙 | 鉢 | | 9.2 | 橙色～にぶい赤褐色 | 橙色～明褐灰色 | 砂粒・赤褐色粒・滑石粒・角閃石 | 普通 | 工具痕・ナデ | ヘラ条線調整後ナデ | 底径13.2cm |
| 108 | 570 | J－7 | 攪乱 | 深鉢 | | 7.2 | 灰褐色 | 灰褐色 | 滑石 | 普通 | | ヨコナデ | |
| 108 | 571 | J－7 | 攪乱 | 深鉢 | | 5.4 | にぶい黄褐色 | 灰黄褐色 | 砂粒 | 普通 | ヨコナデ | ヨコナデ | |
| 108 | 572 | J－8 | 攪乱 | 深鉢 | | 6.0 | にぶい橙色 | にぶい橙色 | 砂粒・長石 | 普通 | ナデ・ミガキ | ナデ | |
| 108 | 573 | J－8 | Ⅱ | 深鉢 | 19.0 | 4.8 | 明赤褐色～にぶい橙色 | 明赤褐色～灰褐色 | 砂粒・雲母・石英 | 普通 | ヨコナデ | ヨコナデ | |
| 109 | 574 | J－8 | Ⅲ | 深鉢 | 24.0 | 15.7 | にぶい橙色・灰黄褐色 | にぶい褐色 | 砂粒・角閃石・金雲母 | 普通 | ナデ | ヨコナデ・指頭圧痕 | 内・外面に一部スス付着 |
| 109 | 575 | J－8 | Ⅲa | 深鉢 | | 10.1 | 赤褐色 | 赤褐色 | 砂粒 | 普通 | ナデ・ミガキ | ナデ | |
| 109 | 576 | J－8 | Ⅲ | 深鉢 | | 9.0 | 暗赤褐色 | 赤褐色 | 砂粒 | 普通 | ナデ・ハケ状工具による条痕 | ハケ状工具によるナデ後ヨコナデ | |
| 109 | 577 | J－8 | Ⅲ | 深鉢 | | 12.8 | にぶい赤褐色 | にぶい赤褐色～灰褐色 | 滑石 | 普通 | ナデ | ケズリ後ナデ | |
| 109 | 578 | K－6 | 1号土壙 | 深鉢 | | 21.3 | にぶい褐色 | 暗褐色 | 黒雲母・角閃石・滑石・長石 | 普通 | ナデ・指頭圧痕 | ナデ | |
| 109 | 579 | 不明 | 不明 | 深鉢 | | 15.2 | にぶい橙色 | にぶい橙色 | 砂粒・滑石 | 普通 | ケズリ後ナデ | 指頭圧痕・ケズリ・ヘラ条線調整後ナデ | |
| 109 | 580 | 不明 | Ⅲ | 突起 | | 9.2 | にぶい橙色～にぶい褐色 | にぶい橙色 | 砂粒・滑石 | 普通 | ヘラ条痕調整・ナデ | ナデ | |
| 110 | 581 | 不明 | 不明 | 深鉢 | | 14.0 | 褐灰色 | にぶい黄橙色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ケズリ後ナデ | 一部工具痕・ナデ | |
| 110 | 582 | 不明 | 不明 | 浅鉢 | 23.9 | 14.2 | にぶい橙色 | にぶい橙色 | 砂粒・赤褐色砂粒 | 普通 | ナデ | 工具痕・ナデ | 底径15.7cm |
| 110 | 583 | 不明 | 不明 | 鉢 | 33.0 | 14.9 | 橙色～にぶい褐色 | にぶい橙色～褐灰色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ケズリ後ナデ | 工具痕・ナデ | 粘土紐貼付文 |
| 110 | 584 | 不明 | 不明 | 浅鉢 | | 4.3 | 明赤褐色 | 明赤褐色～暗灰黄色 | 角閃石・石英・金雲母 | 普通 | ナデ | ナデ | |
| 110 | 585 | 不明 | 不明 | 深鉢 | | 9.3 | 灰褐色 | 褐灰色 | 砂粒・赤褐色砂粒 | 普通 | ナデ | ヨコナデ | |
| 110 | 586 | 不明 | 不明 | 深鉢 | 28.8 | 9.4 | 暗赤褐色 | 橙色 | 砂粒・角閃石 | 普通 | ケズリ | ヘラ条痕調整後ナデ | |
| 110 | 587 | 不明 | 不明 | 鉢 | 22.8 | 10.9 | にぶい褐色～橙色 | にぶい褐色～橙色 | 砂粒・雲母 | 普通 | ミガキ | ミガキ | 磨消縄文土器 |
| 110 | 588 | 不明 | 不明 | 深鉢 | | 7.8 | にぶい赤褐色 | 明赤褐色 | 砂粒・滑石・赤褐色砂粒 | 普通 | ハケ状工具によるナデ後ヨコナデ | ミガキ | |

## ３．土製品

土製品は、土版、土器片錘、有孔土器片、円形土器片に分類される。

**（１）土版**（第111図１）

土版は、１点出土しており、約半分程を欠損している。表面はナデによりなめらかにし、先端の丸い施文具で２本の凹線を組み合わせた巴形渦巻文を施している。おそらく欠損した部分にも同様な渦巻文があったと考えられ、中央には両渦巻文を結んでいたとみられる凹線による短直線文５本が確認できる。裏面は無文でケズリのままの面を残している。幅6.2cm、現存長7.5cmを測る。

文様から阿高式土器に伴う土版と考えられる。

**（２）土器片錘**（第111図２～５）

切目土錘が４点出土している。２、３は、土器片の周囲を打ち欠きにより整形し、両端にすり切りで溝を入れている。４、５は、周囲を打ち欠いた後やや研磨し、両端にすり切りで溝を入れており、５は中央に大きな孔もあけている。

このうち４は、胎土に滑石を混入し、凹線文を施した土器片を使用しており、阿高式土器の破片が使用されていることがわかる。しかし、出土した層位でみるとこれらは南福寺式土器あるいは出水式土器に伴う可能性が強い。

**（３）有孔土器片**（第111図６～29）

有孔土器片は、24点出土している。土器片の周囲を打ち欠いて円形に整形し、中央に両面からの回転穿孔により孔をあけている。全体の大きさは、径3.5～５cmのものが多いが、径約７cmを測る大型品（27）もある。28と29は、穿孔が途中まで段階の未成品である。

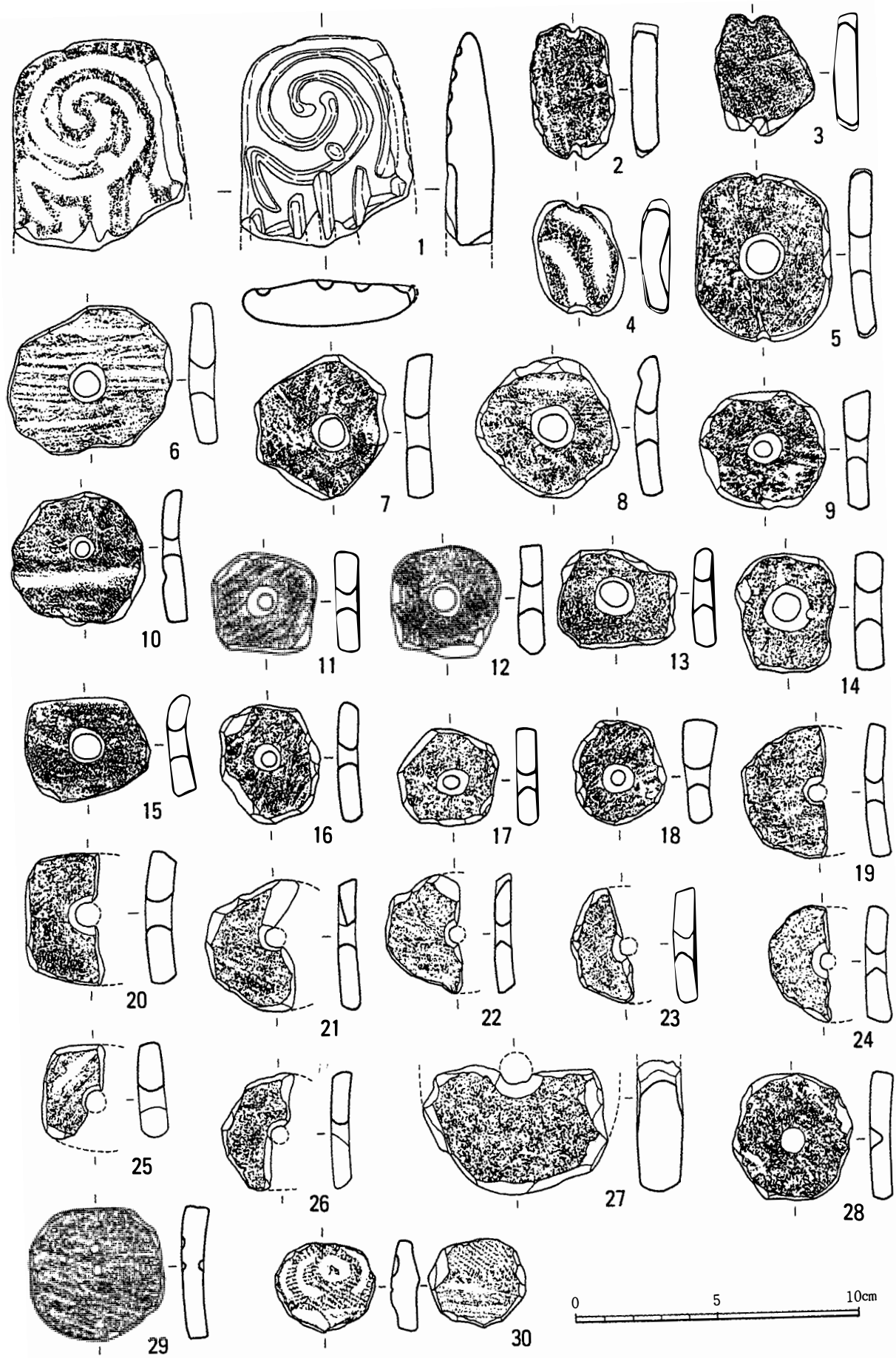
この有孔土器片は、５の有孔土器片錘と形態的に類似しており、土器片錘としての使用も可能である。また、紡錘車である可能性もある。識者の判断に委ねたい。

有孔土器片錘は、Ⅲ層より上から出土しており、南福寺式土器あるいは出水式土器に伴う可能性が高い。

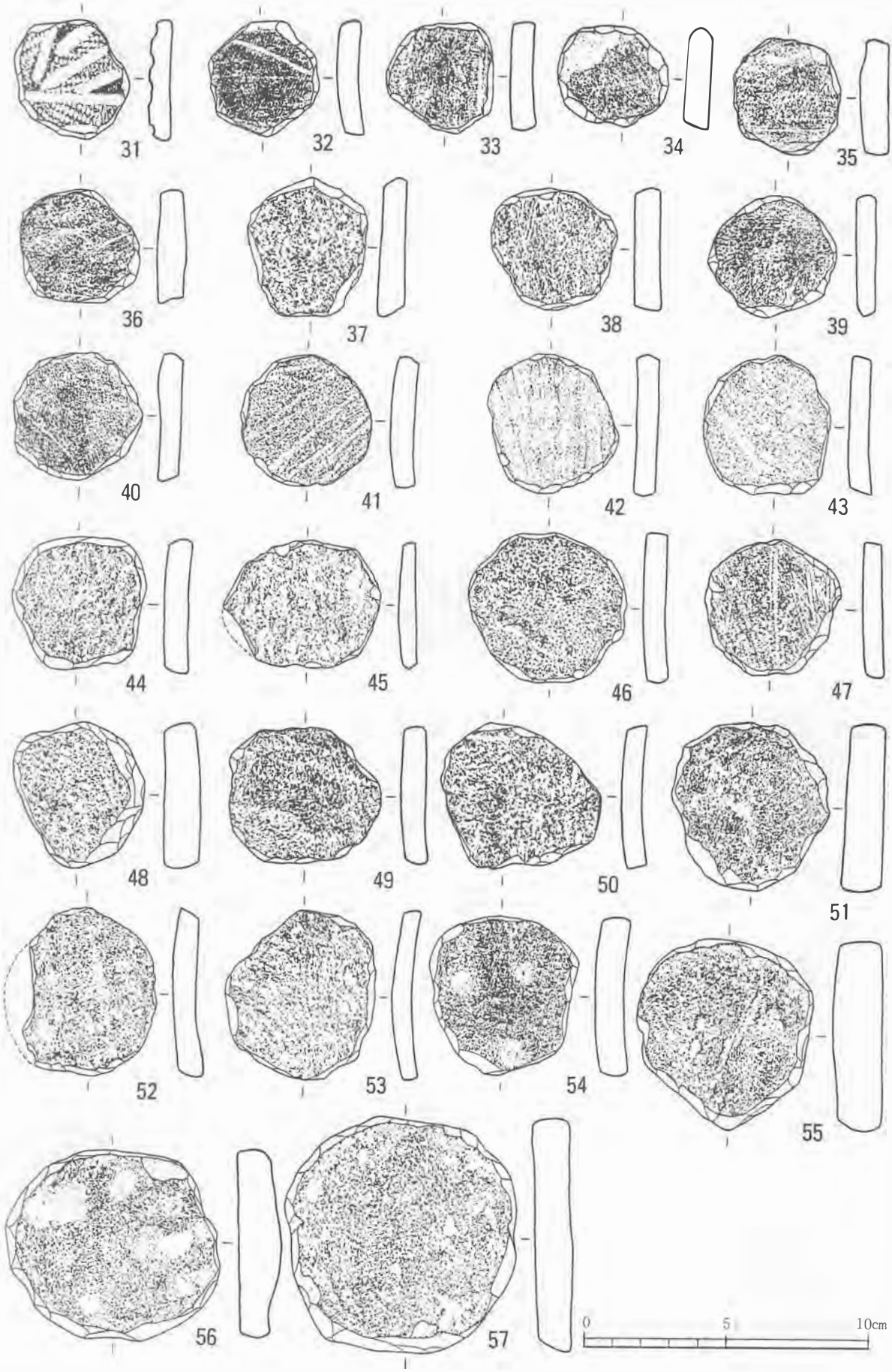
**（４）円形土器片**（第111図30、第112図31～57）

円形土器片は、28点出土している。土器片の周囲を打ち欠いて円形に整形しただけで、その他の加工はみられない。全体の大きさは、径3.5cm程の小型のものから径8.2cmの大型のものまであり、機能は不明である。数が多いので、形態の類似から有孔土器片の未成品と考えることも難しい。しかし、孔の有無にかかわらず同一用途に使われた可能性も考えられる。

これらのうち30と31は、後期前葉の磨消縄文が施された土器片が使用されており、他の資料もほぼⅢ層より上から出土しているので、後期前葉の南福寺式土器ないし出水式土器に伴う可能性が強い。




第111図　土製品実測・拓影図（１）［１.土版，２～５.土器片錘，６～29.有孔土器片，30.円形土器片］




**第112図　土製品実測・拓影図（2）**［31～57 円形土器片］

## 第16表　土製品観察表

| 図版番号 | 遺物番号 | 出土区 | 層位 遺構 | 種別 | 縦 (mm) | 横 (mm) | 厚さ (mm) | 孔径 (mm) | 重さ (g) | 色調 表面 | 色調 裏面 | 胎土 混入物 | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 111 | 1 | F－10 | 2号土壙 | 土版 | 75 | 62 | 17 | | 80.0 | 橙色 | 橙色 | 滑石微量 | 良 | |
| 〃 | 2 | C－9 | Ⅲ | 土器片錘 | 48 | 29 | 9 | | 18.3 | 褐灰色 | 褐灰色 | 雲母・その他微量 | 良 | |
| 〃 | 3 | H－10 | 2号土壙 | 土器片錘 | 43 | 33 | 8 | | 15.6 | 橙色 | にぶい褐色 | 角閃石・雲母少量 | 良 | 凹線文土器片 |
| 〃 | 4 | 不明 | 撹乱 | 土器片錘 | 43 | 30 | 10 | | 17.0 | にぶい褐色 | 灰褐色 | 滑石粉多量 | 良 | |
| 〃 | 5 | G－9 | Ⅱ | 土器片錘 | 60 | 48 | 8 | 12 | 34.7 | 褐灰色 | 褐灰色 | 長石・角閃石・その他 | 良 | 有孔切目土錘 |
| 〃 | 6 | E－9 | Ⅰ | 有孔土器片 | 52 | 59 | 9 | 9 | 31.5 | 赤褐色 | にぶい橙色 | 長石・角閃石微量 | 良 | |
| 〃 | 7 | G－8 | Ⅱ～Ⅲ | 有孔土器片 | 52 | 47 | 9 | 9 | 26.3 | にぶい褐色 | にぶい褐色 | 長石・石英・角閃石・その他微量 | 良 | |
| 〃 | 8 | G－8 | Ⅱ～Ⅲ | 有孔土器片 | 50 | 51 | 8 | 9 | 23.6 | にぶい褐色 | 褐灰色 | 長石・石英・角閃石微量 | 良 | |
| 〃 | 9 | C－10 | Ⅱ | 有孔土器片 | 42 | 44 | 9 | 5 | 21.5 | にぶい赤褐 | 褐灰色 | 長石・角閃石・その他微量 | 良 | |
| 〃 | 10 | E－7 | 不明 | 有孔土器片 | 48 | 47 | 8 | 5 | 19.5 | にぶい赤褐 | にぶい赤褐色 | 長石・石英・角閃石・その他微量 | 良 | 孔がやや偏っている |
| 〃 | 11 | H－8 | Ⅲ | 有孔土器片 | 35 | 37 | 8 | 5 | 15.0 | にぶい赤褐 | にぶい赤褐色 | 長石・角閃石・その他微量 | 良 | |
| 〃 | 12 | E－9 | Ⅱ | 有孔土器片 | 40 | 39 | 9 | 8 | 17.4 | 赤褐色 | 赤褐色 | 長石・石英・角閃石・その他微量 | 良 | |
| 〃 | 13 | F－8 | Ⅲ | 有孔土器片 | 36 | 41 | 8 | 8 | 14.3 | にぶい赤褐 | にぶい赤褐色 | 長石・角閃石・その他微量 | 良 | |
| 〃 | 14 | F－9 | Ⅱ | 有孔土器片 | 42 | 35 | 10 | 9 | 17.4 | にぶい赤褐 | にぶい赤褐色 | 長石・その他 | 良 | |
| 〃 | 15 | E－9 | Ⅱ | 有孔土器片 | 37 | 44 | 8 | 9 | 16.1 | にぶい褐色 | 褐灰色 | 長石・角閃石少量 | 良 | 口縁部破片 |
| 〃 | 16 | F－8 | Ⅰ | 有孔土器片 | 43 | 36 | 8 | 5 | 12.4 | 明赤褐色 | 明赤褐色 | 長石・石英 | 良 | |
| 〃 | 17 | F－9 | Ⅱ | 有孔土器片 | 35 | 36 | 7 | 5 | 10.4 | 褐灰色 | 褐灰色 | 長石・石英・角閃石・その他微量 | 良 | |
| 〃 | 18 | E－8 | Ⅱ | 有孔土器片 | 38 | 32 | 12 | 5 | 15.6 | にぶい赤褐 | 灰褐色 | 長石・石英・角閃石微量 | 良 | |
| 〃 | 19 | E－8 | Ⅱ | 有孔土器片 | 48 | | 6 | 6 | 11.3 | 赤褐色 | にぶい赤褐色 | 長石・石英・角閃石微量 | 良 | 欠損 |
| 〃 | 20 | F－9 | Ⅱ | 有孔土器片 | 49 | | 10 | 9 | 15.4 | にぶい赤褐 | にぶい赤褐色 | 長石・石英・角閃石・その他 | 良 | 欠損 |
| 〃 | 21 | F－10 | Ⅱ | 有孔土器片 | 47 | | 7 | 7 | 11.4 | 灰褐色 | 明褐灰色 | 長石・石英微量 | やや不良 | 欠損 |
| 〃 | 22 | F－8 | Ⅱ | 有孔土器片 | 43 | | 6 | 6 | 8.8 | 灰褐色 | にぶい橙色 | 長石・石英・角閃石・その他微量 | 良 | 欠損 |
| 〃 | 23 | C－10 | Ⅱ | 有孔土器片 | 42 | | 7 | 6 | 6.9 | 灰黄色 | 灰黄色 | 長石・角閃石微量 | 良 | 欠損 |
| 〃 | 24 | F－9 | Ⅱ | 有孔土器片 | 41 | | 9 | 5 | 8.5 | 灰褐色 | にぶい褐色 | 長石・石英・角閃石微量 | 良 | 欠損 |
| 〃 | 25 | F－9 | Ⅱ | 有孔土器片 | 33 | | 10 | 7 | 7.3 | 灰褐色 | 灰褐色 | 長石・石英・角閃石微量 | 良 | 欠損 |
| 〃 | 26 | G－8 | Ⅱ | 有孔土器片 | 41 | | 7 | 6 | 6.9 | 灰黄褐色 | にぶい黄褐色 | 長石・石英・角閃石 | 良 | 欠損 |
| 〃 | 27 | G－8 | Ⅱ | 有孔土器片 | | 66 | 16 | 11 | 53.1 | 灰黄色 | 暗灰黄色 | 長石・石英・角閃石 | 良 | 欠損・底部破片 |
| 〃 | 28 | F－10 | Ⅱ | 有孔土器片 | 45 | 42 | 8 | | 19.5 | 黄灰色 | 灰黄色 | 長石・石英・角閃石 | やや不良 | 未成品 |
| 〃 | 29 | F－11 | Ⅲ | 有孔土器片 | 47 | 47 | 8 | | 24.7 | にぶい橙色 | 明褐灰色 | 長石・石英・角閃石 | 良 | 未成品 |
| 〃 | 30 | G－7 | 撹乱 | 円形土器片 | 33 | 35 | 10 | | 13.2 | 灰褐色 | 黒色 | 長石・角閃石・その他微量 | 良 | 磨消縄文土器片 |
| 112 | 31 | E－8 | Ⅲa | 円形土器片 | 42 | 40 | 8 | | 14.4 | にぶい黄橙 | 灰黄褐色 | 長石・石英・角閃石少量 | やや不良 | 磨消縄文土器片 |
| 〃 | 32 | E－8 | Ⅱ | 円形土器片 | 41 | 39 | 8 | | 16.0 | 褐灰色 | 灰褐色 | 長石・石英・角閃石 | 良 | |
| 〃 | 33 | G－6 | Ⅲ | 円形土器片 | 38 | 38 | 8 | | 16.9 | にぶい赤褐 | にぶい赤褐色 | 長石・角閃石・その他 | 良 | |
| 〃 | 34 | E－8 | Ⅱ | 円形土器片 | 35 | 39 | 9 | | 14.3 | にぶい赤褐 | 褐灰色 | 長石・石英・角閃石少量 | やや不良 | |
| 〃 | 35 | E－8 | Ⅱ | 円形土器片 | 41 | 37 | 10 | | 20.8 | 褐灰色 | 灰褐色 | 角閃石微量 | 良 | |
| 〃 | 36 | G－7 | Ⅲ | 円形土器片 | 40 | 42 | 10 | | 20.9 | にぶい褐色 | にぶい褐色 | 長石・角閃石・その他微量 | 良 | |
| 〃 | 37 | H－8 | Ⅲ | 円形土器片 | 48 | 42 | 9 | | 23.5 | 暗赤褐色 | 褐灰色 | 長石・角閃石・雲母 | 良 | |
| 〃 | 38 | F－10 | Ⅱ | 円形土器片 | 43 | 44 | 10 | | 21.8 | 橙色 | にぶい橙色 | 角閃石・その他 | 良 | |
| 〃 | 39 | E－8 | Ⅱ | 円形土器片 | 42 | 45 | 7 | | 18.1 | にぶい赤褐 | 褐色 | 滑石片微量 | 良 | |
| 〃 | 40 | G－10 | 2号土壙 | 円形土器片 | 44 | 45 | 8 | | 20.4 | 灰褐色 | にぶい赤褐色 | 長石・石英・角閃石微量 | 良 | |
| 〃 | 41 | G－8 | Ⅲ | 円形土器片 | 46 | 46 | 9 | | 22.7 | にぶい赤褐 | にぶい赤褐色 | 長石・角閃石・その他 | 良 | |
| 〃 | 42 | I－8 | Ⅱ | 円形土器片 | 48 | 43 | 8 | | 21.4 | にぶい赤褐 | にぶい赤褐色 | 長石・石英微量 | 良 | |
| 〃 | 43 | G－7 | 撹乱 | 円形土器片 | 48 | 44 | 8 | | 21.0 | にぶい褐色 | にぶい褐色 | 長石・角閃石 | 良 | |
| 〃 | 44 | G－5 | 1号土壙 | 円形土器片 | 47 | 47 | 8 | | 27.1 | 黒褐色 | にぶい赤褐色 | 長石・石英・角閃石・雲母 | 良 | |
| 〃 | 45 | G－7 | 不明 | 円形土器片 | 45 | 55 | 6 | | 19.7 | にぶい赤褐 | 褐灰色 | 長石・石英 | 良 | 一部欠損 |
| 〃 | 46 | 不明 | 不明 | 円形土器片 | 53 | 56 | 8 | | 29.5 | 灰白色 | 灰白色 | 長石・角閃石・その他 | 良 | |
| 〃 | 47 | E－8 | Ⅱ | 円形土器片 | 48 | 47 | 7 | | 21.3 | にぶい赤褐 | にぶい赤褐色 | 長石・石英・角閃石少量 | 良 | |
| 〃 | 48 | E－8 | Ⅱ | 円形土器片 | 52 | 46 | 13 | | 33.4 | 明褐灰色 | 灰褐色 | 角閃石少量 | やや不良 | 底部破片 |
| 〃 | 49 | 不明 | 不明 | 円形土器片 | 48 | 53 | 9 | | 32.6 | にぶい褐色 | 灰褐色 | 長石・石英・角閃石微量 | 良 | |
| 〃 | 50 | E－8 | Ⅲ | 円形土器片 | 51 | 57 | 7 | | 27.7 | 褐灰色 | にぶい橙色 | 長石・石英・角閃石微量 | 良 | |
| 〃 | 51 | G－7 | 不明 | 円形土器片 | 60 | 54 | 14 | | 55.6 | にぶい赤褐 | にぶい赤褐色 | 角閃石・その他 | 良 | 底部破片 |
| 〃 | 52 | G－6 | Ⅲa | 円形土器片 | 58 | | 8 | | 27.2 | にぶい赤褐 | にぶい赤褐色 | 長石・石英・角閃石・その他 | 良 | 一部欠損 |
| 〃 | 53 | G－6 | Ⅳa | 円形土器片 | 59 | 53 | 7 | | 30.7 | 褐色 | 褐色 | 長石・その他微量 | 良 | |
| 〃 | 54 | G－6 | Ⅳa | 円形土器片 | 55 | 53 | 10 | | 33.7 | にぶい褐色 | 灰褐色 | 貝殻片微量 | 良 | |
| 〃 | 55 | E－8 | Ⅱ | 円形土器片 | 66 | 61 | 17 | | 85.3 | 灰褐色 | にぶい橙色 | 白色の石片 | 良 | |
| 〃 | 56 | G－7 | 不明 | 円形土器片 | 67 | 74 | 15 | | 79.0 | にぶい赤褐 | にぶい赤褐色 | 長石・その他 | 良 | 底部破片 |
| 〃 | 57 | E－2 | Ⅱ | 円形土器片 | 82 | 82 | 13 | | 113.4 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙色 | 長石・石英・角閃石・白色の石片 | 良 | 底部破片 |

## ４．まとめ

本節において黒橋貝塚の縄文土器と土製品を紹介したが、ここでは主として、出土層位を基に、土器の器形と文様、施文技法などから土器の編年案を提示しまとめとしたい。

黒橋貝塚の縄文土器は、並木式土器・阿高式土器（中期）、南福寺式土器・出水式土器（後期前葉）が出土しているが、器形・文様とも同一なものは殆どなく、すべてが個性的で芸術的であるが、共通の要素を見い出すことにより分類・時期区分が可能である。ここでは今回出土した黒橋貝塚の縄文土器を９期に分類してみた。以下分類に従って紹介する。

【黒橋Ⅰ期】（第113図１～９）

遺物を包含する最下層であるⅤ層から出土する深鉢形土器で、阿高式土器の祖形である並木式土器に該当する。

１は、２本単位の施文具による直線的モチーフの押引文のみが施されたもので、２は、押引文の間の無文部を指で撫でてやや窪ませて押引文を強調したものである。共に口唇部にも押引文を施している。

３～９は、押引文と凹線文をお互いを補完する形で併用したもので、胴部上半部を両者の文様で埋めている。２本単位の施文具のみでなく１本のものもあり、押引文から刺突文へ変化したものもみられる。口唇部は押引文や刺突文を施したものと無文のものがあり、５と９は口縁部の上方に突起が付いている。

【黒橋Ⅱ期】（第113図10～14）

Ⅴ層に包含される土器で、並木式土器から阿高式土器への移行期あるいは移行直後の土器群である。

胴部上半に主に凹線文を施すが、押引文や刺突文も一部に用いている。

10～14のうち、11は鉢形で、他は深鉢形を成している。

10は、凹線文を主体とするが、一部に押引文や刺突文の文様帯を設けたもので、口唇部には押圧文や凹線文を施している。

11は、波状口縁をもつ鉢形土器で、口縁部に２条の凹線と刺突文を施し、波頂部直下の胴部にはネクタイ形に凹線を引き、その中を刺突文で埋めている。なお口唇部にも凹線を施している。

12は、竹管状の施文具による刺突文と凹線文のほか、文様帯下部に渦巻の突帯文を貼り付けたもので、この凸帯上にも刺突文を施している。また口縁部には刺突文を施した突起がついている。

13と14は、胴部上半を凹線文と凹点文で飾り、口縁部外面から口唇部にかけて渦巻形突帯文を貼り付けたもので、突帯には刺突文を施している。

【黒橋Ⅲ期（第113図15～20）

Ⅳ層下部からⅤ層に包含される土器群で、阿高式土器である。

口縁部から胴部中程までを凹線と凹点による単一の文様帯で飾るが、文様が胴部下方に及ぶものもある。15～20のうち、19は鉢形で、他は深鉢形である。

15～17は、胴部上半を直線・渦巻・かすがい状・矢印状などをした凹線文と凹点文で埋め尽くしており、16の口縁部は無文であるが、15と17の口縁部には凹線文を施している。

18～20も同様の施文がみられるが、18は、口縁部外面から口唇部上方にかけて耳状に渦巻文を貼り付け、そこにも凹線文を施している。また20は、口縁部の２ヵ所に波状突起がある。

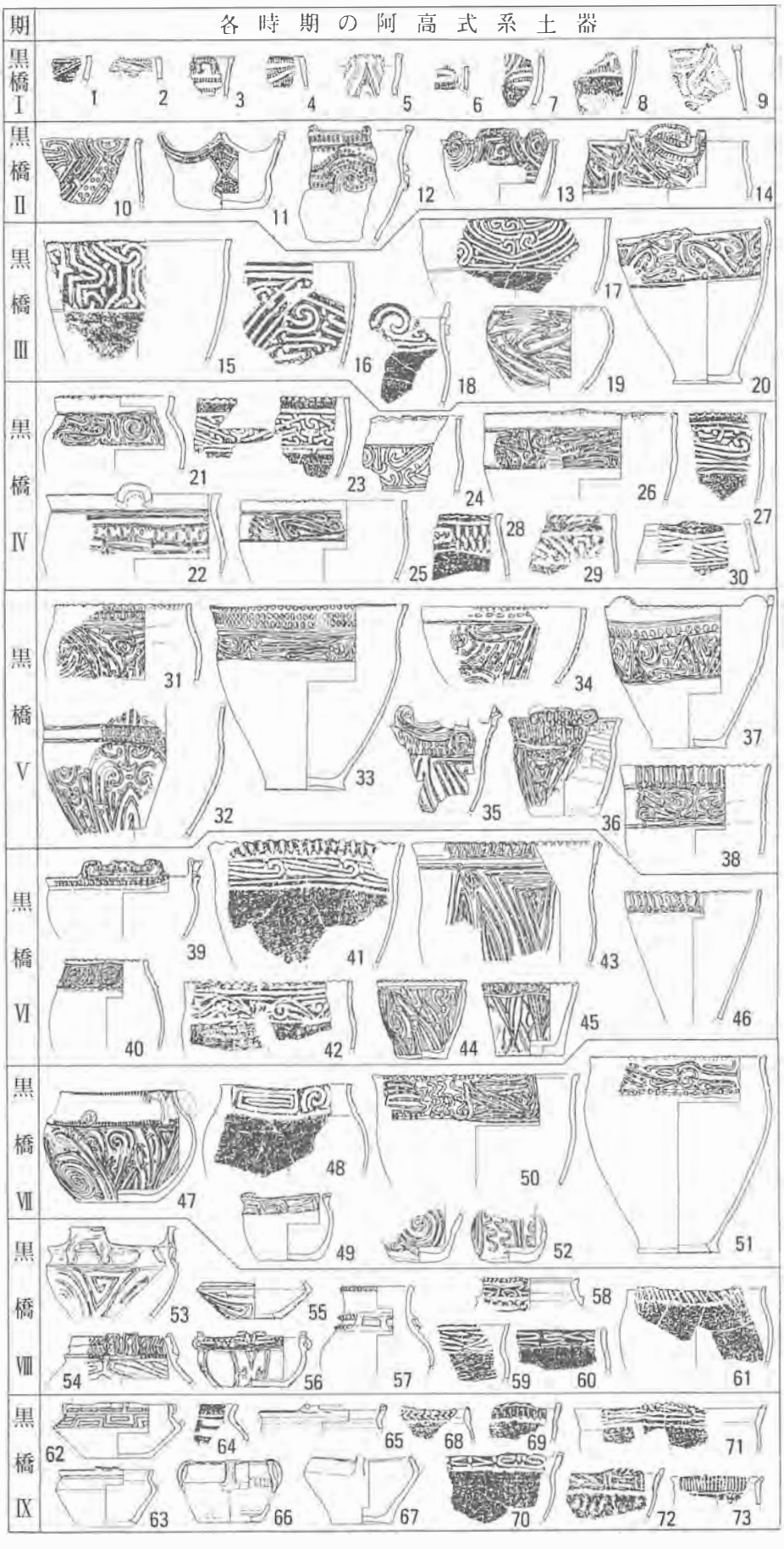
鉢形を成す19は、凹線文が底部付近まで及んでおり、口縁部は内弯し、口唇部は無文のままである。

なお黒橋Ⅲ期土器の口縁部は、突起以外の部分の側面観がほぼ直線的であるのが特徴である。

【黒橋Ⅳ期】（第113図21～30）

Ⅳ層下部に包含される土器群で阿高式土器である。

Ⅲ期と同じく、胴部上半を凹線と凹点による単一の文様帯で飾るが、口縁部直下に水平な凹線で仕切られ




第113図　黒橋貝塚出土土器編遷図

た無文帯を新たに設けている。

21～30は、深鉢形土器で、口縁部が直口するものが多いが、21、22、28のような胴部の張るタイプは、無文帯と文様帯の境の凹線部で外側に屈折している。

21は、胴部上半に渦巻・かすがい状・短直線の凹線文を施し、口唇部には凹点文を施している。

22は、胴部上半に直線の凹線文と、凹点文を施し、口唇部は無文であるが、把手状の突起を貼り付けている。

23～28は、胴部文様帯に渦巻・矢印状・直線などの凹線文と、凹点文を施し、口縁部にも凹点文を施しており、Ⅲ期に比べると口縁部がやや波状を成すものもみられる。

29は、胴部文様帯を矢印状・直線などの凹線文と、凹点文で飾り、30は、直線のみで飾っており、共に口唇部は無文であるが、30は波状の突起をもっている。

【黒橋Ⅴ期】（第113図31～38）

主にⅣ層下部に包含される土器群で、最盛期の阿高式土器である。

Ⅳ期に無文帯であった口縁部に、文様を施すようになったもので、そのため文様帯が２段あるいはそれ以上に増えている。また下部の文様帯が主に縦方向の凹線で構成されて、文様が底部のところまで及ぶものもある。口縁部の形態は、Ⅳ期の土器が直口するものが多かったのに対して、このⅤ期のものは外反ぎみのものが多くなる。さらに口縁部の凹点施文による波状もやや強くなる。

31～38は、ほぼ深鉢形を成すが、34は鉢形とすべきであろうか。

31と32は、全体に文様を施したもので、31は胴部が膨らんだ器形を成し、胴部に渦巻・直線などの凹線文と、凹点文を施し、口縁部の文様帯に凹直線で仕切って２段に凹点文を並べ、口唇部にも凹点文を施している。32は、胴部中程より少し上に凹直線で仕切った文様帯を設け、そこに凹点文を施し、その上下に渦巻・矢印などの凹線文と、凹点文を施したもので、シンメトリーな美しさがある。

33は、胴部文様帯に横走直線と渦巻の凹線文、及び凹点文を施し、口縁部文様帯に３段の凹点文を並べたもので、口唇部にも凹線文を施している。

34は、胴部全面に施文するタイプで、胴部に渦巻・矢印状・直線の凹線文と、凹点文を施し、口縁部文様帯に一条の凹点文を施している。また口唇部にも凹点文を施している。

35と36は、口縁部文様帯の上に渦巻文の突起を貼り付けた華麗な土器で、胴部全体に施文がある。35は、胴部に三角形状の凹線文を施し、口縁部文様帯に渦巻凹線文と、凹点文を施している。36も、類似の文様を施すが、胴部の三角形状凹線文の中に曲線文や凹点文も施し、口縁部文様帯には縦方向の短直線文と凹点文を交互に施している。また口唇部にも凹点文を連続して施文している。

37は、胴部文様帯をＶ字形やＸ字形の凹線で区画し、その中を直線やＵ字状曲線の凹線文、及び凹点文などで埋めている。その上には２つの文様帯を設けるが、最上部は無文のまま残し、第二文様帯に凹点文を施している。また口縁部上方には突起もあり、その部分も含めて口唇部全体に凹点文が施されている。

38は、胴部文様帯に渦巻の凹線文と、凹点文を施し、口縁部文様帯に短直線凹線文を、胴部文様帯との境の凹線上に凹点文を施している。また口唇部にも凹線文を施しているので、口縁部が細かい波状に起伏している。

【黒橋Ⅵ期】（第113図39～46）

Ⅳ層に包含されている土器群で、阿高式土器である。

Ⅵ期の土器は、Ⅴ期の口縁部文様帯に比べて狭くなるのが特徴で、無文化したものもある。胴部文様は、底部のところまで施すものもあるが、文様帯となっているものは狭くなる傾向があり、無文のものもある。また、この時期の殆どの土器の口唇部に刻み目のように凹点文を施しているため、口縁部の細かい波状の起

伏が非常に激しいのも特徴である。

39～46のうち、39は鉢形土器で、その他は深鉢形土器であるが、40は口縁部がややすぼまり壷形土器に近い。39は、胴部が丸く張り、口縁部が短く外反しており、そこに一条の凹点文を並べている。口唇部にも凹点文を施している。また口唇部の上に突帯で表現した変形渦巻文の貼り付けがあり、その突帯にも凹点文を施している。

40は、口縁部直下に凹直線で画した無文帯を置き、次の文様帯の下部を凹点文をつけた突帯文で画し、そこに渦巻凹線文と凹点文を施している。口唇部にも凹点文を施している。

41と42は、口縁部文様帯、胴部文様帯とも狭くなったもので、胴部文様帯に渦巻や横走する直線などの凹線文、及び凹点文を施している。口縁部文様帯は、41は、短直線凹線文と凹点文を施すが、42は、無文化している。共に口唇部は凹点文を密に施している。

43～45は、口縁部文様帯が狭く、胴部文様が底部まで及んだもので、43は、胴部を三角形渦巻の凹線文で埋め、口縁部文様帯に凹点文を施している。44は、胴部に渦巻・曲線・直線の凹線文と、凹点文施しているが、口縁部文様帯は無文化している。45は、胴部を直線による三角形の凹線などで埋め、口縁部文様帯に凹点文を施している。これらはいずれも口唇部に凹点文を密に施している。46は、口縁部文様帯に短直線の凹線文と、凹点文を施したもので、胴部は無文化している。口唇部は、凹点文を密に施し、刻み目状になっている。

【黒橋Ⅶ期】（第113図47～51）

Ⅳ層に包含されている土器群で、阿高式土器から南福寺式土器へ移行する時期に位置づけられる。

Ⅶ期の土器は、Ⅵ期において狭くなった口縁部文様帯と、やはり狭くなった胴部文様帯とが、一体化して一つの文様帯となったものである。施文技法は、Ⅵ期までみられた器壁の柔らかいうちに凹線文を入れるもののほか、器壁が少し固くなってから彫り込むように凹線文を入れるものも出現する。

47～52のうち、47～49は鉢形、50と51は深鉢形、52は異形の土器である。

47は、口縁部の上端と下端をつまみ出して突帯状にしたもので、突帯状の部分と口唇部上面及び口唇部内面には、刻み目状の刺突文が施されている。この土器は、口縁部文様帯をほぼ無文とし、部分的に渦巻文の貼り付けがあり、また把手も付けられている。突帯の下の胴部全体に施文がみられる。文様は、大きな渦巻文を３ヵ所に配置し、その間に三角形渦巻文・小さな渦巻文・凹点文などを施しているが、ある部分は未完成の状態のまま仕上げている。胴部の文様は、器壁が乾燥した段階で彫り込んでいる。なお赤色顔料が塗彩された痕がある。

48も、47と類似の器形で、口縁部の文様帯に、渦巻と方形渦巻の凹線文を施し、口唇部には部分的に凹点文を施している。胴部は無文のままである。

49も、類似の器形であるが、胴部の張りが少なく、小型である。口縁部の文様帯に、渦巻・Ｓ字・直線などの凹線文を施し、口唇部の３ヵ所に突起を貼り付け、凹点文を施している。胴部は無文である。

50は、口縁部の外反した深鉢で、口縁部文様帯の上端に凹点文を並べ、下端の凹線上似も凹点文を施している。その間の文様帯を、連続Ｓ字状や直線の凹線文で埋めており、胴部は無文である。外面全体に赤色顔料が塗られていた痕がある。

51も、50に類似した器形であるが、口縁部がやや内傾して反っており、口縁部文様帯の下部が突帯状に肥厚し、そこに凹点文を施している。口縁部の文様帯には、渦巻・直線・曲線の凹線文と、凹点文を施している。口唇部にも凹点文を施している。

52は、胴部下半部しか残っていないが、正面と側面で形の違う異形の土器である。文様は底部付近まで施されている。前後面には渦巻文、側面には連続Ｓ字文と直線文を彫り込んでいる。

【黒橋Ⅷ期】（第113図53～61）

Ⅲ層に包含される土器群で、南福寺式土器である。

この時期の土器の特徴は、胴部の掘り込みの文様がより幅広く大柄になり、突帯や把手が付くことで、この土器に、口縁部文様帯の狭くなった深鉢形土器が伴うものと考えられる。

53～61のうち、53、55、56は鉢形、57は壷形、その他は深鉢形土器である。

53は、口縁部が肥厚し、その下に無文帯を設け、突帯を貼り付け、胴部に渦巻と三角形渦巻を彫り込んだものである。口縁部には、無文帯をまたぐ橋状把手を造り、上方にも台形状をした窓付き突起が造られている。突起の上面と、胴部の文様の彫り込み溝の中は、赤色顔料が塗られている。

54は、口縁部の下端に刺突文を付けた突帯を巡らし、口縁部文様帯に綾杉状凹線文を施したもので、文様帯の上にM字形の装飾も貼り付けている。胴部には、幅広の凹線の彫り込み文がある。

55は、胴部中程で屈折しており、その上下に曲線文や矢印状文を彫り込んでいる。

56は、口縁部が肥厚し、そこに刺突文を施し、その下に幅の狭い文様帯を設け、矢印状凹線文を施し、下端に細かい刺突文を付けた突帯を貼り付けている。胴部には三角文や曲線文から成る彫り込みの装飾を４ヵ所に配置している。また彫り込みの溝や凹線内は、赤色顔料で塗られている。

57は、壷形土器である。口縁部が外側に肥厚し、そこに凹点文を施している。頚部と胴部の境には、二段に突帯を貼り付け、ここにも凹点文を施している。また二段の突帯を結ぶように２つ単位の橋状把手が付けられている。この橋状把手が、53の鉢形土器と共通するのは、同時性を示していると考えられる。胴部などは無文のままである。

58は、口縁部が肥厚し、その下に文様帯と突帯を設けたもので、口縁部と突帯には凹天文を施している。この土器も、53、54、56、57と共通の要素があり、同時期のものと考えられる。文様帯には、細い凹線で曲線文を施している。

59～61は、胴部がやや張り、口縁部が直口する深鉢で、Ⅶ期のものに比べて文様帯が狭く、施文も細い凹線文に変化しているので、Ⅷ期頃に位置づけられるものと考えられる。59は口縁部文様帯に直線文、60はＳ字状文、61は斜線文を施している。

【黒橋Ⅸ期】（第113図62～73）

Ⅲ層に包含される土器群で、南福寺式土器の新しい時期あるいは出水式土器の時期に位置づけられる。

62～73のうち、62～67は鉢形土器、68～73は深鉢形土器である。

62、63は、口縁部が肥厚して直口し、胴部が屈折した鉢形土器である。62は、口縁部と胴部上半に方形の彫り込み文があり、口唇部の一部に山形の隆起があり、その上面に３つの凹みが彫られている。また把手の痕跡がある。63は、無文であるが、口唇部に山形の隆起をもち、把手が欠損した痕跡がある。

64も、62と類似の器形であるが、口縁部は肥厚せず外反している。胴部上半に彫り込み文を施した文様帯がある。

65は、口縁部上端がＴ字形に肥厚し、胴部がく字形に屈折した鉢形土器で、無文であるが、橋状把手が付いている。

66は、口縁部が外反し、胴部が屈折した無文の鉢形土器で、口唇部に山形突起の装飾を貼り付けている。67は、口縁部が内傾し、その下部で屈折し、そのまま底部まで至る鉢形土器である。無文であるが、口縁部には把手が付いている。

68～73は、62～67と共伴するかどうか、まだ細かい検討が必要であるが、Ⅷ期から変化した器形や、出土層位などから、ここでは共伴するものと考えておきたい。

68は、胴部がいくぶん張り、口縁部が肥厚して起ち上がる深鉢形土器で、口縁部文様帯に細かいＳ字状の

凹線文を入れており、口縁波頂部上面には凹点文を施している。

69～73は、胴部があまり張らず、口縁部がやや肥厚して外反した深鉢形土器で、口縁部外面にやや細めの凹線文を施した文様帯がある。69、73は、縦方向の短直線凹線文を施し、69の口唇部には山形の突起が貼り付けられている。70は、変形渦巻とＶ字状の凹線文及び凹点文、71は、横走直線の凹線文と凹点文、72は、縦横の直線や斜線の凹線文を施し、いずれも山形の突起を貼り付けている。

以上、黒橋貝塚出土の阿高式系土器の変遷を紹介したが、この他に今回調査した地点では磨消縄文土器も出土している。しかしこれらは、いずれも胎土や色調などが異なっており、搬入品と考えられる。従って、今回調査した地点での貝塚の形成は、在地において磨消縄文土器が製作される前の段階で終了したと考えられる。但し、黒橋貝塚の別の地点では在地で製作された磨消縄文土器の鐘崎式土器が出土しているので、貝塚自体の形成は鐘崎式土器の時期までは続いていたと言える。

黒橋貝塚からは、土器の他に土版、土器片錘、有孔土器片、円形土器片などの土製品が出土している。それらの時期について再度ふれておきたい。

土版は、儀礼行為、あるいは護符として使用されたものとみられ、阿高式土器の新しい時期（縄文時代中期末）に伴うものと考えられる。

土器片錘は、魚網の錘として使用されたとみられ、南福寺式土器あるいは出水式土器の時期（縄文時代後期前葉）に伴うものと考えられる。

有孔土器片と円形土器片は、用途が不明であるが、土器片錘と同様に、南福寺式土器あるいは出水式土器の時期のものと考えられる。

なお黒橋貝塚からは、土器製作台としての鯨の椎骨と共に、底部に椎骨の圧痕がついた阿高式系土器が多数出土している。この土器は九州地域に広く分布しており、この資料に関して、付編を添えたので参考にして頂きたい。

（高木正文）

参考文献

・小林久雄・松本雅明・三島格他『城南町史』　1965。
・小林久雄（松本雅明編）　『九州縄文土器の研究』小林久雄先生遺稿刊行会　1967。
・西田道世『黒橋』　（熊本県文化財調査報告第20集）熊本県教育委員会　1976。
・西田道世『阿高貝塚』　（城南町文化財調査報告書）城南町教育委員会　1978。
・田中良之「中期・阿高式系土器の研究」　『古文化談叢』６　1979。

## 付編．底部に鯨の椎骨の圧痕が残る阿高式系土器

西北九州の縄文時代中期を代表する阿高式土器の底部には、細かい凹凸が激しく付いたものがみられる。この凹凸は、研究者の間では「鯨底」と呼ばれている。鯨底は、鯨の椎骨に付いている椎端板を土器製作時に台として使用したために残った圧痕で、椎端板の両面を使うため、凹凸の激しいものと、同心円的なしわが見られるものとの２種類がある。

この土器の底部と鯨の椎端板との陰陽関係を最初に指摘したのは三島格氏で、昭和35年に行われた西日本史学会考古学部会で発表され、翌年、「鯨の脊椎骨を利用せる土器製作台について」のタイトルで文章化されている（文献５）。

鯨底がみられる阿高式土器は、太線で描いた幾何学的文様を特徴とする土器で、縄文時代中期の後半に並木式土器を祖形として成立した。そしてその系統は南福寺式、出水式と変化しながら、後期の初頭まで続いている。この阿高式・南福寺式・出水式を一般に「阿高式系土器」と呼んでいる。阿高式系土器が使用されていた時代の文化内容はまだ不明瞭な部分が多いが、貝塚が多く残されている点、漁撈具が発達していた点などから考えて、かなり海に慣れ親しんでいた時代のようである。鯨底は、阿高式系土器以外の土器にはごく少数の例を除いてみられないものであり、阿高式系土器の一つの特徴である。

鯨底が出土した遺跡は、九州内で57カ所確認している（平成４年現在）。当然、阿高式系土器の分布と重なり、壱岐対馬・五島列島などの島嶼部から南九州まで広がっている。貝塚など海浜部の遺跡に多いが、海とはかなり離れた内陸部の遺跡にも分布している。また、外洋に面していない有明海・八代海沿岸にも分布している。しかし、異なった土器文化があった東九州にはみられない。

鯨底から派生する問題の筆頭に、当時の捕鯨の有無があげられる。鯨底の観察から復元される椎骨の椎体直径は10㎝から20㎝前後まであり、大型鯨のものであることが窺える。漁撈具の分析では、海浜部の遺跡から出土する石銛の対象動物として、イルカや鯨が想定されている（文献38）が、大型鯨に対する有効性は実証されてはいない。また、椎端板は、椎体と椎体との間の肉質が腐敗しない限り剥離しない。そのため、捕獲直後に利用されたものでないことは明らかで、鯨底からストレートに捕鯨の存在につなげることはできない。その結果、縄文時代の鯨利用は、寄り鯨の追い込みや、スライディング（座礁した鯨）などの偶発的なものの利用という結論に収束しがちである。

しかし、インドネシア・ロンバタ島で現在も行われている捕鯨は、その道具や漁法が原始的な点、一集落ではなく複数の集落の集団によるものである点、食料確保と同時に精神的な面が窺える点など、縄文人でも可能と思われる捕鯨のイメージと見事に一致する。縄文時代捕鯨の可能性は考古学からだけではなく、学術的な研究が必要であろう。また、精神性の強い縄文文化の中における鯨底の製作台である椎骨も、単なる製作台以上の性格を持つ可能性があることも探らなければならない課題である。

以上、縄文人と鯨のかかわりについて、重要な意味を持つと思われる鯨底を紹介し、その問題点を指摘した。阿高式では支配的であった鯨底も、南福寺式を経て出水式へと変化するにつれて比率は低くなり、阿高式系土器から磨消縄文系土器への転換とともに消滅していく。それは生活舞台の中心が海から台地へと向かう時期である。

（金田一精）

**参考文献**


1　山口譲治「野多目拈渡遺跡」『福岡市埋蔵文化財調査報告書第31集』福岡市教育委員会　1983。

2　林覚ほか「長野川流域の遺跡群Ⅰ」『前原町文化財調査報告書第31集』前原町教育委員会　1987。

3　森山栄一「山家地区遺跡」『筑紫野市文化財調査報告書第19集』筑紫野市教育委員会　1987。

4　渡辺正気『日本の古代遺跡34　福岡』保育社。

5　三島　格「鯨の脊椎骨を利用せる土器製作台について」『古代学』10－１　1961。

6　福田義彦「来迎寺遺跡」『佐賀市文化財調査報告書第27集』佐賀市教育委員会　1990。

7　鎮西町教育委員会「赤松海岸遺跡」『鎮西町文化財調査報告書第７集』　1989。

8　森　醇一郎ほか「坂の下遺跡の研究」『佐賀県立博物館調査研究所第２集』佐賀県立博物館　1975。

9　正林　護「佐賀貝塚」『峰町文化財調査報告書』峰町教育委員会　1989。

10　安楽　勉ほか「名切遺跡」『長崎県文化財調査報告書第71集』長崎県教育委員会　1985。

11　安楽　勉ほか「浜泊遺跡」『長崎県埋蔵文化財調査集報２　長崎県文化財調査報告書第45集』長崎県教育委員会　1979。

12　長崎県教育委員会「対馬」『長崎県文化財調査報告書第７集』　1974。

13　正林　護ほか「三代遺跡」『長崎県埋蔵文化財調査集報12　長崎県文化財調査報告書第94集』長崎県教育委員会　1989。

14　正林　護ほか「山角遺跡」『長崎県埋蔵文化財調査集報４　長崎県文化財調査報告書第55集』長崎県教育委員会　1981。

15　町田利幸ほか「外園遺跡」『九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書７　長崎県文化財調査報告書第98集』　1990。

16　同志社大学文学部文化学科『伊木力遺跡』　1990。

17　坂本経堯「熊本県玉名郡古閑原貝塚」『日本考古学年報』１　日本考古学協会　1951。

18　田邊哲夫『熊本の上代文化』熊本日日新聞社　1980。

19　菊水町教育委員会「若園」『菊水町文化財調査報告第３集』　1981。

20　富田紘一「沼山津貝塚」『熊本市文化財調査報告書（Ⅲ．東部地区）』熊本市文化財調査会　1971。

21　西田道世「阿高貝塚」『城南町文化財調査報告書』城南町教育委員会　1978。

22　西田道世「黒橋」『熊本県文化財調査報告第20集』熊本県教育委員会　1976。

23　松本雅明「轟貝塚の発掘」『熊本日日新聞(1958．９．３、４)』熊本日日新聞社　1958。

24　宇土高校社会部ＯＢ会『とどろき第２号』　1976。

25　松本健郎ほか「七ッ江カキワラ貝塚・竹の下貝塚」『熊本県文化財調査報告第79集』熊本県教育委員会　1986。

26　西住欣一郎「鼓ヶ峰遺跡」『熊本県文化財調査報告第96集』熊本県教育委員会　1988。

27　寺師見国「肥後水俣南福寺貝塚　南福寺貝塚」『考古学』10－7東京考古学会　1939。

28　五和町教育委員会『沖ノ原遺跡』　1984。

29　山崎純男「天草地方始原文化の一側面」『熊本史学』40　熊本史学会。

30　高橋信武『横枕Ｂ遺跡・前田遺跡』直入町教育委員会　1974。

31　橘　昌信ほか『コウゴー松遺跡調査報告書』直入町教育委員会　1974。

32　長谷部言人ほか「薩摩国出水貝塚発掘報告」『京都帝国大学文学部考古学研究報告第６冊』　1920。

33　菱刈町教育委員会「野中遺跡・松美堂遺跡」『菱刈町埋蔵文化財発掘調査報告書５』　1990。

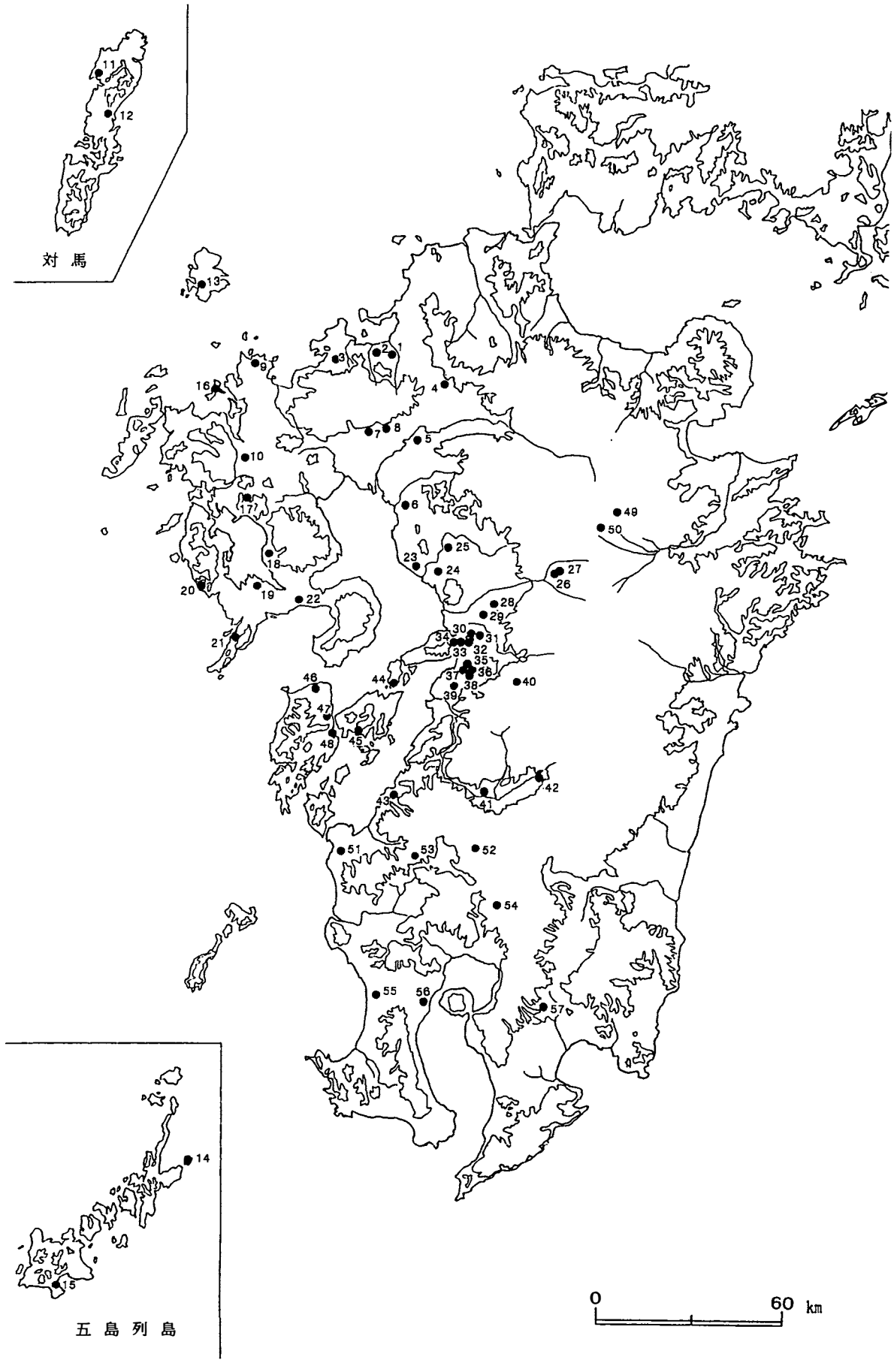
34　新東晃一ほか「中尾田遺跡」『鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書15』鹿児島県教育委員会　1981。

35　岡元満子「底部に圧痕を有する縄文式土器について」『鹿大考古』５　1986。

36　出口　浩ほか「草野貝塚」『鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書９』鹿児島市教育委員会　1988。

37　長野真一ほか「宮之迫遺跡」『末吉町文化財調査報告書２』末吉町教育委員会　1981。

38　山崎純男「西北九州漁撈文化の特性」『季刊考古学』25　雄山閣　1988。




第114図　鯨椎骨圧痕土器出土遺跡分布図

## 第17表　鯨椎骨圧痕土器出土遺跡地名表

| No. | 遺跡名 | 所在地 | 立地 | 主な出土遺物・備考 | 文献 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 野多目拈渡 | 福岡県福岡市南区大字野多目 | 河岸段丘 | 阿高式、阿高式系 | 1 |
| 2 | 有田･小田部 | 福岡県福岡市早良区有田･小田部 | 台地 | | 山崎純男氏教示 |
| 3 | 長野宮ノ前 | 福岡県前原市大字長野 | 沖積丘陵 | 阿高式系、中津式 | 2 |
| 4 | 山家地区 | 福岡県筑紫野市大字山家 | 台地 | 阿高式系、中津式 | 3 |
| 5 | 名入 | 福岡県久留米市国分町日渡 | | 阿高式、北久根山式 | 4 |
| 6 | 毛無貝塚 | 福岡県大牟田市大字倉永字毛無 | 丘陵先端下 | 出水式、南幅寺式 | |
| 7 | 竜王 | 佐賀県小城郡三日月町大字織島字東分 | | 阿高式 | 5 |
| 8 | 来迎寺 | 佐賀県佐賀市金立町大字金立字三本里木 | 谷部 | 阿高式系<br>遺構は土壙 | 6 |
| 9 | 赤松海岸 | 佐賀県東松浦郡鎮西町大字石室字赤松 | 海岸 | 並木式、阿高式、出水式、鐘崎式、黒色磨研 | 7 |
| 10 | 坂の下 | 佐賀県西松浦郡西有田町 | 丘陵 | 阿高式系<br>貯蔵穴21基検出 | 8 |
| 11 | 志多留貝塚 | 長崎県上県郡上県町志多留茂 | 丘陵 | | 島津義昭氏教示 |
| 12 | 佐賀貝塚 | 長崎県上県郡峰町大字佐賀 | 海岸 | 並木式、阿高式、鐘崎式、北久根山式<br>鯨骨多数･漁撈具多数 | 9 |
| 13 | 名切 | 長崎県壱岐郡郷ノ浦町 | 海岸 | 並木式、阿高式 | 10 |
| 14 | 浜泊 | 長崎県南松浦郡有川町 | 緩斜面(砂丘) | 轟･曽畑式系、阿高式系、磨消縄文系 | 11 |
| 15 | 宮下 | 長崎県南松浦郡富江町松尾郷宮下 | 海岸砂丘 | 阿高式、船元式、南福寺式 | 12 |
| 16 | 三代 | 長崎県北松浦郡鷹島町中通免字広見江 | 後背湿地 | 阿高式系、磨消縄文系 | 13 |
| 17 | 山角 | 長崎県東彼杵郡波佐見町稗木場郷字春田 | 三角州状低平地 | 南福寺式 | 14 |
| 18 | 外園 | 長崎県東彼杵郡東彼杵町千綿宿郷 | 台地 | 阿高式系 | 15 |
| 19 | 伊木力 | 長崎県西彼杵郡多良見町舟津郷松手 | 沖積地 | 曽畑式、阿高式、船元式、南福寺式、御手洗Ａ式<br>磨消縄文系土器、黒色磨研土器 | 16 |
| 20 | 出津 | 長崎県西彼杵郡外海町 | 海岸砂丘 | | 山崎純男氏教示 |
| 21 | 有喜貝塚 | 長崎県諫早市松里町 | 丘陵 | | 5,16 |
| 22 | 深堀貝塚 | 長崎県長崎市深堀町 | 砂丘 | | 島津義昭氏教示 |
| 23 | 古閑原貝塚 | 熊本県玉名郡岱明町山下古閑原 | 舌状台地下 | 阿高式、御手洗Ａ式<br>炭化米検出 | 5,17 |
| 24 | 尾田貝塚 | 熊本県玉名郡天水町部田見本村屋敷 | | | 18 |
| 25 | 若園貝塚 | 熊本県玉名郡菊水町大字江田字若園 | 台地 | 阿高式、磨消縄文系 | 19 |
| 26 | 陽の丘 | 熊本県阿蘇郡長陽村河陽村下 | 斜面 | 出水式 | 島津義昭氏教示 |
| 27 | 山久保 | 熊本県阿蘇郡長陽村沢津野山久保 | 斜面 | 出水式 | |
| 28 | 沼山津貝塚 | 熊本県熊本市沼山津下津代理 | 舌状台地 | 阿高式、磨消縄文系 | 20 |
| 29 | 大江遺跡 | 熊本県熊本市出水町国府代継小字水溜 | | | 5 |
| 30 | 阿高貝塚 | 熊本県下益城郡城南町西阿高 | 舌状台地下 | 並木式、阿高式、南福寺式、出水式、御手洗Ａ式<br>鐘崎式、北久根山式、磨消縄文系土器<br>阿高式の標式遺跡 | 5,21 |
| 31 | 黒橋貝塚 | 熊本県下益城郡城南町下宮地 | 舌状台地下 | 並木式、阿高式、南福寺式、出水式、御手洗Ａ式<br>磨消縄文系土器 | 22 |
| 32 | 曽畑貝塚 | 熊本県宇土市岩古曽町 | 舌状台地先端 | 曽畑式、阿高式、磨消縄文系<br>曽畑式の標式遺跡 | |
| 33 | 轟貝塚 | 熊本県宇土市宮庄町 | 独立丘陵 | 轟式、阿高式<br>轟式の標式遺跡 | |
| 34 | 西岡台貝塚 | 熊本県宇土市神馬町西岡 | 台地先端 | 出水式<br>鯨椎体使用の製作台 | 24 |
| 35 | ｾﾂ江ｶｷﾜﾗ貝塚 | 熊本県下益城郡小川町北部田 | 丘陵先端 | 出水式、鐘崎式 | 25 |
| 36 | 竹の下貝塚 | 同上 | 丘陵先端 | 南福寺式 | 25 |
| 37 | 大坪貝塚 | 同上 | 丘陵先端 | 並木式、阿高式 | 島津義昭氏教示 |
| 38 | 有佐貝塚 | 熊本県八代郡鏡町有佐大塚 | 沖積平野 | 阿高式、南福寺式、出水式 | 5 |
| 39 | 竜北大野貝塚 | 熊本県八代郡竜北町大野 | 丘陵先端 | 阿高式、南福寺式<br>1879年にエドワード･モースにより調査 | 5 |
| 40 | 大通峠 | 熊本県球磨郡五木村小鶴 | | 阿高式、出水式 | 島津義昭氏教示 |
| 41 | 鼓ヶ峰 | 熊本県人吉市願成寺町大字鼓ヶ峰 | 舌状台地 | 南福寺式、竹崎式 | 26 |
| 42 | 米山 | 熊本県球磨郡湯前町米山 | 河岸段丘上 | 阿高式、南福寺式、鐘崎式、綾式 | 坂田和弘氏教示 |
| 43 | 南福寺貝塚 | 熊本県水俣市南福寺 | 台地先端 | 南福寺式、磨消縄文系 | 5,27 |
| 44 | 小柳 | 熊本県天草郡大矢野町柳、小柳 | 海岸 | 轟･曽畑式、阿高式、南福寺式、出水式 | 山崎純男氏教示 |
| 45 | 浜ノ洲貝塚 | 熊本県天草郡栖本町 | 沖積平野 | 阿高式、南福寺式、出水式 | 松本健郎氏教示 |
| 46 | 沖ノ原貝塚 | 熊本県天草郡五和町二江 | 海岸砂丘 | 阿高式、南福寺式、出水式、磨消縄文系 | 28 |
| 47 | 大矢 | 熊本県本渡市矢 | 海岸 | 並木式、阿高式、船元式、南福寺式、中津式、<br>動物型土製品、土偶 | 29 |
| 48 | 鳴子崎 | 熊本県天草郡倉岳町鳴子 | 海岸 | | 山崎純男氏教示 |
| 49 | 前田 | 大分県直入郡直入町大字長湯 | 丘陵 | 押型文、阿高式系、船元式 | 30 |
| 50 | コウゴー松 | 大分県直入郡久住町大字久住字加良登 | 舌状台地 | 磨消縄文系、阿高式系31 | |
| 51 | 出水貝塚 | 鹿児島県出水市大字上知識町字尾崎 | 舌状台地 | 並木式、阿高式、南福寺式、出水式、指宿式<br>市来式、磨消縄文 | 32 |
| 52 | 松美堂 | 鹿児島県伊佐郡菱刈町田中松美堂 | 微高地 | 並木式、阿高式、阿高式系、春日式が中心 | 33 |
| 53 | 並木 | 鹿児島県大口市宮人下木場並木 | | 並木式、阿高式、南福寺式、磨消縄文系<br>並木式の標式遺跡 | |
| 54 | 中尾田 | 鹿児島県姶良郡横川町中ノ中尾田 | 舌状台地先端 | 並木式、阿高式、出水式、指宿式 | 34 |
| 55 | 大園原 | 鹿児島県日置郡吹上町小野 | 台地 | 指宿式、市来式 | 35 |
| 56 | 草野貝塚 | 鹿児島県鹿児島市下福元町草野賀呂 | 台地 | 指宿式、松山式、市来式、草野式、磨消縄文<br>鯨骨製品、鯨骨 | 36 |
| 57 | 宮之迫 | 鹿児島県曽於郡末吉町南之郷字宮之迫 | 台地 | 岩崎上層、岩崎下層、出水式 | 37 |

## 第２節　石器・石製品

### １．石器（第115図～第153図）

黒橋貝塚から出土した石器は、総数1,913点である。その内訳は、石器817点，石核･原石50点，剥片・砕片1,046点である。その器種ごとの内訳は、石鏃91点，尖頭器6点，石匙15点，スクレイパー40点，抉入石器５点，石錐８点，楔形石器58点，石錛1点，石鋸2点，磨製石斧170点，磨石・敲石193点，石皿・台石32点，二次加工ある石器64点，使用痕ある剥片42点である。

これらの石器類のうち、Ⅲ～Ⅴ層から出土した資料について図示した。出土量は、Ⅲ，Ⅳ層が最も多い。

以下、器種ごとに説明を行なう。

**石鏃**（第115図１～第120図74，第121図83）

石鏃は、91点出土した。その石器組成に占める割合は、11.2%である。石材ごとの内訳は、黒耀石14点，安山岩59点，サヌカイト16点，チャート２点で、安山岩及びサヌカイトの利用頻度が高く82.4%である。

出土した石鏃の形態から１類（二等辺三角形）、２類（正三角形）に分類し、さらに基部の形状からａ（平基のもの）、ｂ（浅く抉れるもの）、ｃ（Ｖ字状に抉れるもの）、ｄ（Ｕ字状に抉れるもの）にそれぞれ細分できる。以下類ごとに説明を加えていく。

第１ａ類（14）

１ａ類は、二等辺三角形を呈する平基の石鏃である。該当する資料は、14の１点のみである。安山岩製の不定形の横長剥片を素材とし、基部及び両側縁の一部に調整を施す。先端部を欠失している。素材剥片の形状を大きく変更せず調整加工は、全体的に粗く基部の作り出しは表裏両面から施され、側縁部は表裏面どちらか一面からのみの調整加工により形状が整えられている。このことから、未完成品である可能性も指摘できる。

第１ｂ類（３～７，９，16，18，20，21，23，25～27，30，31，33，35，36，39，41～43，46，50，51，53，55，56，67）

１ｂ類は、二等辺三角形を呈し抉りの浅い凹基の石鏃である。資料数は、29点である。これらの資料のうち左右対称をなすものが大半を占めるが、左右対称をなさないもの（６，25，30，41，42）もある。また、側縁部の形状では、直線的に作り出すもの（４，9，18，23，46，53，67）、やや膨らむもの（20，31，41，50，51，55）、鋸歯状を呈するもの（16）がみられる。すべての資料で、最大幅が基部下端に認められるのに対して、50では体部に認められる。９は、先端部を再生させている資料である。

第１ｃ類（８，10，19，22，28，29，44，45，49，54，58，59，62）

１ｃ類は、二等辺三角形を呈し抉りをＶ字状に施す凹基の石鏃である。資料数は、13点である。１ｃ類に属する資料の大半は、左右対称形をなすが、54は左右対称をなさない。側縁部の形状は、直線的になるもの（10，44，45，58，62）、やや膨らむもの（８，28，49，59）、内湾するもの（54）、鋸歯状を呈するもの（29）がみられる。すべての資料で、最大幅が基部下端に認められる。また、最大長が３㎝を越える資料（19，44，45，49，58，59，62）も認められる。

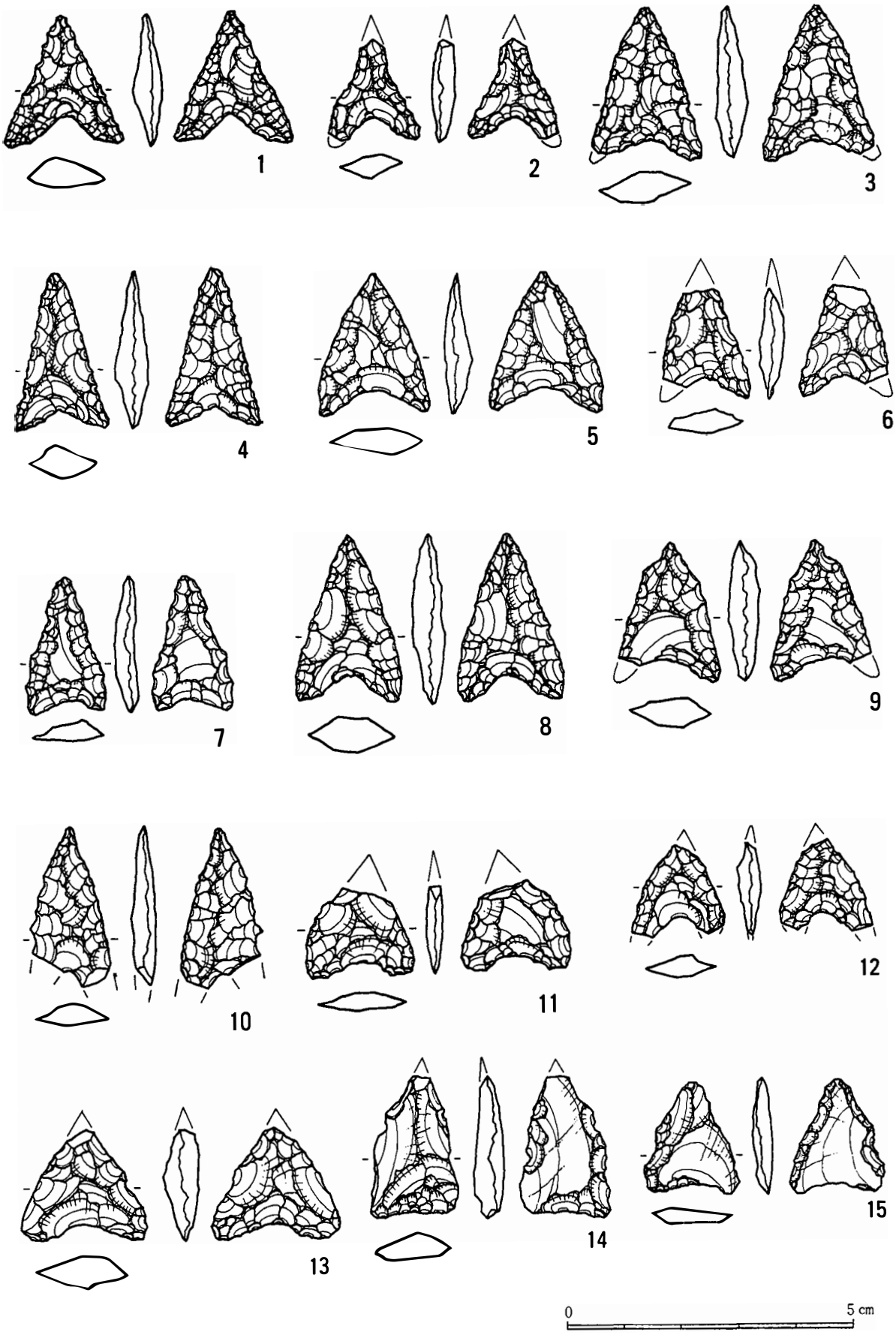
第１ｄ類（17，22，32，34，52）

１ｄ類は、二等辺三角形を呈し抉りをＵ字状に施す凹基の石鏃である。資料数は、５点である。抉入の深さは比較的浅く施されている。全体形は、左右対称形をなすものが多いが、なさないもの（34）もある。

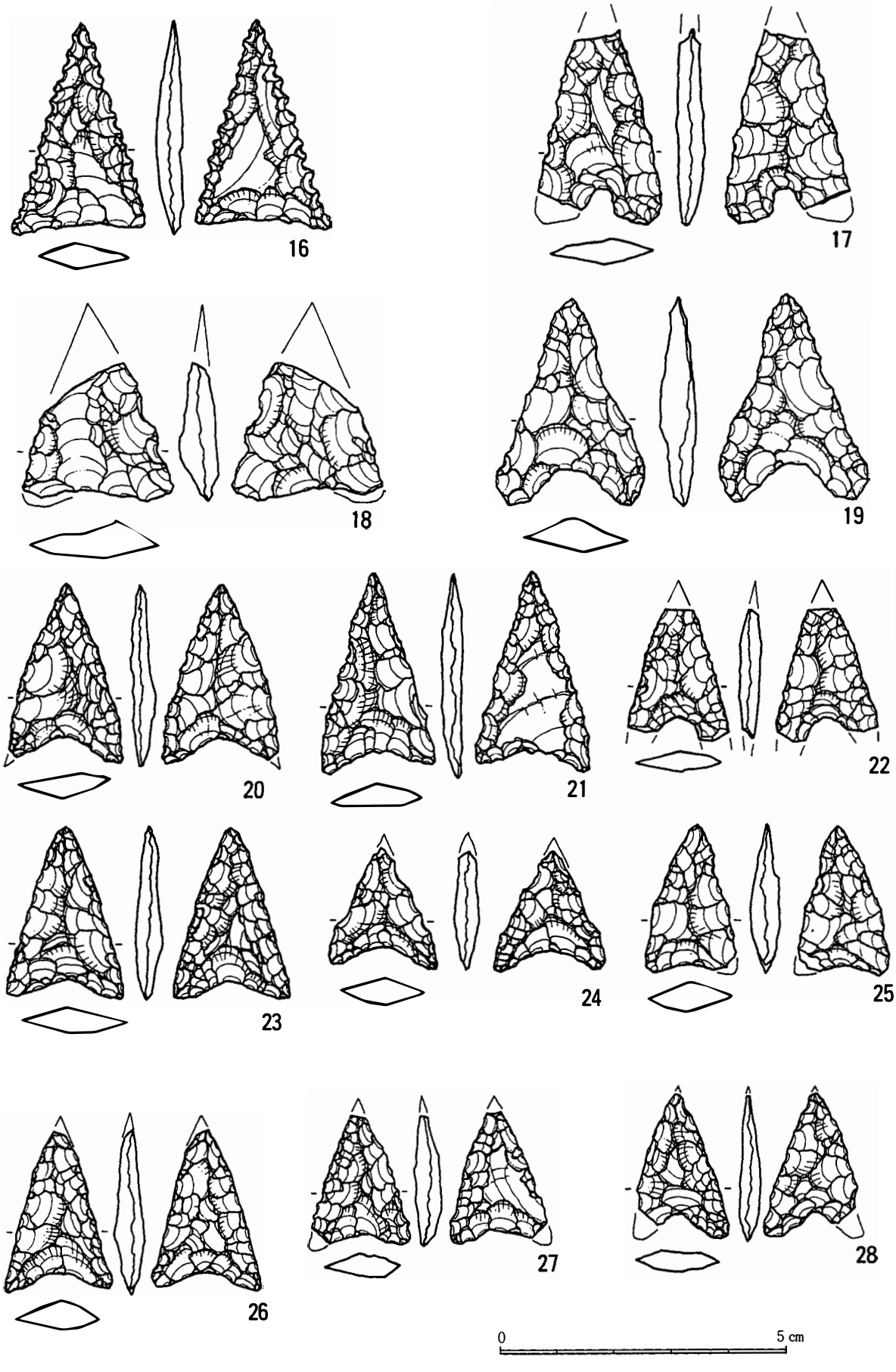
側縁部の形状は、直線的になるもの（17，22，52）、やや膨らむもの（32，34）がみられる。

第２ａ類（64）

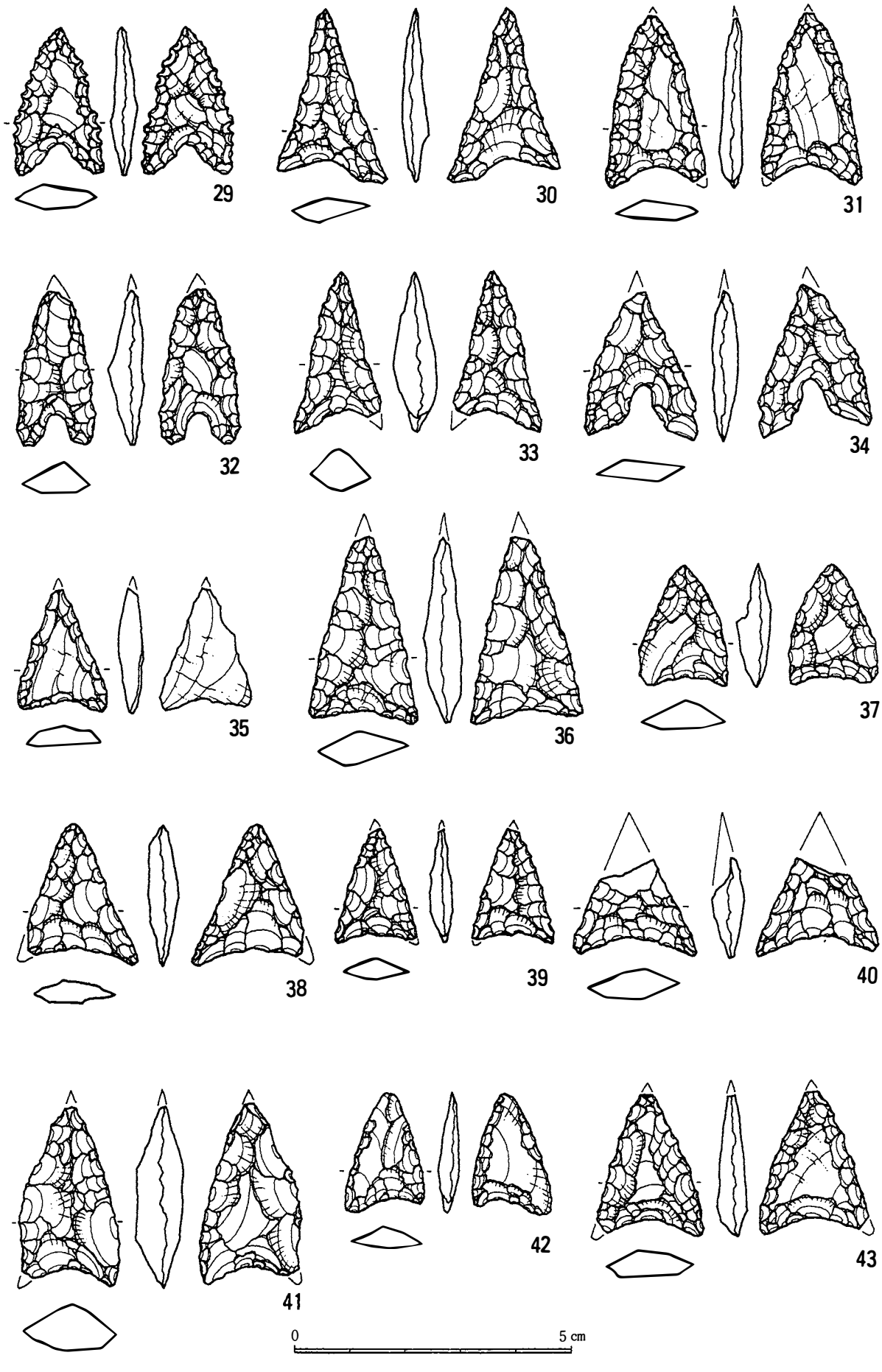
２ａ類は、正三角形を呈する平基の石鏃である。資料は、１点のみである。全体形は、左右対称に作り出



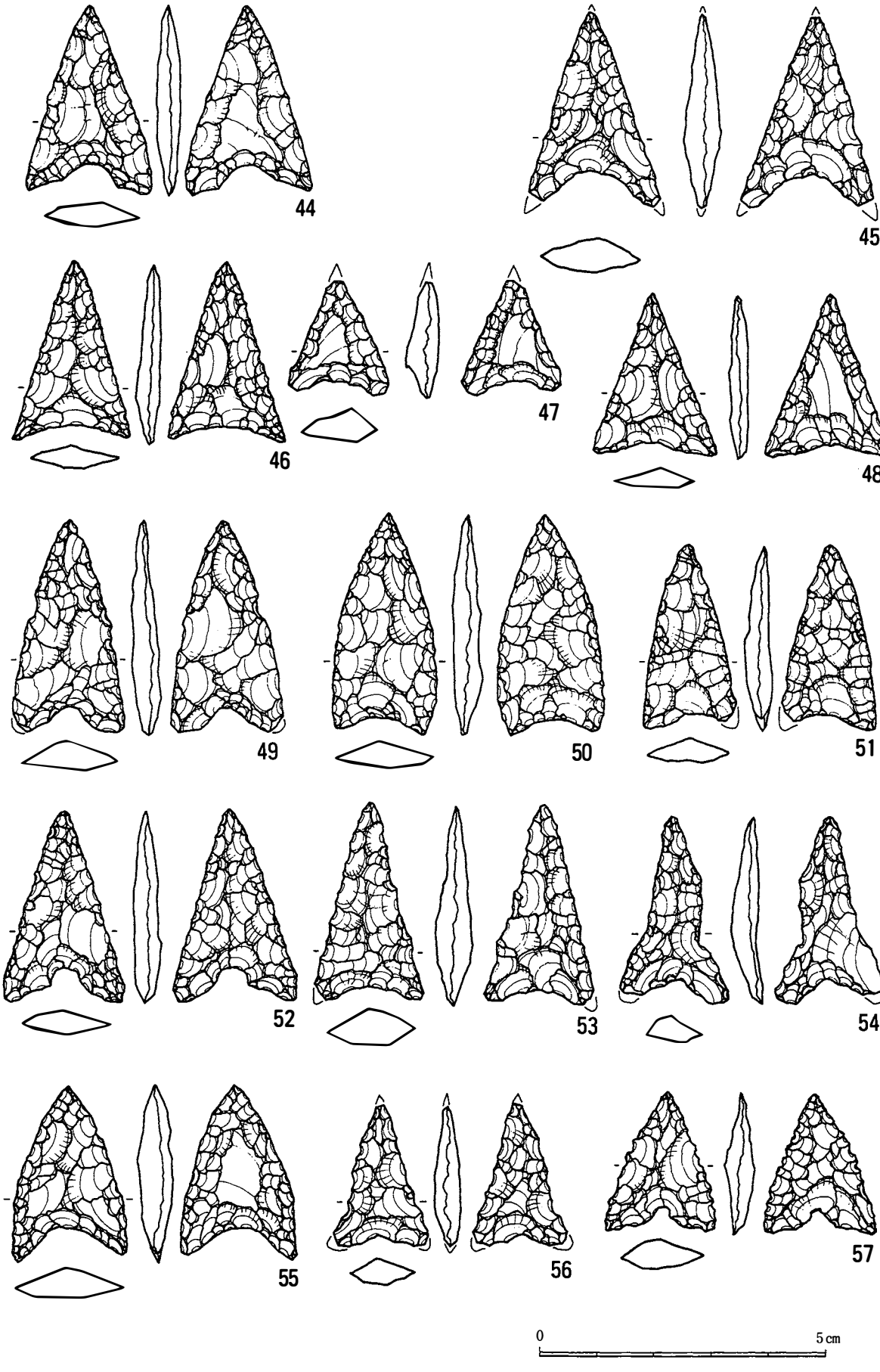

第115図　石器実測図（１）



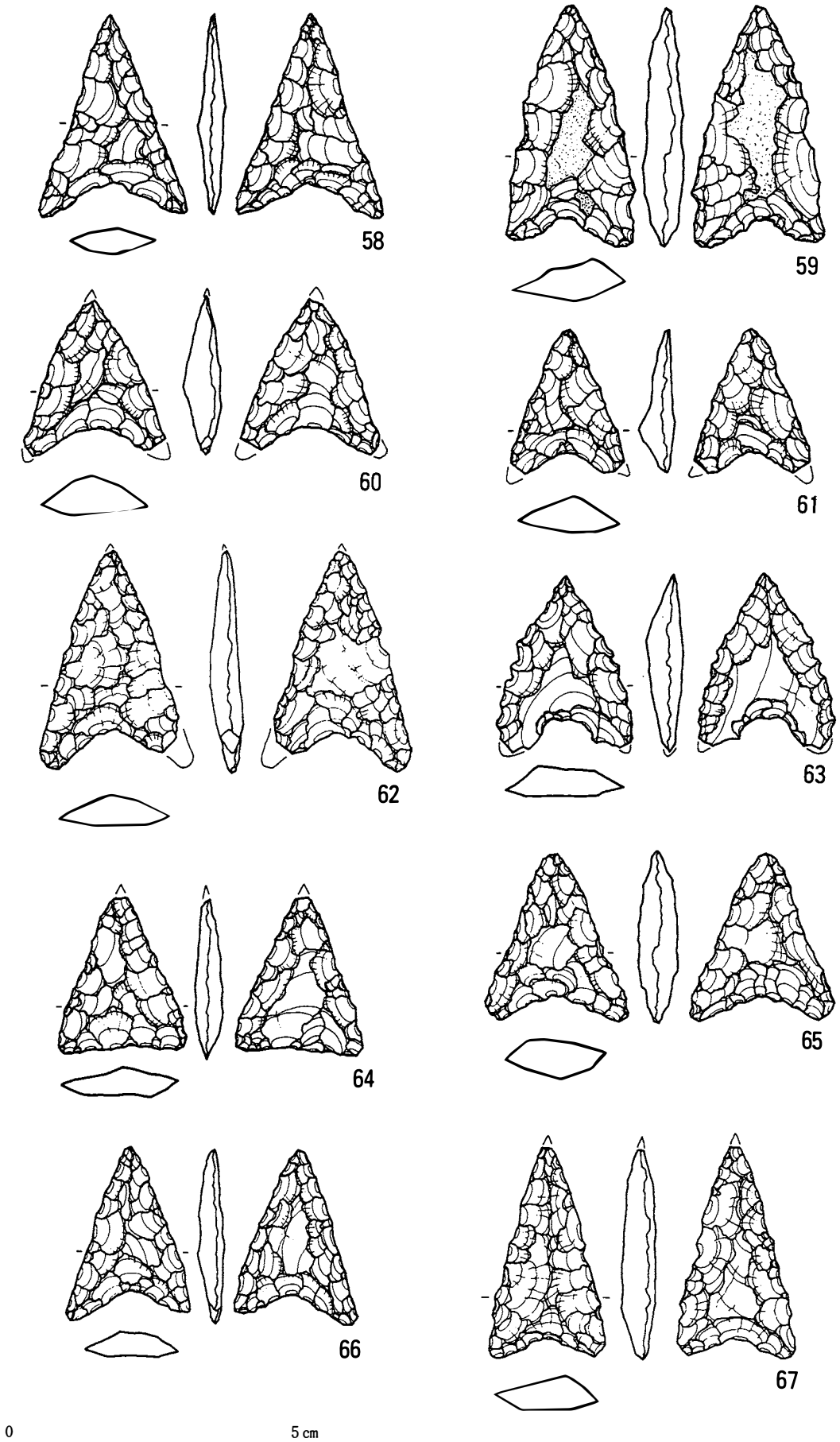

第116図　石器実測図（２）




第117図　石器実測図（３）




第118図　石器実測図（４）




第119図　石器実測図（５）

される。側縁部は、直線的で基部付近でやや曲線的になる。先端部を欠失している。

第２ｂ類（5，11，13，15，24，37，38，40，47，48，60，61，65，66）

２ｂ類は、正三角形を呈し浅い抉りを施す凹基の石鏃である。資料数は、14点である。全体形は、比較的均一で左右対称をなすものが大半であるが、なさないもの（11）もみられる。側縁部の形状は、直線的なもの（38，40，47，48，61，65，66）、やや膨らむもの（5，11，60）がみられる。

第２ｃ類（1，2，12）

２ｃ類は、正三角形を呈しＶ字状の抉りを施す凹基の石鏃である。資料数は、３点である。側縁部の形状は、直線的になるもの（１）、やや膨らむもの（12）、内湾し基部近くで膨らむもの（２）とバリエーションがみられる。

第２ｄ類（57，63）

２ｄ類は、正三角形を呈しＵ字状の抉りを施す凹基の石鏃である。資料数は、２点である。全体形は、左右対称をなし、側縁部はやや膨らみ鋸歯状を呈する。抉入部の作り出しは小さく、その深度も浅い。

未完成品（68～74，83）

出土資料のなかに未完成品と考えられるものが８点あった。これらの資料には、大まかに先端部の作り出しがなされているもの（69～72，74）、そうでないもの（68，73，83）がみられる。また、これらの資料は、素材剥片の剥離面を残置しており、その打点部の位置は基部側に置くもの（68，72～74，83）、側縁部側に置くもの（69，70，71）がある。

**尖頭器**（第121図78～82）

尖頭器は、６点が出土した。その石器組成に占める割合は、0.7%である。石材ごとの内訳は、黒耀石１点，安山岩２点，サヌカイト３点で、安山岩及びサヌカイトが卓越している。これらの資料は、その形状によって２類に分類できる。

第１類（78）

１類は、細身の柳葉形を呈する尖頭器である。資料数は、１点である。調整加工は、やや大まかな剥離によって施され、左右対称をなさない。断面形は、凸レンズ状を呈する。

第２類（79～82）

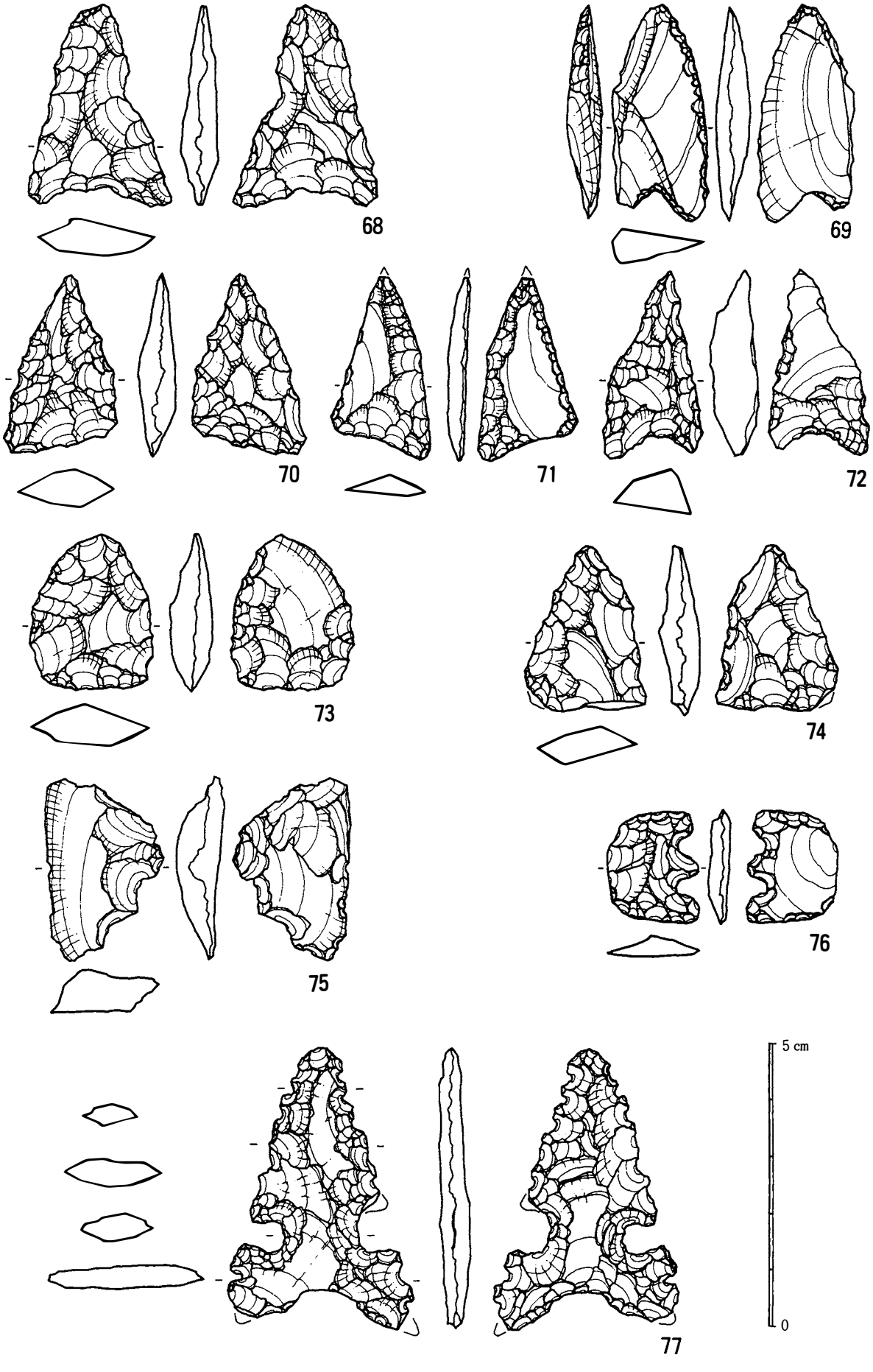
２類は、幅広の尖頭器である。左右対称をなすもの（81）、なさないもの（79，80，82）がある。これらの資料は、周縁からの調整加工が粗く大まかに施され、断面形は整っていない。

**石鋸**（第120図75，76）

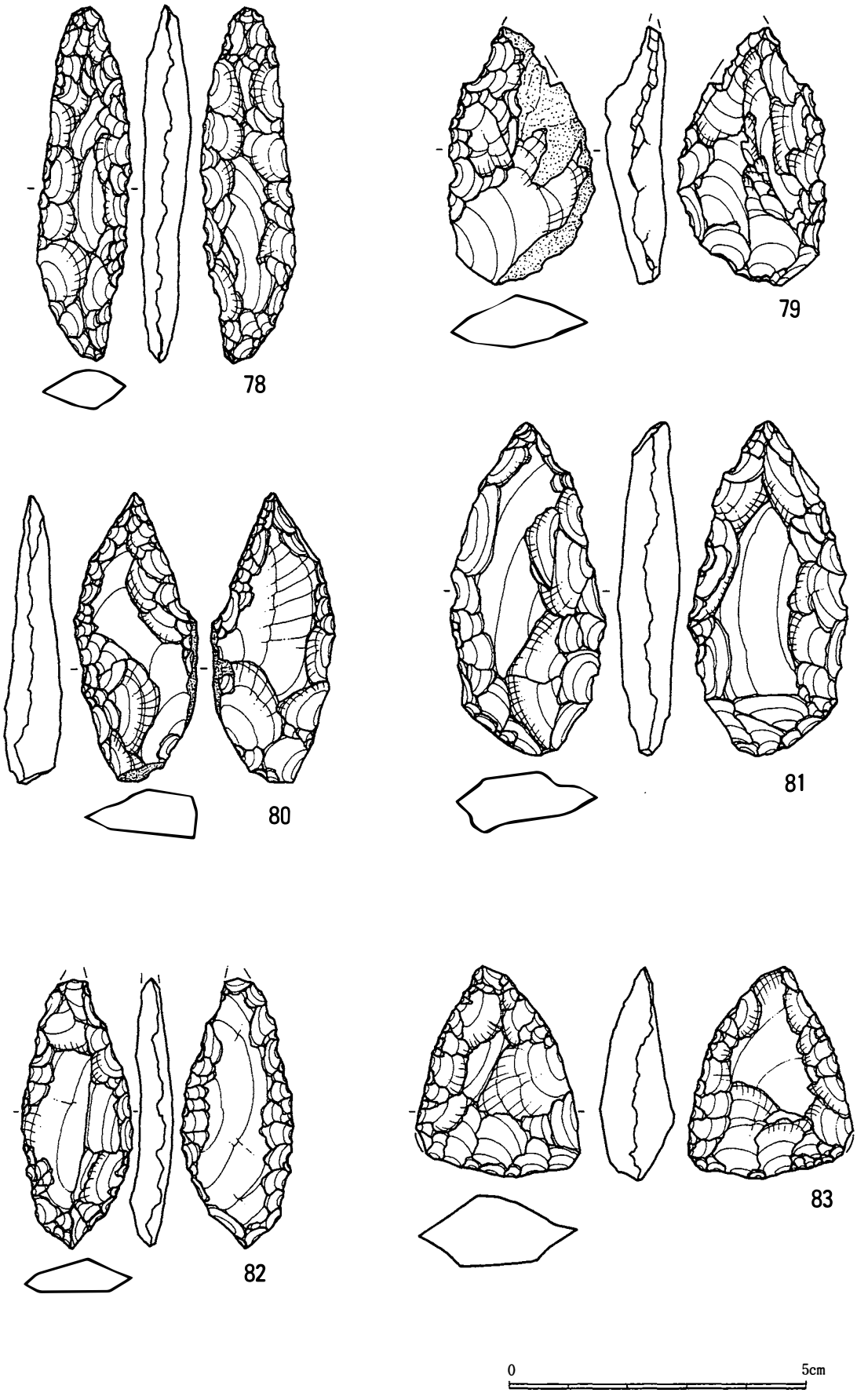
石鋸は、未完成品（75）を含めて２点出土した。その石器組成に占める割合は、0.2%である。石材ごとの内訳は、黒耀石１点，安山岩１点である。２点とも幅広の剥片を素材とし、その打点部側を側縁部側に置く。76は、２ケ所に抉入状の調整加工を施し３つの突出部を作り出している。75は、未完成品と考えられる資料で、素材剥片の打点部側に大まかな調整加工を施し、鋸歯状に作り出そうとしている。

**石錐**（第120図77）

石錐は、出土地点，層位とも不明であるが１点出土している。その石器組成に占める割合は0.1%である。石材は、サヌカイトである。全体の形状は石鏃に類似するが、側縁部が鋸歯状に作り出され体部下半の基部近くに大きく抉入状の調整加工を施している。基部の両側縁は、鋸歯状の調整加工を施し、３つの突出部を作り出している。この基部の形状は、石鋸に類似する。




第120図　石器実測図（６）




第121図　石器実測図(７)

**石匙**（第122図84～第123図96）

石匙は、15点出土した。その石器組成に占める割合は、1.8%である。石材ごとの内訳は、安山岩８点，サヌカイト７点で、安山岩及びサヌカイトのみを利用している。全体形状から、縦形（90，94），横形（84～89，96），その中間的なもの（91，92，95）がみられる。つまみ部の形状では、比較的小さく作り出すもの（87，93）と、大きく作り出すもの（84～86，88～92，94～96）とに分けられる。しかし、これらの資料のなかには、素材剥片の形状とその利用の在り方が類推できるものが含まれている。素材には、幅広ないしは不定形の縦長，横長剥片を用いて、その打点部側をつまみ部側もしくは側縁部上部に置き、上部両側縁から抉入状の調整加工を施して、つまみ部を作り出し体部と区画している。その他の調整加工は、周縁から施され刃部は、素材剥片の先端部あるいは側縁を利用し設定している。しかし、88，89，94，96のように明確な刃部の作り出しが認められないものも存在する。

**抉入石器**（第124図97～101）

抉入石器は、５点出土した。その石器組成に占める割合は、0.6%である。石材ごとの内訳は、安山岩５点で、石匙及びスクレイパーと同様に安山岩質石材で占められている。これらの資料は、抉入部が一側縁にのみみられるもの（98，99）と、両側縁にみられるもの（97，100，101）がみられる。その作り出しの在り方は、表裏面のどちらか一方の面から施すもの（98，99）と、両面から施すもの(97，100，101）とに分けられる。これらのうち100，101の資料は、抉入部の作り出し以外には調整加工が認められないが、石匙として分類した資料と製作上の類似性が認められるが、明確なつまみ部及び刃部の作り出しが認められないため抉入石器として取り扱った。石匙の未完成品である可能性も考えられる。

**削器**(第124図102～第126図117)

削器は、40点出土した。その石器組成に占める割合は、4.9%である。石材ごとの内訳は、安山岩９点，サヌカイト30点，チャート１点である。これらの資料のうち、16点のみを図示した。

これらは、刃部の状態によって３類に分類される。以下、類ごとに説明を行なう。

第1類(102，104，106，108～112，115，117)

１類の削器は、素材となる剥片の一辺に刃部が設定されているものである。この資料は、刃部の作り出しの状態から片刃(102，109～112，115)、両刃(104，106，108，117）に細分できる。

第２類(103，105，113，116)

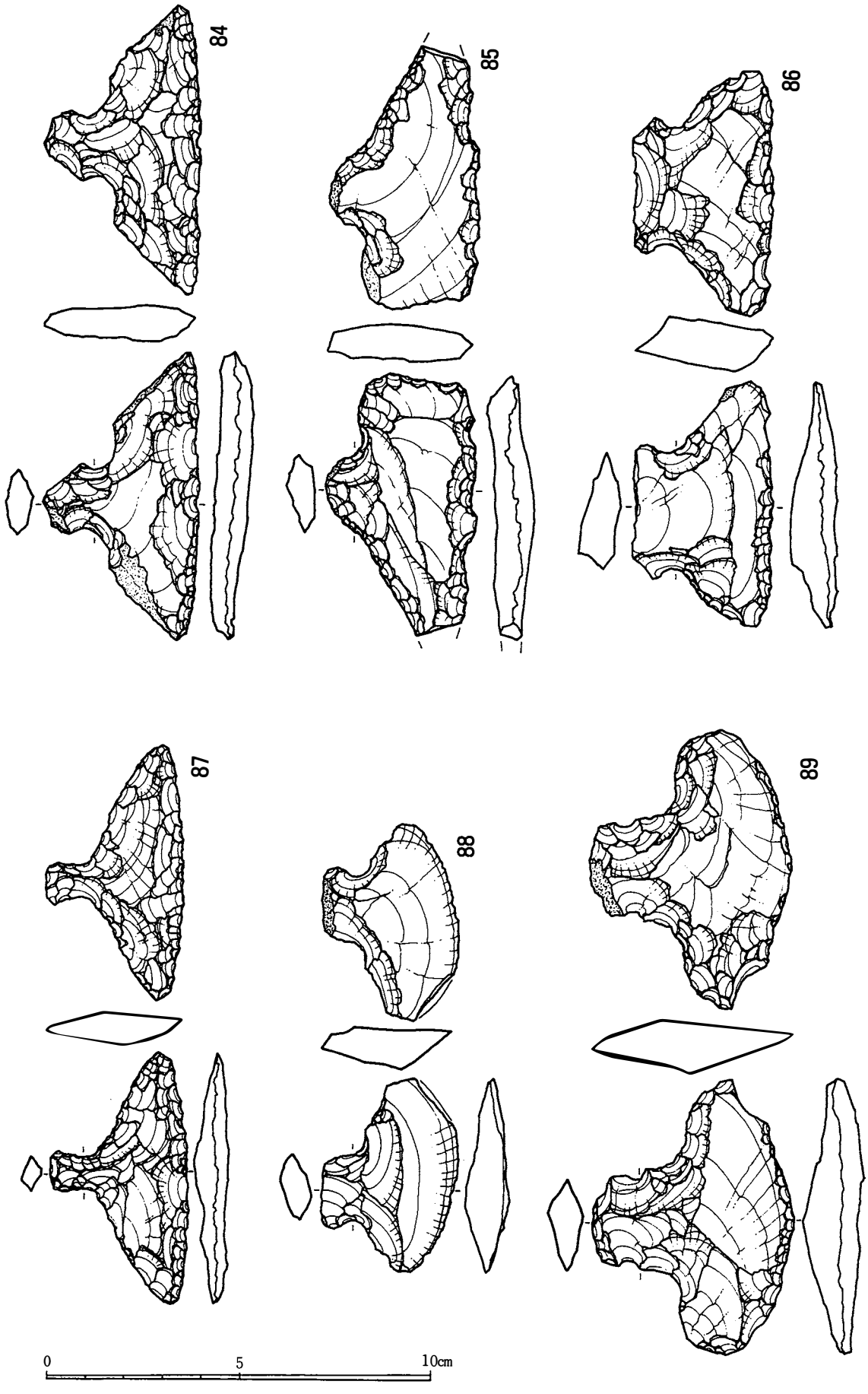
２類の削器は、素材となる剥片の二辺に刃部が設定されているものである。この資料は、刃部の作り出しの状態から片刃（113)、両刃(103，105，116）に細分できる。

第３類（107）

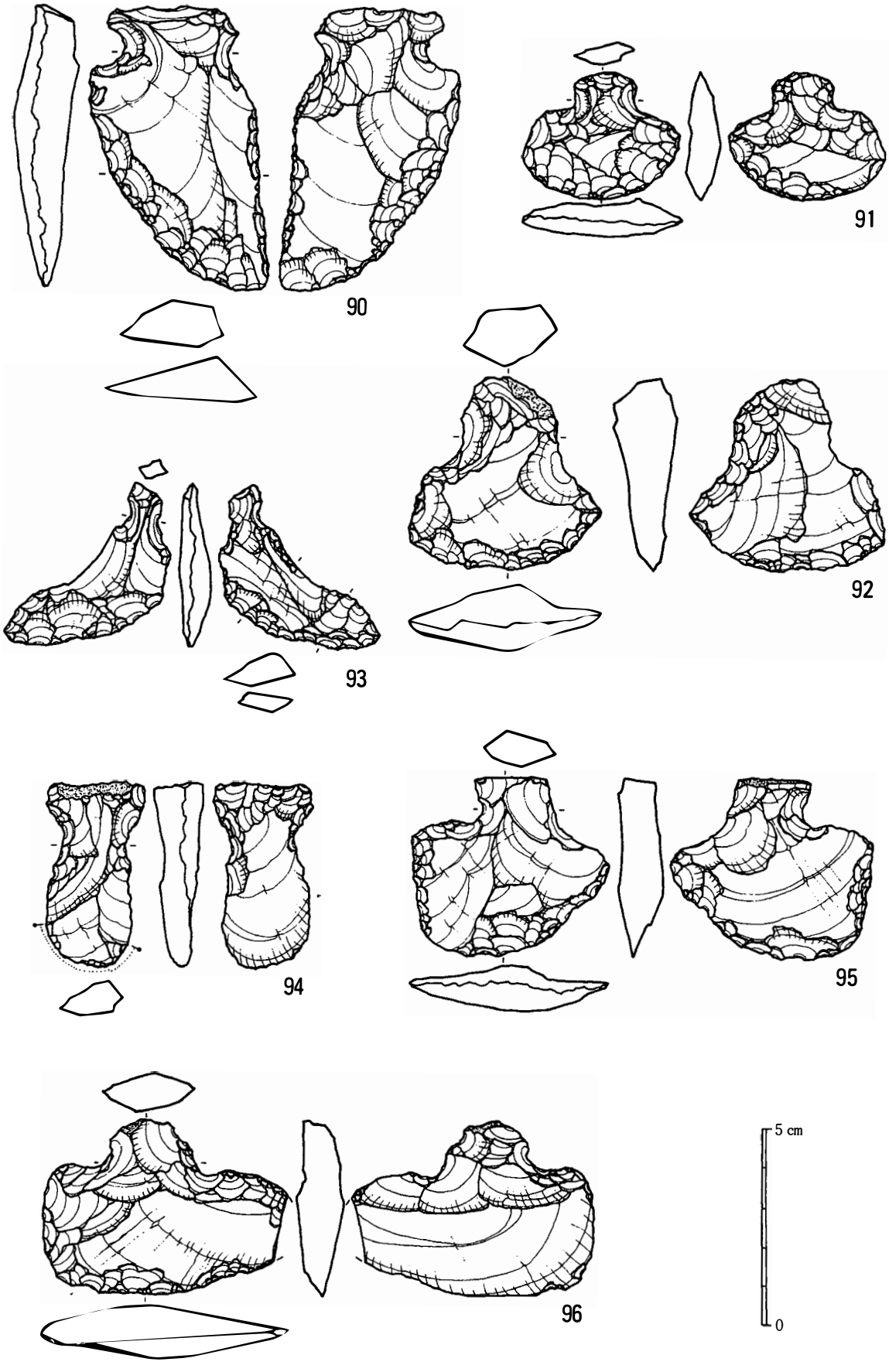
３類の削器は、素材となる剥片の三辺以上に刃部の設定が認められるものである。この資料は、刃部の作り出しの状態から片刃である。

**石錐**(第127図118～125)

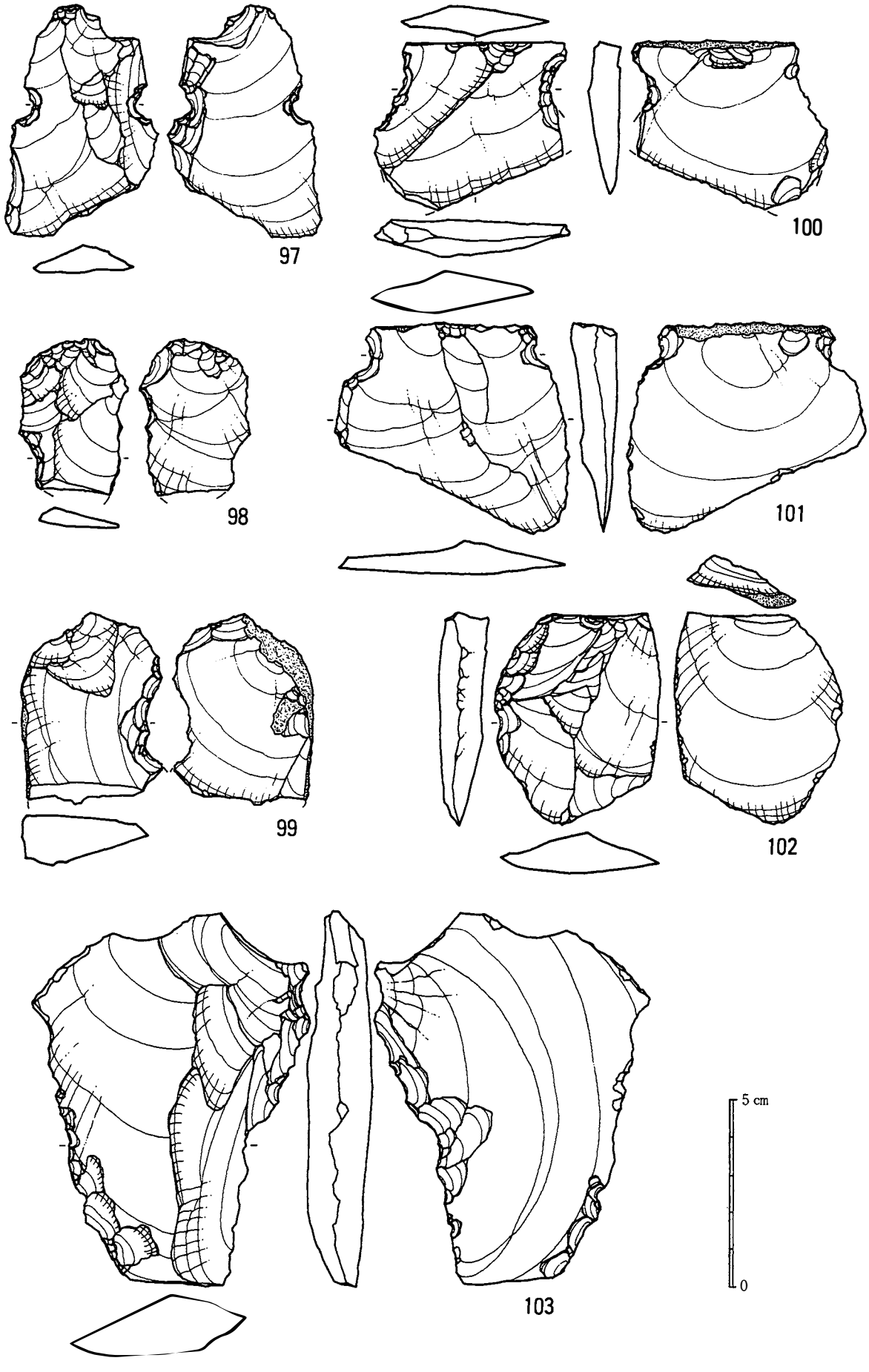
石錐は、８点出土した。その石器組成に占める割合は1.0%である。石材ごとの内訳は、100%サヌカイトである。これらの資料は、123を除いてその外は全体形が類似している。基部からそのまま錐部へ至り、明瞭なつまみ部の作り出しが認められない資料である。錐部の作り出しは、表裏両面の左右両側縁からの調整加工によるもの(118，120～123)、表面の左右両側縁からの調整加工によるもの(124，125)、表裏両面の左右片側一方からの対向する調整加工によるもの（119）がある。



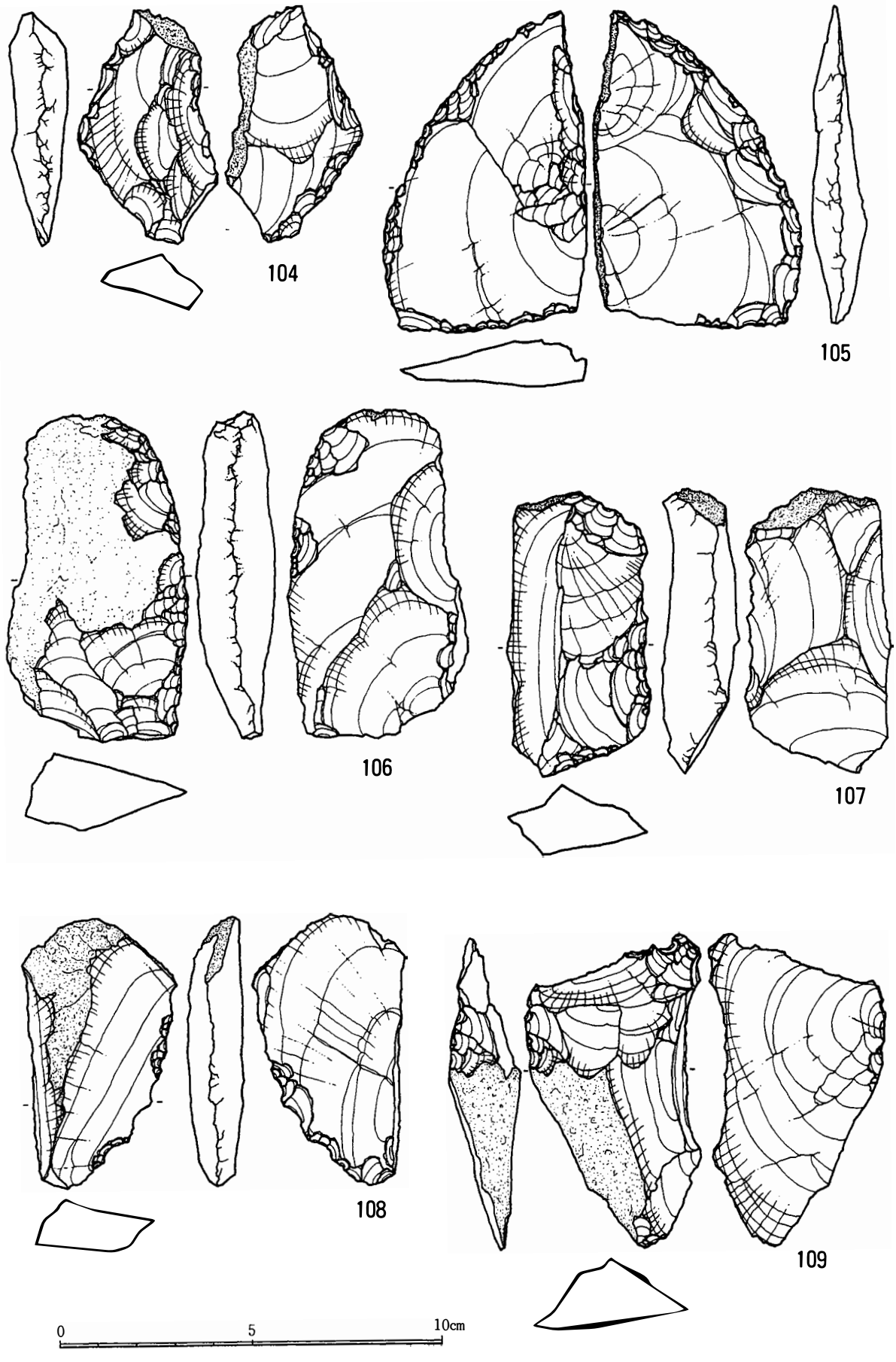

第122図　石器実測図（８）



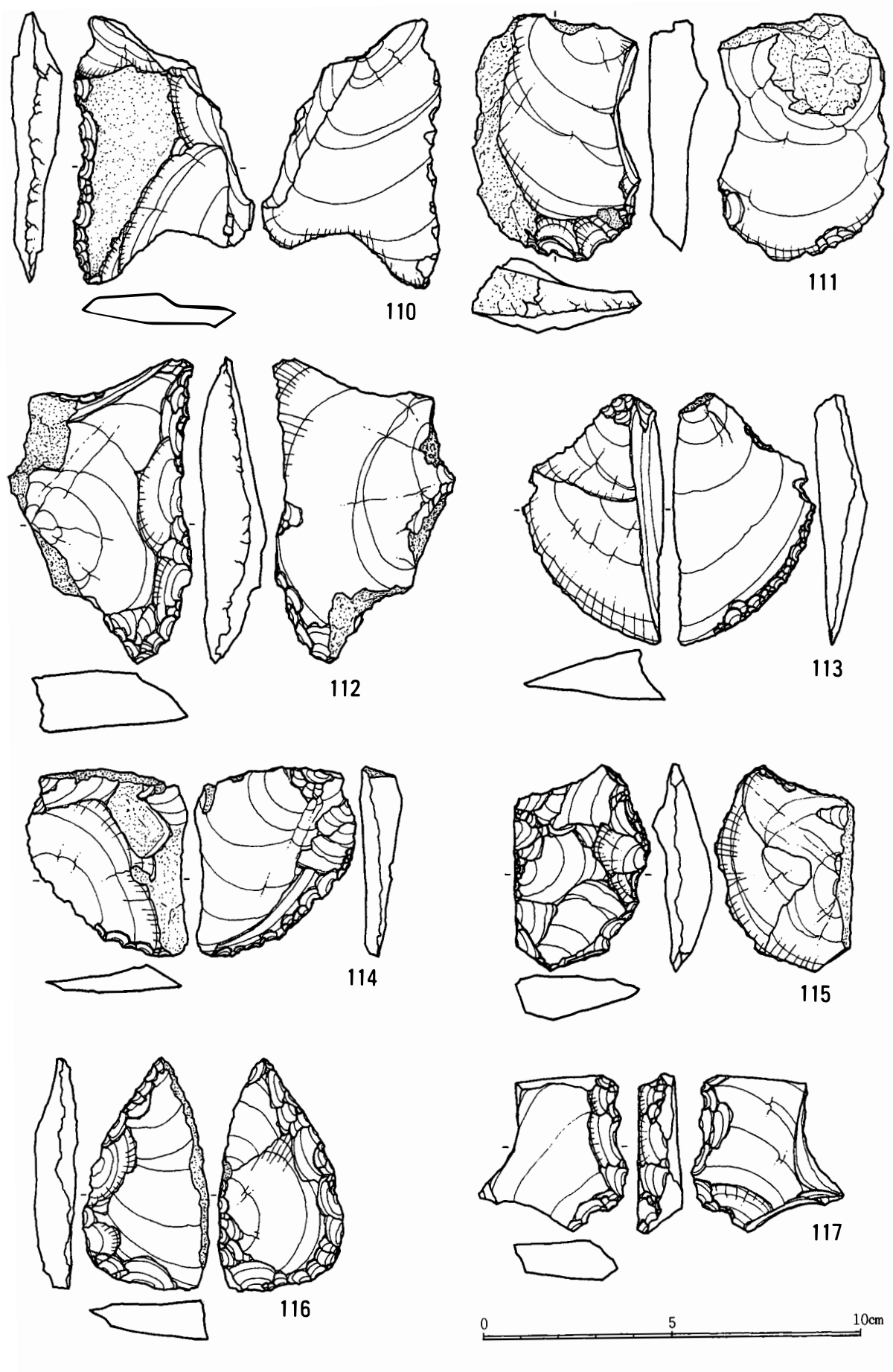

第123図　石器実測図（９）



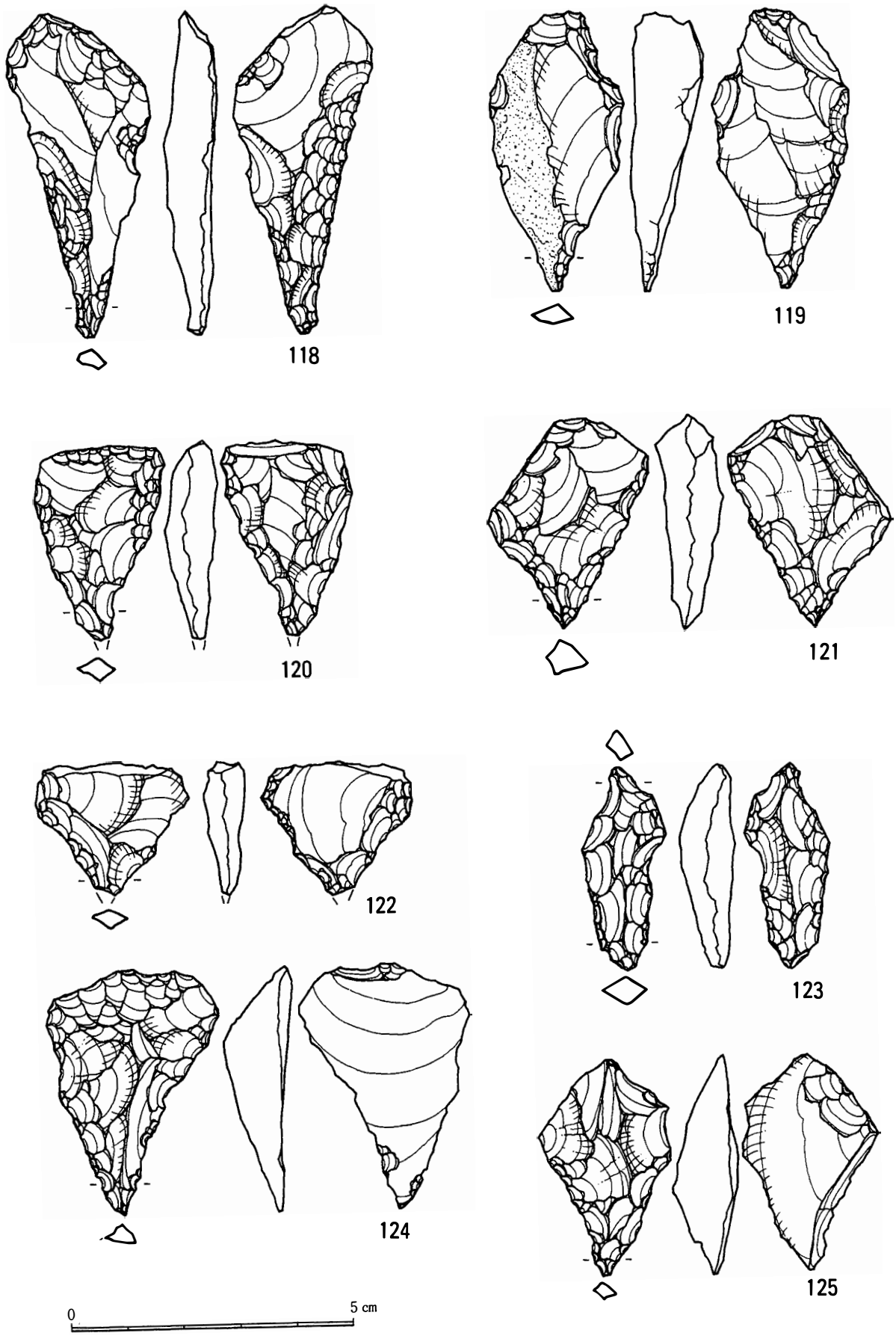

第124図　石器実測図(10)




第125図　石器実測図(11)




第126図　石器実測図(12)




第127図　石器実測図(13)

**石錘**(第128図126～第129図142)

石錘は、42点出土した。その石器組成に占める割合は、5.2%である。石材ごとの内訳は、安山岩質９点，砂岩27点，泥岩２点，センマイ岩４点である。これらの資料のうち、17点を図示した。

これらの資料は、紐掛け部の作り出しの状態から細分ができる。

第１類(133，137，138，141)

１類は、礫の長軸両端に切り込みを入れたもので、「切目石錘」と一般的に呼称されているものである。素材は、主に扁平な小礫を利用する。

第２類(126～132，134，136)

２類は、礫の長軸両端に小剥離を施したものである。素材は、１類と同様に扁平な小礫を利用する。

第3類(135，139，140)

３類は、切り込みと小剥離を併用したものである。扁平な小礫(135，139)と剥片（140）を素材としたものがある。

第４類（142）

４類は、円礫の周縁に紐掛けの溝を作り出したもので、「有溝石錘」と呼称されるものである。142の１点のみが確認された。

**浮子**(第130図143～152)

浮子は、13点出土した。その石器組成に占める割合は、1.6%である。石材は、すべて軽石を素材として利用している。これらの資料は、孔の数にバリエイションがみられる。孔の数が1つのもの(143，144，148～152)、２つのもの(145，147)、3つのもの（146）がある。穿孔部の位置では、中央にみられるもの(143，144，152)、長軸のどちらか一方に偏るもの(145～150)がみられる。151は、中央に孔が設定されており、表裏両面から加工が施され完全には穿孔されていない資料である。

**磨製石斧**(第131図153～第135図208，第135図210)

磨製石斧は、170点出土した。その石器組成に占める割合は、20.8%である。石材ごとの内訳は、蛇紋岩60点，安山岩74点，砂岩35点である。これらの資料は、全体の形状や側縁部の形状等、形態的特徴から１～４類に分類でき、さらに刃部の形状から直刃（ａ）、円刃（ｂ）、斜刃（ｃ）に細分できる。以下、類型ごとに説明を行なう。

第1類(163～166)

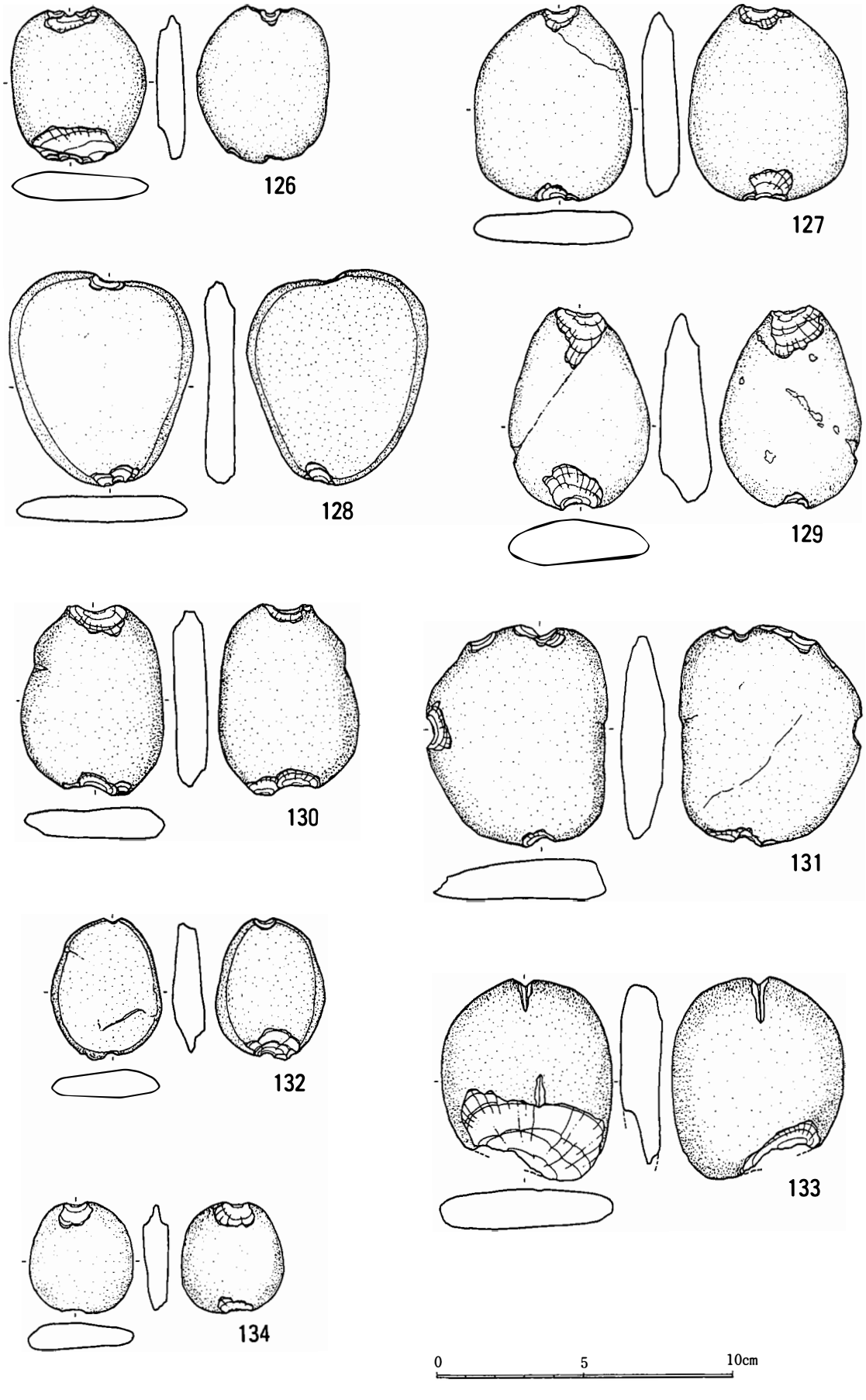
１類は、細身で全体形が長方形を呈し、他の資料と比較して小型の石斧である。刃部の形状から、ａ直刃をなすもの(163，164）と、ｂやや丸みをもつもの（165)、ｃやや斜めのもの（166）に細分できる。

資料数は、４点である。これらの資料のうち163，164，166は、胴部下半から刃部にかけてやや窄まる。所謂「ノミ」として分類される石器である。

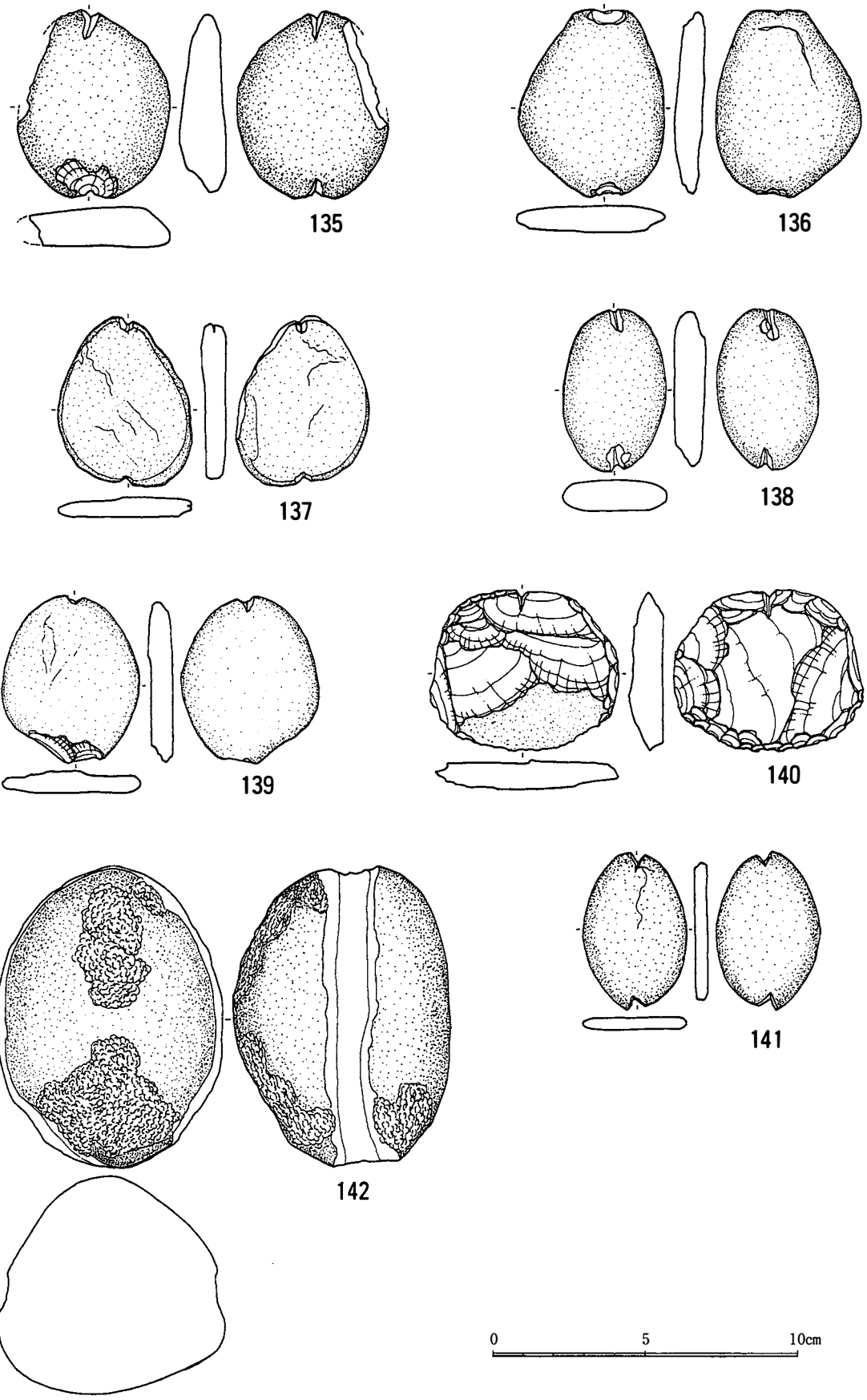
第２類(159，172，173，175，176，178，182，185～187，189，193，195，197～199，201，205)

２類は、全体形が長方形を呈し、１類に比べて大きいものである。刃部の形状は、a直刃のもの（176）と、ｂ円刃をなすもの(173，178，182，185～187，189，195，197)、ｃやや斜めのもの(172，193，198）に細分できる。これらの資料のうち201は、表面中央より左側に研磨痕がみられ、刃部の研ぎ出しがみられない。205は、右側縁にのみ研磨痕が認められ表裏両面とも研磨痕はみられない。201，205は、未完成品であると考えられる。

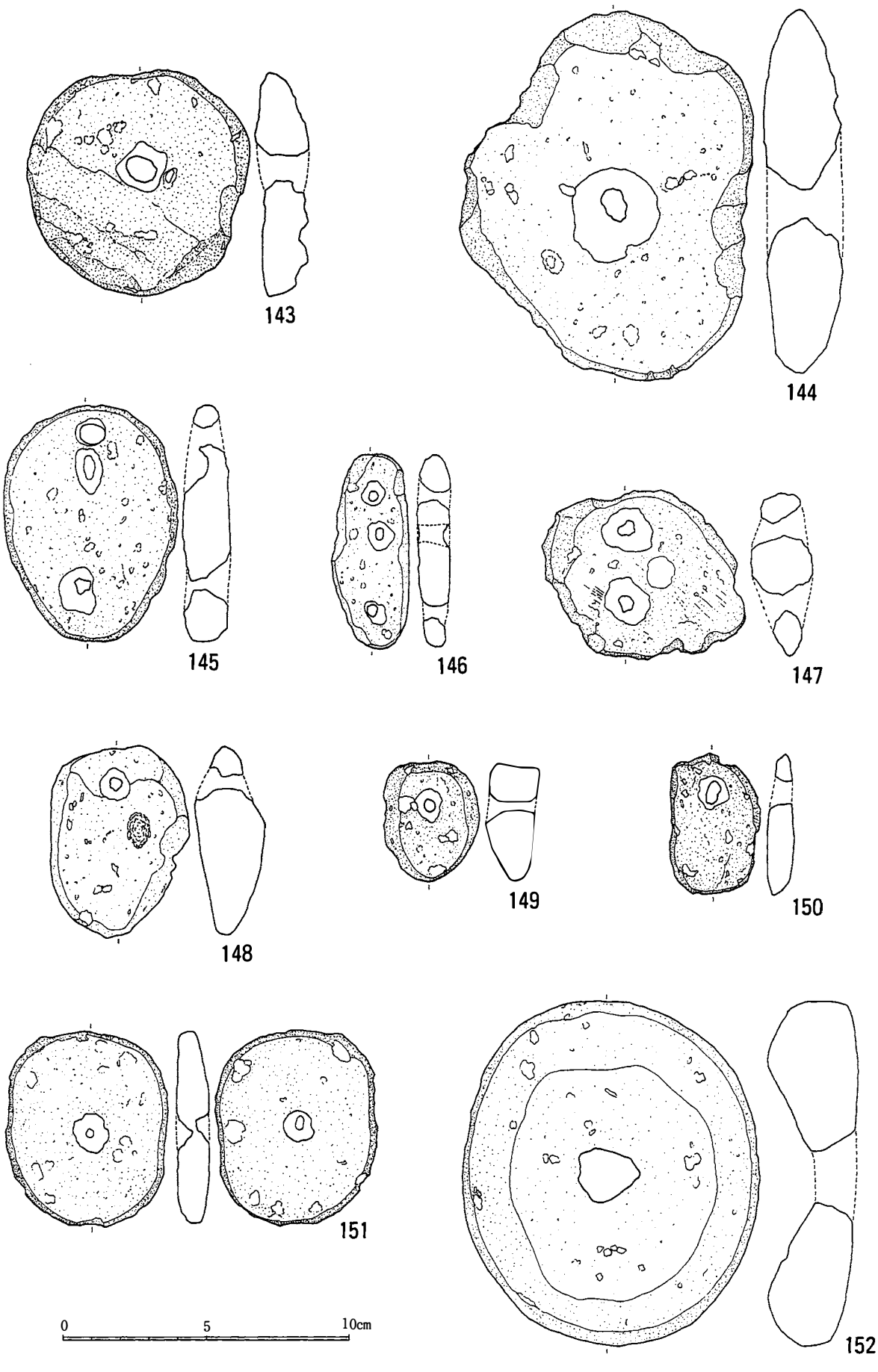
第３類(177，179，191，192，194，196，200，202)



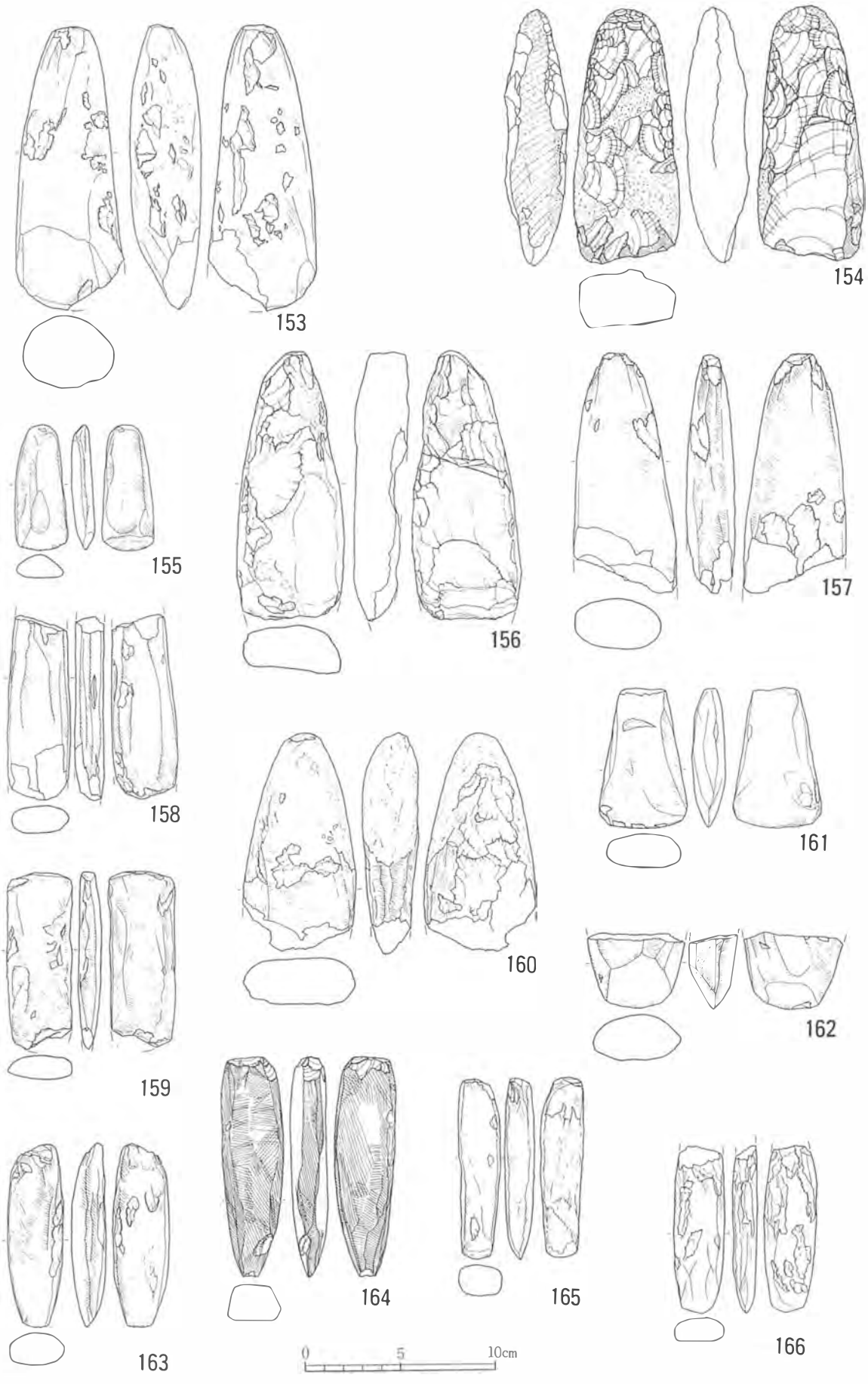

第128図　石器実測図(14)



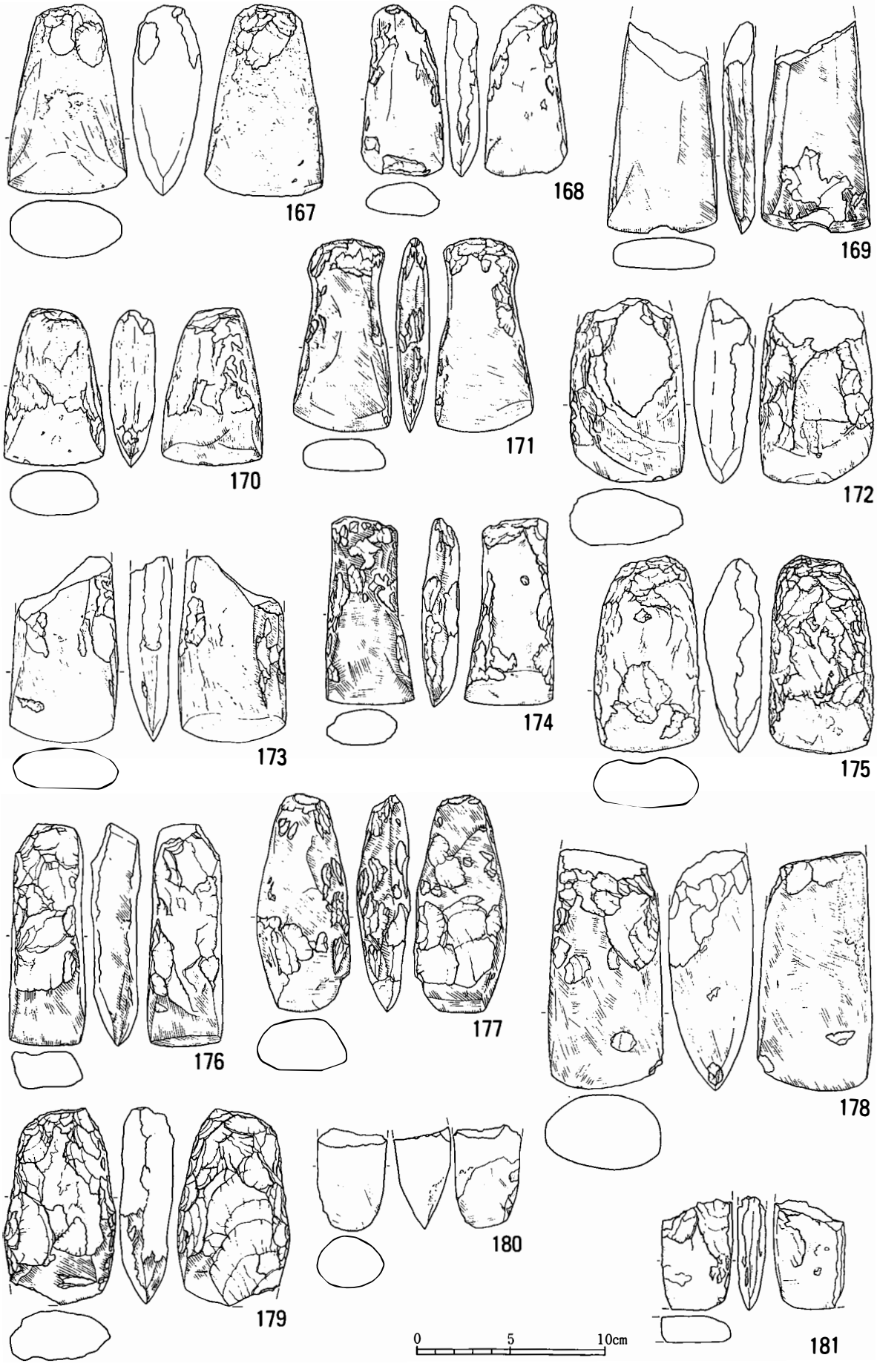

第129図　石器実測図(15)



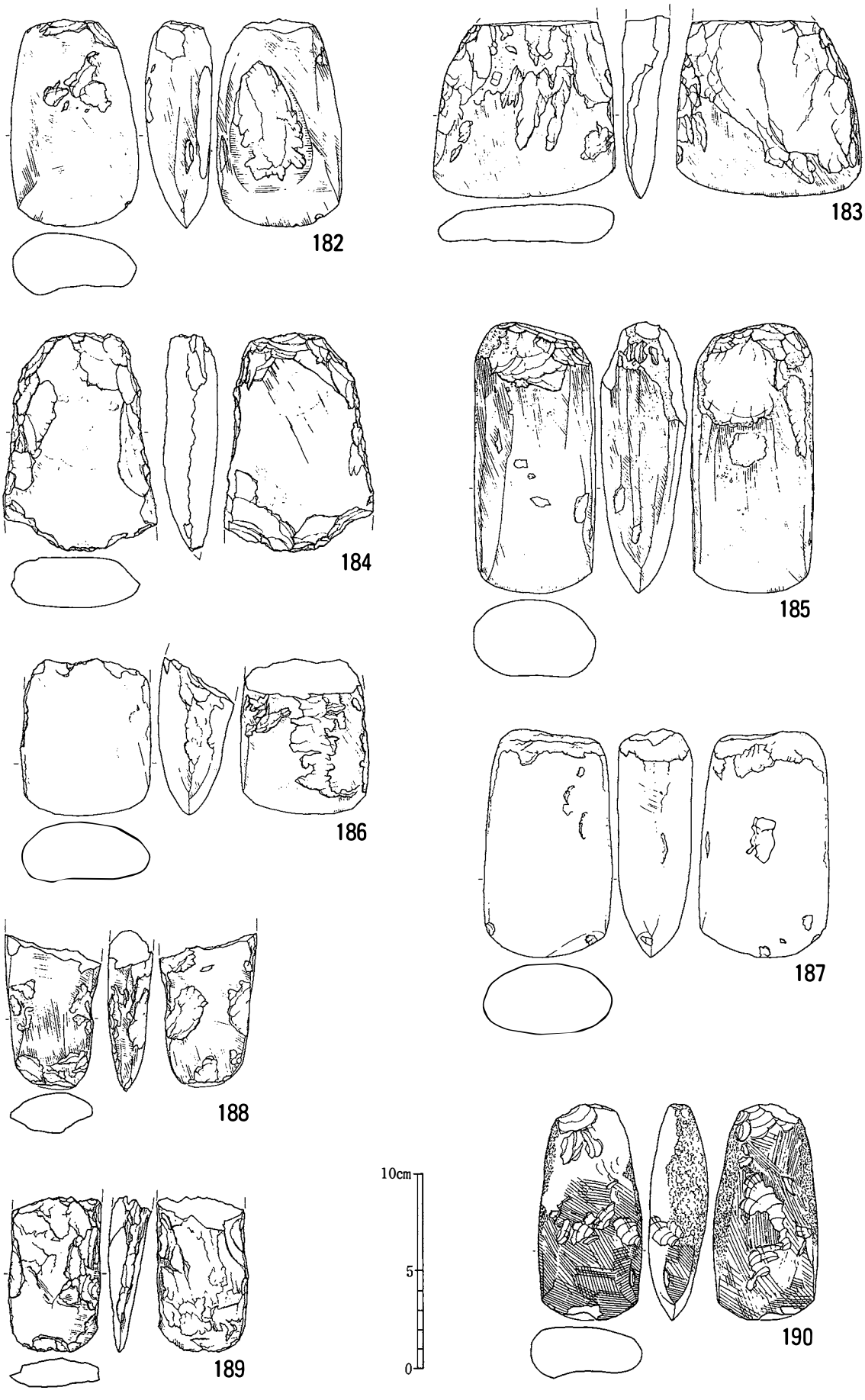

第130図　石器実測図(16)



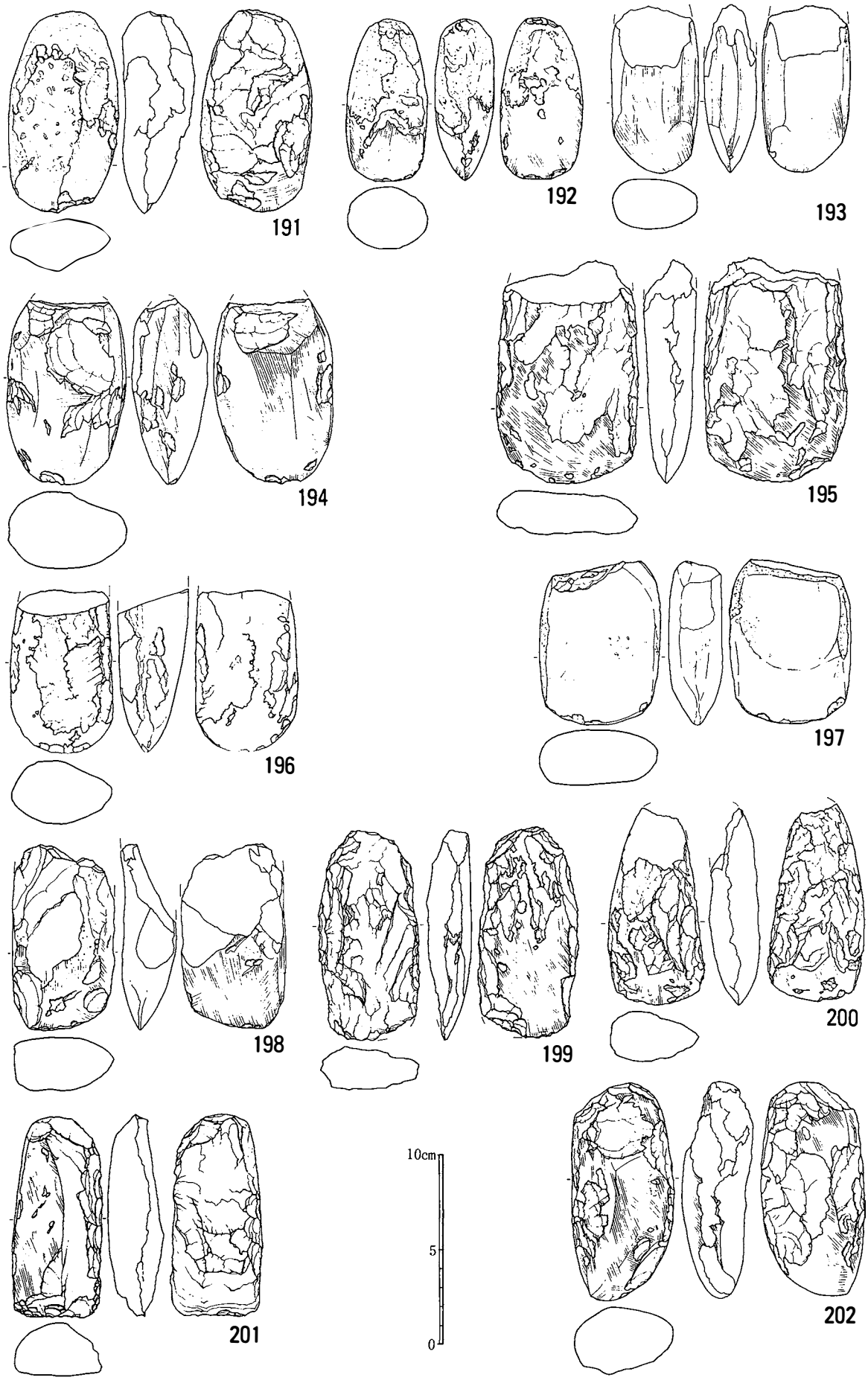

第131図　石器実測図(17)



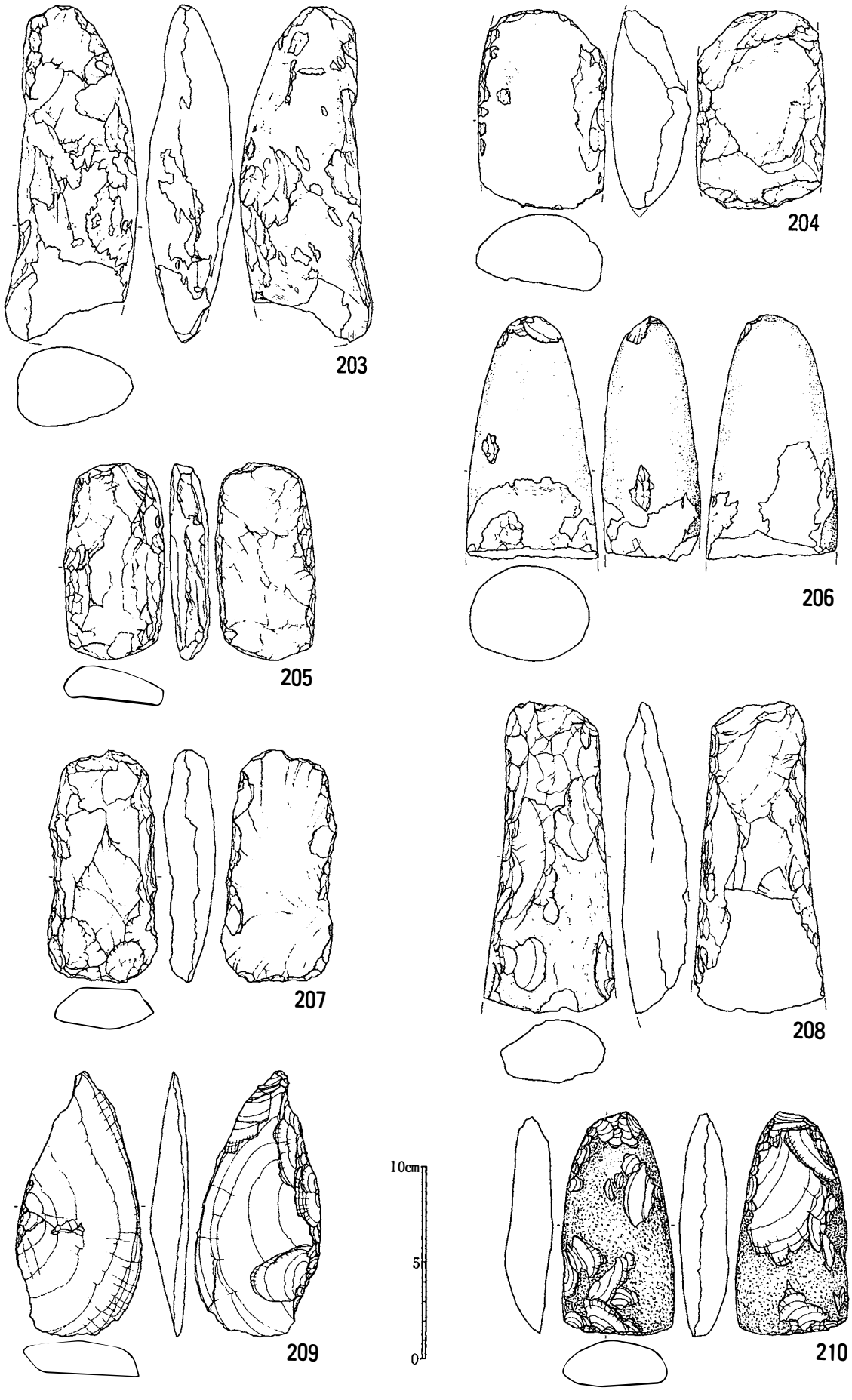

第132図　石器実測図(18)




第133図　石器実測図(19)




第134図　石器実測図(20)




第135図　石器実測図(21)

３類は、両側縁が膨らみ全体形が長楕円形を呈するものである。刃部の形状は、b円刃のもの(191，192，194，196，200）c斜刃のもの(202)に細分できる。これらの資料は、厚みがあり側縁に面を作り出すような研磨痕が認められるものは179，194，202であるが、他の類型に比べて面の作り出しは顕著ではない。

第4類(155，161，167，169，170，183）

４類は、頭部幅が刃部幅に比べて狭く、全体形が台形状になるものである。所謂「定角式」磨製石斧に分類できる資料である。刃部の形状はすべて、ｂやや丸みをもつものである。大きさでは、小型(155，161)、中型(167，170)、大型(169，183）に分けられる。

第５類(168，171，174，177）

５類は、頭部幅が刃部幅に比べて狭く、第４類に形状的に類似するが、両側縁頭部近くにやや内湾する調整加工がみられるものである。刃部の形状は、ａ直刃となるもの(174，177）と、ｂやや膨らみ円刃となるもの(168，171）に分けられる。

第6類(153，154，190，210）

６類は、頭部が細く棒状をを呈するものである。刃部の形状は、b円刃のもの(153，190）と、斜刃のもの（154）とに分けられる。154，210は、未完成品である。

所属不明の石斧(156～158，160，162，180，181，184，188，203，204，206，208）

欠損によって、類の認定にかかわる情報を知り得なかった資料がある。１類に属するもの１例（158)、２類に属するもの1例（204)、６類に属するもの5例(156，157，160，203，206）がある。その他の資料は、不明である。また、ｂ類に属するもの2例(162，180）がある。

**打製石斧**(第135図207，209）

打製石斧は、２点出土した。その石器組成に占める割合は、0.2%である。石材ごとの内訳は、安山岩１点，砂岩１点である。207は、全体形が長方形を呈し、短冊型に分類できる資料である。調整加工は、周縁から粗く施している。209は、一側縁及び頭部に粗く調整加工を施し、刃部は素材の形状をそのまま利用している。

**磨石･敲石**(第136図211～第142図258）

磨石･敲石は、193点が出土した。その石器組成に占める割合は、23.6%である。出土した磨石・敲石は、その形状によって、第１類～第４類に分類される。以下、類ごとに説明を行なう。

第1類(223，224，227，228，230，232，235～237，239，240，242～245，250，253，258）

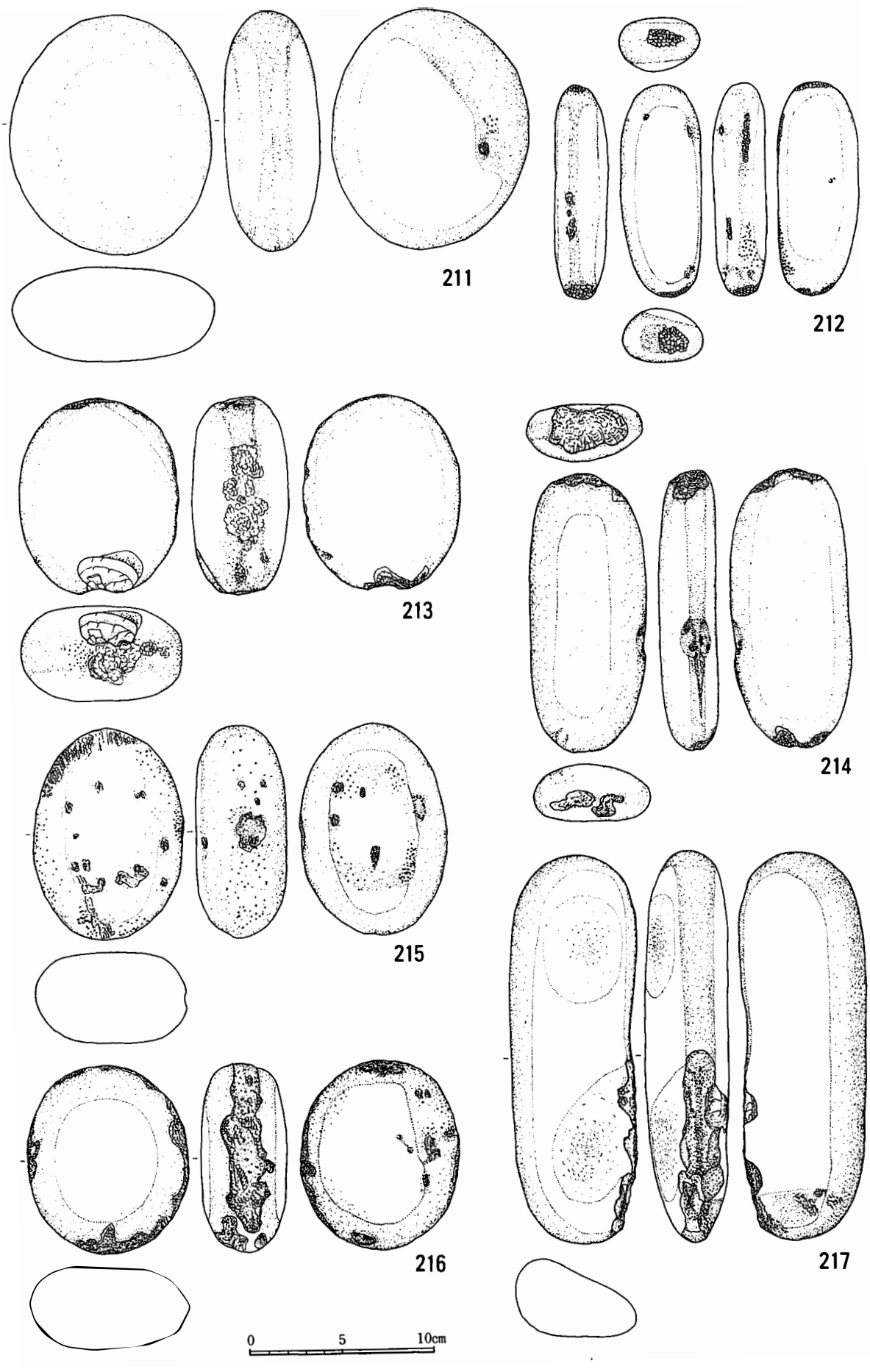
１類は、石器の形状が楕円形を呈するものである。形状的には均質である。これらの資料は、敲打痕の部位により細分ができる。それは、敲打痕が石器の縁辺の全域と表裏面に認められるもの（224)、縁辺の一部に認められるもの(227，230，235～237，244，245，２50，253)、縁辺の一部と表裏面に認められるもの(215，223，228，232，239，240，258）である。

第２類(211，213，216，218，219，221，225，226，229，231，234，247，254,）

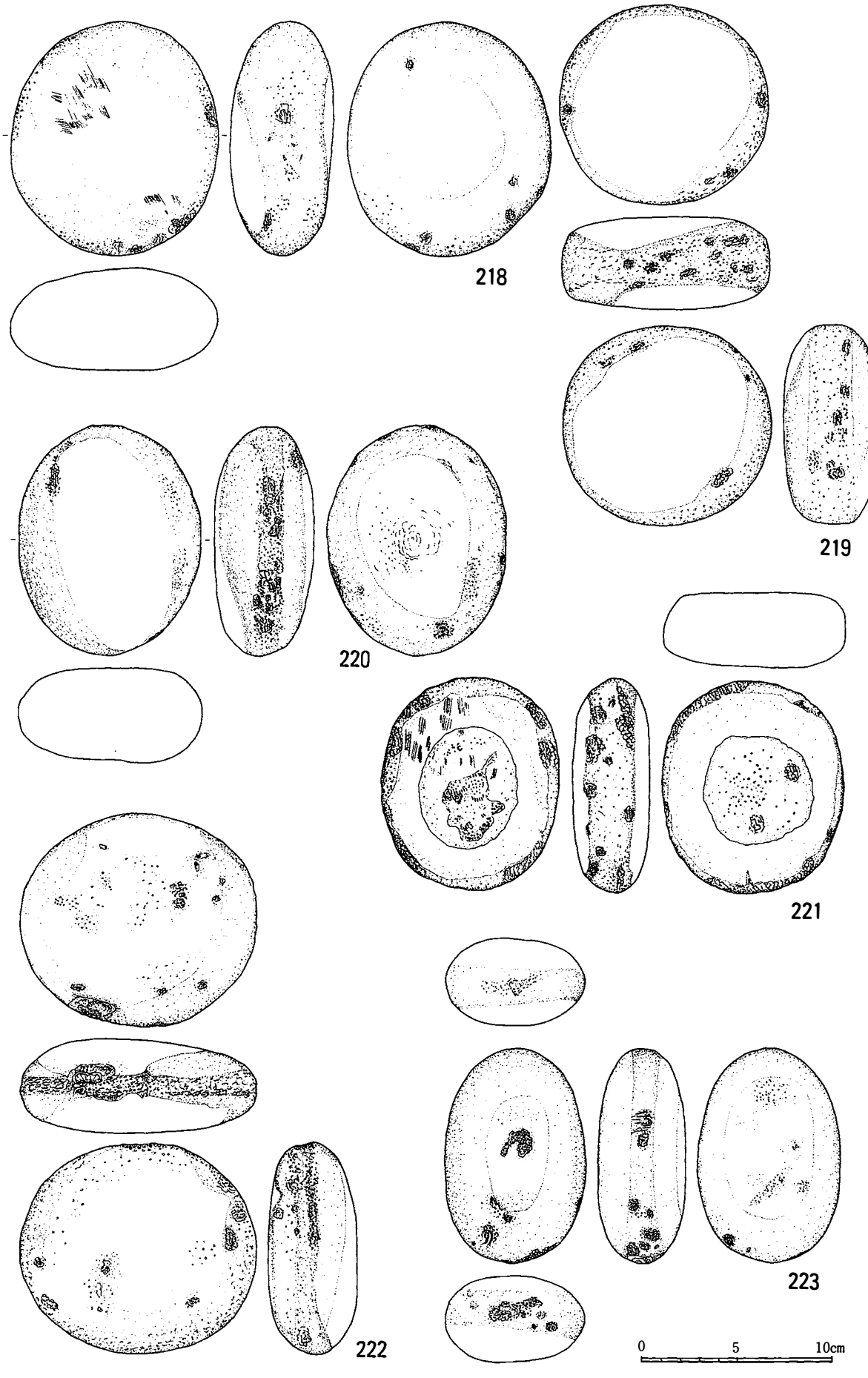
２類は、石器の形状が円形を呈するものである。大きさは、大型と小型に分類できる。これらの資料は、敲打痕の部位によって細分できる。それは、敲打痕が石器の縁辺の全域に認められるもの(213，218，226，231)、縁辺の全域と表裏面に認められるもの(216，219，221，222，225)、縁辺の一部に認められるもの(229，247)、縁辺の一部と表裏面に認められるもの(234，254）である。

第３類(238，241，246，251，252，255～257）

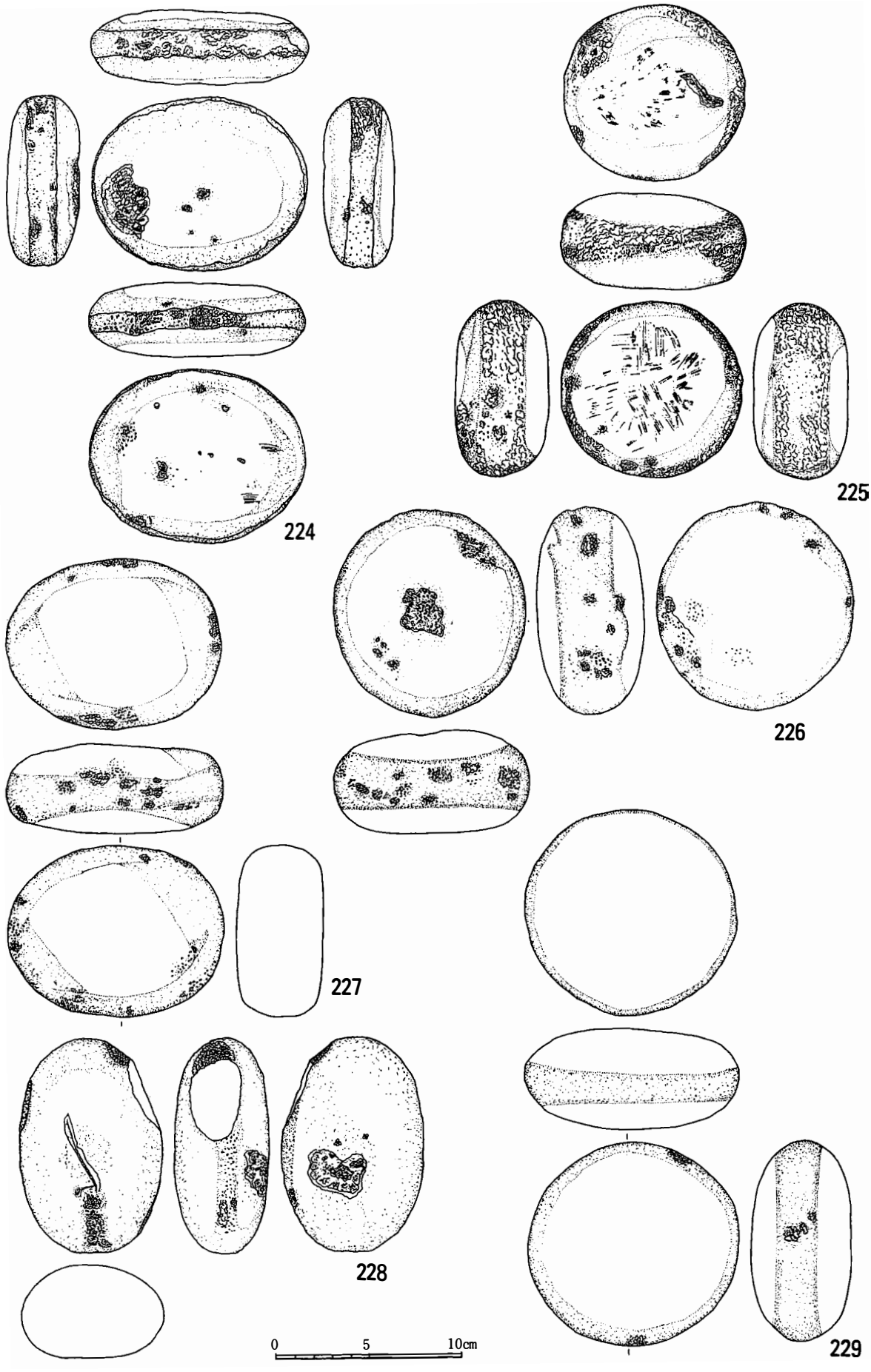
３類は、石器の形状が不整形のものを一括して取り扱った。これらの資料は、敲打痕の部位によって細分



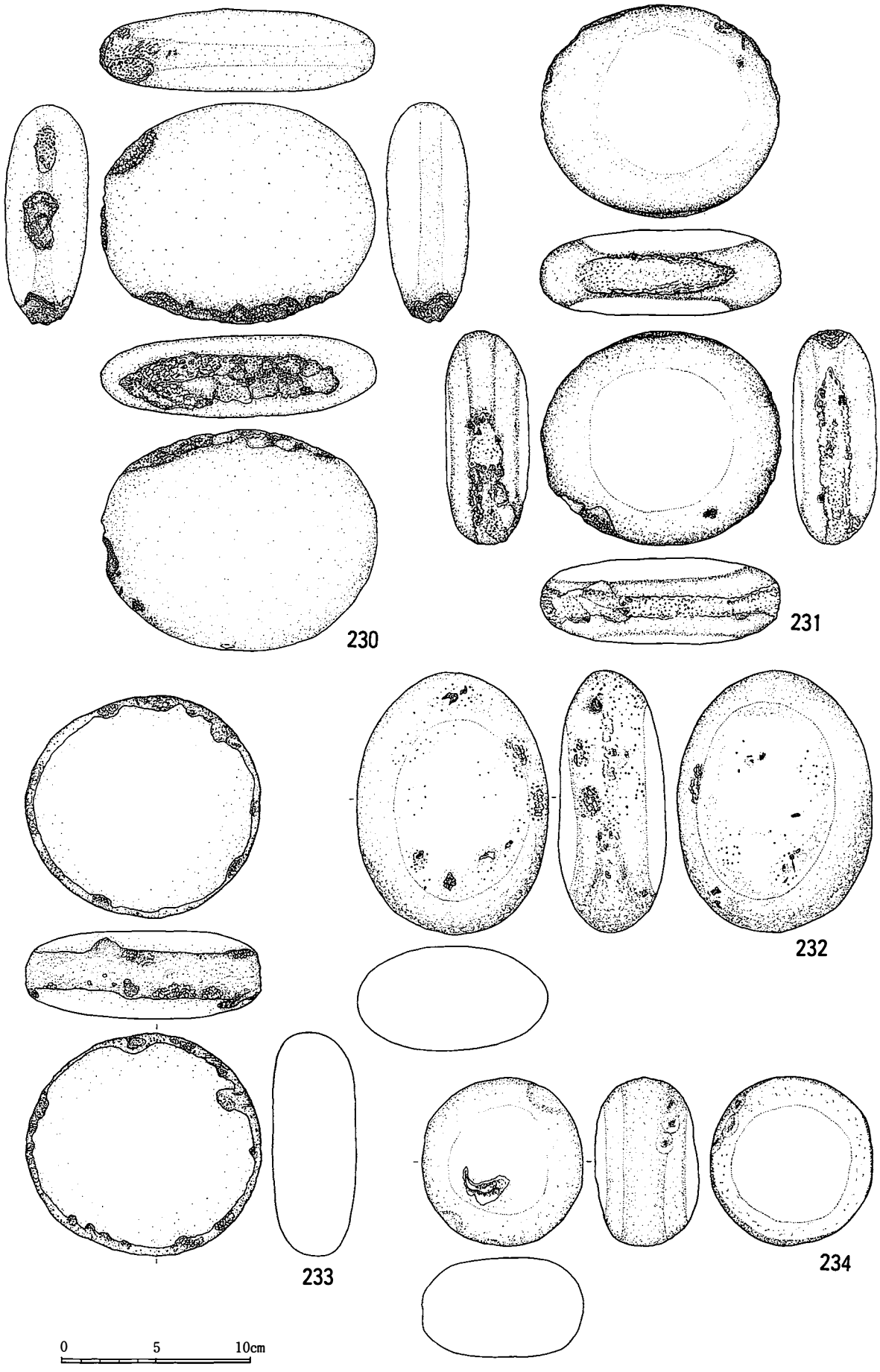

第136図　石器実測図(22)



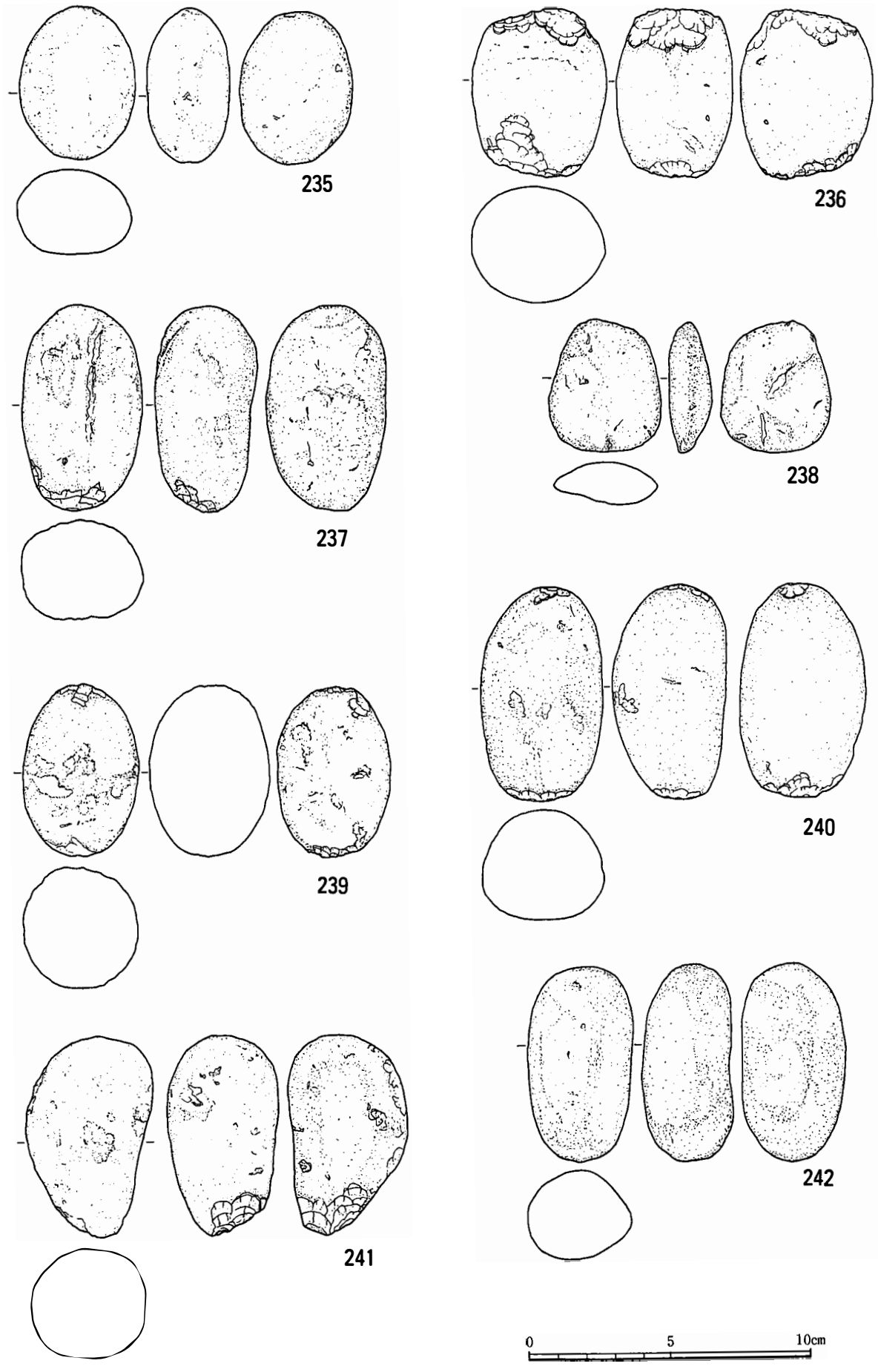

第137図　石器実測図(23)



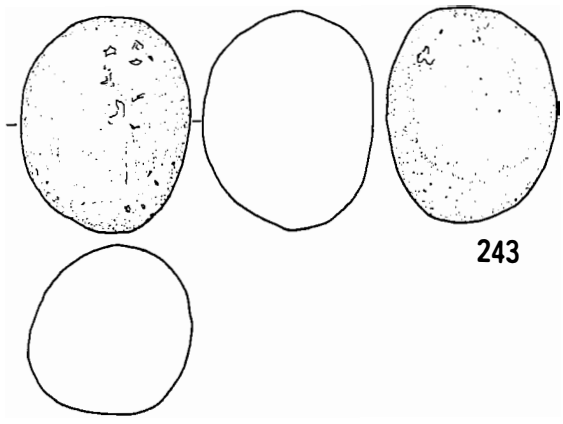

第138図　石器実測図(24)

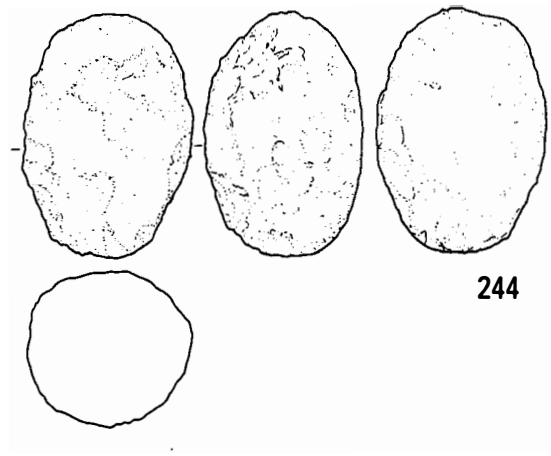


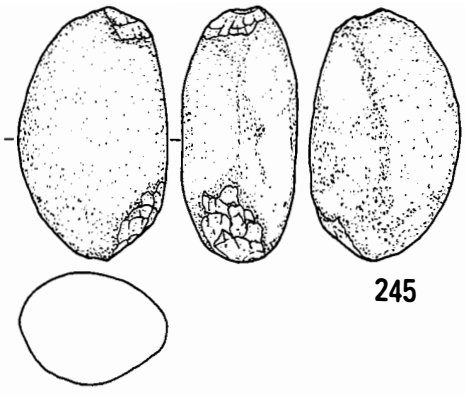

第139図　石器実測図(25)

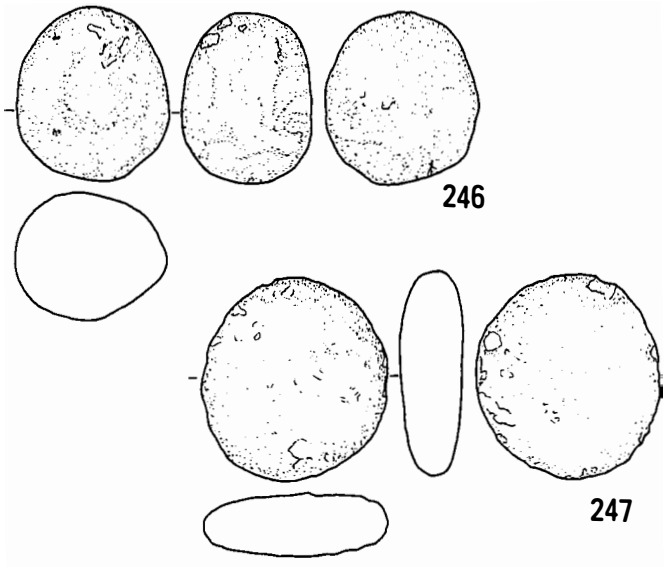


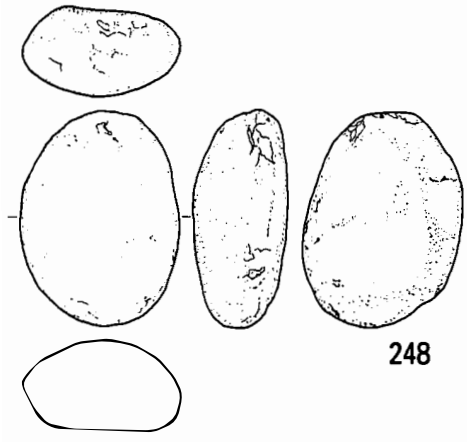

第140図　石器実測図(26)

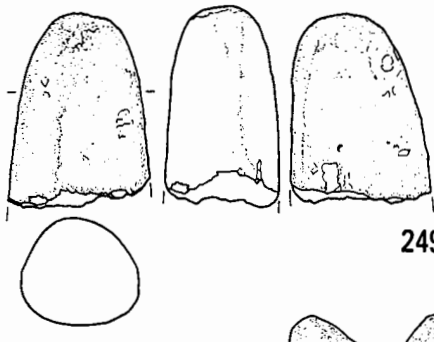


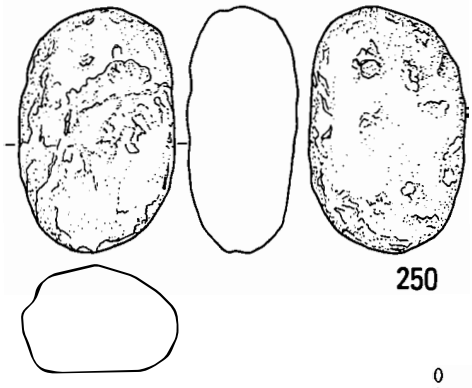



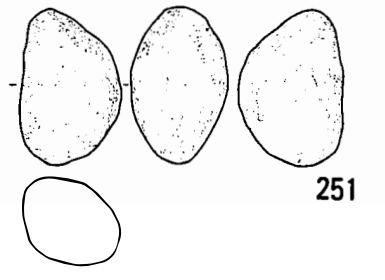



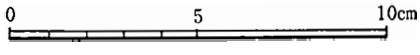



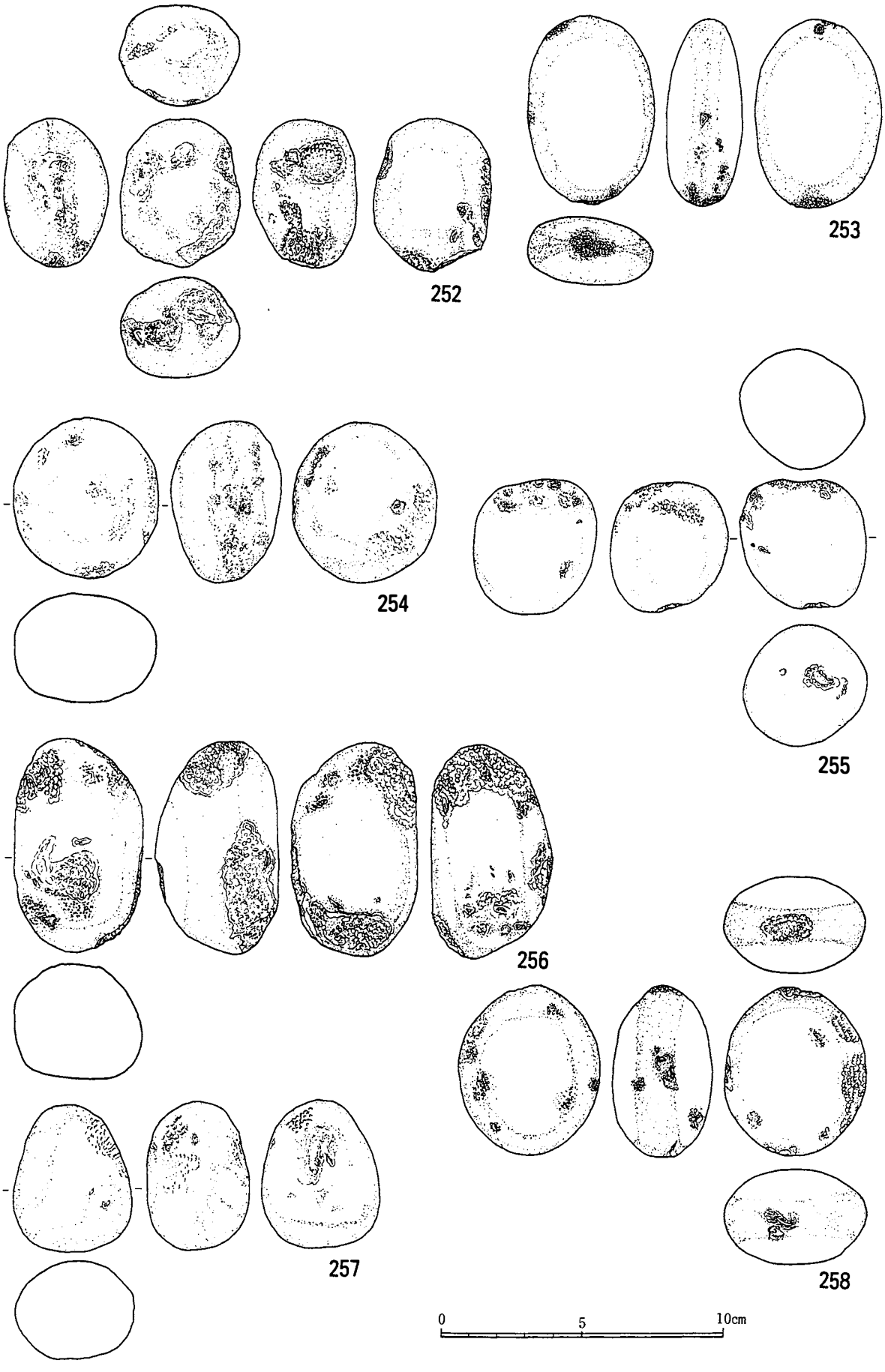




**第141図　石器実測図(27)**




第142図　石器実測図(28)

できる。それは、敲打痕が石器の縁辺の全域と表裏面に認められるもの(238，252，256)、縁辺の一部に認められるもの(241，246，251)、縁辺の一部と表裏面に認められるもの(254，255，257）である。

第４類(212，214，217）

４類は、石器の形状が棒状を呈するものである。これらの資料は、敲打痕の部位によって細分できる。それは、上下両端に敲打痕が顕著に認められるもので、側縁の一部にもわずかに痕跡が残るもの(212，214）縁辺の一部に認められるもの（217）である。

**石皿･台石**(第143図259～第144図262）

石皿・台石は、32点出土した。その石器組成に占める割合は、3.9%である。石材は、砂岩32点である。石皿・台石と磨石・敲石との数量関係では１：6.0となり、単純には磨石・敲石　６個に対して、石皿・台石１個という　関係になる。これらの資料のうち、4点を図示した。259～262は、石器表面に敲打痕が認められ、窪んでいる点で共通している。

**礫器**(第145図263～266）

礫器として取り扱った資料は、えぐり入り礫器，尖頭状石器，打製靴型石器，礫器等と呼称されていた一群である。礫器は、25点出土した。その石器組成に占める割合は、3.1%である。これらの資料は、扁平な自然礫を素材として利用し、その縁辺に調整加工を施している。石器の全体形は、三角形を呈する。調整加工の状態は、疎密の差はあるものの三辺に施され、内湾する縁辺が二辺に作り出されるものと三辺に作りだすものとがみられる。また、これらの資料には、三角形の突出した頂部に敲打痕が認められ、調整加工を施し内湾した縁辺に擦れて潰れた痕跡が認められる。前者は使用によりついた痕跡であり、後者は使用に際して装着した痕跡であると考えられる。。これらの使用痕の状況から、石器の用途を類推すると礫錘である可能性が指摘できる。

**楔形石器**(第146図267～第147図280）

楔形石器は、58点出土した。その石器組成に占める割合は、7.1%である。石材ごとの内訳は、黒耀石23点，サヌカイト27点，安山岩７点，砂岩１点である。これらの資料は、微細な剥離痕が全周に認められるものと、上下両端にのみ認められるものとに分けられる。

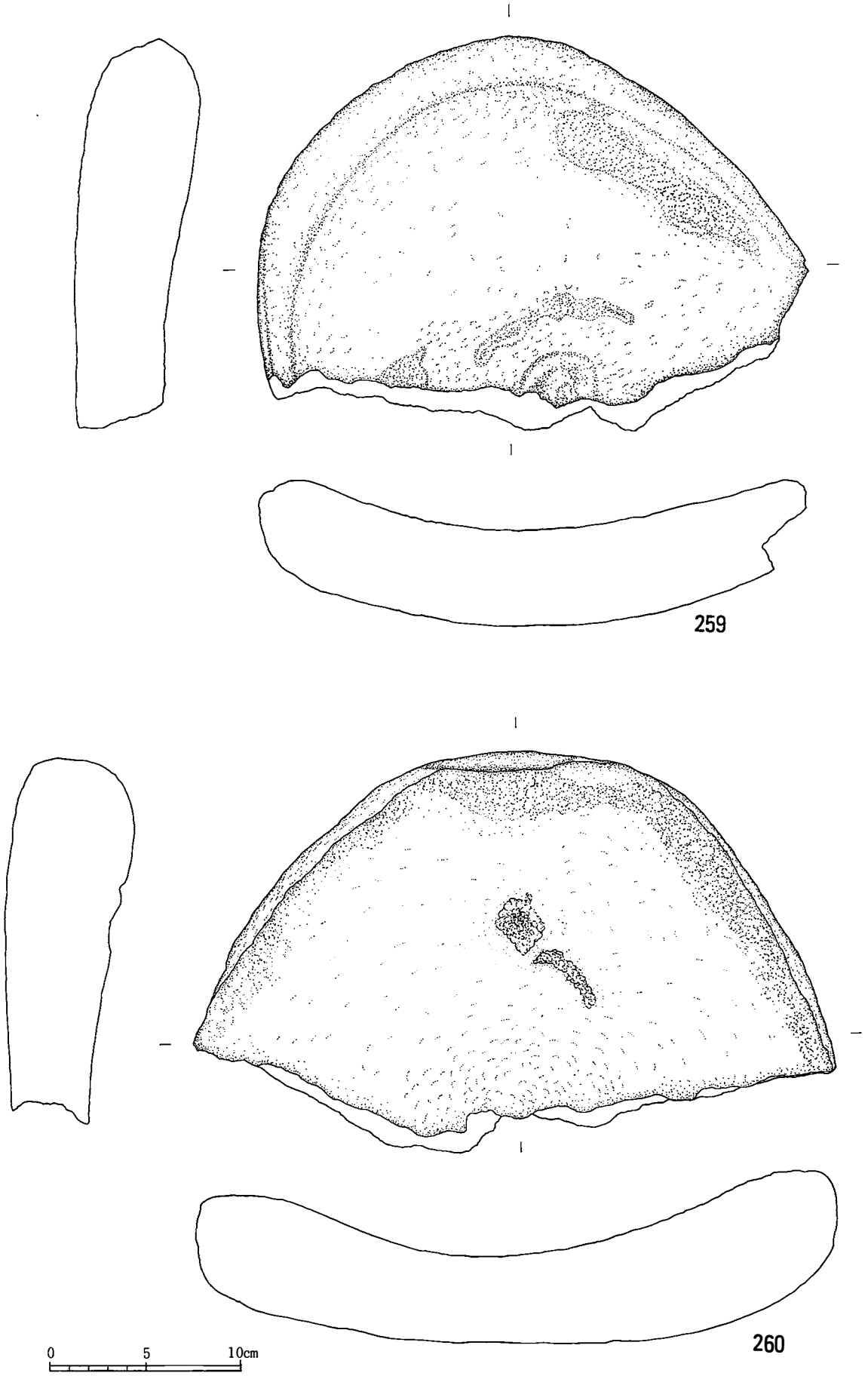
**二次加工ある石器**(第148図281～285）

二次加工ある石器は、64点出土した。その石器組成に占める割合は、7.8%である。以下、個別に説明を行なう。

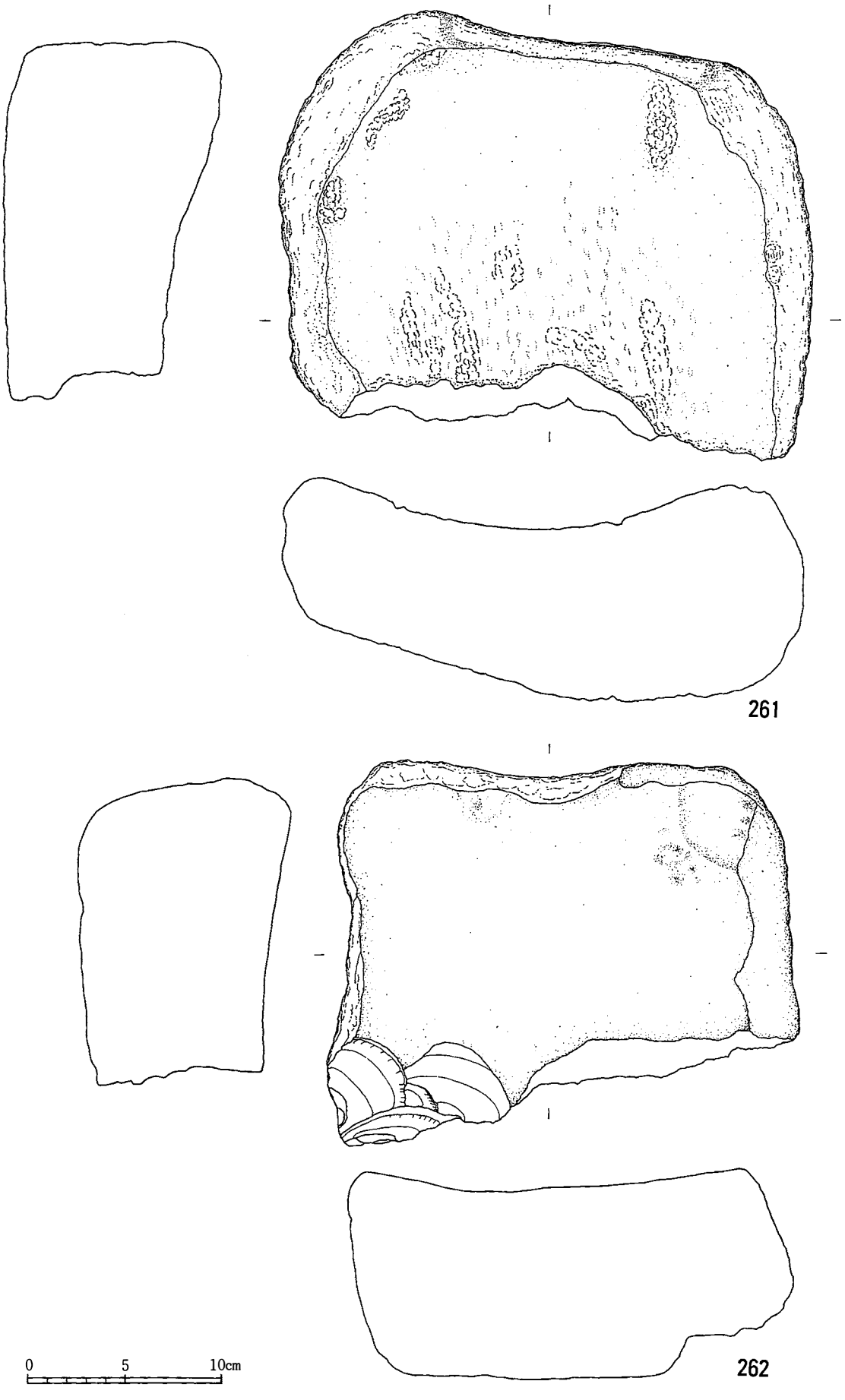
282は、両側縁に表裏両面から調整加工を施す。縁辺の形状は右側縁が内湾し、左側縁は直線的に作り出されている。石器下半部を欠失し、全体の形状は不明である。283は、表裏両面とも左右両側縁から細かな調整加工を施し作り出している。石器上部を欠失し、全体の形状は不明である。284は、形状が282，286と類似する資料であるが、大きさは小さい。石器下半部を欠失し、全体の形状は不明である。285は、幅広の剥片を素材とし、基部側に表裏両面から調整加工を施す。上部の調整加工が施されない一辺に使用痕が観察される。286は、不定形の縦長剥片を素材とし、左右両側縁に調整加工を施す。表面に礫面を大きく残す。

**釣針型石器**（第148図287）

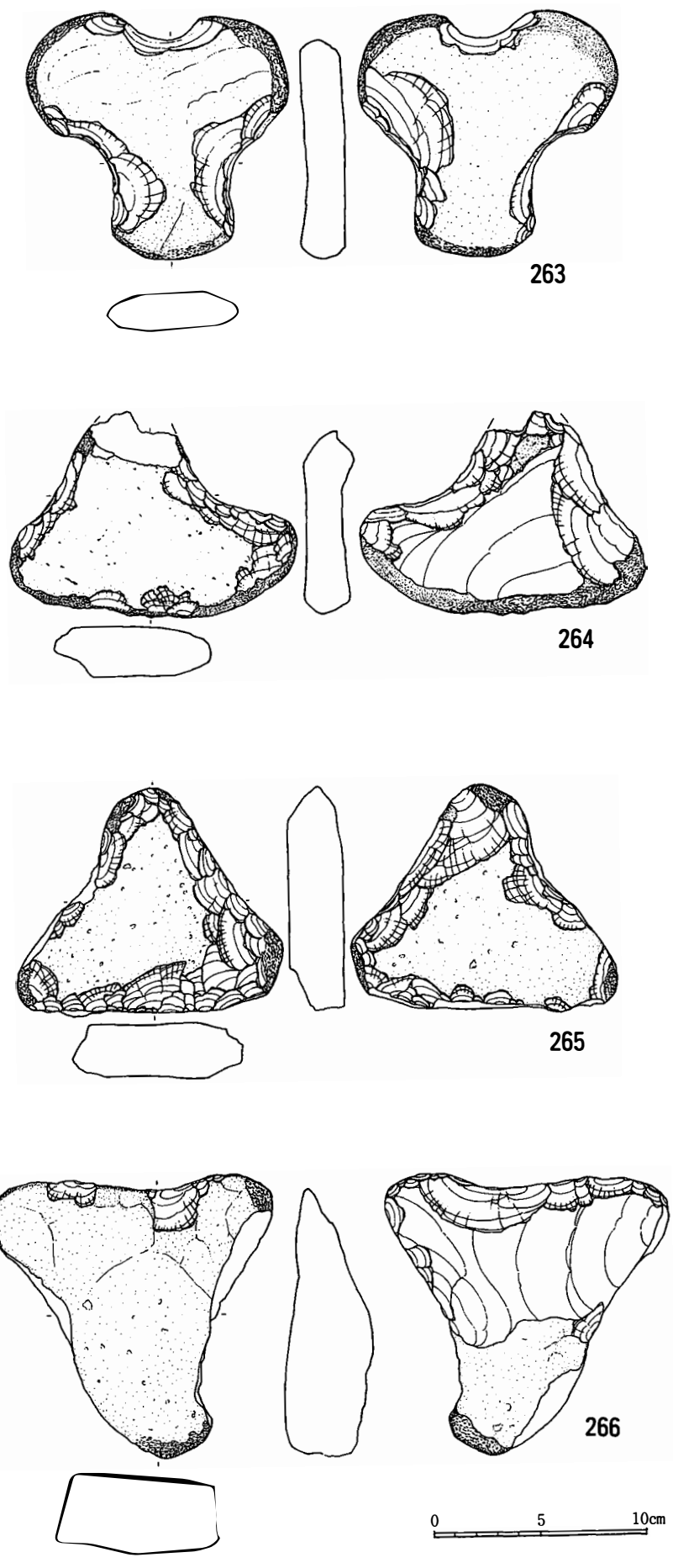
釣針型を呈する石製品が１点出土した。石材は、サヌカイトである。この資料は、釣り針型を呈する資料



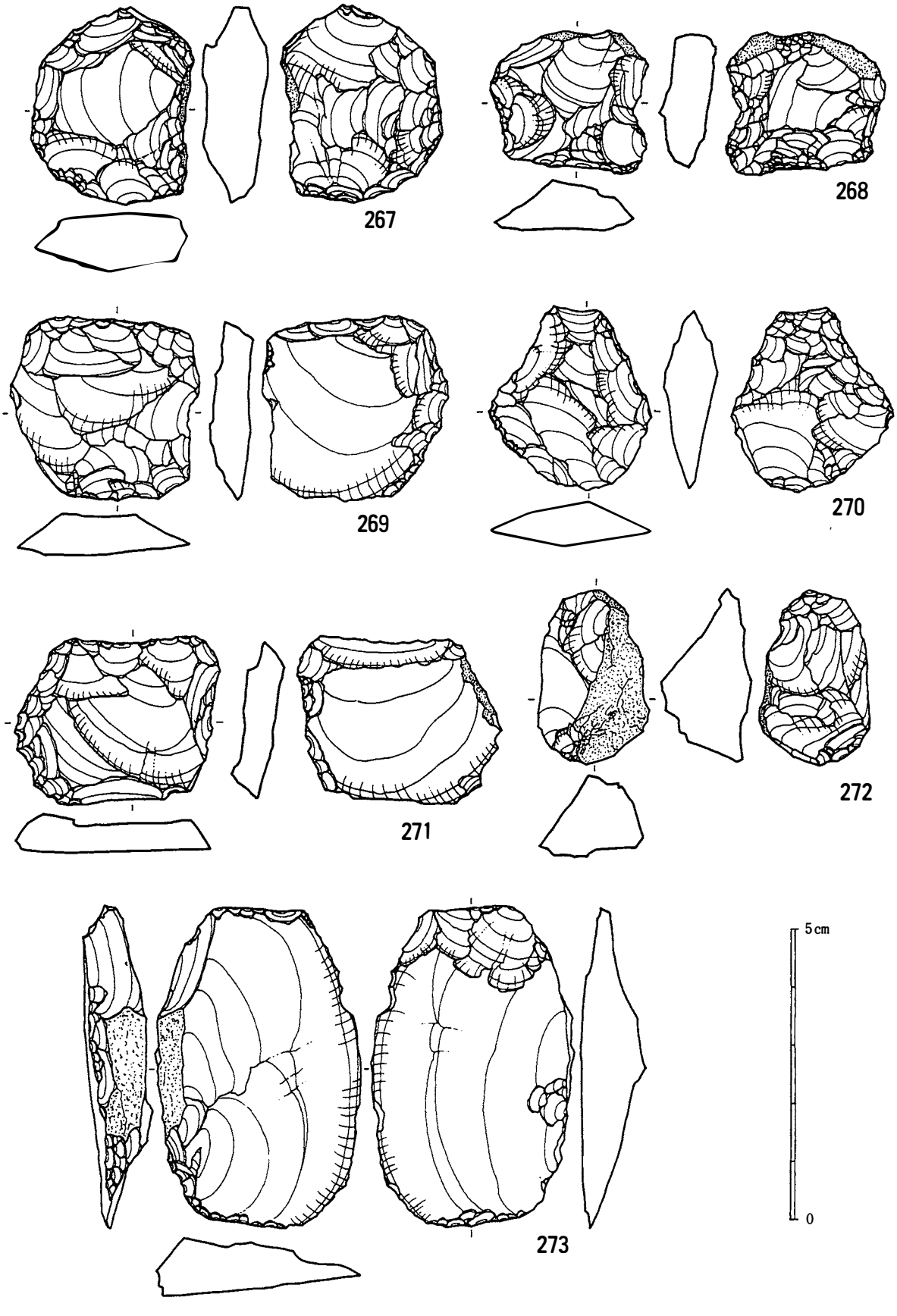

第143図　石器実測図(29)



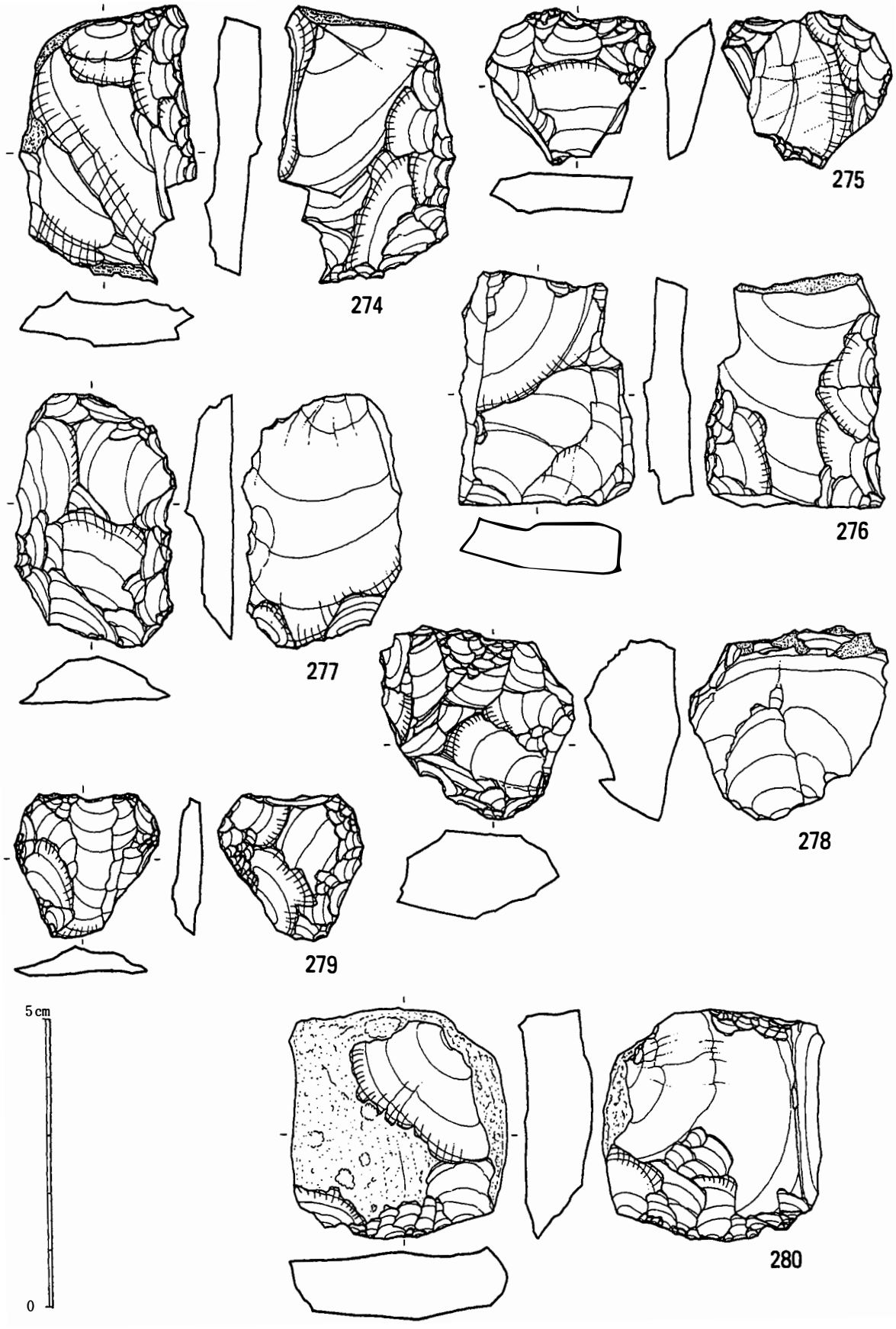

第144図　石器実測図(30)



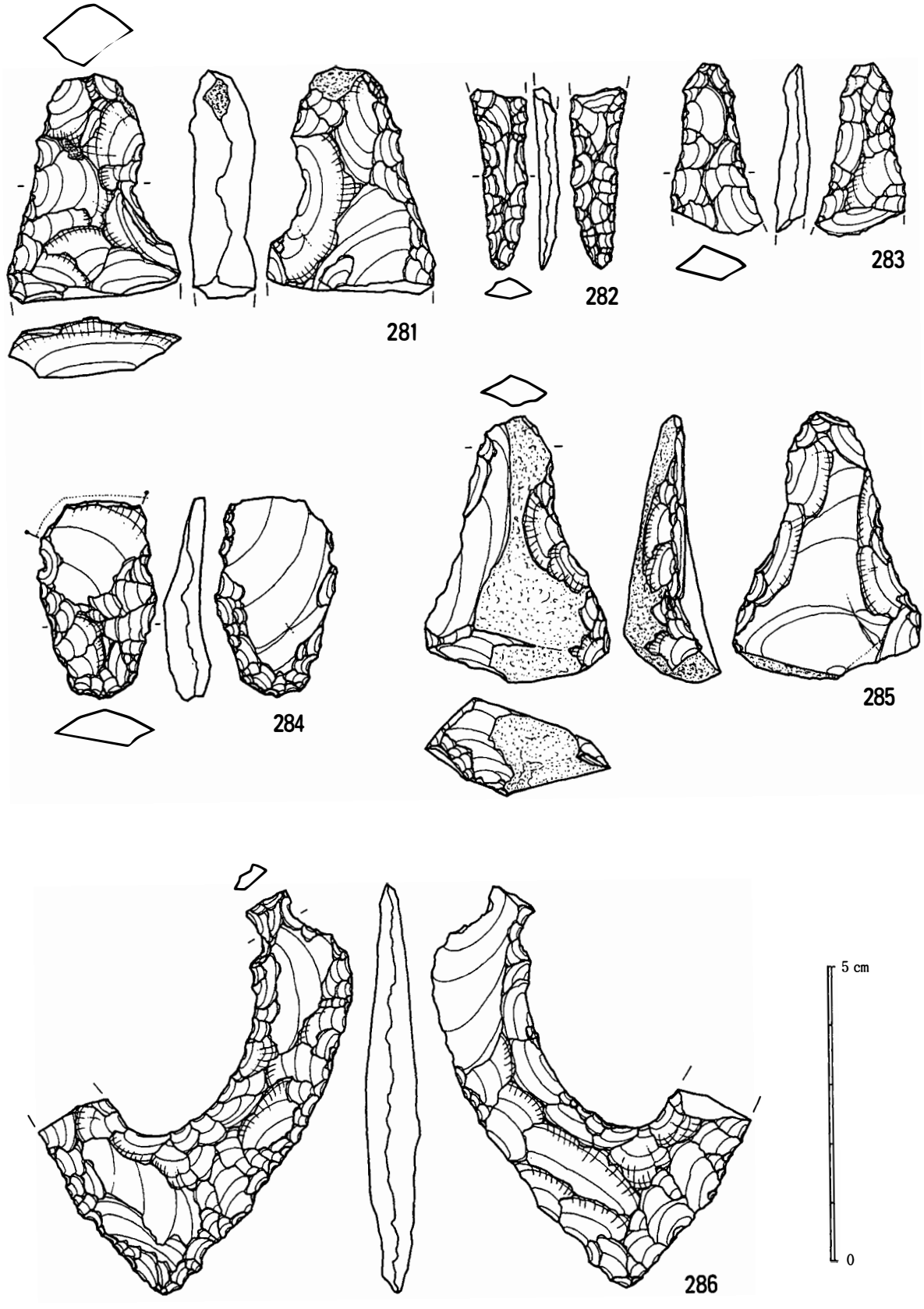

第145図　石器実測図(31)




第146図　石器実測図(32)




第147図　石器実測図(33)




第148図　石器実測図(34)

である。先端部を欠失している。やや厚みのある縦長剥片を素材とし、細かな調整加工によって作り出している。基部の両側縁に小さな抉入状の調整が施されている。石製の垂飾品である可能性が指摘できる。

**使用痕ある剥片**(第149図287～第150図302)

使用痕ある剥片は、42点出土した。その石器組成に占める割合は、5.2%である。石材ごとの内訳は、黒耀石３点，安山岩３点，サヌカイト34点，チャート２点である。これらの資料のうち、16点を図示した。以下個別に説明を行なう。

288は、礫面を打面とする不定形の縦長剥片を素材として利用し、使用痕は両側縁及び先端部に観察される。289は、礫面を打面とする幅広の縦長剥片を素材として利用し、両側縁の一部と先端部に使用痕が観察される。290は、不定形の剥片を素材として利用し、両側縁と先端部に使用痕が観察される。291は、礫面を打面とする不定形の横長剥片を素材として利用し、一側縁と先端部に使用痕が観察される。292は、礫面を打面とする幅広剥片を素材として利用し、一側縁と先端部に使用痕が観察される。293は、不定形の縦長剥片を素材として利用する。打面は、単剥離面である。両側縁と先端部に使用痕が観察される。294は、横長剥片を素材として利用し、先端部に使用痕が観察される。295は、不定形の剥片を素材として利用し、一側縁と先端部に使用痕が観察される。296は、縦長剥片を素材として利用し、一側縁と先端部に使用痕が観察される。297は、不定形の剥片を素材として利用する。打面は、複剥離面である。使用痕は、両側縁に観察される。298は、幅広剥片を素材として利用する。打面は、複剥離面である。使用痕は、両側縁と先端部に観察される。299は、不定形の横広剥片を素材として利用し、両側縁と先端部に使用痕が観察される。300は、幅広の縦長剥片を素材として利用し、両側縁と先端部に使用痕が観察される。301は、不定形の剥片を素材として利用し、一側縁に使用痕が観察される。302は、不定形の幅広剥片を素材として利用し、両側縁と先端部に使用痕が観察される。303は、縦長剥片を素材として利用し、両側縁に使用痕が観察される。

**石核**(第151図303～第152図308)

石核・原石は、50点出土した。全出土資料に占める割合は、2.6%である。石材ごとの内訳は、黒耀石16点，安山岩１点，サヌカイト31点，チャート１点である。これらの資料のうち、６点を図示した。

以下、個別に説明を行なう。

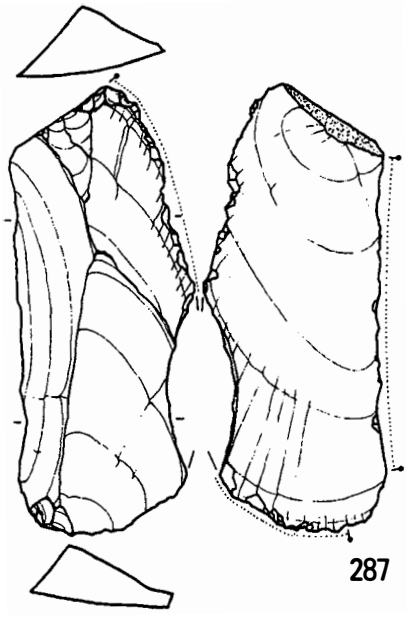
304，305は、分割礫を素材とし、比較的幅広の剥片を剥出している。その作業は、礫面あるいは剥離面を打面とし、90°の打面転移が観察される。306，307，309は、分割礫を素材とし、打面を頻繁に転移し幅広の剥片を剥出している。打面転移は、縁辺に沿ってランダムに行なわれ、その結果求心的な剥離痕がみられる。308は、分割礫を素材とし、幅広の剥片を剥出している。大型の剥片を剥離したのち、一辺から小型の剥片を剥離している。

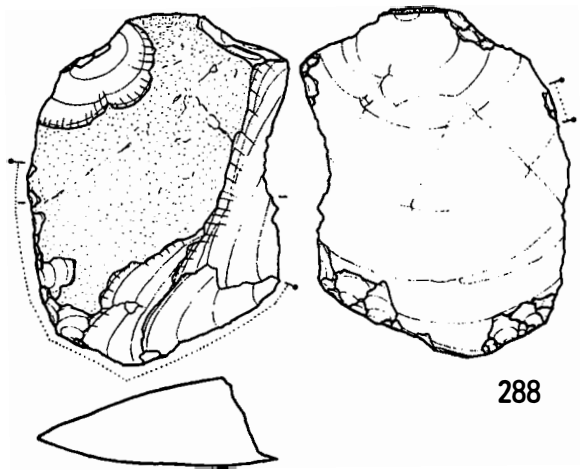
**有孔石製品**(第153図309～312)

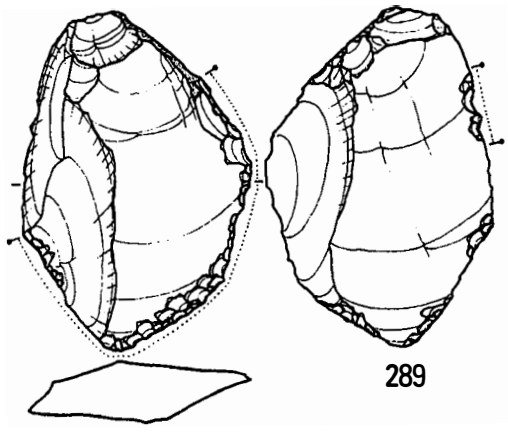
有孔石製品に属する資料は、４点出土した。石材は、結晶質石灰岩２点，砂岩１点，泥岩１点である。これらの資料は、その孔の位置から石器の中央部に穿孔されるもの（310)、長軸の一端に偏るもの(312，313）とがみられる。前者の資料は、大珠と分類されるものであり、後者は類似する垂飾品である。

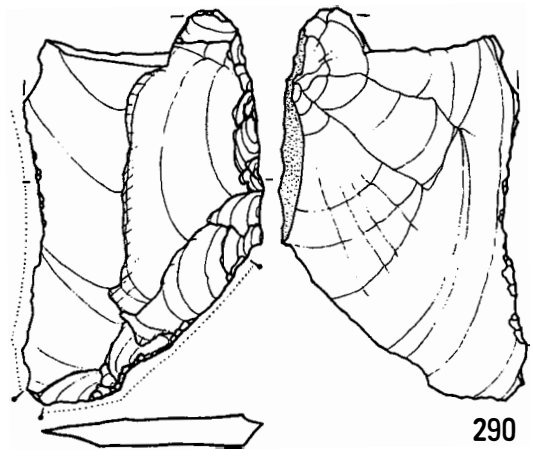
**擦切石器**（第153図313）

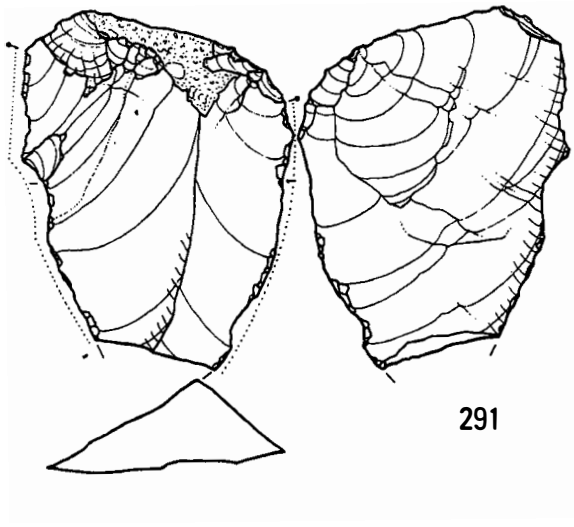
擦切石器として分類できる石器は、１点出土した。その石材は、サヌカイトである。この資料は、上部表面に細かな剥離痕が認められ、裏面には１枚の剥離面が上位から施されている。石器下半部を欠失している。

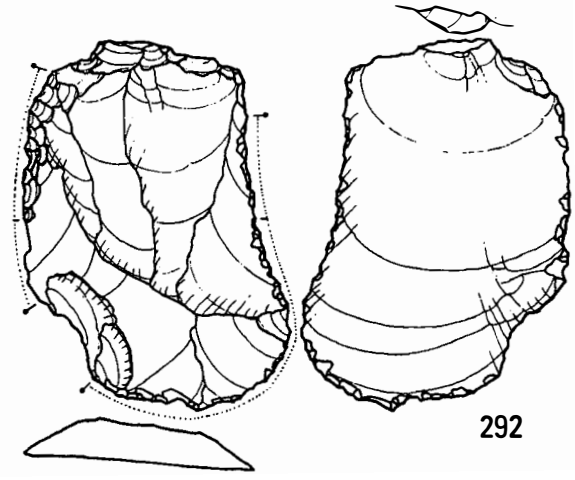


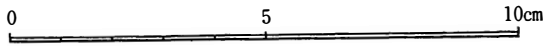



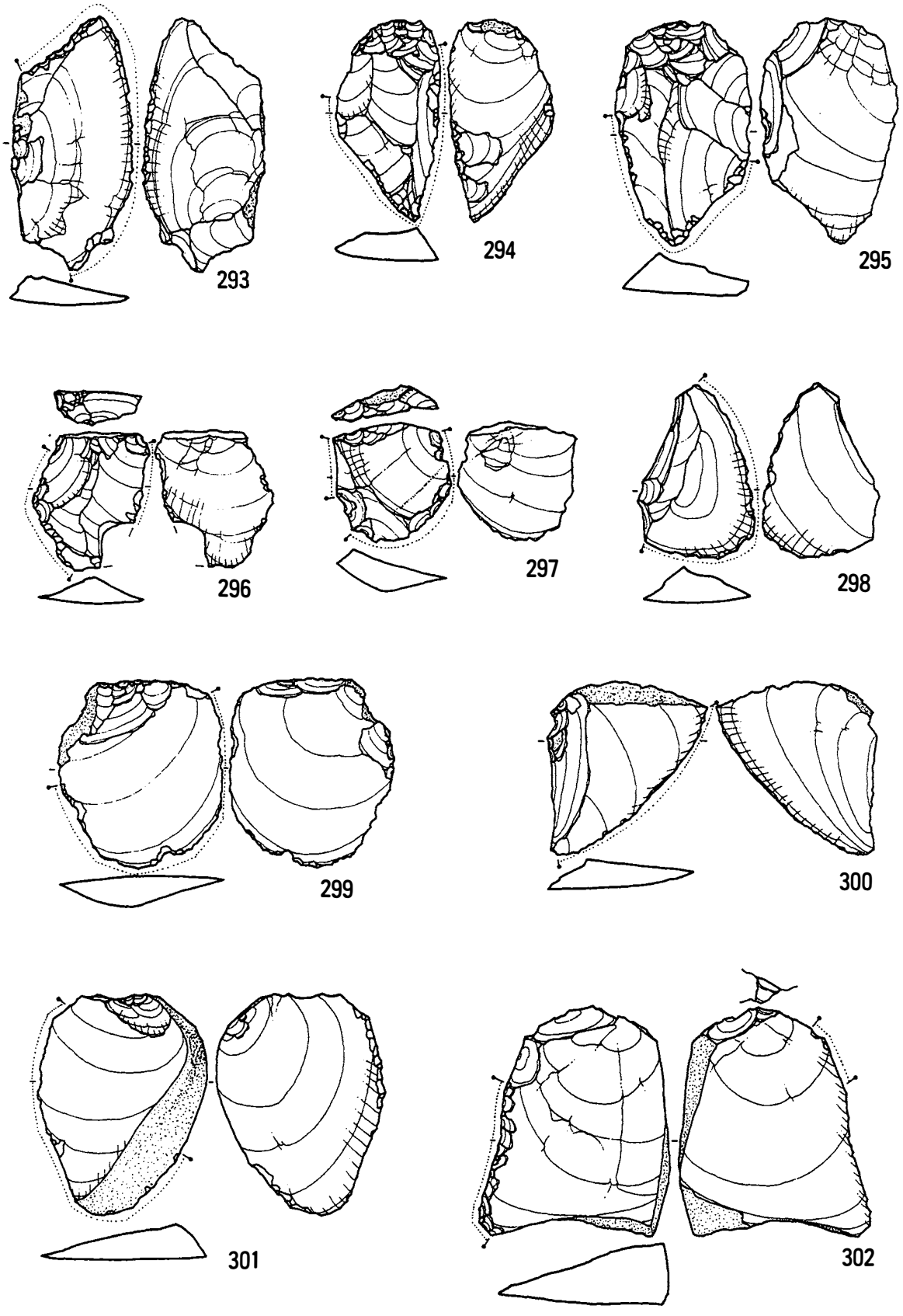



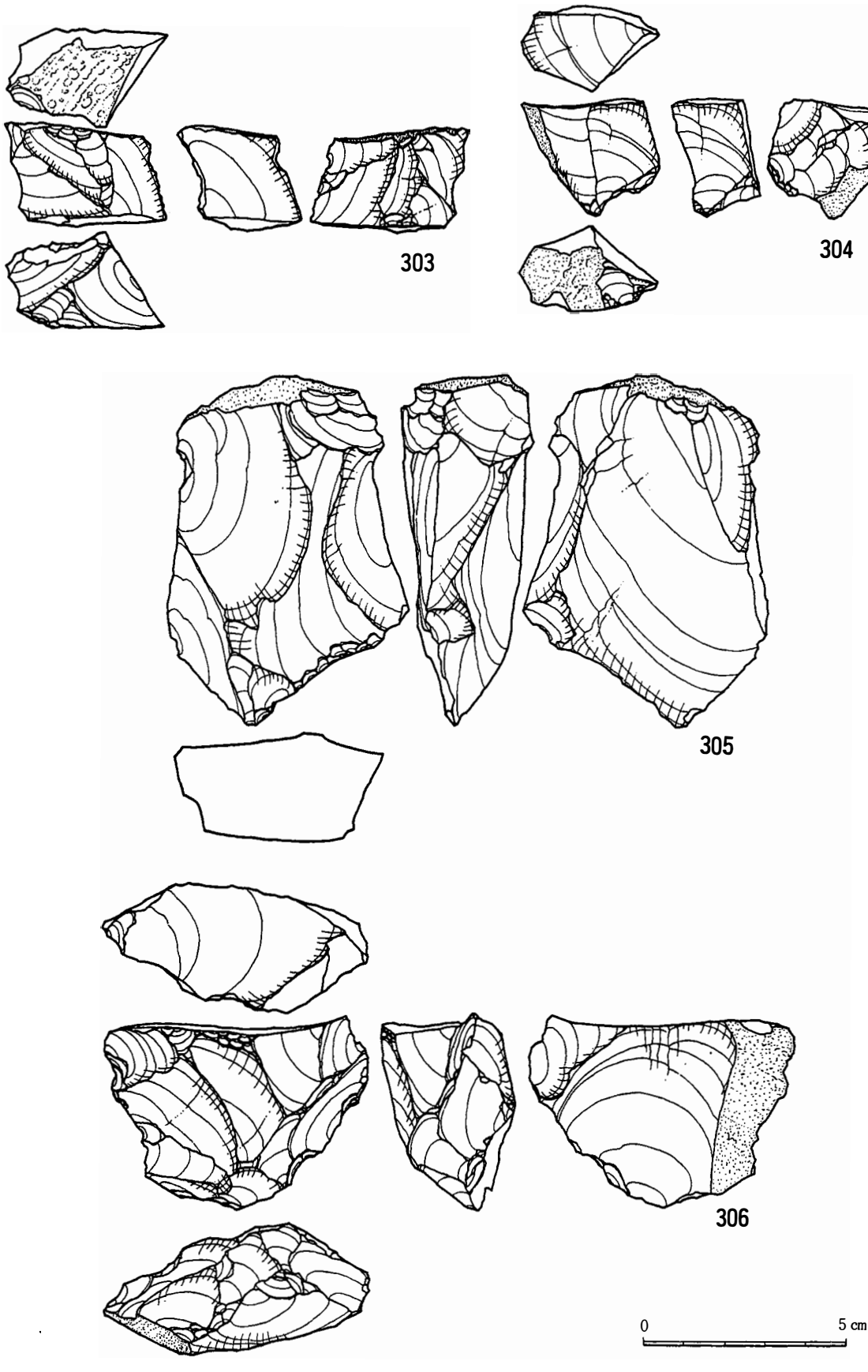



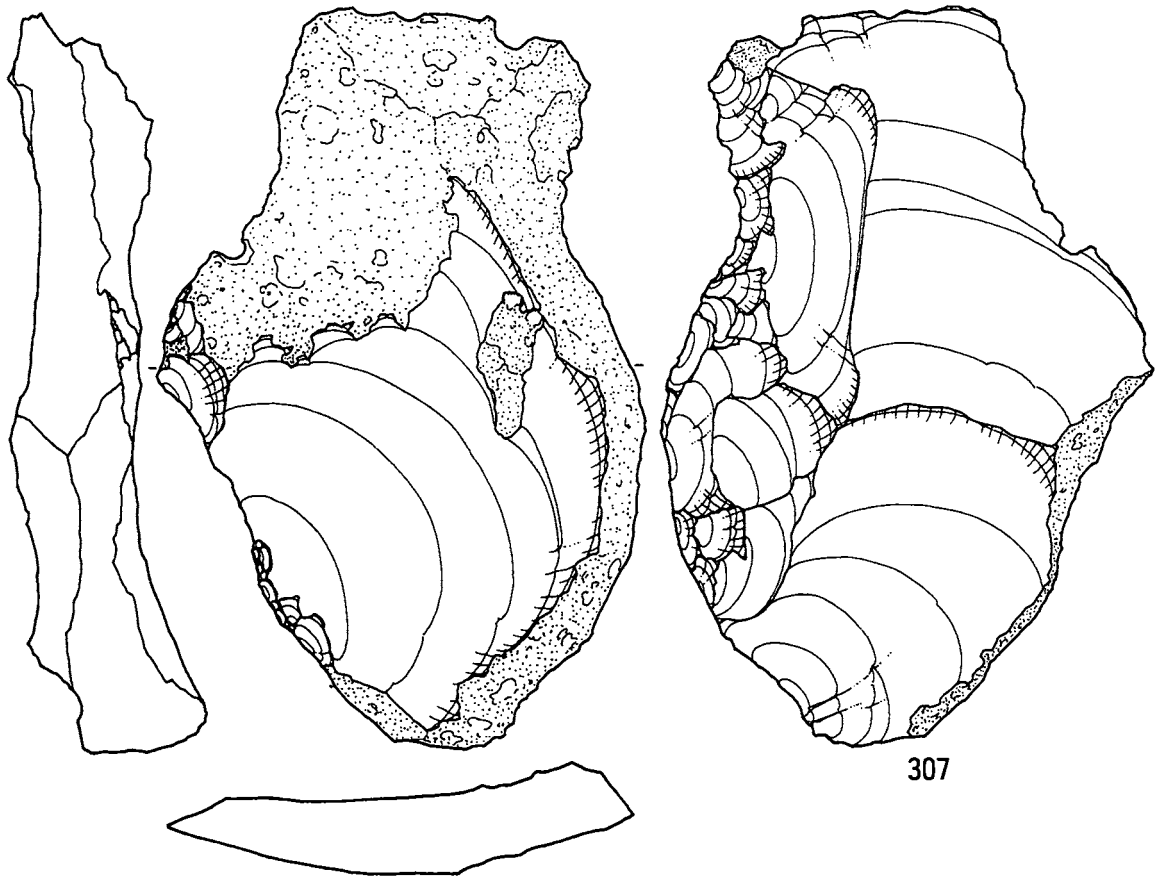

**第149図　石器実測図(35)**

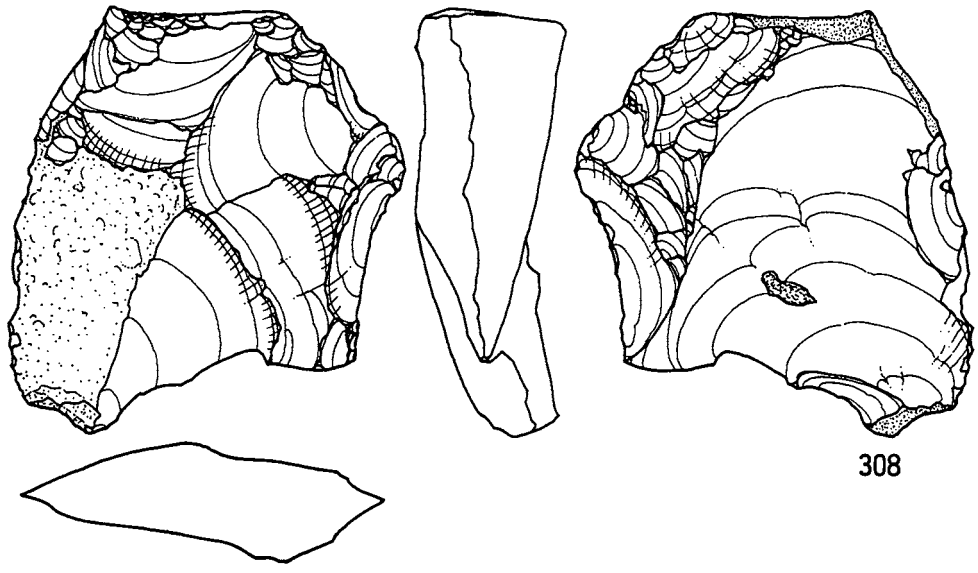


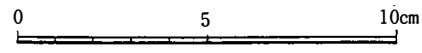

第150図　石器実測図(36)



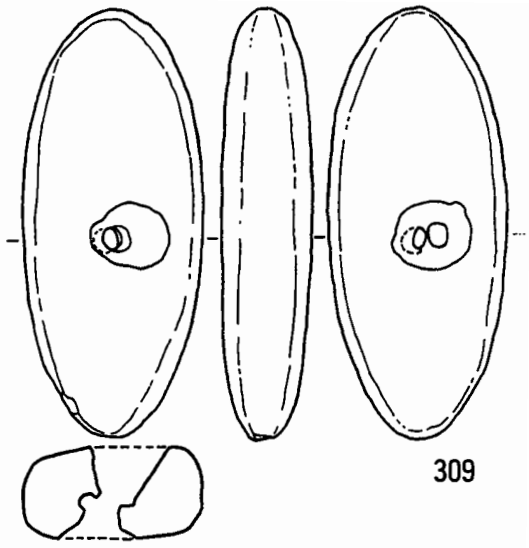

第151図　石器実測図(37)

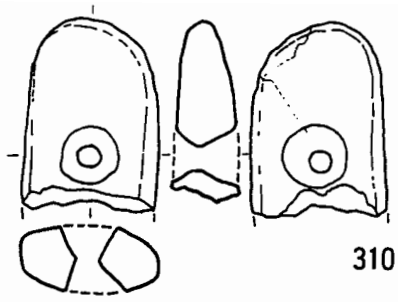


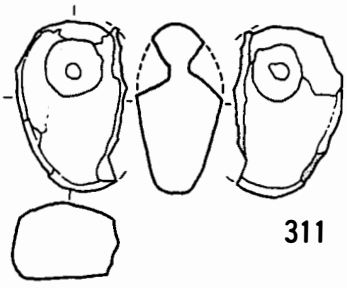



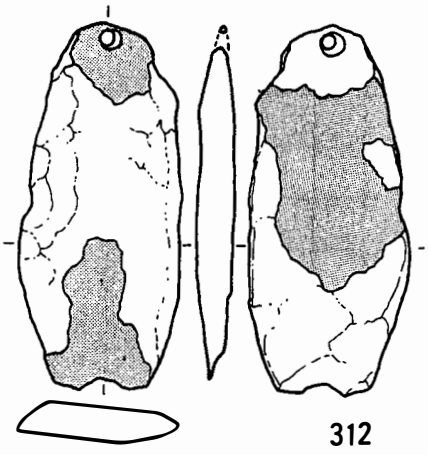



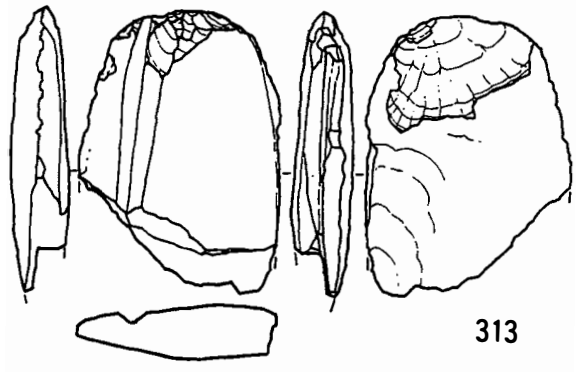

第152図　石器実測図(38)

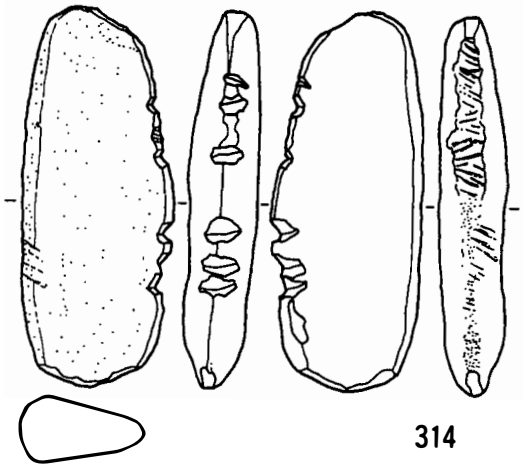


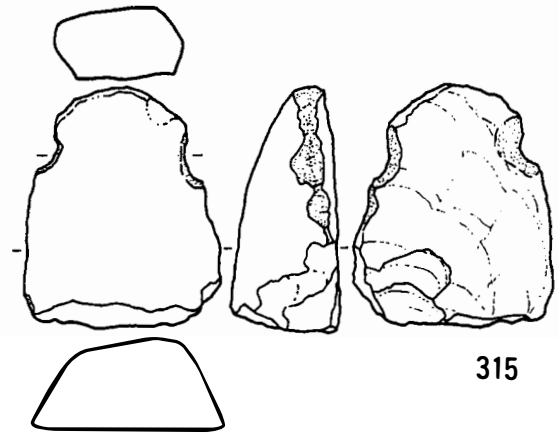



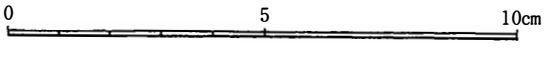




**第153図　石器実測図(39)**

また、石器の表面に縦方向に直線状の凹がみられ、左右両側縁に面が形成されている。特に右側縁は複数の面から形成され、段ずれが観察される。このことは、この資料が擦切技法によって製作されたことを示唆するものである。

**異形石器**(第153図314，315)

異形石器として取り扱う資料は、２点である。314は、左右両側縁に刻み痕が認められるものである。その痕跡は右側縁では深く、左側縁では浅い。このことからこの資料は、磨製石器の刃部調整具としての用途が推測される。315は、石器の下半部が欠失しているため全体の形状は不明である。この資料は、上部両側縁に抉入状の調整がみられる

## 第18表　石器観察表（１）

| 番号 | 器種 | 石材 | 計測値 長さ(㎜) | 幅(㎜) | 厚さ(㎜) | 重さ(ｇ) | グリッド及び層位 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 石鏃 | 黒耀石 | 23.0 | 20.5 | 5.0 | 1.1 | Ⅰ-8,Ⅲ | |
| 2 | 〃 | 安山岩 | (17.0) | (15.0) | 4.0 | 0.6 | E-8,Ⅲ | 先端部及び片脚末端部欠失 |
| 3 | 〃 | 黒耀石 | 26.5 | (19.0) | 5.5 | 1.6 | D-8,Ⅲ | 片脚末端部欠失 |
| 4 | 〃 | 安山岩 | 27.0 | 16.0 | 5.5 | 1.3 | Ⅰ-8,Ⅲ | |
| 5 | 〃 | 〃 | 24.0 | 20.0 | 5.0 | 1.4 | E-9,Ⅲ | |
| 6 | 〃 | 〃 | (19.0) | (15.5) | 4.0 | 1.0 | G-8,Ⅲ | 先端部及び片脚末端部欠失 |
| 7 | 〃 | 〃 | 23.0 | 14.0 | 3.0 | 1.0 | E-8,Ⅲ | |
| 8 | 〃 | 黒耀石 | 29.0 | 18.0 | 6.0 | 1.7 | E-9,Ⅲ | |
| 9 | 〃 | 安山岩 | 25.0 | (17.0) | 5.0 | 1.6 | F-9,Ⅲ | 片脚末端部欠失 |
| 10 | 〃 | 黒耀石 | (28.0) | (13.5) | 4.0 | 1.0 | D-8,Ⅲ | 両脚部欠失 |
| 11 | 〃 | 安山岩 | (15.0) | 19.0 | 3.0 | 1.0 | H-9,Ⅲ | 先端部欠失 |
| 12 | 〃 | 〃 | (15.5) | (16.0) | 4.0 | 0.7 | E-8,Ⅲ | 先端部及び両脚部欠失 |
| 13 | 〃 | 〃 | (19.0) | 22.0 | 6.0 | 1.8 | G-8,Ⅲ | 先端部欠失 |
| 14 | 〃 | 〃 | (24.0) | 15.5 | 5.0 | 2.1 | Ⅰ-8,Ⅲ | 先端部欠失 |
| 15 | 〃 | 〃 | 19.0 | 16.5 | 3.5 | 0.8 | F-8,Ⅲ | |
| 16 | 〃 | 〃 | 36.0 | 23.0 | 4.5 | 2.3 | E-10,Ⅲ | |
| 17 | 〃 | 〃 | (33.5) | (21.0) | 4.5 | 2.7 | Ⅰ-8,Ⅲ | 先端部及び片脚末端部欠失 |
| 18 | 〃 | 黒耀石 | (24.0) | 26.0 | 6.5 | 2.7 | Ⅰ-8,Ⅲ | 先端部及び片脚末端部欠失 |
| 19 | 〃 | 安山岩 | 36.0 | 25.0 | 6.0 | 2.9 | G-9,Ⅲ | |
| 20 | 〃 | 〃 | 31.0 | (19.5) | 4.0 | 1.7 | G-7,Ⅲ | 片脚末端部欠失 |
| 21 | 〃 | 〃 | 34.5 | 19.0 | 4.0 | 1.7 | E-9,Ⅲ | |
| 22 | 〃 | 〃 | (23.0) | (17.0) | 3.5 | 1.0 | F-9,Ⅲ | 先端部及び両脚末端部欠失 |
| 23 | 〃 | サヌカイト | 29.5 | 19.5 | 4.5 | 1.6 | Ⅰ-7,Ⅲ | |
| 24 | 〃 | 珪岩 | (20.0) | 19.0 | 4.0 | 1.1 | E-8,Ⅲ | 先端部欠失 |
| 25 | 〃 | 安山岩 | 25.0 | 16.0 | 5.0 | 1.4 | F-8,Ⅲ | 片脚末端部欠失 |
| 26 | 〃 | サヌカイト | (28.0) | 18.5 | 5.0 | 1.5 | G-7,Ⅲ | 先端部欠失 |
| 27 | 〃 | 〃 | (23.0) | (17.0) | 5.0 | 1.2 | G-9,Ⅲ | 先端部及び片脚末端部欠失 |
| 28 | 〃 | 〃 | 25.0 | (16.0) | 4.0 | 0.9 | H-6,土坑2 | 先端部及び片脚末端部欠失 |
| 29 | 〃 | 安山岩 | 26.0 | 16.0 | 4.0 | 1.3 | D-9,Ⅳ | |
| 30 | 〃 | 〃 | 30.5 | 19.5 | 4.5 | 1.5 | C-9,Ⅳb | |
| 31 | 〃 | 〃 | (30.5) | 17.0 | 4.0 | 1.7 | F-7,Ⅳ | 先端部及び片脚末端部欠失 |
| 32 | 〃 | 黒耀石 | (27.0) | 14.0 | 6.0 | 1.7 | G-8,Ⅳ | 先端部欠失 |
| 33 | 〃 | 安山岩 | 28.0 | (15.5) | 8.0 | 1.9 | F-7,Ⅳ | 片脚末端部欠失 |
| 34 | 〃 | 〃 | (26.0) | 19.5 | 5.0 | 1.6 | G-8,Ⅳ | 先端部欠失 |
| 35 | 〃 | 〃 | (21.5) | 16.0 | 4.0 | 1.0 | E-7,Ⅳ | 先端部欠失 |
| 36 | 〃 | 〃 | (33.0) | 20.0 | 6.5 | 2.8 | D-9,Ⅳ | 先端部欠失 |
| 37 | 〃 | 〃 | 21.0 | 15.0 | 6.0 | 1.4 | F-7,Ⅳ | |
| 38 | 〃 | 〃 | 25.0 | (19.0) | 5.5 | 1.6 | E-7,Ⅳ | 片脚末端部欠失 |
| 39 | 〃 | 〃 | (20.5) | 14.5 | 4.0 | 0.8 | F-8,Ⅳ | 先端部及び片脚末端部欠失 |
| 40 | 〃 | 〃 | (17.0) | 21.5 | 5.5 | 1.3 | E-7,Ⅳ | 先端部欠失 |
| 41 | 〃 | 〃 | (31.5) | (18.0) | 8.0 | 3.9 | D-9,Ⅳ | 先端部及び片脚末端部欠失 |
| 42 | 〃 | 〃 | 21.0 | 14.0 | 4.0 | 0.7 | F-7,Ⅳ | |
| 43 | 〃 | 〃 | (25.0) | (19.0) | 5.5 | 1.9 | G-8,Ⅳ | 先端部及び片脚末端部欠失 |
| 44 | 〃 | サヌカイト | 32.0 | 22.0 | 4.0 | 1.9 | E-8,Ⅳ | |
| 45 | 〃 | 安山岩 | (33.0) | (22.5) | 5.0 | 2.3 | H-8,Ⅳ | |
| 46 | 〃 | 〃 | 30.5 | 20.0 | 4.0 | 1.5 | E-8,Ⅳ | |
| 47 | 〃 | 〃 | (20.0) | 18.0 | 5.5 | 1.2 | E-7,Ⅳ | 先端部欠失 |
| 48 | 〃 | 〃 | 28.0 | 21.0 | 3.5 | 1.4 | E-8,Ⅳ | |
| 49 | 〃 | サヌカイト | (36.0) | 19.0 | 5.0 | 2.2 | 土坑2 | 片脚末端部欠失 |
| 50 | 〃 | 〃 | 37.0 | 18.0 | 5.0 | 2.7 | Ⅰ-8,Ⅳ | |
| 51 | 〃 | チャート | 32.0 | 16.0 | 4.0 | 1.7 | F-6,Ⅳ | |
| 52 | 〃 | サヌカイト | 33.0 | 21.0 | 4.0 | 2.0 | 土坑 | |
| 53 | 〃 | 安山岩 | 33.5 | (19.0) | 6.5 | 2.1 | F-6,Ⅳ | |
| 54 | 〃 | サヌカイト | 32.0 | 18.0 | 4.5 | 1.2 | D-8,Ⅳ | 片脚末端部欠失 |
| 55 | 〃 | 〃 | 30.0 | 20.0 | 6.0 | 2.3 | 土坑2 | |
| 56 | 〃 | 安山岩 | (25.0) | (16.0) | 4.5 | 1.1 | E-7,Ⅳ | 先端部及び片脚末端部欠失 |
| 57 | 〃 | 黒耀石 | 24.0 | 19.0 | 5.0 | 1.3 | F-12,Ⅴ | |
| 58 | 〃 | 安山岩 | 33.0 | 24.0 | 4.5 | 2.0 | D-9,Ⅳ | |
| 59 | 〃 | 〃 | 39.0 | 21.0 | 6.5 | 4.9 | H-8,Ⅳ | |
| 60 | 〃 | 〃 | (25.5) | (23.0) | 6.5 | 2.1 | E-7,Ⅳ | 先端部及び片脚末端部欠失 |
| 61 | 〃 | 〃 | (23.5) | (19.0) | 5.5 | 1.2 | C-9,Ⅳ | 両脚末端部欠失 |
| 62 | 〃 | 〃 | 36.0 | (22.5) | 5.0 | 2.7 | E-8,Ⅳ | 先端部及び片脚末端部欠失 |
| 63 | 〃 | 〃 | (29.0) | (22.0) | 6.0 | 2.6 | G-8,Ⅳ | 両脚末端部欠失 |

## 第19表　石器観察表（２）

| 番号 | 器種 | 石材 | 計測値 | | | | グリッド及び層位 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 長さ(㎜) | 幅(㎜) | 厚さ(㎜) | 重さ(ｇ) | | |
| 64 | 石鏃 | 安山岩 | (25.0) | 21.0 | 4.5 | 1.8 | E-9,Ⅳ | 先端部欠失 |
| 65 | 〃 | 〃 | 27.0 | 23.0 | 6.5 | 2.3 | F-7,Ⅳ | |
| 66 | 〃 | 〃 | 28.0 | 20.0 | 4.0 | 1.5 | G-8,Ⅳ | |
| 67 | 〃 | 〃 | (34.0) | 18.0 | 5.5 | 2.5 | E-8,Ⅳ | 先端部欠失 |
| 68 | 〃 | 〃 | 36.0 | 25.5 | 6.5 | 3.8 | E-9,Ⅲ | |
| 69 | 〃 | サヌカイト | 39.0 | 16.0 | 6.0 | 2.7 | F-7,Ⅳ | |
| 70 | 〃 | 安山岩 | 31.0 | 20.0 | 6.0 | 3.0 | Ⅰ-8,Ⅲ | |
| 71 | 〃 | 〃 | (32.0) | 18.0 | 3.0 | 1.4 | Ⅰ-8,Ⅲ | |
| 72 | 〃 | 黒耀石 | 32.5 | 18.0 | 8.0 | 3.3 | D-9,Ⅳ | |
| 73 | 〃 | 安山岩 | 27.5 | 22.0 | 7.5 | 3.8 | Ⅰ-7,Ⅳ | 未完成品 |
| 74 | 〃 | 〃 | (29.0) | 21.0 | 7.0 | 3.6 | F-8,Ⅳ | 未完成品 |
| 75 | 石鋸 | 黒耀石 | 32.0 | 20.0 | 7.5 | 3.8 | F-10,Ⅱ | 未完成品 |
| 76 | 〃 | 安山岩 | 19.5 | 16.0 | 3.5 | 1.1 | F-8,Ⅲ | |
| 77 | 石錐 | サヌカイト | (50.0) | (33.0) | 5.5 | 6.2 | D-8,Ⅲ | |
| 78 | 尖頭器 | 安山岩 | 58.0 | 15.0 | 8.0 | 7.1 | Ⅰ-8,Ⅲ | |
| 79 | 〃 | 黒耀石 | 42.0 | 24.0 | 9.0 | 7.6 | F-11,Ⅳ | |
| 80 | 〃 | サヌカイト | 48.0 | 20.0 | 9.0 | 7.6 | Ⅰ-8,Ⅲ | |
| 81 | 〃 | 〃 | 55.0 | 26.0 | 10.0 | 14.4 | F-11,Ⅲ | |
| 82 | 〃 | 安山岩 | 45.0 | 18.0 | 5.5 | 5.0 | F-8,Ⅳ | |
| 83 | 石鏃 | 〃 | 35.0 | 27.0 | 12.0 | 9.9 | E-10,Ⅲ | |
| 84 | 石匙 | 〃 | 40.0 | 74.0 | 8.5 | 21.4 | J-8,Ⅲ | |
| 85 | 〃 | 〃 | 39.0 | (67.5) | 10.0 | 22.8 | F-11,Ⅲ | |
| 86 | 〃 | 〃 | 36.0 | 63.0 | 12.0 | 23.0 | D-10,Ⅳ | |
| 87 | 〃 | 〃 | 35.5 | 65.0 | 9.0 | 10.6 | D-10,Ⅳ | |
| 88 | 〃 | 〃 | 36.0 | 50.0 | 11.0 | 13.2 | G-11,土坑 | |
| 89 | 〃 | 〃 | 51.5 | 66.0 | 14.0 | 31.6 | Ⅰ-8,Ⅴ | |
| 90 | 〃 | 〃 | 72.0 | 39.0 | 14.0 | 38.0 | G-10,Ⅲ | |
| 91 | 〃 | サヌカイト | 32.0 | 39.0 | 9.0 | 9.6 | G-7,Ⅲ | |
| 92 | 〃 | 安山岩 | 48.0 | 49.0 | 15.5 | 28.0 | D-9,Ⅲ | |
| 93 | 〃 | 〃 | 51.0 | 19.0 | 8.0 | 6.5 | E-8,Ⅳ | |
| 94 | 〃 | 〃 | 47.0 | 25.0 | 12.5 | 11.2 | E-8,Ⅳ | |
| 95 | 〃 | 〃 | 45.0 | 50.5 | 11.0 | 18.6 | 一括 | |
| 96 | 〃 | サヌカイト | 36.0 | (62.0) | 14.0 | 27.0 | Ⅰ-9,Ⅲ | |
| 97 | 抉入石器 | 安山岩 | 61.0 | 38.0 | 9.5 | 18.4 | F-8,Ⅲ | |
| 98 | 〃 | 〃 | (41.0) | 29.0 | 8.0 | 8.4 | E-7,Ⅲ | |
| 99 | 〃 | 〃 | 50.0 | 37.0 | 15.0 | 26.2 | H-8,Ⅲ | |
| 100 | 〃 | 〃 | 44.0 | (50.0) | 9.5 | 18.2 | G-9,Ⅲ | |
| 101 | 〃 | 〃 | 55.0 | 62.0 | 12.0 | 29.0 | H-10,Ⅲ | |
| 102 | 削器 | サヌカイト | 55.0 | 43.0 | 12.0 | 27.4 | G-10,土坑 | |
| 103 | 〃 | 〃 | 98.0 | 73.0 | 17.0 | 105.0 | G-6,Ⅳ | |
| 104 | 〃 | 安山岩 | 60.5 | 36.0 | 15.0 | 23.6 | D-9,Ⅲ | |
| 105 | 〃 | 〃 | 82.0 | 54.0 | 14.0 | 51.0 | G-9,Ⅲ | |
| 106 | 〃 | サヌカイト | 85.0 | 47.0 | 20.0 | 78.5 | E-8,Ⅲ | |
| 107 | 〃 | 安山岩 | 74.0 | 37.5 | 18.0 | 45.6 | Ⅰ-8,Ⅲ | |
| 108 | 〃 | 〃 | 70.0 | 40.0 | 14.0 | 36.8 | E-9,Ⅲ | |
| 109 | 〃 | サヌカイト | 81.0 | 43.0 | 19.0 | 40.0 | E-10,Ⅳ | |
| 110 | 〃 | 安山岩 | 70.0 | 47.0 | 13.0 | 27.2 | Ⅰ-8,Ⅲ | |
| 111 | 〃 | 〃 | 64.0 | 44.5 | 15.0 | 40.8 | H-8,Ⅲ | |
| 112 | 〃 | 〃 | 80.0 | 49.0 | 16.5 | 54.5 | F-8,Ⅲ | |
| 113 | 〃 | サヌカイト | 65.0 | 37.0 | 13.0 | 18.4 | D-6,Ⅳ | |
| 114 | 〃 | 安山岩 | 50.0 | 43.0 | 12.0 | 17.8 | E-8,Ⅲ | |
| 115 | 〃 | サヌカイト | 50.0 | 36.0 | 12.0 | 23.0 | F-7,Ⅴ | |
| 116 | 〃 | 〃 | 61.0 | 32.0 | 11.0 | 22.6 | D-8,Ⅲ | |
| 117 | 〃 | 安山岩 | 40.0 | 40.0 | 12.0 | 18.4 | C-9,Ⅲ | |
| 118 | 石錐 | サヌカイト | 56.0 | 25.0 | 9.0 | 8.5 | F-7,Ⅳ | |
| 119 | 〃 | 〃 | 49.0 | 24.0 | 12.0 | 8.6 | G-11,土坑 | |
| 120 | 〃 | 〃 | (34.0) | 23.0 | 9.0 | 5.3 | F-7,Ⅳ | |
| 121 | 〃 | 〃 | 37.0 | 28.0 | 10.0 | 7.4 | H-8,Ⅲ | |
| 122 | 〃 | 〃 | (23.0) | 27.0 | 7.0 | 3.6 | 南流路一括 | |
| 123 | 〃 | 〃 | 35.0 | 14.0 | 9.0 | 4.1 | E-9,Ⅲ | |
| 124 | 〃 | 〃 | 43.0 | 30.0 | 11.0 | 7.7 | Ⅰ-7,Ⅳ | |
| 125 | 〃 | 〃 | 38.0 | 23.0 | 11.0 | 6.6 | G-7,Ⅲ | |
| 126 | 石錘 | 安山岩 | 52.5 | 45.5 | 9.5 | 33.0 | D-10,Ⅲ | |

## 第20表　石器観察表（３）

| 番号 | 器種 | 石材 | 計測値 | | | | グリッド及び層位 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 長さ(㎜) | 幅(㎜) | 厚さ(㎜) | 重さ(ｇ) | | |
| 127 | 石錘 | 砂岩 | 66.0 | 53.0 | 11.5 | 67.0 | F-8, Ⅱ | |
| 128 | 〃 | 安山岩 | 73.0 | 62.0 | 10.0 | 68.0 | F-8, Ⅲ | |
| 129 | 〃 | 緑泥片岩 | 68.0 | 47.0 | 17.5 | 71.5 | F-9, Ⅱ | |
| 130 | 〃 | 安山岩 | 64.0 | 48.0 | 11.0 | 52.0 | F-10, Ⅲ | |
| 131 | 〃 | 〃 | 75.0 | 61.0 | 15.0 | 103.2 | H-8, Ⅲ | |
| 132 | 〃 | 〃 | 48.0 | 37.0 | 10.5 | 23.6 | G-8, Ⅲ | |
| 133 | 〃 | 砂岩 | 68.0 | 58.0 | 13.0 | 77.0 | D-10, Ⅲ | |
| 134 | 〃 | 安山岩 | 38.0 | 35.0 | 8.5 | 17.4 | E-9, Ⅲ | |
| 135 | 〃 | 砂岩 | 61.5 | 49.5 | 15.0 | 61.5 | G-8, Ⅱ~Ⅲ | |
| 136 | 〃 | 〃 | 61.0 | 47.5 | 9.0 | 41.8 | F-8, Ⅲ | |
| 137 | 〃 | 泥岩 | 55.0 | 44.0 | 8.0 | 26.6 | F-8, Ⅲ | |
| 138 | 〃 | 〃 | 52.0 | 34.0 | 10.0 | 31.4 | F-8, Ⅲ | |
| 139 | 〃 | 〃 | 54.0 | 45.0 | 8.0 | 27.0 | F-9, Ⅱ | |
| 140 | 〃 | 安山岩 | 52.0 | 62.0 | 11.0 | 45.2 | F-9, Ⅲ | |
| 141 | 〃 | センマイ岩 | 51.0 | 34.0 | 4.0 | 11.6 | H-9, Ⅱ~Ⅲ | |
| 142 | 〃 | 砂岩 | 97.0 | 74.0 | 72.0 | 518.0 | E-11, Ⅲ | |
| 143 | 浮子 | 軽石 | 79.0 | 76.0 | 18.0 | 37.4 | 南流路 | |
| 144 | 〃 | 〃 | 127.0 | 101.0 | 27.0 | 154.2 | 南側壁面,泥炭層 | |
| 145 | 〃 | 〃 | 83.0 | 61.0 | 16.0 | 34.8 | C-9, Ⅲ | |
| 146 | 〃 | 〃 | 68.0 | 27.0 | 11.0 | 11.4 | H-8, Ⅲ | |
| 147 | 〃 | 〃 | 75.0 | 61.0 | 21.0 | 22.5 | F-9, Ⅱ | |
| 148 | 〃 | 〃 | 66.0 | 48.0 | 24.0 | 14.4 | C-9, Ⅳ | |
| 149 | 〃 | 〃 | 41.0 | 34.0 | 17.0 | 6.6 | G-7, Ⅳ | |
| 150 | 〃 | 〃 | 49.0 | 31.0 | 9.0 | 3.0 | E-9, Ⅲ | |
| 151 | 〃 | 〃 | 68.0 | 56.0 | 11.0 | 31.2 | E-12, Ⅱ | |
| 152 | 〃 | 〃 | 120.0 | 104.0 | 32.0 | 195.0 | G-8, Ⅲ | |
| 153 | 磨製石斧 | 蛇紋岩 | (145.5) | 56.0 | 37.0 | 400.0 | H-8, Ⅲ | |
| 154 | 〃 | 安山岩 | 131.0 | 55.0 | 31.0 | 285.0 | G-8, Ⅲ | |
| 155 | 〃 | 砂岩 | 64.0 | 27.0 | 12.0 | 29.4 | H-8, Ⅲ | |
| 156 | 〃 | 〃 | (138.0) | 55.5 | 25.0 | 280.0 | F-7, Ⅲ | |
| 157 | 〃 | 安山岩 | (123.5) | (54.0) | 26.0 | 230.0 | F-12, Ⅴ | |
| 158 | 〃 | 蛇紋岩 | 94.5 | 33.0 | 14.0 | 83.0 | H-8, Ⅲ | |
| 159 | 〃 | 〃 | (91.0) | 34.0 | 13.0 | 69.5 | 西側流路,貝層 | |
| 160 | 〃 | 〃 | (112.0) | 58.0 | 24.0 | 260.0 | G-8, Ⅲ | |
| 161 | 〃 | 安山岩 | 72.5 | 46.0 | 17.5 | 82.5 | I-8, Ⅲ | |
| 162 | 〃 | 砂岩 | (38.5) | (50.0) | 23.0 | 55.0 | G-11, 土坑1 | |
| 163 | 〃 | 蛇紋岩 | 95.0 | 29.0 | 17.0 | 74.0 | H-10, Ⅲ | |
| 164 | 〃 | 〃 | 112.0 | 32.0 | 18.0 | 110.0 | G-8, Ⅲ | |
| 165 | 〃 | 安山岩 | 93.0 | 22.0 | 16.0 | 59.5 | E-9, Ⅳ | |
| 166 | 〃 | 蛇紋岩 | (86.0) | 26.5 | 12.0 | 49.0 | G-8, Ⅲ | |
| 167 | 〃 | 安山岩 | 99.0 | 63.0 | 30.0 | 300.0 | F-10, Ⅲ | |
| 168 | 〃 | 蛇紋岩 | 89.5 | 44.0 | 18.0 | 102.0 | B-9, 流土砂 | |
| 169 | 〃 | 〃 | (110.0) | 58.0 | 16.0 | 155.0 | I-8, Ⅲ | |
| 170 | 〃 | 〃 | 82.0 | 53.5 | 23.5 | 140.0 | H-7, Ⅲ | |
| 171 | 〃 | 〃 | 101.5 | 52.0 | 17.5 | 140.0 | 一括 | |
| 172 | 〃 | 安山岩 | 96.0 | 61.0 | 29.0 | 250.0 | F-9, Ⅲ | |
| 173 | 〃 | 〃 | (97.0) | 57.0 | 22.0 | 180.0 | E-8, Ⅲ | |
| 174 | 〃 | 蛇紋岩 | 98.0 | 48.0 | 19.0 | 130.0 | G-10, 土坑1 | |
| 175 | 〃 | 〃 | 103.0 | 56.0 | 26.0 | 245.0 | I-8, Ⅲ | |
| 176 | 〃 | 安山岩 | 116.0 | 40.5 | 20.0 | 203.0 | H-7, Ⅳ | |
| 177 | 〃 | 〃 | 114.0 | 50.0 | 27.0 | 210.0 | D-9, Ⅳ | |
| 178 | 〃 | 〃 | (125.0) | 61.0 | 39.0 | 535.0 | D-8, Ⅲ | |
| 179 | 〃 | 〃 | 103.0 | 59.0 | 27.0 | 220.0 | H-8, Ⅳ | |
| 180 | 〃 | 砂岩 | (53.0) | (38.0) | 28.0 | 74.5 | H-9, Ⅲ | |
| 181 | 〃 | 蛇紋岩 | (58.0) | (37.0) | (14.0) | (49.6) | H-8, Ⅲ | |
| 182 | 〃 | 〃 | 105.0 | 65.0 | 31.5 | 360.0 | D-6, Ⅴ | |
| 183 | 〃 | 砂岩 | (90.0) | 94.0 | 24.0 | 280.0 | H-7, Ⅲ | |
| 184 | 〃 | 安山岩 | (111.0) | 79.0 | 26.0 | 305.0 | E-9, Ⅳ | |
| 185 | 〃 | 〃 | 139.0 | 63.0 | 39.0 | 615.0 | G-6, Ⅲ | |
| 186 | 〃 | 蛇紋岩 | (79.0) | 67.0 | 30.0 | 270.0 | H-8, Ⅲ | |
| 187 | 〃 | 砂岩 | 117.0 | 67.0 | 36.0 | 550.0 | F-8, Ⅲ | |
| 188 | 〃 | 蛇紋岩 | (78.0) | (49.0) | 20.0 | 108.0 | I-6, 流路3 | |
| 189 | 〃 | 〃 | (80.0) | 48.0 | 15.0 | 84.5 | E-9, Ⅳ | |

## 第21表　石器観察表（4）

| 番号 | 器　種 | 石　材 | 計測値 長さ(㎜) | 幅(㎜) | 厚さ(㎜) | 重さ(g) | グリッド及び層位 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 190 | 磨製石斧 | 蛇紋岩 | 110.0 | 53.5 | 30.0 | | H-4,Ⅲ | |
| 191 | 〃 | 砂　岩 | 105.0 | 58.0 | 27.0 | 300.0 | D-10,Ⅲ~Ⅳ | |
| 192 | 〃 | 安山岩 | 85.0 | 43.5 | 31.5 | 170.0 | F-7,Ⅲ | |
| 193 | 〃 | 蛇紋岩 | (87.0) | 46.0 | 26.0 | 165.0 | G-10,Ⅲ | |
| 194 | 〃 | 砂　岩 | (97.0) | 62.5 | 40.0 | 325.0 | F-8,Ⅳ | |
| 195 | 〃 | 蛇紋岩 | (117.0) | 74.0 | 23.0 | 330.0 | G-8,Ⅲ | |
| 196 | 〃 | 安山岩 | (85.0) | 54.0 | 33.0 | 230.0 | 南側流路 | |
| 197 | 〃 | 〃 | 85.0 | 64.0 | 29.0 | 275.0 | F-9,Ⅲ | |
| 198 | 〃 | 〃 | (97.0) | 54.0 | 28.0 | 195.0 | G-8,Ⅲ | |
| 199 | 〃 | 蛇紋岩 | 109.5 | 54.0 | 23.0 | 180.0 | G-7,Ⅳ | |
| 200 | 〃 | 〃 | (103.0) | 50.0 | 26.0 | 155.0 | F-10,Ⅲ | |
| 201 | 〃 | 安山岩 | (105.0) | 47.5 | 28.0 | 190.0 | H-8,Ⅲ | |
| 202 | 〃 | 蛇紋岩 | 104.0 | 53.0 | 35.0 | 295.0 | F-8,Ⅳ | |
| 203 | 〃 | 〃 | (172.0) | 68.0 | 41.0 | 610.0 | H-8,Ⅲ | |
| 204 | 〃 | 〃 | (102.0) | 67.0 | 39.0 | 330.0 | E-11,Ⅲ | |
| 205 | 〃 | 砂　岩 | (111.5) | 52.0 | 20.0 | 165.0 | F-6,Ⅳ | |
| 206 | 〃 | 〃 | (126.0) | 69.0 | 49.0 | 590.0 | I-9,Ⅳ | |
| 207 | 打製石斧 | 〃 | (119.5) | 56.0 | 21.5 | 220.0 | E-12,Ⅴ | |
| 208 | 磨製石斧 | 安山岩 | (161.0) | 68.0 | 32.0 | 430.0 | F-8,Ⅲ | |
| 209 | 打製石斧 | 〃 | 133.0 | 66.0 | 19.0 | 170.0 | D-8,Ⅳ | |
| 210 | 磨製石斧 | 〃 | 116.0 | 58.0 | 24.5 | 240.0 | D-9,Ⅲ | |
| 211 | 磨石・敲石 | 砂　岩 | 127.0 | 107.0 | 51.0 | 1015.0 | E-8,Ⅳ | |
| 212 | 〃 | 〃 | 113.0 | 43.0 | 28.0 | 230.0 | D-8,Ⅳ | |
| 213 | 〃 | 〃 | 104.0 | 86.0 | 52.0 | 735.0 | D-9,Ⅳ | |
| 214 | 〃 | 〃 | 148.0 | 63.0 | 31.0 | 510.0 | D-10,Ⅲ | |
| 215 | 〃 | 〃 | 112.0 | 80.0 | 48.0 | 640.0 | G-8,Ⅲ | |
| 216 | 〃 | 〃 | 100.0 | 86.0 | 46.0 | 595.0 | H-8,Ⅲ | |
| 217 | 〃 | 〃 | 208.0 | 67.0 | 44.0 | 912.0 | F-8,Ⅲ | |
| 218 | 〃 | 〃 | 123.0 | 109.0 | 54.0 | 1080.0 | F-8,Ⅲ | |
| 219 | 〃 | 〃 | 110.0 | 105.0 | 49.0 | 942.0 | H-10,土坑 | |
| 220 | 〃 | 〃 | 121.0 | 96.0 | 53.0 | 930.0 | G-5,Ⅳ | |
| 221 | 〃 | 〃 | 112.0 | 96.0 | 41.0 | 711.0 | C-9,Ⅲ | |
| 222 | 〃 | 〃 | 125.0 | 111.0 | 50.0 | 1000.0 | F-8,Ⅲ | |
| 223 | 〃 | 〃 | 113.0 | 75.0 | 46.0 | 595.0 | H-10,Ⅲ | |
| 224 | 〃 | 〃 | 114.0 | 91.0 | 39.0 | 640.0 | F-8,Ⅲ | |
| 225 | 〃 | 〃 | 97.0 | 93.0 | 50.0 | 745.0 | F-8,Ⅲ | |
| 226 | 〃 | 〃 | 110.0 | 103.0 | 57.0 | 994.0 | J-8,Ⅲ | |
| 227 | 〃 | 〃 | 114.0 | 90.0 | 47.0 | 805.0 | E-10,Ⅲ | |
| 228 | 〃 | 〃 | 113.0 | 76.0 | 50.0 | 620.0 | D-8,Ⅳ | |
| 229 | 〃 | 〃 | 120.0 | 109.0 | 53.0 | 900.0 | H-8,Ⅲ | |
| 230 | 〃 | 〃 | 144.0 | 115.0 | 44.0 | 1015.0 | H-8,Ⅲ | |
| 231 | 〃 | 〃 | 126.0 | 111.0 | 44.0 | 900.0 | D-8,土坑 | |
| 232 | 〃 | 〃 | 136.0 | 120.0 | 56.0 | 1165.0 | F-8,Ⅲ | |
| 233 | 〃 | 〃 | 124.0 | 117.0 | 46.0 | 1060.0 | F-8,Ⅲ | |
| 234 | 〃 | 〃 | 88.0 | 86.0 | 54.0 | 538.0 | H-8,Ⅲ | |
| 235 | 〃 | 〃 | 54.0 | 41.5 | 30.5 | 93.0 | H-8,Ⅲ | |
| 236 | 〃 | 〃 | 59.0 | 48.0 | 41.0 | 165.0 | H-8,Ⅲ | |
| 237 | 〃 | 〃 | 73.0 | 43.0 | 35.0 | 158.0 | D-8,Ⅲ | |
| 238 | 〃 | 〃 | 46.0 | 40.0 | 15.0 | 39.8 | F-8,Ⅲ | |
| 239 | 〃 | 〃 | 61.0 | 41.0 | 43.0 | 145.0 | G-8,Ⅲ | |
| 240 | 〃 | 〃 | 75.0 | 43.0 | 39.0 | 200.0 | D-8,Ⅲ | |
| 241 | 〃 | 〃 | 71.0 | 46.0 | 39.0 | 152.0 | H-7,Ⅲ | |
| 242 | 〃 | 〃 | 69.0 | 38.0 | 32.0 | 130.0 | F-8,Ⅲ | |
| 243 | 〃 | 〃 | 57.0 | 44.5 | 45.0 | 170.0 | F-8,Ⅲ | |
| 244 | 〃 | 〃 | 64.0 | 45.0 | 41.0 | 125.0 | F-8,Ⅲ | |
| 245 | 〃 | 〃 | 67.0 | 40.0 | 30.0 | 110.0 | E-9,Ⅲ | |
| 246 | 〃 | 〃 | 45.0 | 41.0 | 34.0 | 89.0 | D-9,Ⅲ | |
| 247 | 〃 | 〃 | 53.0 | 49.0 | 17.0 | 58.5 | F-8,Ⅲ | |
| 248 | 〃 | 〃 | 56.5 | 42.0 | 24.5 | 84.0 | H-7,Ⅲ | |
| 249 | 〃 | 〃 | (51.0) | (38.0) | 28.5 | 78.0 | E-9,Ⅲ | |
| 250 | 〃 | 〃 | 65.0 | 41.0 | 29.0 | 105.0 | F-8,Ⅲ | |
| 251 | 〃 | 〃 | 41.0 | 26.5 | 24.0 | 35.4 | F-8,Ⅲ | |
| 252 | 〃 | 〃 | 52.0 | 42.0 | 36.0 | 115.0 | F-8,Ⅳ | |

## 第22表　石器観察表（５）

| 番号 | 器種 | 石材 | 計測値 | | | | グリッド及び層位 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 長さ(㎜) | 幅(㎜) | 厚さ(㎜) | 重さ(ｇ) | | |
| 253 | 磨石・敲石 | 砂岩 | 66.0 | 44.0 | 24.0 | 105.0 | F-6,Ⅳ | |
| 254 | 〃 | 〃 | 56.0 | 51.0 | 33.0 | 155.0 | Ⅰ-7,Ⅳ | |
| 255 | 〃 | 〃 | 45.0 | 44.0 | 43.0 | 118.0 | D-9,Ⅳ | |
| 256 | 〃 | 〃 | 75.0 | 45.0 | 40.0 | 210.0 | D-9,Ⅳ | |
| 257 | 〃 | 〃 | 50.0 | 39.0 | 34.5 | 112.2 | D-9,Ⅳ | |
| 258 | 〃 | 〃 | 60.0 | 50.0 | 34.0 | 142.0 | F-8,Ⅳ | |
| 259 | 石皿・台石 | 〃 | 287.0 | (202.0) | 58.0 | 4750.0 | H-10,Ⅱ | |
| 260 | 〃 | 〃 | 336.0 | (189.0) | 63.0 | 6100.0 | H-10,Ⅲ | |
| 261 | 〃 | 〃 | 271.0 | (203.0) | 107.0 | 8250.0 | E-11,土坑1 | |
| 262 | 〃 | 〃 | 243.0 | (197.0) | 104.0 | 7650.0 | G-11 | |
| 263 | 双頭形石器 | 〃 | 114.0 | 122.5 | 21.0 | 398.0 | H-8,Ⅲ | |
| 264 | 〃 | 〃 | (96.0) | 134.0 | 24.0 | 360.0 | Ⅰ-8,Ⅲ | |
| 265 | 〃 | 〃 | 105.0 | 125.0 | 26.0 | 475.0 | E-8,Ⅲ | |
| 266 | 〃 | 〃 | 131.0 | 132.0 | 38.0 | 648.0 | H-7,Ⅲ | |
| 267 | 楔形石器 | サヌカイト | 34.0 | 26.0 | 10.0 | 11.0 | F-9,Ⅲ | |
| 268 | 〃 | 黒耀石 | 24.0 | 27.0 | 8.0 | 7.2 | H-7,Ⅳ | |
| 269 | 〃 | サヌカイト | 31.0 | 32.0 | 7.0 | 8.4 | D-11,Ⅱ | |
| 270 | 〃 | 〃 | 31.0 | 28.0 | 9.0 | 5.9 | D-10,Ⅳ | |
| 271 | 〃 | 〃 | 28.0 | 34.0 | 7.0 | 9.1 | G-6,土坑 | |
| 272 | 〃 | 黒耀石 | 31.0 | 19.0 | 16.0 | 8.1 | H-8,Ⅲ | |
| 273 | 〃 | サヌカイト | 54.0 | 35.0 | 11.0 | 20.0 | E-4,土坑 | |
| 274 | 〃 | 〃 | 47.0 | 30.0 | 10.0 | 16.6 | D-8,Ⅳ | |
| 275 | 〃 | 黒耀石 | 26.0 | 29.0 | 7.0 | 5.3 | Ⅰ-9,Ⅲ | |
| 276 | 〃 | サヌカイト | 40.0 | 30.0 | 8.0 | 15.4 | 一括 | |
| 277 | 〃 | 〃 | 43.0 | 27.0 | 9.0 | 11.2 | D-8,Ⅳ | |
| 278 | 〃 | 黒耀石 | 34.0 | 33.0 | 17.0 | 15.0 | D-8,Ⅲ | |
| 279 | 〃 | 〃 | 24.0 | 24.0 | 5.0 | 37.0 | E-9,Ⅲ | |
| 280 | 〃 | サヌカイト | 39.0 | 37.0 | 11.0 | 25.8 | E-11,Ⅲ | |
| 281 | 二次加工ある石器 | 〃 | (38.0) | 29.0 | 10.0 | 10.8 | H-8,Ⅱ | |
| 282 | 〃 | 〃 | (30.0) | 9.0 | 3.0 | 0.9 | G-9,Ⅱ | |
| 283 | 〃 | 〃 | (28.0) | (15.0) | 5.0 | 1.3 | G-9,Ⅲ | |
| 284 | 〃 | 〃 | 34.0 | 20.0 | 6.0 | 4.0 | G-7,Ⅲ | |
| 285 | 〃 | 〃 | 44.0 | 31.0 | 14.0 | 14.2 | Ⅰ-9,Ⅱ | |
| 286 | 釣針形石器 | 〃 | 68.0 | (53.0) | 9.0 | 11.0 | 一括 | |
| 287 | 使用痕ある石器 | 〃 | 88.0 | 34.0 | 13.0 | 35.6 | E-8,Ⅳ | |
| 288 | 〃 | チャート | 68.0 | 48.0 | 17.0 | 66.0 | E-10,Ⅲ | |
| 289 | 〃 | サヌカイト | 67.0 | 44.0 | 14.0 | 37.0 | G-3,Ⅲ | |
| 290 | 〃 | 〃 | 71.0 | 45.0 | 7.0 | 29.3 | G-8,Ⅳ | |
| 291 | 〃 | 〃 | (65.0) | 52.0 | 20.0 | 55.5 | D-9,Ⅳ | |
| 292 | 〃 | 〃 | 71.0 | 46.0 | 11.0 | 37.0 | F-6,Ⅴ | |
| 293 | 〃 | 〃 | 64.0 | 31.0 | 6.0 | 10.6 | F-10,Ⅳ | |
| 294 | 〃 | 〃 | 50.0 | 26.0 | 9.0 | 10.6 | G-8,Ⅲ | |
| 295 | 〃 | 〃 | 57.0 | 34.0 | 13.0 | 20.0 | G-10,Ⅲ | |
| 296 | 〃 | 黒耀石 | 34.0 | 28.0 | 8.0 | 6.1 | F-8,Ⅲ | |
| 297 | 〃 | 〃 | 29.0 | 29.0 | 7.0 | 5.9 | F-10,土坑 | |
| 298 | 〃 | サヌカイト | 44.0 | 28.0 | 7.0 | 2.7 | D-9,Ⅳ | |
| 299 | 〃 | 〃 | 47.0 | 41.0 | 11.0 | 17.2 | G-7,Ⅲ | |
| 300 | 〃 | 〃 | 42.0 | 39.0 | 8.0 | 10.6 | E-9,Ⅲ | |
| 301 | 〃 | 安山岩 | 55.0 | 42.0 | 9.0 | 21.8 | F-6,Ⅳ | |
| 302 | 〃 | サヌカイト | 54.0 | 46.0 | 18.0 | 43.4 | G-10,Ⅲ | |
| 303 | 石核 | 〃 | 26.0 | 40.0 | 24.0 | 23.2 | F-7, | |
| 304 | 〃 | 黒耀石 | 29.0 | 34.0 | 22.0 | 16.2 | F-8,Ⅱ | |
| 305 | 〃 | チャート | 86.0 | 60.0 | 33.0 | 170.0 | D-8,Ⅴ | |
| 306 | 〃 | 頁岩 | 48.0 | 65.0 | 34.0 | 90.5 | E-9,Ⅲ | |
| 307 | 〃 | 安山岩 | 193.0 | 126.0 | 39.0 | 700.0 | F-8,Ⅳ | |
| 308 | 〃 | サヌカイト | 110.1 | 104.0 | 39.0 | 340.0 | F-11,表採 | |
| 309 | 有孔石製品 | 結晶質石灰岩 | 85.0 | 36.0 | 18.0 | 82.5 | Ⅳ | |
| 310 | 〃 | 泥岩 | (38.0) | 26.0 | 13.0 | 16.2 | E-9,Ⅲ | |
| 311 | 〃 | 砂岩 | 34.0 | (21.0) | 17.0 | 15.0 | H-7,Ⅳ | |
| 312 | 〃 | 結晶質石灰岩 | 72.0 | 31.0 | 7.5 | 24.0 | G-8,Ⅲ | |
| 313 | 擦切石器 | サヌカイト | (57.0) | 39.0 | 11.0 | 27.9 | H-8,Ⅱ | |
| 314 | 異形石器 | 安山岩 | 74.0 | 29.0 | 13.0 | 44.8 | F-8,Ⅳ | |
| 315 | 〃 | 砂岩 | (47.0) | 39.0 | (21.0) | 42.4 | H-9,土坑 | |

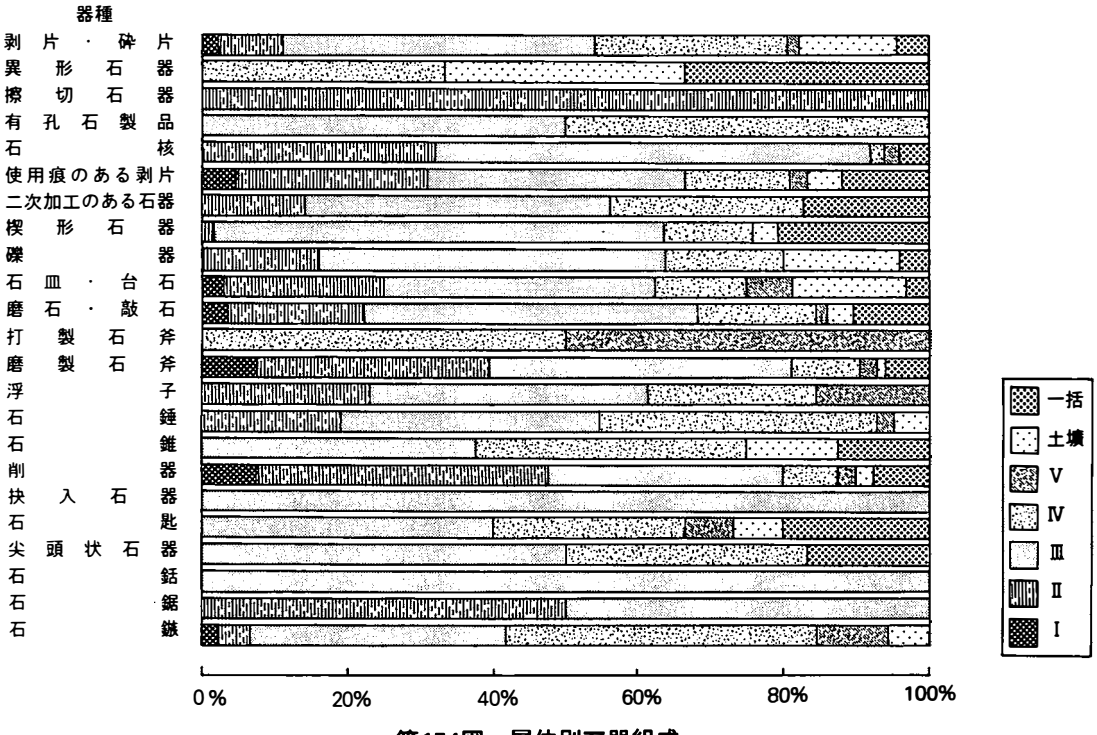
## 2．まとめ

黒橋貝塚からは、大量の石器類が出土した。その石器組成は、豊富で多岐にわたっている。このことは、当該期に貝塚を形成した人々の生産活動の痕跡であり、貝塚に遺棄された石器群の様相は、当該期の生産活動の痕跡として理解できる。また、貝塚という遺跡の特性から貝や魚骨、獣骨等の有機体についても保存され、生活の一端を知ることができる。つまり、直接的（一次的）生産用具としての石器を使用することによって獲得されたものの残滓が上述した有機体である。そのなかには、二次的な利用の在り方として、加工を施し用具として再生産されたものも存在する。

当該貝塚からは、Ⅰ～Ⅴ層にかけて遺物が検出された。このうちⅢ～Ⅳ層が、それぞれ混土貝層、純貝層にあたる。今回報告書には、概ねⅢ～Ⅴ層にかけて出土した資料を掲載した。つまり、ここで取り扱った資料の多くが貝塚を形成した人々が遺棄したものである。このことから、貝塚から出土した自然遺物を念頭におきながら、特記事項を記し若干のまとめを行なう。

**第23表　層位別石器組成表**

| | 石鏃 | 石鋸 | 石錐 | 尖頭状石器 | 石匙 | 抉入石器 | 削器 | 石錐 | 石錘 | 浮子 | 磨製石斧 | 打製石斧 | 磨石・敲石 | 石皿・台石 | 礫器 | 楔形石器 | 二次加工ある石器 | 使用痕ある剥片 | 石核 | 有孔石製品 | 擦切石器 | 異形石器 | 剥片・砕片 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Ⅰ | 2 | | | | | | 3 | | | | 13 | | 7 | 1 | | | | 2 | | | | | 24 | 52 |
| Ⅱ | 4 | 1 | | | | | 16 | | 8 | 3 | 54 | | 36 | 7 | 4 | 1 | 9 | 11 | 16 | | 1 | | 93 | 264 |
| Ⅲ | 32 | 1 | 1 | 3 | 6 | 5 | 13 | 3 | 15 | 5 | 71 | | 89 | 12 | 12 | 36 | 27 | 15 | 30 | 2 | | | 449 | 827 |
| Ⅳ | 39 | | | 2 | 4 | | 3 | 3 | 16 | 3 | 16 | 1 | 31 | 4 | 4 | 7 | 17 | 6 | 1 | 2 | | 1 | 277 | 437 |
| Ⅴ | 9 | | | | 1 | | 1 | | 1 | | 4 | 1 | 3 | 2 | 1 | | | 1 | 1 | | | | 17 | 42 |
| 土壙 | 5 | | | | 1 | | 1 | 1 | 2 | | 2 | | 7 | 5 | 3 | 2 | | 2 | | | | 1 | 140 | 172 |
| 一括 | | | | 1 | 3 | | 3 | 1 | | 2 | 10 | | 20 | 1 | 1 | 12 | 11 | 5 | 2 | | | 1 | 46 | 119 |
| 計 | 91 | 2 | 1 | 6 | 15 | 5 | 40 | 8 | 42 | 13 | 170 | 2 | 193 | 32 | 25 | 58 | 64 | 42 | 50 | 4 | 1 | 3 | 1046 | 1913 |




**第154図　層位別石器組成**

### （１）石材について

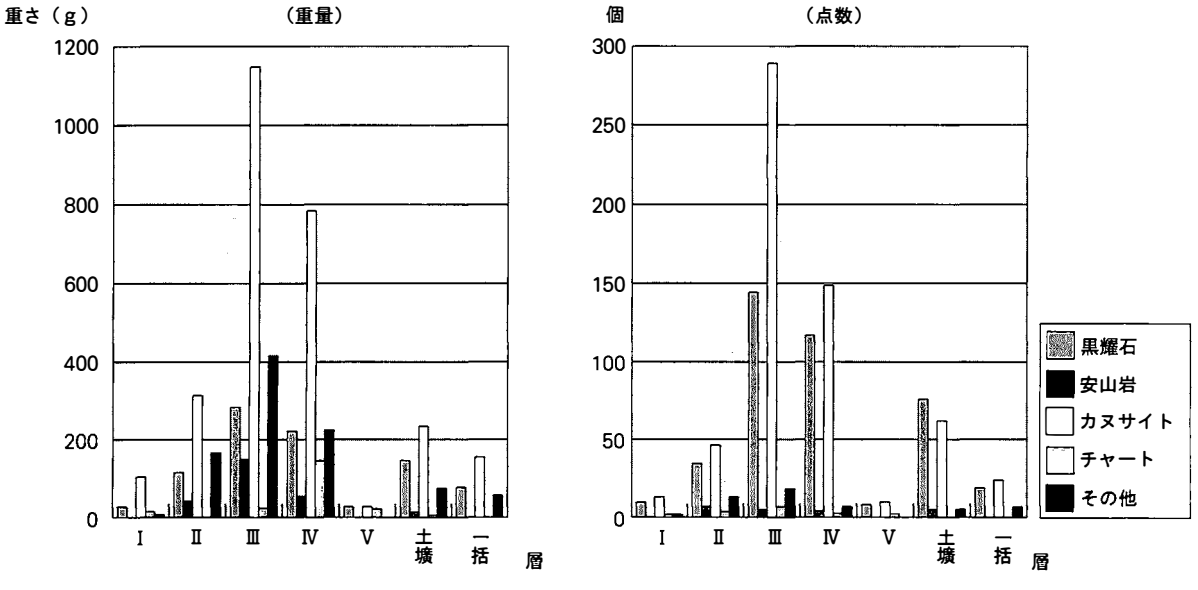
貝塚から出土した剥片石器類は、数量的に膨大な量である。その石器類に使用された石材は、黒耀石、チャート、安山岩、サヌカイトである。それぞれの石材を原産地ごとにみていく。まず、黒耀石は三種類に分別される。①漆黒色を呈する良質の黒耀石で挟雑物をほとんど含まない、腰岳産に比定できるもの、②漆黒色を呈する黒耀石で、挟雑物を多量に含むものであり、小国産に比定できるもの、③乳白色を呈する黒耀石で、微細な赤色の粒子をわずかに含み、姫島産に比定できるものの三種類である。これらの利用頻度は、腰岳産と小国産が多く、姫島産はわずかである。次に、安山岩は原産地の同定は難しく限定はできないが、在地産である可能性が高い。サヌカイトについては、その原産地については西北九州多久市周辺であると考えられる。チャートは、緑川流域に認められる石材であり、在地産石材である。しかし、これらの石材の利用頻度は、安山岩、サヌカイトがもっとも高く、ついで腰岳産及び小国産の黒耀石となる。このことは、貝塚を形成した人々の生活が、西北九州と強い関連性を持ちながら、広範囲にわたって交易を行なっていた事実を示唆するものである。

### （２）石鏃について

石鏃は、その形態を二類に分類し、基部の形状からさらに細分を行なった。黒橋貝塚から出土した石鏃は、基部の形状ではｂ類とした抉入の浅いものが主体を占め、形態的には１類が多い。使用された石材では、他の剥片石器と同様に安山岩、サヌカイトが主体的に選択され、黒耀石及びチャートの利用頻度は少ない。大きさは、２㎝前後のものが多いが、なかには３㎝を越える大型のものも存在する。このことは、使用方法あるいは対象物の違いといった用途の差異による可能性も考えられる。石鏃が矢の先端に装着されるものであり、弓の反発力を利用し使用されるものであることを考慮すると、矢の先端（石鏃）の重量の変化は、相関的に矢の長さないしは矢柄の重量、または弓の強度に比例することが予想される。

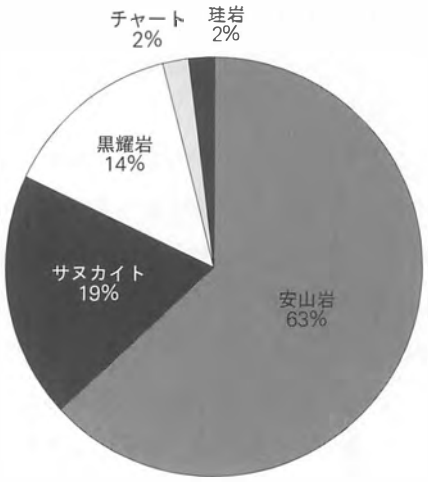
また、貝塚から出土した動物遺体の種類は多く、このことから狩猟対象物が多岐にわたっていることが理解されるが、その中心はイノシシやシカであり、全体の95％を占めている。つまり、貝塚を形成した人々の、狩猟活動における中心的狩猟対象物は、イノシシやシカであったと理解できる。

また、石銛（77）として分類した資料は、前述したように形態的には石鏃に類似する。つまり、「石鏃＋石鋸」といった形態を示す資料であり、狩猟用具である石鏃と漁労用具である石銛との関係性を示唆するも




**第155図　層別・石材別の出土割合**

のとして重要である。さらに側縁部が鋸歯状を呈する16の石鏃は、77の石錐の約２／３であり基部の石鋸に類似した部分を除いた大きさにほぼ一致する。このことからも、石鏃として分類した石器には、当然のことながら漁労用具として使用されたものも含まれていることが指摘できる。このことは、大量の貝類、魚骨とともに少量ではあるが、イルカ、クジラの椎骨が検出されていることからも類推できる。

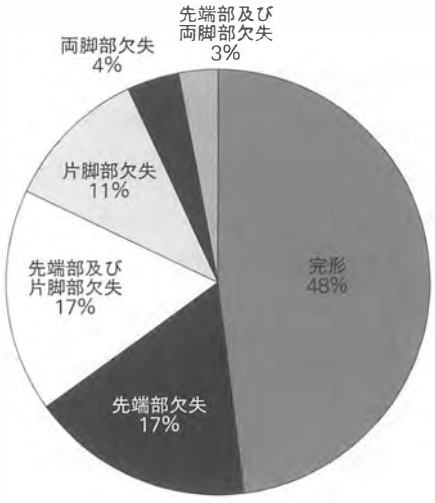



第156図　石鏃の石材別頻度

### （３）石匙について

石匙は、数量的にはさほど多くない。しかし、これらの資料は、表裏面に素材となった剥離面を残すものが多くみられ、その結果製作上の共通点を指摘することができる。素材剥片の打点部側を、つまみ部側に置く。このことから石器の形状は、素材として選択された剥片の形状によって規定されることになり、縦型や横型と中間的なもの等形態的にバリエイションが認められることになる。打点部側を上位に置くことで、つまみ部の形状は比較的大きく、調整加工もつまみ部付近に集中し、素材の厚みを減じるように施されるものもみられる。

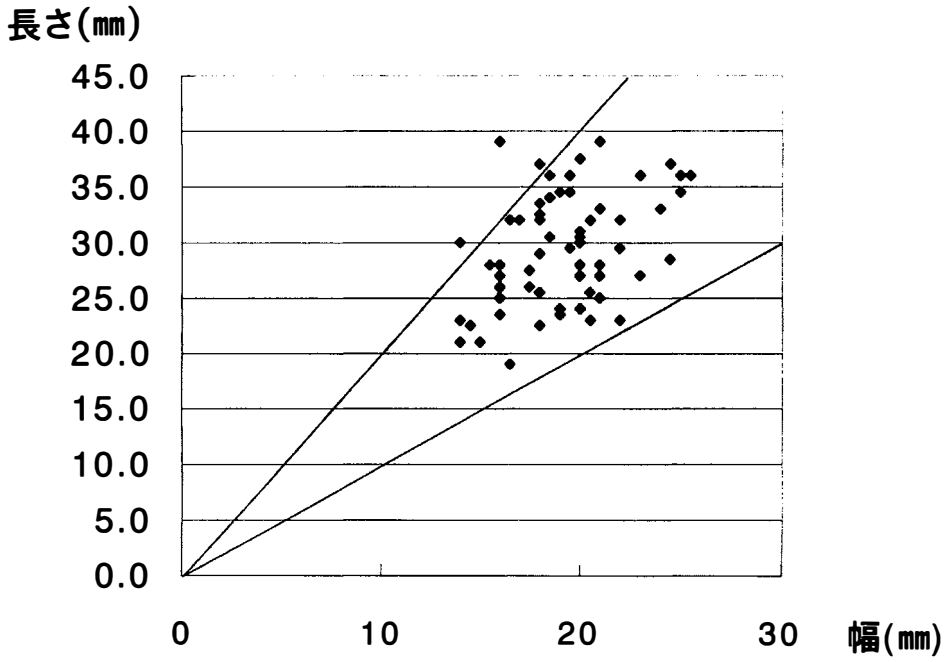
また、資料のなかには刃部の作り出しが顕著でないものも含まれ、抉入石器との分類が困難となる資料もみられる。




第157図　石鏃の欠失部位

### （４）礫器について

礫器は総数25点検出された。この種の石器は、海岸部の遺跡で認められ、沖の原遺跡、椎の木崎遺跡が知られている。沖の原遺跡では「尖頭状石器」、椎の木崎遺跡では「えぐり入り礫器」として報告されている。また、その用途については前者で「アワビ起こし」、後者で「カキ打ち」が想定されている。沖の原遺跡出土の「尖頭状石器」は、単頭型と双頭型に細分され、椎の木崎遺跡では双頭型「尖頭状石器」に類似する資料が多量に出土している。また、石器の全体形は、両遺跡とも三角形を呈するものは少なく、楕円形、台形を呈するものが多くみられる。調整加工の部位も一辺にのみ抉入状に施され、他の辺に施される加工は、形状を整えるために施されたものと考えられる。黒橋貝塚で検出された「礫器」は、バリエイションが認められ、図示した４点以外に、椎の木崎遺跡にみられる半円形、台形を呈する資料も存在する。この種の石器の用途として重要な部位は、表裏両面から加工され抉入状に作り出された一辺ということになる。このことは、黒橋貝塚で出土した三角形を呈した「礫器」と違う点である。当該貝塚で出土した「礫器」のうち図示した形態のものは、全体形が三角形を呈する扁平な礫が選択され、三辺に加工を施す。その結果、二辺ないし三辺が内湾する形状を呈する。また、各辺の中央部付近に擦れて潰れたような痕跡が認められ、三角形の突出した頂部に敲打痕が観察される。つまり、三辺の調整加工と使用部位は必ずしも一致しないことが指摘でき、複数の用途に使用されたものである可能性も考えられる。しかし、これらの痕跡がこの種の石器に共通して




第158図　石鏃の長幅比

認められることから、同一の用途をもち、使用方法も同じである可能性が高い。二種類の痕跡が使用に際して同時に残されたものであるとの前提によるならば、各辺に施された調整加工は、それぞれの辺を内湾させることに目的があると理解することが可能である。この考え方から擦れて潰れた痕跡は、装着痕である可能性が指摘できる。また、敲打痕は縁辺の調整を施した後に付着しており装着後の使用の痕跡の可能性が高い。このことから、黒橋貝塚で出土した「礫器」のうち三角形を呈した資料は、礫錘としての機能・用途が考えられる。また、半円形、台形を呈し一辺ないし二辺に内湾する調整加工を施した一群は、沖の原遺跡、椎の木崎遺跡で、アワビおこしやカキ打ち等の用途が想定されていることから、当該貝塚で検出された「礫器」についても、形態的にバリエイションが認められることから、それぞれ用途が違う可能性が考えられ、今後この種の石器について使用痕等細かな観察、分析、検討が必要である。

### （５）磨製石斧について

磨製石斧は、蛇紋岩を主体的に石材として選択し、丁寧な研磨により刃部を作り出している。この種の資料は、欠損品を含めて多量に出土した。これらの石器は、表裏面に研磨痕に切られる状態で、剥離面が観察される。側縁部には頭部から中位にかけて敲打痕が観察されるものと、研磨痕によって複数の面が作りだされているものとが存在する。敲打痕の認められる資料は、第６類に多くみられるが、その資料数は多くない。刃部の研ぎ出しは、表裏両面から丁寧に施され、その結果両刃となる。

第６類に分類した資料には、刃部のみをわずかに研ぎ出しただけの資料が含まれており、この種の石器の製作工程を類推することが可能である。つまり、①素材を選択し、②頭部、側縁部及び刃部に粗い剥離を施し、③前段階で粗い剥離によって設定された刃部に研磨を施し、④その後表裏面に広く研磨を施す。場合によっては、側縁部の研磨を行い、全体形を整える。以上の工程を経て製品が作り出されている。

また、これらの資料には伐採具と想定できるものの外に、加工具として想定される第１類の「ノミ」が存在する。さらに155や第５類のような片刃に近い形状の刃部をもつものも含まれている。このことから、貝塚を形成した人々が、樹木の伐採を行い加工し利用していたことを示唆する資料である。

利用の在り方としては、ａ住居の柱材の加工、ｂ用具の柄の加工、ｃ舟の製作材の加工等が考えられる。

（村崎孝宏）

# 第３節　骨角貝製品

## １．骨角貝製品の種類と分類

骨角貝製品は211点を検出した。骨角貝製品には多種類のものが含まれ、材質・形態・機能等により分類が可能であるが、ここでは整理を容易にするため、まず材質により貝製品，魚骨製品，猪牙製品，鹿角製品，骨（獣骨）製品に分類し、その中を形態や機能により簪，垂飾，刺突具等に細分する。

以下この分類を示し、次の項で個々の資料を紹介したい。なおここでは、明瞭な使用痕がないため一応製品とはしなかった鹿角素材３点、解体痕のある骨３点、刺突具の刺さった痕跡のある魚骨１点も含めて分類・紹介したい。

（１）貝製品

二枚貝や巻き貝等の殻を加工したもの。

貝輪，貝製玉，貝製垂飾，貝面に分類される。総数９点。

（２）魚骨製品

魚類の椎骨・歯・鰓骨等を加工したもの。

椎骨製耳飾，サメ歯製垂飾，鰓骨製垂飾，魚骨製刺突具，魚骨製簪，刺突痕のある鰓骨に分類される。総数44点。

（３）猪牙製品

猪の犬歯や門歯等を加工したもの。

猪牙製垂飾，猪牙製ヘラ，加工のある猪歯に分類される。総数43点。

（４）鹿角製品

鹿の角あるいは角座骨～角を加工したもの。

鹿角製簪，鹿角製垂飾，鹿角製釣針，鹿角製工具，鹿角素材に分類される。総数30点。

（５）骨（獣骨）製品

主に鹿等の四肢骨を加工したもの。

骨製簪，骨製垂飾，管状骨製品，骨製刺突具，骨製ヘラ，骨製工具，その他の骨製品，解体痕のある骨に分類される。総数92点。

## ２．骨角貝製品の解説

### （１）貝製品

【貝輪】（第159図１～３，第160図４～６）

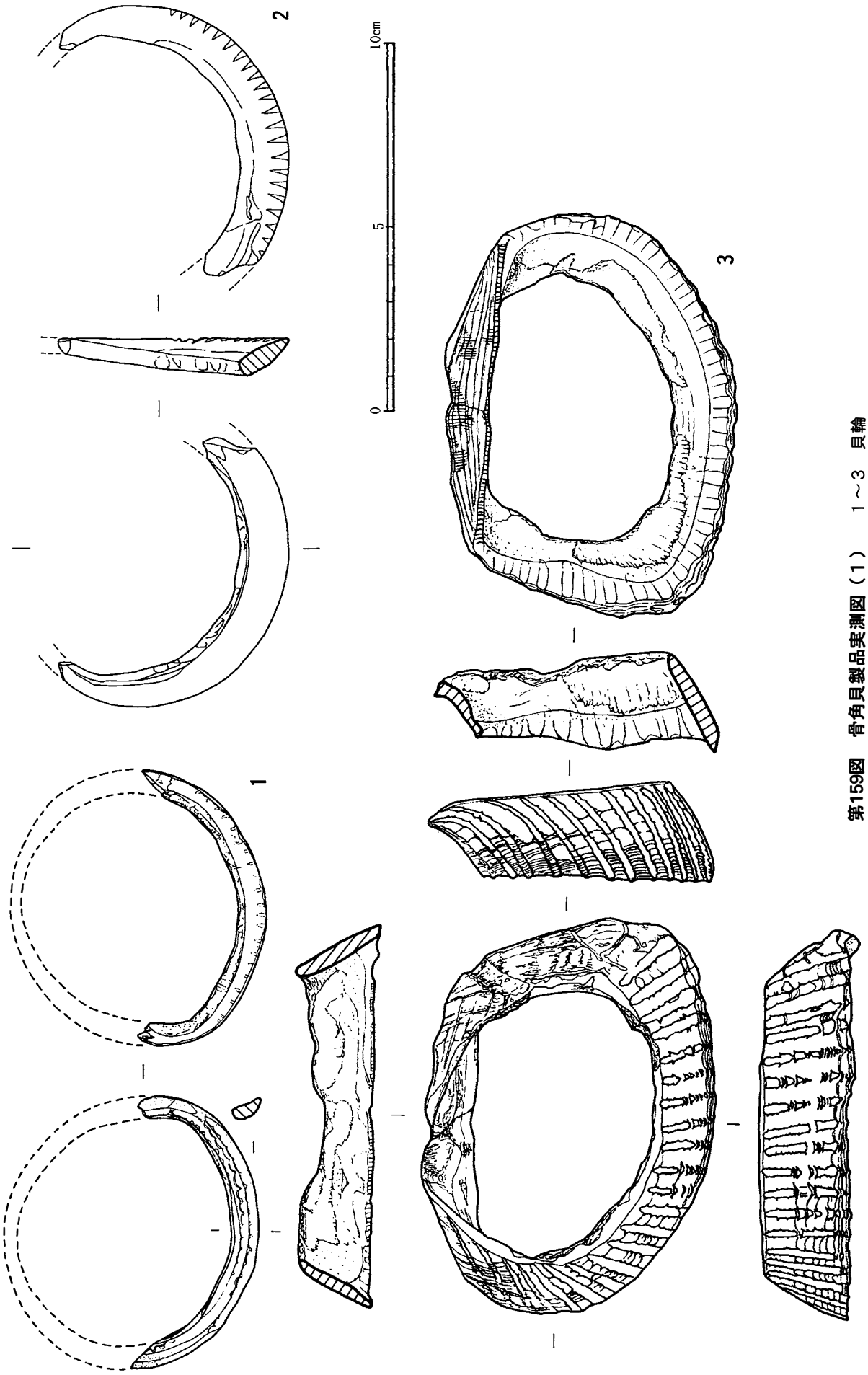
１　タマキガイ科使用。全面入念に研磨される。表面は研磨面をわずかに残すが、稜は慣れてなめらか。内周端部もなめらかで、使用の結果と解釈しうる。使用中の破損か。径7.5cm。

２　タマキガイ科ベンケイガイ使用。全面入念に研磨される。内周端部に打ち欠きの痕跡が残るが、よくなれており、長期の使用の結果とみられる。使用中の破損か。復元径8.5cm。

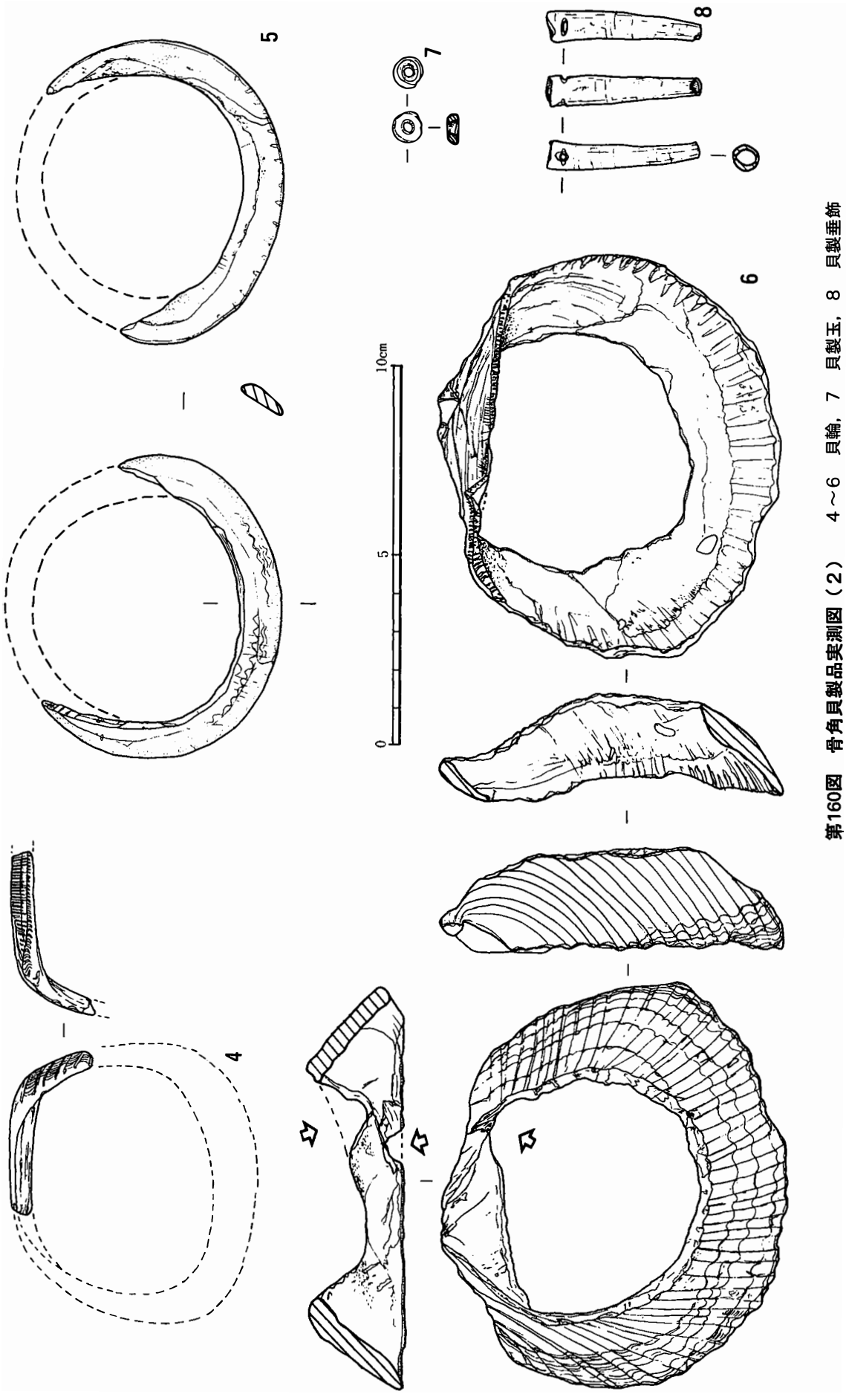
３　フネガイ科使用。復縁部と内孔部を打ち欠き、表面にあらい研磨を加えている。内周端部等の状況からみて、長期の使用であったとはみなし難い。径10.6cm。

４　フネガイ科使用。蝶番部を残す。残存部の状況から、かなり入念な作りの貝輪であったと推察される。使用中の破損か。復元径7.4cm。

５　タマキガイ科使用。全面入念に研磨される。表面は研磨面を明瞭に残すが、内周端部は打ち欠きの後あらい研磨を加えるのみ。表面の状況から、よく使用されたとみられる。使用中の破損か。径7.9cm。




第159図　骨角貝製品実測図（１）　１～３　貝輪




第160図　骨角貝製品実測図（2）　4～6　貝輪，7　貝製玉，8　貝製垂飾

６　未成品。フネガイ科使用。復縁部と内孔部を打ち欠いた段階で製作を放棄している。おそらく図の矢印部分において初期の整形に失敗したことが主要因であろう。径10.4cm。

【貝製玉】（第160図７）

７　小型のイモガイ科貝螺塔部を使用。表面はすべてなれている。研磨痕は不明瞭だが、意図的な整形を行った玉とみられる。

【貝製垂飾】（第160図８）

８　ツノガイ科使用。マルツノガイか。加工を施さないツノガイの一端の両側に、擦り切りによる穿孔を行い、垂下を可能にしている。長さ4.0cm。

【貝面】（第161図９）

９　人為を加えないままのイタボガキの蓋に、径1.8cm程の孔を２ヵ所にあけている。貝の大きさは、上下13.2cm，左右15.5cm，高さ2.7cmを測り、孔の位置は上下ではほぼ真ん中に、正面から見た左右では少し左側の殻頂寄りにあけられている。孔の中央間の距離は5.3cmを測る。全体の形状から貝面と考えられる。重さは143.8g。

**（２）魚骨製品**

【椎骨製耳飾】（第162図10～32）

10　サメの椎骨を使用。中央に径1.5㎜の小孔を穿つ。径８㎜，厚さ4.5㎜。

11　サメの椎骨を使用。周囲をすり減らして小さくし、中央に径２㎜の小孔を穿つ。径１cm，厚さ4.5㎜。

12　サメの椎骨を使用。周囲をすり減らし、溝を切り込んでいる。中央には４㎜のやや大きめの孔をあけている。径1.1㎜，厚さ５㎜。

13　サメの椎骨を使用。周囲は欠落しているが、中央に径3.5㎜の孔を穿つ。現存径11㎜。

14　サメの椎骨を使用。周囲を円く研いて、中央に径2.5㎜の小孔を穿っている。やや周囲に艶をもつ。径1.1cm，厚さ６㎜。

15　サメの椎骨を使用。周囲を円く研いでいるが、研ぎに偏りがあり、少し歪んでいる。中央に径３㎜の孔をあけている。周囲は使用によるとみられる艶がある。径1.1cm，厚さ6.5㎜。

16　サメの椎骨を使用。一面が剥離し、半分程しか残っていないが、周囲が研かれ、中央に径４㎜の孔が穿たれている。径1.2cm，現存厚3.5㎜。

17　サメの椎骨を使用。周囲をいくぶん磨っており、中央に径２㎜の孔を穿っている。一部欠損している。径1.2cm，厚さ6.5㎜。

18　サメの椎骨を使用。周囲を円く磨き、中央に径3㎜の小孔を穿っている。周囲は艶をもつ。径1.2cm，厚さ７㎜。

19　サメの椎骨を使用。周囲を円く磨き、中央に径1.5㎜の小孔を穿っている。一部欠損がある。径1.2cm，厚さ7.5㎜。

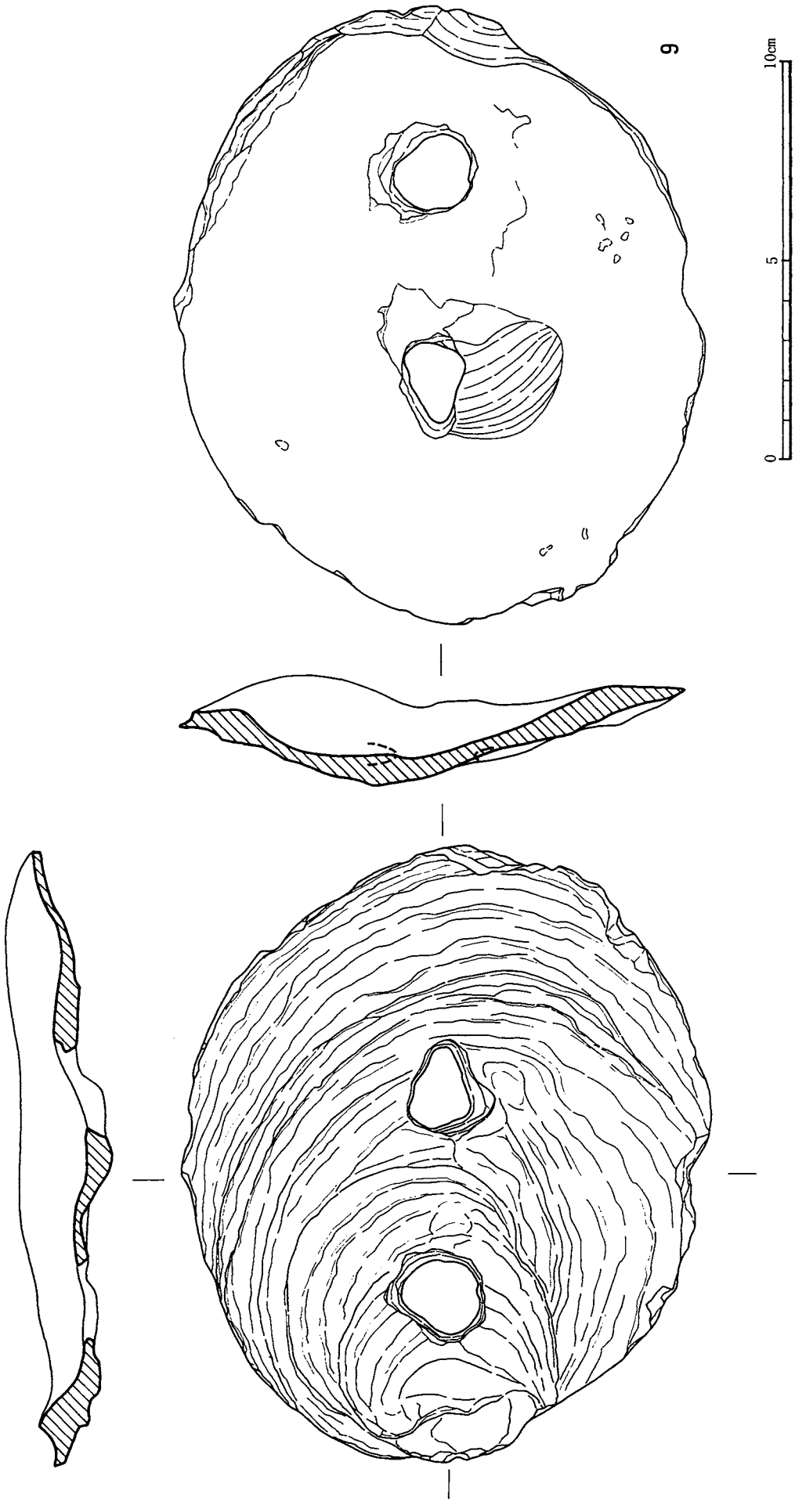
20　サメの椎骨を使用。周囲を磨き、中央に径２㎜の孔をあけている。一部に欠損がみられる。径1.25cm，厚さ6㎜。

21　サメの椎骨を使用。周囲を磨き、中央に径２㎜の孔を穿っている。一部欠損している。径1.3㎜，厚さ8.5㎜。

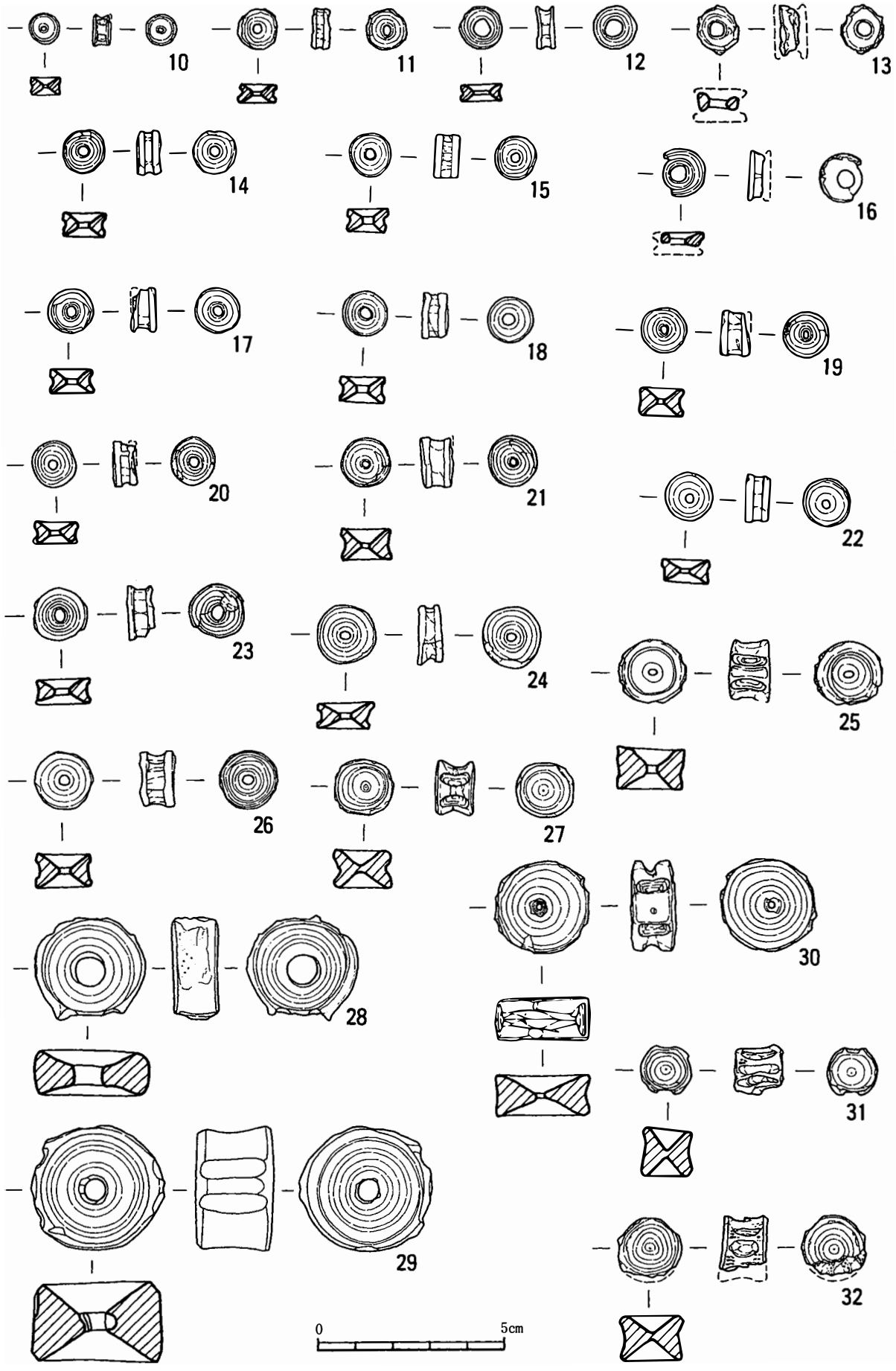
22　サメの椎骨を使用。周囲をすって整形し、中央に径２㎜の小孔をあけている。径1.3cm，厚さ6.5㎜。

23　サメの椎骨を使用。周囲に溝を切り巡らせている。中央には径3.5㎜の孔を穿っている。一部に欠損がある。径1.4cm，厚さ７㎜。

24　サメの椎骨を使用。周囲を円く研いているが、やや歪みがある。中央に径２㎜の孔を穿っている。一部




第161図　骨角貝製品実測図（3）　9　貝面




第162図　骨角貝製品実測図（４）［10～32　椎骨製耳飾］

に欠損がみられる。周囲には使用によるとみられる艶が認められる。径1.5cm，厚さ6.5㎜。

25　サメの椎骨を使用。周囲に加工はみられないが、上下両面をすって、臼状に整形している。中央には径２㎜の小孔を穿っている。径1.8cm，厚さ1.1cmを測る。

26　サメの椎骨を使用。周囲に削った痕跡が残り、中央に径2.5㎜の小孔が穿たれている。径1.5cm，厚さ９㎜。

27　サメの椎骨を使用。周囲を刃器で削ってＶ字形の溝を巡らしており、断面は石臼形を成している。耳飾として、脱落しにくい形態である。穿孔はない。径1.5cm，厚さ1.05cm。

28　サメの椎骨を使用。周囲の突起を削除し、中央に径7.5㎜の孔を穿っている。径３cm，厚さ1.2cm。

29　サメの椎骨を使用。周囲の角張った所を研磨により斜めに削り、中央に径5.5㎜の孔をあけている。全体の径3.5cm，厚さ2.1cm。

30　サメの椎骨を使用。周囲の２カ所に刃器によるＶ字状の深い切り込みがある。中央には径２㎜の小孔を穿っている。径2.5cm，厚さ1.2cm。

31　魚の椎骨を使用。椎骨の周囲の突起を削除しており、耳飾と考えられる。穿孔はない。径1.3cm，厚さ1.3cm。

32　魚の椎骨を使用。周囲の突起を削除し、整形している。溝の部分に艶がある。もろくて一部欠損している。穿孔はない。径1.7cm，厚さ1.2cm。

【サメ歯製垂飾】（第163図33～39）

33　アオザメの歯を使用。歯根部を研磨整形し、中央部を窪ませている。歯根部両側にはそれぞれ径1.5㎜の孔をあけている。全体になめらかで、歯の部分は乳白色で光沢を放っている。長さ3.1cm。

34　ホオジロザメの歯を使用。歯根部の左右の突起部にそれぞれ穿孔して、垂下の便をはかっている。使用中の破損か。現存長2.4cm。

35　ホオジロザメの歯を使用。歯根部を研磨により整形し、径２㎜の孔を両面穿孔によりあけている。全体になめらかで艶をもつ。長さ1.8cm。

36　ホオジロザメの歯を使用。歯根部を研磨により整形した後、中央に一孔を穿ったが、片面から穿孔した段階で失敗したとみられ、さらにその両側に径２㎜の孔をあけなおしている。この２つの孔も途中で失敗するのを恐れたためか、表裏の孔がかみ合っていない。歯の先端は少し欠けていたのを磨って使用している。歯は乳白色に光る。長さ2.1cm。

37　メジロザメの歯を使用。歯根部の左右の突起部にそれぞれ穿孔して、垂下の便をはかっている。全体になれて艶をもち、長期間の使用を推定させる。使用中の破損か。現存幅1.8cm，復元幅2.8cm。

38　ホオジロザメ類の歯を使用。エナメル質の部分はそのままで、歯根部を研磨整形し、その中央に径1.5cmの穿孔をしている。孔の上方と一側面には紐掛け用の溝が刻まれている。艶があり美しい。長さ14.5cm。

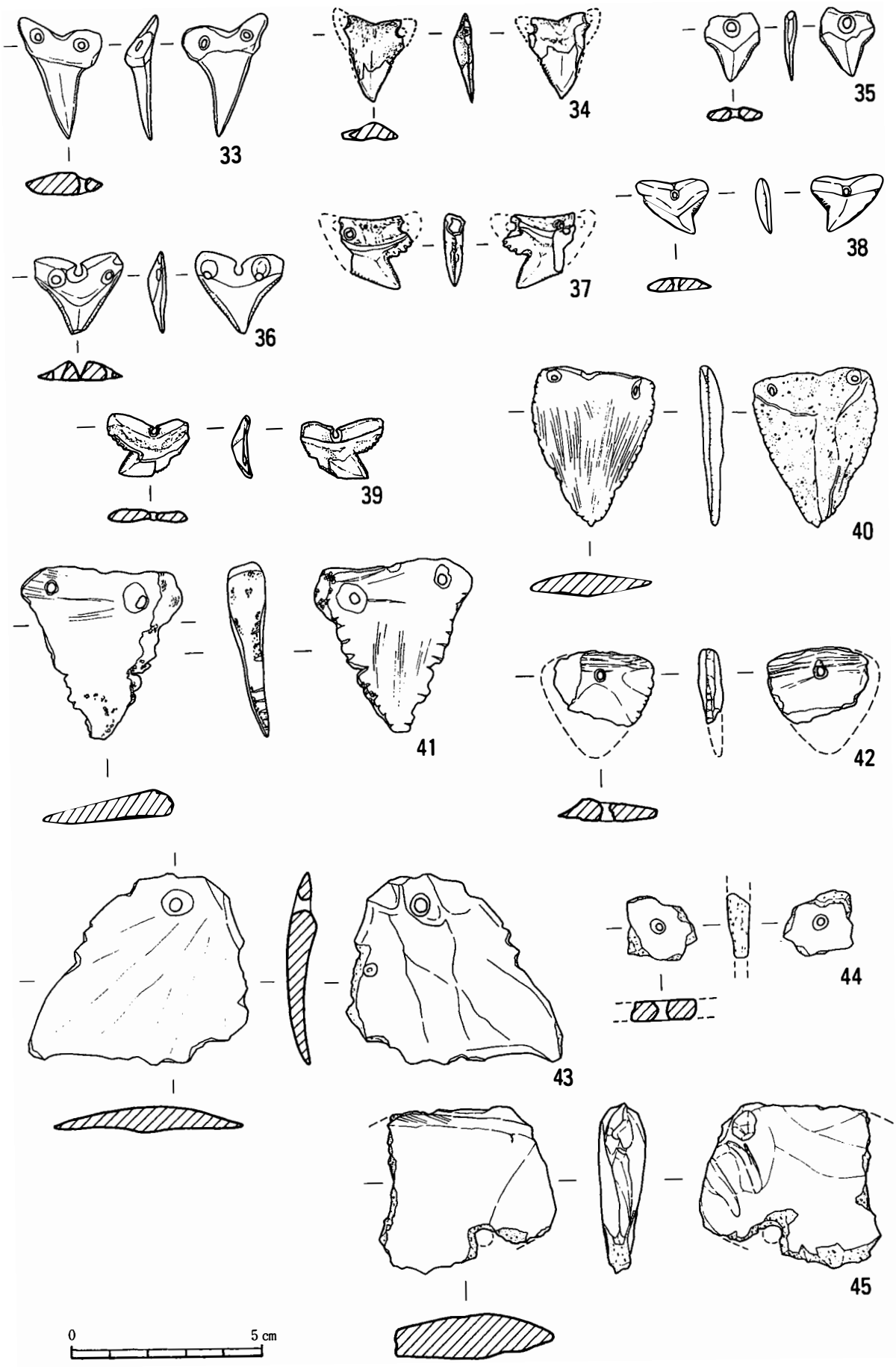
39　メジロザメの歯を使用。歯根部中央を両側から穿孔して、垂下の便をはかっている。表面全体が非常に艶をもち黒光りする。おそらく長期間の使用の後、破損したのであろう。長さ2.2cm。

【鰓骨製垂飾】（第163図40～45，第164図46～49）

40　スズキ主鰓蓋骨を研磨して逆三角形に整形し、さらにおそらくサメ歯製垂飾に似せるため、上辺中央に溝を入れ、両側辺に細かい刻み目を入れている。また上方両端に径1.5㎜の小さな孔をあけている。艶をもつ。長さ4.1cm。

41　スズキ主鰓蓋骨を逆三角形に加工し、上辺中央に溝を、両側辺に刻み目を入れている。また上部両端に径３㎜の孔をあけている。サメ歯製垂飾を模したものと考えられる。艶をもつ。長さ4.6cm。

42　スズキ主鰓蓋骨を使用。周囲を擦って隅丸三角形を作り、中央上部に径2.5㎜の孔を穿っている。欠損




第163図　骨角貝製品実測図（５）［33～39　サメ歯製垂飾
40～45　鯨骨製垂飾］

しているが、残った一側に細かい刻み目が確認でき、サメ歯製垂飾を模した製品と考えられる。両面ともいくぶん艶をもつ。現存長2.5cm。

43　スズキ主鰓蓋骨を使用。基部に両面穿孔による径３㎜の孔をあけ、対応するもう１ヵ所にも一面から穿孔を始め、途中で止めている。その他に加工はみられない。両面とも艶をもつ。長さ6.6cm。

44　スズキの主鰓蓋骨に両面穿孔により径1.5㎜の孔をあけている。周囲はその後欠損したものとみられる。現存長1.7cm。

45　スズキの主鰓蓋骨に両面から5㎜程の孔を穿った垂飾品であるが、破損している。孔の部分にも破損がみられ、孔に紐を通して使用中に破損したものと考えられる。現存長4.3cm。

46　スズキ主鰓蓋骨を使用。方形に欠けた骨の一側に両面から径1.5㎜の孔を穿っている。両面とも非常に艶をもつ。長さ6.3cm。

47　スズキ主鰓蓋骨を使用。周囲は加工せず、両面から穿孔した径３㎜の孔をもつ。両面とも艶がある。長さ6.1cmを測る。

48　スズキ主鰓蓋骨を使用。周囲を欠損しているが、主に片面からの径3.5㎜の回転穿孔が認められる。他の例から垂飾と考えられる。現存最大長3.4cm。

49　スズキ主鰓蓋骨を使用。両面から径2.5㎜の孔を穿っている。欠損しており、欠損箇所にある凹みも孔であった可能性がある。現存長3.9cm。

【魚骨製刺突具】（第164図50，51）

50　エイ類尾棘を使用。先端部を研磨により整形している。基部は未加工で両側には鋸歯状の突起がついている。艶がある。長さ5.7cm。

51　魚の棘を使用か。骨の端部に研磨を加え、尖らせたもので、刺突具と考えられる。下部を欠損している。やや艶をもつ。現存長3.9cm。

【魚骨製簪】（第164図52）

52　魚の棘を使用か。研磨整形により基部を偏平で幅広く残し、その下部を棒状に整形している。やや艶がある。先端部を欠損しているが、形状から小型の簪と考えられる。現存長3.1cm。

【刺突痕のある鰓骨】（第164図53）

53　スズキの主鰓蓋骨。欠損しており、加工の形跡はない。径５㎜孔が一孔ある。この孔は垂飾品にあけられた孔とは異なり、斜めから貫かれており、回転穿孔でもない。このようなことから、本資料は捕獲の際に刺突具が刺さった痕と考える。とすれば、このスズキは左斜め前方から刺突具を打ち込まれ捕獲されたことが想定される。

**（３）猪牙製品**

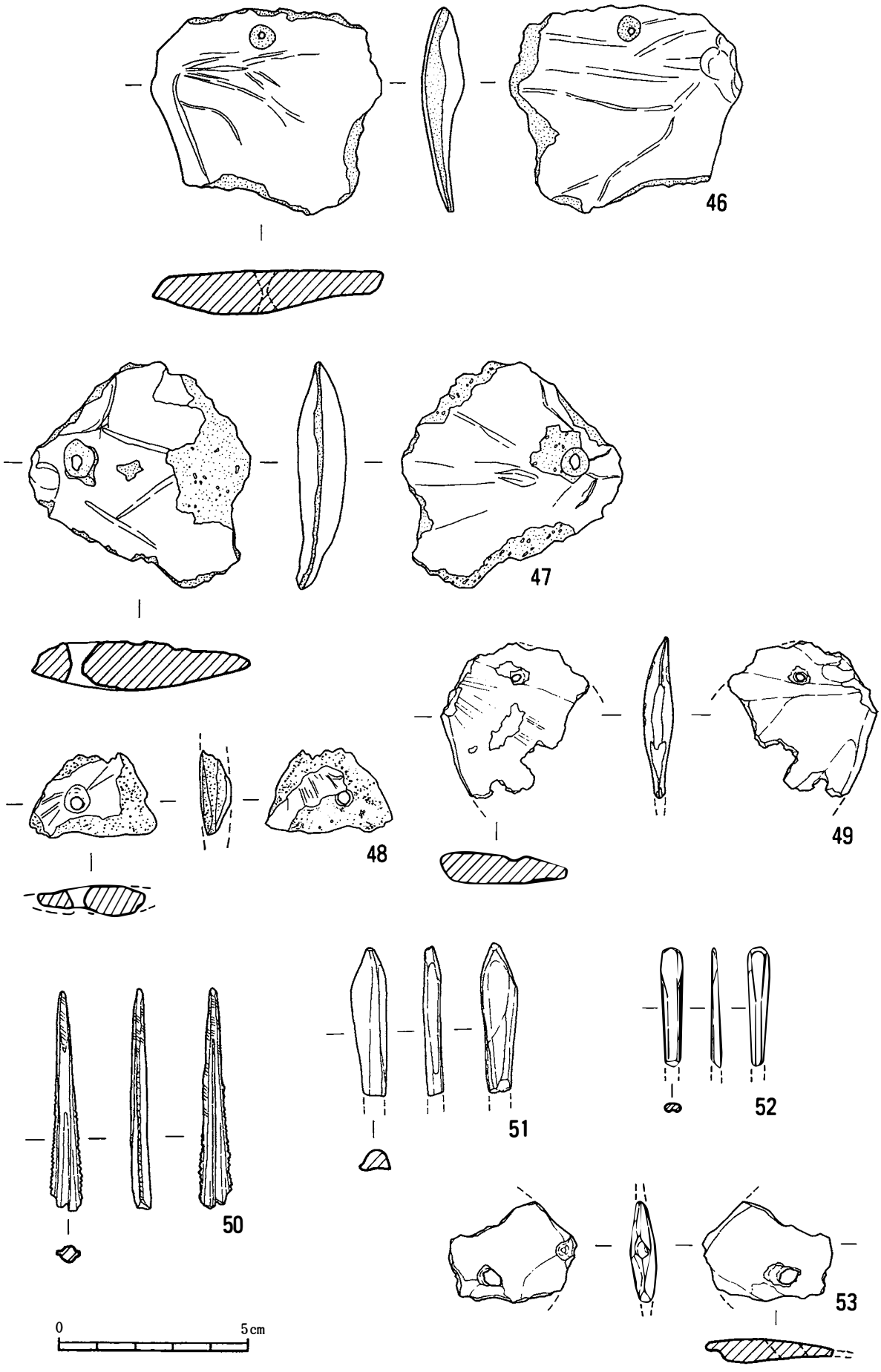
【猪牙製垂飾】（第165～168図54～91）

54　オス猪の右下顎犬歯を使用。未加工の犬歯に穿孔のみを行う。犬歯のやや基部に近い位置に径４㎜の孔を回転穿孔によりあけているが、両面で少し位置がずれている。全体に非常に艶をもつ。基部に破損がみられる。長さ10.2cm。

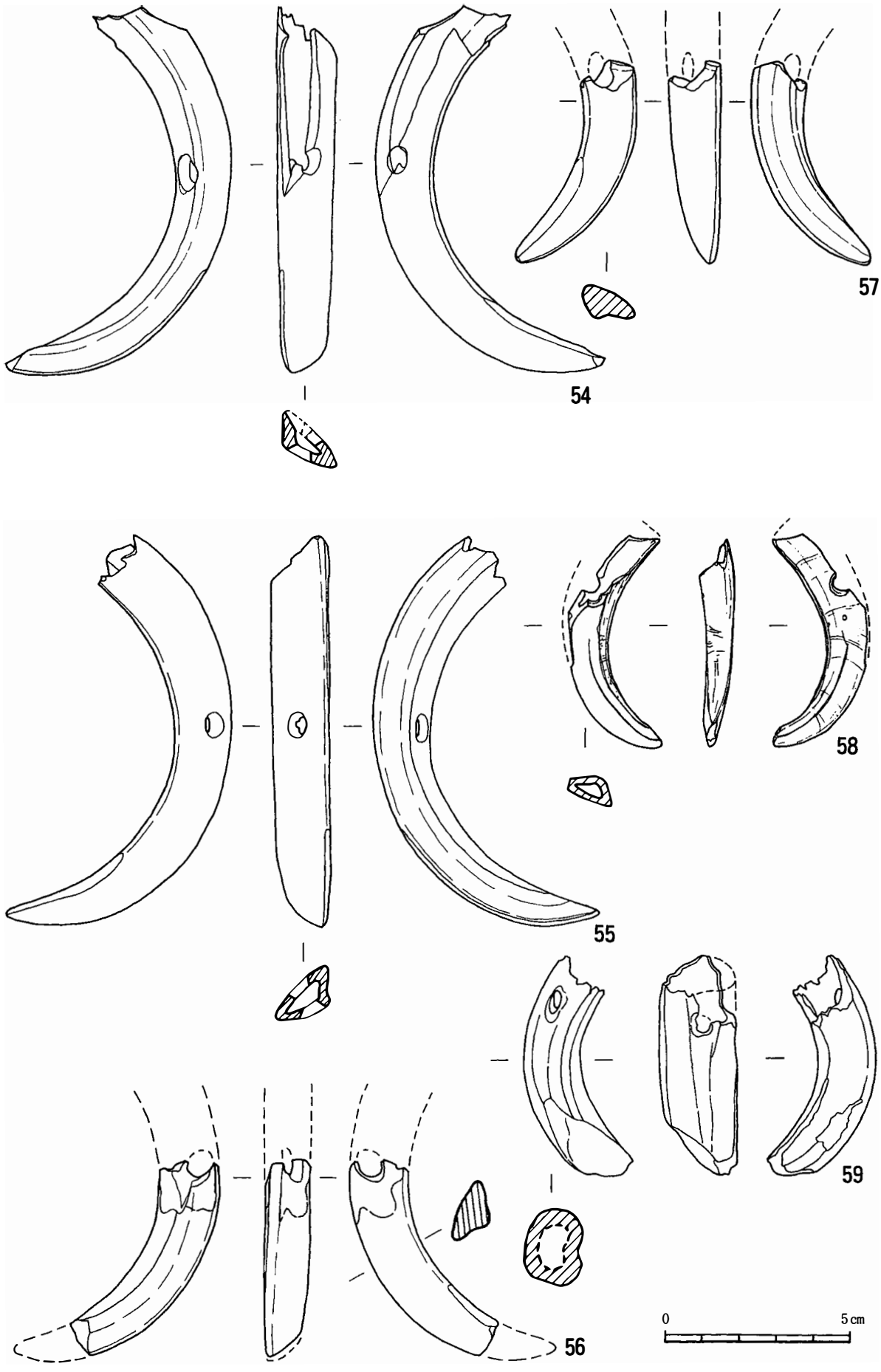
55　オス猪の左下顎犬歯を使用。犬歯に両面から径４㎜の孔を回転穿孔によりあけている。その他は人為を加えていない。非常に艶をもつ。長さ10.6cm。

56　オス猪の右下顎犬歯に両面から回転穿孔を行っている。孔以外の加工はみられないが、表面に無数の線状の傷がある。孔の部分で折れているので使用中の破損と考えられる。先端部の欠損は新しい。現存長6.1cm。

57　オス猪の左下顎犬歯に径９㎜の孔を両面穿孔であけている。その他の加工は認められない。全面非常に




**第164図　骨角貝製品実測図（６）**［46～49　鯣骨製垂飾、50,51　魚骨製刺突具
52　魚骨製簪、53　刺突痕のある鯣骨］




**第165図　骨角貝製品実測図（7）［54～59　猪牙製垂飾］**

艶をもち、長期間使用されたことが想定できる。孔から上を欠くが、孔の紐ずれの状態から使用中に破損したと考えられる。現存長5.9cm。

58　オス猪の左下顎犬歯に、両面から回転穿孔を行っている。孔から６㎜のところに穿孔痕がわずかに残る。使用中に破損したものか。現存長5.6cm。

59　オス猪の右上顎犬歯を使用。歯根部の一側面と下部の２ヵ所から径3～3.5㎜の孔を穿っている。他の側面は破損しているのでもう一孔あったかどうかは不明。穿孔以外の加工はみられないが、全体に艶をもち、一定期間使用された後破損したものと考えられる。長さ5.9cm。

60　メス猪の左下顎犬歯を使用。やや歯根部側に両面から径4.5㎜の回転穿孔を行う。その他は未加工のままであるが、なめらかで艶をもち、長期間使用されたことが想定できる。長さ5.2cm。

61　メス猪の右下顎犬歯の中程に、径3.5㎜の孔を両面からの回転穿孔であけている。その他は未加工であるが、艶をもち、長期間使用されたことが想定できる。長さ5.2cm。

62　メス猪の右下顎犬歯を使用。両面から径３㎜の孔を回転穿孔しているが、孔の位置に少しずれがある。孔のほかに加工はみられない。全面艶があり、歯根端部もすれており、かなり使用されたと推定される。長さ5.0cm。

63　メス猪の左下顎犬歯に両面から孔径３㎜の孔を回転穿孔している。他の部分は未加工のままであるが、孔の周辺だけは研かれている。艶をもつ。長さ5.4cm。

64　めす猪の左下顎犬歯の中程に、主に片面から径2.5㎜の穿孔を行う。孔の周辺は磨きがある。全面に艶をもち、孔も紐擦れによりなめらかになっている。長さ4.9cm。

65　メス猪の右下顎犬歯を使用。未加工の犬歯の基部に、径４㎜の孔を両面から回転穿孔している。全体に非常に艶をもち、孔の紐擦れも甚だしいので、長期に渡り使用されたと判断できる。先端部を欠損しており、現存長4.0cmを測る。

66　猪の門歯の歯根部に穿孔したもの。穿孔以外の人為は認められない。全体の状況からみて、使用中の破損か。長さ6.3cm。

67　猪の門歯を使用。歯根端部を研磨により丸くしている。他に加工はみられないが、上方を欠損しており、穿孔した垂飾品であったと考えられる。やや艶をもつ。現存長4.7cm。

68　オス猪の右下顎犬歯を使用。人為を加えないままの犬歯に、両面から回転穿孔行っている。牙の先端部分から3cmほどのところに穿孔しているため、本来小型の牙を使用した玉であったとみられる。全体になれて艶をもち、一定期間の使用の後破損したものといえる。現存長4.1cm。

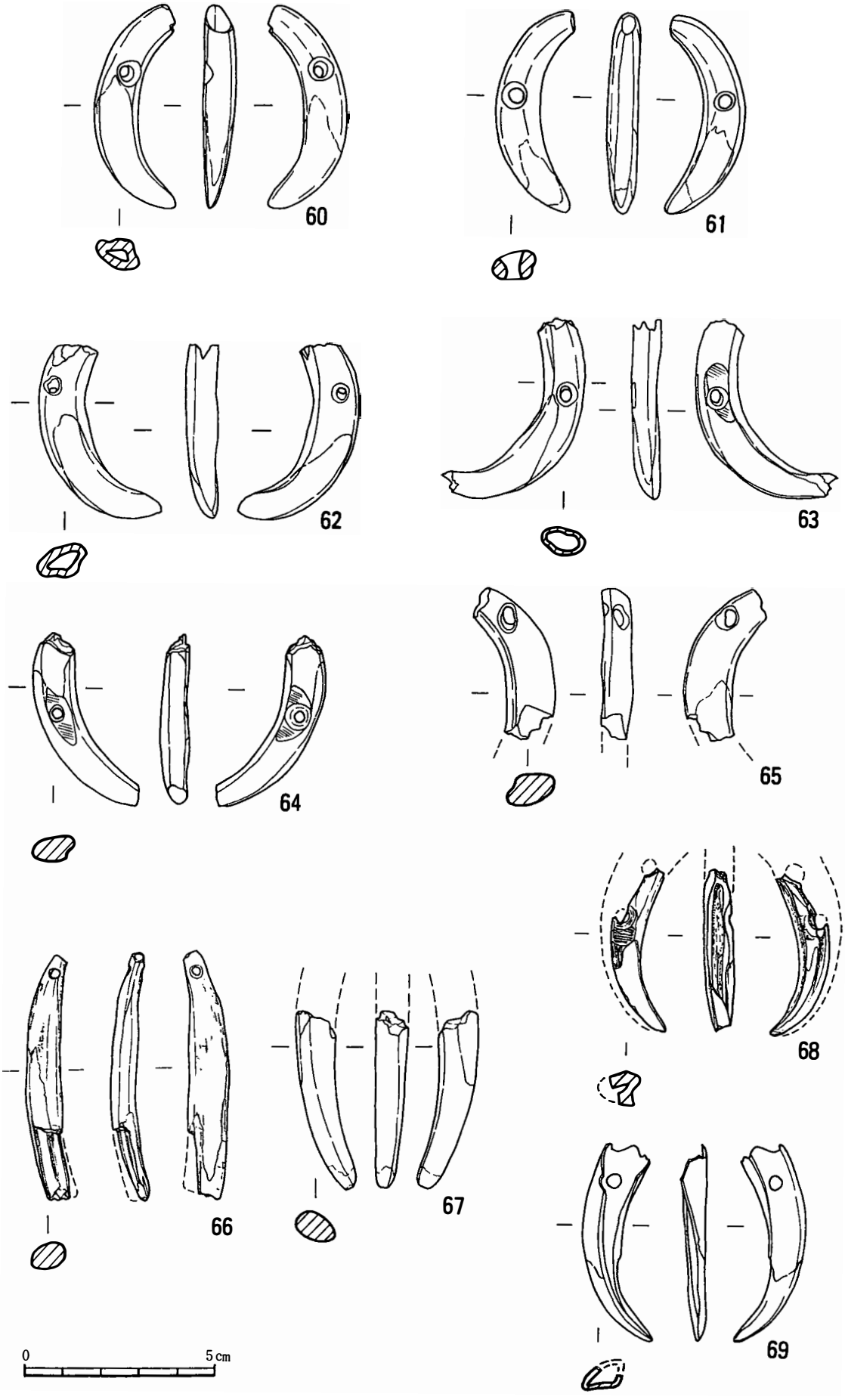
69　オス猪の右下顎犬歯を使用。上端近くに径３㎜の孔を穿っているが、その他には加工されていない。使用によるものか、一面が欠損している。。艶をもつ。長さ5.2cm。

70　猪の下顎切歯を使用。歯根部に径３㎜の孔を穿つ。使用中に歯が縦割れしているが、割れ目の磨滅状態からその後も使用されたとみることができる。艶をもち、歯根部が黒色、エナメル質部分が白色をなし、美しい。長さ5.0cm。

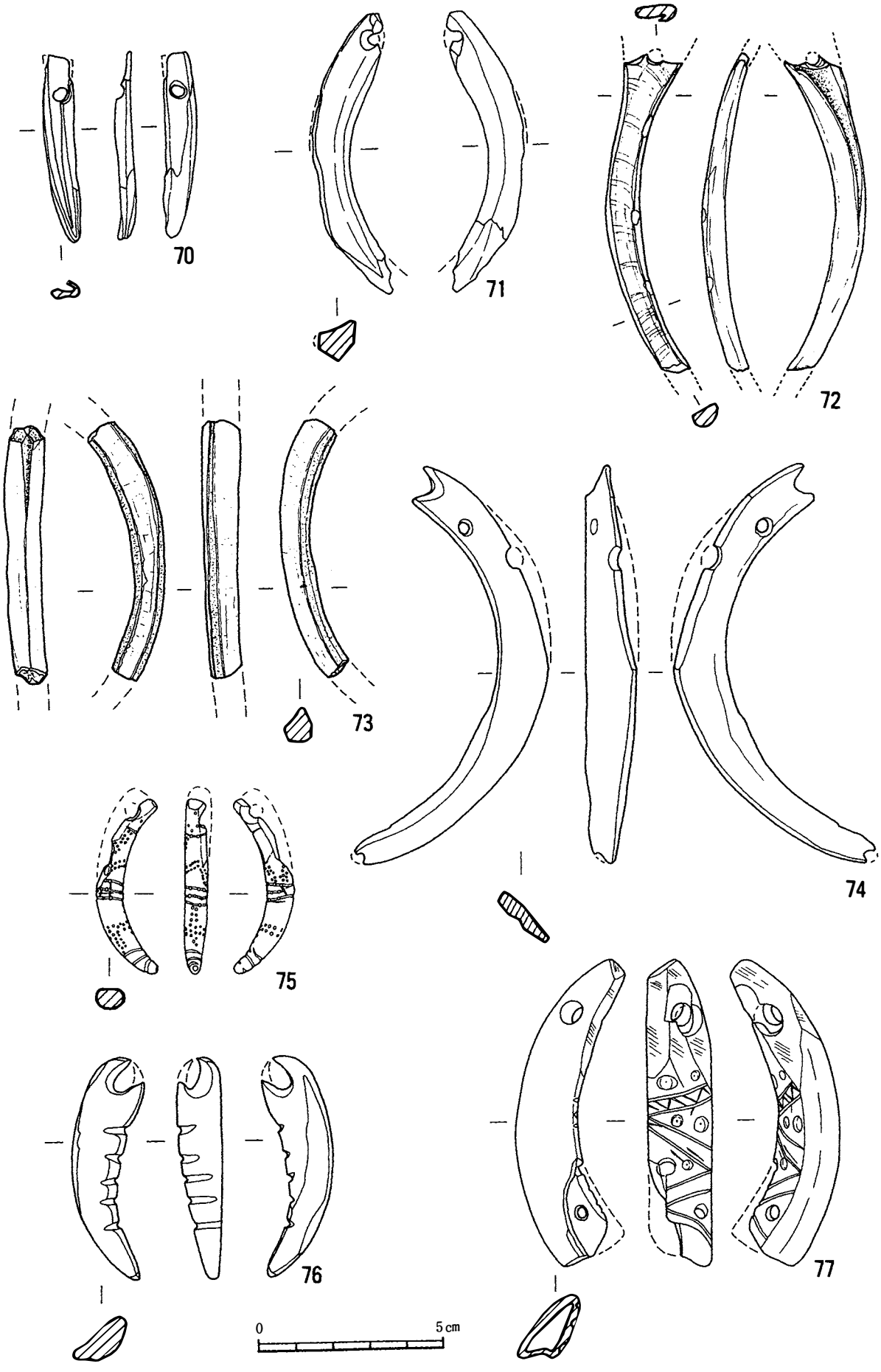
71　オス猪の右下顎犬歯を使用。欠損しているが、部分的に研磨整形がみられ、歯の先端近くに孔径2.5㎜の両面からの回転穿孔がある。歯の基部にももう一孔あった可能性がある。非常に艶をもつ。現存長7.45cmを測る。

72　オス猪の右下顎犬歯の一部を割り取り、割り取り面に入念な研磨を施した製品。一端に穿孔して装身具とする。全体によく艶をもち、相当期間の使用を想定できる。使用中の破損か。長さ8.3cm。

73　おす猪の右下顎犬歯の一部を割り取り、両面に研磨を施した製品。研磨の入念さと艶の状況から、相当期間の使用を想定できる。装身具の可能性が強い。長さ6.9cm。




第166図　骨角貝製品実測図（８）［60～69　猪牙製垂飾］




第167図　骨角貝製品実測図（9）［70～77　猪牙製垂飾］

74　オス猪の左下顎犬歯の背面を使用。割れた面を研磨し、基部端にＶ字状のくぼみを作っている。基部に径3.5㎜と６㎜の２孔があるが、１つは孔の部分で破損している。艶をもつ。長さ10.6㎝。

75　メス猪の左下顎犬歯を使用か。全体を研磨整形し、歯根部を先端とし、垂飾に加工している。基部付近の一側を欠損している。基部には、両面から径3.5㎜の孔を回転穿孔している。その直下に１条の沈線があり、全体の中央部に３条の沈線、さらに先端付近にも３条の沈線を巡らしている。また細かい列点文を全体に配置している。全体に艶をもち、長期間の使用の後破損したものといえる。現存長4.7㎝。

76　オス猪の右下顎犬歯を使用。全体に研磨整形を行う。湾曲した内縁には５条の溝を等間隔に刻み、基部には両面からの回転穿孔で径6㎜程の孔をあけているが、長期間の使用による紐擦れで孔が拡張し、遂には破損したものと考えられる。非常に艶をもつ。長さ5.9㎝。

77　オス猪の左下顎犬歯を使用。研磨により整形し、牙の先端部に径5.5㎜の両面からの回転穿孔を行う。牙の湾曲した内面には線刻と円孔の細工が施されている。まず２つの連続三角文を２条の線で描き、その間に円孔２～１孔（計７孔）を配し、一部には２条の線の間にも細かい連続三角文の線刻を施している。また円孔のうち歯根側の２孔は貫通している。全体に非常に艶をもつ。部分的に欠損がある。長さ8.2㎝。

78　オス猪の右下顎犬歯の背部を、研磨により整形している。基部上端に頭部を作り、径３㎜の孔をあけている。体部中程にも径２㎜の孔を２つあけ、その間に背びれ状の突起を設けている。頭部の孔は擦れているので紐を通したと考えられるが、他の２孔は装飾と考えられる。全体になめらかで非常に艶がある。先端部は欠損しており、現存長3.6㎝を測る。

79　オス猪の左下顎犬歯の腹部（内側）を研磨整形し、偏平な垂飾品に仕上げている。基部には径３㎜の孔をあけ、外縁の５カ所に刻みを入れている。ただ５ヵ所目から先端側は欠損している。また欠損部に裏面まで通じていないような孔のくぼみがある。非常になめらかで艶がある。現存長3.0㎝。

80　オス猪の左下顎犬歯の腹部に研磨整形を加え垂飾品としているが、基部と先端部を欠いている。現存部の外縁には10カ所に刻み目が入れてあり、基部側には裏面まで通じていない小孔がある。なめらかで艶があり、一定期間使用されたと判断できる。現存長3.7㎝。

81　オス猪の右下顎犬歯の一部を使用。腹面の破片を加工したものに片面穿孔により、径３㎜の孔をあけている。非常に艶がある。長さ2.9㎝。

82　オス猪の左下顎犬歯を使用。一端に穿孔中に破損したらしく、小型品に加工し直し、径３㎜の孔を穿っている。割れ目は全て研磨されており、全体になめらかで非常に艶をもつ。長さ3.9㎝。

83　オス猪の右下顎犬歯の一部分を研磨整形により加工。破損しているが、上端に径2.5㎜の孔があり、側方に溝が確認できる。非常に艶をもち、使用によりなめらかになっている。現存長1.8㎝。

84　オス猪の右下顎犬歯の背の部分を加工している。基部は欠損している。先端部を丸くし、中程に波頭状の突起を設け、細やかな研磨整形がなされている。艶をもつ。現存長2.8㎝。

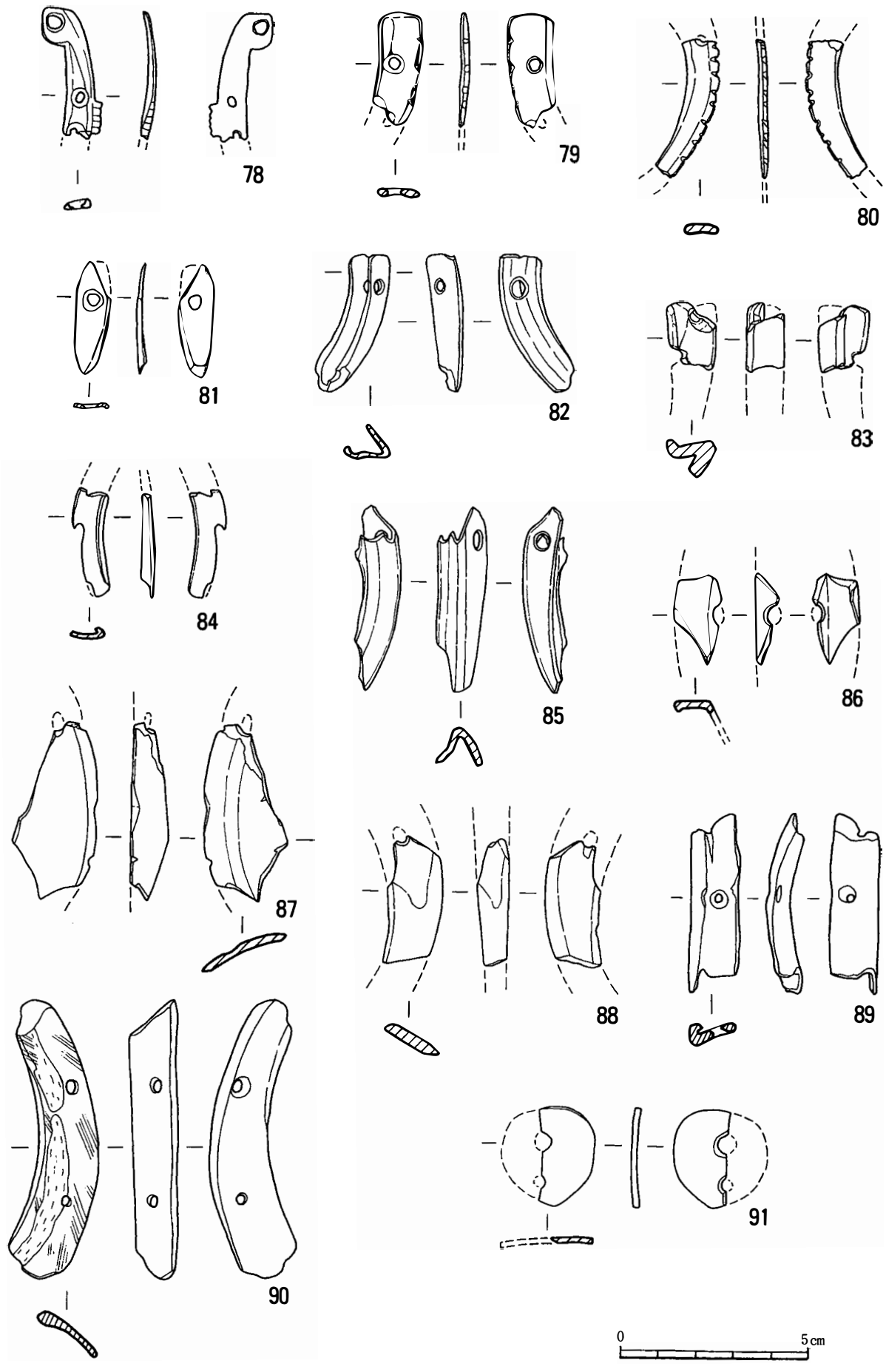
85　オス猪の右下顎犬歯を使用。割った形に研磨を加えずそのまま利用し、基部には片面穿孔により径４㎜の一孔を設けている。非常に艶をもち美しい。長さ4.9㎝。

86　オス猪の右下顎犬歯の側面に径4.5㎜の孔を穿っているが、欠損が著しく全体形は不明である。艶をもつ。現存長2.4㎝。

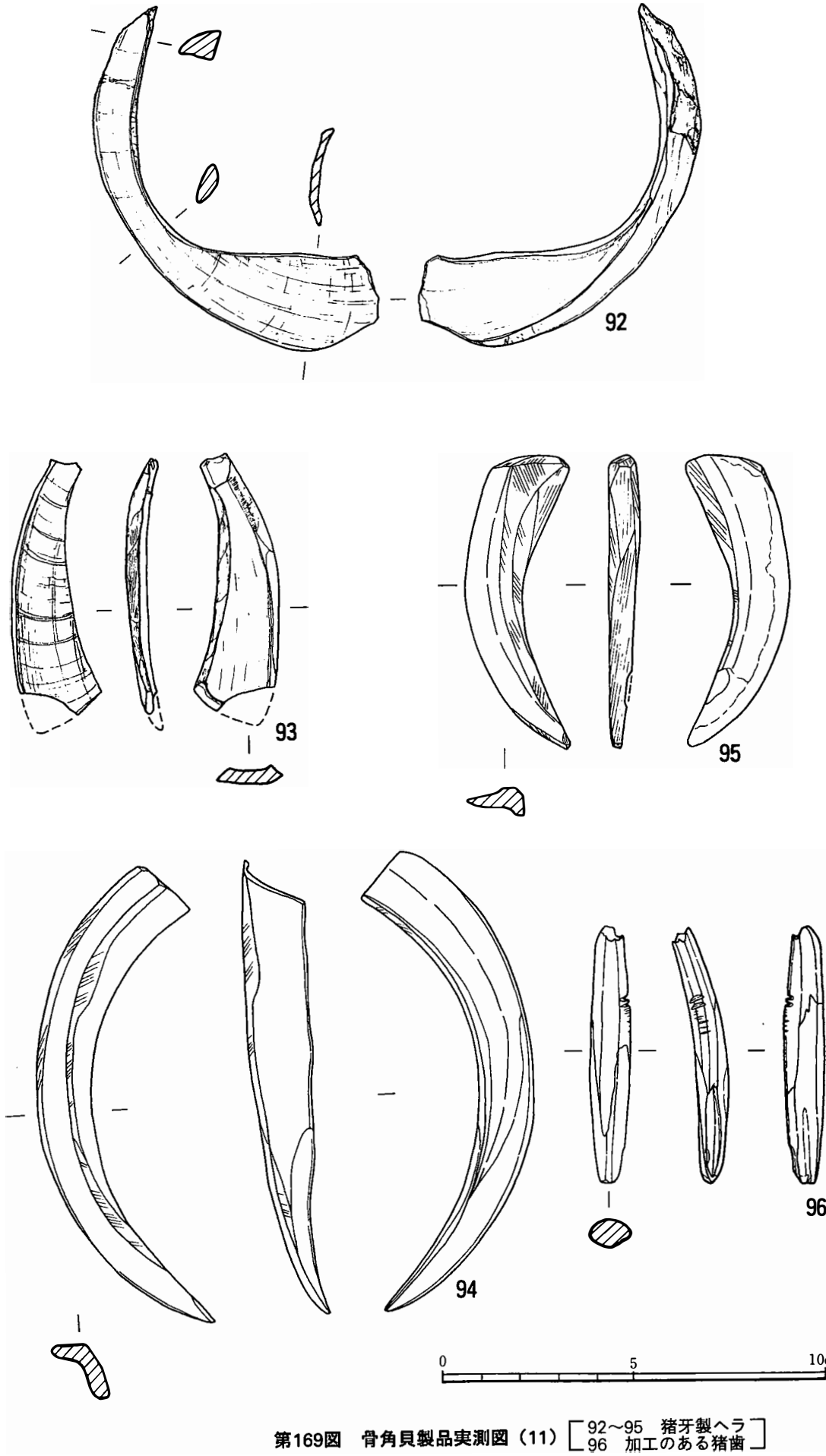
87　オス猪の左下顎犬歯の背面を使用。側縁部は溝や刻み目を３ヵ所に入れ、花弁状に飾っている。欠損しているので全体形は不明。一端には孔の一部が残っている。艶をもちなめらか。現存長4.7㎝。

88　オス猪の左下顎犬歯を使用。割れた背面側に研磨を加え、基部に穿孔している。基部と先端は欠損しており、現存長3.4㎝。表面は艶をもつ。

89　オス猪の右下顎犬歯の割れた破片を研磨により整形している。その中央に径2.5㎜の孔をあけ垂飾品と




第168図　骨角貝製品実測図（10）［78～91　猪牙製垂飾］




第169図　骨角貝製品実測図（11）［92～95　猪牙製ヘラ　96　加工のある猪歯］

している。やや艶をもつ。長さ4.7cm。

90　オス猪の右下顎犬歯を使用。偏平な背面破片を研磨により加工し、２ヵ所に径３㎜と４㎜の孔をあけている。艶をもつ。長さ7.4cm。

91　オス猪の下顎犬歯の一部分を研磨により丸く加工し、２つの孔をあけている。孔はいずれも片面からの穿孔で、径３㎜と４㎜を測る。孔の部分で破損しており、使用中に破損したものであろうか。艶をもち、側縁部もなめらかになっている。現存長2.6cm。ボタンとして使用した可能性もある。

【猪牙製ヘラ】（第169図92～95）

92　オス猪の左下顎犬歯を使用。大型の犬歯を割り、打割面を研磨する。ヘラ状をなすが、使用痕等は不明瞭。長さ10.0cm。

93　オス猪の左下顎犬歯を使用。大型の犬歯を割り、打割面を研磨する。ヘラ状をなすが、使用痕等は不明瞭。端部を欠損。現存長6.4cm。

94　オス猪の左下顎犬歯を縦割りにし、腹面側を使用。歯根部は切断している。打割面など研磨によりなめらかにしているが、先端部のみは鋭利であり、ここを主体的に機能させた道具とみられる。やや艶をもつ。長さ11.8cm。

95　オス猪の左下顎犬歯を縦割りにし、内側の面を使用。全体を研磨により整形し、先端に刃部を設けている。艶をもつ。長さ7.5cm。

【加工のある猪歯】（第169図96）

96　猪の門歯。素材に刃器による切断を試みているが、その段階で終わっている。垂飾品の未製品か。現存長6.6cm。

**（４）鹿角製品**

【鹿角製簪】（第170図97～103，第171図104～106）

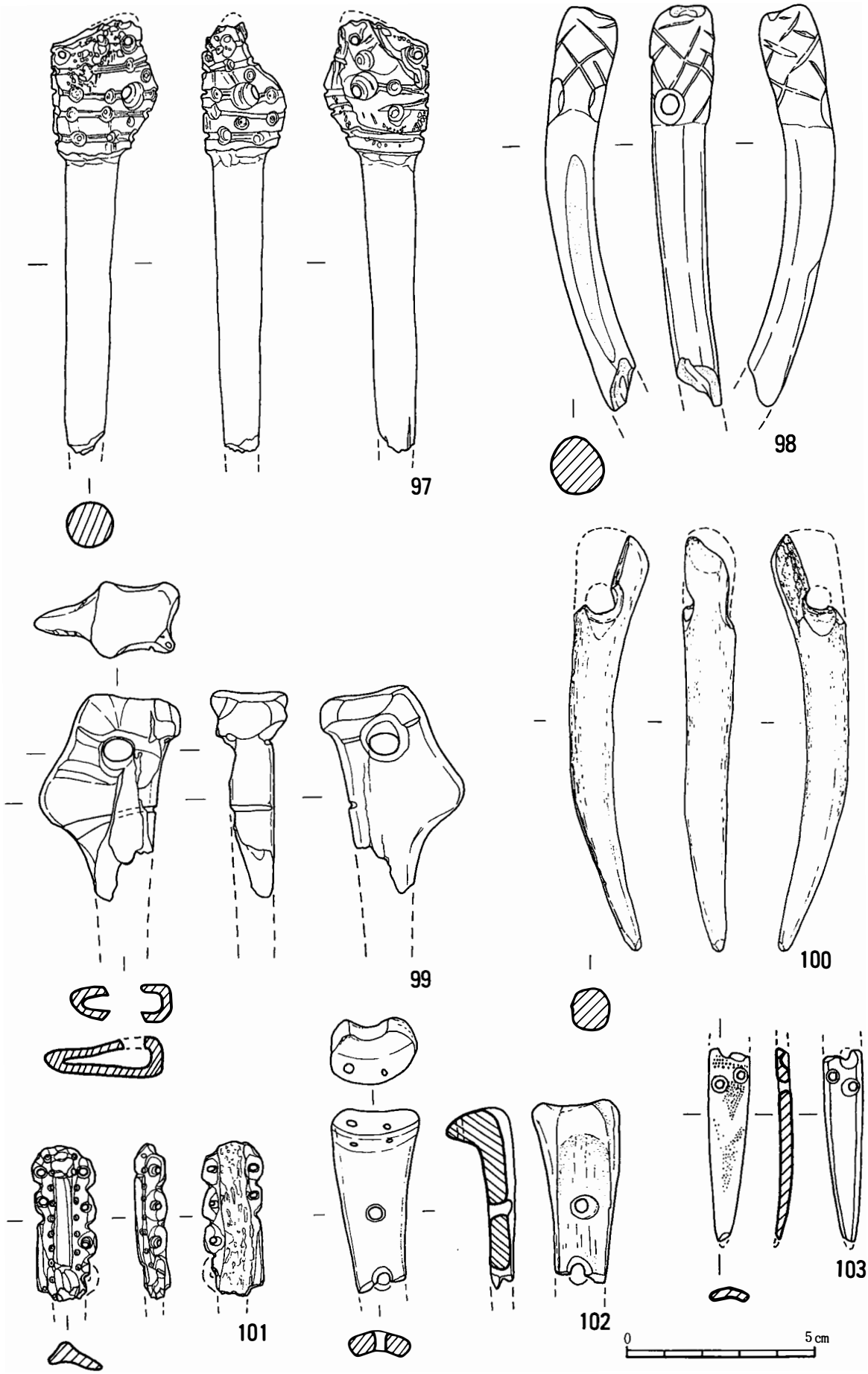
97　鹿角の角座骨から角の部分を使用。角座骨の部分を基部とし、ここに彫刻を施している。横方向に５条の線刻を巡らし、その各線の中に列点文を並べている。うち最上列の２孔と中央列の１孔は、穿孔されている。軸部はよく研磨され、断面は円形を成す。全体になめらかで艶をもつ。先端部を少し欠損しており、現存長11.3cmを測る。

98　満２歳程の幼獣の鹿角基部を使用。全体に研磨され、全面非常になめらかで艶がある。基部はわずかに段があり、両面から穿孔した径６㎜の孔をもち、基部全体に斜め格子目の線刻がある。先端部は少し欠損している。現存長10.6cm。素材の形態に規制されて反りをもつが、形態・使用痕さらに施文があることなどから、簪と考える。

99　鹿の角座骨から角の部分を使用。先端部側を欠損しているが、角座骨を基部とした簪と考えられる。基部上面は平坦で、周囲から抉り込んでいるので、糸巻状をしており、その直下に径8.5cmの大きな孔をあけている。この基部全体は動物の頭部のような形をしており、孔を目とみれば、その下方に偏平な尖った口のようなものが突き出ている。基部の左側面には３条、右側面には１条の沈線が刻まれている。全体になめらかで艶をもち、長期間の使用が想定できる。現存長5.4cm。

100　鹿角特有の表面の凹凸がまったくみられず、全面なめらかで艶がある。先端部は尖り、ことに艶をもつ。基部近くに両面から穿孔した径６㎜の孔をもち、孔周辺はなれて艶がある。孔に紐状のものを通して使用したと推測できる。全体形状、使用痕からみて簪と判断しうる。使用中の破損か。現存長10.8cm，復元長11.1cm。

101　縦割りにした鹿角を研磨により整形した簪で、基部のみ残っている。表面には中央に１条の稜があり、下方では２条の稜に別れている。稜の両側には列点文が等間隔に並び、さらにその外側には左に２孔、右に




第170図　骨角貝製品実測図（12）［97～103　鹿角製簪］

４孔があけられ、孔の位置を残して抉り込んだ縁で飾っている。なめらかで艶をもち、一定期間使用の後欠損したものと考えられる。現存長4.1cm。

102　鹿の角座骨から角までを使用。全面細かい研磨が行き届いており、基部端は猪の鼻のような形に整形され、孔径１㎜と２㎜の小孔が横に並べて２つあけられている。下部を欠損しているが、次第に細くなっており、形態から簪と考えられる。非常になめらかで艶をもつ。現存長4.8cm。

103　鹿角を使用か。研磨により全体を楔形に整形し、穿孔・施文を行っている。基部と先端の一部を欠損しており、基部には貫通した径２㎜の孔２個と、未貫通の孔１個がある。表面には針で突いたような細かい点による施文がある。貫通した２孔の上方には点が横方向に帯状に並び、２孔の所から下へはＶ字状の中を点が埋め尽くし、さらに少しあけてその下にＶ字形に点を配置している。非常になめらかで艶をもち、長期間の使用が考えられる。現存長5.0cm。

104　鹿の幼獣の角座骨から角の部分を使用。全体を研磨整形し、角座骨の部分にふくらみを残している。上端から３㎝のところに径４㎜の孔を両面からの回転穿孔によりあけている。全体になめらかで艶がある。先端を少し欠損している。現存長11.8cm。

105　鹿角の曲がった部分を偏平に研磨整形し、上端には幅広い部分を残している。また基部には径３㎜の孔を２ヵ所にあけている。先端部を欠くが、なめらかで艶があり簪とかんがえられる。現存長8.1cm。

106　鹿角を研磨により棒状に整形している。両端を欠損しているが、基部の欠損面は孔の一部が残るものの研磨されており、使用中に孔の所で欠損したため、現在の位置に孔を移し、再加工したものとみられる。孔は両面からの回転穿孔であけられ、径４㎜を測る。非常になめらかで艶をもつ。現存長6.7cm。

【鹿角製垂飾】（第171図107～110，第172図111～113）

107　鹿の角座骨～角の部分を全面的に研磨整形して作っている。基部には両面からの回転穿孔による径４㎜の孔がある。先端は丸く尖っている。全面なめらかで艶があり、一定期間使用されたと判断できる。長さ9.9cm。

108　鹿の角座骨から角の部分を使用。全体が研磨整形されているが、長期の使用により研磨痕は消滅し、なめらかで非常に艶をもつ。基部は太く、両面から径6㎜の孔を穿っている。孔の周りは擦れており、紐を通して使用したことが推測できる。

109　鹿角を使用。全体を研磨整形し、上端より17cmの所に主に片面からの回転穿孔により径4.5cmの孔をあけている。使用によりなめらかになっており、研磨痕も残っていない。艶をもつ。先端部を欠損し、現存長6.6cmを測る。

110　鹿角を研磨整形し、上端から3.6cmの位置に径５㎜の孔を両面からの回転穿孔であけている。そこから先端部は欠損しているが、次第に細くなるものと考えられる。なめらかで艶をもつ。現存長4.3cm。

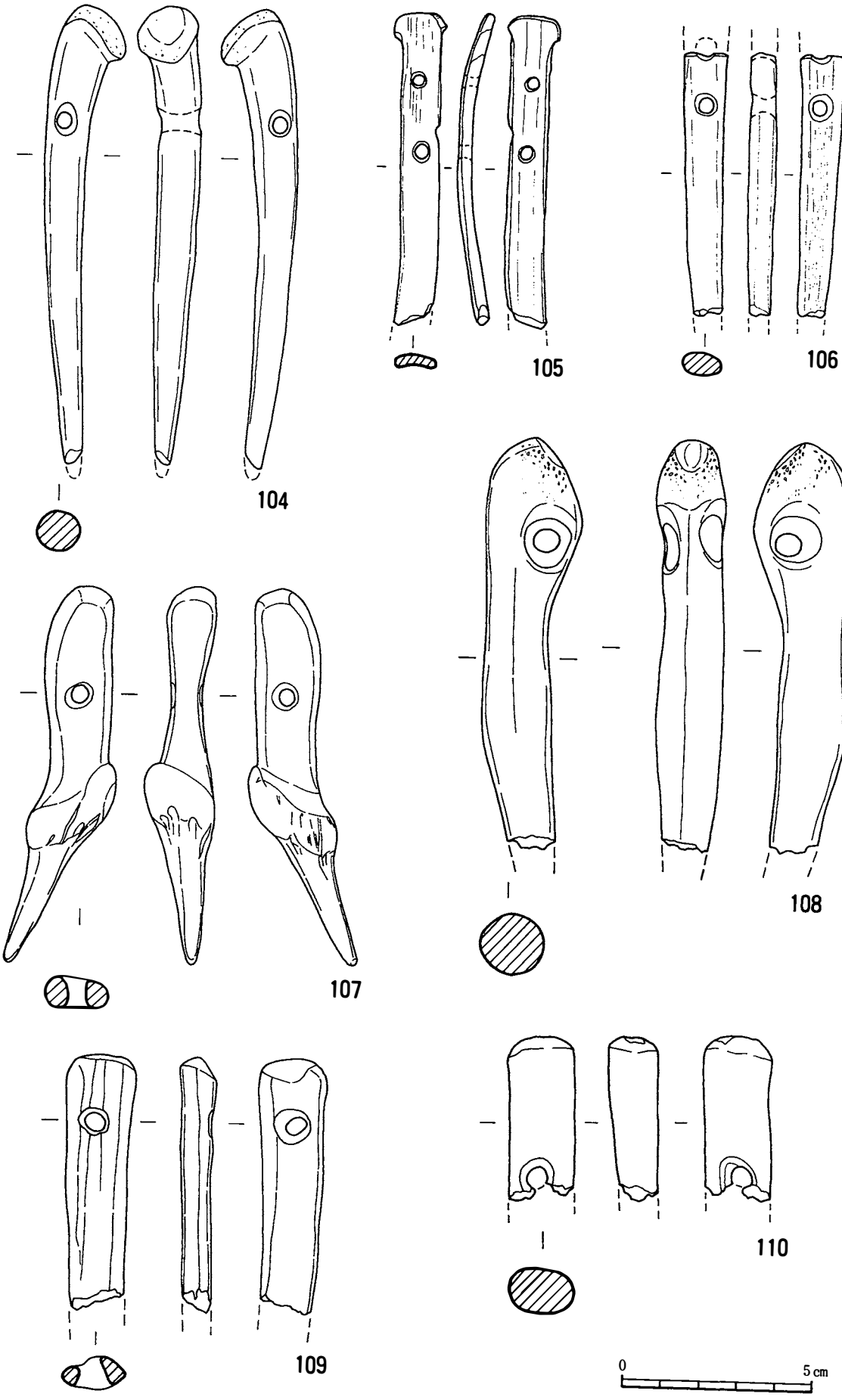
111　鹿角を細かい研磨により整形。上端から2.3cmの位置に両面から回転穿孔により径４㎜の孔をあけている。なめらかで艶をもつ。先端部側は欠損している。現存長4.4cm。

112　鹿の角座骨から角の部分を使用。全体を研磨整形し、なめらかに仕上げている。上端は太くなりかけた所で欠損している。その直下には径３㎜の孔が両面からの回転穿孔であけられている。艶をもつ。現存長7.0cm。

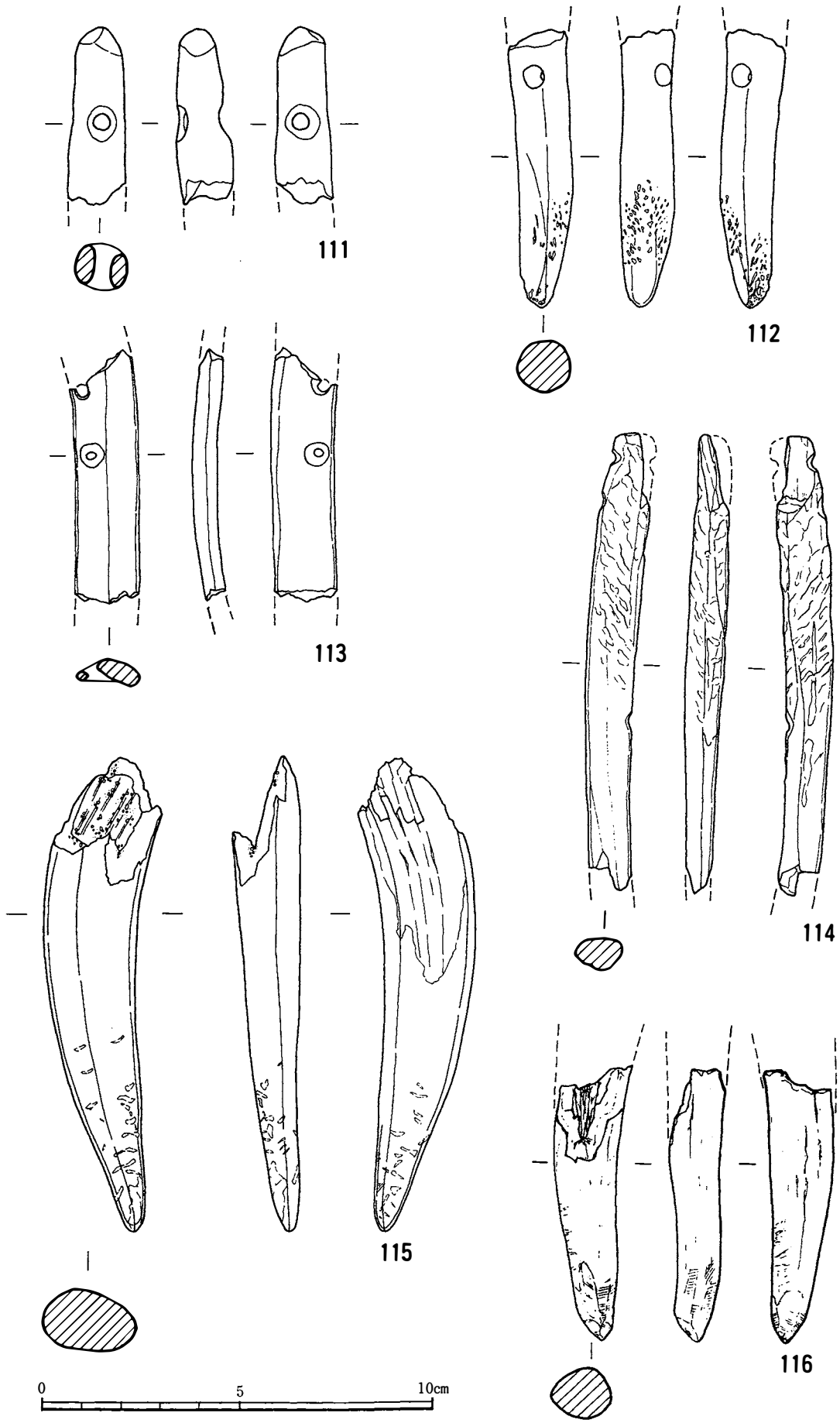
113　鹿角を使用。全体を研磨により整形し、２ヵ所に径３㎜程の穿孔を行っている。全体に反りがあり、両端を欠損している。研磨痕が残らないほどなれており、艶をもつ。現存長6.4cm。

【鹿角製釣針か】（第172図114）

114　鹿角を使用。基部付近には鹿角に特徴的な凹凸がみられるが、下部に至るほど研磨整形され凹凸がみえない。上端付近には紐縛り用の溝が切り込まれている。紐で垂下させて使用したとみられるが、形態から




第171図　骨角貝製品実測図（13）［104～106　鹿角製簪
107～110　鹿角製垂飾］




第172図　骨角貝製品実測図（14）［111～113　鹿角製垂飾、114　鹿角製釣針か
115,116　鹿角製工具］

結合釣針の軸部である可能性がある。全面に艶をもつ。下端部を欠損。現存長11.6cm。

【鹿角製工具】（第172図115・116，第173図117～121，第174図122・123）

115　鹿角部を使用。全体を研磨しており、鹿角特有の表面の凹凸は全くみられない。全体に艶がある。先端部付近を使用したらしく、使用痕がある。土器施文具など先端部の機能した道具が想定できる。長さ11.9cm。

116　鹿角を使用するが、鹿角特有の表面の凹凸はまったくみられず、全面なめらかで艶をもつ。先端部は研磨によりやや尖り、周辺にも研磨痕が残る。これらの整形は鹿の習性による痕跡とみられるが、他例に抜きんでて艶をもつ点は、何らかの人為的使用を思わせる。長さ6.8cm。

117　鹿角特有の表面の凹凸が先端部まで残る。先端の研ぎ面は人為によるとみられるが、使用の痕跡は認められない。長さ9.6cm。

118　鹿角を研磨整形し、道具としている。基部上端を欠くが、くびれた上に何か付いていたようである先端部は丸く加工され、その直上にくびれがある。全体に艶をもち、中央付近が特になめらかで、この部分を握って先端部を機能させた道具と考えられる。現存長9.7cm。

119　鹿角を使用。全面なめらかで凹凸面は不明瞭。全体にやや艶をもつ。一部に齧歯類の噛痕が遺る。先端は著しく削られているが、表面の研磨痕からみて、鹿による痕跡と判断しうる。基部には平坦に整えられた人為的加工痕が認められる。用途等不明だが、一定期間の使用が想定される。長さ9.2cm。

120　鹿角を使用。全面なめらかで凹凸面は不明瞭。一部の表面は現状を留めていない。先端を中心に著しく艶をもつ。基部は破損し、人為的加工痕は明瞭ではないが、柔らかいものを対象とした一定期間の使用が想定される。長さ9.2cm

121　鹿角を使用。一部に自然の凹凸面を残すが、表面は全体に非常になめらかで、先端部に艶をもつ。先端には人為的な研磨面が認められ、明らかに両面から研いで尖らせている。根元部には刃器による切断の痕跡が明瞭に遺る。柔らかいものを対象に繰り返し行う作業に使用された道具と推測できる。長さ13.0cm。

122　鹿角の第２枝の三叉部分を使用。角座骨側はいくぶん破損しているとみられるが、骨幹は意図的に打ち折っていると考えられる。第２枝と骨幹部分は、自然の凹凸面が研ぎ消されており、角幹を基部とし、第２枝先端部を機能させた道具と考えられる。全体になめらかで艶があり、一定期間の使用が想定される。第２枝先端部は使用中の破損か。現存長9.9cm。

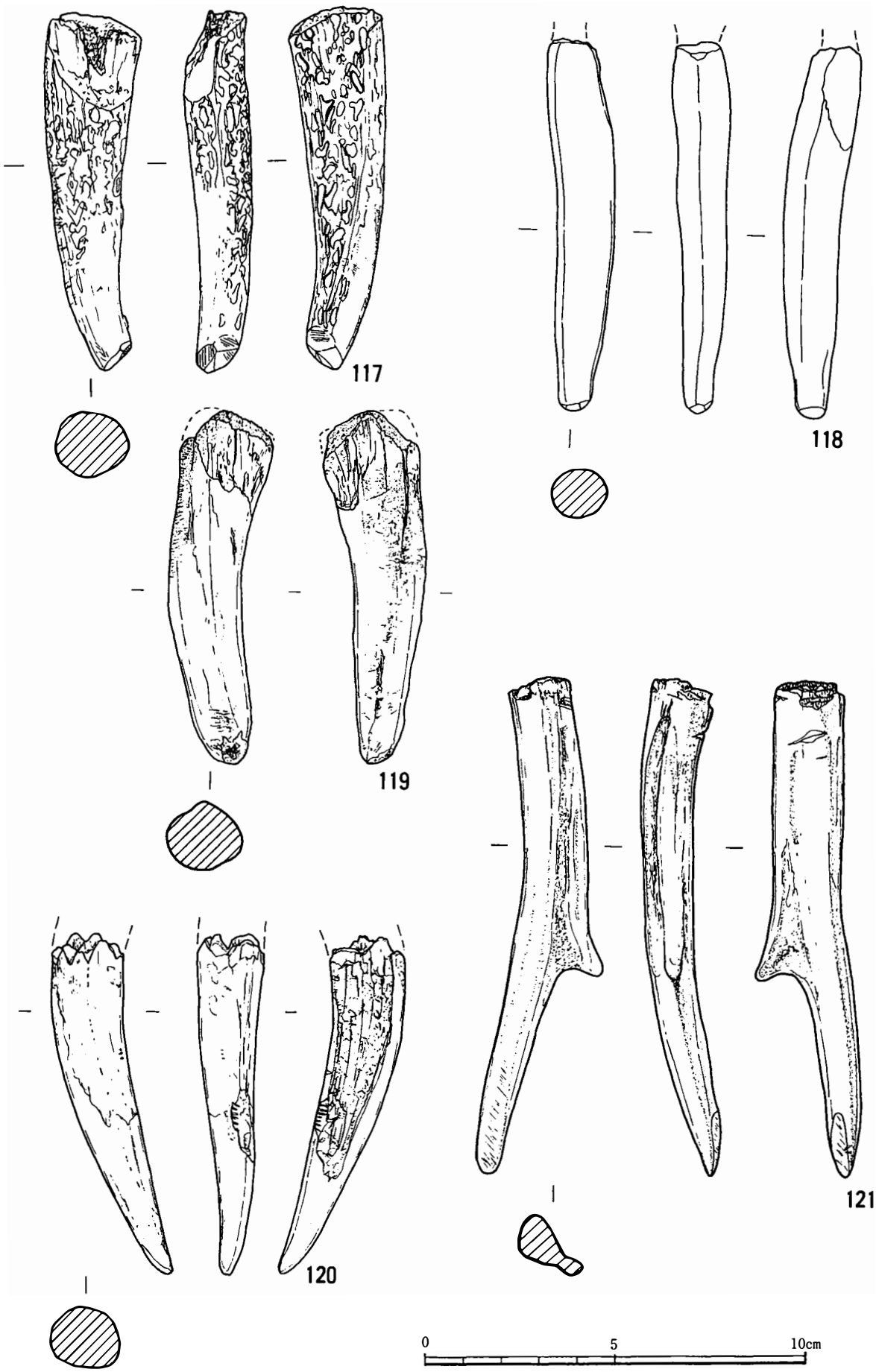
123　鹿角の第２枝の三叉部分を使用。骨幹の上部は刃器により切断している。また、下端部は欠損しているが、この状態で使用した可能性もある。全体に鹿角特有の表面の凹凸が残るが、第２枝先端付近は研かれていると考えられる。第２枝先端がつぶれているのは、使用痕と判断できる。基部と考えられる骨幹などに部分的に艶がある。長さ14.0cm。

【鹿角素材】（第175図124～126）

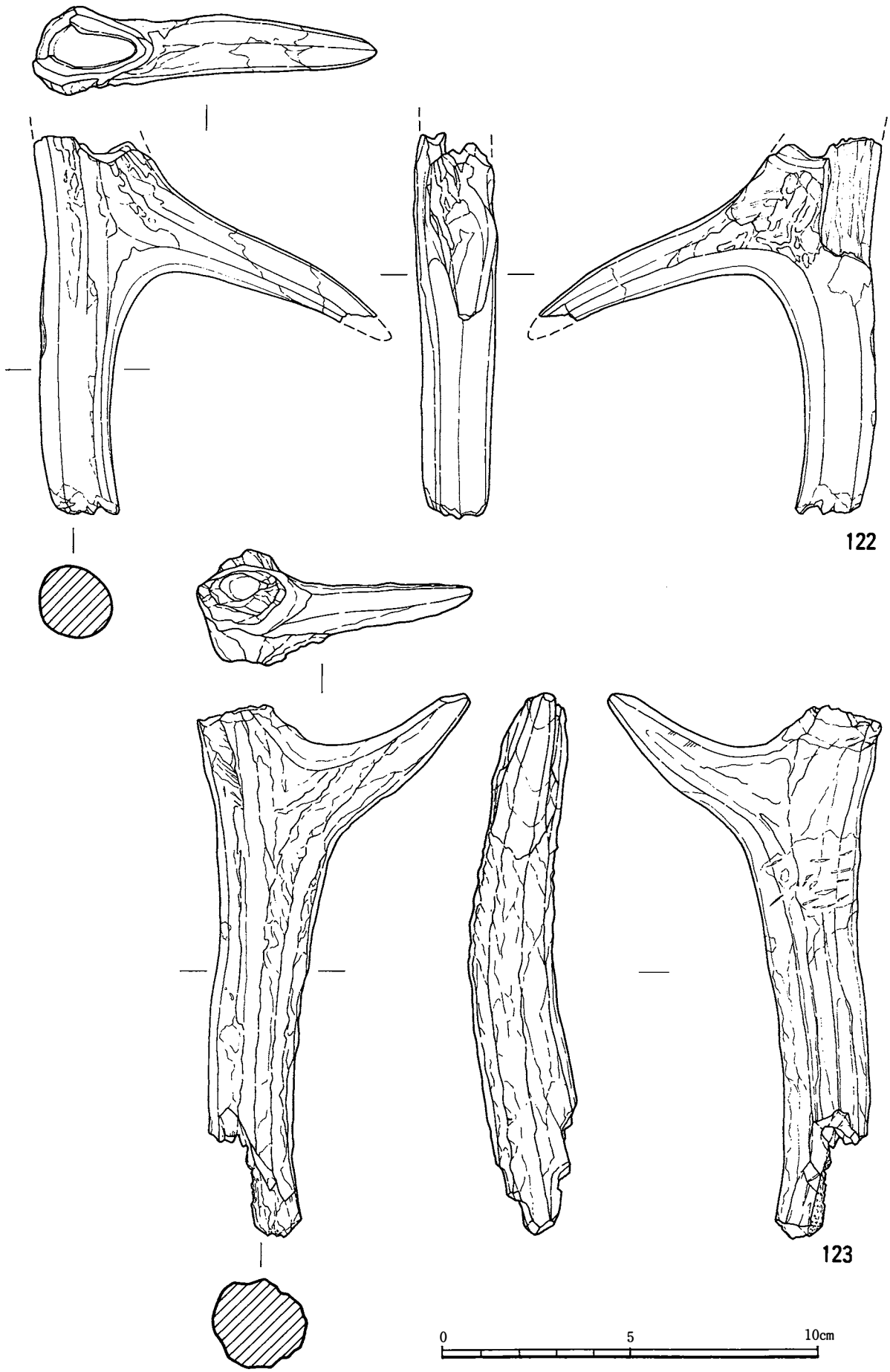
124　鹿角特有の表面の凹凸が先端付近までのこる。先端に研ぎ面が認められるも、人為的加工・使用痕は不明瞭。諸処に齧歯類の噛痕が認められる。製品作成のための素材か。長さ10.0cm。

125　鹿角。全面なめらかで凹凸面は不明瞭。先端に研ぎ面が認められるも、人為的な加工・使用痕は不明瞭。一部に齧歯類の噛痕が認められる。製品作成のための素材とみられる。長さ12.5cm。

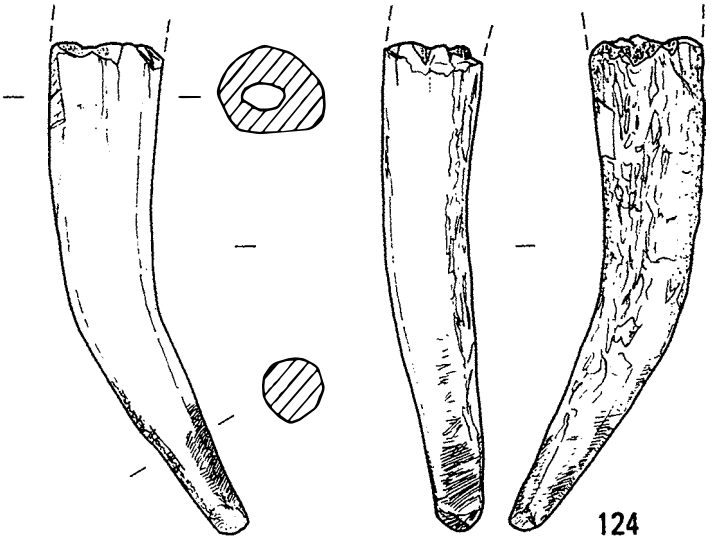
126　生後２～３年の若い鹿の落骨。根元の部分を若干整形した痕跡をのこす。素材として確保したものであろう。長さ14.7cm。

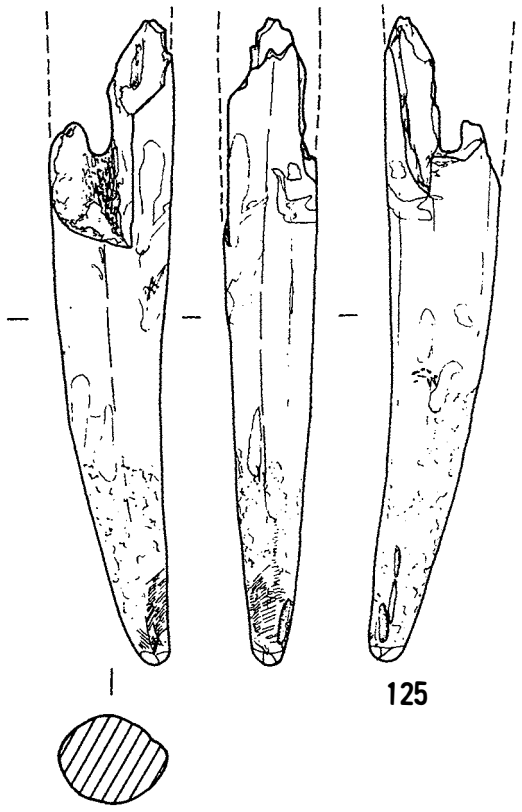


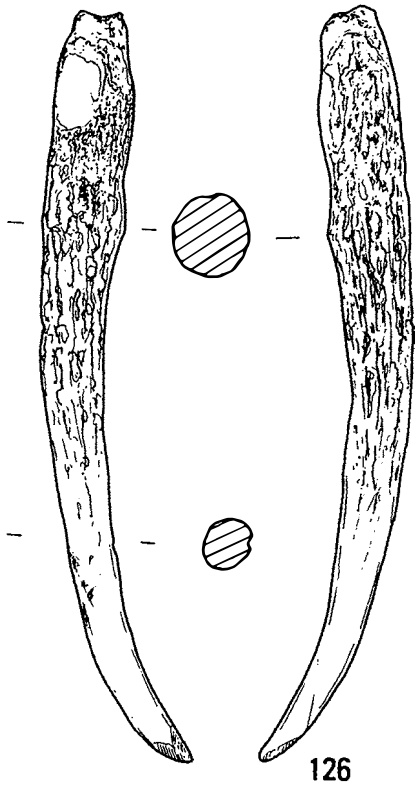

第173図　骨角貝製品実測図（15）［117～121　鹿角製工具］

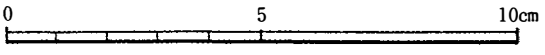



第174図　骨角貝製品実測図（16）［122,123　鹿角製工具］




**第175図　骨角貝製品実測図（17）**［124～126　鹿角素材］

### （５）獣骨製品

【骨製簪】（第176図127～137，第177図138）

127　鹿の中足骨を使用か。全体を研磨により整形し、基部に径4㎜の孔をあけている。全面非常に艶をもち、先端部程なめらかである。長期間に渡って使用されたと判断でき、形態使用痕から簪と判断する。長さ13.9㎝。

128　鹿の中手骨又は中足骨を使用か。全体によく研磨整形され、先端に至るほど幅・厚みとも減少する。基部も同様の平面形を成すが、厚みはより増し、端部付近で急に薄くなっている。端部は欠損しているが、孔の一部が残っており、紐を通して使用中に破損した可能性もある。全面なめらかで艶がある。全体形状や使用痕から簪と考えたが、針とみることも可能である。現存長9.3㎝。

129　動物の四肢骨を使用か。全体を研磨し、楔形に加工している。基部に径３㎜の孔をあけ、その上端に３つの刻み目を入れ鶏冠状にし、その一側面にも２つの刻み目を入れている。全体になめらかで、非常に艶をもつ。長さ7.1㎝。

130　鹿の中手骨（中足骨）を使用。縦割にした骨を研磨して作ったらしく、関節部分に径5㎜の孔を両面穿孔であけ、ここを基部としている。その下は欠損しているが、欠損面や骨の形状から考えて、細く延びていたものと判断される。艶をもつ。現存長2.0㎝。

131　鹿の中手骨を使用か。全体を研磨整形し、基部に片面からの回転穿孔で径４㎜の孔をあけている。軸部の断面は丸く、なめらかで艶がある。先端部を欠損している。現存長6.8㎝。

132　鹿の中手骨（中足骨）を使用か。全体に研磨整形され、非常になめらかで艶をもつ。欠損した一部分の破片であるが、Ｘ字形の線刻文を連続して施していたことが伺われる。磨滅の具合や艶の状態から長期間使用された後破損したとみられ、施文があることから、簪または垂飾品の一部であったと推測される。現存長3.6㎝。133と同一個体か。

133　鹿の中手骨（中足骨）を使用か。全体に研磨整形され、艶をもつ。上下を欠くが、骨の質や形状等から132と同一個体と考えられる。現存長2.6㎝。

134　動物の四肢骨を使用か。一部分しか残っていないが、蒲鉾形に研磨整形し、裏面からの片面穿孔により径４㎜の孔を２ヵ所にあけている。なめらかで艶をもち、かなり使用された後に破損したものと考えられる。形状や使用痕からみて簪の基部破片と判断される。現存長4.3㎝。

135　鹿の中手骨（中足骨）を使用か。全体に研磨整形が行き届いており、なめらかでとても艶がある。長期間の使用が想定され、形状・使用痕からみて、簪の基部破片と判断される。現存長3.3㎝。

136　動物の四肢骨を使用。全体に研磨を加え細長い軸部を作りだし、先端部をいくぶん尖らせている。上端はやや大きく成りかけた部分で欠損している。なめらかで艶があり、簪として使用されたと判断しうる。現存長9.9㎝。

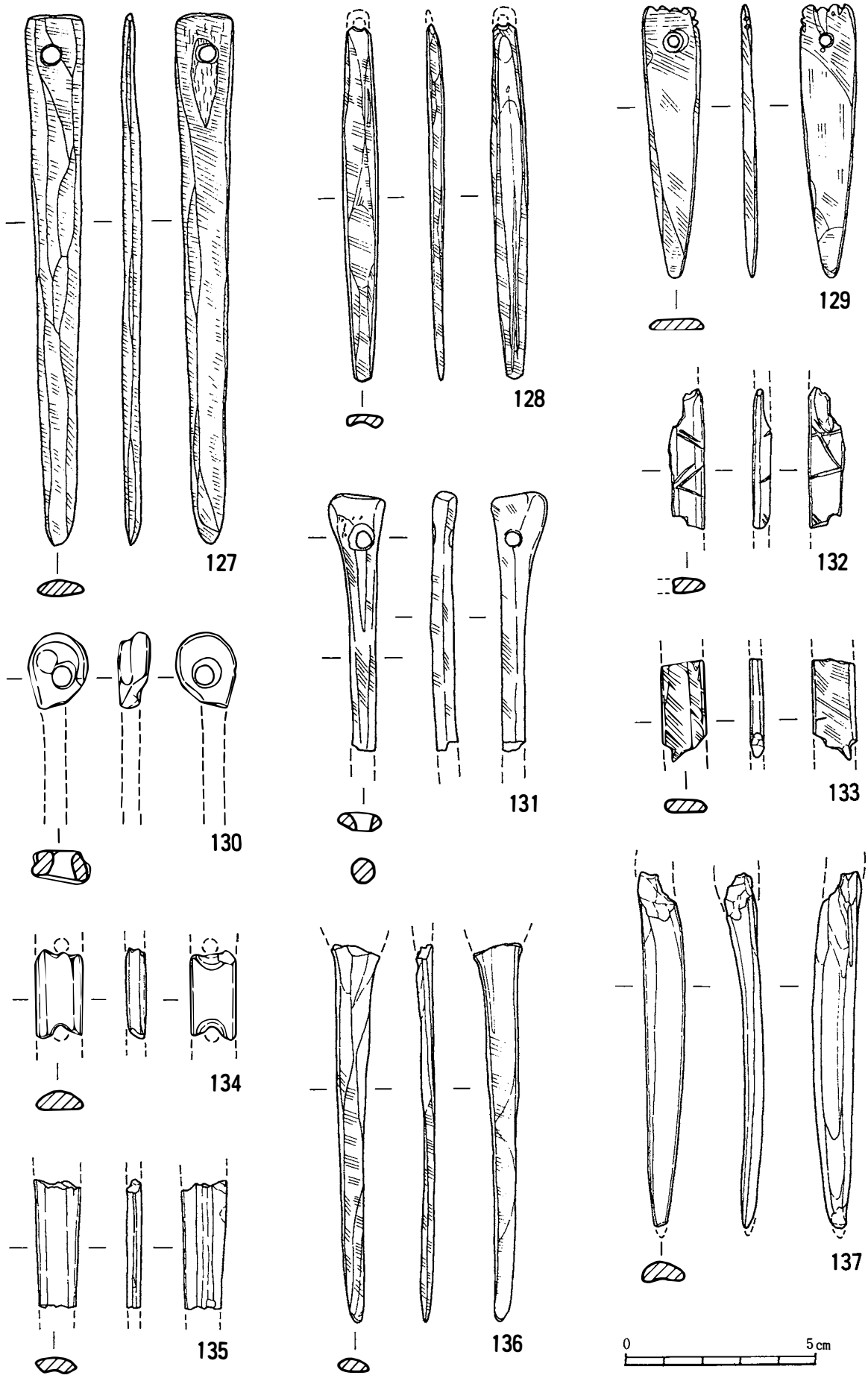
137　動物の四肢骨を使用か。全体に研磨整形され、なめらかで非常に艶をもつ。基部は欠損しているが、膨らみがあったことがわかる。全体の形状・使用痕からみて、簪と判断できる。現存長9.3㎝。

138　動物の四肢骨を使用。全体に研磨整形され、全面なめらかである。他例に抜きんでて艶をもち、長期の使用を想定できる。欠損しているが、形状や使用痕からみて、簪の先端部と考えられる。現存長4.4㎝。

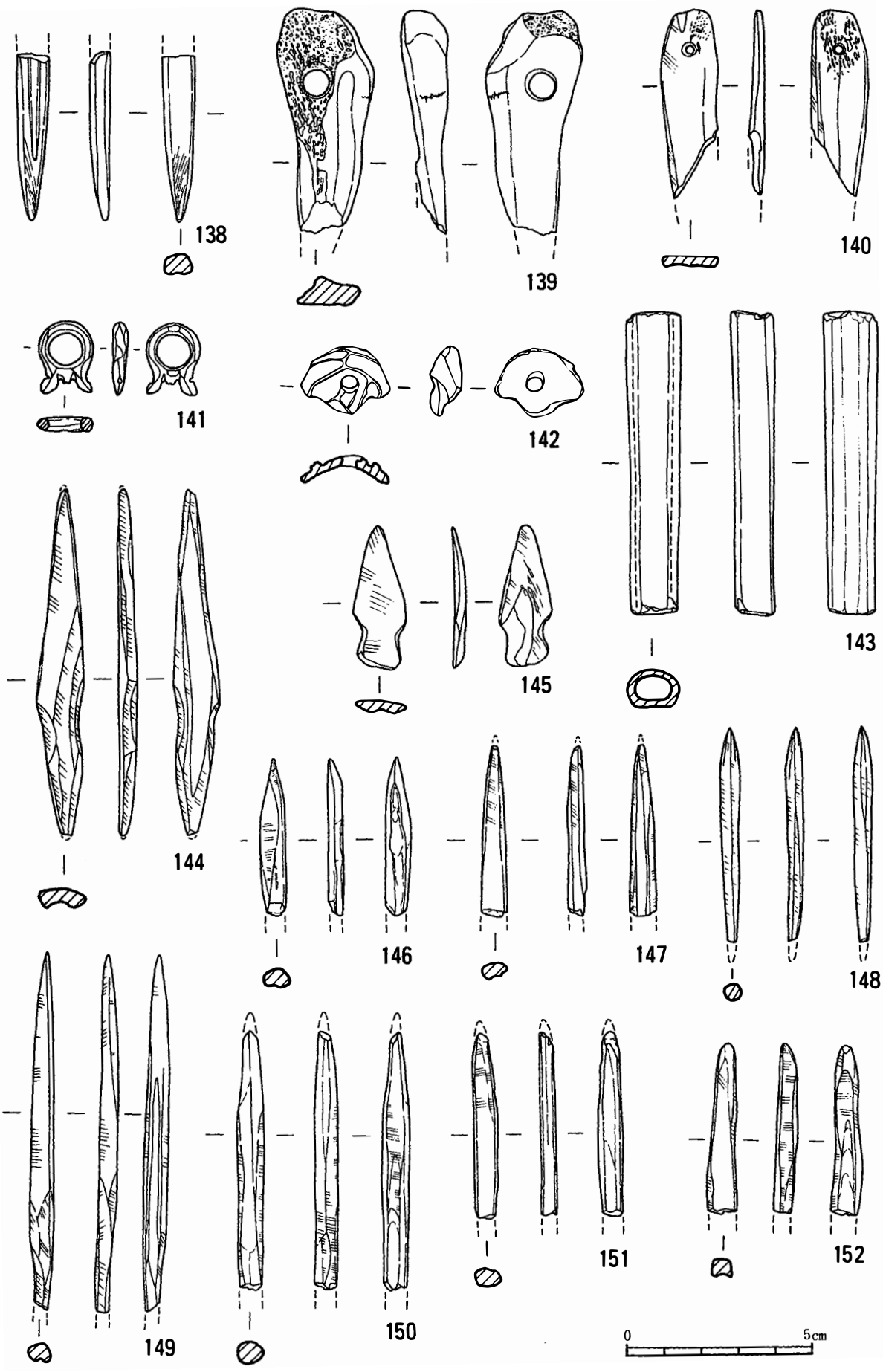
【骨製垂飾】（第177図139～142）

139　鹿または猪の脛骨近位端を使用。骨の形を利用し研磨整形を行っている。使用により、なめらかで艶をもち、研磨痕も不明瞭になっている。上部に径7.5㎜の大きめの孔をあけている。下端を欠くが、急速に細くなっているので、あまり延びないで終わっていたと推測される。現存長5.9㎝。

140　動物の四肢骨を使用か。偏平板状に研磨した骨の一端に径2.5㎜の孔をあけている。やや艶がある。先




第176図　骨角貝製品実測図（18）［127～137　骨製簪］




第177図　骨角貝製品実測図（19）［138　骨製簪、139～142　骨製垂飾
143　管状骨製品、144～152　骨製刺突具］

端部を欠損しており、現存長4.9cmを測る。

141　材質は不明。削りと研磨により環の一端に２脚のついたような装飾品を作っている。環の孔径は8.5mmで、指輪とみることはできない。紐で吊るした垂飾品と考えられる。艶をもつ。長さ1.9cm。

142　材質は不明。一面は窪んだなめらかな面をなし、他面は筋状の隆起がいくつかみられるが、人為的なものではない。全体が黒っぽく、焼けていると考えられる。中央部に3.5mmの孔があけられており、垂飾品として使用されたものとみられる。幅1.75cm。

【管状骨製品】（第177図143）

143　中型動物の四肢骨の上下端部を切断し、切断面を研磨している。機能は不明であるが、表面の艶の状態から長期の使用が想定できる。長さ7.9cm。針入れか。

【骨製刺突具】（第177図144～152，第178図153～167，第179図168～178，第180図179～186）

144　鹿の中手骨（中足骨）を使用。全体を研磨整形し、先端を尖らせ、基部にはかかりを設けている。全面艶をもつが、特に先端部の艶が強い。全体にいくぶん反りをもつ。先端と基部にわずかな欠損がある。現存長9.1cm。

145　動物の四肢骨を使用か。研磨により先端を尖らせ、基部にかかりを抉り込んでいる。なめらかで艶をもつ。全体に反りがある。完形で、長さ3.8cm。

146　動物の四肢骨を使用。先端を研磨によって尖らせ、反りをもたせている。先端部付近はいくぶん艶をもつ。基部は欠損している。現存長4.1cm。

147　動物の四肢骨を使用。先端部を研磨により尖らせている。基部は欠損し、先端もわずかに欠損している。現存長4.5cm。

148　動物の四肢骨を使用か。研磨により細長く整形。特に先端部に細かい研磨が集中し、断面も丸く、艶が強い。基部を少し欠損しており、現存長5.7cmを測る。

149　鹿の中手骨（中足骨）を使用。全体を研磨整形し、細長く鋭利なヤスに仕上げている。全面が艶をもつ。基部を一部欠損。現存長9.4cm。

150　動物の四肢骨を使用。全体に研磨整形されるが、先端部に行くほど細かく研磨され、断面形が円形に近くなる。全体に艶をもつ。先端と基部を欠損している。現存長6.8cm。

151　動物の四肢骨を使用。全体に研磨整形し、一端を尖らせている。艶をもつ。先端と基部の欠損は使用によるものか。現存長4.4cm。

152　動物の四肢骨を使用。全体に渡って研磨整形している。艶をもつ。先端部はなめらかで、この部分が主体的に機能したと解することができる。先端が使用により一度欠損したのを研ぎ直して使用しているようである。基部を欠損しており、現存長4.8cmを測る。

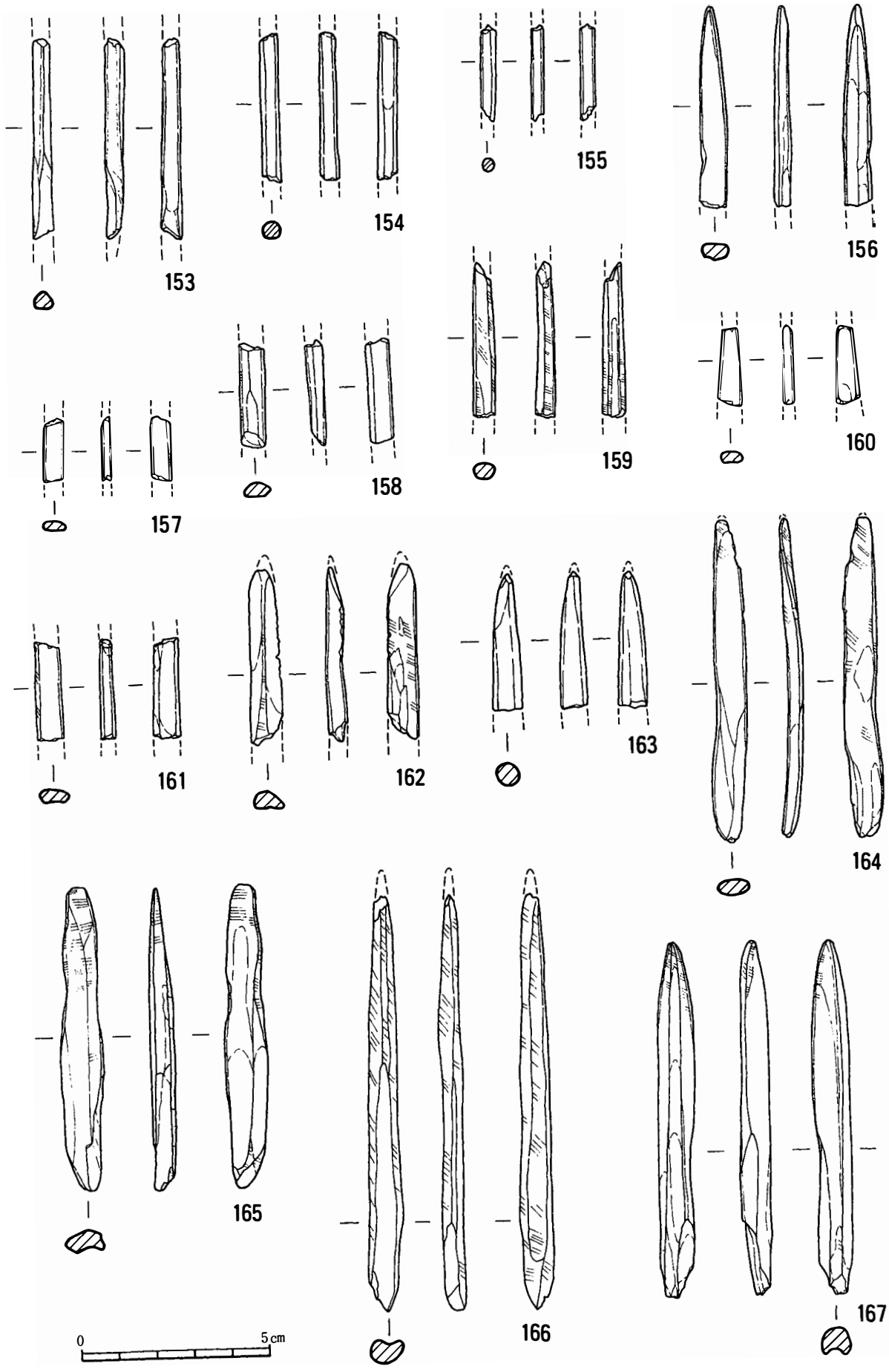
153　材質は不明。全体に研磨整形され、艶をもつ。両端を欠くが、下端欠損部は偏平になりかけており、針である可能性もある。現存長5.2cm。

154　動物の四肢骨を使用。全体に研磨整形され、断面は丸い。艶をもつ。両端は欠損している。現存長は3.9cm。

155　動物の四肢骨を使用。全体に研磨整形され、断面が丸くなっている。艶をもつ。刺突具の欠損したものと考えられる。現存長2.5cm。

156　動物の四肢骨を使用。割った素材の一側面と先端部を研磨により整形し、利器としている。やや艶をもつ。基部を欠損している。現存長5.3cm。

157　動物の四肢骨を使用か。全体によく研磨整形され、艶をもつ。刺突具の基部の一部分とみられる。現存長1.7cm。




第178図　骨角貝製品実測図（20）［153～167　骨製刺突具］

158　動物骨を部分的に研磨整形している。刺突具の破損品とみられる。現存長2.8cm。

159　動物の四肢骨を使用。全体に研磨痕がみられる。著しく艶をもつ。刺突具の破損したものと考えられる。現存長4.1cm。

160　動物の四肢骨を使用。全体に研磨整形され、やや艶をもつ。先端と基部を欠損しているが、刺突具と考えることができる。現存長2.0cm。

161　動物の四肢骨を使用。全体に研磨整形され、艶をもつ。刺突具の欠損したものと推測される。現存長2.6cm。

162　動物の四肢骨を使用。全体に研磨整形され、艶をもつ。先端と基部を欠損している。一側面には細かい刃こぼれ状の凹凸がみられる。現存長4.6cm。

163　動物の四肢骨を使用。全体に研磨整形が行き届いている。断面も円に近く、やや反りがある。基部を欠き、先端もわずかに欠損している。全体に艶をもつ。現存長3.6cm。

164　材質の詳細は不明。やや反りのある偏平な骨を研磨により整形し、先端を尖らせている。先端とその付近に欠損があるのは、使用によるものと考えられる。少し艶をもつ。長さ8.5cm。

165　動物の四肢骨を使用。先端付近を中心に研磨を加え整形している。先端部はやや斧状に尖るが、厚みのある基部や全体の形状から刺突具と判断しうる。長さ9.9cm。

166　動物の四肢骨を使用。全体を細長く研磨整形し、先端部を尖らすが、先端は使用によるものか欠損している。艶をもつ。現存長11.0cm。

167　動物の四肢骨を使用。基部は部分的に研かれているだけであるが、先端部は丁寧な研磨で尖らせている。先端部に使用痕がある。全体に艶をもつ。完形と考えられ、長さ9.4cm。

168　動物の四肢骨を使用。全体に研磨整形されている。特に先端部はよく研磨され、艶をもち、やや反りをもたせている。基部端を欠損している。基部に溝状の傷があるのは、軸に固定のためか。現存長9.4cm。

169　動物の四肢骨を使用。全体に丁寧な研磨整形を行っている。断面は丸い。全面なめらかで艶がある。両端に向かって細くなっているが、両端とも欠損している。現存長8.7cm。

170　動物の四肢骨を使用。全体に丁寧な研磨整形が成され、艶をもつ。偏平な作りで、先端部は尖る。基部を欠損している。現存長4.7cm。

171　動物の四肢骨を使用か。細かい研磨により、鋭い先端を作りだしている。非常になめらかで、艶がある。基部を欠損しているので、器種の判断が難しいが、ここでは一応先端部の状態から刺突具に分類しておく。ただ非常に艶をもつので、簪の先端部である可能性もある。現存長4.8cm。

172　動物の四肢骨を使用。一側面は研磨が丁寧であるが、反対面は打割面にあまり研磨を加えていない。ただ端部はよく研磨されている。両端を欠くが、残っているのは基部側であろうか。現存長7.0cm。

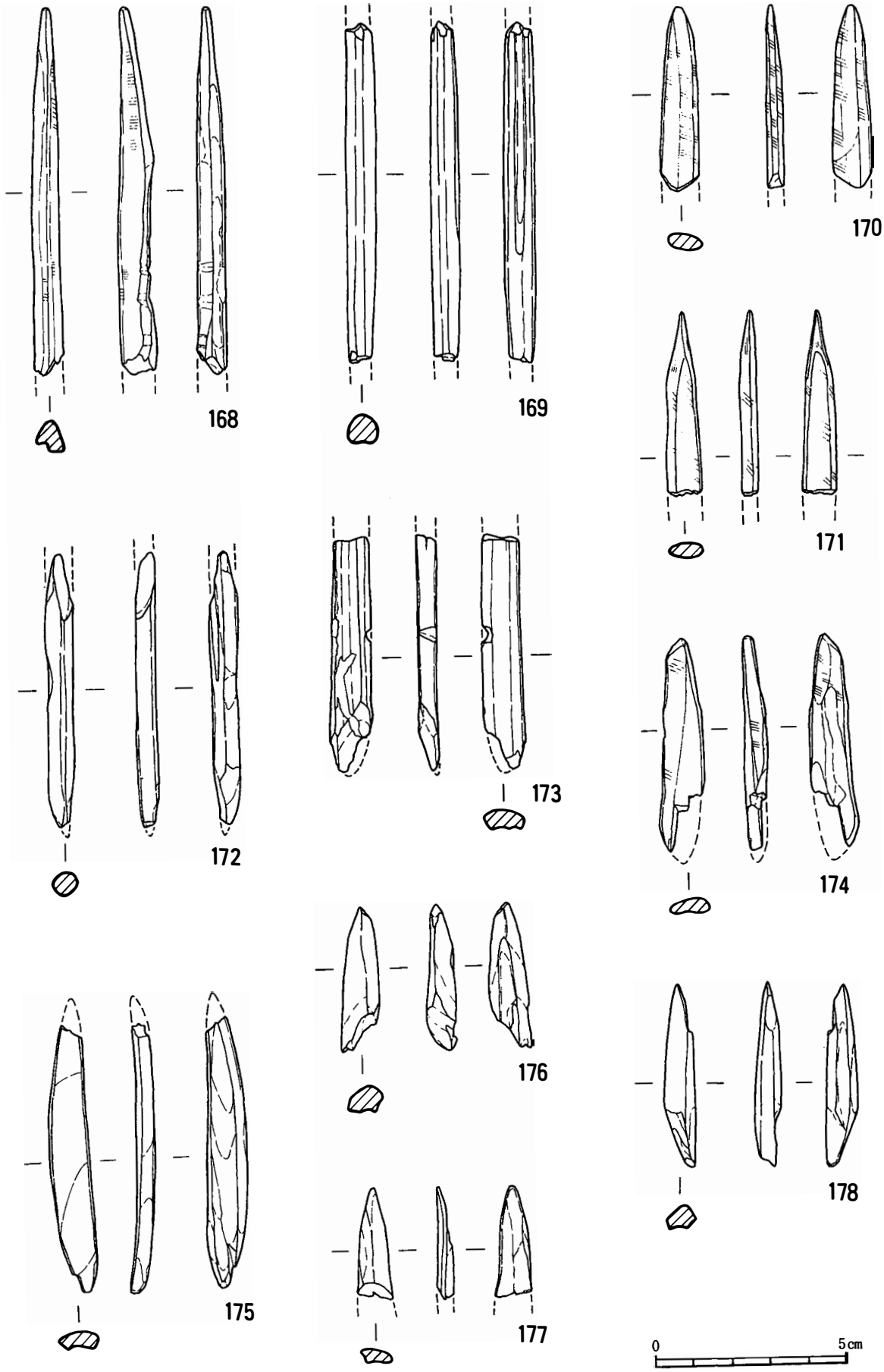
173　動物の四肢骨を使用。打割の両側面を丁寧に研磨。基部端は斜めに削っている。全体に艶をもつ。端部を欠くが、形状より刺突具の基部とみられる。現存長6.0cm

174　動物の四肢骨を使用。割れた骨の形をそのまま研磨整形している。基部を少し欠損している。現存長5.5cm。

175　動物の四肢骨を使用。全体を研磨により整形し、先端部を尖らせている。先端は使用のためか欠損している。やや艶をもつ。全体的にいくぶん反りがある。現存長6.9cm。

176　動物の四肢骨を使用。打ち割った形に部分的に研ぎを入れた刺突具である。やや艶をもつ。長さ3.7cm。

177　動物の四肢骨を使用。全体的に研磨されているが、一側のみは割れた面を残しており、欠損したものを再加工した可能性がある。先端はよく研磨されており、いくぶん反りがある。全面艶をもつ。基部は欠損している。現存長2.9cm。




第179図　骨角貝製品実測図（21）［168～178　骨製刺突具］

178　動物の四肢骨を使用。打ち割ってできた小破片の両端を研いで刺突具と成している。先端部は特に丁寧に研磨し、四角錐形に尖る。長さ4.6cm。

179　動物の四肢骨を使用。割った骨の先端部付近と基部のみを研いでいる。特に先端部は細かく研き、艶をもち、この部分を主体的に機能させた道具と判断できる。先端部に反りがある。長さ9.6cm。

180　動物の四肢骨を使用。打ち割ってできた形態をほぼそのまま使用しているが、先端部と基部にはわずかに研磨痕がみられる。やや艶をもつ。長さ8.2cm。

181　動物の四肢骨を使用。主に打ち割った骨片の先端付近を研磨し、鋭利に尖らせている。艶をもつ。先端と基部の欠損は使用によるものと考えられる。現存長6.6cm。

182　動物の四肢骨を使用。打ち割った骨片の一端を研磨により尖らせた刺突具で、先端部は艶をもっている。基部は欠損しているとみられ、現存長6.7cm。

183　動物の四肢骨を使用。打ち割った面をほぼそのまま使用し、先端部付近のみに入念な研磨を施している。先端と基部は欠損している。表面は艶をもつ。現存長5.2cm。

184　動物の四肢骨を使用。打ち割った骨片の一端を研磨により尖らせている。先端を中心に艶をもつ。形態から先端部に反りをもたせた刺突具と考えられる。完形品とみられ、長さ6.6cmを測る。

185　動物の四肢骨を使用。打ち割った骨片を、細かい打撃により整形し、先端部に研磨を加えて尖らせている。長さ10.3cm。

186　動物の四肢骨を使用。打ち割った骨の一端に細かい打ち欠きを入れて尖らせている。研磨は行われていないが、形態から刺突具と判断される。長さ9.8cm。

【骨製ヘラ】（第181図187～195，第182図196～206，第183図207～211）

187　動物の四肢骨を使用か。全体を研磨整形するが、特に先端部に細かい研磨を加えている。なめらかで艶をもち、先端部ほど磨耗している。長さ12.6cm。

188　動物の四肢骨を使用。打ち割った骨を研磨整形している。先端部に向かうほど細かく研磨され、先端部を機能させた道具と考えられる。全体に艶があり、一定期間使用されたことが伺われる。先端を欠くがヘラと考えられる。現存長11.4cm。

189　動物の四肢骨を使用。全体を研磨し、ヘラ状に整形している。全面なめらかで艶がある。先端部を欠損しており、現存長7.7cm。

190　動物の四肢骨を使用。全体を研磨整形しているが、ややねじれている。全面なめらかで非常に艶があり、長期間使用された道具と考えられる。先端部分は欠損しているが、ヘラと考えてよい。現存長8.0cm。

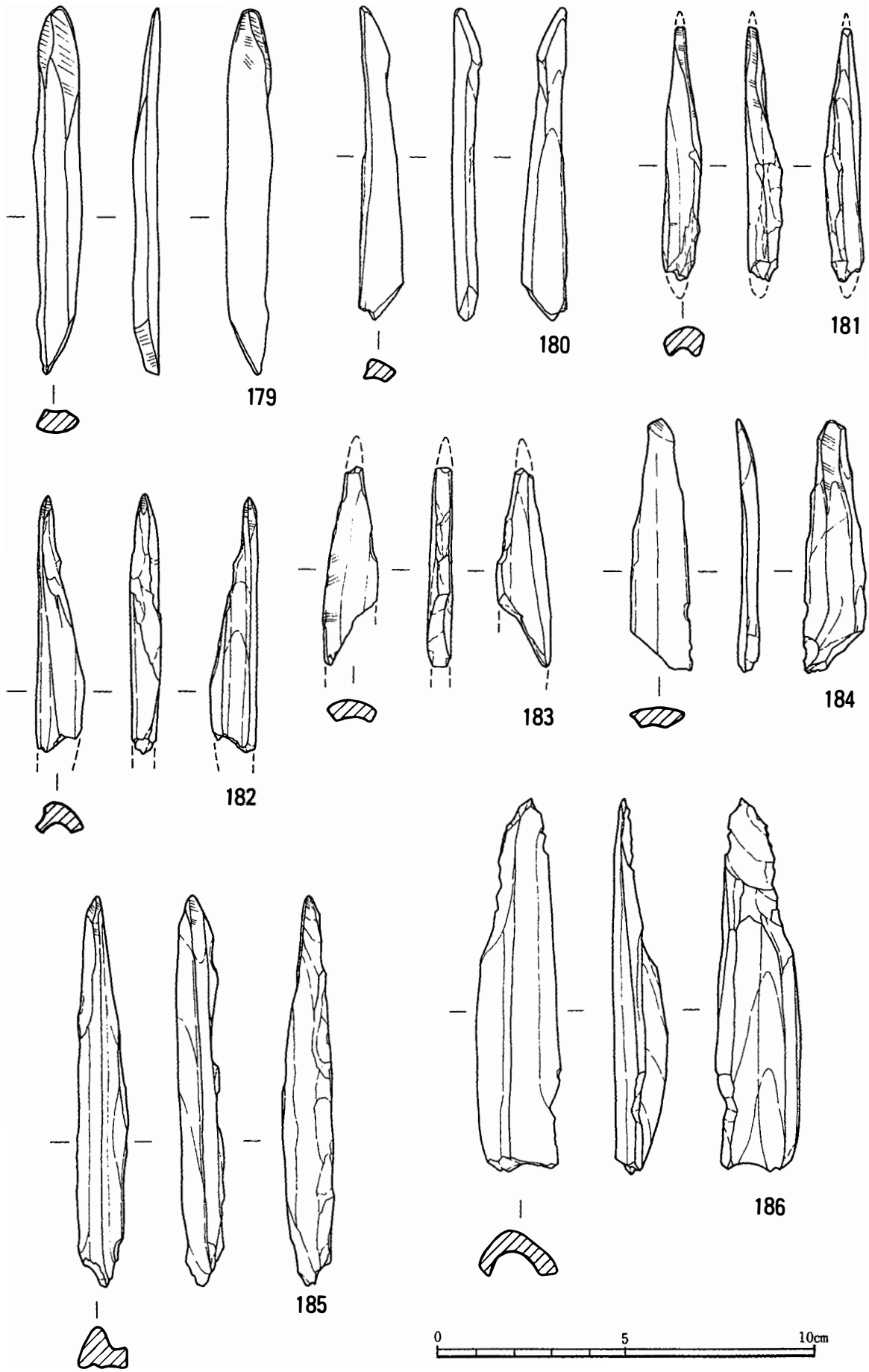
191　動物の四肢骨を使用。全体に研磨され、両側面などには研ぎ面を残している。全面に亘って艶が著しく、長期間の使用を想定できる。両端は欠損している。現存長8.1cm。

192　動物の四肢骨を使用。やや反りがある骨片を研磨整形し、一端に偏平で鋭利な刃部を設けている。刃部近くの両側面はいくぶん凹凸があるが磨滅しており、この状態で使用したと考えることができる。全面に艶があり、長期間の使用を想定できる。長さ11.8cm。

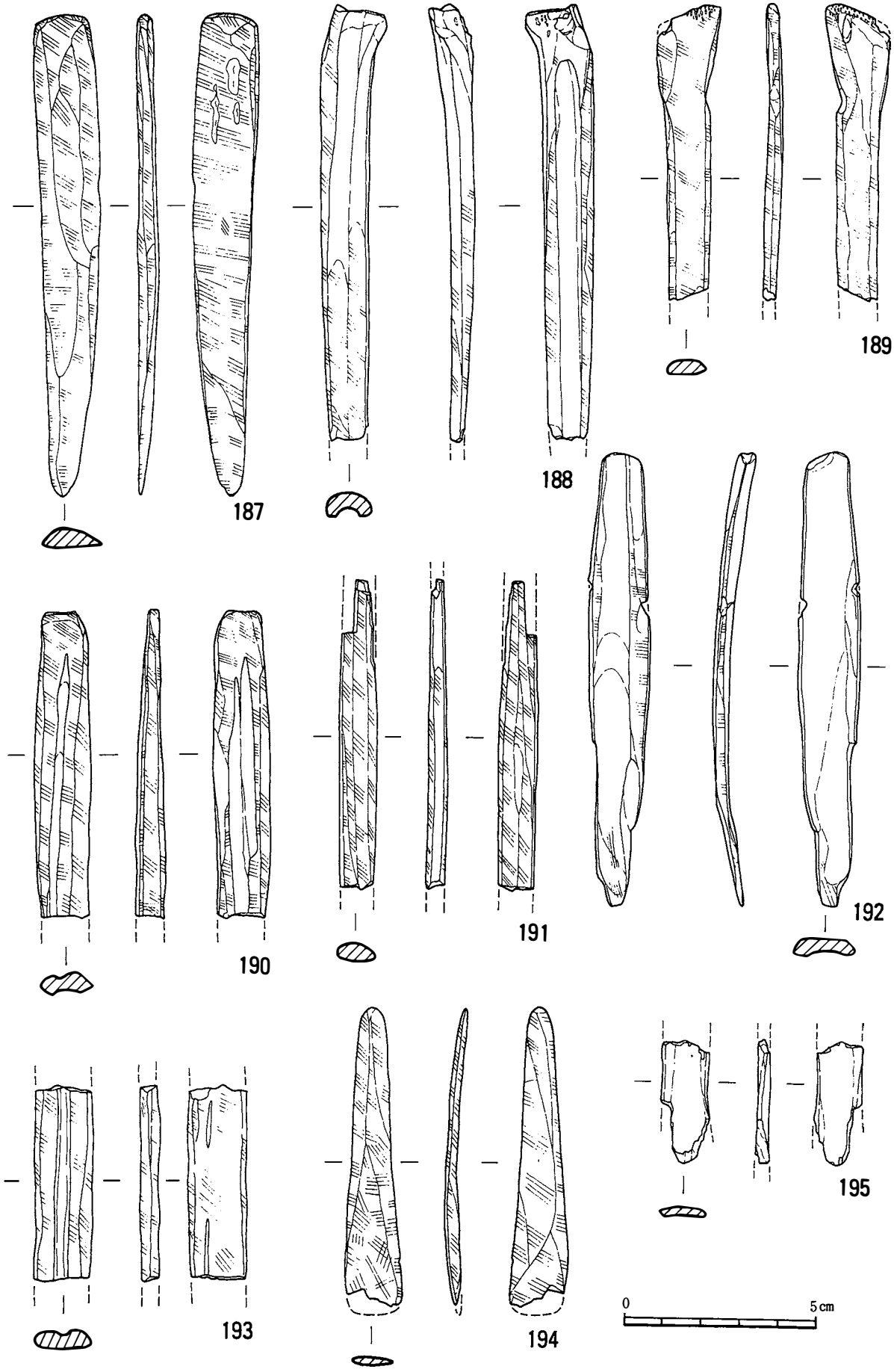
193　動物の四肢骨を使用。研磨により偏平な棒状に整形しており、両側面は使用によりなめらかになっている。全体に艶をもつ。両端を欠くが、ヘラの破片と考えられる。現存長5.1cm。

194　動物骨を使用。全体に細かく研磨整形し、薄いヘラに仕上げている。全面なめらかで艶がある。特に使用の際に握る部分であった上半部の艶が強い。全体に反りがあり、スプーンのような使い方をした可能性もある。先端部を欠損しており、現存長7.8cmを測る。

195　動物の四肢骨かとみられるものを偏平に研磨整形している。艶をもつ。形態からヘラが欠損したものと考えられる。現存長3.2cm。




第180図　骨角貝製品実測図（22）［179～186　骨製刺突具］




第181図　骨角貝製品実測図（23）［187～195　骨製ヘラ］

196　動物の四肢骨を使用。全体を研磨整形し、上下を次第に薄くしているが、両端とも欠損している。艶をもつ。部分的に風化している。現存長6.3cm。

197　動物の四肢骨を使用。一側面には打ち割った面を残すが、もう一側面や先端部付近はよく研磨整形され、艶をもつ。先端部の機能した道具と考えられる。基部を欠損。現存長7.1cm。

198　動物の四肢骨を使用。全面細かい研磨整形が行き届いている。なめらかで非常に艶をもち、長期間の使用が想定できる。上下を欠いている。現存長3.8cm。

199　動物の四肢骨を使用。全体に研磨整形され、先端部は鋭利な刃部を作っている。艶をもつ。基部は欠損している。現存長2.6cm。

200　動物の四肢骨を使用。全体に細かい研磨を行い、先端を偏平に尖らせている。全面なめらかで艶をもつ。先端部は使用により磨滅している。基部を欠損。現存長4.3cm。

201　動物の四肢骨を使用か。全体を細かい研磨により偏平なヘラに整形している。基部を欠損している。先端部の小さな欠損は使用によるものか。なめらかで艶をもち、一定期間使用されたと判断できる。現存長7.15cm。

202　動物の四肢骨を使用。全体を偏平に研磨整形し、先端部を薄くしてヘラ状に加工している。全体に艶をもち、先端部に使用による磨滅がみられる。基部を欠損している。現存長5.5cm。

203　中型動物の四肢骨の関節に近い部分を使用。全体に研磨整形されるが、先端を含む下半部に研磨痕が集中し、艶をもつ。先端部の機能した道具と考えられる。長さ7.2cm。

204　動物の四肢骨を使用。全体に研磨整形され、顕著に艶をもつ。先端部ほど磨滅しており、先端部を機能させた道具と考えられる。基部を欠損し、現存長5.6cm。

205　動物の四肢骨を使用。全体を研磨整形し、小型のヘラに仕上げている。艶をもつ。先端に行くほどなめらかで、この部分を機能させた道具と考えることができる。長さ8.6cm。

206　鹿の中足骨を使用か。全体に研磨し、やや反りのあるヘラを作っている。上部の孔は素材研磨の段階で偶然できたもの。全面なめらかで艶があり、長期間使用されたことがわかる。長さ8.7cm。

207　鹿の中足骨を使用か。全体に研磨整形されるが、やや尖りぎみの先端部と基部上端がよく整形され、使用による磨滅もこの部分に集中している。このヘラは両端とも刃部として機能させたものと判断される。おそらく土器制作等に使用した道具と推察される。全体に艶をもつ。長さ11.6cm。

208　動物の四肢骨を打ち割って、その一端を研磨により尖らせている。先端ほど細かく研磨され、艶をもつ。先端部の機能した道具である。基部の一部が新しく欠損している。現存長13.1cm。

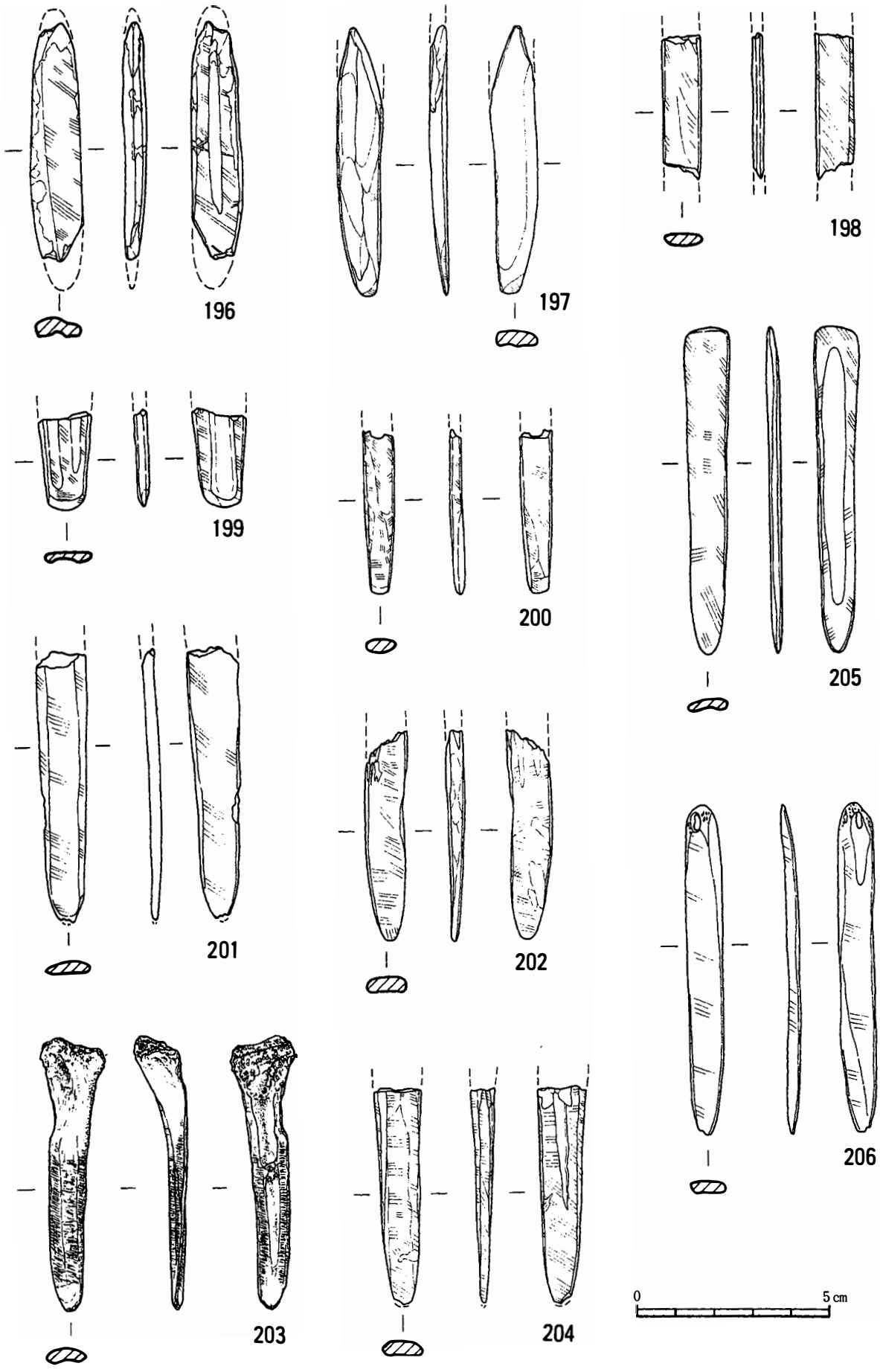
209　動物の四肢骨を使用。大部分は未加工のままで、下端の偏平な部分のみ研磨整形している。使用痕は明瞭ではないが、先端部の機能した道具である。長さ11.8cm。

210　中型動物の四肢骨を使用。一端を研ぎ出してヘラ状に整形する。全体になめらかで艶をもち、使い込まれた印象を受ける。特に先端部は艶があり、磨滅以外の使用痕が認められないことから、簪の可能性がある。長さ6.9cm。

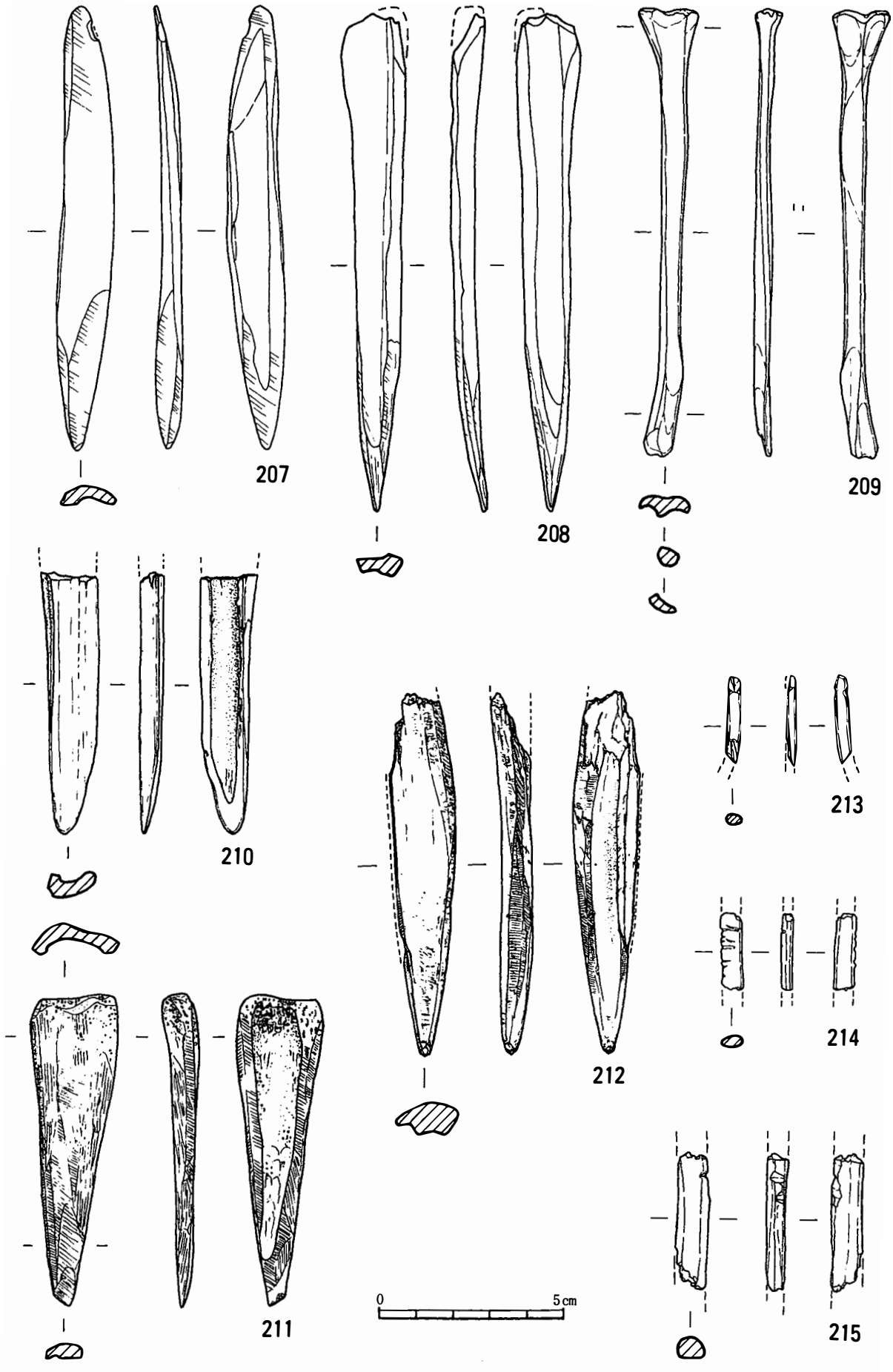
211　中型動物の四肢骨の関節に近い部分を使用。全体に研磨整形されるが、細かい研磨は先端付近に集中し、艶をもつ。先端部はわずかに破損しており、本例はこの部分が主体的に機能した道具と考えられる。長さ8.2cm。

【骨製工具】（第183図212）

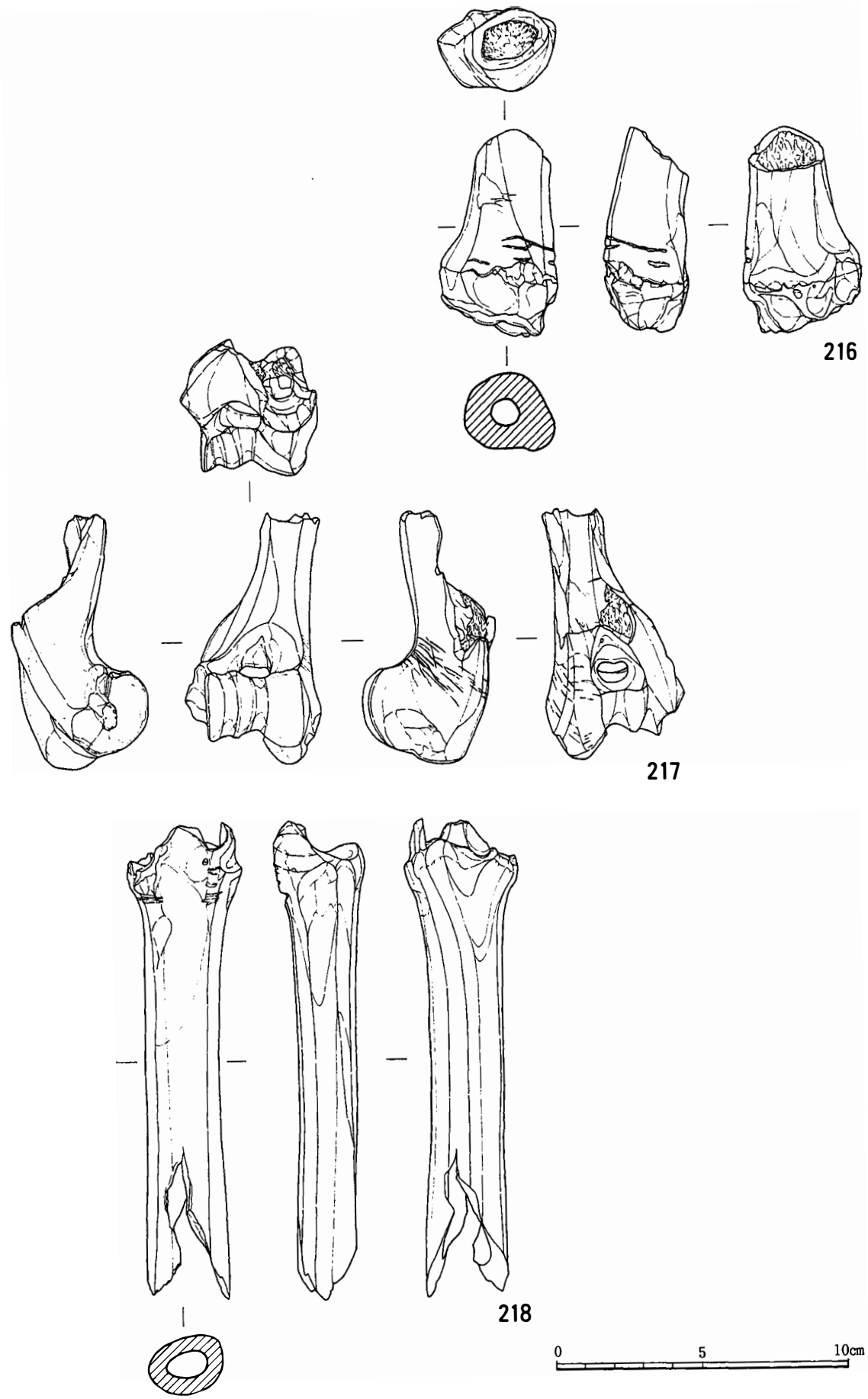
212　中型動物の四肢骨を使用。先端を研磨によって尖らせている。明瞭な研磨痕を留め、先端付近は艶をもつ。先端をわずかに破損する。柔らかいものを対象として、先端部を機能させた道具と考えられる。長さ9.4cm。




第182図　骨角貝製品実測図（24）［196～206　骨製ヘラ］




**第183図　骨角貝製品実測図（25）**［207～211　骨製ヘラ、212　骨製工具
213　骨製釣針か、214,215　加工のある骨］




**第184図　骨角貝製品実測図（26）**［216～218　解体痕のある骨］

【その他の骨製品】（第183図213～215）

213　鳥類の骨とみられる髄孔の通った細長い骨を使用。全体に研磨整形し、上端近くに両側から紐縛り用とみられる溝を刻んでいる。下部を欠損しており、下端は骨の軸に逆らって曲がっている。釣針にみえるが骨の形態からみてこの骨だけで鉤先まで作られていたとは考えられないので、鉤先部が別作りになった結合釣針の軸部と推定される。現存長2.3cm。

214　動物骨を使用。未整形の棒状の骨の一側面に刃器による細線刻が刻まれている。装身具であろうか。上下を欠損している。現存長2.0cm。

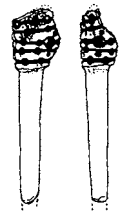
215　動物骨を利用。上下を欠損しているが、ほぼ直線的な未加工の骨の一側面に溝を刻んだもので、現存部からの機能想定は困難である。現存長3.6cm。

【解体痕のある骨】（第184図216～218）

216　海獣類の右脛骨とみられる。折損したくるぶし近くの骨で、側面に刃器による傷がみられる。解体痕と考えられる。人為的な加工や使用痕は認められない。長さ7.2cm。

217　猪の右上腕骨。膝節近くの折損した骨で、側面に解体時の痕跡と考えられる刃器の傷がのこる。人為的加工・使用痕は認められない。長さ8.7cm。

218　鹿の左脛骨の折損した下半部で、膝節の近くに刃器による傷がある。解体時の痕跡と考えられる。人為的な加工や使用痕は認められない。長さ16.4cm。



## 第24表　骨角貝製品観察表（１）

| 図版番号 | 遺物番号 | 出土区 | 層位遺構 | 種　別 | 材　質 | 長さ（㎜） | 幅（㎜） | 厚さ（㎜） | 重さ（ｇ） | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 159 | 1 | D－9 | Ⅲ | 貝輪 | タマキガイ科 | 33 | 75 | 6 | 4.8 | 復元長69㎜ |
| 〃 | 2 | D－9 | Ⅲ | 貝輪 | タマキガイ科 | 82 | 10 |  | 12.0 | ベンケイガイ |
| 〃 | 3 | H－8 | Ⅲ | 貝輪 | フネガイ科 | 78 | 106 | 26 | 66.0 |  |
| 160 | 4 | G－7 | 不明 | 貝輪 | フネガイ科 | 22 | 44 | 8 | 2.6 | 復元長74㎜ |
| 〃 | 5 | B－8 | Ⅲ | 貝輪 | タマキガイ科 | 63 | 79 | 8 | 8.7 | 復元長73㎜ |
| 〃 | 6 | 不明 | 不明 | 貝輪 | フネガイ科 | 92 | 108 | 28 | 65.1 | 未成品 |
| 〃 | 7 | 不明 | 不明 | 貝製玉 | イモガイ科 | 8 | 8 | 4 | 0.2 |  |
| 〃 | 8 | G－7 | 不明 | 貝製垂飾 | ツノガイ科 | 40 | 7 | 7 | 1.5 |  |
| 161 | 9 | 不明 | 不明 | 貝面 | イタボガキ | 132 | 155 | 27 | 143.8 |  |
| 162 | 10 | G－9 | Ⅲ | 椎骨製耳飾 | サメ椎骨 | 8 |  | 4.5 | 0.1 | 孔径1.5㎜ |
| 〃 | 11 | G－8 | Ⅲ | 椎骨製耳飾 | サメ椎骨 | 10 |  | 4.5 | 0.3 | 孔径２㎜ |
| 〃 | 12 | F－6 | 2号土壙 | 椎骨製耳飾 | サメ椎骨 | 11 |  | 5 | 0.3 | 孔径４㎜ |
| 〃 | 13 | G－8 | Ⅲ | 椎骨製耳飾 | サメ椎骨 | 11 |  | 5 | 0.3 | 孔径3.5㎜ |
| 〃 | 14 | F－8 | Ⅲ | 椎骨製耳飾 | サメ椎骨 | 11 |  | 6 | 0.5 | 孔径2.5㎜ |
| 〃 | 15 | G－8 | Ⅲ | 椎骨製耳飾 | サメ椎骨 | 11 |  | 6.5 | 0.6 | 孔径３㎜ |
| 〃 | 16 | E－8 | Ⅲ | 椎骨製耳飾 | サメ椎骨 | 12 |  | 3.5 | 0.2 | 孔径４㎜ |
| 〃 | 17 | F－9 | Ⅱ | 椎骨製耳飾 | サメ椎骨 | 12 |  | 6.5 | 0.3 | 孔径２㎜ |
| 〃 | 18 | G－8 | Ⅲ | 椎骨製耳飾 | サメ椎骨 | 12 |  | 7 | 0.8 | 孔径３㎜ |
| 〃 | 19 | F－7 | 1号土壙 | 椎骨製耳飾 | サメ椎骨 | 12 |  | 7.5 | 0.5 | 孔径1.5㎜ |
| 〃 | 20 | E－9 | Ⅲ | 椎骨製耳飾 | サメ椎骨 | 12.5 |  | 6 | 0.4 | 孔径２㎜ |
| 〃 | 21 | G－10 | Ⅲａ | 椎骨製耳飾 | サメ椎骨 | 13 |  | 8.5 | 0.8 | 孔径２㎜ |
| 〃 | 22 | H－10 | Ⅲ | 椎骨製耳飾 | サメ椎骨 | 13 |  | 6.5 | 0.6 | 孔径２㎜ |
| 〃 | 23 | G－9 | Ⅲ | 椎骨製耳飾 | サメ椎骨 | 14 |  | 7 | 0.6 | 孔径3.5㎜ |
| 〃 | 24 | G－8 | Ⅲ | 椎骨製耳飾 | サメ椎骨 | 15 |  | 6.5 | 1.1 | 孔径２㎜ |
| 〃 | 25 | H－6 | 不明 | 椎骨製耳飾 | サメ椎骨 | 18 |  | 11 | 1.2 | 孔径２㎜ |
| 〃 | 26 | G－8 | Ⅲ | 椎骨製耳飾 | サメ椎骨 | 15 |  | 9 | 1.1 | 孔径2.5㎜ |
| 〃 | 27 | I－8 | Ⅲ | 椎骨製耳飾 | サメ椎骨 | 15 |  | 10.5 | 0.9 |  |
| 〃 | 28 | E－11 | Ⅱ | 椎骨製耳飾 | サメ椎骨 | 30 |  | 12 | 5.2 | 孔径7.5㎜ |
| 〃 | 29 | G－7 | Ⅳb | 椎骨製耳飾 | サメ椎骨 | 35 |  | 2.1 | 12.4 | 孔径5.5㎜ |
| 〃 | 30 | D－8 | Ⅲｂ | 椎骨製耳飾 | サメ椎骨 | 25 |  | 12 | 3.7 | 孔径２㎜ |
| 〃 | 31 | I－8 | Ⅲ | 椎骨製耳飾 | 魚椎骨 | 13 |  | 13 | 1.0 |  |
| 〃 | 32 | D－8 | 1号土壙 | 椎骨製耳飾 | 魚椎骨 | 17 |  | 12 | 11.0 |  |
| 163 | 33 | F－7 | Ⅲ | サメ歯製垂飾 | アオザメ歯 | 31 | 22 | 7 | 2.1 | 孔径1.5㎜ |
| 〃 | 34 | E－7 | 不明 | サメ歯製垂飾 | ホオジロザメ歯 | 24 | 17 | 4 | 0.8 |  |
| 〃 | 35 | H－8 | Ⅲ | サメ歯製垂飾 | ホオジロザメ歯 | 18 | 14 | 3 | 0.6 | 孔径２㎜ |
| 〃 | 36 | G－8 | Ⅳ | サメ歯製垂飾 | ホオジロザメ歯 | 21 | 23 | 5 | 1.1 | 孔径２㎜ |
| 〃 | 37 | E－8 | Ⅲ | サメ歯製垂飾 | メジロザメ歯 | 20 | 18 | 6 | 1.1 | 復元幅28㎜ |
| 〃 | 38 | G－9 | Ⅳ | サメ歯製垂飾 | ホオジロザメ歯 | 14.5 | 19 | 3.5 | 0.7 | 孔径1.5㎜ |
| 〃 | 39 | G－7 | Ⅲ | サメ歯製垂飾 | メジロザメ歯 | 16 | 22 | 4 | 1.1 |  |
| 〃 | 40 | F－7 | 2号土壙 | 鰓骨製垂飾 | スズキ主鰓蓋骨 | 41 | 32 | 6 | 3.2 | 孔径1.5㎜ |
| 〃 | 41 | I－8 | Ⅲ | 鰓骨製垂飾 | スズキ主鰓蓋骨 | 45.5 | 42.5 | 10 | 4.2 | 孔径３㎜ |
| 〃 | 42 | F－9 | Ⅱ | 鰓骨製垂飾 | スズキ主鰓蓋骨 | 20 | 26 | 6 | 1.1 | 孔径2.5㎜ |
| 〃 | 43 | C－9 | Ⅲ | 鰓骨製垂飾 | スズキ主鰓蓋骨 | 66 | 48 | 7 | 6.9 | 孔径３㎜ |
| 〃 | 44 | E－9 | Ⅲ | 鰓骨製垂飾 | スズキ主鰓蓋骨 | 17 | 18 | 6 | 0.7 | 孔径1.5㎜ |
| 〃 | 45 | F－6 | 不明 | 鰓骨製垂飾 | スズキ主鰓蓋骨 | 43 | 45 | 11 | 7.1 |  |
| 164 | 46 | E－7 | Ⅳ | 鰓骨製垂飾 | スズキ主鰓蓋骨 | 63 | 62 | 11.5 | 14.6 | 未加工の骨に穿孔のみ行う |
| 〃 | 47 | E－7 | Ⅳ | 鰓骨製垂飾 | スズキ主鰓蓋骨 | 61 | 51 | 12.5 | 10.4 | 未加工の骨に穿孔のみ行う |
| 〃 | 48 | E－10 | Ⅲ | 鰓骨製垂飾 | スズキ主鰓蓋骨 | 22 | 33.5 | 7.5 | 1.5 | 孔径3.5㎜ |
| 〃 | 49 | F－12 | Ⅴ | 鰓骨製垂飾 | スズキ主鰓蓋骨 | 39 | 35 | 8 | 2.5 | 孔径2.5㎜ |
| 〃 | 50 | E－9 | Ⅳ | 魚骨製刺突具 | エイ類尾棘 | 57 | 8 | 5 | 1.7 |  |
| 〃 | 51 | E－9 | Ⅲ | 魚骨製刺突具 | 魚の棘か | 39 | 10 | 5 | 1.3 |  |
| 〃 | 52 | H－9 | Ⅲａ | 魚骨製簪か | 魚の棘か | 31 | 6 | 2.5 | 0.5 |  |
| 〃 | 53 | D－8 | Ⅲｂ | 刺突痕のある魚骨 | スズキ主鰓蓋骨 | 26 | 34 | 8 | 1.8 |  |
| 165 | 54 | B－8 | Ⅳb | 猪牙製垂飾 | 猪の右下顎犬歯♂ | 102 | 17 | 16 | 21.5 | 孔径４㎜ |
| 〃 | 55 | B－8 | Ⅳb | 猪牙製垂飾 | 猪の左下顎犬歯♂ | 106 | 17 | 16 | 23.2 | 孔径４㎜ |

## 第25表　骨角貝製品観察表（２）

| 図版番号 | 遺物番号 | 出土区 | 層位遺構 | 種　別 | 材　質 | 長さ（㎜） | 幅（㎜） | 厚さ（㎜） | 重さ（ｇ） | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 165 | 56 | E－8 | Ⅲd | 猪牙製垂飾 | 猪の右下顎犬歯♂ | 61 | 17 | 12 | 9.4 | |
| 〃 | 57 | H－6 | 不明 | 猪牙製垂飾 | 猪の左下顎犬歯♂ | 59 | 15 | 14 | 7.6 | 孔径９㎜ |
| 〃 | 58 | D－9 | Ⅲ | 猪牙製垂飾 | 猪の左下顎犬歯♂ | 56 | 12 | 11 | 4.5 | |
| 〃 | 59 | D－9 | Ⅲ | 猪牙製垂飾 | 猪の右上顎犬歯♂ | 59 | 15.5 | 20.5 | 15.1 | 未加工の牙に穿孔のみ行う |
| 166 | 60 | D－8 | Ⅲb | 猪牙製垂飾 | 猪の左下顎犬歯♀ | 52 | 11 | 8 | 3.8 | |
| 〃 | 61 | G－8 | Ⅲ | 猪牙製垂飾 | 猪の右下顎犬歯♀ | 52 | 11 | 8 | 4.5 | 孔径3.5㎜ |
| 〃 | 62 | E－10 | Ⅲa | 猪牙製垂飾 | 猪の右下顎犬歯♀ | 50 | 13 | 8.5 | 5.3 | 孔径３㎜ |
| 〃 | 63 | G－9 | 1号土壙 | 猪牙製垂飾 | 猪の左下顎犬歯♀ | 54 | 11 | 7 | 4.4 | 孔径３㎜ |
| 〃 | 64 | F－11 | Ⅳb | 猪牙製垂飾 | 猪の左下顎犬歯♀ | 49 | 11 | 7 | 4.0 | 孔径2.5㎜ |
| 〃 | 65 | F－10 | Ⅱ | 猪牙製垂飾 | 猪の右下顎犬歯♀ | 40 | 13 | 8.5 | 4.0 | 孔径４㎜ |
| 〃 | 66 | G－9 | Ⅲ | 猪牙製垂飾 | 猪の門歯 | 63 | 9 | 9 | 3.7 | |
| 〃 | 67 | H－6 | 不明 | 猪牙製垂飾 | 猪の門歯 | 47 | 11 | 8.5 | 3.2 | |
| 〃 | 68 | F－10 | 2号土壙 | 猪牙製垂飾 | 猪の右下顎犬歯♀ | 41 | 8 | 8 | 2.0 | |
| 〃 | 69 | I－8 | Ⅲ | 猪牙製垂飾 | 猪の下顎犬歯♂ | 52 | 12 | 7 | 1.8 | 孔径３㎜ |
| 167 | 70 | G－10 | 1号土壙 | 猪牙製垂飾 | 猪の下顎切歯 | 50 | 8 | 4.5 | 1.7 | 孔径３㎜ |
| 〃 | 71 | G－11 | 1号土壙 | 猪牙製垂飾 | 猪の右下顎犬歯♂ | 74.5 | 12 | 10.5 | 8.4 | 孔径2.5㎜ |
| 〃 | 72 | G－8 | Ⅱ | 猪牙製垂飾 | 猪の右下顎犬歯♂ | 83 | 12 | 9 | 6.1 | |
| 〃 | 73 | D－8 | Ⅲ | 猪牙製垂飾か | 猪の右下顎犬歯♂ | 69 | 9 | 10 | 6.6 | |
| 〃 | 74 | G－8 | Ⅲ | 猪牙製垂飾 | 猪の左下顎犬歯♂ | 10.6 | 17 | 8 | 11.0 | 孔径3.5㎜・６㎜ |
| 〃 | 75 | D－8 | Ⅲb | 猪牙製垂飾 | 猪の左下顎犬歯♀ | 47 | 7.5 | 6 | 2.0 | 孔径3.5㎜ |
| 〃 | 76 | G－9 | Ⅲ | 猪牙製垂飾 | 猪の右下顎犬歯♂ | 59 | 15 | 12 | 6.0 | 孔径６㎜ |
| 〃 | 77 | C－8 | Ⅲ | 猪牙製垂飾 | 猪の左下顎犬歯♀ | 82 | 17 | 17 | 12.9 | 孔径5.5㎜ |
| 168 | 78 | F－12 | 1号土壙 | 猪牙製垂飾 | 猪の右下顎犬歯♂ | 36 | 10 | 4 | 1.0 | 孔径２㎜ |
| 〃 | 79 | F－10 | 2号土壙 | 猪牙製垂飾 | 猪の左下顎犬歯♂ | 30 | 12 | 2.5 | 0.9 | 孔径３㎜ |
| 〃 | 80 | F－12 | 1号土壙 | 猪牙製垂飾 | 猪の左下顎犬歯♂ | 37 | 9 | 3 | 1.1 | |
| 〃 | 81 | E－8 | 不明 | 猪牙製垂飾 | 猪の右下顎犬歯♂ | 29 | 9 | 2 | 0.4 | 孔径３㎜ |
| 〃 | 82 | G－9 | Ⅲ | 猪牙製垂飾 | 猪の左下顎犬歯♂ | 39 | 11 | 10 | 2.0 | 孔径３㎜ |
| 〃 | 83 | 不明 | 不明 | 猪牙製垂飾 | 猪の右下顎犬歯♂ | 18 | 13 | 10 | 1.4 | 孔径2.5㎜ |
| 〃 | 84 | G－11 | 1号土壙 | 猪牙製垂飾 | 猪の右下顎犬歯♂ | 28 | 9 | 3 | 0.4 | |
| 〃 | 85 | G－8 | Ⅲ | 猪牙製垂飾 | 猪の右下顎犬歯♂ | 49 | 12 | 13 | 2.5 | 孔径４㎜ |
| 〃 | 86 | G－11 | 1号土壙 | 猪牙製垂飾 | 猪の右下顎犬歯♂ | 24 | 12 | 6 | 0.7 | |
| 〃 | 87 | E－10 | Ⅱ | 猪牙製垂飾 | 猪の左下顎犬歯♂ | 47 | 25 | 3 | 3.6 | |
| 〃 | 88 | F－6 | Ⅳ | 猪牙製垂飾 | 猪の左下顎犬歯♂ | 34 | 17 | 3 | 2.1 | |
| 〃 | 89 | C－9 | Ⅲ | 猪牙製垂飾 | 猪の右下顎犬歯♂ | 47 | 13 | 6 | 2.7 | 孔径2.5㎜ |
| 〃 | 90 | I－9 | 1号土壙 | 猪牙製垂飾 | 猪の右下顎犬歯♂ | 74 | 19 | 4 | 5.4 | 孔径３㎜・４㎜ |
| 〃 | 91 | D－10 | Ⅳ | 猪牙製垂飾 | 猪の下顎犬歯♂ | 26 | 15 | 2 | 0.9 | 孔径３㎜・５㎜ |
| 169 | 92 | I－8 | 2号土壙 | 猪牙製ヘラ | 猪の左下顎犬歯♂ | 100 | 25 | 7 | 11.1 | |
| 〃 | 93 | H－9 | Ⅲ | 猪牙製ヘラ | 猪の左下顎犬歯♂ | 64 | 9 | 4 | 5.3 | |
| 〃 | 94 | B－8 | Ⅳb | 猪牙製ヘラ | 猪の左下顎犬歯♂ | 181 | 17 | 17 | 15.1 | |
| 〃 | 95 | D－9 | Ⅳ | 猪牙製ヘラ | 猪の左下顎犬歯♂ | 75 | 18 | 8 | 8.1 | |
| 〃 | 96 | F－10 | Ⅱ | 猪牙製品 | 猪の門歯 | 66 | 10 | 8 | 5.1 | 未成品か |
| 170 | 97 | F－12 | Ⅱ | 鹿角製簪 | 鹿角(角座骨～角) | 113 | 27 | 12 | 18.6 | 孔径４㎜・2.5㎜・２㎜ |
| 〃 | 98 | F－8 | 3号土壙 | 鹿角製簪 | 鹿角 | 106 | 16 | 17 | 23.0 | 孔径６㎜ |
| 〃 | 99 | I－9 | Ⅲ | 鹿角製簪 | 鹿角(角座骨～角) | 54 | 31 | 20 | 12.9 | 孔径8.5㎜ |
| 〃 | 100 | I－8 | Ⅳ | 鹿角製簪 | 鹿角 | 108 | 14 | 13 | 11.8 | 復元長111㎜ |
| 〃 | 101 | E－8 | Ⅳ | 鹿角製簪 | 鹿角 | 41 | 16 | 6 | 3.1 | 孔径２㎜ |
| 〃 | 102 | H－8 | 1号土壙 | 鹿角製簪 | 鹿角(角座骨～角) | 48 | 23 | 18 | 10.3 | 孔径１㎜・２㎜・3.5㎜ |
| 〃 | 103 | D－8 | Ⅲb | 鹿角製簪 | 鹿角か | 50 | 11 | 4 | 1.8 | 孔径２㎜ |
| 171 | 104 | G－11 | 1号土壙 | 鹿角製簪 | 鹿角(角座骨～角) | 118 | 16 | 18 | 19.0 | 孔径４㎜・幼獣の鹿角 |
| 〃 | 105 | E－9 | Ⅱ～Ⅲa | 鹿角製簪 | 鹿角 | 81 | 14 | 4 | 3.4 | 孔径３㎜ |
| 〃 | 106 | F－8 | Ⅳ | 鹿角製簪 | 鹿角 | 67 | 11 | 7 | 5.5 | 孔径４㎜ |
| 〃 | 107 | C－9 | 1号土壙 | 鹿角製垂飾 | 鹿角(角座骨～角) | 99 | 22 | 18 | 15.1 | 孔径４㎜ |
| 〃 | 108 | I－7 | Ⅳ | 鹿角製垂飾 | 鹿角(角座骨～角) | 60 | 25 | 18 | 29.0 | 孔径６㎜ |
| 〃 | 109 | G－7 | 1号土壙 | 鹿角製垂飾 | 鹿角 | 66 | 16.5 | 9.5 | 9.3 | |
| 〃 | 110 | G－7 | 不明 | 鹿角製垂飾 | 鹿 | 43 | 18 | 13 | 6.8 | 孔径５㎜ |

## 第26表　骨角貝製品観察表（３）

| 図版番号 | 遺物番号 | 出土区 | 層位遺構 | 種　別 | 材　質 | 長さ（mm） | 幅（mm） | 厚さ（mm） | 重さ（g） | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 172 | 111 | H－6 | 不明 | 鹿角製垂飾 | 鹿角 | 44 | 15 | 14 | 5.6 | 孔径４㎜ |
| 〃 | 112 | H－9 | Ⅴ | 鹿角製垂飾 | 鹿角(角座骨～角) | 70 | 14.5 | 13.5 | 10.8 | 孔径３㎜ |
| 〃 | 113 | H－8 | Ⅲ | 鹿角製垂飾 | 鹿角 | 64 | 17 | 8 | 5.5 | 孔径３㎜ |
| 〃 | 114 | D－9 | Ⅲ | 鹿角製品 | 鹿角 | 116 | 13 | 8.5 | 9.6 | 釣針か |
| 〃 | 115 | D－7 | Ⅳ | 鹿骨製工具 | 鹿角 | 119 | 25 | 17 | 31.7 | |
| 〃 | 116 | E－10 | Ⅱ | 鹿角製工具 | 鹿角 | 68 | 17 | 13 | 10.0 | |
| 173 | 117 | E－9 | 1号土壙 | 鹿角製工具 | 鹿角 | 96 | 23 | 18 | 25.7 | |
| 〃 | 118 | Ⅰ－9 | 1号土壙 | 鹿角製工具 | 鹿角 | 97 | 16 | 15.5 | 24.4 | |
| 〃 | 119 | E－8 | Ⅳ | 鹿角製工具 | 鹿角 | 92 | 19 | 21 | 28.6 | |
| 〃 | 120 | D－7 | Ⅳ | 鹿角製工具 | 鹿角 | 92 | 20 | 17 | 21.7 | |
| 〃 | 121 | F－11 | Ⅲa | 鹿角製工具 | 鹿角 | 130 | 25 | 18 | 25.6 | |
| 174 | 122 | E－8 | Ⅱ | 鹿角製工具 | 鹿角 | 99 | 74 | 19 | 39.7 | |
| 〃 | 123 | D－9 | Ⅳ | 鹿角製工具 | 鹿角 | 140 | 63 | 23 | 66.1 | |
| 175 | 124 | 不明 | Ⅰ | 鹿角素材 | 鹿角 | 100 | 22 | 18 | 23.5 | |
| 〃 | 125 | H－9 | Ⅲ | 鹿角素材 | 鹿角 | 125 | 23 | 19 | 26.9 | |
| 〃 | 126 | G－9 | Ⅲa | 鹿角素材 | 鹿角 | 147 | 17 | 18 | 22.9 | |
| 176 | 127 | F－7 | 2号土壙 | 骨製簪 | 鹿の中足骨か | 139 | 15 | 5 | 11.8 | 孔径４㎜ |
| 〃 | 128 | Ⅰ－9 | 1号土壙 | 骨製簪 | 鹿の中手又は中足骨 | 93 | 9 | 3 | 4.8 | |
| 〃 | 129 | Ⅰ－7 | Ⅳ | 骨製簪 | 動物骨か | 71 | 15 | 3.5 | 3.8 | 孔径３㎜ |
| 〃 | 130 | D－8 | 不明 | 骨製簪 | 鹿の中手骨(中足骨) | 20 | 16 | 8 | 1.3 | 孔径５㎜ |
| 〃 | 131 | F－9 | Ⅲa | 骨製簪 | 鹿中手骨か | 68 | 15 | 7 | 3.6 | 孔径４㎜ |
| 〃 | 132 | Ⅰ－9 | 1号土壙 | 骨製簪 | 動物骨 | 36 | 9 | 4 | 1.9 | 133と同一個体か |
| 〃 | 133 | G－11 | 1号土壙 | 骨製簪 | 動物骨 | 26 | 11 | 3 | 1.8 | 132と同一個体か |
| 〃 | 134 | D－8 | 不明 | 骨製簪 | 動物骨 | 23 | 12 | 5 | 1.4 | |
| 〃 | 135 | Ⅰ－7 | Ⅳ | 骨製簪 | 動物の四肢骨 | 33 | 12 | 4 | 2.3 | |
| 〃 | 136 | F－12 | Ⅱ | 骨製簪 | 動物の四肢骨 | 99 | 12 | 4 | 3.7 | |
| 〃 | 137 | H－5 | Ⅳ | 骨製簪 | 動物骨 | 93 | 11 | 4.5 | 5.3 | |
| 177 | 138 | E－8 | Ⅲb | 骨製簪 | 動物の四肢骨 | 44 | 9 | 5 | 2.3 | |
| 〃 | 139 | H－9 | Ⅲ | 骨製垂飾 | 鹿(猪)脛骨近位端 | 59 | 24 | 12 | 7.8 | 孔径7.5㎜ |
| 〃 | 140 | F－6 | Ⅳ | 骨製垂飾 | 動物の四肢骨か | 49 | 15 | 4 | 2.2 | 孔径2.5㎜ |
| 〃 | 141 | 不明 | 不明 | 骨製垂飾 | 動物骨か | 19 | 14 | 4 | 0.7 | 孔径8.5㎜ |
| 〃 | 142 | G－8 | Ⅲ | 骨製垂飾 | 動物骨か | 17.5 | 23.5 | 7 | 1.3 | 孔径3.5㎜ |
| 〃 | 143 | G－11 | 1号土壙 | 管状骨製品 | 動物の四肢骨 | 79 | 14 | 10 | 8.7 | 針入か |
| 〃 | 144 | Ⅰ－8 | Ⅲ | 骨製刺突具 | 鹿中手(中足)骨 | 91 | 12 | 5 | 5.3 | |
| 〃 | 145 | Ⅰ－9 | Ⅲ | 骨製刺突具 | 動物の四肢骨 | 37.5 | 14.5 | 4 | 1.4 | |
| 〃 | 146 | E－10 | Ⅲ | 骨製刺突具 | 動物の四肢骨 | 41 | 6 | 6 | 1.2 | |
| 〃 | 147 | Ⅰ－8 | Ⅲ | 骨製刺突具 | 動物の四肢骨 | 45 | 6 | 4 | 1.2 | |
| 〃 | 148 | H－7 | Ⅳ | 骨製刺突具 | 動物の四肢骨 | 57 | 5 | 4.5 | 1.6 | |
| 〃 | 149 | H－9 | Ⅱ | 骨製刺突具 | 鹿中手(中足)骨 | 94 | 6 | 5 | 2.9 | |
| 〃 | 150 | 不明 | 不明 | 骨製刺突具 | 動物の四肢骨 | 68 | 7 | 6 | 3.3 | |
| 〃 | 151 | H－8 | Ⅲ | 骨製刺突具 | 動物の四肢骨 | 44 | 8 | 5 | 2.1 | |
| 〃 | 152 | H－8 | Ⅲ | 骨製刺突具 | 動物の四肢骨 | 48 | 8 | 5 | 1.6 | |
| 178 | 153 | Ⅰ－8 | Ⅲ | 骨製刺突具 | 動物骨 | 52 | 5 | 4.5 | 1.4 | |
| 〃 | 154 | Ⅰ－8 | Ⅲ | 骨製刺突具 | 動物の四肢骨 | 39 | 5 | 4.5 | 1.0 | |
| 〃 | 155 | Ⅰ－8 | Ⅲ | 骨製刺突具 | 動物の四肢骨 | 25 | 4 | 3 | 0.4 | |
| 〃 | 156 | F－9 | Ⅲ | 骨製刺突具 | 動物の四肢骨 | 53 | 7.5 | 4 | 1.7 | |
| 〃 | 157 | Ⅰ－8 | Ⅲ | 骨製刺突具 | 動物骨 | 17 | 6 | 3 | 0.3 | |
| 〃 | 158 | Ⅰ－8 | Ⅲ | 骨製刺突具 | 動物の四肢骨 | 28 | 7 | 4 | 0.9 | |
| 〃 | 159 | 不明 | 不明 | 骨製刺突具 | 動物の四肢骨 | 41 | 6 | 5 | 1.3 | |
| 〃 | 160 | Ⅰ－8 | Ⅲ | 骨製刺突具 | 動物の四肢骨 | 20 | 6 | 3 | 0.4 | |
| 〃 | 161 | Ⅰ－8 | Ⅲ | 骨製刺突具 | 動物の四肢骨 | 26 | 7 | 4 | 0.7 | |
| 〃 | 162 | Ⅰ－9 | Ⅲ | 骨製刺突具 | 動物の四肢骨 | 46 | 8 | 5 | 18.0 | |
| 〃 | 163 | H－7 | Ⅳ | 骨製刺突具 | 動物の四肢骨 | 36 | 8 | 6 | 1.5 | |
| 〃 | 164 | G－11 | 1号土壙 | 骨製刺突具 | 動物骨 | 85 | 9 | 4 | 3.3 | |
| 〃 | 165 | E－9 | Ⅳ | 骨製刺突具 | 動物の四肢骨 | 99 | 11 | 4.5 | 4.6 | |

## 第27表　骨角貝製品観察表（4）

| 図版番号 | 遺物番号 | 出土区 | 層位遺構 | 種　別 | 材　質 | 長さ（mm） | 幅（mm） | 厚さ（mm） | 重さ（g） | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 178 | 166 | E－8 | 2号土壙 | 骨製刺突具 | 動物の四肢骨 | 110 | 9 | 6 | 6.6 | |
| 〃 | 167 | I－8 | Ⅲ | 骨製刺突具 | 動物の四肢骨 | 94 | 10 | 12 | 5.5 | |
| 179 | 168 | H－8 | Ⅲb | 骨製刺突具 | 動物の四肢骨 | 94 | 8 | 8 | 5.3 | |
| 〃 | 169 | F－8 | Ⅳ | 骨製刺突具 | 動物の四肢骨 | 87 | 8 | 7 | 6.2 | |
| 〃 | 170 | G－8 | Ⅳ | 骨製刺突具 | 動物の四肢骨 | 47 | 10 | 4 | 2.1 | |
| 〃 | 171 | E－7 | 不明 | 骨製刺突具 | 動物の四肢骨か | 48 | 9 | 4 | 1.6 | |
| 〃 | 172 | I－8 | Ⅲ | 骨製刺突具 | 動物の四肢骨 | 70 | 7 | 6 | 2.6 | |
| 〃 | 173 | F－9 | Ⅲa | 骨製刺突具 | 動物の四肢骨 | 60 | 10 | 5 | 2.8 | |
| 〃 | 174 | E－10 | 2号土壙 | 骨製刺突具 | 動物の四肢骨 | 55 | 11 | 4 | 2.6 | |
| 〃 | 175 | H－5 | 不明 | 骨製刺突具 | 動物の四肢骨 | 69 | 10 | 4.5 | 3.3 | |
| 〃 | 176 | I－8 | Ⅲ | 骨製刺突具 | 動物の四肢骨 | 37 | 9 | 6 | 2.4 | |
| 〃 | 177 | G－10 | 1号土壙 | 骨製刺突具 | 動物の四肢骨 | 29 | 9 | 3 | 0.8 | |
| 〃 | 178 | F－8 | Ⅳ | 骨製刺突具 | 動物の四肢骨 | 46 | 8 | 6 | 2.0 | |
| 180 | 179 | G－8 | Ⅲ | 骨製刺突具 | 動物の四肢骨 | 96 | 12 | 7 | 6.1 | |
| 〃 | 180 | H－10 | Ⅲ | 骨製刺突具 | 動物の四肢骨 | 82 | 12 | 4.5 | 5.5 | |
| 〃 | 181 | I－8 | Ⅲ | 骨製刺突具 | 動物の四肢骨 | 66 | 10 | 6 | 4.3 | |
| 〃 | 182 | G－8 | Ⅲ | 骨製刺突具 | 動物の四肢骨 | 67 | 13 | 5 | 3.9 | |
| 〃 | 183 | E－9 | Ⅲ | 骨製刺突具 | 動物の四肢骨 | 52 | 14 | 5 | 3.2 | |
| 〃 | 184 | E－8 | Ⅳ | 骨製刺突具 | 動物の四肢骨 | 66 | 15 | 5 | 4.1 | |
| 〃 | 185 | F－7 | 1号土壙 | 骨製刺突具 | 動物の四肢骨 | 103 | 13 | 11 | 9.8 | |
| 〃 | 186 | F－10 | Ⅱ | 骨製刺突具 | 動物の四肢骨 | 98 | 22 | 6 | 13.9 | |
| 181 | 187 | E－10 | Ⅳ | 骨製ヘラ | 動物骨 | 126 | 16 | 5 | 12.0 | |
| 〃 | 188 | H－10 | 2号土壙 | 骨製ヘラ | 動物の四肢骨 | 114 | 15 | 6 | 9.7 | |
| 〃 | 189 | G－10 | Ⅲ | 骨製ヘラ | 動物の四肢骨 | 77 | 16 | 4 | 4.0 | |
| 〃 | 190 | H－9 | 1号土壙 | 骨製ヘラ | 動物の四肢骨 | 80 | 15 | 5 | 8.1 | |
| 〃 | 191 | I－8 | Ⅲ | 骨製ヘラ | 動物の四肢骨 | 81 | 10 | 5 | 4.2 | |
| 〃 | 192 | E－9 | Ⅳ | 骨製ヘラ | 動物の四肢骨 | 118 | 16 | 4 | 7.8 | |
| 〃 | 193 | E－12 | 1号土壙 | 骨製ヘラ | 動物の四肢骨 | 51 | 15.5 | 5.5 | 5.6 | |
| 〃 | 194 | G－9 | 1号土壙 | 骨製ヘラ | 動物骨 | 78 | 15 | 2 | 3.5 | |
| 〃 | 195 | E－8 | Ⅳ | 骨製ヘラ | 動物骨 | 32 | 12 | 2 | 1.1 | |
| 182 | 196 | F－12 | Ⅱ | 骨製ヘラ | 動物の四肢骨 | 63 | 14 | 4.5 | 4.0 | |
| 〃 | 197 | D－9 | Ⅲ | 骨製ヘラ | 動物の四肢骨 | 71 | 12 | 4 | 4.0 | |
| 〃 | 198 | G－9 | Ⅱ | 骨製ヘラ | 動物の四肢骨 | 38 | 10 | 3 | 1.5 | |
| 〃 | 199 | G－9 | Ⅲa | 骨製ヘラ | 動物の四肢骨 | 26 | 14 | 3 | 13.0 | |
| 〃 | 200 | D－11 | 1号土壙 | 骨製ヘラ | 動物の四肢骨 | 43 | 8 | 3.5 | 1.5 | |
| 〃 | 201 | F－12 | Ⅱ | 骨製ヘラ | 動物の四肢骨 | 71.5 | 13 | 3.5 | 3.4 | |
| 〃 | 202 | E－11 | Ⅱ | 骨製ヘラ | 動物の四肢骨 | 55 | 10 | 3.5 | 2.5 | |
| 〃 | 203 | E－10 | 2号土壙 | 骨製ヘラ | 動物の四肢骨 | 72 | 17 | 12 | 4.2 | |
| 〃 | 204 | H－9 | 1号土壙 | 骨製ヘラ | 動物の四肢骨 | 56 | 13 | 4 | 4.0 | |
| 〃 | 205 | E－11 | 1号土壙 | 骨製ヘラ | 動物の四肢骨 | 86 | 12 | 3 | 3.5 | |
| 〃 | 206 | F－12 | Ⅳ | 骨製ヘラ | 鹿中足骨か | 87 | 10 | 4.5 | 4.1 | |
| 183 | 207 | H－9 | Ⅲ | 骨製ヘラ | 鹿中足骨か | 116 | 15 | 6 | 7.6 | |
| 〃 | 208 | F－10 | 2号土壙 | 骨製ヘラ | 動物の四肢骨 | 131 | 17.5 | 9.5 | 10.6 | |
| 〃 | 209 | D－8 | 1号土壙 | 骨製ヘラ | 動物の四肢骨 | 118 | 16 | 5 | 4.4 | |
| 〃 | 210 | 不明 | I | 骨製ヘラ | 動物の四肢骨 | 69 | 15 | 6 | 5.0 | 簪か |
| 〃 | 211 | F－2 | Ⅱ | 骨製ヘラ | 動物の四肢骨 | 82 | 23 | 10 | 7.8 | |
| 〃 | 212 | H－9 | Ⅲ | 骨製工具 | 動物の四肢骨 | 94 | 17 | 8 | 10.8 | |
| 〃 | 213 | E－8 | 不明 | 骨製品 | 鳥骨 | 23 | 4 | 3 | 2.0 | 釣針か |
| 〃 | 214 | D－10 | Ⅳb | 不明 | 動物骨 | 20 | 6 | 3 | 0.3 | |
| 〃 | 215 | F－11 | Ⅲ | その他の骨製品 | 動物骨 | 36 | 8 | 5.5 | 1.6 | |
| 184 | 216 | D－11 | Ⅱ | 解体痕のある骨 | 動物の四肢骨 | 72 | 41 | 13 | 33.8 | 海獣類の右脛骨か |
| 〃 | 217 | G－11 | 1号土壙 | 解体痕のある骨 | 猪の右上腕骨 | 87 | 43 | 47 | 43.6 | |
| 〃 | 218 | F－7 | 2号土壙 | 解体痕のある骨 | 鹿の左脛骨 | 164 | 39 | 7 | 105.5 | |

## ３．まとめ

骨角貝製品211点の出土状況（第28表）をみると、層位観的にはⅢ層から89点、Ⅳ層から37点が出土しており、これらが縄文時代中期中葉～後期初頭の時期のものであることを示している。さらに各種の製品がほぼ中期（阿高式土器の時期）に限定される土壙から41点出土していることを考慮すれば、多くは中期の遺物である可能性が高い。そうでなくても極めて限定された時期の遺物であり、当時の生活復元の重要な資料である。

ここでは先の分類とは視点を変えて、より具体的な骨角貝製品の用途に主眼を置いて、装身具と利器に大別し、その中を使用部位や対象物等の違いにより細分し、まとめとしたい。

**（１）骨角貝製装身具**（第185図）

**①面**

他の装身具とは性格が異なるが貝面が１点出土しており、身につけるものとしてここで述べる。それはイタボガキ製の貝面で、呪術的な儀式に用いられたと考えられる。貝面は近くの阿高貝塚のほか遠く海峡を隔てた韓国の東山洞貝塚からも出土しており、海を越えた交流を物語るものとして重要である。また本州地域の土製の面を使った儀式とも関連あるとみなければならない。

**②髪飾**

鹿角製，骨製，魚骨製の大小の簪が23点出土している。そのうち鹿角製簪は10点出土しており、大型品が多く、基部に穿孔・彫刻等が行われている。その他、全体に細かい列点文を施した小型の秀品もある。

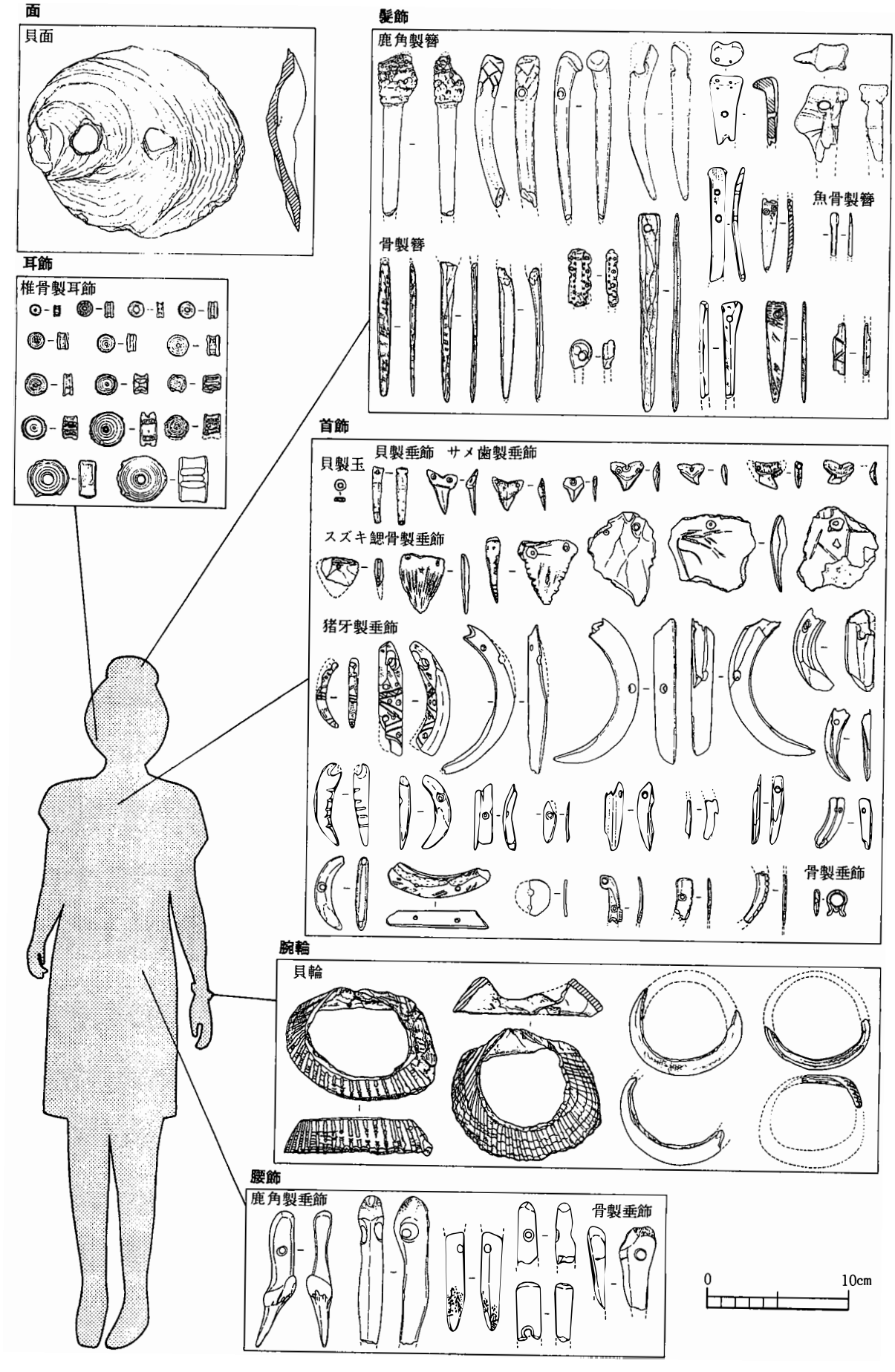
獣の四肢骨等で作られた骨製簪は12点出土しており、主に鹿の四肢骨を用いているものと考えられ、基部に一孔を有する単調なものが多い。しかし数点細かい穿孔や彫刻を加えて飾ったものもみられる。

鹿角製，骨製とも全体に非常に艶があり、特に先端部は使用によりなめらかになっている。

魚骨製簪と考えられるものが１点出土している。小型であるが、基部を待針の頭のように作っており、簪と判断した。

**第28表　骨角貝製品の層位別出土点類一覧**

| 分類／層 | 貝製品 | | | | 魚骨製品 | | | | | 猪牙製品 | | | 鹿角製品 | | | | 獣骨製品 | | | | | | | 出土点数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 貝輪 | 玉 | 垂飾 | 貝面 | 耳飾（椎骨） | 垂飾（サメ歯） | 垂飾（鯉骨） | 刺突具 | 簪 | 垂飾 | ヘラ | その他 | 簪 | 垂飾 | 工具 | その他 | 簪 | 垂飾 | 管状品 | 刺突具 | ヘラ | 工具 | その他 | |
| Ⅰ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| Ⅱ | | | | | 2 | | 1 | | | 3 | | 1 | 1 | | 2 | | 1 | | | 2 | 5 | | | 18 |
| Ⅲ | 4 | | | | 16 | 4 | 4 | 1 | 1 | 16 | 1 | | 3 | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | | 25 | 5 | 1 | 1 | 89 |
| Ⅳ | | | | | 1 | 2 | 2 | 1 | | 5 | 2 | | 3 | 1 | 4 | | 3 | 1 | | 7 | 4 | | 1 | 37 |
| Ⅴ | | | | | | | 1 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | 2 |
| 土壙 | | | | | 3 | | 1 | | | 10 | | | 3 | 2 | 2 | | 4 | | 1 | 5 | 10 | | | 41 |
| 不明 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | | 4 | 1 | | | 2 | | | 2 | 1 | | 4 | | | 1 | 23 |
| 小計 | 6 | 1 | 1 | 1 | 23 | 7 | 10 | 2 | 1 | 38 | 4 | 1 | 10 | 7 | 9 | 1 | 12 | 4 | 1 | 43 | 25 | 1 | 3 | |
| 合計<br>割合 | 9<br>（4.2%） | | | | 43<br>（20.4%） | | | | | 43<br>（20.4%） | | | 27<br>（12.8%） | | | | 89<br>（42.2%） | | | | | | | 211 |




**第185図　骨角貝製装身具と装着位置図**

**③耳飾**

椎骨製の耳飾が23点出土している。多くはサメの椎骨で作られているが、その他の魚の椎骨で作られたものも２点出土している。穿孔をもつものが多いが、穿孔のないものもある。径８㎜の小型のものから径3.5㎜の大型のものまであり、耳の孔の拡張と伴に次第に大型品に交換していったようすが窺われる。

**④首飾**

貝製，魚骨製，猪牙製，骨製の玉と垂飾のうち60点を首飾と判断した。

貝製品は、小型のイモガイを輪切りにした玉１点と、ツノガイ製の垂飾１点の２点の出土であるが、本来は糸状のもので多数連ねて使用していたものと推測される。

魚骨製の首飾は、サメ歯製の垂飾とスズキの主鰓蓋骨製の垂飾があり、17点が出土している。サメ歯製垂飾は７点出土しており、いずれも歯根部を上にしてそこに垂下させるための孔を１～２個あけたもので、歯のもつエナメル質の光沢が美しい。スズキ主鰓蓋骨製垂飾は10点出土しており、サメ歯製垂飾と同様に垂下させるための孔を１～２個あけている。しかも注目されるのは、その中の数点がサメ歯製垂飾に似せるために、上端中央に凹みを入れたり、両側辺に細かい刻み目を入れていることである。光沢などではサメ歯製には及ばないが、サメ歯製という材質のもつ呪力にあやかろうと代用品として使用した可能性がある。

猪牙製の垂飾は38点出土している。材質は犬歯を用いたものが多いが、門歯を用いたもの２点、切歯を用いたもの１点がある。犬歯は上顎犬歯が１点あるが、他は下顎犬歯で、雌雄いずれの例もあるが、オスの犬歯が光沢があり、また大型であることから、より多く使用されている。形態としては、材質をほぼそのままの状態で１ヵ所に穿孔したもののほか、材質の形態を生かしつつも全体に研磨を加え彫刻を施したものもみられる。特に全体に細かい沈線と列点文を配置した秀品もある。その他、オスの下顎犬歯を打ち割って周辺部を研磨した例、あるいはさらにそれに彫刻した例もみられる。

骨製垂飾のうちやや大型の１点を除く３点を首飾に分類する。うち２点は骨の材質を生かして一孔を穿って垂下させるようにしたものであるが、他の１点は製作者が創造した形態で、双脚輪状形と呼ぶのがふさわしい形態をしており、小型品ながら芸術的である。

ここでは、首飾と判断した製品をまとめたが、この中には耳飾の孔から垂下させる製品が含まれていたり、大型の猪牙製垂飾などは腰飾に用いられた可能性も考えられる。これらの確認のためには、埋葬人骨の装着事例の積み重ねや、当時の人々の装身具に対する精神的な意味及び美的感覚の解明などからさらに突き進めなければならない課題である。

**⑤腕輪**

腕輪として用いられたものとして貝輪がある。未製品，破損品を含めて６個体が出土している。タマキガイ科とフネガイ科の二枚貝が半分ずつ用いられており、材料は近くで採取されたものである。破損品４点は長期間使用され、使用中に破損したものと考えられる。

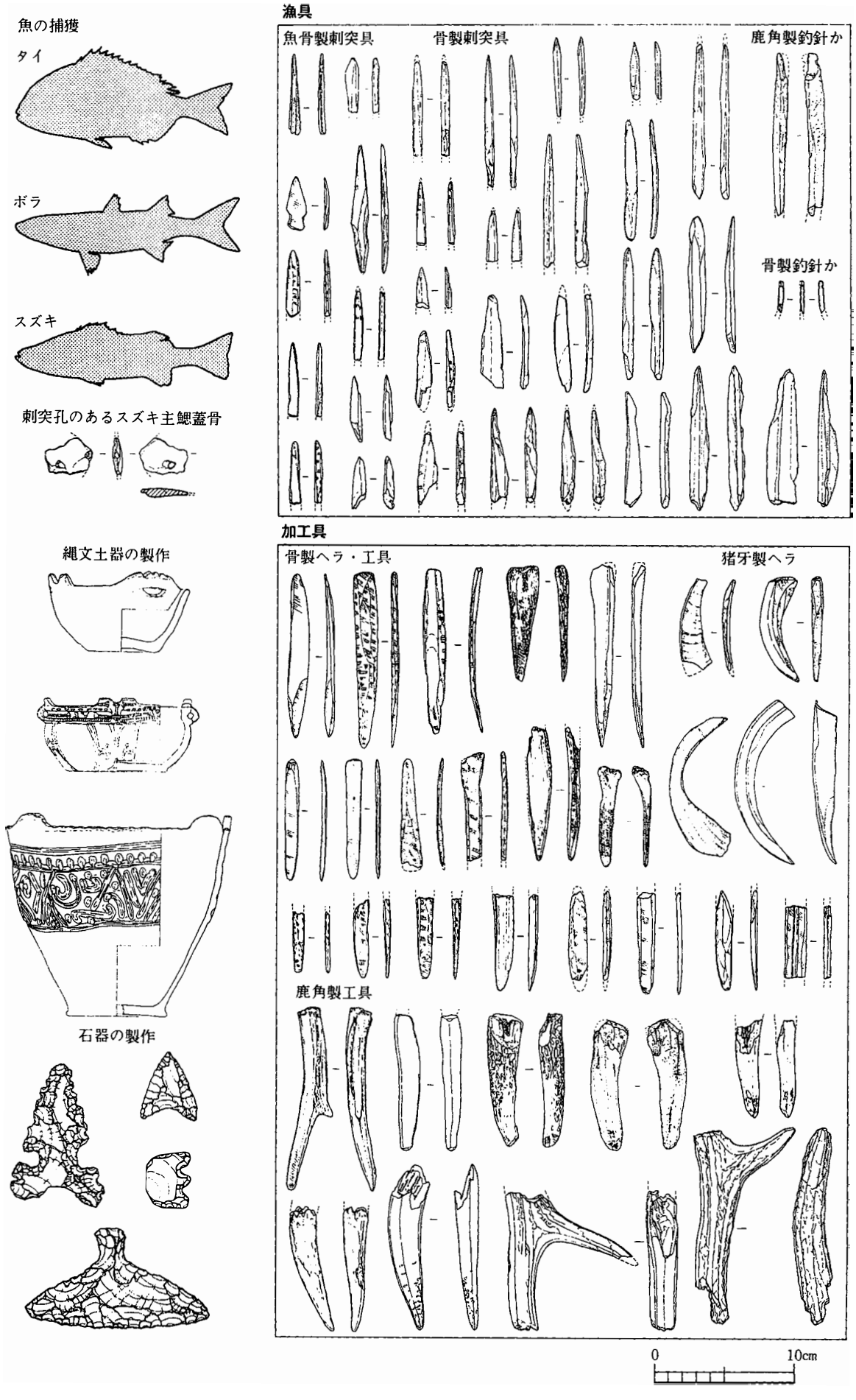
**⑥腰飾**

鹿角製垂飾７点全てと、骨製垂飾のうちやや大型の１点を腰飾と分類した。

鹿角製垂飾は鹿角製簪と類似しており区別が難しいものもあるが、簪は基部に対して体部から先端部にかけてが細長いのに対して、垂飾は体部も太い傾向があり、そこで判断した。また簪に比べて装飾性に乏しく穿孔も大きい。

骨性垂飾は、鹿または猪の脛骨を研磨し、大きな孔をあけたもので、首飾の可能性もあるがやや大型であるので腰飾に含めておく。

ここで腰飾としたものは大型で重量感のあるものが多い。また殆どが鹿角製であることも重要であり、鹿角製品を腰に飾ることに呪術的な意味があるのではなかろうか。




第186図　骨角製利器とその対象物図

**（２）骨角製利器**（第186図）

漁具と加工（製作）具に分類できる。

**①漁具**

骨角製の漁具は、刺突具45点と釣針かと思われるもの２点がある。

刺突具は魚骨を用いた２点の他は獣骨製である。魚骨製刺突具２点は棘を研磨し尖らせたものであるが、うち１点はエイ類の尾棘を使用し、両側についている鋸歯状の突起を生かして先端を尖らせたもので、殺傷性の強い物である。

骨製刺突具は43点出土しており、研磨により偏平な鏃形に整形したかかりをもつもの，太い針状に細長く研磨したもの，偏平でやや細長く研磨したもの，打ち割った骨の先端のみを研磨により尖らせたもの，打ち割った骨の先端を細かく打ち欠いで尖らせたものなど種々の形態がみられる。捕獲に適した形態の刺突具をその対象となる魚によって使い分けたものと考えられる。

黒橋貝塚からは、タイ，ボラ，スズキなどの魚骨が出土している。その中に刺突具が斜め前方から刺さったとみられるスズキの主鰓蓋骨があり、刺突具の使用を具体的に示す資料として注目される。

釣針かと考えられるものは鹿角製と骨製がそれぞれ１点ずつある。大きさは異なるが、いずれも上方に紐縛り用の溝が刻まれている。素材の形態から結合釣針の軸部かとみられる。大きさの違いは対象となる魚類の違いとみられる。

**②加工（製作）具**

加工（製作）具とした骨角製品には、骨製ヘラ，骨製工具，猪牙製ヘラ，鹿角製工具が含まれ、39点が出土している。

骨製ヘラは25点出土している。いずれも偏平に加工し、先端も偏平ながら研磨により鋭利な刃部を作りだしている。骨の性質から割合柔らかいものを対象として切ったり削ったりした道具と考えられる。大小，幅が広いもの狭いもの，直線的なもの，反ったもの，ねじれたものなど種々の形態があり、両端とも刃部を設けたものもある。対象物や使用部位により使い分けたものと考えられる。

骨製工具としたものは１点出土している。ヘラと異なり厚みのあるもので、先端部に向かって尖りぎみであるが、先端部は丸く鋭利ではない。この先端の丸い部分を使用する道具である。

猪牙製ヘラは４点出土している。２点はバチ状に開いた歯根部側に偏平な刃部を設けたもので、他の２点は牙の先端側に尖った刃部を設けたもので、機能が異なるものとみられる。

鹿角製工具は９点が出土している。いずれも鹿角の先端部を使用するもので、全体に整形したものもあるが、先端部だけに研磨を入れたものや、そのまま使用したものが多い。

以上、加工（製作）具としたものは、形態からヘラと工具に分けたが、ヘラは土器製作においてケズリ，研磨，施文などに使用されたものと考えられる。また工具とした先端の丸いものは、土器製作時の凹線等の施文や、打製石器製作時のパンチなどに使用されたものと考えられる。なお、黒橋貝塚からは土器製作台として使用されたとみられる鯨の椎骨も数点出土しているが、ここでは図化しなかった。

また、本書で紹介した資料の他に二枚貝の腹縁部に刃部を設けた貝刃や、二枚貝に孔をあけた貝錘なども出土している可能性もあるが、能力的に注意を払う余裕がなかった。これらは今後の整理・研究に委ねる。

（高木正文）

# 第Ⅳ章　黒橋貝塚の自然科学分析

## 第１節　黒橋貝塚出土の貝類遺骸

## 第２節　黒橋貝塚出土の哺乳類遺体

## 第３節　黒橋貝塚出土の魚類遺体

## 第４節　黒橋貝塚出土の植物遺体

# 第１節　黒橋貝塚出土の貝類遺骸

九州ルーテル学院大学教授
菊池　泰二

黒橋貝塚は熊本県下益城郡城南町の緑川支流のひとつ浜戸川の河川敷上に発見された遺跡で、南西0.2㎞の距離に阿高貝塚、南東0.3㎞には御領貝塚がある。平成元年から平成３年までの調査で調べたのは東西40ｍ×南北30ｍ、貝層の保存状態が良い層は浜戸川の中央部分約360㎡に限られていた。調査地区全域に貝層の傾斜方向などを考慮して４×４ｍのグリッドを設定した。層序についてはすでに検討済みで、貝類遺骸が出土するのはⅢ層黒灰色混土貝層（出土遺物としては縄文中期～後期の南福寺式、及び出水式土器を含む）と、Ⅳ層の青灰色粘質土（縄文中期の阿高式土器を含む）に限られ、大量のマガキの貝殻が出土したことがわかっている。

今回貝類遺骸の組成を検討したのは12箇のグリッドからのサンプルで、層位はほとんどすべてがⅣ層、G-７ⅢだけがⅢ層であった。各サンプルの組成は大きな違いがないので、ここではそのうち７サンプルの組成を第30表に示した。二枚貝の場合、右殻と左殻の数が対応して出土することは少ない。簡便法としては左右殻の合計を２で割って得られた数字を個体数とみなす方法があるが、厳密に左右殻が対合するもの以外は片殻だけでも１個体を意味することになる。マガキの場合両方の殻の残存率にかなり差があり、計数不能の破片がずいぶん多いので量的比較を行うことは難しい。

７サンプル共通して数量的にもっとも多いのはマガキで確認された比較的完全な貝殻だけの比率では50.4％、第２位種としてはヤマトシジミ（汽水産種）33.1％、海産種としては、ハイガイ（9.7％）、ハマグリ（4.3％）の両種がこれに次ぎ、淡水産のカワニナが合計24個体（サンプル当たり平均3.43個体）、１種５個体以下の二枚貝が６種、巻貝では４種の計15種が出現した。ただし、マガキの場合個体として計数し難い大量の破片が存在しそれらを個体として復元すればマガキの比率は大幅に増加しおそらく85％を越えるであろう。

また殻１個の体積からみるとマガキ１個はヤマトシジミの数倍ないし十倍以上の体積を持つので、圧倒的に多いマガキの殻の中に、それ以外の種類の貝が散見されるという印象である。少数個体しか発見されなかった種のうち、マツカゼガイ、ナミマガシワガイは小型あるいは著しく扁平で食用になるような肉質部分が乏しいことからおそらくマガキを大量に採集した際の偶然の混獲物と考えられる。巻き貝のイボウミニナ、フトヘナタリ、カワニナも食品としての価値はほとんど評価するに足らない。

生息場所からこれらの種を区分すると、

１．砂泥地及び泥地干潟　マガキ、ハイガイ、サルボウガイ、オキシジミ、マツカゼガイ、ナミマガシワ、イボウミニナ
２．砂地干潟　ハマグリ中小型、カガミガイ、ツメタガイ
３．砂地潮下帯　ハマグリ大型、テングニシ
４．外海砂地潮下帯　チョウセンハマグリ
５．汽水域泥質干潟　フトヘナタリ
６．河川感潮域潮下帯　ヤマトシジミ
７．淡水域　カワニナ

砂泥地及び泥地干潟は現在でも白川河口、坪井川河口などに見られハイガイ、オキシジミなどが生息するほか、干潟上部に散在する転石、小石、カキ殻を基質として中小型のマガキが塊状の集団となって分布する

**第29表　黒橋貝塚出土の貝類種名リスト**

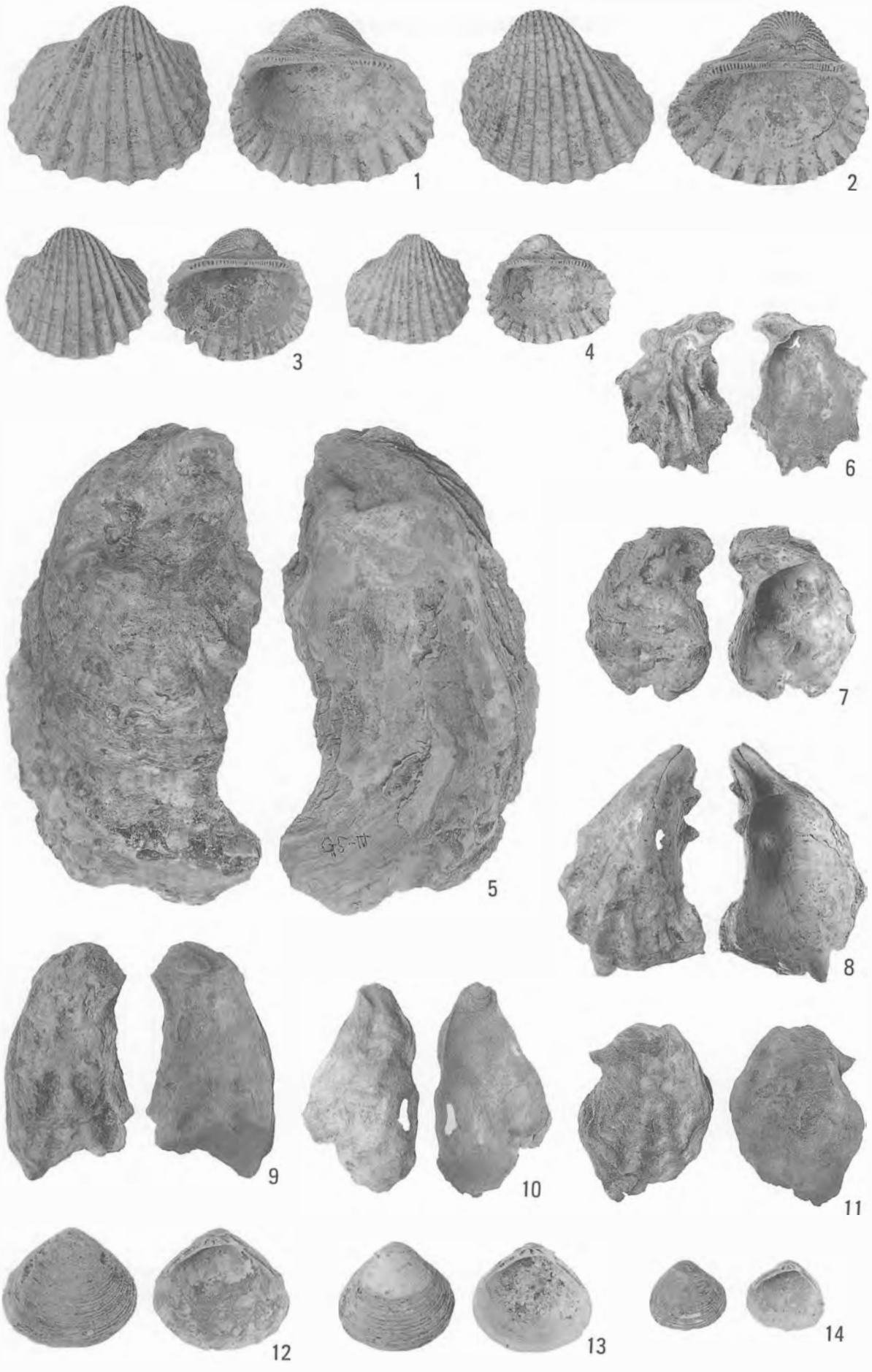
| | | | |
|---|---|---|---|
| 二枚貝綱 | | | |
| フネガイ目 | フネガイ科 | サルボウガイ | *Adadara subcrenata*（Lischke） |
| | | ハイガイ | *Tegillarca granosa*（Linnaeus） |
| ウグイスガイ目 | ナミマガシワ科 | ナミマガシワ | *Anomia chinensis* Philippi |
| | イタボガキ科 | マガキ | *Crassostrea gigas*（Thunberg） |
| マルスダレガイ目 | シジミ科 | ヤマトシジミ | *Corbicula japonica* Prime |
| | マルスダレガイ科 | ハマグリ | *Meretrix lusorea*（Röding） |
| | | チョウセンハマグリ | *Meretrix lamarckii* Deshayes |
| | | カガミガイ | *Phacosoma japonicum*（Reeve） |
| | | オキシジミ | *Cyclina sinensis*（Gmelin） |
| | | マツカゼガイ | *Irus*（*Irus*）*mitis*（Deshayes） |
| 腹足綱　前鰓亜綱 | | | |
| 中腹足目 | カワニナ科 | カワニナ | *Semisulcospira libertina*（Gould） |
| | ウミニナ科 | イボウミニナ | *Batillaria zonalis*（Brugiere） |
| | | フトヘナタリ | *Cerithidea rhizophorarum* A. Adams |
| | タマガイ科 | ツメタガイ | *Glossaulax didyma*（Röding） |
| 新腹足目 | テングニシ科 | テングニシ | *Hemifusus tuba*（Gmelin） |

状況もよくみられる。また砂地干潟のハマグリの中小型個体、カガミガイ、アサリなどが分布する状況も緑川河口地先に広がる干潟に見られ、現在より海岸線が内陸に入り込んでいた縄文中期には、砂泥質干潟と砂質干潟が黒橋貝塚、阿高貝塚付近まで広がっていたと考えられる。ヤマトシジミは潮の干満の影響を受ける河川感潮域の砂あるいは砂泥底に広く分布する貝で海岸線が現在より内陸に入り込んでいた時代、現在の浜戸川に当たる緑川水系の河口域には豊富に生息していたものであろう。殻は現在食用として採取市販されているものよりかなり大きく、殻長30～36㎜の大型個体が大部分を占めていた。これは当時の人間の捕獲強度が小さく、大型個体だけを選択的に採取するゆとりがあったことを物語る。チョウセンハマグリらしい貝が１個だけ、それも貝殻の腹縁部の破片だけが採取された。この種は現生の種の生息環境から考えると外海に面した浅い砂底に生息すると考えられ、有明海内のその他の海岸環境と一致しにくいが、「縄文人の暮らしと風景　黒橋貝塚発掘展」（熊本県立装飾古墳館、1992）に掲載された貝類遺骸の写真をみるとこれも外海砂底に生息するイタヤガイの殻も出土しており、チョウセンハマグリを採取する機会がまったくなかったとはいえない。

## 第30表　黒橋貝塚出土の貝類遺骸の量的組成

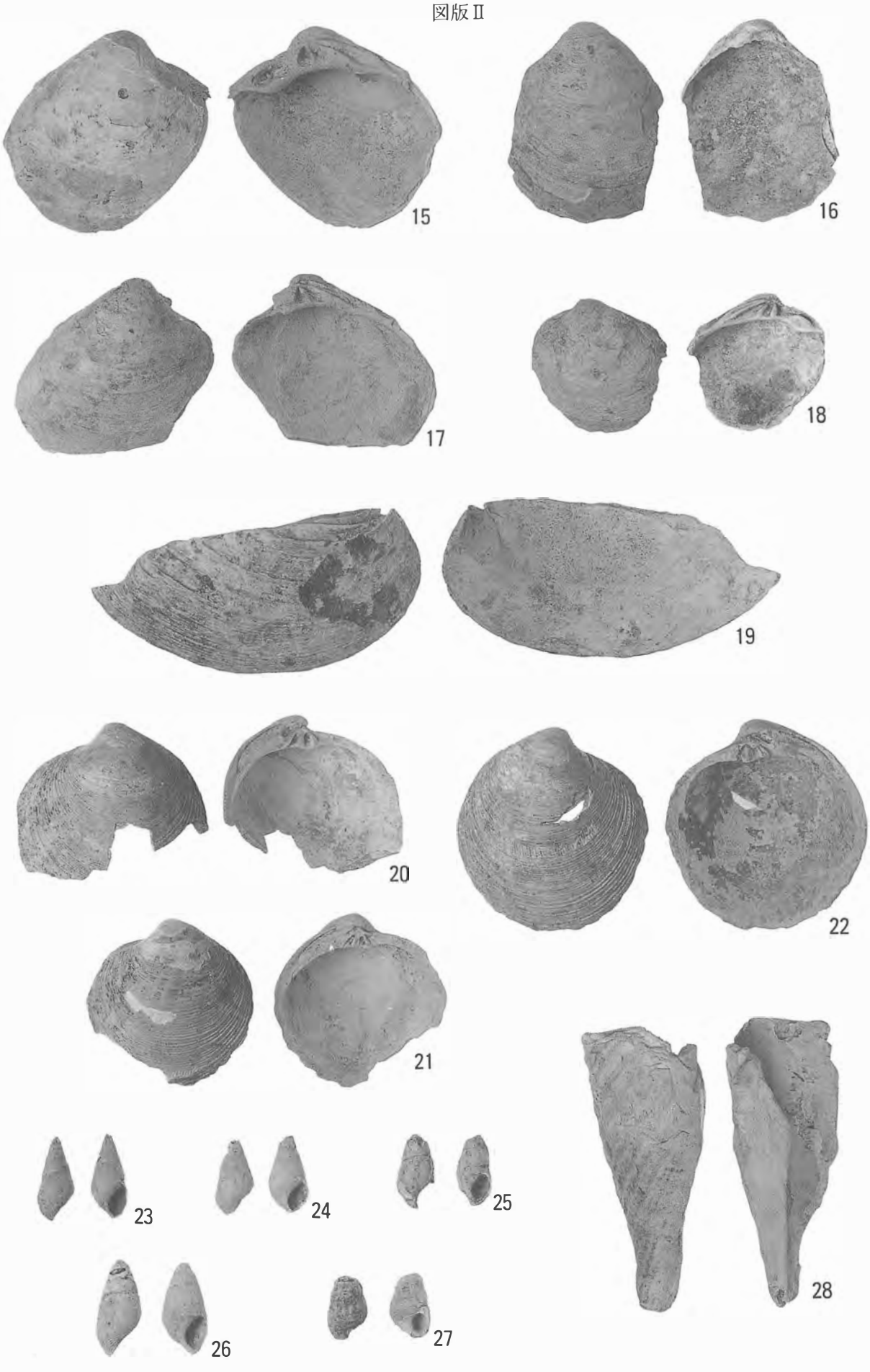
| グリッド | D９ | F10 | G５ | G７ | H６ | H８ | I９ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 層　位 | Ⅳ | Ⅳ | Ⅳ | Ⅲ | Ⅳ | Ⅳ | Ⅳ |
| マガキ固定殻 | 27 | 91 | 42 | 22 | 28 | 67 | 46 |
| 遊離殻 | 52 | 39 | 103 | 62 | 40 | 124 | 61 |
| 破砕片 | ＋＋＋ | ＋＋＋＋ | ＋＋＋＋ | ＋＋＋ | ＋＋＋ | ＋＋＋ | ＋＋＋ |
| マガキ（大型） | | | | | | | |
| 遊離殻 | | | 1 | | | | |
| ハイガイ右殻片 | 8 | 14 | 1 | 18 | 7 | 26 | 8 |
| 左殻片 | 3 | 13 | | 20 | 11 | 14 | 5 |
| 破片 | 7 | | | | | | |
| ハマグリ右殻片 | 大２ | 中７ | 大１ | 大３、中９ | | 中小４ | 大１中５ |
| 左殻片 | 中１小１ | 大１中２ | 中小２ | 中小９ | 中１小１ | 大１中４ | |
| 破片 | ＋＋ | 4 | | 大２、中８ | | | |
| チョウセンハマグリ | | | | | | | |
| 大型重厚殻片下縁部のみ | | | | | | | 1 |
| サルボウガイ左殻 | 1 | | | | | | |
| オキシジミ右殻片 | | 1 | | | | 1 | |
| 左殻片 | | | | | | 3 | 1 |
| カガミガイ右殻片 | | | | 1 | | | |
| マツカゼガイ右殻片 | | | | 1 | | | |
| ナミマガシワ | | | | 2 | | | |
| ヤマトシジミ右殻片 | 31 | 38 | 13 | 32 | 48 | 79 | 20 |
| 左殻片 | 14 | 39 | 14 | 36 | 56 | 90 | 19 |
| カワニナ | 4 | 5 | | 3 | 5 | 5 | 2 |
| イボウミニナ | | | | | | 1 | |
| フトヘナタリ | | | | 1 | | | |
| ツメタガイ | | | | 1 | | | |
| テングニシ殻軸下部 | | | | | | | 1 |
| 合　計 | 151 | 254 | 177 | 230 | 197 | 419 | 170 |

図版Ⅰ




1～4ハイガイ、5～11マガキ、12～14ヤマトシジミ　　(×2/3)

図版Ⅱ




15～18ハマグリ、19チョウセンハマグリ、20～22オキシジミ
23～26カワニナ、27ウミニナ、28ナガニシ

（×2/3）

# 第２節　黒橋貝塚出土の哺乳類遺体

鹿児島大学獣医学科解剖学教室
西中川駿・蓮沼　浩・松本充史
南　珠恵・福島　晶・高浪葉子

## １．はじめに

九州の縄文遺跡からの動物遺体の出土例は、少なくとも50数カ所にのぼるが、特に多くの動物種を出土した遺跡は、福岡県の新延貝塚、熊本県轟、阿高および曽畑貝塚や佐賀県の菜畑遺跡それに鹿児島県の出水、麦之浦、草野貝塚などがあげられる。熊本県下では上記の他に西平貝塚、南福寺貝塚、七ツ江カキワラ貝塚などがあり、当時の人々の狩猟、漁撈、採集などの生活様式を知る手掛かりとして、また、当時の動物相を知るうえにも貴重な資料となっている。

黒橋貝塚は、熊本県下益城郡城南町大字下宮地字外田にあり、昭和47年７月に集中豪雨による浜戸川決壊により貝塚が発見され、昭和63年３月から浜戸川中小河川改良工事に伴って、熊本県文化課が発掘調査したもので、縄文中、後期、弥生後期、古墳から奈良時代にかけての人工遺物が出土し、動物遺体はほとんどが縄文中、後期のものとされているが、ウシ、ウマは奈良時代に属すると思われる。動物遺体（貝類を除く）は発掘後当教室に搬入されたが、莫大な量のため、また時間的余裕がなかったために十分な調査はできなかった。ここでは主に哺乳類遺体についてその概要を述べ、その他の遺物についても少しふれることにする。

## ２．出土動物と出土量

Ｂ区からＫ区までに出土した動物遺体は、総重量134,897.0ｇで、それらは哺乳、鳥類、爬虫類、両生類および魚類のもので、哺乳類が130,843.8ｇと最も多く、次いで魚類の3,678.9ｇ、鳥類214.5ｇ、爬虫類157.2ｇ、両生類2.8ｇである。

検出された哺乳類は以下に示す６目16種である。

Ａ．偶蹄目
（１）イノシシ
（２）シカ
（３）ウシ

Ｂ．奇蹄目
（４）ウマ

Ｃ．食肉目
（５）イヌ
（６）オオカミ
（７）タヌキ
（８）アナグマ
（９）テン
（10）イタチ

Ｄ．兎目
（11）ノウサギ

Ｅ．齧歯目
（12）ムササビ
（13）ネズミ

Ｆ．霊長目
（14）ニホンザル

Ｇ．鯨目
（15）クジラ
（16）イルカ

以上の動物種別および区画別出土量と骨格別出土骨片数は、第31，第32表に示した。上段は重量で、下段は骨片数を示す。イノシシが72,749.0ｇ（4,662骨片）と最も多く、全体の56％を占め、次いでシカの51,120.9ｇ（3,587骨片）であり、両者で全体の95％を占めている。次にクジラの3,243.9ｇであるが、骨片

## 第31表　黒橋貝塚出土哺乳類の動物別および区画別出土骨量

| 区 | | 哺乳類 イノシシ | シカ | ウシ | ウマ | イヌ | タヌキ | アナグマ | テン | イタチ | ノウサギ | ムササビ | サル | クジラ | イルカ | 区別出土骨量 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| B | 7 | 97.7 (1) | | | | | | | | | | | | | | 97.7 (1) |
| | 8 | 514.3 (10) | 162.7 (9) | | | | | | | | | | | | | 677.0 (19) |
| | 9 | | 7.5 (1) | | | | | | | | | | | | | 7.5 (1) |
| C | 6 | 282.9 (3) | 11.2 (4) | | | | | | | | | | | | | 294.1 (7) |
| | 7 | 892.9 (22) | 53.7 (9) | | | | | | | | 3.0 (1) | | | | | 949.6 (32) |
| | 8 | 2037.9 (151) | 925.4 (59) | | | 32.5 (13) | 20.8 (5) | 9.0 (4) | 3.9 (1) | | | 0.4 (1) | | | | 3029.9 (234) |
| | 9 | 953.7 (63) | 1499.6 (101) | | 258.3 (6) | 10.2 (3) | 13.1 (6) | 1.2 (1) | | | 1.9 (1) | 0.7 (2) | 4.0 (1) | 31.2 (1) | | 2773.9 (185) |
| | 10 | 249.3 (11) | 216.9 (6) | | | | | | | | | | | | | 466.2 (17) |
| | 11 | 348.8 (19) | 476.3 (16) | | | | | | | | | | | | | 825.1 (35) |
| D | 6 | 387.0 (16) | 166.2 (8) | | | 9.1 (1) | | | | | | | | | | 562.3 (25) |
| | 7 | 1530.8 (44) | 491.7 (36) | | | | 1.0 (1) | | | | 3.9 (1) | | | | | 2027.4 (82) |
| | 8 | 5102.1 (387) | 2616.6 (183) | | | 5.8 (2) | 8.2 (7) | | 0.6 (1) | | 0.6 (1) | | | | | 7733.9 (581) |
| | 9 | 3065.0 (154) | 1165.6 (93) | | | 70.1 (4) | 3.0 (1) | | | | 0.5 (1) | | | | | 4304.2 (253) |
| | 10 | 1562.6 (142) | 1235.1 (88) | | | 0.9 (2) | 26.1 (6) | | | | 3.6 (1) | 1.3 (1) | 3.9 (1) | | | 2833.5 (241) |
| | 11 | 911.2 (61) | 710.5 (42) | | | 19.0 (1) | 51.2 (6) | | 6.2 (2) | | | | | | | 1698.1 (112) |
| | 12 | 14.8 (2) | | | | | | | | | | | | | | 14.8 (2) |
| E | 6 | 586.7 (18) | 239.3 (8) | | | | | | | | | | | | | 826.0 (26) |
| | 7 | 1728.9 (141) | 915.1 (75) | | | 6.1 (1) | 10.9 (4) | 15.7 (3) | | | | | | 76.0 (1) | | 2752.7 (225) |
| | 8 | 3223.7 (246) | 2502.1 (218) | | | 7.9 (3) | 8.5 (2) | 3.3 (1) | | | 10.8 (3) | | | | | 5756.3 (473) |
| | 9 | 1324.8 (146) | 2392.0 (167) | | | | 3.3 (2) | | | | 0.6 (1) | | | | 70.8 (1) | 3791.5 (317) |
| | 10 | 2594.6 (215) | 2255.3 (177) | | | 22.3 (2) | 39.7 (9) | 5.9 (1) | 1.7 (1) | | 1.9 (1) | | | | | 4921.4 (406) |
| | 11 | 1419.5 (78) | 950.0 (53) | | | 26.9 (4) | 11.3 (3) | | | | 6.2 (1) | | 58.7 (2) | 207.9 (1) | | 2680.5 (142) |
| | 12 | | 570.8 (29) | | | 37.0 (5) | 3.1 (2) | | | | 1.1 (1) | | | | | 612.0 (37) |
| F | 5 | | 85.9 (2) | 128.7 (1) | | | | | | | | | | | | 214.6 (3) |
| | 6 | 1224.9 (83) | 672.3 (38) | | | | 11.4 (2) | | | | 6.1 (1) | 1.9 (1) | | | | 1916.6 (125) |
| | 7 | 1634.2 (151) | 1829.3 (156) | | | 18.8 (3) | 16.5 (6) | 0.9 (1) | | 1.7 (1) | 9.4 (2) | | | 195.8 (1) | | 3706.6 (321) |
| | 8 | 2508.9 (208) | 1644.9 (139) | | | 33.6 (6) | 9.2 (4) | | | | 8.0 (3) | 3.0 (1) | | 596.7 (1) | | 4804.3 (362) |
| | 9 | 1910.9 (165) | 1411.4 (122) | | | 2.5 (1) | 7.2 (4) | | | 2.5 (1) | 4.0 (2) | 1.0 (1) | | | 73.2 (1) | 3412.7 (297) |
| | 10 | 1639.8 (124) | 1421.0 (111) | | | 42.7 (3) | 11.1 (5) | | | | | | | | | 3114.6 (243) |
| | 11 | 2261.0 (75) | 729.1 (35) | | | | 9.7 (3) | 5.3 (1) | | | | | | | | 3005.1 (114) |
| | 12 | 2089.3 (49) | 1123.8 (52) | | | | 9.6 (2) | | | | | | | | | 3222.7 (103) |

| 区 | | 動物名 / 哺乳類 イノシシ | シカ | ウシ | ウマ | イヌ | タヌキ | アナグマ | テン | イタチ | ノウサギ | ムササビ | サル | クジラ | イルカ | 区別出土骨量 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| F | 13 | 915.3 (15) | 52.9 (6) | | | | | | | | | | | | 35.7 (1) | 1003.9 (22) |
| G | 4 | 8.8 (1) | 31.9 (1) | | | | | | | | | | | | | 40.7 (2) |
| | 5 | 550.0 (32) | 163.9 (16) | | | 7.4 (1) | | | | | | | | | | 721.3 (49) |
| | 6 | 867.0 (69) | 735.2 (46) | | 15.6 (1) | | 5.2 (3) | | | 0.3 (1) | | | | | | 1623.3 (120) |
| | 7 | 1564.2 (116) | 1559.7 (152) | | | 6.2 (2) | 5.3 (3) | | | | | | | 773.8 (2) | | 3909.2 (275) |
| | 8 | 2219.7 (149) | 1442.9 (131) | | | 50.4 (9) | | | | | 2.0 (1) | 1.8 (1) | 11.7 (1) | 180.2 (10) | | 3908.7 (302) |
| | 9 | 2856.1 (128) | 2427.9 (148) | | | 7.4 (2) | 13.6 (5) | | | | 23.8 (4) | 0.5 (1) | | 57.8 (1) | | 5387.1 (289) |
| | 10 | 1082.1 (48) | 645.8 (50) | | | | 2.5 (1) | 4.7 (1) | | | | | | | | 1735.1 (100) |
| | 11 | 1858.4 (73) | 975.3 (66) | | | 34.4 (3) | 15.3 (5) | | | | 34.2 (10) | 2.0 (1) | | 10.0 (1) | | 2929.6 (159) |
| | 12 | 349.9 (19) | 251.3 (19) | | | | | | | | | | | | | 601.2 (38) |
| H | 5 | 421.1 (8) | 569.2 (34) | 1519.8 (9) | | 19.9 (3) | | | | | | | | | | 2530.0 (54) |
| | 6 | 121.2 (53) | 577.0 (43) | 44.9 (1) | | 3.0 (1) | | 1.8 (1) | | | | | | | | 747.9 (99) |
| | 7 | 1303.0 (118) | 1668.3 (105) | | | 6.4 (2) | 5.9 (3) | | | | 3.4 (2) | 0.6 (1) | | | | 2987.6 (231) |
| | 8 | 3037.9 (287) | 2355.3 (192) | | | 8.8 (2) | 16.6 (5) | | | | | | 15.1 (3) | 534.3 (1) | | 5968.0 (490) |
| | 9 | 2428.6 (153) | 1275.4 (99) | | | 60.3 (25) | | | | | | | 2.6 (2) | 269.7 (1) | | 4036.6 (280) |
| | 10 | 652.9 (48) | 390.0 (33) | | | 23.9 (3) | 2.4 (1) | | | | | | | | | 1069.2 (85) |
| | 11 | 20.0 (2) | 7.1 (1) | | | | | | | | | | | | | 27.1 (3) |
| I | 6 | 145.9 (6) | 162.7 (11) | | | | | 5.9 (1) | | | | | | | | 314.5 (18) |
| | 7 | 1299.4 (79) | 1149.1 (59) | | | | 16.5 (3) | | | | | | | | | 2465.0 (141) |
| | 8 | 2622.5 (197) | 2453.0 (169) | | | 20.2 (4) | 20.0 (5) | 1.5 (1) | | | 1.9 (1) | | 22.5 (4) | | | 5141.6 (381) |
| | 9 | 1151.9 (81) | 868.6 (48) | | | 56.8 (9) | 3.0 (2) | 3.8 (1) | | | | | 17.8 (1) | | | 2101.9 (142) |
| J | 5 | 71.9 (1) | 35.2 (1) | | | | | | | | | | | | | 107.1 (2) |
| | 6 | 456.9 (2) | 352.7 (6) | | | 28.2 (1) | | | | | | | | | | 837.8 (9) |
| | 7 | | | | | 146.4 (34) | | | | | | | | | | 146.4 (34) |
| | 8 | 687.6 (32) | 259.5 (17) | | | 11.0 (2) | | | | | | | | | | 958.1 (51) |
| K | 6 | | 29.8 (1) | | | | | | | | | | | | | 29.8 (1) |
| その他 | | 769.9 (50) | 436.5 (27) | | | | | | | | | | | 310.5 (1) | | 1516.9 (78) |
| 不明 | | 3188.6 (110) | 1763.4 (69) | | | 3.8 (1) | 8.9 (2) | | | | | | | | | 4964.7 (182) |
| 動物別出土骨量 | | 72749.0 (4662) | 51120.9 (3587) | 1693.4 (11) | 273.9 (7) | 839.9 (158) | 390.1 (118) | 59.0 (17) | 12.4 (5) | 4.5 (3) | 126.9 (39) | 13.2 (11) | 136.3 (15) | 3243.9 (22) | 179.7 (3) | 130843.1 (8658) |

上段は重量（g）、下段は骨片数　※上記の他にオオカミ　H－9　2.9g（1）、ネズミ　E－8　0.7g（1）がある。

## 第32表　黒橋貝塚出土の哺乳類の骨格別出土骨片数

| 骨名 / 動物名 | 頭蓋 | | | | 胴骨 | | | | | | | 前肢骨 | | | | | | | | | | | 後肢骨 | | | | | | | | | | 出土骨片数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 頭蓋骨 | 下顎骨 | 角 | 歯 | 頚椎 | 胸椎 | 腰椎 | 仙椎 | 尾椎 | 肋骨 | 胸骨 | 鎖骨 | 肩甲骨 | | 上腕骨 | | 橈骨 | | 尺骨 | | 手根骨 | 中手骨 | 指骨 | 寛骨 | 大腿骨 | | 膝蓋骨 | 脛骨 | | 腓骨 | | 足根骨 | 中足骨 | 趾骨 | |
| | | | | | | | | | | | | | L | R | L | R | L | R | L | R | | | | | L | R | | L | R | L | R | | | | |
| イノシシ | 392 | 495 | | 856 | 144 | 130 | 101 | 18 | 9 | 168 | | | 120 | 117 | 78 | 76 | 67 | 76 | 67 | 65 | 58 | 186 | 137 | 185 | 92 | 87 | 4 | 102 | 109 | 14 | 17 | 192 | 208 | 66 | 4436 |
| シカ | 127 | 143 | 121 | 246 | 164 | 146 | 89 | 14 | 3 | 319 | | | 46 | 49 | 86 | 88 | 58 | 70 | 33 | 29 | 38 | 142 | 80 | 160 | 143 | 122 | | 225 | 210 | | | 99 | 182 | 88 | 3320 |
| ウシ | | 2 | | | 1 | | 1 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | 2 | | | | 1 | | 10 |
| ウマ | 1 | | | 6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 7 |
| イヌ | 28 | 13 | | 15 | 16 | 2 | 4 | 1 | 1 | 25 | | | | 1 | 7 | 2 | 6 | 5 | 5 | 2 | | 3 | | 2 | 4 | 5 | | 4 | 6 | | | 2 | 3 | | 162 |
| オオカミ | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| タヌキ | 13 | 28 | | 6 | 23 | 4 | 6 | | | 1 | | | | 3 | 3 | 3 | 3 | | 2 | 3 | | 4 | | 2 | 4 | 1 | | 5 | 5 | | | 5 | 2 | | 126 |
| アナグマ | | 7 | | | | | | | | 1 | | | 1 | | 2 | | | | | 1 | | | | 2 | 1 | | | 1 | | | | | | 16 |
| テン | | 2 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 5 |
| イタチ | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 |
| ノウサギ | 2 | 7 | | | | | | | | 1 | | | | | 3 | 3 | | | | | | 1 | | 7 | 2 | 2 | | 2 | 1 | | | | 5 | | 36 |
| ムササビ | | 4 | | 1 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | | | 3 | | | 11 |
| ネズミ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| サル | 2 | 4 | | 3 | | | | | | | | | | | 3 | 2 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 15 |
| クジラ | | | | | 13 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 13 |
| イルカ | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| 骨格別出土骨片数 | 2528<br>31% | | | | 1408<br>17% | | | | | | | 1839<br>23% | | | | | | | | | | | | 2389<br>29% | | | | | | | | | | 8164 |

L：左側、R：右側、歯：遊離した歯のみ

数ではイヌ、タヌキが多い。区画別の出土量はＦ区が24,404.1ｇで最も多く、次いでＥ、Ｇ、Ｄ、Ｈ区の順である。なお、層位はⅠ～Ⅴおよび土壙からなるが、Ⅰ層は古墳から奈良時代、Ⅱ層は弥生後期、Ⅲ層は縄文中期から後期、Ⅳ層は縄文中期（阿高式）、Ⅴ層、土壙は縄文中期（並木式、阿高式）と同定され、表２、３にイノシシとシカの層位別および骨格別骨片数を示した。これによるとイノシシ、シカ共にⅢ層からの出土が多く、次いでⅣ層、土壙、Ⅱ層の順である。

## ３．出土遺体の概要

### １）哺乳類

（１）**イノシシ**（図版Ⅰの１～27参照）

イノシシは表１および３に示すように、各区画、各層から出土しており、Ｆ区が14,184.3ｇと最も多く、Ｄ、Ｇ区とつづき、層別ではⅢが1,692個で最も多い。骨格別（表32）では遊離した歯が多いために頭蓋が多いが、前、後肢骨はほぼ同数の出土である。骨別では肩胛骨237（左側120、右側117以下同じ）個、脛骨211（102、109）個、下顎骨495個などがみられ、また、ほぼ完全な踵骨89（43、46）個が検出されており、少なくとも46体以上、120体以下と推定される。また、Ｈ-９区土壙から出土した頭蓋骨の最大長は470.0㎜であり、これは現生のものよりはるかに大きい。

（２）**シカ**（図版Ⅰの28～56参照）

シカはイノシシ同様に、各区画、各層から出土しており（表34）、Ｅ区が9,824.6ｇと最も多く、Ｆ、Ｇ、Ｄ区とつづき、層別では（表33）Ⅲ層が最も多い。骨格別では後肢骨が多く（37.0％）、頭蓋が少ないのが特徴的である。骨別では、脛骨435（225、210）個が最も多く、次いで大腿骨265（143、122）個である。ほぼ完全な踵骨は44（26、18）個であり、少なくとも26体以上で200体以下のものと推定される。

Ｆ-12から出土した中手骨は最大長222.0㎜で、これは現生のものの1.2倍の大きさである。

（３）**ウシ**（図版Ⅱの１～11参照）

ウシは、Ｈ-５、６区の流路から下顎骨（左、右）、腰椎、肋骨（２）、大腿骨（左）、脛骨（左）、中足骨（左）、距骨（左）など各１点が出土しており、同一個体と思われるもの（１号ウシ）とＦ-５の流路から脛骨（左）１点が出土している（２号ウシ）。１号ウシの中足骨は、最大長211.6㎜、骨体中央の幅と径は22.5×27.1（㎜）であり、他の骨の計測値も用いて筆者らの方法で体高を推定すると、115.47±4.39㎝となり、また、下顎第三、第四前臼歯の計測値から11才と推定される。２号ウシは骨端の遊離した若い個体で、体高99.38㎝と推定される。いずれのウシも時期的には奈良時代のものと思われる。

（４）**ウマ**（図版Ⅱの12～14参照）

ウマは左右の上顎第二、三前臼歯がＣ-９から（１号ウマ）とＧ-６から左下顎第四前臼歯（２号ウマ）が出土している。１号ウマは３才の若いウマで各臼歯の歯冠長から、筆者らおよび林田の方法で体高を推定すると127.41±4.84㎝となり、また、２号ウマは12才で、体高126.47㎝と推定される。時期的はⅢ層、Ⅱ層からの出土となっているが、ウシと同様に奈良時代のものであろう。

（５）**イヌ**（図版Ⅱの15～27参照）

イヌはＣからＪまでの各区画のⅢ～Ⅳ層から出土しており、上腕骨９（７、２）、橈骨11（６、５）、大腿骨９（４、５）、脛骨10（４、６）など126個の骨片が検出されている。これらの数から少なくとも６個体以上のものである。完形骨はないが、計測可能な部位から体高を推定すると40㎝以下で、小型犬に属する。

（６）**オオカミ**（図版Ⅱの28参照）

Ｈ-９Ⅲ層から第一後臼歯の破片が検出され、形状と大きさからオオカミと同定した。ただ１点の出土で疑問は残る。

## 第33表　黒橋貝塚出土のイノシシの層序別出土骨片数

| 骨名 / 層 | 頭蓋 | | | | 胴骨 | | | | | | | 前肢骨 | | | | | | | | | | | 後肢骨 | | | | | | | | | | | 出土骨片数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 頭蓋骨 | 下顎骨 | 角 | 歯 | 頚椎 | 胸椎 | 腰椎 | 仙椎 | 尾椎 | 肋骨 | 胸骨 | 鎖骨 | 肩甲骨 | | 上腕骨 | | 橈骨 | | 尺骨 | | 手根骨 | 中手骨 | 指骨 | 寛骨 | 大腿骨 | | 膝蓋骨 | 脛骨 | | 腓骨 | | 足根骨 | 中足骨 | 趾骨 | |
| | | | | | | | | | | | | | L | R | L | R | L | R | L | R | | | | | L | R | | L | R | L | R | | | | |
| Ⅰ | | | | 1 | | 1 | 1 | | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | | | | | 1 | | | | | 1 | 1 | 1 | 9 |
| Ⅱ | 44 | 51 | | 111 | 13 | 21 | 12 | | | 21 | | | 11 | 10 | 13 | 10 | 9 | 17 | 13 | 12 | 3 | 28 | 19 | 26 | 11 | 12 | 1 | 24 | 20 | 4 | 1 | 32 | 16 | 5 | 570 |
| Ⅲ | 122 | 161 | | 365 | 43 | 42 | 45 | 4 | 3 | 60 | | | 45 | 48 | 23 | 24 | 21 | 25 | 25 | 27 | 20 | 78 | 62 | 66 | 31 | 29 | 2 | 35 | 37 | 6 | 10 | 69 | 134 | 30 | 1692 |
| Ⅳ | 117 | 152 | | 180 | 37 | 26 | 15 | 9 | 4 | 46 | | | 30 | 31 | 18 | 20 | 16 | 15 | 11 | 12 | 16 | 29 | 26 | 33 | 20 | 16 | | 19 | 21 | 3 | 2 | 37 | 24 | 13 | 998 |
| Ⅴ | 25 | 30 | | 29 | 11 | 9 | 4 | | | 7 | | | 4 | 2 | 2 | 2 | | 2 | 3 | 3 | | 3 | 1 | 9 | 2 | | | 3 | 2 | | 1 | 4 | 7 | | 165 |
| 土壙 | 55 | 71 | | 111 | 28 | 23 | 18 | 1 | 2 | 25 | | | 19 | 16 | 11 | 12 | 16 | 14 | 14 | 6 | 15 | 36 | 24 | 32 | 20 | 23 | | 18 | 25 | 1 | 3 | 34 | 22 | 12 | 707 |
| その他 | 3 | 5 | | 13 | 2 | 1 | | | | 3 | | | | 1 | 3 | | | 2 | | 3 | | 2 | | 1 | 1 | 1 | | | 1 | | | 5 | 1 | 2 | 50 |
| 不明 | 26 | 25 | | 46 | 10 | 7 | 6 | 4 | | 6 | | | 11 | 9 | 8 | 7 | 5 | 1 | 1 | 2 | 4 | 9 | 5 | 18 | 7 | 6 | | 3 | 3 | | | 10 | 3 | 3 | 245 |
| 骨格別出土骨片数 | 1743（39.3%） | | | | 570（12.8%） | | | | | | | 1047（23.6%） | | | | | | | | | | | | 1076（24.3%） | | | | | | | | | | 4436 |

L：左側、R：右側、歯：遊離した歯のみ

## 第34表　黒橋貝塚出土のシカの層序別出土骨片数

| 骨名 / 層 | 頭蓋 | | | | 胴骨 | | | | | | | 前肢骨 | | | | | | | | | | | 後肢骨 | | | | | | | | | | | 出土骨片数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 頭蓋骨 | 下顎骨 | 角 | 歯 | 頚椎 | 胸椎 | 腰椎 | 仙椎 | 尾椎 | 肋骨 | 胸骨 | 鎖骨 | 肩甲骨 | | 上腕骨 | | 橈骨 | | 尺骨 | | 手根骨 | 中手骨 | 指骨 | 寛骨 | 大腿骨 | | 膝蓋骨 | 脛骨 | | 腓骨 | | 足根骨 | 中足骨 | 趾骨 | |
| | | | | | | | | | | | | | L | R | L | R | L | R | L | R | | | | | L | R | | L | R | L | R | | | | |
| Ⅰ | | 1 | | 2 | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | | | | 1 | | | | 1 | | 1 | | | | 1 | | 1 | 10 |
| Ⅱ | 16 | 10 | 29 | 21 | 20 | 21 | 7 | 3 | | 33 | | | 6 | 7 | 18 | 16 | 11 | 9 | 5 | 4 | 2 | 27 | 10 | 17 | 24 | 22 | | 45 | 39 | | | 27 | 28 | 12 | 489 |
| Ⅲ | 41 | 46 | 34 | 140 | 57 | 40 | 31 | 1 | | 98 | | | 21 | 20 | 29 | 31 | 10 | 25 | 16 | 11 | 21 | 59 | 30 | 55 | 56 | 47 | | 77 | 83 | | | 40 | 73 | 40 | 1232 |
| Ⅳ | 38 | 42 | 18 | 34 | 44 | 40 | 23 | 2 | 1 | 84 | | | 6 | 10 | 13 | 15 | 14 | 16 | 8 | 4 | 6 | 19 | 20 | 35 | 17 | 20 | | 46 | 44 | | | 10 | 38 | 11 | 678 |
| Ⅴ | 7 | 6 | 2 | 2 | 7 | 7 | 5 | 1 | | 22 | | | 2 | 2 | 4 | 3 | 1 | 1 | | 1 | | 4 | 1 | 4 | 3 | 4 | | 4 | 5 | | | 3 | 2 | 1 | 104 |
| 土壙 | 17 | 23 | 25 | 35 | 27 | 28 | 9 | 5 | 2 | 62 | | | 8 | 6 | 14 | 16 | 16 | 10 | 3 | 8 | 6 | 17 | 14 | 36 | 26 | 14 | | 34 | 23 | | | 12 | 39 | 23 | 558 |
| その他 | | 2 | 3 | 2 | | 1 | 2 | | | 2 | | | 1 | 1 | 1 | | 1 | 1 | | | 1 | | 1 | | 1 | | | 3 | 2 | | | 1 | 1 | | 27 |
| 不明 | 8 | 13 | 10 | 10 | 9 | 9 | 12 | 2 | | 18 | | | 2 | 2 | 6 | 7 | 5 | 8 | 1 | 1 | 2 | 15 | 4 | 13 | 16 | 14 | | 15 | 14 | | | 5 | 1 | | 222 |
| 骨格別出土骨片数 | 637（19.2%） | | | | 735（22.1%） | | | | | | | 719（21.7%） | | | | | | | | | | | | 1229（37.0%） | | | | | | | | | | 3320 |

L：左側、R：右側、歯：遊離した歯のみ

（７）**タヌキ**（図版Ⅱの29～37参照）

下顎骨片28個、脛骨10（５、５）、大腿骨５（４、１）など126個が出土しており、下顎骨の数から少なくとも10個体以上のものである。大きさや形状は現生のものと殆ど変わらない。

（８）**アナグマ**（図版Ⅱの38～41参照）

Ｃ、Ｅ、Ｆ、Ｇ、Ｈ、Ｉ区から少量ずつ出土しており、下顎骨６（２、４）、上腕骨２個など16個の骨片が出土しており、少なくとも４個体以上のものである。形状や大きさは現生のものとほぼ同じである。

（９）**テン**（図版Ⅱの42～44参照）

テンは下顎骨、上腕骨、脛骨などわずか５点の出土で、２体のものと思われる。

（10）**イタチ**（図版Ⅱの45参照）

頭蓋骨、下顎骨片、上腕骨の３点の出土であり、テンと同様に少ない量である。形状は現在のホンドテンとよく似ている。

（11）**ノウサギ**（図版Ⅱの46～57参照）

ノウサギはＣ～Ｉ区までの各区から出土しており、下顎骨７（５、２）、上腕骨６（３、３）、寛骨７（４、３）がみられ、少なくとも５個体の出土である。形状は現生のものとよく似ているが脛骨の最大長は128.1㎜であり、やや大きい。

（12）**ムササビ**（図版Ⅱの58～62参照）

Ｃ、Ｄ、Ｆから出土し、下顎骨４（２、２）、上腕骨、大腿骨など11点が検出されている。

（13）**ネズミ**（図版Ⅱの63参照）

Ｅ-８から左側脛骨１点の出土で、現生のクマネズミ大の大きさである。

（14）**ニホンザル**（図版Ⅱの64～66参照）

下顎骨４（２、２）、上腕骨５（３、２）など15点の出土で、３体以上のものである。形状と大きさは現生ニホンザルに似ている。

（15）**クジラ**（図版Ⅱの72参照）

クジラはＣ、Ｅ、Ｆ、Ｇ、Ｈ区から椎骨や椎板が出土しており、総重量3,243.9ｇである。種は不明であるが、22個が検出されている。

（16）**イルカ**（図版Ⅱの73、74参照）

イルカはＥ-９とＦ-９、13から出土し、後頭骨と椎骨など３点検出されている。

以上、哺乳類の動物遺体についてその概要を述べたが、次に鳥類、爬虫類、両生類および魚類について記述する。

**２）鳥類**

鳥類は各区画から出土しているが、総重量214.3ｇで、81個の骨片である。それらは、カモ類、サギ類、ツル類、キジ、ワシタカ類、カラス類のものである。

**３）爬虫類**

爬虫類はカメ（スッポン）で、腹甲や上腕骨など157.2ｇが出土している。

**４）両生類**

両生類はカエルで、上腕骨２個など2.8ｇの出土で、ヒキガエルのものと思われる。

**５）魚類**

魚類は哺乳類につぐ出土で、十分な検索は行っていないが、タイ類、ボラ、スズキ、サメ類の前上顎骨、鰓蓋骨、歯骨、棘、椎骨など3,678.9ｇが出土している。

## ４．考察

黒橋貝塚は、全体の80％以上がマガキで占められ、その他ハマグリ、ハイガイ、ヤマトシジミなどで構成された貝塚で、当時の人々がこれらの貝類を採集し、食料としていたことがうかがわれ、一方、狩猟獣として、イノシシ、シカを中心にタヌキ、アナグマやサルなど13種の動物を狩猟していたことが今回の調査でわかった。

イノシシは、九州各県のすべての遺跡で検出され、シカと共にに縄文人の重要な蛋白源として利用されていたことがうかがわれ、また、長骨などは割断されていたことから、金子らの言うように骨髄食のあったことが推測される。イノシシ、シカの骨の形状は現生のものと類似するが、大きさは非常に大きい。これは現生のものが悪環境下で矮小化していることによると考えられるが、当時の人々は選択的に若いものより老齢のものを狩猟していたと言われていることと符号するのかもしれない。

イヌは縄文草創期から飼育されていたと言われ、その証拠として江坂は愛媛県上黒岩岩蔭の埋葬例を報告している。黒橋貝塚からは埋葬例はみられなかったが、各区画から126個の骨片が出土しており、少なくとも６個体以上のものと思われ、縄文時代の他の遺跡でもみられるいわゆる縄文犬のタイプで、小型犬である。当時の人々によって狩猟の伴侶として、また番犬として飼育されていたのであろう。

一方、アナグマ、テン、イタチ、サルなども当時の人々の狩猟の対象となっているが、食料として、また、毛皮として利用していたのであろう。オオカミは九州では福岡県恒見洞穴、鹿児島県市来、麦之浦、草野貝塚や黒川洞穴などから検出されているが、本遺跡からは臼歯１点の出土であり、その大きさや形状からオオカミと同定した。九州では珍しい動物の１つである。

クジラは西平、南福寺貝塚など熊本県下の遺跡から出土しており、本貝塚からも22点の椎板と椎骨が検出されている。クジラの椎骨は土器などを造るときに、土台に使用していたといわれている。イルカの出土例は熊本県下では報告されていないが、本貝塚からは頭蓋骨片と椎骨が出土しており、これらも食料として利用していたのであろう。

本貝塚からはウシ、ウマがH-５、６区の流路から出土しているが、縄文時代のものではなく、奈良時代以降のものと思われる。ウシやウマがいつ頃、どこから渡来して来たかは未だに明らかではないが、これまでの発掘資料からは、ウシは東京都伊皿子貝塚や福江市の大浜遺跡、ウマは大浜遺跡のいずれも弥生中期以降であろうとされており、筆者らも今のところこれを支持している。ウシは欧州系のウシが華北から朝鮮半島を経由して、北部九州へ、ウマは蒙古系のウマが同じルートでわが国に渡来したことが考えられる。本貝塚出土のウシ、ウマはその末裔であり、当時の人々によって運搬や交通の手段として、また農耕用や乗馬用として飼育していたのであろう。

本貝塚からは鳥類や魚類の出土もみられ、特に魚骨の出土は多い。黒橋貝塚を遺した人々は、狩猟、漁撈および採集などで、食生活を行っていたことが想像され、また、これらの自然遺物は熊本県内はもとより、九州における動物地理学的な変遷を知る上にも貴重な資料となると考えられている。

## ５．まとめ

熊本県黒橋貝塚出土の縄文中期から後期を主体とした哺乳類遺体について調査した。

１．動物遺体（貝類を除く）の総重量は、134,897.0ｇで、それらは哺乳類130,843.8ｇが最も多く、次いで魚類の3,698.9ｇで、鳥類214.3ｇ、爬虫類157.2ｇ、両生類2.8ｇである。

２．哺乳類遺体はイノシシ、シカ、ウシ、ウマ、イヌ、オオカミ、タヌキ、アナグマ、テン、イタチ、ノウサギ、ムササビ、ネズミ、ニホンザル、クジラおよびイルカの６目16種のものである。イノシシが72,749.0ｇ（4,662骨片）と最も多く、次いでシカであり、両者で全体の95％を占めている。

3．ウシ、ウマは出土状況から奈良時代以降のものであり、ウシは体高115.47±4.39cmで、ウマは127.41±4.84cmのものである。

4．鳥類はカモ、サギ、ツル、カラス、ワシタカ類などで、爬虫類はカメ（スッポン）、両生類はヒキガエル、魚類はタイ類、ボラ、スズキ、サメ類などである。

## 参考文献

1、江坂輝弥：縄文時代における犬の埋葬骨格．考古学ジャーナル，40，p．6～7（1970）

2、福岡県教育委員会：新延貝塚，p．169～182（1995）

3、林田重幸：日本在来馬の系統に関する研究，p．1～160，日本中央競馬会，東京（1978）

4、金子浩昌：縄文時代の狩猟，漁猟．歴史公論，2，p．67～71（1979）

5、熊本県教育委員会：曽畑，p．232～241（1988）

6、熊本県教育委員会：七ツ江カキワラ・竹の下貝塚，p．77～83（1986）

7、西中川　駿也：古代遺跡出土骨からみたわが国の牛，馬の渡来時期とその経路に関する研究，p．1～195、文部省科研費研究成果報告書（1991）

8、西中川　駿也：鹿児島の縄文，弥生遺跡出土の動物遺体．鹿大農学術報告書，43，p．19～24（1993）

図版Ⅰの説明

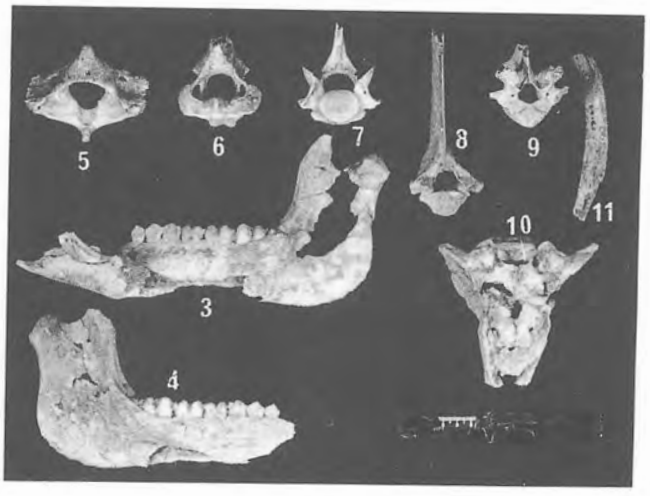
1～27：イノシシ

28～56：シカ

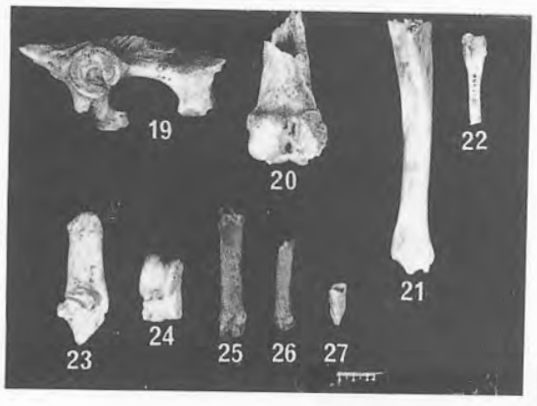
1．頭蓋骨　2．頭蓋骨　3．右下顎骨　4．左下顎骨　5．環椎　6．軸椎　7．頸椎
8．胸椎　9．腰椎　10．仙椎　11．右肋骨　12．左肩甲骨　13．左上腕骨　14．右橈骨
15．右尺骨　16．第四中手骨　17．中節骨　18．末節骨　19．左寛骨　20．右大腿骨
21．右脛骨　22．右腓骨　23．右踵骨　24．右距骨　25．第四中足骨　26．第五中足骨
27．末節骨　28．頭蓋骨　29．左：右上顎骨　右：左上顎骨　30．左角　31．右下顎骨
32．左下顎骨　33．環椎　34．軸椎　35．頸椎　36．胸椎　37．腰椎
38．左：左肋骨　右：右肋骨　39．右肩甲骨　40．右上腕骨　41．左上腕骨　42．右橈骨
43．右尺骨　44．右中手骨　45．基節骨　46．中節骨　47．右寛骨　48．右大腿骨
49．左大腿骨　50．左脛骨　51．左中足骨　52．左踵骨　53．左距骨　54．基節骨
55.中節骨　56．末節骨

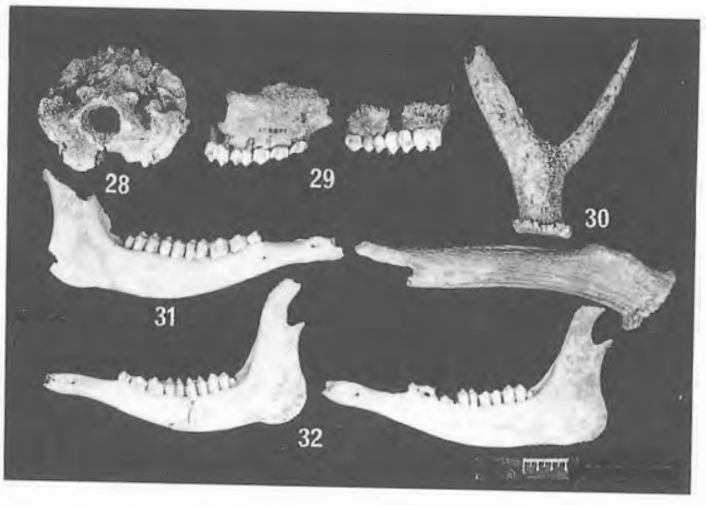
図版Ⅰ

1
2


5
6
7
8
9
10
11
3
4

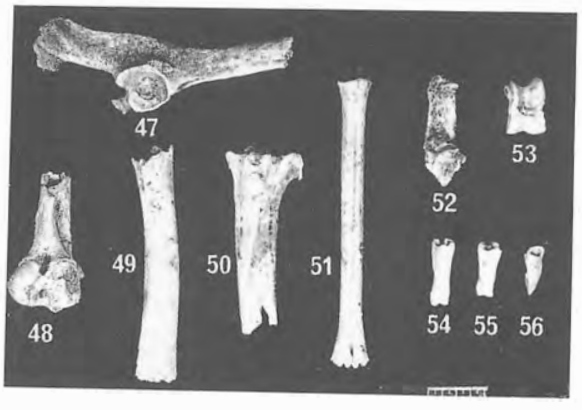
12
13
14
15
16
17
18


19
20
21
22
23
24
25
26
27

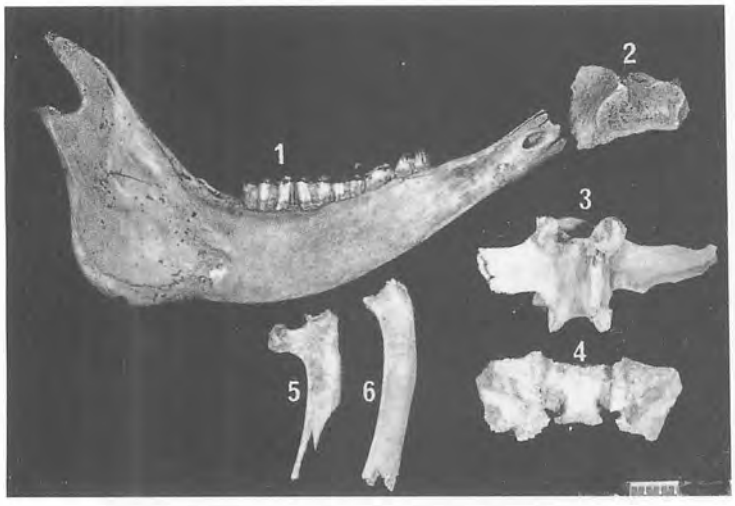

28
29
30
31
32

33
34
35
36
37
38

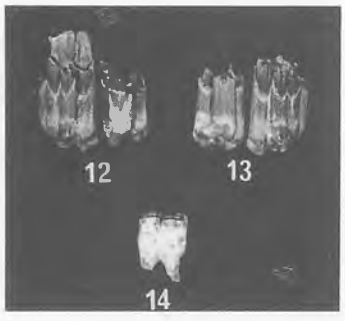
39
40
41
42
43
44
45
46

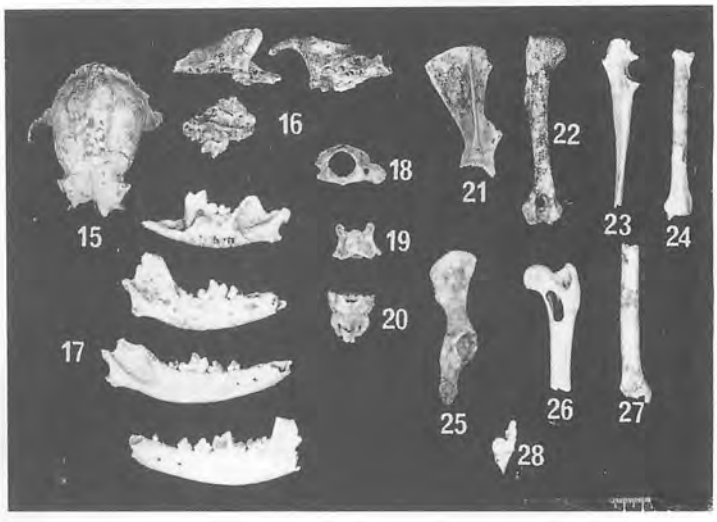

47
48
49
50
51
52
53
54
55
56

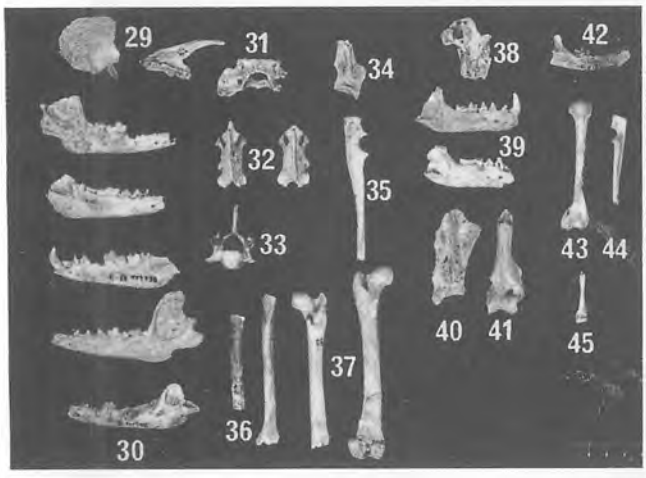
図版Ⅱ

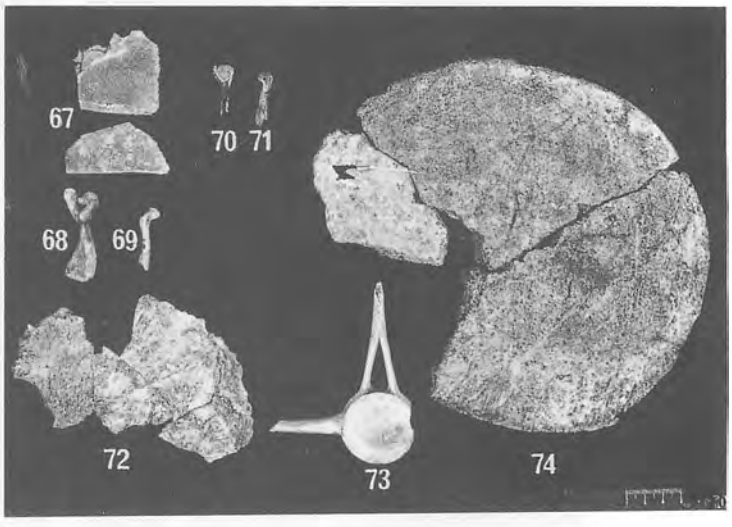

1
2
3
4
5
6

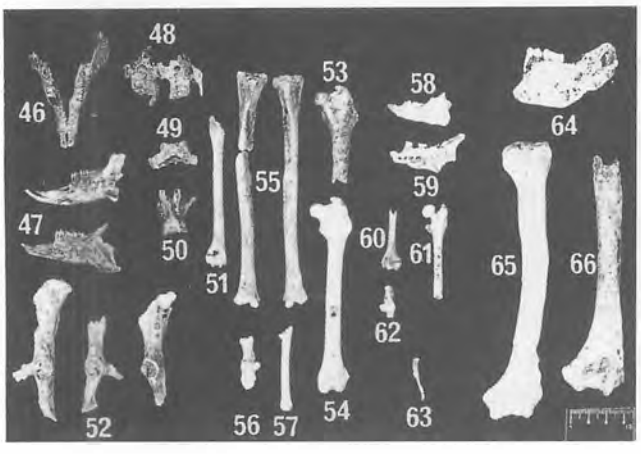
7
8
9
10
11


12
13
14


15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28


29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45


67
68
69
70
71
72
73
74


46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66

## 図版Ⅱの説明

１～11：ウシ
12～14：ウマ
15～27：イヌ　28：オオカミ
29～37：タヌキ
38～41：アナグマ
42～44：テン　45：イタチ
46～57：ノウサギ
58～62：ムササビ
63：ネズミ
64～66：ニホンザル
67～69：カメ
70～71：カエル
72～73：イルカ
74：クジラ

１．右下顎骨　２．環椎　３．腰椎　４．仙椎　５．左肋骨　６．右肋骨　７．左大腿骨
８．左脛骨　９．左中足骨　10．左距骨　11．左脛骨　12，13．左右上顎第二，三前臼歯
14．左下顎第四前臼歯　15．頭蓋骨　16．左上：左上顎骨　左下：左上顎骨　右：右上顎骨
17．下顎骨（上から左・右・右・左）　18．環椎　19．頸椎　20．仙椎　21．右肩甲骨
22．左上腕骨　23．左尺骨　24．左橈骨　25．右寛骨　26．右大腿骨　27．右脛骨
28．右第二後臼歯　29．左：頭蓋骨　右：左上顎骨
30．下顎骨（上から右・右・左・左・左）　31．環椎　32．軸椎　33．頸椎　34．右肩甲骨
35．左尺骨　36．左脛骨　37．左：右大腿骨　右：左大腿骨　38．頭蓋骨
39．上下：右下顎骨　40．左肩甲骨　41．右上腕骨　42．左下顎骨　43．左上腕骨
44．右尺骨　45．右上腕骨　46．下顎骨　47．左下顎骨　48．上顎骨　49．環椎　50．胸椎
51．右上腕骨　52．寛骨（左から左・右・左）　53．左大腿骨　54．左大腿骨
55.左：左脛骨　右：右脛骨　56．右踵骨　57．第二中足骨　58．左下顎骨　59．右下顎骨
60．右上腕骨　61．左大腿骨　62．左踵骨　63．左脛骨　64．右下顎骨　65．左上腕骨
66．右上腕骨　67．腹甲　68．右上腕骨　69．右上腕骨　70．左上腕骨　71．左上腕骨
72．頭蓋骨　73．椎骨　74．椎板

# 第３節　黒橋貝塚出土の魚類遺体

大分市歴史資料館長
木村 幾多郎

筆者にもたらされた魚骨は、パンケース３函分である。哺乳動物の骨片も含まれているが、魚骨と爬虫類骨のみを報告する。

種名の査定された魚骨は以下の通りである。

魚綱　Class Pisces

１．サメ類　Lamina fami.
２．エイ類　Batoidei sp.
３．ボラ類　Mugil cephalus
４．スズキ　Lateolahrax japonicus
５．マハタ　Epinephelus sp.
６．クロダイ　Acanthopagrus schlegeli
７．マダイ　Pagrus major
８．ニベ　Nibea mitsukurii
９．アイナメ　Hexagrammos otakii
10．コチ　Platycephalus indicus

爬虫類　Class Reptilia

１．スッポン　Trionyx sinensis japonicus
２．イシガメ　Clemmys japonicus

## 検出された遺存骨

### スズキ

スズキはクロダイと並んで内湾性の代表的魚種で、本貝塚の主要魚種でもある。

計測可能な前上顎骨がなく、体長推定は出来ない。しかし、主要遺存骨である主鰓蓋骨には、大きな標本があり、いわゆるスズキと言われる程の大きさの個体は、相当数捕獲されていたと推定される。

その主鰓蓋骨は、右側155箇、左側153箇検出されており、推定最少個体数は、155体となる。スズキ主鰓蓋骨については、そこに残される刺突痕が、漁法との関係で注目されてきている。本事例は、右側155例のうち刺突痕のあるもの23例（約１／７）、左側153例のうち33例（約１／５）で全ての主鰓蓋骨に認められるわけではない。平均約１／６程度に刺突痕が認められる事になる。刺突痕を観察すると、二頭の刺突具による痕跡が多く、また同じ個体に数ヶ所以上の刺突痕が認められる例も少なくない。

各部分骨の標本数は以下の通りである。

| | | |
|---|---|---|
| 前上顎骨 | 右側3 | 左側2 |
| 主上顎骨 | 右側1 | 左側2 |
| 歯　　骨 | 右側5 | 左側8 |
| 主鰓蓋骨 | 右側155 | 左側153 |

前鰓蓋骨　　右側4　　左側5
舌 顎 骨　　右側1　　左側0
関 節 骨　　右側3　　左側5
方　　骨　　右側2　　左側0
脊 椎 骨　　72

「鱸釣　鱸釣ハ鉤根ニ天蚕糸壹尋ヲ着ケ其上ニ絹ノ撚リ糸ヲ付シ長サ二十尋ヲ一筋トス。餌ハ活海老ヲ用ユ。船一艘二人乗リテ一艘釣アリ。マタ十艘許連結シテ漁事ヲ行フアリ。各地一定ナラス。季節ハ四月ヨリ九月マテトス。」（『熊本県漁業誌』明治23年３月）

**クロダイ**

クロダイは内湾性の代表的な魚種で、スズキを凌ぐ個体数を示している。比較的残存率の良い前上顎骨pmxでは、右側248、左側238を数え、推定最少個体数は248個体となる。歯骨dn．は右側105、左側132と前上顎骨の半分程の標本数である。計測可能な前上顎骨長は表のように30㎜前後に集中しており、体長30cm程のクロダイが捕獲されていたらしい。

前上顎骨　　右側248　左側238
歯　　骨　　右側105　左側132
前鰓蓋骨　　右側2　　左側1
主鰓蓋骨　　右側2　　左側2
関 節 骨　　右側4　　左側4
角　　骨　　右側0　　左側2
脊 椎 骨　　37

**ボラ**

主鰓蓋骨が確認されている。右側43、左側41の標本をえているが、左右判定の困難な標本も６点ほどある。ボラの主鰓蓋骨にはスズキのような刺突痕は認められない。湾内のボラは、３歳（体長40cm程以下）までの未成漁ということで、黒橋貝塚の立地を考えれば湾内で捕獲された個体と考えられる。

**マダイ**

マダイで確認されている部分は、前上顎骨（右側１、左側１）のみである。脊椎骨にマダイ分が含まれている可能性はあるが少量だろう。圧倒的にクロダイが多く、マダイが少ないのは、遺跡の立地からして、貝塚周辺の生態系を主要な漁業の対象域としていた事を示している。

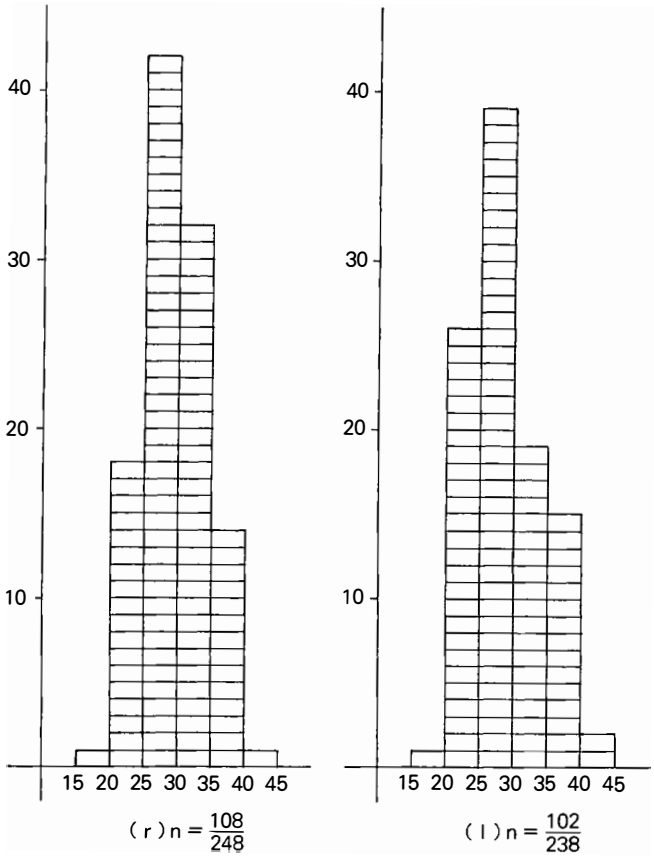
**マハタ**

前上顎骨　　右側0　　左側1

**ニベ**

歯　　骨　　右側1　　左側0

第35表　クロダイ前上顎骨長pml度数分布表




（注）分母は総個体数、分子は計測個体数

**アイナメ**

関 節 骨　　右側0　　左側1

沿岸岩礁、産卵湖　湾内水温18～19℃から12～13℃まで

**コチ**

歯　　骨　　右側1　　左側0

## 爬虫類

**スッポン**

肋 骨 板　　21個

腹 骨 板　　29個

腹骨板左右合わせて10、肋骨板左右合わせて18からすれば、捕獲個体数はそれ程多いとはいえない。周辺生態系からすれば、もっと個体数が多くても良いと思われる。

**イシガメ**

中腹骨板（左側）　１個

以上の様に、黒橋貝塚から検出された魚骨は、その殆どがクロダイ、スズキ、ボラで占められている。以上三種は、何れも内湾或は更に汽水域に入り込む魚種である。その外の少量遺存骨の魚種は沿岸域に生息する。本貝塚の立地を考えれば、ごく近い周辺生態系域内で主な漁撈活動をしていた事をしめしており、九州の内湾性貝塚における漁撈活動と異なることはない。

## 第36表　魚類遺体出土地点別一覧表（１）

| 出土区 | 層位・遺構 | 種　名 | 部　位 | 数量 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| B−8 | Ⅳ層 | スズキ | 主鰓蓋骨（Ｌ） | 1 | 刺突痕 |
| C−6 | Ⅳ層 | クロダイ | 前上顎骨（ｒ） | 1 | |
| | | 不明 | 歯板 | 1 | |
| C−7 | Ⅳ層 | クロダイ | 歯骨　（ｒ） | 1 | |
| | | エイ目 | 歯板 | 1 | |
| C−8 | Ⅳ層 | クロダイ | 前上顎骨（ｒ） | 3 | |
| | | 〃 | 〃　（Ｌ） | 1 | |
| | | 〃 | 歯骨　（ｒ） | 1 | |
| | | スズキ | 前鰓蓋骨（ｒ） | 1 | |
| | | エイ目 | 歯板 | 1 | |
| | | 不明 | 臀鰭第２棘 | 1 | |
| | | スッポン | 肋骨板 | 2 | |
| C−9 | Ⅲ層 | クロダイ | 前上顎骨（ｒ） | 3 | |
| | | 〃 | 〃　（Ｌ） | 3 | |
| | | 〃 | 歯骨　（ｒ） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（Ｌ） | 1 | |
| | | タイ | 脊椎骨 | 4 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（ｒ） | 1 | |
| | | 〃 | 前鰓蓋骨（ｒ） | 1 | |
| | | 〃 | 脊椎骨 | 4 | |
| | | 軟骨魚 | 脊椎骨 | 1 | |
| | | 不明 | 歯板 | 1 | |
| | | 〃 | 尾棘 | 1 | |
| | | 〃 | 臀鰭第２棘血管間棘 | 1 | |
| | | 〃 | 臀鰭第２棘 | 3 | |
| | | 〃 | 臀鰭棘 | 2 | |
| | | 〃 | 血管間棘 | 4 | |
| | Ⅳ層 | クロダイ | 前上顎骨（Ｌ） | 2 | |
| | | 〃 | 歯骨　（ｒ） | 2 | |
| | | 〃 | 〃　（Ｌ） | 3 | |
| | | タイ | 脊椎骨 | 1 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（ｒ） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（Ｌ） | 1 | |
| | | ボラ科 | 主鰓蓋骨（ｒ） | 2 | |
| | | 〃 | 〃　（Ｌ） | 1 | |
| | | エイ目 | 尾棘 | 1 | |
| | | 不明 | 前鰓蓋骨 | 1 | |
| | | 〃 | 脊椎骨 | 1 | |
| D−6 | Ⅳ層 | クロダイ | 前上顎骨（ｒ） | 1 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（ｒ） | 1 | |
| D−7 | Ⅳ層 | クロダイ | 前上顎骨（ｒ） | 3 | |
| | | 〃 | 〃　（Ｌ） | 2 | |
| | | 〃 | 歯骨　（Ｌ） | 1 | |
| | | タイ | 脊椎骨 | 3 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（Ｌ） | 2 | 刺突痕 |
| | | 〃 | 脊椎骨（腹椎） | 1 | |
| | | ボラ科 | 主鰓蓋骨（Ｌ） | 1 | |
| | | エイ目 | 歯板 | 1 | |
| | | 不明 | 血管間棘 | 1 | |
| | | 〃 | 擬鎖骨　（Ｌ） | 1 | |
| D−8 | Ⅲ層 | クロダイ | 前上顎骨（ｒ） | 9 | |
| | | 〃 | 〃　（Ｌ） | 10 | |
| | | 〃 | 歯骨　（ｒ） | 2 | |
| | | 〃 | 〃　（Ｌ） | 3 | |
| | | スズキ | 歯骨　（ｒ） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（Ｌ） | 2 | |
| | | 〃 | 主鰓蓋骨（ｒ） | 2 | |
| | | 〃 | 〃　（Ｌ） | 5 | 刺突痕 |
| | | 〃 | 脊椎骨 | 4 | |
| | | ボラ | 主鰓蓋骨（Ｌ） | 1 | |
| | | エイ目 | 歯板 | 1 | |
| | | 不明 | 臀鰭第２棘血管間棘 | 1 | |

| 出土区 | 層位・遺構 | 種　名 | 部　位 | 数量 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| D−8 | Ⅲ層 | 不明 | 臀鰭第２棘 | 3 | |
| | | 〃 | 棘 | 1 | |
| | | スッポン | 肋骨板 | 1 | |
| | Ⅳ層 | クロダイ | 前上顎骨（ｒ） | 1 | |
| | | タイ | 脊椎骨 | 1 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（ｒ） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（Ｌ） | 2 | 刺突痕 |
| | | 〃 | 脊椎骨 | 2 | |
| | | エイ目 | 歯板 | 1 | |
| | | 不明 | 歯板 | 2 | |
| | | 〃 | 尾棘 | 1 | |
| | | 〃 | 臀鰭棘 | 2 | |
| | | スッポン | 肋骨板 | 3 | |
| | | 〃 | 大腹骨板（Ｌ） | 1 | |
| | 1号土壙 | スズキ | 主鰓蓋骨（ｒ） | 1 | |
| | | 不明 | 臀鰭棘 | 1 | |
| | | スッポン | 下腹骨板（Ｌ） | 1 | |
| D−9 | Ⅲ層 | クロダイ | 前上顎骨（ｒ） | 9 | |
| | | 〃 | 〃　（Ｌ） | 2 | |
| | | 〃 | 歯骨　（ｒ） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（Ｌ） | 6 | |
| | | 〃 | 関節骨　（ｒ） | 1 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（ｒ） | 2 | 刺突痕 |
| | | 〃 | 〃　（Ｌ） | 3 | |
| | | 〃 | 脊椎骨 | 1 | |
| | | 〃 | 関節骨　（ｒ） | 1 | |
| | | エイ目 | 歯板 | 1 | |
| | | 不明 | 歯板 | 1 | |
| | | 〃 | 臀鰭棘 | 1 | |
| | | 〃 | 血管間棘 | 1 | |
| | | スッポン | 中腹骨板 | 1 | |
| | Ⅳ層 | クロダイ | 前上顎骨（ｒ） | 6 | |
| | | 〃 | 〃　（Ｌ） | 7 | |
| | | 〃 | 歯骨　（ｒ） | 3 | |
| | | 〃 | 〃　（Ｌ） | 4 | |
| | | タイ | 脊椎骨 | 1 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（Ｌ） | 1 | |
| | | 〃 | 脊椎骨 | 2 | |
| | | ボラ | 主鰓蓋骨（ｒ） | 1 | |
| | | エイ目 | 歯板 | 1 | |
| | | 〃 | 尾棘 | 1 | |
| | | 不明 | 歯板 | 2 | |
| | | 〃 | 臀鰭棘 | 1 | |
| | | 〃 | 血管間棘 | 5 | |
| | | スッポン | 肋骨板 | 2 | |
| D−10 | Ⅱ層 | クロダイ | 前上顎骨（ｒ） | 2 | |
| | | 〃 | 〃　（Ｌ） | 3 | |
| | | 〃 | 歯骨　（ｒ） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（Ｌ） | 1 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（ｒ） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（Ｌ） | 2 | |
| | | 〃 | 脊椎骨 | 5 | |
| | | エイ目 | 尾棘 | 1 | |
| | | 不明 | 臀鰭棘 | 1 | |
| | | スッポン | 肋骨板 | 2 | |
| | Ⅲ層 | クロダイ | 前上顎骨（ｒ） | 1 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（ｒ） | 1 | |
| | | 不明 | 棘 | 1 | |
| | Ⅳ層 | クロダイ | 前上顎骨（ｒ） | 4 | |
| | | 〃 | 〃　（Ｌ） | 3 | |
| | | 〃 | 歯骨　（ｒ） | 3 | |
| | | タイ | 脊椎骨 | 1 | |

## 第37表　魚類遺体出土地点別一覧表（２）

| 出土区 | 層位・遺構 | 種　名 | 部　位 | 数量 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| D−10 | Ⅳ層 | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 2 | |
| | | ボラ科 | 主鰓蓋骨 | 2 | |
| | | エイ目 | 歯板 | 1 | |
| D−11 | Ⅱ層 | クロダイ | 前上顎骨（r） | 1 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 3 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 1 | |
| | | 〃 | 脊椎骨 | 1 | |
| | | 不明 | 臀鰭棘 | 1 | |
| | Ⅳ層 | クロダイ | 前上顎骨（r） | 3 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 1 | |
| | | 〃 | 歯骨　（l） | 1 | |
| | | 〃 | 主鰓蓋骨（l） | 1 | |
| | | 〃 | 関節骨　（r） | 1 | |
| | | タイ | 脊椎骨 | 1 | |
| | | 軟骨魚 | 脊椎骨 | 1 | |
| | | 不明 | 棘 | 1 | |
| | 1号土壙 | スズキ | 主鰓蓋骨（l） | 1 | 刺突痕 |
| | | 不明 | 臀鰭棘 | 1 | |
| E−6 | 不明 | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 3 | 刺突痕 |
| E−7 | Ⅳ層 | クロダイ | 前上顎骨（r） | 2 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 1 | |
| | | 〃 | 歯骨　（r） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 1 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 2 | |
| | | 〃 | 脊椎骨 | 2 | |
| | | 〃 | 関節骨　（l） | 1 | |
| | | ボラ科 | 主鰓蓋骨（r） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 1 | |
| | | エイ目 | 歯板 | 1 | |
| | 1号土壙 | クロダイ | 前上顎骨（r） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 1 | |
| | 不明 | クロダイ | 前上顎骨（r） | 4 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 3 | |
| | | 〃 | 歯骨　（r） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 3 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（l） | 1 | |
| | | 〃 | 前鰓蓋骨 | 2 | |
| | | 〃 | 脊椎骨 | 1 | |
| | | エイ目 | 尾棘 | 1 | |
| | | 不明 | 背鰭棘 | 1 | |
| | | 〃 | 臀鰭棘 | 1 | |
| | | 〃 | 鰭棘 | 6 | |
| | | スッポン | 肋骨板 | 2 | |
| | | 〃 | 中腹骨板 | 1 | |
| E−8 | Ⅰ層 | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 5 | |
| | Ⅱ層 | クロダイ | 前上顎骨（l） | 3 | |
| | | 〃 | 歯骨　（r） | 1 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 2 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 4 | |
| | | スッポン | 下腹骨板（l） | 1 | |
| | | 〃 | 腹骨板 | 1 | |
| | Ⅲ層 | クロダイ | 前上顎骨（r） | 6 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 5 | |
| | | 〃 | 歯骨　（r） | 2 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 4 | |
| | | マダイ | 脊椎骨（頸椎） | 1 | |
| | | タイ | 脊椎骨 | 4 | |
| | | 〃 | 痕跡担鰭骨 | 1 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 5 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 1 | |

| 出土区 | 層位・遺構 | 種　名 | 部　位 | 数量 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| E−8 | Ⅲ層 | スズキ | 脊椎骨 | 6 | |
| | | ボラ | 主鰓蓋骨（r） | 1 | |
| | | 不明 | 歯板 | 2 | |
| | | 〃 | 尾棘 | 1 | |
| | | 〃 | 背鰭棘 | 3 | |
| | | 〃 | 臀鰭棘 | 7 | |
| | | スッポン | 肋骨板 | 1 | |
| | | 〃 | 腹骨板 | 1 | |
| | Ⅳ層 | クロダイ | 前上顎骨（r） | 4 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 3 | |
| | | 〃 | 歯骨　（l） | 2 | |
| | | 〃 | 前鰓蓋骨（r） | 1 | |
| | | タイ | 脊椎骨 | 4 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 2 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 2 | |
| | | 〃 | 脊椎骨 | 3 | |
| | | ボラ科 | 主鰓蓋骨（r） | 2 | |
| | | エイ目 | 歯板 | 4 | |
| | | 〃 | 尾棘 | 1 | |
| | | 軟骨魚 | 脊椎骨 | 2 | |
| | | 不明 | 鰭棘 | 5 | |
| | | スッポン | 肋骨板 | 1 | |
| | 2号土壙 | クロダイ | 歯骨　（r） | 1 | |
| | | ボラ | 主鰓蓋骨（r） | 1 | |
| | 4号土壙 | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 1 | |
| | 不明 | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 1 | |
| | | 不明 | 鰭棘 | 1 | |
| E−9 | Ⅱ層 | クロダイ | 前上顎骨（r） | 3 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 2 | |
| | | 〃 | 歯骨　（l） | 5 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 4 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 5 | 刺突痕 |
| | | ボラ | 主鰓蓋骨（l） | 1 | |
| | | スッポン | 肋骨板　（l） | 1 | |
| | | 〃 | 内腹板　（l） | 1 | |
| | Ⅲ層 | クロダイ | 前上顎骨（r） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 2 | |
| | | 〃 | 歯骨　（r） | 2 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 7 | |
| | | タイ | 脊椎骨 | 3 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 4 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 2 | |
| | | 〃 | 歯骨　（l） | 1 | |
| | | 〃 | 舌顎骨　（r） | 1 | |
| | | ボラ科 | 主鰓蓋骨（r） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 1 | |
| | | ギギ（？） | 胸鰭棘 | 1 | |
| | | コチ | 歯骨　（r） | 1 | |
| | | エイ目 | 歯板 | 2 | |
| | | 〃 | 尾棘 | 3 | |
| | | 不明 | 臀鰭棘 | 2 | |
| | | 〃 | 鰭棘 | 3 | |
| | | 〃 | 血管間棘 | 2 | |
| | | スッポン | 肋骨板 | 1 | |
| | | 〃 | 下腹骨板（l） | 1 | |
| | Ⅳ層 | クロダイ | 前上顎骨（l） | 1 | |
| | | 〃 | 歯骨　（l） | 1 | |
| | | 〃 | 角骨　（l） | 1 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 3 | |
| | | 〃 | 歯骨　（l） | 1 | |
| | | エイ目 | 歯骨 | 1 | |
| | Ⅴ層 | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 1 | |

## 第38表　魚類遺体出土地点別一覧表（3）

| 出土区 | 層位・遺構 | 種　名 | 部　位 | 数量 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| E−10 | Ⅱ層 | クロダイ | 歯骨（l） | 1 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 4 | 刺突痕 |
| | | 〃 | 〃　（l） | 2 | |
| | | イシガメ | 中腹骨板（l） | 1 | |
| | Ⅲ層 | クロダイ | 前上顎骨（r） | 9 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 8 | |
| | | 〃 | 歯骨　（r） | 4 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 8 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 4 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 4 | |
| | | 〃 | 前上顎骨 | 1 | |
| | | 〃 | 脊椎骨（腹骨） | 3 | |
| | | ボラ科 | 主鰓蓋骨（r） | 6 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 2 | |
| | | エイ目 | 歯板 | 3 | |
| | | 不明 | 歯板 | 1 | |
| | | 〃 | 臀鰭第２棘 | 1 | |
| | | 〃 | 臀鰭棘 | 3 | |
| | | 〃 | 血管間棘 | 1 | |
| | | スッポン | 肋骨板 | 2 | |
| | Ⅳ層 | クロダイ | 前上顎骨（r） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 2 | |
| | | スズキ | 前上顎骨（l） | 1 | |
| | | 〃 | 主鰓蓋骨（r） | 3 | 刺突痕 |
| | | 〃 | 〃　（l） | 1 | |
| | | 〃 | 脊椎骨 | 2 | |
| | | ボラ | 主鰓蓋骨（l） | 1 | |
| | | エイ目 | 尾棘 | 1 | |
| | | 不明 | 歯板 | 1 | |
| | | 〃 | 臀鰭棘 | 2 | |
| | | 〃 | 血管間棘 | 4 | |
| | 2号土壙 | スズキ | 主鰓蓋骨 | 1 | |
| E−11 | Ⅱ層 | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 3 | |
| | | エイ目 | 歯板 | 1 | |
| | | 不明 | 鰭棘 | 5 | |
| | Ⅳ層 | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 1 | 刺突痕 |
| | | 不明 | 脊椎骨 | 1 | |
| | Ⅴ層 | クロダイ | 前上顎骨（r） | 1 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 2 | |
| E−12 | Ⅱ層 | クロダイ | 前上顎骨（r） | 4 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 1 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 3 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 2 | 刺突痕 |
| | | エイ | 尾棘 | 1 | |
| | Ⅲ層 | クロダイ | 前上顎骨（l） | 1 | |
| | | 〃 | 歯骨（l） | 2 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 7 | |
| | | 〃 | 主鰓蓋骨（l） | 5 | |
| | | ボラ | 主鰓蓋骨（r） | 1 | |
| | | エイ目 | 尾棘 | 1 | |
| | Ⅳ層 | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 2 | 刺突痕 |
| | Ⅴ層 | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 1 | |
| | | 〃 | 脊椎骨 | 1 | |
| F−6 | Ⅱ層 | クロダイ | 前上顎骨（r） | 1 | |
| | | 不明 | 臀鰭棘 | 1 | |
| | Ⅳ層 | クロダイ | 前上顎骨（r） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 3 | |
| | | 〃 | 歯骨　（l） | 1 | |
| | | 〃 | 関節骨　（r） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 1 | |

| 出土区 | 層位・遺構 | 種　名 | 部　位 | 数量 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| F−6 | Ⅳ層 | タイ | 脊椎骨 | 1 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 1 | |
| | | 〃 | 前鰓蓋骨（l） | 1 | |
| | | 〃 | 歯骨　（r） | 1 | |
| | | 〃 | 脊椎骨 | 2 | |
| | | ボラ | 主鰓蓋骨（r） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 2 | |
| | | 不明 | 血管間棘 | 1 | |
| | | スッポン | 下腹骨板 | 1 | |
| | Ⅴ層 | クロダイ | 前上顎骨（l） | 1 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 1 | 刺突痕 |
| | | 〃 | 〃　（l） | 1 | |
| | | ボラ | 主鰓蓋骨（r） | 3 | |
| | | 不明 | 歯板 | 1 | |
| | | 〃 | 臀鰭棘 | 3 | |
| | | 〃 | 血管間棘 | 4 | |
| | | スッポン | 肋骨板 | 2 | |
| F−7 | Ⅲ層 | クロダイ | 前上顎骨（r） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 1 | |
| | | 〃 | 歯骨　（l） | 1 | |
| | Ⅳ層 | クロダイ | 前上顎骨（r） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 1 | |
| | | 〃 | 歯骨　（l） | 1 | |
| | | 〃 | 関節骨　（l） | 1 | |
| | | タイ | 背鰭棘 | 1 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 2 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 1 | |
| | | 〃 | 脊椎骨 | 1 | |
| | | ボラ | 主鰓蓋骨（r） | 1 | |
| | | 不明 | 血管間棘 | 1 | |
| | 1号土壙 | クロダイ | 前上顎骨（l） | 2 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 2 | 刺突痕 |
| | | 〃 | 歯骨　（l） | 1 | |
| | | 〃 | 脊椎骨 | 2 | |
| | | ボラ | 主鰓蓋骨（r） | 1 | |
| | | 不明 | 歯板 | 5 | |
| | | 〃 | 臀鰭棘 | 6 | |
| | | 〃 | 血管間棘 | 1 | |
| | 2号土壙 | クロダイ | 主鰓蓋骨（l） | 1 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 1 | |
| | | 〃 | 前鰓蓋骨（l） | 1 | |
| | | ボラ | 主鰓蓋骨（l） | 1 | |
| | | 不明 | 臀鰭棘 | 5 | |
| | 不明 | クロダイ | 前上顎骨（r） | 6 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 9 | |
| | | タイ | 脊椎骨 | 1 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 3 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 3 | 刺突痕 |
| | | 〃 | 歯骨　（l） | 1 | |
| | | ボラ | 主鰓蓋骨 | 1 | |
| | | エイ目 | 歯板 | 1 | |
| | | スッポン | 上腹骨板（l） | 1 | |
| | | 〃 | 剣状腹骨板（l） | 1 | |
| F−8 | Ⅱ層 | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 1 | |
| | Ⅲ層 | クロダイ | 前上顎骨（r） | 7 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 8 | |
| | | 〃 | 歯骨　（r） | 2 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 2 | |
| | | 〃 | 関節骨　（l） | 1 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 2 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 1 | |
| | | エイ目 | 歯板 | 5 | |

## 第39表　魚類遺体出土地点別一覧表（４）

| 出土区 | 層位・遺構 | 種　名 | 部　位 | 数量 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| F−8 | Ⅲ層 | 不明 | 歯板 | 1 | |
| | | 〃 | 臀鰭第２棘 | 3 | |
| | | 〃 | 臀鰭第２棘血管間棘 | 1 | |
| | Ⅳ層 | クロダイ | 前上顎骨（ｒ） | 3 | |
| | | 〃 | 〃　（Ｌ） | 7 | |
| | | 〃 | 歯骨　（ｒ） | 4 | |
| | | 〃 | 〃　（Ｌ） | 3 | |
| | | 〃 | 関節骨　（Ｌ） | 1 | |
| | | タイ | 脊椎骨 | 1 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（ｒ） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（Ｌ） | 1 | |
| | | 〃 | 歯骨　（Ｌ） | 1 | |
| | | 〃 | 脊椎骨 | 3 | |
| | | ボラ | 主鰓蓋骨（ｒ） | 1 | |
| | | 不明 | 歯板 | 2 | |
| | | 〃 | 臀鰭棘 | 2 | |
| | 1号土壙 | クロダイ | 前上顎骨（Ｌ） | 3 | |
| | | 〃 | 歯骨　（Ｌ） | 2 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（ｒ） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（Ｌ） | 1 | |
| | | 〃 | 脊椎骨 | 1 | |
| | | ボラ | 主鰓蓋骨（ｒ） | 2 | |
| | | 不明 | 歯板 | 3 | |
| | | 〃 | 血管間棘 | 1 | |
| | | スッポン | 肋骨板 | 2 | |
| | 4号土壙 | スズキ | 前鰓蓋骨（ｒ） | 1 | |
| | | 〃 | 関節骨　（Ｌ） | 1 | |
| | | ボラ | 主鰓蓋骨（Ｌ） | 1 | |
| | | スッポン | 腹骨板 | 1 | |
| F−9 | Ⅱ層 | クロダイ | 前上顎骨（ｒ） | 2 | |
| | | 〃 | 〃　（Ｌ） | 4 | |
| | | 〃 | 歯骨　（ｒ） | 1 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（ｒ） | 2 | 刺突痕 |
| | | 〃 | 〃　（Ｌ） | 3 | 刺突痕 |
| | | ボラ | 主鰓蓋骨 | 1 | |
| | | 不明 | 臀鰭棘 | 1 | |
| | | 〃 | 血管間棘 | 2 | |
| | Ⅲ層 | クロダイ | 前上顎骨（ｒ） | 8 | |
| | | 〃 | 〃　（Ｌ） | 6 | |
| | | 〃 | 歯骨　（ｒ） | 2 | |
| | | 〃 | 〃　（Ｌ） | 6 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（ｒ） | 4 | |
| | | 〃 | 〃　（Ｌ） | 7 | 刺突痕 |
| | | 〃 | 脊椎骨 | 3 | |
| | | ボラ | 主鰓蓋骨（ｒ） | 3 | |
| | | 〃 | 〃　（Ｌ） | 3 | |
| | | エイ目 | 歯板 | 1 | |
| | | 〃 | 尾棘 | 1 | |
| | | 不明 | 脊椎骨 | 1 | |
| | | 〃 | 臀鰭第２棘 | 2 | |
| | | 〃 | 臀鰭第２棘血管間棘 | 1 | |
| | | 〃 | 血管間棘 | 4 | |
| | | スッポン | 肋骨板 | 2 | |
| | Ⅳ層 | クロダイ | 前上顎骨（ｒ） | 2 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（ｒ） | 1 | |
| | | エイ目 | 歯板 | 4 | |
| | | 不明 | 臀鰭棘 | 3 | |
| | | 〃 | 血管間棘 | 1 | |
| | | スッポン | 中腹骨板（Ｌ） | 1 | |
| | Ⅴ層 | スズキ | 主鰓蓋骨（ｒ） | 2 | 刺突痕 |
| | 西流路 | スズキ | 主鰓蓋骨（ｒ） | 1 | |
| | | 軟骨魚 | 脊椎骨 | 1 | |

| 出土区 | 層位・遺構 | 種　名 | 部　位 | 数量 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| F−10 | Ⅱ層 | クロダイ | 前上顎骨（ｒ） | 1 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（ｒ） | 5 | |
| | | 〃 | 〃　（Ｌ） | 4 | |
| | | 〃 | 関節骨　（Ｌ） | 1 | |
| | | ボラ | 主鰓蓋骨（ｒ） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（Ｌ） | 1 | |
| | Ⅲ層 | クロダイ | 前上顎骨（Ｌ） | 1 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（ｒ） | 1 | 刺突痕 |
| | Ⅳ層 | スズキ | 主鰓蓋骨（Ｌ） | 1 | |
| | 2号土壙 | クロダイ | 前上顎骨（ｒ） | 4 | |
| | | 〃 | 〃　（Ｌ） | 3 | |
| | | 〃 | 歯骨　（ｒ） | 7 | |
| | | 〃 | 〃　（Ｌ） | 1 | |
| | | マダイ | 前上顎骨（ｒ） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（Ｌ） | 1 | |
| | | 〃 | 関節骨　（Ｌ） | 1 | |
| | | スズキ | 前上顎骨（Ｌ） | 2 | |
| | | 〃 | 主鰓蓋骨（ｒ） | 1 | 刺突痕 |
| | | 〃 | 前鰓蓋骨（Ｌ） | 2 | |
| | | 〃 | 脊椎骨 | 1 | |
| | | 〃 | 方骨　（ｒ） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（Ｌ） | 1 | |
| | | マハタ | 前上顎骨（Ｌ） | 1 | |
| | | ニベ科 | 歯骨　（ｒ） | 1 | |
| | | ボラ | 主鰓蓋骨（Ｌ） | 1 | |
| | | 不明 | 臀鰭第２棘血管間棘 | 3 | |
| | | 〃 | 臀鰭第２棘 | 3 | |
| | | 〃 | 臀鰭棘 | 7 | |
| | | 〃 | 血管間棘 | 2 | |
| | 3号土壙 | スズキ | 主鰓蓋骨（ｒ） | 1 | |
| F−11 | Ⅱ層 | クロダイ | 前上顎骨（ｒ） | 1 | |
| | | 〃 | 歯骨　（ｒ） | 1 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（ｒ） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（Ｌ） | 1 | 刺突痕 |
| | | エイ目 | 歯板 | 3 | |
| | | 不明 | 臀鰭棘 | 2 | |
| | | スッポン | 肋骨板 | 2 | |
| | Ⅲ層 | スズキ | 主鰓蓋骨（ｒ） | 1 | |
| | Ⅳ層 | クロダイ | 前上顎骨（ｒ） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（Ｌ） | 1 | |
| | | 〃 | 歯骨　（ｒ） | 1 | |
| | | 〃 | 関節骨 | 1 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（ｒ） | 1 | |
| | | 〃 | 脊椎骨 | 1 | |
| | | 不明 | 歯板 | 3 | |
| | | 〃 | 尾棘 | 5 | |
| | 2号土壙 | ボラ | 主鰓蓋骨 | 1 | |
| | 不明 | クロダイ | 前上顎骨（ｒ） | 1 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（ｒ） | 2 | |
| F−12 | Ⅱ層 | クロダイ | 前上顎骨（Ｌ） | 1 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（ｒ） | 1 | 刺突痕 |
| | | ボラ科 | 主鰓蓋骨（ｒ） | 2 | |
| | | エイ目 | 歯板 | 1 | |
| | Ⅲ層 | クロダイ | 前上顎骨（Ｌ） | 1 | |
| | | 〃 | 歯骨　（Ｌ） | 1 | |
| | Ⅳ層 | クロダイ | 前上顎骨（ｒ） | 2 | |
| | Ⅴ層 | スズキ | 主鰓蓋骨（Ｌ） | 1 | |
| | 1号土壙 | スズキ | 主鰓蓋骨（Ｌ） | 2 | 刺突痕 |
| | | 不明 | 鰭棘 | 1 | |
| G−5 | 1号土壙 | スズキ | 主鰓蓋骨（Ｌ） | 1 | 刺突痕 |
| | 不明 | クロダイ | 前上顎骨（ｒ） | 4 | |
| | | 〃 | 〃　（Ｌ） | 1 | |

## 第40表　魚類遺体出土地点別一覧表（５）

| 出土区 | 層位・遺構 | 種　名 | 部　位 | 数量 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| G−5 | 不明 | クロダイ | 歯骨　（r） | 2 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 1 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（l） | 1 | 刺突痕 |
| | | 〃 | 脊椎骨 | 1 | |
| | | ボラ | 主鰓蓋骨（l） | 2 | |
| G−6 | Ⅱ層 | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 1 | |
| | Ⅲ層 | クロダイ | 前上顎骨（r） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 2 | |
| | | 〃 | 歯骨　（l） | 3 | |
| | | タイ | 脊椎骨 | 4 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（l） | 1 | |
| | | 不明 | 歯板 | 9 | |
| | Ⅳ層 | スズキ | 主鰓蓋骨（l） | 1 | |
| | | ボラ | 主鰓蓋骨（r） | 2 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 2 | |
| | | 不明 | 脊椎骨 | 1 | |
| | | 〃 | 歯板 | 1 | |
| | 1号土壙 | ボラ | 主鰓蓋骨（l） | 1 | |
| | | 不明 | 臀鰭棘 | 2 | |
| | 2号土壙 | クロダイ | 歯骨　（r） | 1 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 1 | |
| | 不明 | クロダイ | 前上顎骨（r） | 2 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 2 | |
| | | 〃 | 歯骨　（r） | 2 | |
| | | 〃 | 角骨　（l） | 1 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 2 | |
| | | 不明 | 脊椎骨 | 1 | |
| | | 〃 | 臀鰭棘 | 1 | |
| | | 〃 | 棘 | 1 | |
| | | スッポン | 腹骨板 | 1 | |
| G−7 | Ⅲ層 | クロダイ | 前上顎骨（l） | 1 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（l） | 1 | 刺突痕 |
| | | ボラ | 主鰓蓋骨（l） | 1 | |
| | Ⅳ層 | クロダイ | 前上顎骨（r） | 1 | |
| | | 〃 | 歯骨　（l） | 1 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（l） | 1 | |
| | | 〃 | 脊椎骨 | 1 | |
| | | スッポン | 剣状腹骨板 | 1 | |
| | | 〃 | 腹板 | 1 | |
| | 1号土壙 | クロダイ | 前上顎骨（r） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 4 | |
| | | 〃 | 歯骨　（l） | 2 | |
| | | スズキ | 歯骨　（r） | 1 | |
| | | 〃 | 脊椎骨 | 1 | |
| | | ボラ | 主鰓蓋骨（r） | 1 | |
| | | ボラ科 | 〃　（l） | 1 | |
| | | 不明 | 血管間棘 | 2 | |
| | 不明 | クロダイ | 前上顎骨（r） | 7 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 3 | |
| | | 〃 | 歯骨　（r） | 4 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 5 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 1 | 刺突痕 |
| | | 〃 | 〃　（l） | 4 | |
| | | 〃 | 脊椎骨（尾椎） | 1 | |
| | | ボラ科 | 主鰓蓋骨（r） | 2 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 3 | |
| | | 不明 | 歯板 | 3 | |
| | | 〃 | 脊椎骨 | 1 | |
| G−8 | Ⅱ層 | クロダイ | 前上顎骨（r） | 1 | |
| | | 〃 | 歯骨　（r） | 1 | |

| 出土区 | 層位・遺構 | 種　名 | 部　位 | 数量 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| G−8 | Ⅱ層 | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 2 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 2 | |
| | | 不明 | 歯板 | 2 | |
| | Ⅲ層 | クロダイ | 前上顎骨（r） | 4 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 9 | |
| | | 〃 | 主鰓蓋骨（l） | 1 | |
| | | 〃 | 歯骨　（r） | 1 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（l） | 1 | |
| | | 〃 | 脊椎骨 | 2 | |
| | | 不明 | 歯板 | 1 | |
| | | 〃 | 臀鰭棘 | 8 | |
| | | 〃 | 血管間棘 | 3 | |
| | | スッポン | 肋骨板 | 2 | |
| | Ⅳ層 | クロダイ | 前上顎骨（r） | 5 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 6 | |
| | | 〃 | 歯骨　（r） | 3 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 2 | |
| | | スズキ | 前鰓蓋骨（r） | 1 | |
| | | 〃 | 関節骨　（r） | 1 | |
| | | 〃 | 脊椎骨（腹椎） | 1 | |
| | | ボラ科 | 主鰓蓋骨（r） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 1 | |
| | | エイ目 | 歯板 | 2 | |
| | | 軟骨魚 | 脊椎骨 | 1 | |
| | | 不明 | 歯板 | 1 | |
| | | 〃 | 臀鰭第２棘 | 1 | |
| | | 〃 | 臀鰭棘 | 1 | |
| G−9 | Ⅱ層 | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 4 | 刺突痕 |
| | Ⅲ層 | クロダイ | 前上顎骨（r） | 13 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 10 | |
| | | 〃 | 歯骨　（r） | 7 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 5 | |
| | | 〃 | 脊椎骨 | 4 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 2 | 刺突痕 |
| | | 〃 | 〃　（l） | 6 | 刺突痕 |
| | | 〃 | 脊椎骨 | 6 | |
| | | 〃 | 関節骨　（r） | 1 | |
| | | ボラ | 主鰓蓋骨（r） | 2 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 2 | |
| | | エイ目 | 歯板 | 7 | |
| | | 〃 | 尾棘 | 2 | |
| | | 軟骨魚 | 脊椎骨 | 1 | |
| | | 不明 | 前鰓蓋骨 | 1 | |
| | Ⅳ層 | クロダイ | 前上顎骨（r） | 2 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 1 | |
| | | 〃 | 歯骨　（r） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 1 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（l） | 1 | |
| | | ボラ | 主鰓蓋骨（r） | 1 | |
| | | エイ目 | 歯板 | 2 | |
| | 1号土壙 | クロダイ | 前上顎骨（r） | 2 | |
| | | 〃 | 歯骨　（r） | 1 | |
| | | ボラ | 主鰓蓋骨（r） | 1 | |
| | | 不明 | 歯板 | 1 | |
| | | スッポン | 肋骨板 | 2 | |
| | | 〃 | 下腹骨板（r） | 1 | |
| | 2号土壙 | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 3 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 1 | |
| | | エイ目 | 歯板 | 2 | |
| | | 不明 | 臀鰭棘 | 2 | |
| G−10 | Ⅱ層 | クロダイ | 前上顎骨（r） | 1 | |

## 第41表　魚類遺体出土地点別一覧表（６）

| 出土区 | 層位・遺構 | 種　名 | 部　位 | 数量 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| G−10 | Ⅱ層 | クロダイ | 歯骨　（Ⅰ） | 2 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（ｒ） | 3 | 刺突痕 |
| | | 〃 | 〃　（Ⅰ） | 2 | 刺突痕 |
| | Ⅲ層 | クロダイ | 前上顎骨（ｒ） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（Ⅰ） | 1 | |
| | | 〃 | 歯骨　（ｒ） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（Ⅰ） | 1 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（ｒ） | 3 | 刺突痕 |
| | | 〃 | 〃　（Ⅰ） | 1 | |
| | | 〃 | 歯骨　（ｒ） | 1 | |
| | | スッポン | 腹骨板 | 1 | |
| | 1号土壙 | クロダイ | 前上顎骨（ｒ） | 2 | |
| | | 〃 | 〃　（Ⅰ） | 1 | |
| | | 〃 | 歯骨　（ｒ） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（Ⅰ） | 1 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（ｒ） | 1 | |
| | | ボラ | 主鰓蓋骨（ｒ） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（Ⅰ） | 1 | |
| | | 不明 | 歯板 | 1 | |
| | | 〃 | 背鰭棘 | 1 | |
| | | 〃 | 血管間棘 | 1 | |
| | | 〃 | 棘 | 3 | |
| | 2号土壙 | クロダイ | 前上顎骨（ｒ） | 1 | |
| | | ボラ | 主鰓蓋骨（ｒ） | 1 | |
| | | 不明 | 主鰓蓋骨 | 2 | |
| | | 〃 | 鰭棘 | 2 | |
| G−11 | Ⅱ層 | クロダイ | 前上顎骨（ｒ） | 1 | |
| | | ボラ | 主鰓蓋骨（Ⅰ） | 1 | |
| | | エイ目 | 尾棘 | 2 | |
| | Ⅳ層 | スズキ | 主鰓蓋骨（ｒ） | 1 | |
| | 1号土壙 | クロダイ | 前上顎骨（ｒ） | 5 | |
| | | 〃 | 〃　（Ⅰ） | 4 | |
| | | 〃 | 歯骨　（ｒ） | 2 | |
| | | 〃 | 〃　（Ⅰ） | 2 | |
| | | 〃 | 前鰓蓋骨（ｒ） | 2 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（ｒ） | 6 | |
| | | 〃 | 〃　（Ⅰ） | 4 | |
| | | 〃 | 歯骨　（ｒ） | 4 | |
| | | 〃 | 〃　（Ⅰ） | 1 | |
| | | 〃 | 関節骨　（Ⅰ） | 1 | |
| | | ボラ | 主鰓蓋骨（ｒ） | 7 | |
| | | 〃 | 〃　（Ⅰ） | 7 | 刺突痕 |
| | | エイ目 | 歯板 | 2 | |
| | | 〃 | 尾棘 | 2 | |
| | | 不明 | 歯板 | 1 | |
| | | 〃 | 臀鰭第２棘 | 4 | |
| | | 〃 | 臀鰭棘 | 4 | |
| | 2号土壙 | エイ目 | 尾棘 | 1 | |
| G−12 | Ⅱ層 | クロダイ | 前上顎骨（Ⅰ） | 1 | |
| | | ボラ | 主鰓蓋骨（Ⅰ） | 1 | |
| | | 不明 | 尾棘 | 1 | |
| | Ⅴ層 | スズキ | 主鰓蓋骨（ｒ） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（Ⅰ） | 1 | |
| G−13 | Ⅲ層 | クロダイ | 前上顎骨（Ⅰ） | 1 | |
| H−5 | Ⅳ層 | クロダイ | 前上顎骨（ｒ） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（Ⅰ） | 1 | |
| | | ボラ | 主鰓蓋骨（Ⅰ） | 1 | |
| | | エイ目 | 尾棘 | 1 | |
| | | 不明 | 臀鰭棘 | 1 | |
| | | スッポン | 下腹骨板（ｒ） | 1 | |
| | 不明 | クロダイ | 歯骨　（ｒ） | 1 | |
| | | スズキ | 脊椎骨 | 1 | |

| 出土区 | 層位・遺構 | 種　名 | 部　位 | 数量 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| H−5 | 不明 | フグ | 前上顎骨（ｒ） | 1 | |
| H−6 | Ⅳ層 | クロダイ | 前上顎骨（Ⅰ） | 1 | |
| | | スッポン | 肋骨板 | 1 | |
| | 不明 | クロダイ | 前上顎骨（ｒ） | 5 | |
| | | 〃 | 〃　（Ⅰ） | 3 | |
| | | 〃 | 歯骨　（ｒ） | 2 | |
| | | 〃 | 〃　（Ⅰ） | 3 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（Ⅰ） | 2 | |
| | | 〃 | 脊椎骨 | 1 | |
| | | 不明 | 歯板 | 2 | |
| | | 〃 | 尾棘 | 1 | |
| | | 〃 | 臀鰭第２棘 | 2 | |
| | | 〃 | 臀鰭棘 | 3 | |
| | | スッポン | 中腹骨板（Ⅰ） | 1 | |
| | | 〃 | 肋骨板 | 4 | |
| | | イシガメ | 腹骨板 | 1 | |
| H−7 | Ⅲ層 | クロダイ | 前上顎骨（ｒ） | 1 | |
| | Ⅳ層 | クロダイ | 前上顎骨（ｒ） | 2 | |
| | | 〃 | 〃　（Ⅰ） | 1 | |
| | | 〃 | 歯骨　（Ⅰ） | 1 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（Ⅰ） | 2 | |
| | | エイ目 | 歯板 | 1 | |
| | | 不明 | 臀鰭棘（Ⅰ） | 1 | |
| | 1号土壙 | クロダイ | 歯骨　（ｒ） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（Ⅰ） | 2 | |
| | | スズキ | 背根骨 | 1 | |
| | 不明 | クロダイ | 前上顎骨（ｒ） | 2 | |
| | | 〃 | 〃　（Ⅰ） | 3 | |
| | | 〃 | 歯骨　（ｒ） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（Ⅰ） | 1 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（ｒ） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（Ⅰ） | 1 | 刺突痕 |
| | | ボラ | 主鰓蓋骨（ｒ） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（Ⅰ） | 1 | |
| | | エイ目 | 尾棘 | 3 | |
| H−8 | Ⅱ層 | スズキ | 主鰭蓋骨（ｒ） | 3 | 刺突痕 |
| | | 〃 | 〃　（Ⅰ） | 2 | |
| | Ⅲ層 | クロダイ | 前上顎骨（ｒ） | 19 | |
| | | 〃 | 〃　（Ⅰ） | 16 | |
| | | 〃 | 歯骨　（ｒ） | 8 | |
| | | 〃 | 〃　（Ⅰ） | 10 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（ｒ） | 4 | |
| | | 〃 | 〃　（Ⅰ） | 6 | |
| | | 〃 | 背椎骨　（ｒ） | 2 | |
| | | エイ目 | 歯板 | 2 | |
| | | 不明 | 歯板 | 4 | |
| | | 〃 | 臀鰭第２棘血管間棘 | 1 | |
| | | 〃 | 臀鰭第２棘 | 3 | |
| | | 〃 | 臀鰭棘 | 4 | |
| | | スッポン | 下腹骨板（Ⅰ） | 1 | |
| | 1号土壙 | クロダイ | 前上顎骨（ｒ） | 2 | |
| | | 〃 | 〃　（Ⅰ） | 2 | |
| | | 〃 | 歯骨　（ｒ） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（Ⅰ） | 2 | |
| | | 〃 | 脊椎骨 | 1 | |
| | | タイ | 脊椎骨 | 1 | |
| | | スズキ | 上顎骨　（ｒ） | 1 | |
| | | 〃 | 前鰓蓋骨（Ⅰ） | 1 | |
| | | 〃 | 歯骨　（Ⅰ） | 1 | |
| | | 〃 | 脊椎骨 | 1 | |
| | | ボラ | 主鰓蓋骨（ｒ） | 2 | |
| | | 不明 | 脊椎骨 | 1 | |

## 第42表　魚類遺体出土地点別一覧表（7）

| 出土区 | 層位・遺構 | 種　名 | 部　位 | 数量 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| H−8 | 1号土壙 | 不明 | 鰭棘 | 1 | |
| | | 〃 | 臀鰭棘 | 1 | |
| H−9 | Ⅱ層 | クロダイ | 前上顎骨（l） | 1 | |
| | | 〃 | 歯骨　（l） | 2 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 2 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 5 | 刺突痕 |
| | Ⅲ層 | クロダイ | 歯骨　（r） | 1 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 1 | 刺突痕 |
| | | ボラ | 主鰓蓋骨（l） | 1 | |
| | 1号土壙 | クロダイ | 前上顎骨（r） | 10 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 4 | |
| | | 〃 | 歯骨　（r） | 3 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 6 | |
| | | タイ | 脊椎骨 | 2 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（l） | 3 | 刺突痕 |
| | | 〃 | 歯骨　（l） | 1 | |
| | | 〃 | 脊椎骨（腹椎） | 1 | |
| | | ボラ | 主鰓蓋骨（r） | 2 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 1 | |
| | | エイ目 | 歯板 | 3 | |
| | | 不明 | 鰭棘 | 1 | |
| | | 〃 | 臀鰭棘 | 5 | |
| | | 〃 | 血管間棘 | 2 | |
| H−10 | Ⅱ層 | クロダイ | 前上顎骨（r） | 1 | |
| | | ボラ科 | 主鰓蓋骨（r） | 1 | |
| | 1号土壙 | クロダイ | 前上顎骨（l） | 2 | |
| | | 〃 | 歯骨　（l） | 2 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 1 | |
| | | 〃 | 歯骨　（l） | 1 | |
| | | ボラ | 主鰓蓋骨（l） | 1 | |
| | | 不明 | 臀鰭棘 | 1 | |
| | 2号土壙 | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 2 | |
| I−7 | Ⅳ層 | クロダイ | 前上顎骨（r） | 4 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 4 | |
| | | 〃 | 主鰓蓋骨（l） | 1 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 1 | |
| | | 〃 | 脊椎骨 | 1 | |
| | | ボラ科 | 主鰓蓋骨（l） | 1 | |
| I−8 | Ⅱ層 | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 4 | 刺突痕 |
| | Ⅲ層 | クロダイ | 前上顎骨（r） | 6 | 刺突痕 |
| | | 〃 | 〃　（l） | 23 | |
| | | 〃 | 主鰓蓋骨（r） | 11 | |
| | | 〃 | 歯骨　（r） | 2 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 10 | |
| | | マダイ | 方骨　（l） | 8 | |
| | | タイ | 脊椎骨 | 1 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 4 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 7 | |
| | | 〃 | 脊椎骨 | 4 | 刺突痕 |
| | | ボラ | 主鰓蓋骨（r） | 4 | |
| | | アイナメ | 関節骨　（l） | 4 | |
| | | エイ目 | 歯板 | 1 | |
| | | 〃 | 尾棘 | 10 | |
| | | 不明 | 背鰭棘 | 2 | |
| | | 〃 | 臀鰭棘 | 1 | |
| | | 〃 | 鰭棘 | 1 | |
| | | スッポン | 腹甲板 | 7 | |
| | Ⅳ層 | スズキ | 後頭骨　（r） | 1 | |
| | | ボラ | 主鰓蓋骨（r） | 1 | |

| 出土区 | 層位・遺構 | 種　名 | 部　位 | 数量 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| I−8 | Ⅳ層 | 不明 | 臀鰭第２棘 | 2 | |
| | 1号土壙 | クロダイ | 前上顎骨（r） | 1 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（l） | 2 | |
| | | 〃 | 関節骨　（l） | 1 | |
| | | ボラ | 主鰓蓋骨（r） | 2 | |
| | | 不明 | 血管間棘 | 1 | |
| I−9 | Ⅱ層 | クロダイ | 前上顎骨（r） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 2 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 4 | 刺突痕 |
| | | 〃 | 〃　（l） | 1 | |
| | | 〃 | 歯骨　（l） | 1 | |
| | | エイ目 | 尾棘 | 1 | |
| | Ⅲ層 | クロダイ | 前上顎骨（l） | 1 | |
| | | 〃 | 歯骨　（l） | 1 | |
| | | スズキ | 前上顎骨（r） | 1 | |
| | | 〃 | 関節骨　（l） | 1 | |
| | | エイ目 | 歯板 | 2 | |
| | | 不明 | 第１血管間棘 | 3 | |
| | | 〃 | 臀鰭棘 | 4 | |
| | | 〃 | 鰭棘 | 1 | |
| | | スッポン | 腹骨板 | 1 | |
| | Ⅳ層 | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 1 | |
| | | ボラ科 | 主鰓蓋骨（r） | 2 | |
| | | 不明 | 臀鰭第２棘 | 1 | |
| | 1号土壙 | クロダイ | 前上顎骨（l） | 4 | |
| | | 〃 | 歯骨　（r） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 2 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 1 | |
| | | 〃 | 歯骨　（l） | 1 | |
| | | 〃 | 脊椎骨 | 3 | |
| | | ボラ | 主鰓蓋骨（r） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 2 | |
| | | 不明 | 歯板 | 5 | |
| | | 〃 | 臀鰭棘 | 2 | |
| | | 〃 | 血管間棘 | 10 | |
| | 不明 | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 1 | |
| J−8 | Ⅲ層 | クロダイ | 前上顎骨（l） | 1 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 1 | |
| | | 不明 | 臀鰭棘 | 6 | |
| | | 〃 | 血管間棘 | 1 | |
| 不明 | Ⅰ層 | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 1 | |
| | Ⅱ層 | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 1 | |
| | Ⅳ層 | スズキ | 主鰓蓋骨（l） | 1 | |
| | 不明 | クロダイ | 前上顎骨（r） | 7 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 4 | |
| | | 〃 | 歯骨　（r） | 5 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 1 | |
| | | タイ | 脊椎骨 | 3 | |
| | | スズキ | 主鰓蓋骨（r） | 5 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 5 | 刺突痕 |
| | | 〃 | 前鰓蓋骨（l） | 1 | |
| | | 〃 | 歯骨　（r） | 1 | |
| | | 〃 | 脊椎骨 | 3 | |
| | | ボラ | 主鰓蓋骨（r） | 1 | |
| | | 〃 | 〃　（l） | 3 | |
| | | 軟骨魚 | 脊椎骨 | 1 | |
| | | 不明 | 歯板 | 3 | |
| | | 〃 | 臀鰭棘 | 1 | |

# 第４節　黒橋貝塚出土の植物遺体

名古屋大学文学部教授
渡辺　　誠

## １．植物遺体のリスト

1980年度に熊本県教育庁文化課によって発掘された、下益城郡城南町黒橋貝塚出土の大形植物遺体（種子類）は、次の８種である。時期は中期阿高式期を主とするが、一部後期に及んでいる。サンプルとして送付された資料と種名、および時期との関係は第１表に示すとおりである（写真１）。

１．ぶな科アラカシ　Quercus glauca Thunb.
２．ぶな科イチイガシ　Quercus gilva Blume.
３．ぶな科コナラ属の１種　Quercus sp.
４．ばら科モモ　Trapa Japonica Flerov.
５．とうだいぐさ科アブラギリ　Aleurites cordata Thunb.
６．うるし科チャンチンモドキ　Choerospondias axiillaris（Roxb.）B. L. Burtt et A. W. Hill.
７．うり科ヒョウタン仲間　Lagenaria sp.
８．ひし科ヒシ　Prunus.

## ２．出土状態と時期

Ｃ９区Ⅲ層のモモ１点のみ包含層からの出土で、他はすべて貯蔵穴内からの出土である。後者はすべて中期・阿高式期に属すが、前者は中～後期（南福寺・出水式期）で阿高式も混在している。これらのうち食用価値や低湿地貯蔵の必然性のないものを除くと、アラカシ・イチイガシ・コナラ属の１種などのドングリ類の他は、混在したものとみなされる。数量の少なさもそのことを示唆していると考えられる。

しかし出土状態とは別に、それぞれに有用性があることも重要であり、それが混入の背景であると考えられる。

## ３．ドングリ類の検討

本遺跡出土のドングリ類はイチイガシが主体であり、86%を占めている。これに対してアラカシは１%にすぎない。十分に検討できなかったこれら以外の13%のコナラ属を加えても、イチイガシの優勢は確かである。

次にイチイガシもアラカシもカシ類（アカガシ亜属）であり、クヌギ・ナラ類（コナラ亜属）の有無が問題になるが、殻斗はすべてカシ類のものであり、クヌギ・ナラ類は含まれていないと判断される。

これらの種の同定は、アク抜きの必要性の有無・方法の差異との関係において重要なのであり、日本列島に約20種あるドングリ類を第45表のように分類している。

コナラ亜属とアカガシ亜属には大きな違いがある。第１は分布の違いである。前者は東北日本の落葉広葉樹林帯に、後者は西南日本の照葉樹林帯に分布し、それぞれの代表的な樹木である。本遺跡は照葉樹林帯に位置しており、その特徴をよく示している。

第２の違いは、アク抜きの方法の違いである。どの種類も製粉してしまえば、水さらしだけでよいが、粒のままの場合も後者は水さらしだけでよいが、前者は100回以上に及ぶ煮沸と水さらしとを３日間かけて繰り返す必要がある。

**第43表　植物遺体数量表**

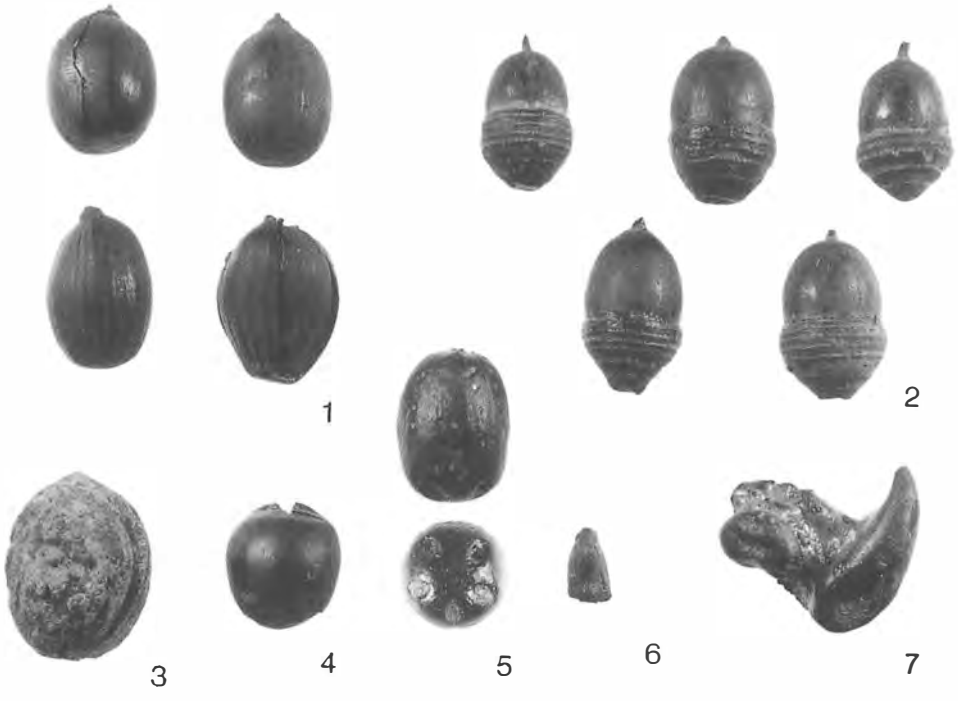
| 遺　構 | 時　期 | アラカシ | イチイガシ | カシ類穀斗 | コナラ属 | モモ | アブラギリ | チャンチンモドキ | ヒョウタン仲間 | ヒシ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Ｃ６区１号土壙 | 中期（阿高式） | 5 | 134 | 2 | 56 | | 3 | 3 | | |
| Ｄ６区１号土壙 | 〃 | 10 | 32 | | 33 | | | | | |
| Ｄ６区２号土壙 | 〃 | | 50 | 1 | 26 | | | 3 | 1 | |
| Ｇ10区１号土壙 | 〃 | | 4 | 50 | 1 | | | | | |
| Ｉ９区１号土壙 | 〃 | | 1298 | | 118 | | | 3 | | 10 |
| Ｊ７区１号土壙 | 〃 | 1 | 68 | 1 | 12 | | | 2 | | |
| Ｇ９区Ⅲ層 | 中～後期 | | | | | 1 | | | | |
| 計 | | 16 | 1586 | 54 | 246 | 1 | 3 | 11 | 1 | 10 |

本遺跡では、１％のアラカシと13％のコナラ属とが水さらしだけでよい種類に分類される。そして同じカシ類でありながらイチイガシのみは、シイ類と同様にアク抜きを必要としないという大きな特徴がある。

したがって本遺跡のような低湿地における貯蔵は、アク抜きとはまったく関係がないことは明らかである。このことは、宇土市曽畑貝塚の貯蔵穴群においても確認されている。低湿地貯蔵は、乾燥させて長期保存させる場合と異なり、短期間の生貯蔵なのである。その目的は、乾燥させると処理が面倒になるので、秋に採集してその冬食べる分だけを生貯蔵するということにある。乾燥貯蔵は主に屋根裏などで行われる。本遺跡においても二つの方法が行われていたことであろう。

**第44表　ドングリ類数量表（カッコ内は％）**

| 土壌 | アラカシ | イチイガシ | コナラ属 | 計 |
|---|---|---|---|---|
| Ｃ６区１号 | 5( 2.6) | 134(68.7) | 56(28.7) | 195(100.0) |
| Ｄ６区１号 | 10(13.3) | 32(42.7) | 33(44.0) | 75(100.0) |
| Ｄ６区２号 | — | 50(65.8) | 26(34.2) | 76(100.0) |
| Ｇ10区１号 | — | 4(80.0) | 1(20.0) | 5(100.0) |
| Ｉ９区１号 | — | 1298(91.7) | 118( 8.3) | 1416(100.0) |
| Ｊ７区１号 | 1( 1.2) | 68(84.0) | 12(14.8) | 81(100.0) |
| | 16( 0.9) | 1586(85.8) | 246(13.3) | 1848(100.0) |




写真Ⅰ　植物遺体（実大）
1：アラカシ、2：イチイガシ、3：モモ、4：アブラギリ、5：チャンチンモドキ、6：ヒョウタン仲間、7：ヒシ

**第45表　ドングリ類の分類**

| 民　族　分　類 | 属 | | 種（出土例のみ） | 森　林　帯 |
|---|---|---|---|---|
| A．クヌギ類<br>製粉または加熱処理＋水さらし | コナラ属 | コナラ亜属 | クヌギ<br>カシワ | 落葉広葉樹林帯<br>（東北日本）<br>（韓　国） |
| B．ナラ類<br>製粉または加熱処理＋水さらし | | | ミズナラ<br>コナラ | |
| C．カシ類<br>水さらしのみ | | アカガシ亜属 | アカガシ<br>アラカシ | 照葉樹林帯<br>（西南日本）<br>（韓国南海岸） |
| D．シイ類など | | | イチイガシ<br>ツブラジイ・スダジイ<br>マテバシイ | |
| | シイノキ属 | | | |
| | マテバシイ属 | | | |

## 4．ドングリ類以外の検討

次にドングリ類以外の種子について記すことにする。

a．モモ

カキ・ウメなどとともに弥生時代にもたらされた果樹であり、混入の可能性がある。１点のみ出土しており、その高さ・幅・厚さは、それぞれ2.40、1.89、1.68cmである。

b．アブラギリ

中部地方以南から九州にかけて分布する落葉高木であり、種子から桐油をとる。材は器具、漆器をみがく木炭に、樹皮は皮をなめすタンニン、染料をとる。

c．チャンチンモドキ

熊本県・鹿児島県に分布する落葉高木であり、果実は食べられるがうまくないという。宇土市曽畑貝塚などでも出土している。

d．ヒョウタン仲間

ヒョウタン仲間には食べられる種類と、食べられない種類とがあり、前者の代表例はカンピョウであり、後者のそれは千成リビョウタンである。しかし種子だけでは区別ができない。

１粒のみ出土していて、その高さ・幅は、それぞれ0.90、0.55cmで、曽畑貝塚出土例に比べるともっとも小型の例に近い。

e．ヒシ

水辺の繁茂する水草の果実で美味しい。遺跡の選地条件の一つに挙げられるであろう。

## ５．本遺跡の特徴

本遺跡出土の食料資源としての大型植物遺体の特徴は、イチイガシが圧倒的に優先していることである。ドングリ類のなかでもナラ類ではなくカシ類が多いことが、九州をはじめとする西南日本の特徴であるが、カシ類のなかでも唯一アク抜きを必要としないイチイガシが優先しているということは、黒橋人の主体的な適応の姿を示しているとともに、背後にイチイガシの豊富な森のあったことが推定されるのである。おそらくこのことが集落立地の重要な条件の一つであったと考えられる。

東北日本の縄文時代遺跡に多いクリが出土していないこと、カヤやオニグルミもきわめて少ないことも、西南日本の照葉樹林帯の特徴をよく示しているということができる。

そして宇土市曽畑貝塚などと同様に低湿地の貯蔵穴が確認され、縄文時代の生活が一段と実証的に判明してきた意義も大きい。関連する石器群などの研究と関連づけて、総合的に研究する方向が強くなることを期待したい。

## 謝　辞

調査の機会を与えられ種々御教示頂いた熊本県教育庁文化課の高木正文氏、資料整理に御協力頂いた名古屋大学大学院研究生の長田友也氏に対し、末筆ながら深謝の意を表する次第である。

# 第V章　総　　括

# 第Ⅴ章　総　　括

宇土半島基部や雁回山周辺には、曽畑貝塚や轟貝塚等多くの縄文時代貝塚が集中している。特に緑川の支流浜戸川流域は、黒橋貝塚、阿高貝塚、御領貝塚、ソビエ石貝塚等の貝塚が集中している地域である。

これらの地域の遺跡は、小林久雄氏や江坂輝彌氏等による調査研究により、九州地方の縄文時代土器研究に重要な諸型式の設定を行った標式遺跡が多く存在している。

今回報告を行った黒橋貝塚は、浜戸川右岸に位置し対岸の阿高貝塚と近接した位置関係にある。さらに、阿高貝塚の南方丘陵上に御領貝塚が存在する。

黒橋貝塚では、貝塚形成以前の第Ⅴ層から並木式土器や阿高式系土器群が、貝塚形成段階の第Ⅳ～Ⅲ層から阿高式系土器群がまとまって検出されている。このことから、当該貝塚は並木式土器期以後阿高式系土器段階に形成された貝塚であることが理解される。このことは、第Ⅲ章第１節のまとめの細分編年に従えば、黒橋Ⅲ期段階以降に形成されたことになる。しかし、この細分編年は出土層位を基本とし、土器の施文様式による型式学的検討によるものであり、他の遺物との対応関係等の詳細な検討は行っていない。大略対応関係を示すならば、黒橋Ⅰ・Ⅱ期＝第Ⅴ層、黒橋Ⅲ～Ⅶ期＝第Ⅳ層、黒橋Ⅷ、Ⅸ期＝第Ⅲ層となる。

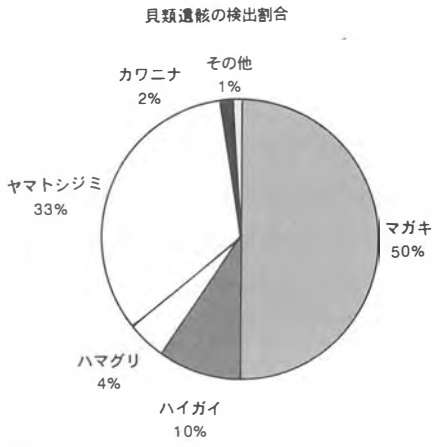
また、当該貝塚からは住居址は検出されておらず集落との位置関係は不明である。貝層は今回調査を実施した地点から北に点在していることが確認され、南に位置する阿高貝塚とは貝層の連続は認められないことが確認されている。また、当該貝塚の土（貝）層の堆積状況とその傾斜から類推すると、今回調査を実施した範囲の東側に住居址を含む集落が存在する可能性が考えられる。

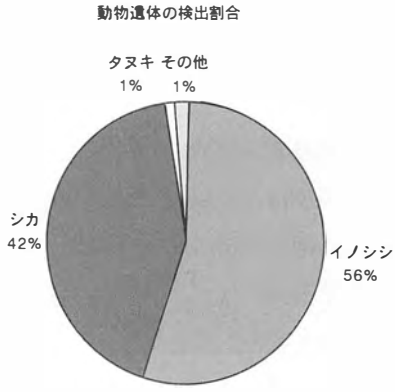
また、貝塚という遺跡の特性から魚貝類や動植物遺体が比較的良好に保存され、これらから得られる情報と遺跡に遺棄・廃棄された石器群から貝塚を形成した当時の人々の生活や、生業を類推することが可能である。つまり、遺跡内に残滓として廃棄された動植物遺体の捕獲・採集の時期から、貝塚を形成した人々の季節ごとの生産活動を知ることができる。

哺乳類遺体は、イノシシ、シカがもっとも多く全体の95％を占めている。この他に、オオカミ、タヌキ、アナグマ、テン、イタチ、ノウサギ、ムササビ、ネズミ、ニホンザル、鯨、イルカと狩猟対象動物は多岐にわたっている。さらに、鳥類、爬虫類、両生類等もあり動物性蛋白質を豊富に確保していたことが窺える。

採集活動によって獲得されるものには、堅果類といった植物質食料と貝類がある。貝塚を形成した人々が採集した貝類は、それぞれ生息域が異なり、当時の生業活動域を知ることができる。砂泥地及び泥地干潟に生息するマガキ、ハイガイ、サルボウガイ、オキシジミやハマグリのような砂地干潟～砂地潮下帯に生息するもの、河川感潮域潮下帯のヤマトシジミ等があり、浜戸川河口や海辺の干潟周辺で積極的に採集を行っていた様子が窺える。しかし、１点ではあるが外海砂地潮下帯のチュウセンハマグリも検出されている。これらの貝類のなかで主体を占めるものはマガキである。

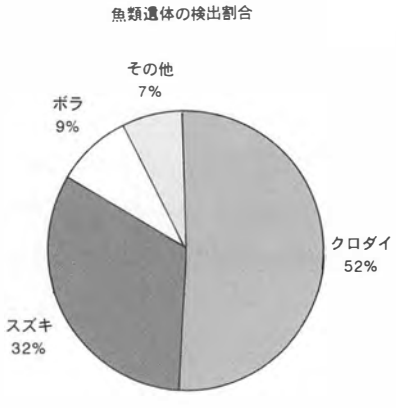
堅果類では、イチイガシ、アラカシ、コナラ属、ヒシ等がみられる。これらの植物質食料は、イチイガシがもっとも多く堅果類の85.8％を占めている。これらの堅果類は、アク抜きを必要としないイチイガシと水さらしだけでよいアラカシ、コナラ属が選択的に採集され食料とされていることは、興味深い事実である。また、当該貝塚から堅果類を貯蔵した土壙が検出されている。このことは、秋に採集した堅果類を保存食として一定期間貯蔵していたことを示している。しかし、低湿地に形成された貝塚内に貯蔵穴が存在することから、堅果類は乾燥させず生のままで保存していたことになり、その保存期間はさほど長期間に及ぶものではない。つまり、換言すれば当時の年間を通した生活サイクルのなかで、春～秋にかけて食料が比較的安定的に確保され、集団構成員の生命を維持するために堅果類を長期間保存する必要がなかったことを意味して

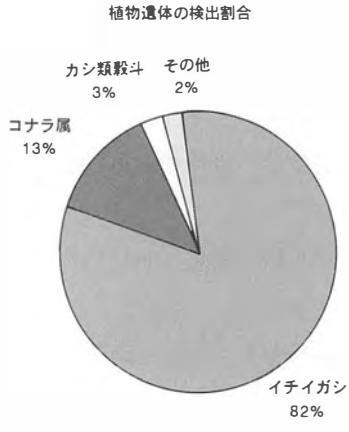



| その他の内訳 | |
|---|---|
| チョウセンハマグリ | 0.06% |
| サルボウガイ | 0.06% |
| オキシジミ | 0.39% |
| カガミガイ | 0.06% |
| マツカゼガイ | 0.06% |
| ナミマガシワ | 0.13% |
| イボウミニナ | 0.06% |
| フトヘナタリ | 0.06% |
| ツメタガイ | 0.06% |
| テングニシ | 0.06% |

| その他の内訳 | |
|---|---|
| アナグマ | 0.15% |
| テン | 0.04% |
| イタチ | 0.03% |
| ノウサギ | 0.33% |
| ムササビ | 0.10% |
| サル | 0.13% |
| クジラ | 0.19% |
| イルカ | 0.03% |




| その他の内訳 | |
|---|---|
| マダイ | 0.21% |
| マハタ | 0.21% |
| ニベ | 0.21% |
| アイナメ | 0.21% |
| コチ | 0.21% |
| スッポン | 5.74% |
| イシガメ | 0.21% |

| その他の内訳 | |
|---|---|
| アラカシ | 0.80% |
| チャンチンモドキ | 0.54% |
| ヒシ | 0.48% |
| アブラギリ | 0.14% |
| ヒョウタン仲間 | 0.04% |

第187図　季節別生業活動

いる。

また、漁撈活動はタイ類、ボラ、スズキ、サメ類等が貝塚から検出されていることから、狩猟活動や植物質食料の採集、貝類の捕獲採集とともに、生産活動のなかで重要な位置づけがなされていたものと考えられる。このことは、検出された石器群の組成のなかに各種の石錘が存在することや、土器片を錘として転用した土器片錘の存在、骨角製刺突具も検出されていることからも窺える。しかし、骨角製の釣針は明確には検出されていないが、釣針形石製品の存在から釣針が漁撈活動に利用されていた可能性は高く、捕獲される魚類はその魚種によって捕獲時期が異なることが予想される。

石器群の組成のなかで磨製石斧の占める割合が高いことも当該貝塚の特徴としてあげることができる。この種の石器は、樹木の伐採に利用されたものであり、その数量の多さは積極的に樹木を伐採し、加工を加え利用していたことを示唆するものであろう。つまり、集落を形成する段階での樹木の伐採だけでなく、その利用の様態は住居の建築材、道具の柄、舟の製作材等が考えられる。このことは、磨製石斧の形態のなかに「ノミ」として分類できる石器が存在することから、伐採後の木材を加工していたことが類推できる。

当該土器文化の分布域が、西北九州から南九州までの沿岸部に集中していることから、舟の製作・使用も想定できるかもしれない。

また、阿高式系土器群の底部に鯨の椎骨の圧痕が認められるものが存在している。このことは、単に土器の製作台としての利用という意味だけでなく、鯨の捕獲・獲得の可能性を考えることができる。捕獲の方法については、漁による捕獲であるのか、座礁した鯨の捕獲・獲得であるのかは断定できないが、少なくとも阿高式系土器文化を共有していた集団では、何らかの方法で獲得した鯨を食料とし、その椎骨を土器の製作台として利用していたことは事実である。しかし、阿高式系土器文化以後、鯨の椎骨の利用の痕跡が土器底部から消滅する。これらのことから阿高式系土器文化を共有した人々は、海を生活の主要な舞台としていた集団であるといえるのかもしれない。

（村崎孝宏）

【参考文献】


西田道世　1976　『黒橋』　熊本県文化財調査報告第

江本　直　1988　『曽畑』　熊本県文化財調査報告第100集

岡村道雄編　1984　『里浜貝塚Ⅲ』　東北歴史資料館

〃　1986,87　『里浜貝塚Ⅴ・Ⅵ』　東北歴史資料館

松藤和人編　1990　『伊木力遺跡』　同志社大学文学部文化学科

# 写 真 図 版

１　遺跡全景

２　遺跡全景

図版２

１　調査風景

２　貝層堆積状況

１　Ｇ－８区　Ⅲ層　土器出土状況

２　Ｇ－８区　Ⅳｂ層　猪の下顎骨出土状況

図版４

１　Ｄ－10区　Ⅳｂ層　土器出土状況

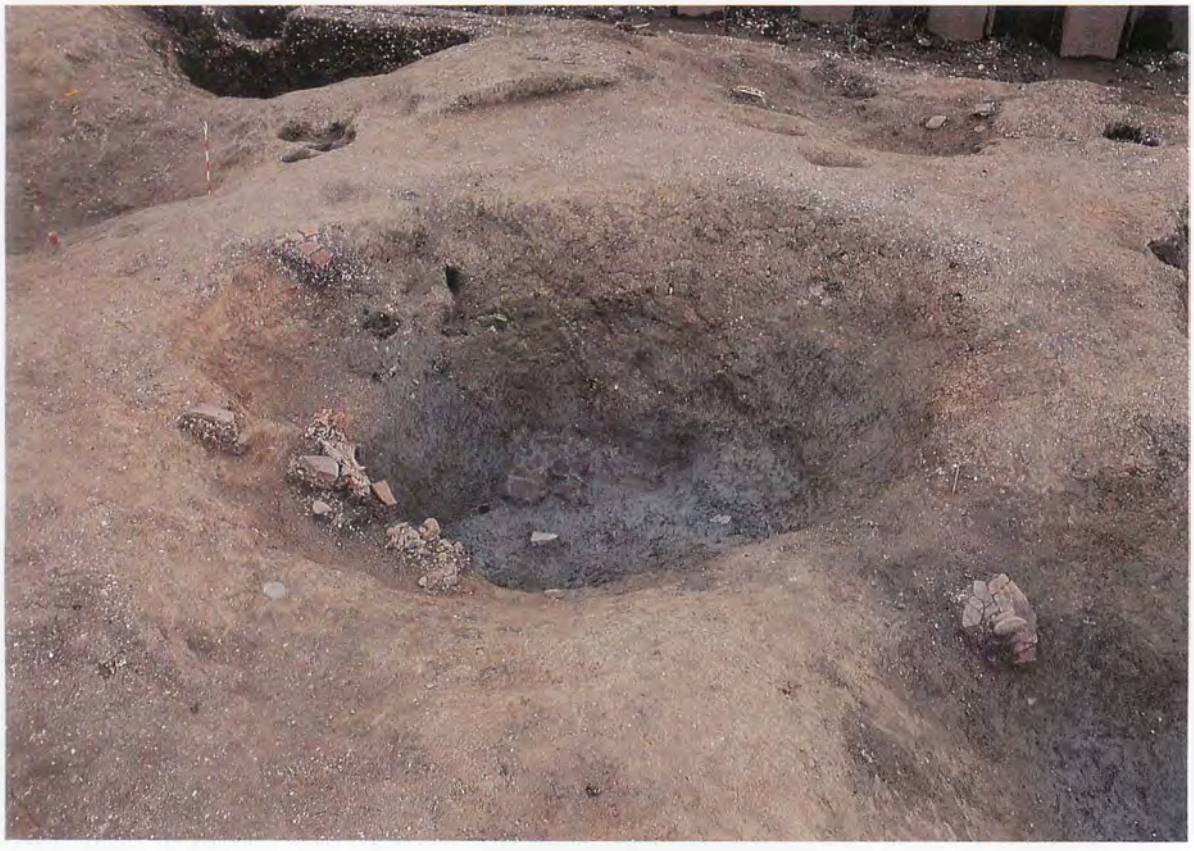
２　Ｆ－５区　Ⅳｂ層　遺物出土状況

１　Ｄ－10区　１号土壙　猪の下顎骨出土状況

２　Ｇ－９区　２号土壙　遺物出土状況

図版６

１　G－11区　１号土壙　遺物出土状況



２　H－９区　１号土壙　遺物出土状況

縄文土器

図版８

1　猪牙製垂飾

2　鹿角製簪

１　南東から見た調査区

２　調査風景

図版10

1　C－8区　Ⅳb層　猪の下顎骨集積出土状況

2　C－9区　1号土壙　発掘状況

1　D－8区　Ⅳb層　土器出土状況

2　D－9区　Ⅵb層　猪の頭骨出土状況

図版12

1　D－9区　2号土壙　猪の頭骨出土状況

2　D－10区　1号土壙　鹿の下顎骨出土状況

1　E－10区　2号土壙　発掘状況

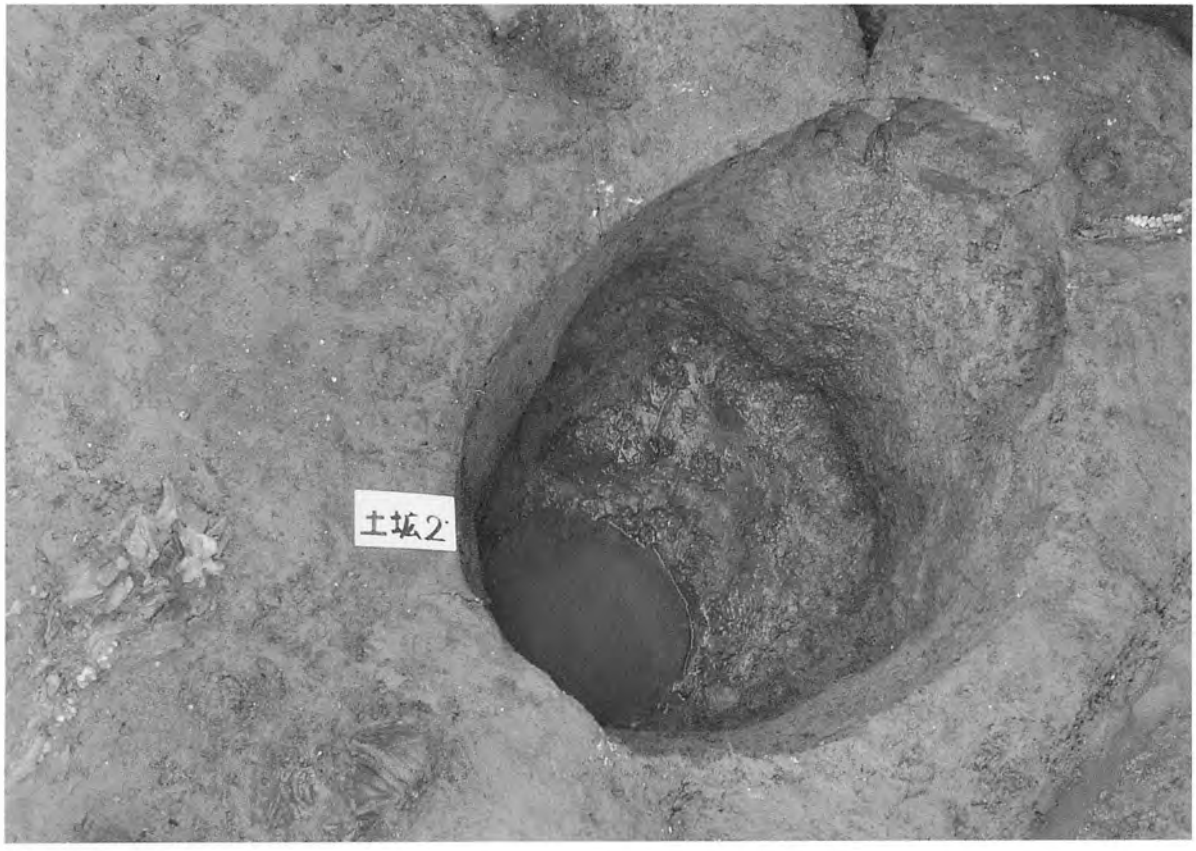
2　F－6区　Ⅶb層　土器出土状況

図版14

1　E－10区　Ⅵb層　土器出土状況

2　F－10区　Ⅵb層　土器出土状況

1　F－12区　1号土壙　礫出土状況

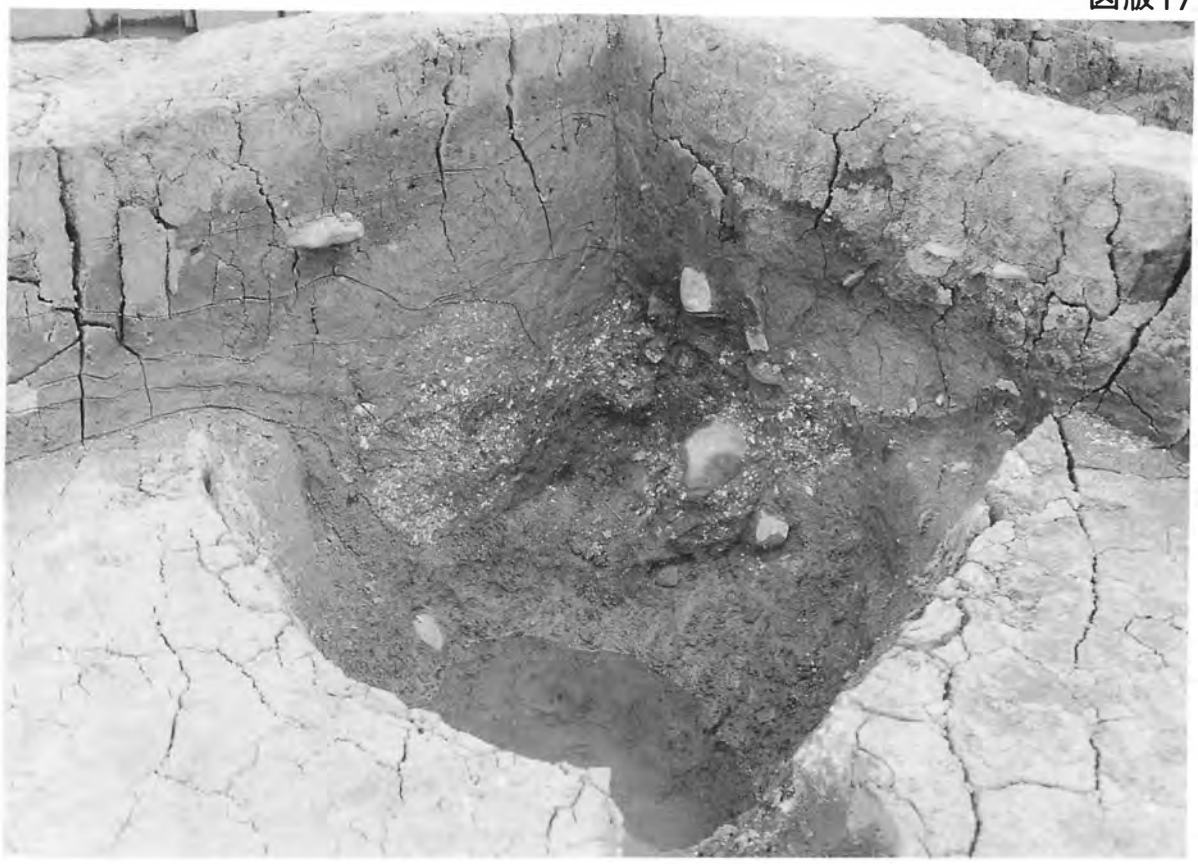



2　F－12区　2号土壙　完掘状況

図版16

1　G－8区　Ⅲ層　土器出土状況

2　G－9区　1号土壙　発掘状況



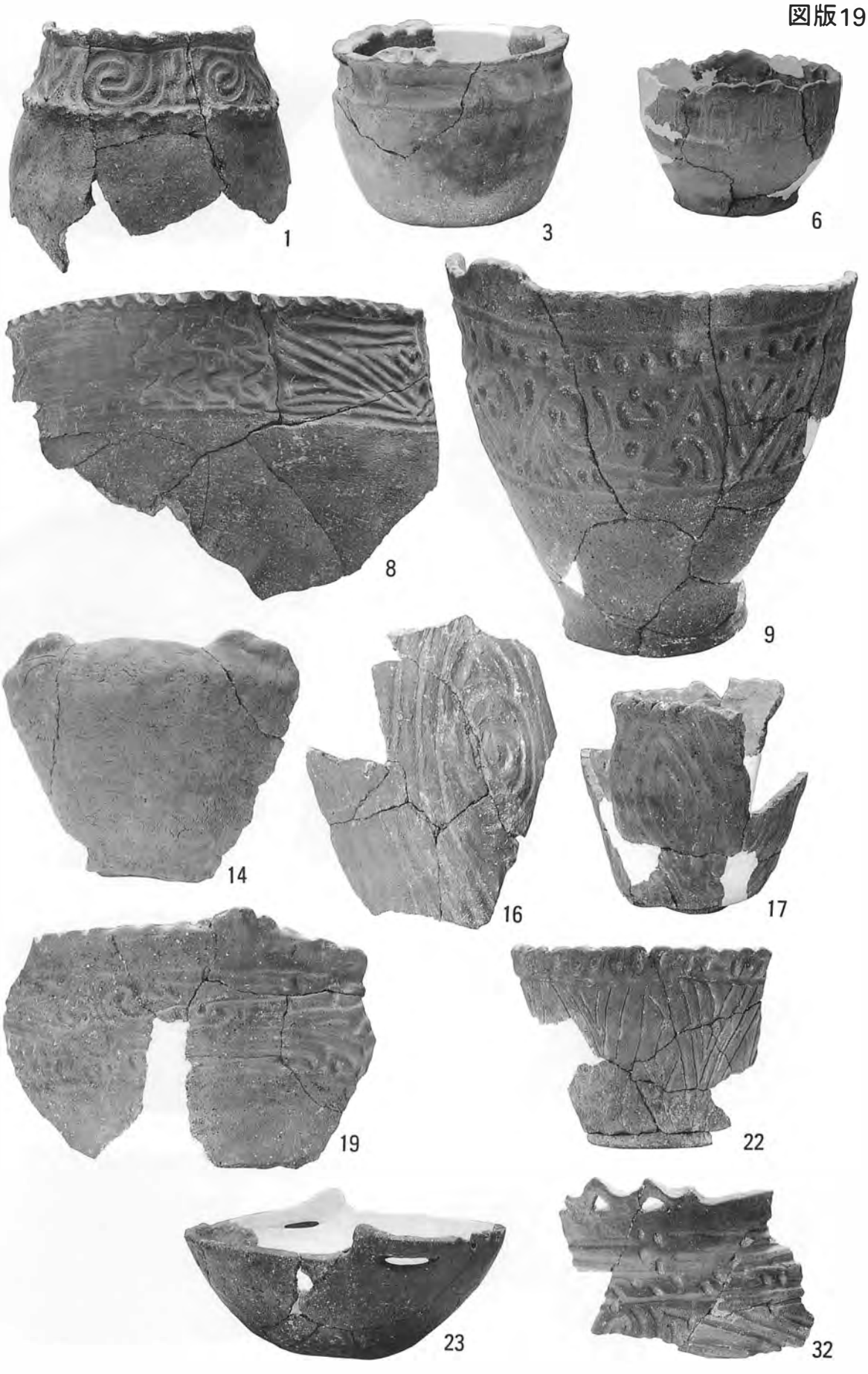
1　G－10区　1号土壙　発掘状況

2　G－11区　1号土壙　発掘状況

図版18

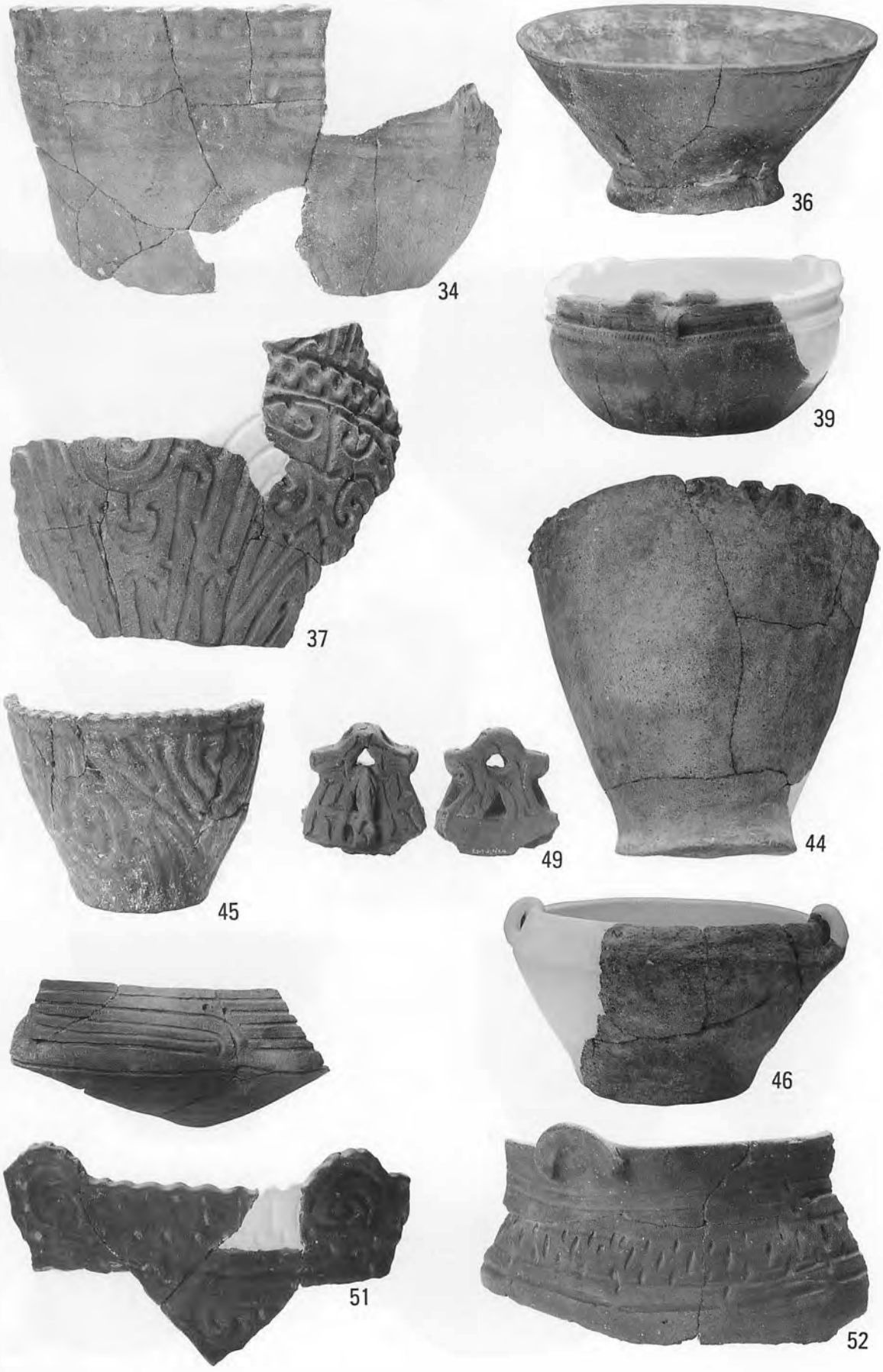
1　G－11区　1号土壙　土器出土状況

2　G－11区　1号土壙底　猪の頭骨出土状況

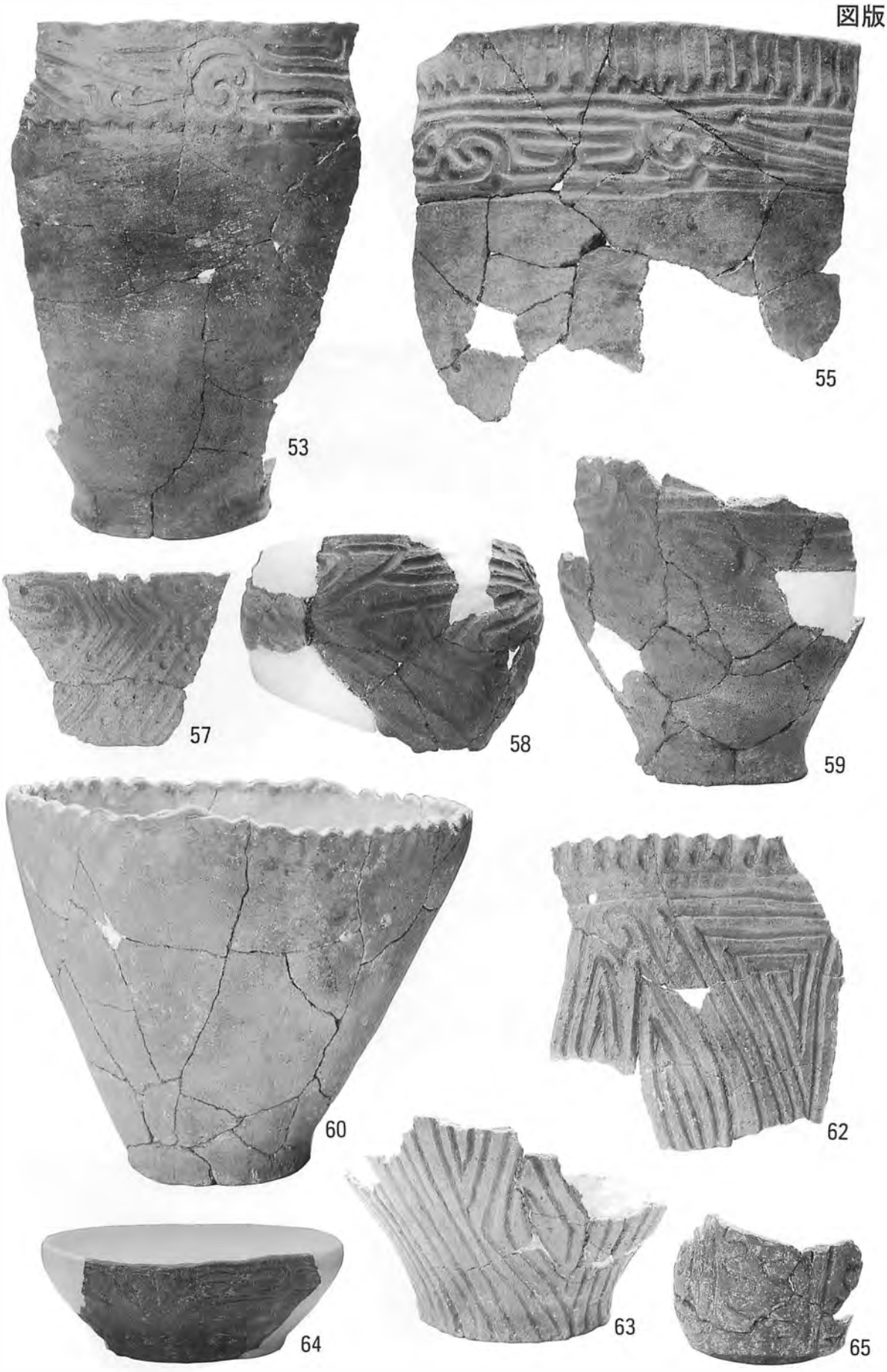



縄文土器（１）（番号は挿図中の番号に一致）　（×1/4）

図版20




縄文土器（２）（番号は挿図中の番号に一致）　（×1/4）

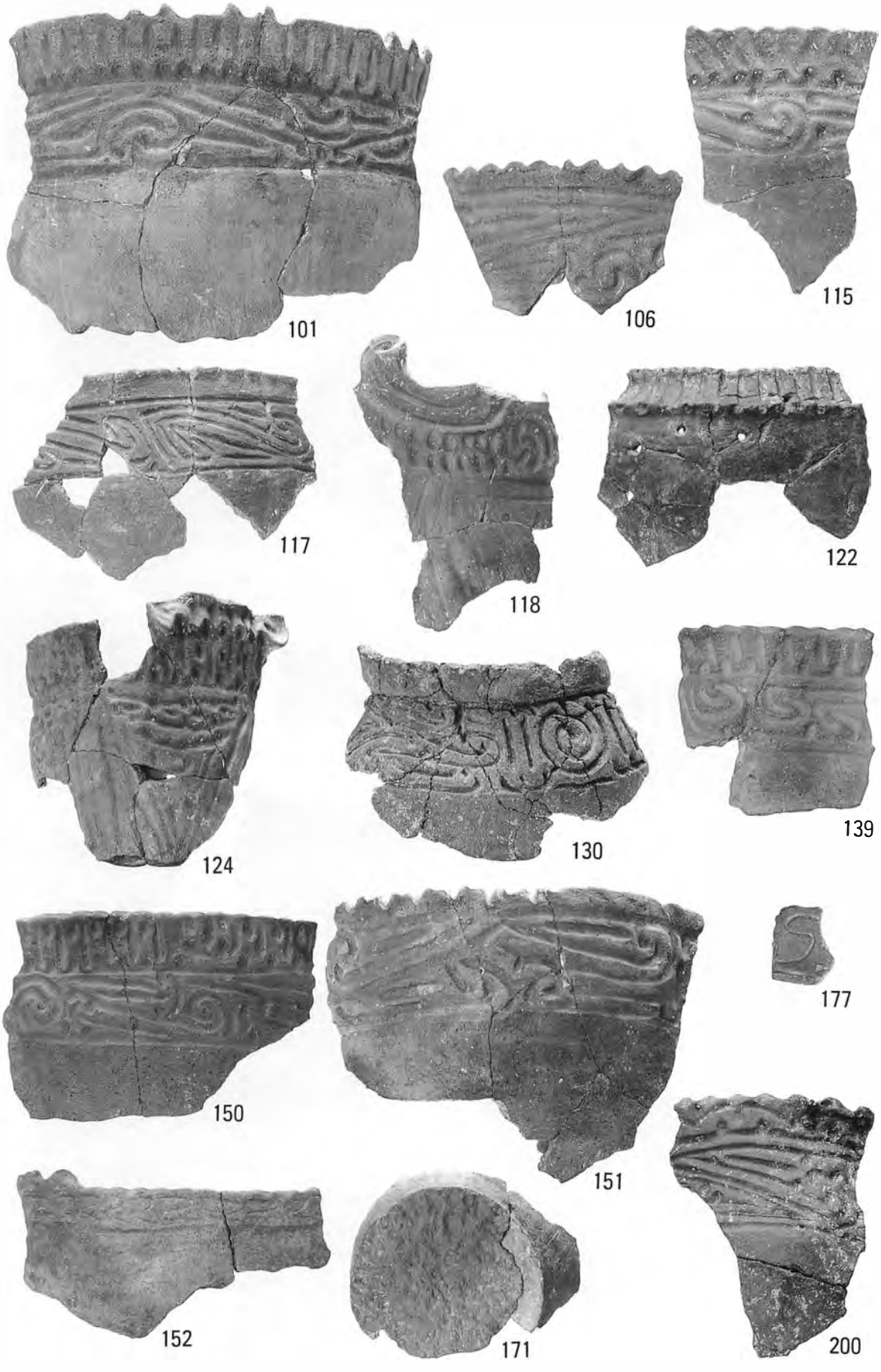



縄文土器（３）（番号は挿図中の番号に一致）　（×1/4）

図版22

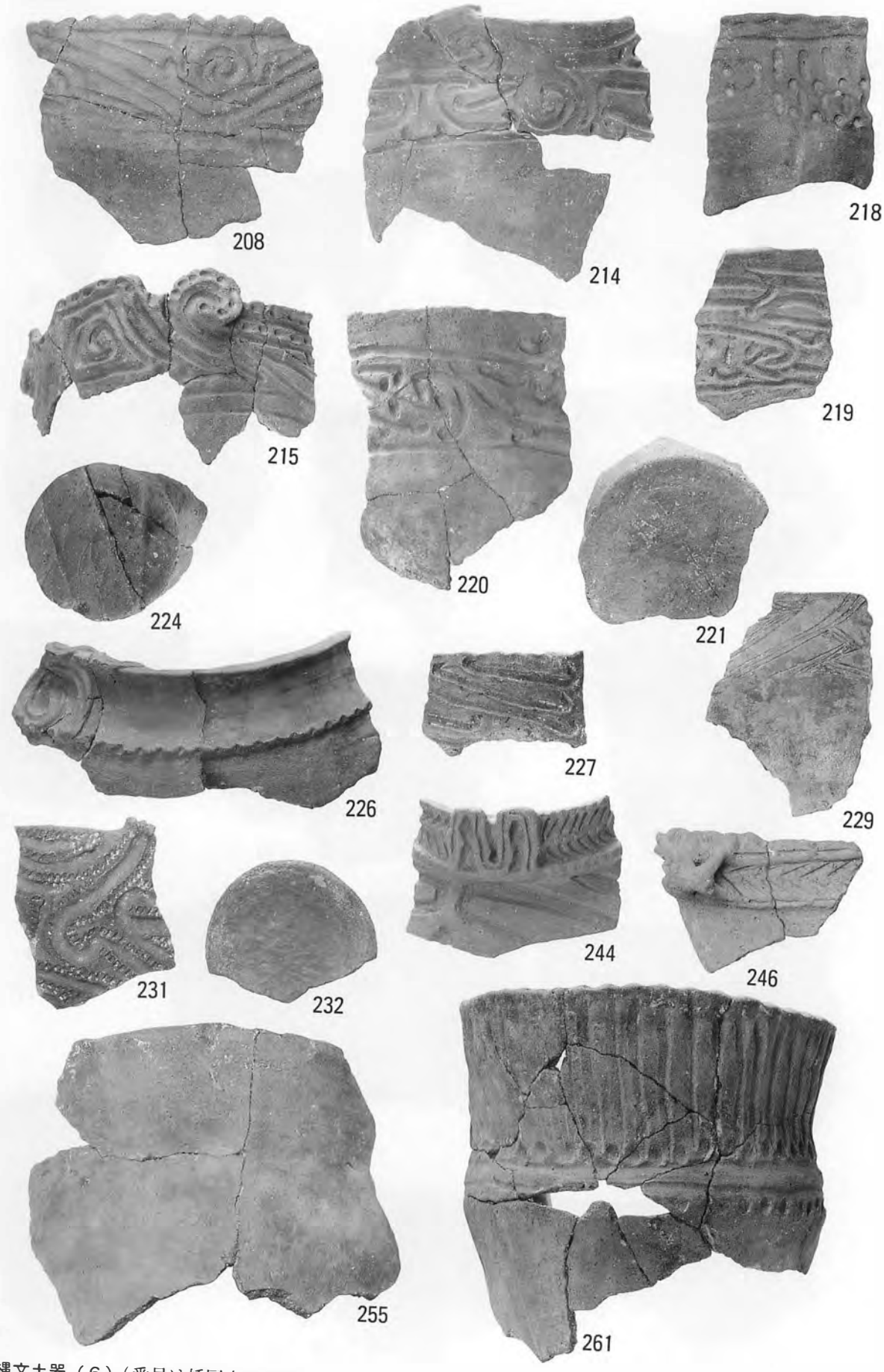
縄文土器（４）（番号は挿図中の番号に一致）

（×1/4）



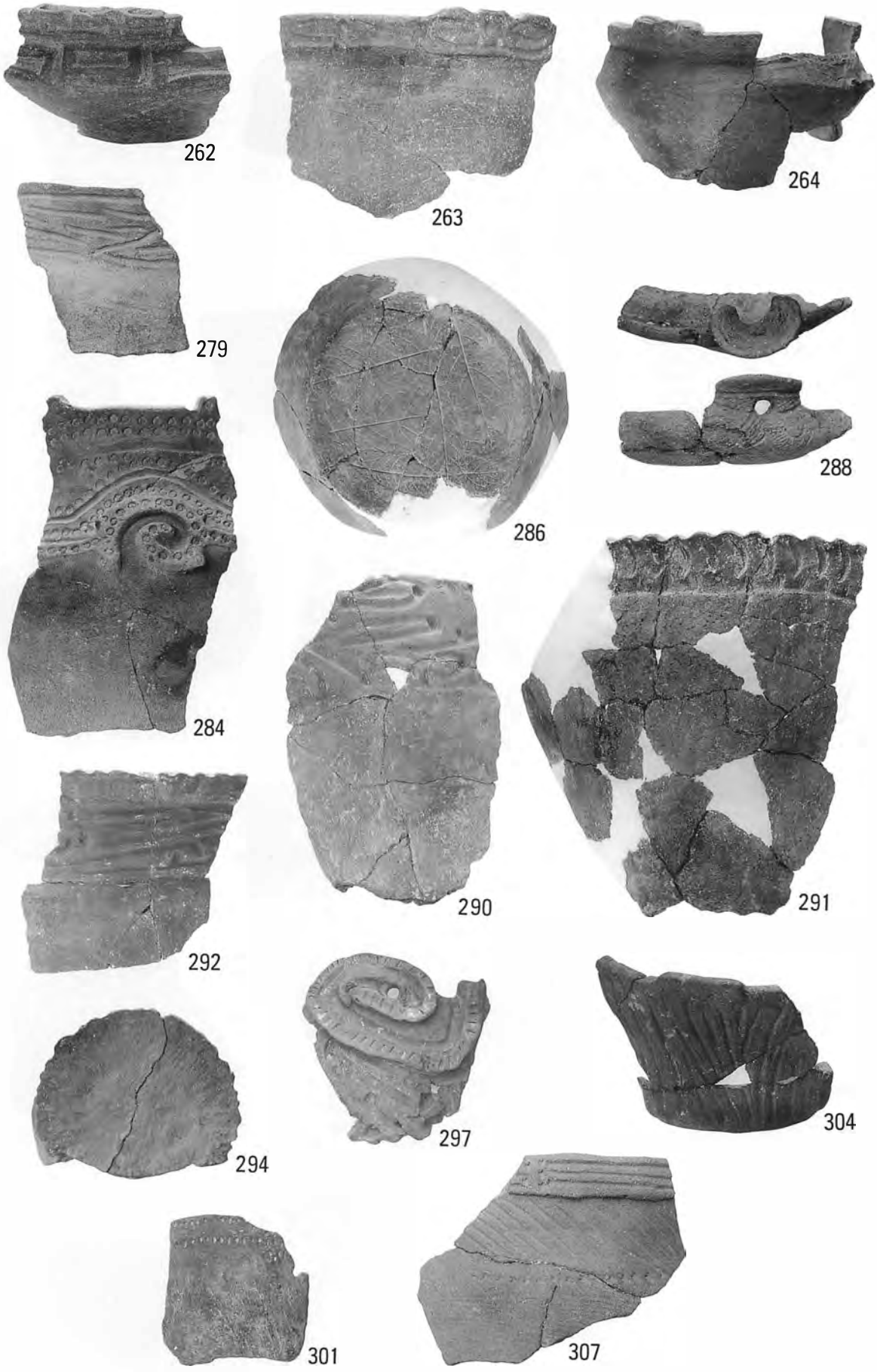

縄文土器（５）（番号は挿図中の番号に一致）　（×1/4）

# 図版24




縄文土器（６）（番号は挿図中の番号に一致）

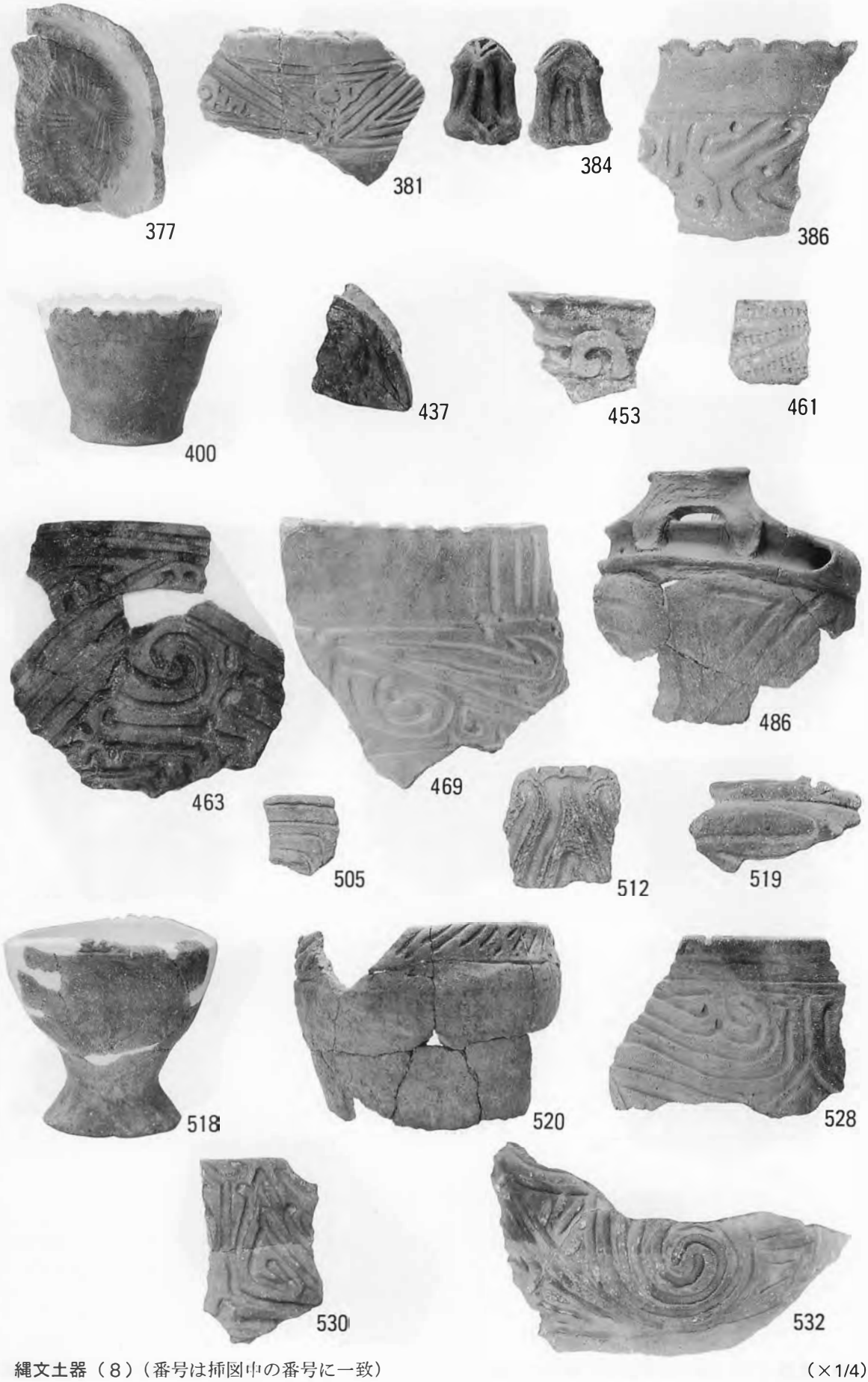
（×1/4）



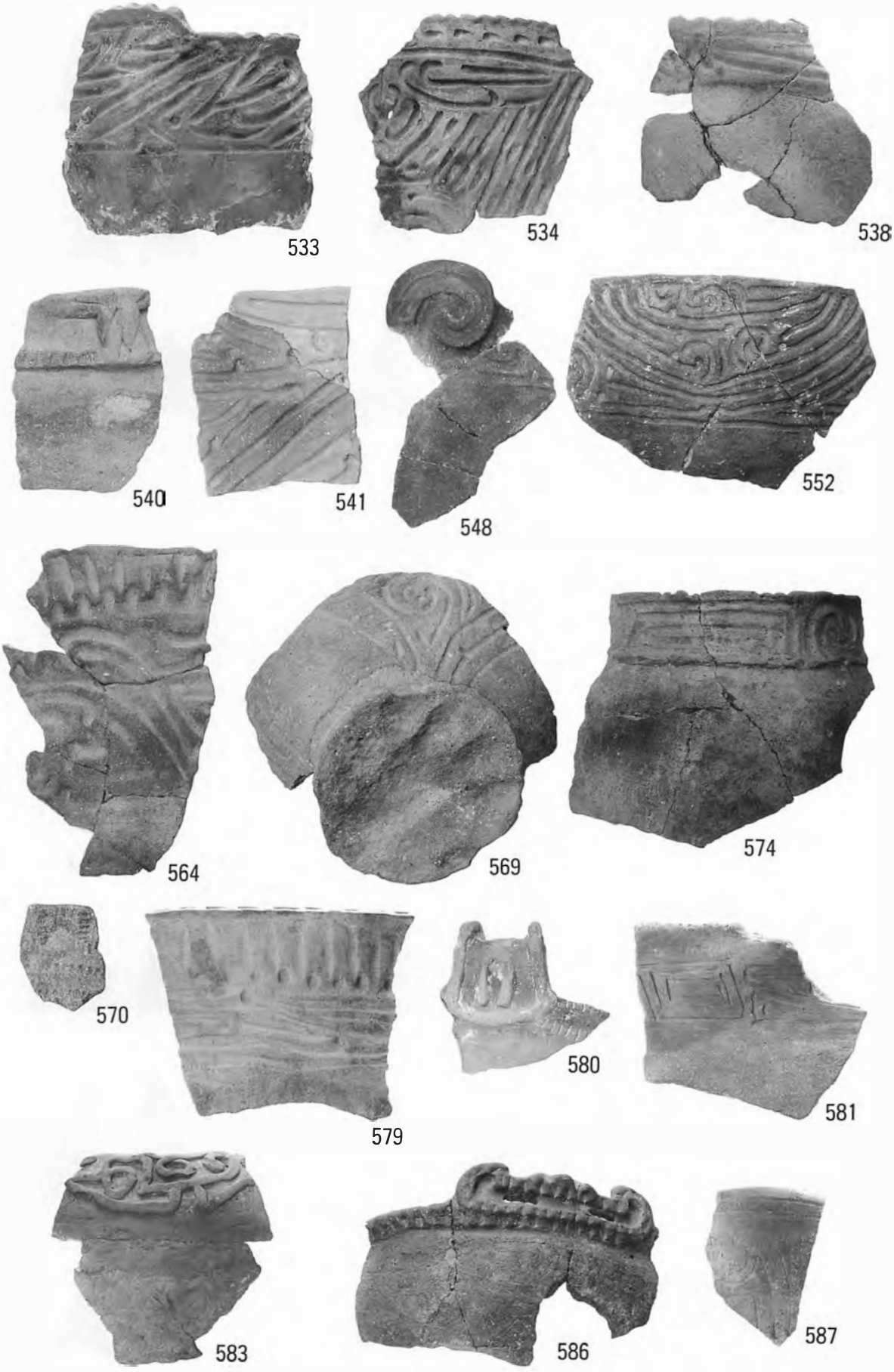

縄文土器（7）（番号は挿図中の番号に一致）

（×1/4）

図版26

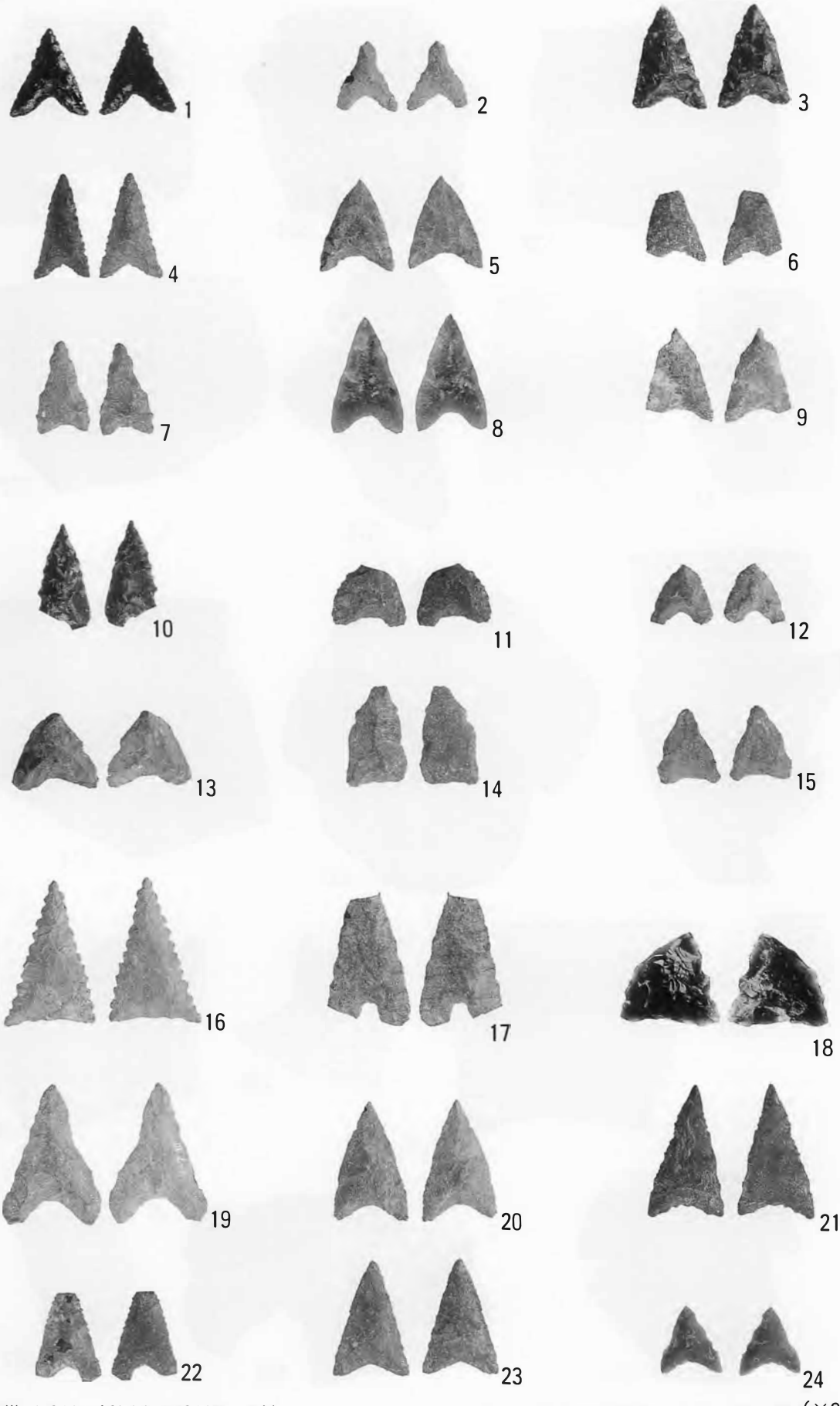



縄文土器（８）（番号は挿図中の番号に一致）　（×1/4）




縄文土器（９）（番号は挿図中の番号に一致）　（×1/4）

図版28




石鏃（番号は挿図中の番号に一致）

（×2/3）

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

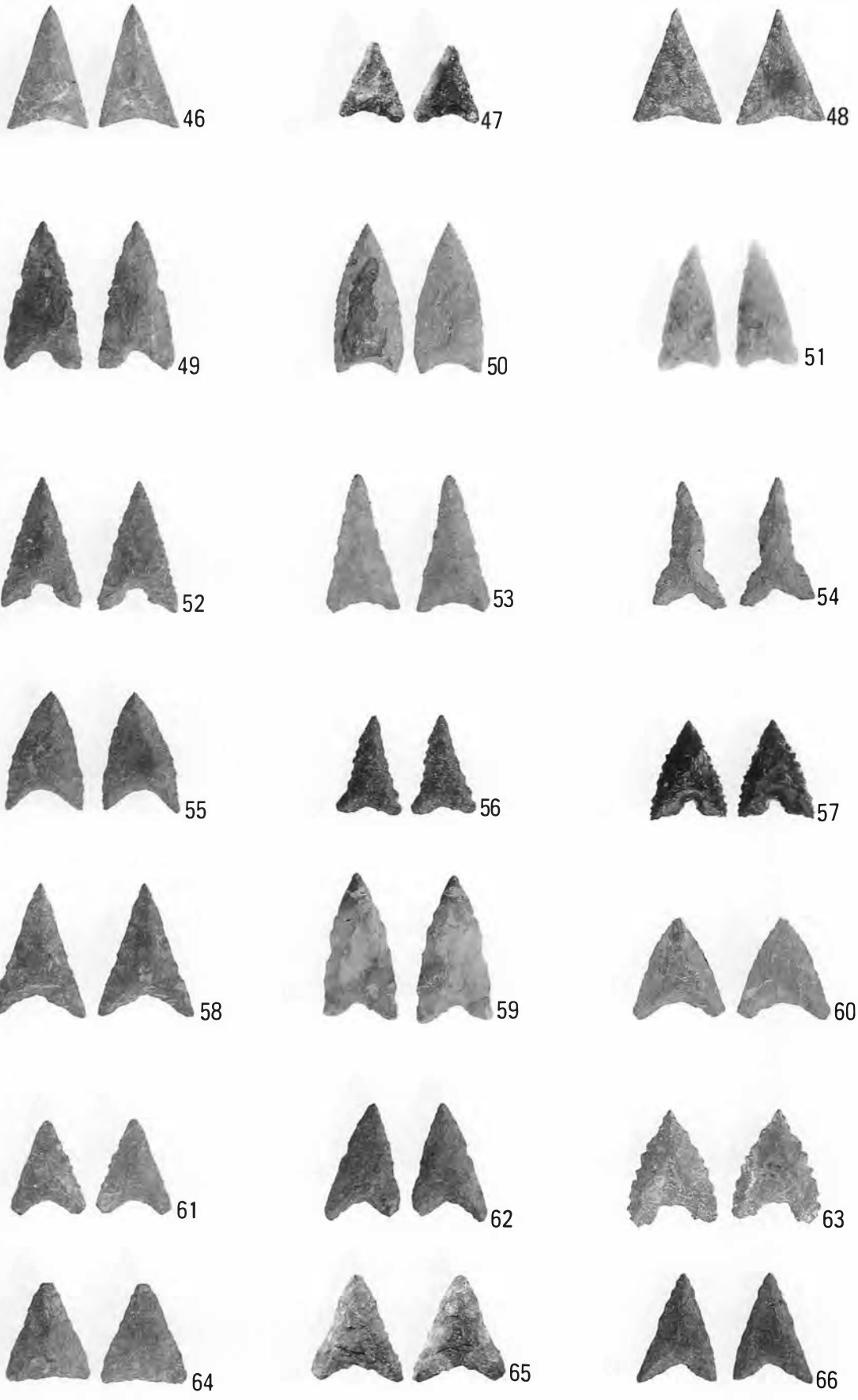
44

45

石鏃（番号は挿図中の番号に一致）

（×2/3）

図版30




石鏃（番号は挿図中の番号に一致）　（×2/3）

石鏃・石鋸・石錐・尖頭状石器（番号は挿図中の番号に一致）　（×2/3）

# 図版32

石匙（番号は挿図中の番号に一致）

（×2/3）

91

92

93

94

95

97

96

98

99

100

**石匙・抉入石器**（番号は挿図中の番号に一致）　（×2/3）

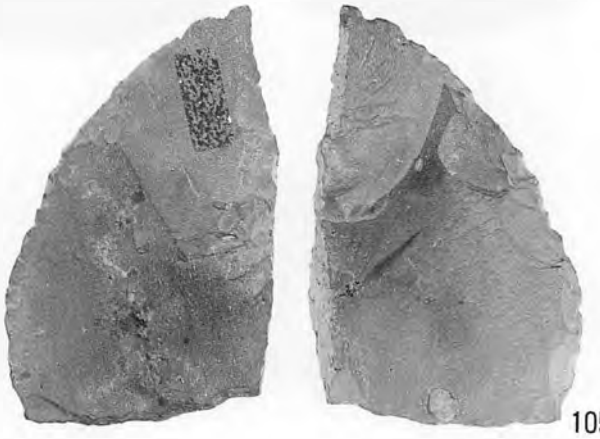
図版34

101

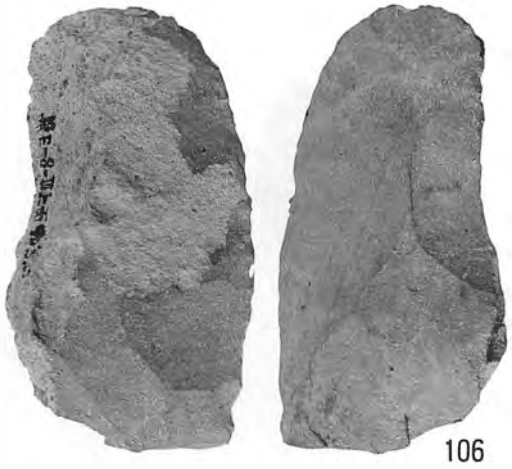
102

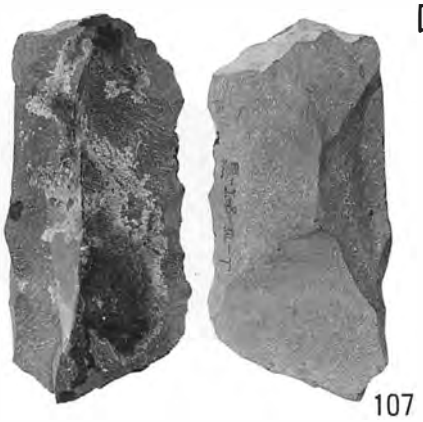
103

104

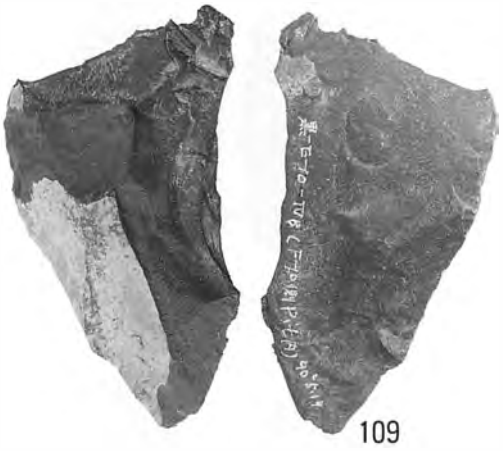

105

挟入石器・スクレイパー（番号は挿図中の番号に一致）　（×2/3）

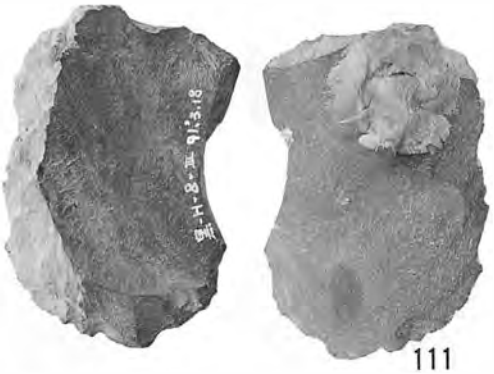

106

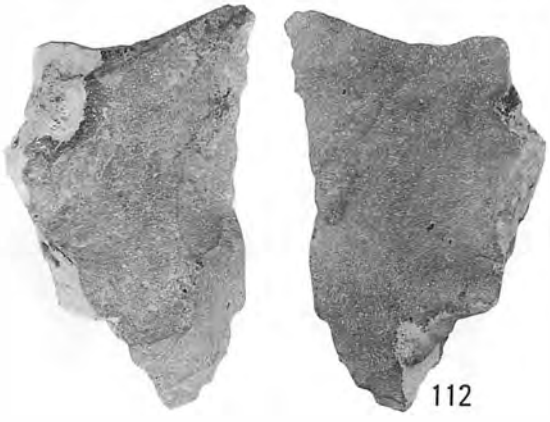

107

108


109

110


111


112

113

スクレイパー（番号は挿図中の番号に一致）

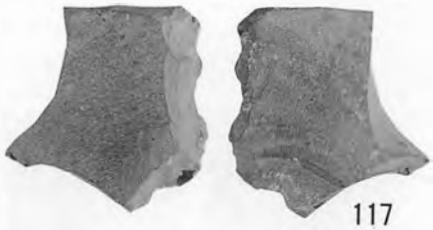
（×2/3）

図版36

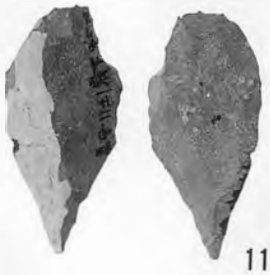
114

115

116


117

118


119

120

121

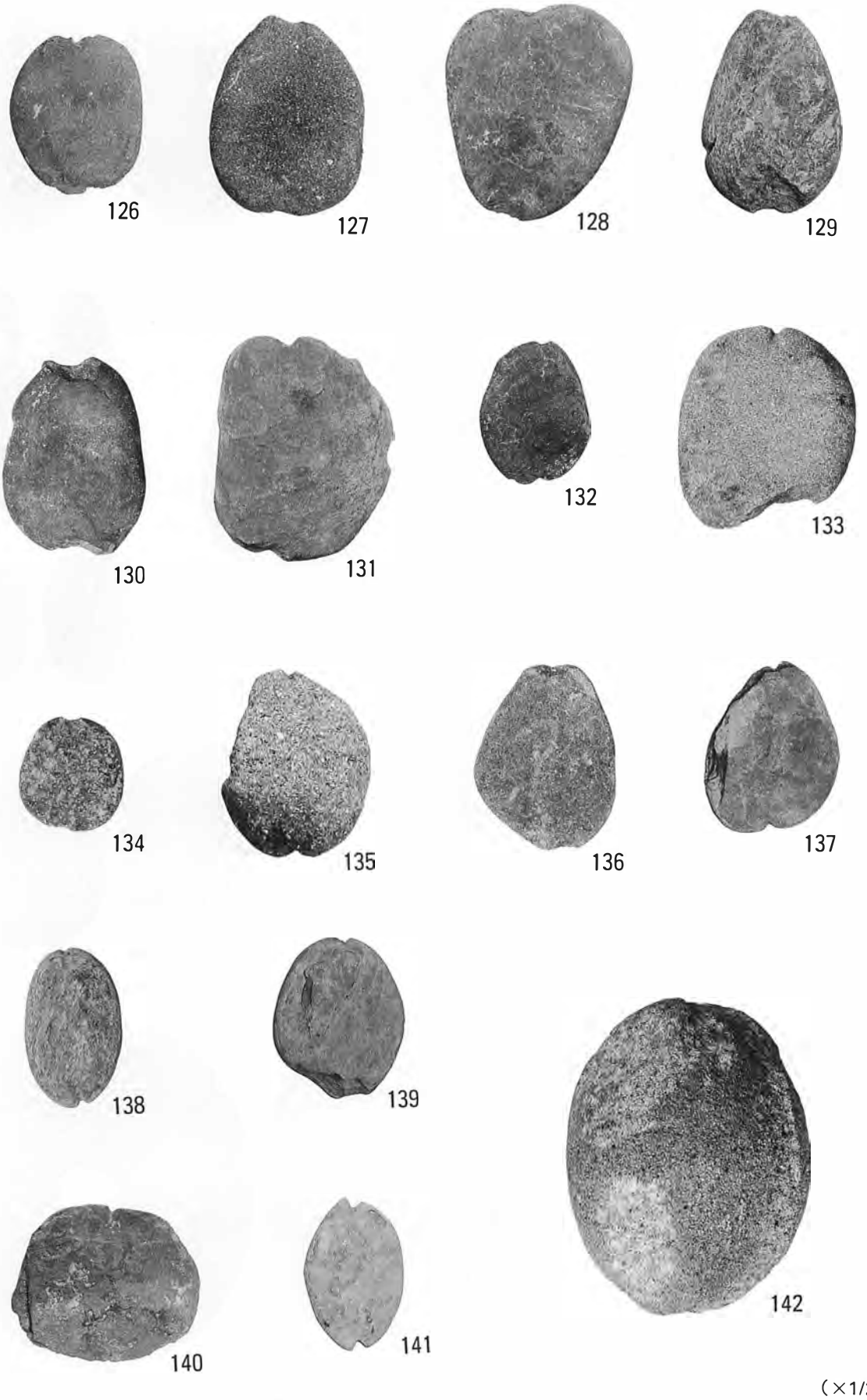
122

123

124

125

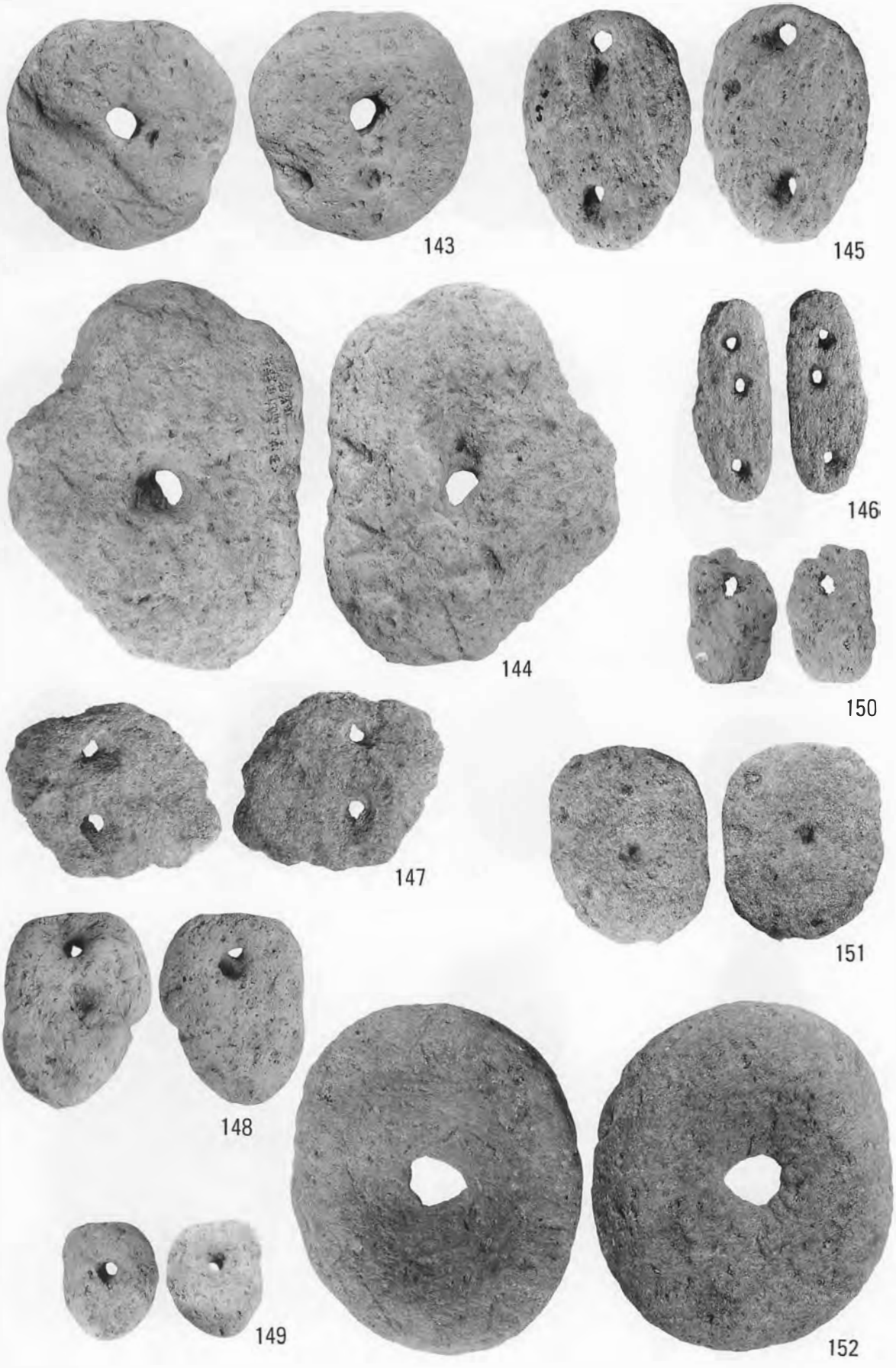
スクレイパー・石錐（番号は挿図中の番号に一致）　（×2/3）



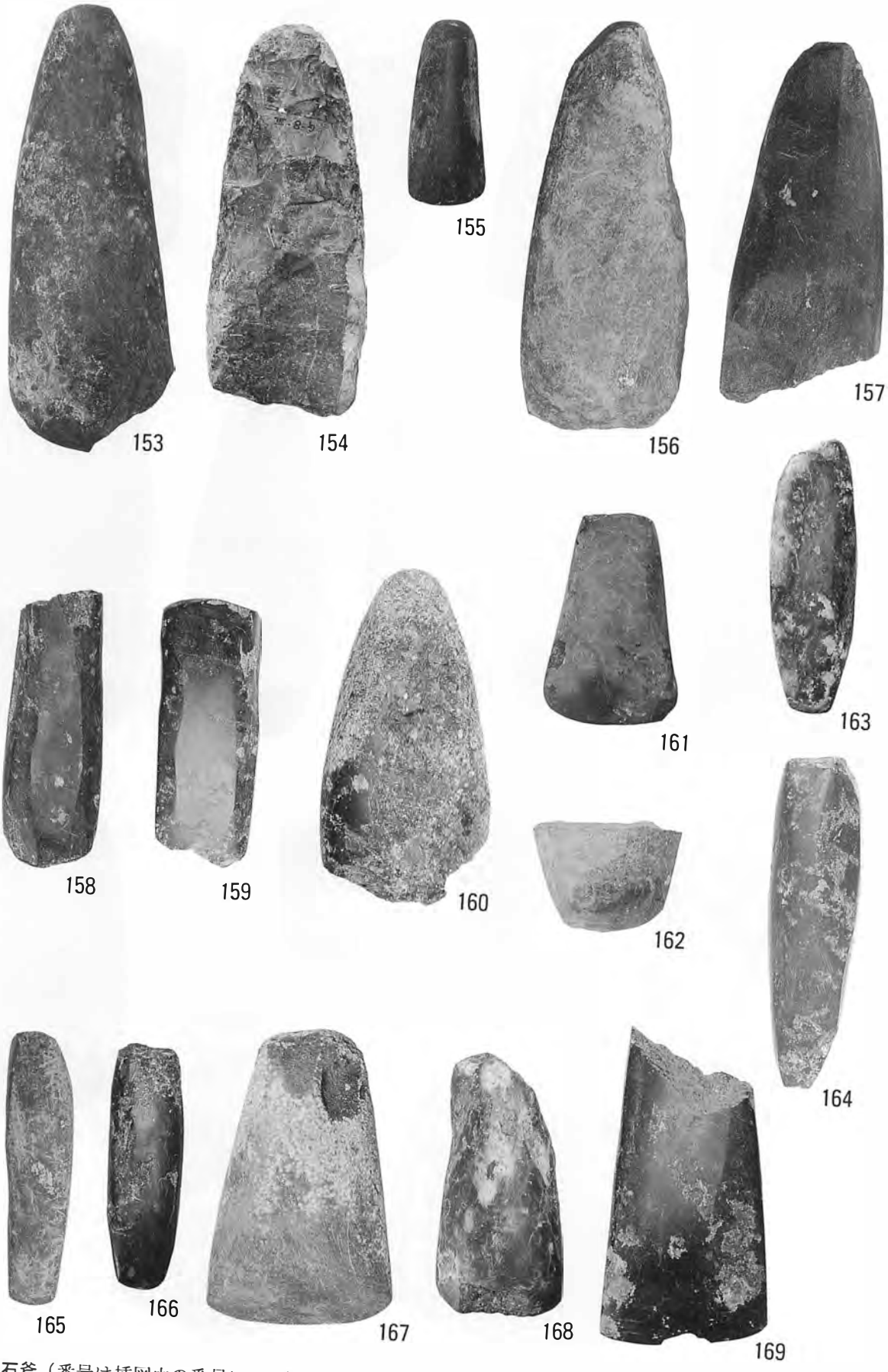

（×1/2）

**石錘**（番号は挿図中の番号に一致）

図版38



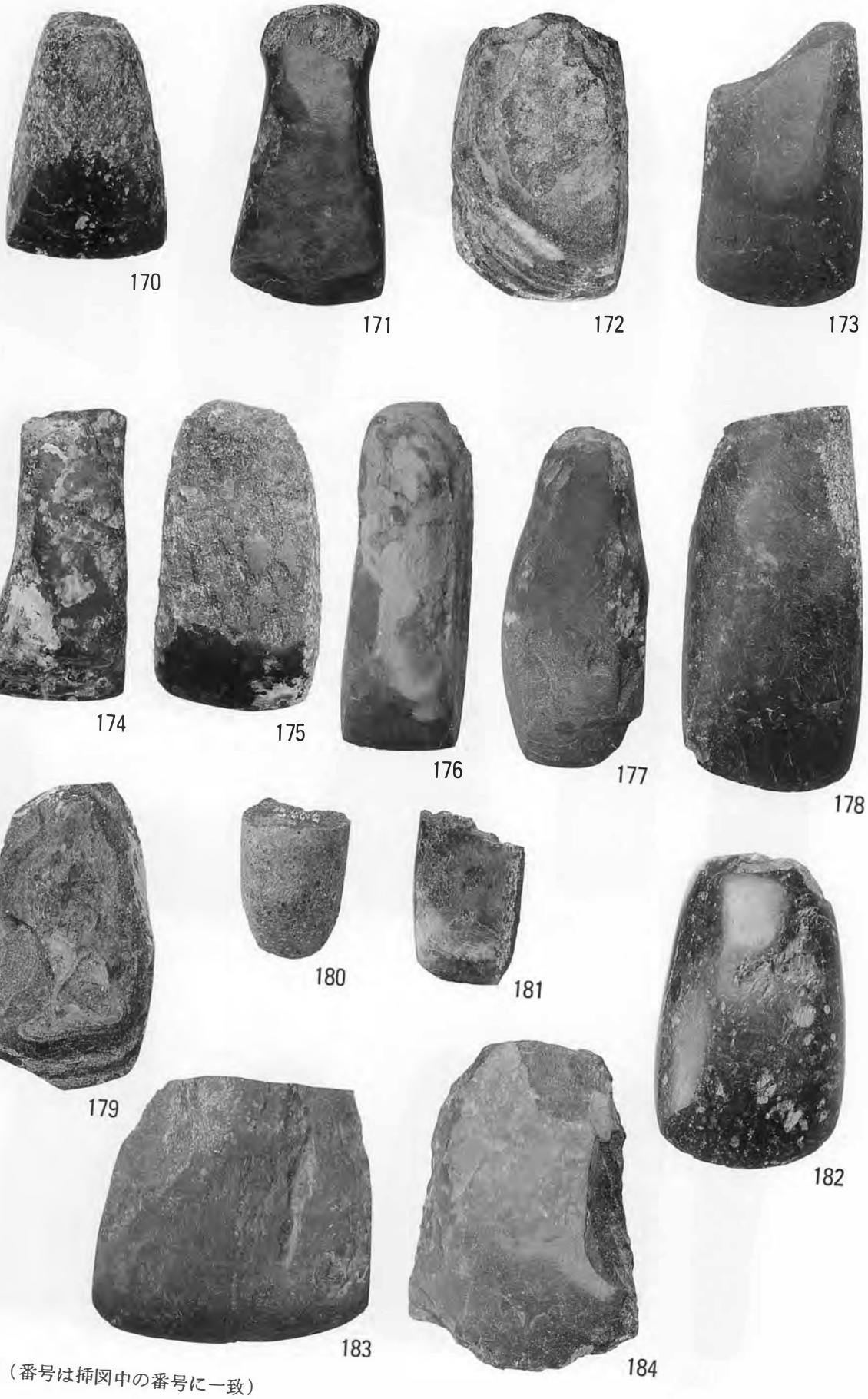

**軽石製浮子**（番号は挿図中の番号に一致）　（×1/2）




**磨製石斧**（番号は挿図中の番号に一致）

（×1/2）

# 図版40




磨製石斧（番号は挿図中の番号に一致）

（×1/2）

185

186

187

188

189

192

190

191

193

194

195

196

197

198

（×1/2）

**磨製石斧**（番号は挿図中の番号に一致）

図版42

199

200

201

202

203

204

205

206

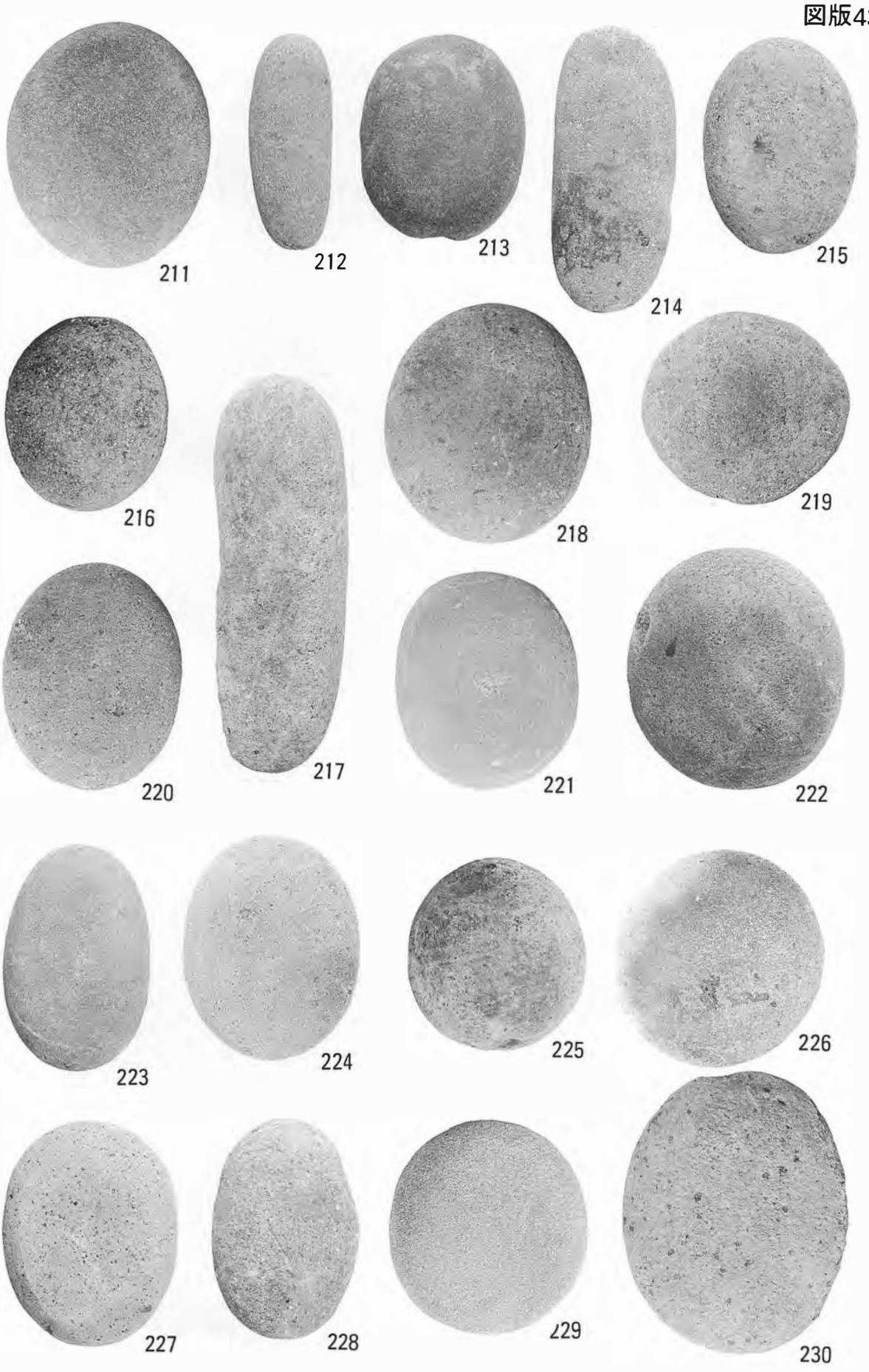
207

208

209

210

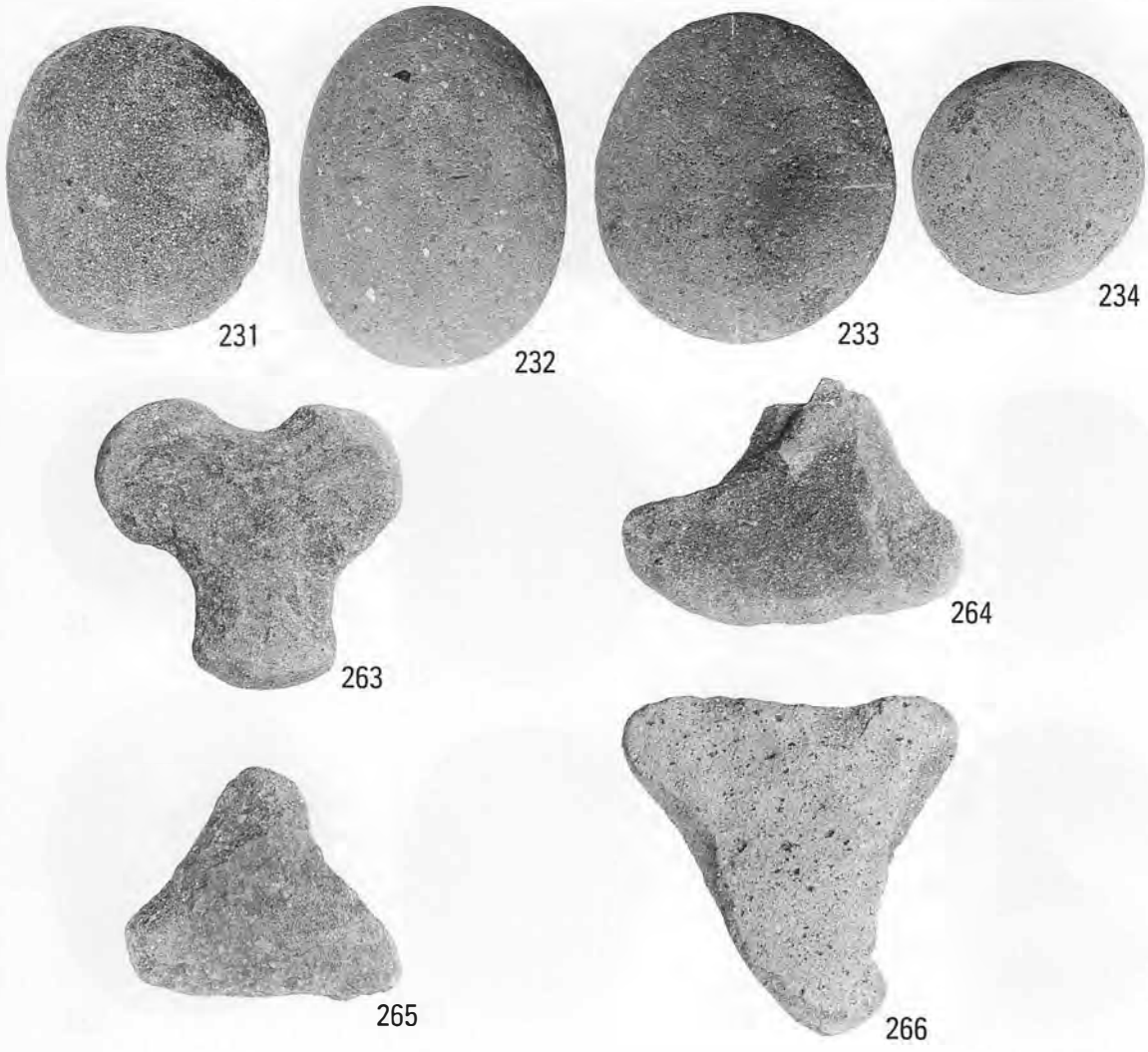
**磨製石斧・打製石斧**（番号は挿図中の番号に一致）　（×1/2）



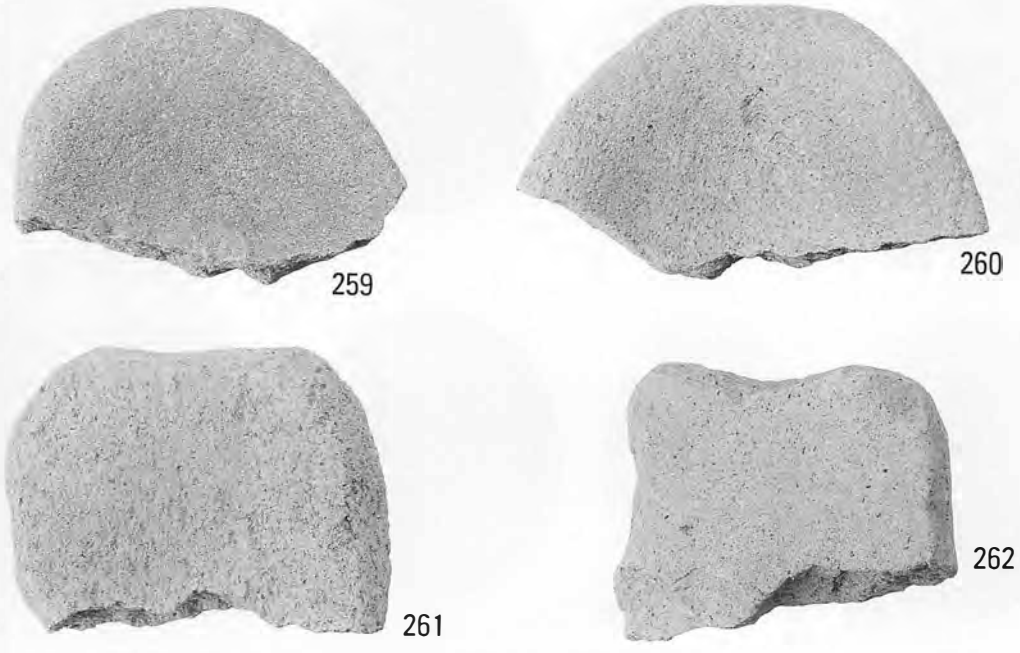

磨石・敲石（番号は挿図中の番号に一致）

（×1/3）

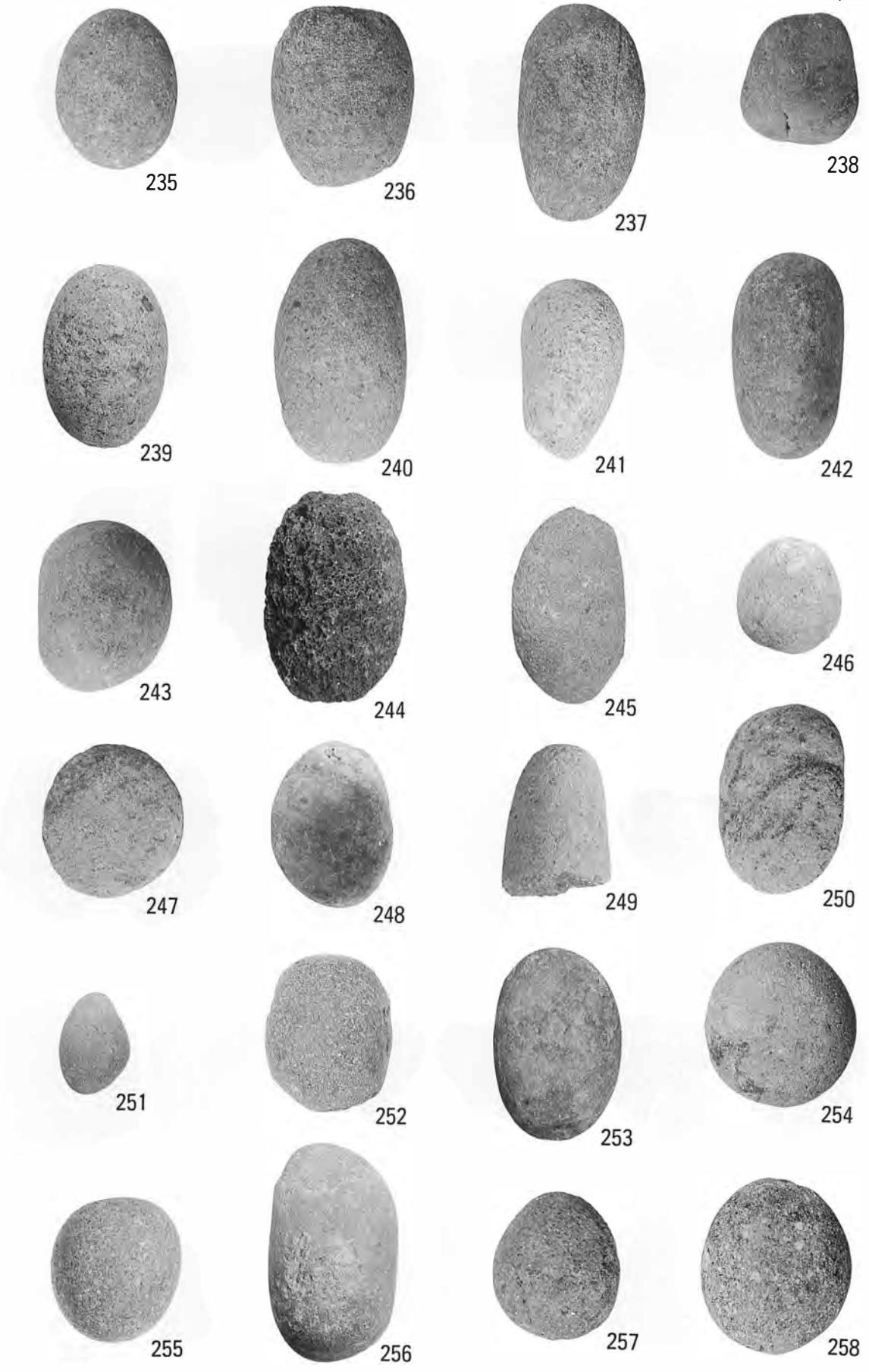
# 図版44




（×1/2）




**磨石・敲石・双頭形石器・石皿・台石**（番号は挿図中の番号に一致）　（×1/3）




磨石・敲石（番号は挿図中の番号に一致）　（×1/2）

# 図版46

267

268

269

270

271

272

273

274

275

276

277

278

279

280

281

282

283

楔形石器・二次加工ある石器（番号は挿図中の番号に一致）　（×2/3）

284

285

286

287

288

289

290

291

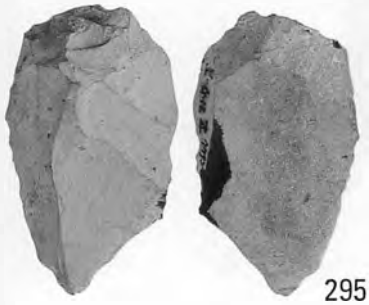
**二次加工ある石器・釣針形石器・使用痕ある石器**（番号は挿図中の番号に一致）　（×2/3）

図版48

292

293

294



295

296

297

298

299

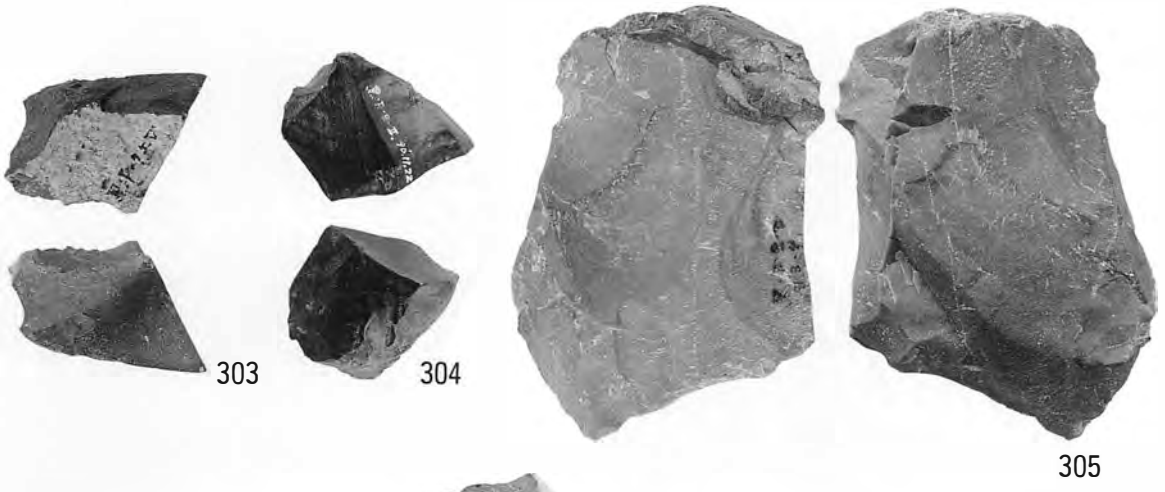
300

301

302

使用痕ある石器（番号は挿図中の番号に一致）

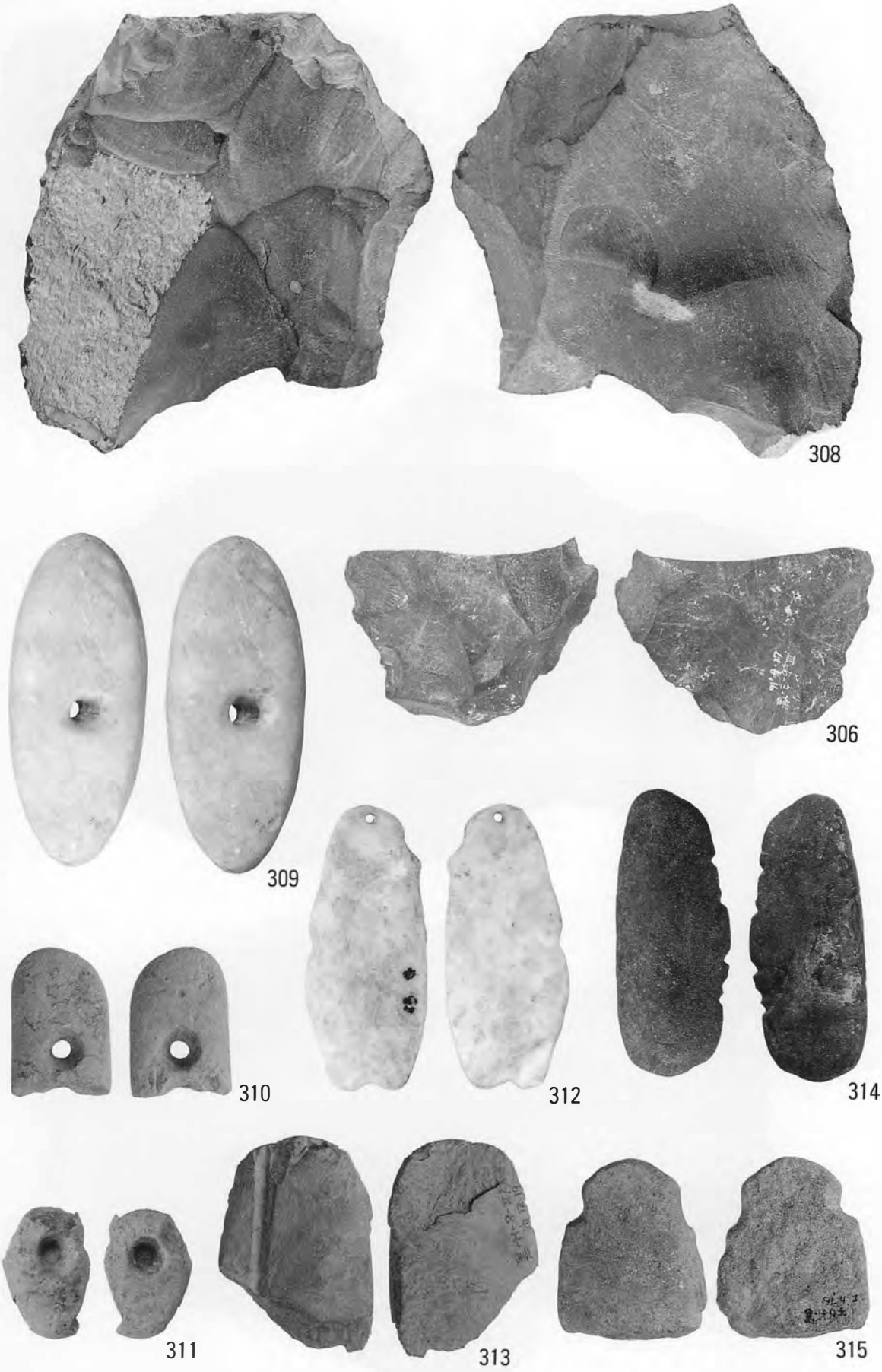
（×2/3）



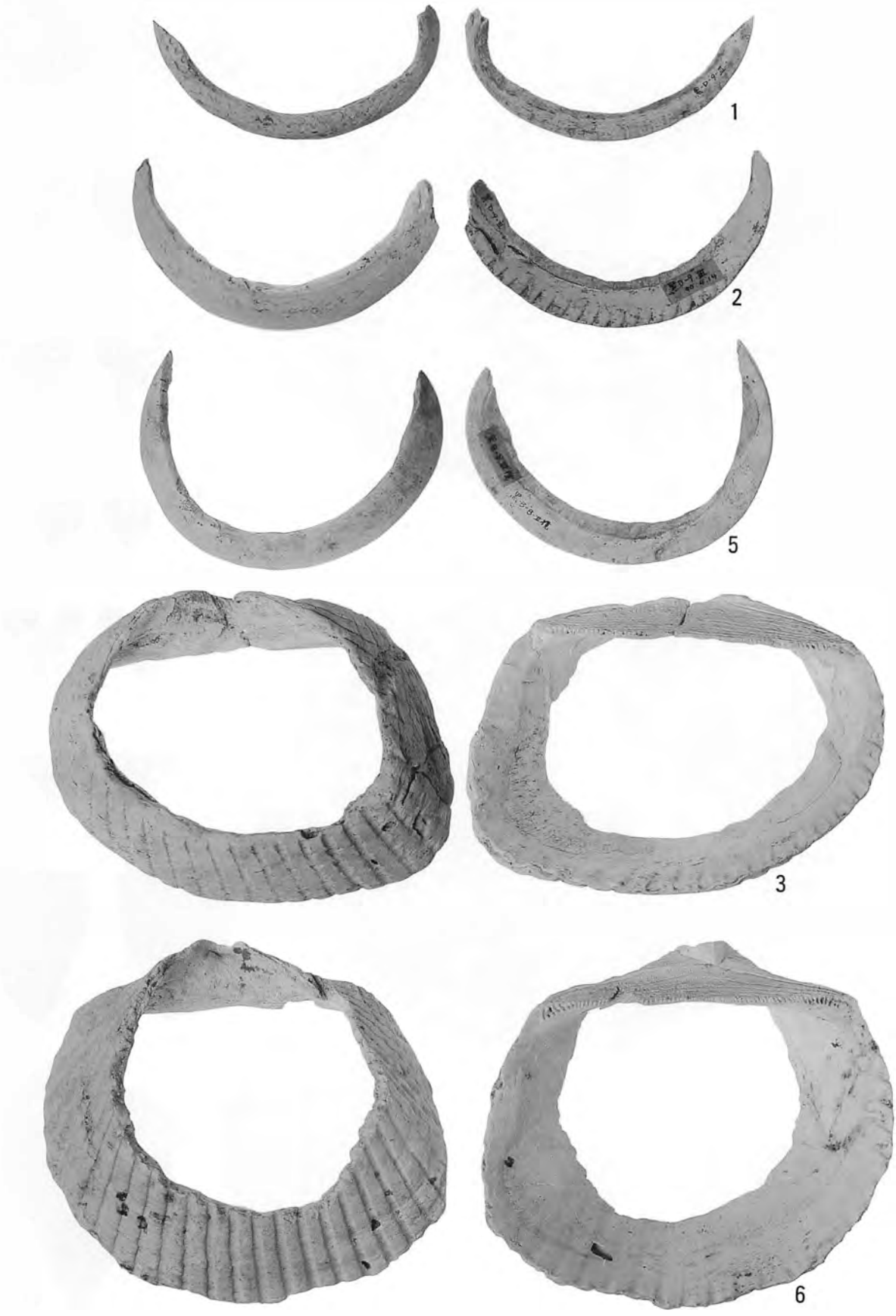
石核（番号は挿図中の番号に一致）

（×2/3）

図版50




石核・有孔石製品・擦切石器・異形石器（番号は挿図中の番号に一致）　（×2/3）




貝輪（番号は挿図中の番号に一致）　（×2/3）

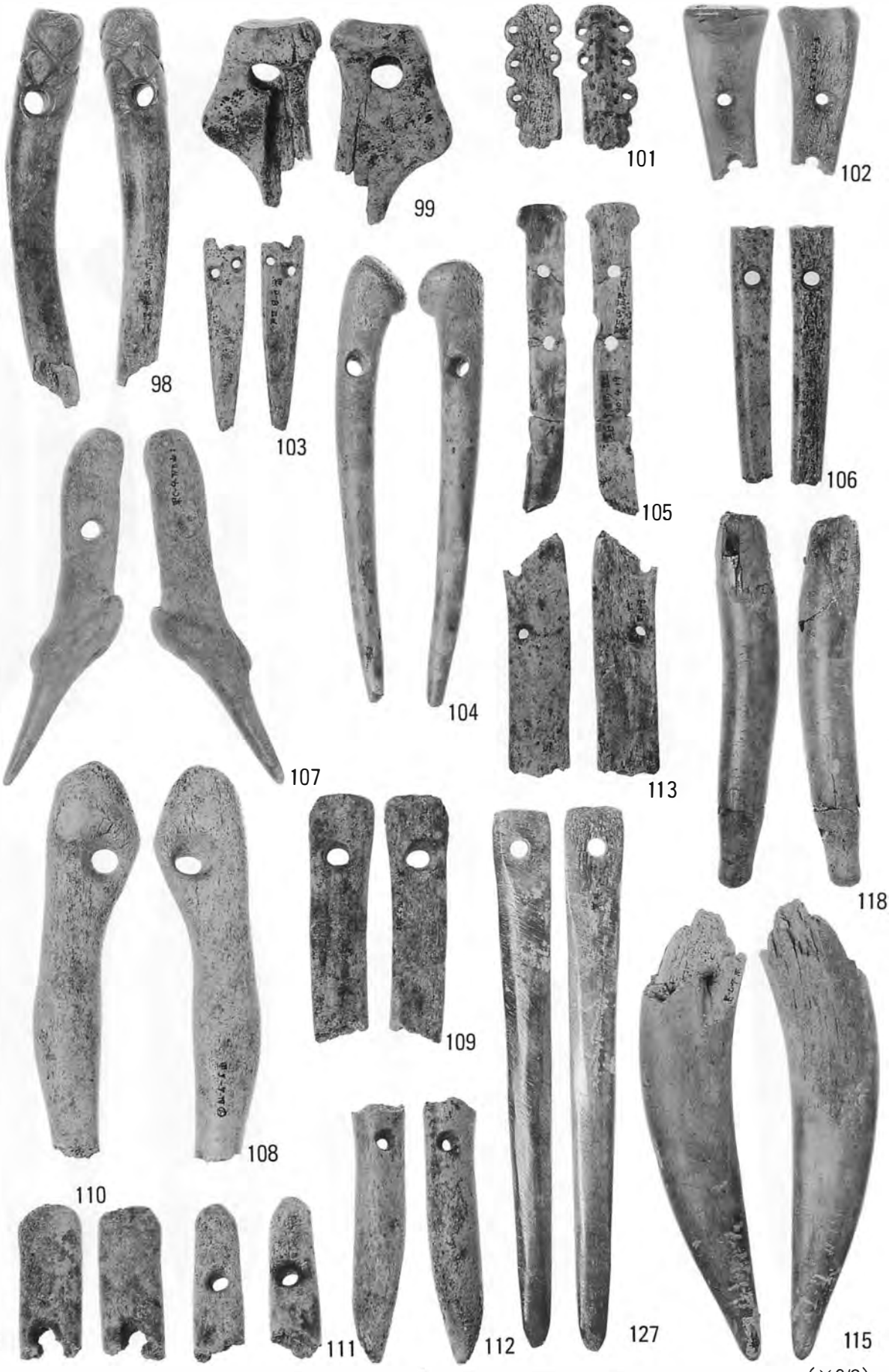
図版52

貝面・椎骨製耳飾・サメ歯製垂飾・鯣骨製垂飾（番号は挿図中の番号に一致）　（×2/3）

**鯉骨製垂飾・猪牙製垂飾**（番号は挿図中の番号に一致）　（×2/3）

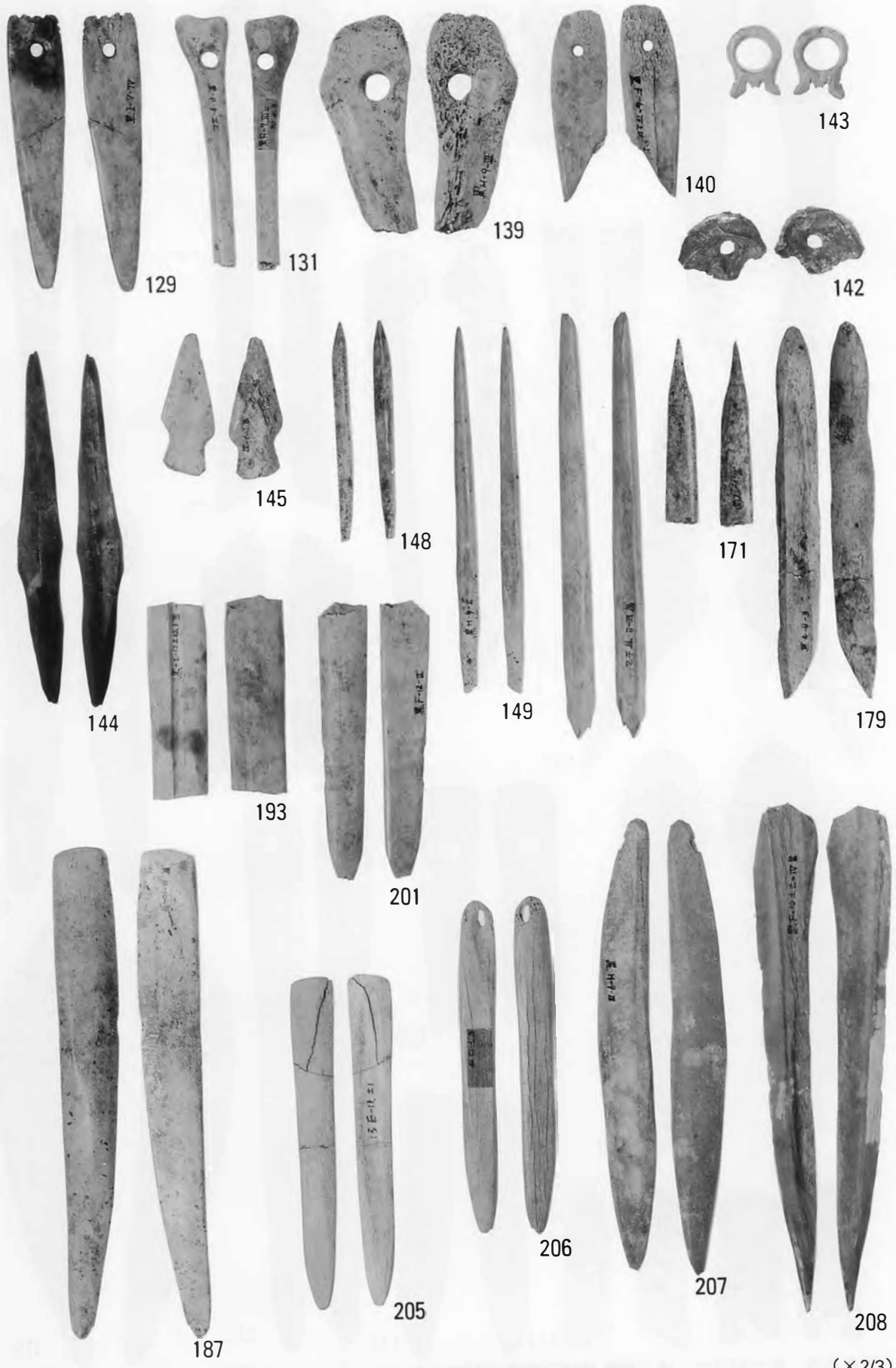
図版54

猪牙製垂飾・猪牙製ヘラ・鹿角製簪（番号は挿図中の番号に一致）　（×2/3）




**鹿角製簪・鹿角製垂飾・鹿角製工具・骨製簪**（番号は挿図中の番号に一致）　（×2/3）

図版56




骨製簪・骨製垂飾・骨製刺突具・骨製ヘラ（番号は挿図中の番号に一致）

（×2/3）

# 報 告 書 抄 録

| | |
|---|---|
| ふ り が な | くろばしかいづか |
| 書 名 | 黒橋貝塚 |
| 副 書 名 | 浜戸川中小河川改良事業に伴う埋蔵文化財の調査 |
| シ リ ー ズ 名 | 熊本県文化財調査報告 |
| シ リ ー ズ 号 | 第166集 |
| 編 著 者 名 | 高木正文・村崎孝宏 |
| 編 集 機 関 | 熊本県教育委員会 |
| 所 在 地 | 〒862-8570 熊本市水前寺６丁目18番１号 |
| 発 行 年 月 日 | 1998年３月31日 |

| 所収遺跡名 | 所在地 | コード<br>市町村：遺跡番号 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|
| くろばしかいづか<br>黒橋貝塚 | 下益城郡城南町<br>下宮地字外田 | 433411：<br>43341077 | 198903<br>｜<br>199105 | 800㎡ | 河川改良 |

| 時代 | 種別 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|
| 縄文時代<br>中・後期 | 貝塚 | 土壙73 | 阿高式系土器・石器・骨角貝製品など多数。貝類・獣骨・魚骨・ドングリなど多量。 | 縄文時代中・後期土器編年の基礎資料。生活や環境復元・他地域との交流を探る上で重要。 |
| 奈良時代 | | | ウシ・ウマ | 各２頭．小型。 |

熊本県文化財調査報告　第166集

# 黒　橋　貝　塚

平成10年３月31日

編集
発行　熊本県教育委員会
〒862-8570　熊本市水前寺６丁目18番１号
☎ (096)381-9211

印刷　株式会社　城野印刷所
〒861-2296　熊本県上益城郡益城町広崎1630-1
☎ (096)286-3366

09 教委　教文
② 003

この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第 166 集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：黒橋貝塚
発行：熊本県教育委員会
〒862-8609　熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号
電話：　096-383-1111
URL：http://www.pref.kumamoto.jp/
電子書籍制作日：2015 年 12 月 24 日

なお、熊本県文化財保護協会が底本を頒布している場合があります。詳しくは熊本県文化財保護協会にお問い合わせください。

熊本県文化財保護協会
URL：http://www.kumamoto-bunho.jp/